科目名	経営学Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Business Administration Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義とマネジメント検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。（ＤＰ２） ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連したマネジメント検定の過去問題の演習を行う。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第１部第１章を読んでおくことを事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	企業のかたち	企業の形態について学習する。	事前：教科書の第１部第２章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	大規模な会社における企業統治（1）	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第１部第３章１・２節を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	大規模な会社における企業統治（2）	株式会社の様々な統治形態について学習する。	事前：教科書の第１部第３章３・４節を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	日本型企業システム	日本企業の雇用慣行や企業統治について学習する。	事前：教科書の第１部第４章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	企業経営と全社戦略	全社戦略について学習する。	事前：教科書の第２部第１章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	全社戦略としての成長戦略	成長戦略について学習する。	事前：教科書の第２部第２章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	全社的な経営資源の配分	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学習する。	事前：教科書の第２部第３章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	事業戦略	事業戦略と競争戦略について学習する。	事前：教科書の第２部第４章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	経営戦略論の時代的変遷	経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第２部第５章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	機能別戦略（1）	マーケティング戦略について学習する。	事前：教科書の第３部第１章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	機能別戦略（2）	研究開発戦略・生産戦略について学習する。	事前：教科書の第３部第２章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	経営組織の形態（1）	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第４部第２章１・２節を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	経営組織の形態（2）	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第４部第２章２節を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	経営組織の形態（3）	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第４部第２章２・３節を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目	現代企業論、中小企業論、経営戦略論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マネジメント検定試験公式テキストⅢ級　経営学の基本	一般社団法人　日本経営協会	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末テスト80%で評価する。

学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	経営学Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1002a0		

授業概要・目的	この授業は、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営戦略論、多国籍企業論、異文化経営、国際マーケティングなど、主なトピックスを取り上げ、その基礎知識の習得とともに、現代企業経営の課題を発見し、解決方法を模索する力を身につけることを目指す。さらに、受講生の国際性の涵養および実社会への応用を期待する。 　受講生は、単なる基礎理論の習得だけではなく、疑問を持つことが非常に大切であることを認識し「あなたならどう考えるか」「あなたが経営者となったらどうアクションをとるか」などの実践的な経営感覚と課題解決能力が身につける。
到達目標	・企業経営における諸理論の知識が身につく。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は経営学に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本プレームワークが有効に活用できる。
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodleから事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	企業を取り巻く外部環境	PESTおよびPESTELモデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるプレームワークについて、M・E. ポーターの３つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ（生産）・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業TSMCを事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	国際ビジネスにおける半導体産業	半導体産業におけるファブレス（fabless)、ファウンドリー（foundry）について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス（調達や物流）業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	身近なグローバリゼーション	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目	競争戦略論、経営戦略論、グローバル経営論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 書籍名 著者名 出版社名 1 戦略経営論―競争力とグローバリゼーション マイケル A.ヒット、ロバート E.ホスキソン、R.デュエーン・アイルランド センゲージラーニング 2 競争の戦略 マイケル・E. ポーター ダイヤモンド社 3 国際ビジネス１－グローバル化と国による違い－ チャールズ・W・L・ヒル 楽工社
評価方法 （基準）	・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度をはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。
学生への メッセージ	・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）
備考	

科目名	経営管理論	科目名（英文）	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1003a0		

授業概要・目的	【授業概要】 基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。 【目的】 経営学の基本的な理論と概念を理解すること
到達目標	【到達目標】 企業は組織目標を達成するために多くの人が協働することが必要になる。そのために企業は組織を管理しなければならない。この講義では、組織管理について一般的な知識を修得することを目的とする。具体的には次の２点を修得できる。 （１）企業における組織管理の実体を知ることができる（DP２）。 （２）企業における組織管理を行う目的や理論について基礎知識を修得できる。(DP２)
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の最後に理解度テストを行うことがあります。
科目学習の効果（資格）	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	事前課題：配付資料および参考書を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
3	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォーディズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マグレガーのX理論・Y理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
10	中間テスト、解説	中間テストと解説を行います。	事前課題：第1～9回に行った講義内容を１時間程度復習しておくこと。 事後課題：中間テスト内容を踏まえて第1～9回の講義資料を復習すること。
11	モチベーション向上の実践	TESSEI の事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読む

		介します。	こと
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テストと解説を行います。	事前課題:第1〜14回に行った講義内容を1時間程度復習しておくこと。 事後課題:期末テスト内容を踏まえて第1〜14回の講義資料を復習すること。

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）

中間テスト50点と期末テスト50点によって評価します。
なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が8割に満たない場合は単位を認めない場合がある。

学生へのメッセージ

経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。
授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。

担当者の研究室等

11号館8階　西之坊准教授室

備考

科目名	財務諸表論入門	科目名（英文）	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	会計とは，特定の組織による経済活動を貨幣額で記録して計算し，その結果を報告するシステムである。このシステムを通じて作成された会計情報が，社会にとってどのような役割を果たすのかを意識して，財務諸表の基本的な作成ルールとその背景にある考え方を学習する。
到達目標	①企業が開示する情報を理解する。 ③財務諸表の基本的な作成ルールを，その背後にある考え方を意識して学習することによって，体系的に物事を捉える能力を培う。 ②社会における会計情報の役割を理解する。
授業方法と留意点	講義資料等は Moodle 上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験する際の基礎となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の説明	事前：シラバスの確認(30 分) 事後：講義資料の復習(30 分)
2	企業活動の会計 1	資金調達活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
3	企業活動の会計 2	資金投下活動の会計，営業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
4	会計公準	会計公準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
5	企業会計原則	企業会計原則についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
6	現金主義会計と発生主義会計	認識と測定についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
7	ディスクロージャー制度	企業に対する開示規制についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備(90 分) 事後：試験の復習(30 分)
9	会計基準	会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
10	収益認識会計	収益認識の会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
11	財務諸表の内容 1	損益計算書，貸借対照表についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
12	財務諸表の内容 2	株主資本等変動計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
13	財務諸表の内容 3	キャッシュフロー計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
14	財務諸表分析入門	収益性の説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
15	講義の振り返りとまとめテスト	講義の振り返りとまとめテスト	事前：テストの準備(90 分) 事後：テストの復習(30 分)

関連科目：商業簿記，財務会計論，連結会計論，会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計・入門[第 14 版]	桜井久勝・須田一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計論	梅原秀継	白桃書房
3	実証会計・ファイナンス　R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社

評価方法（基準）	確認テスト(20%)，中間試験(40%)，まとめテスト(40%)で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	マーケティング概論	科目名（英文）	Introduction to Marketing Manegement
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティングの基本的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。 つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「モノ」だけではなく「サービス」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。(DP2) ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較・分析することができる。
授業方法と留意点	・講義に加え、新製品に関するニュースを題材に議論も予定しています。 ・企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 ・詳細は、Microsoft Teams に掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティングの本質とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
2	マーケティングの４P	マーケティングを考えるときの基本となる４P について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
4	顧客満足とは	顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する（1 時間)。 【事後学習】 次回の中間テストに備える（1 時間）
7	中間テスト 製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
8	ブランドとは	ブランドの意義を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
9	ブランドのマネジメント	強いブランドを構築するための戦略について考える	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
10	流通チャネルとは	製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
11	流通チャネルのマネジメント	流通チャネルをいかにコントロールしていくのかなど戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
12	営業とは	人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
13	価格設定の考え方	価格設定の基本的な考え方を学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
14	価格のマネジメント	価格に関する戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
15	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 これまでの復習をし期末テストに備える（６時間）

関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日経文庫
2	マーケティングの力	恩蔵直人・坂下玄哲	有斐閣
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（発表等）４０％ 最終レポート６０％
学生への メッセージ	新製品や新しいサービスに関する情報を自ら取得するように心がけてください。
担当者の 研究室等	田中研究室　１１号館８階
備考	教科書については第１回目の授業時に説明致します。 各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。 Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1007a0		

授業概要・目的	本講義では経済に関する基礎的専門知識を学んでいただきます。大まかに言えば、財やサービスを生産し、売ったり買ったりして、儲けたり消費したりすることを経済と言います。例えば皆さんも通学には電車やバスという交通サービスを購入（消費）し、学食の定食にもお金を払って定食という財を消費しています。また、そのお金は皆さんのお父さん、お母さん、ないしは皆さんが自らの労働力を仕事先（バイト先）に売って入手しています。一方、電車やバス、学食や定食はある日忽然と現れたわけではなく、原材料の生産・販売や運転手さんや食堂の方々の労働を経て、私たちの手元に届いていている。そして不思議なことに多少差異はあれど、私たちは、まあまあ満足できる生活をしているわけです。それだけ経済は、私たちのごく身近にある不思議な現象なのです。 問題は、経済を通して私たちの生活が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということです。例えば 10 年以上前に太平洋を挟んだアメリカ合衆国の住宅ローン市場に問題が発生し、これが原因で多くの先輩達が就職に難儀しました。また、コロナ感染症後の世界はどうなるのか、これも私たちの経済活動題と直結します。したがって、私たちは経済を積極的に理解し、自力で判断するための基礎的専門知識が必要なのです。もちろん、経営学を専攻するためにも必須な知識です。 本講義では基礎的ながらも経済に関する重要な専門知識を学生の理解度を重視しながら進める予定です。また現実の経済の動きを知るために必要に応じて政府、日銀などの資料を紹介し、解説します。
到達目標	１．経済に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP２) ２．経済問題を初歩的ながら読み解くことができるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	１．講義は対面式で進めます。ただし、事情を鑑みオンライン式に切り替える場合もあります。 ２．毎回の構成は、①事前学習（予習）、②対面式で受講、③事後学習（復習と小テスト）です。 事後学習の小テストは Moodle で行います。 ３．資料の配布は Moodle で行います。 ４．漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teams のチャネル「質問箱」に書き込んでも結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	事前：特になし、事後：復習と小テスト
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	事前：教科書（第１章、pp.19-32）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	事前：教科書（第２章、pp.33-48）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	事前：教科書（第３章、pp.49-64）と配布資料による予習、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	事前：教科書（第４章、pp.65-81）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	事前：教科書（第５章、pp.83-98）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	事前：教科書（第 6 章、pp.99-113）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	これまでの内容について復習し受験のこと。
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	事前：教科書（第７章、pp.115-132）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰについて解説する。	事前：教科書（第 8,9 章、pp.137-163）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰの重要な構成要素である消費と投資について解説する。	事前：教科書（第 10 章、pp.165-178）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	事前：教科書（第 11 章、pp.179-194）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	事前：教科書（第 12 章、pp.195-212）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	事前：教科書（第 13 章、pp.213-227）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	事前：教科書（第 14 章、pp.229-244）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	１．事後学習小テスト(40%)+期中試験(30%)+全講義終了後の試験(30%)で評価します。 ２．単位取得には２試験双方の受験が必須です。小テスト・試験はMoodleやFormsで実施します。 ３．事前・事後学習小テストへのアクセスに必要なURLやパスワードは各回教室で掲示します。 ４．学習意欲（注意：出席率ではありません）の顕著な学生には加点します。 ５．評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。
学生への メッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢で臨んでください。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
担当者の 研究室等	１１号館７階(杉本研究室)
備考	学習小テストや中間試験の解説は講義中に行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。

科目名	ミクロ経済学（火曜日配信）	科目名（英文）	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。そのうちミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論です。本講義ではミクロ経済学を現実の経済事象と照らし合わせながら解説し、基礎的専門知識としての使えるミクロ経済学を学んでいただきます。 ・この科目は２クラスに分かれます。 AからKクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、LからUクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。
到達目標	１．経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる。(DP２) ２．現実の経済事象を初歩的ながら論理的に解明できるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	・この科目は２クラスに分かれます。 AからKクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、LからUクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。 １．この講義は動画視聴によるオンディマンド式で進めます。状況を鑑み一部でオンライン式・対面式を採用することもあります。 ２．動画や配布資料ならびに各テスト・試験はmoodleに掲載しています。 ３.【注意】動画視聴ならびに各テスト受験期間は毎回指定の１週間です。テスト受験結果を期間後に確認することはできますが、過去動画の視聴や過去テストの受験は期間後にはできません。大学の方針ですので注意してください。 ４．毎回の構成は、①事前学習（教科書精読)、②資料を基に動画視聴と確認テスト受験、③事後学習（復習とまとめテスト受験）です。 ・1つの動画は15分程度の長さで毎回に2～4本あります。 ・1つ動画を視聴したら確認テストを受験してください。確認テストに制限時間はなく期間内に2回受験できます。 ・動画視聴と確認テスト受験が終わったら、復習の上、まとめテストを受験してください。まとめテストの制限時間は20分です。 ５．資料(pdfファイル)は印刷しても結構ですが、できればタブレットPCを使うなどして直接ファイルに書き込むようにしてください。 ６．漠然と視聴するのではなく、教科書をよく読んだ上で、その回の到達目標を意識しながら学修してください。その方が学修効果が高くなります。また質問はTeamsのチャネル「質問箱」に書き込んでください。上手く説明できない場合にはオンラインで説明しますので、その旨、連絡ください。
科目学習の効果（資格）	TVや新聞、インターネットから無造作に流れ出る経済事象を自らで整理し、自らで判断するための基礎的知識が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶことを知る	・ミクロ経済学とは何か？ ・身近な問題をミクロ経済学で考える。 ・講義の概要	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
2	需要の理論(1)：　需要曲線の意味、２つの満足度	・需要曲線とは ・需要曲線が右下がりの理由 ・市場需要曲線 ・２つの効用概念	事前：教科書(第2章,pp.31-36)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
3	需要の理論(2)：　需要面から見た価格変化、満足度をお金で測る	・需要曲線のシフト要因 ・消費者余剰	事前：教科書(第2章,pp.36-46)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
4	需要の理論(3)：消費の組合せには一定の法則がある	・無差別曲線の導出 ・応用事例	事前：教科書(第3章,pp.51-53)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト 計1.5時間
5	需要の理論(4)：最適な消費の組合せ、ここまでの応用	・予算制約線と価格や所得の変化 ・最適消費点 ・需要曲線の導出 ・基数的効用の応用 ・序数的効用の応用	事前：教科書(第3章,pp.49-51,53-58)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
6	供給の理論：供給曲線の意味、供給面から見た価格変化、生産者の利益をお金で測る	・供給は企業の話？ ・供給曲線 ・供給曲線のシフト要因 ・生産者余剰 ・利潤は最大化されているか？	事前：教科書(第4章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
7	微分と限界概念：企業の利潤最大化	・企業の利潤最大化条件 ・微分の意味 ・限界~とは。微分との関係は。 ・練習してみよう	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
8	需要曲線と弾力性：価格を上げていいもの悪いもの	・弾力性とは ・需給の価格弾力性の重要性 ・弾力性を左右する要因 ・応用事例	事前：教科書(第5章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
9	期中試験	ここまでの総括	復習をしておいてください。
10	市場の理論：市場構造の相違、市場自由化を進める理由、市場は万能ではない	・完全競争市場 ・市場における価格の決定 ・社会的余剰に基づく望ましい市場とは ・市場が不得意とすること ・応用事例	事前：教科書(第6章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
11	需要と供給で解く経済問題	・価格が上がるのに需要が増える ・豊作貧乏の謎	事前：教科書(第7章,除くpp.107~110)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験

		・失業 ・価格が付くモノ、付かないモノ	事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
12	余剰分析で解く経済問題	・余剰の復習 ・ダフ屋（転売屋）の存在 ・飲み放題戦略 ・定食戦略 ・租税負担	事前：教科書（第 8 章,pp.119-131）精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
13	市場の失敗(1)：環境問題、無料の公園と有料の公園の違い	・市場の失敗 ・外部効果 ・環境問題と解決方 ・公共財	事前：教科書(第 9 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
14	市場の失敗(2)：情報を持つ者と持たざる者による取引	情報の非対称性とは ・逆選択の問題 ・モラルハザードの問題 ・これら問題への対策	事前：教科書(第 10)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
15	市場の失敗(3)：独占の原因と弊害	・独占市場の特徴 ・独占企業の価格決定	事前：教科書(第 11 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間

関連科目

経営学関連科目、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱ、コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ　等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学の基礎　ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

１．確認テスト(10%)+まとめテスト(30%)+期中試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。
２．各テスト・試験は Moodle で実施します。
3. 評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。

※この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
※まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

学生へのメッセージ

経済学の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。

担当者の研究室等

11 号館 8 階岩坪教授室

備考

各テストや試験の解説は Moodle 経由で行います。間違えた点については何故違ったのかを確認してください。
・この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
・まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

科目名	経営史	科目名（英文）	Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1009a0		

授業概要・目的	本講義では、主にアメリカの経営史について、経営学の発達および経営史学の視座から検討することを課題とします。受講生は、「企業」というものが誕生してくるの歴史の経緯や、他国と比較した時の日本の企業の特徴を学ぶことができます。
到達目標	1. 経営史に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	講義形式と演習形式を一部併用して授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方について概説します。最終的な成績評価についても説明します。	事前学習：シラバスを読んでくる（３０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
2	アメリカ経営史（1）	アメリカにおける「標準化生産」の系譜について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
3	アメリカ経営史（2）	テイラーによる生産管理のはじまりについて学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
4	アメリカ経営史（3）	フォードによる大量生産、大量消費のシステムについて学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
5	アメリカ経営史（4）	アメリカとドイツが主導した第二次産業革命（化学と電気）について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
6	アメリカ経営史（5）	アメリカの経済恐慌と戦争経済による経済復活について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
7	戦後の外国経営史	戦後アメリカの経営手法のグローバル化と各国への普及について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
8	事例分析：鉄鋼産業	戦前戦後から発展した鉄鋼産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
9	事例分析：電力産業	戦前戦後から発展した電力産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
10	事例分析：石油化学産業	戦前戦後から発展した化学産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
11	オイルショック以後の外国経営史	オイルショック以後、1900 年代から隆盛を誇った「重厚長大型産業」の斜陽産業化について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
12	事例分析:オイルショック後の自動車産業	オイルショックから変化する自動車産業とベースとなる生産技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
13	事例分析:オイルショック後の家電産業	オイルショックから変化する家電産業とベースとなる生産技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
14	現代の外国経営史	1990 年代以後、「日本的経営：トヨタシステム」がアメリカで分析され、アメリカの中でトヨタシステムが育っていく過程について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
15	事例分析:プラットフォーム産業の誕生	1990 年代から生まれてきた新たなビジネスモデルとしてのプラットフォーム産業について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。

関連科目	日本経営史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（1-12 回講義終了後に提出）40%、演習レポート（13-15 回の授業に関するもの）60%で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目　ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目　ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excel を用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	Excel を用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、Excel の演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 表計算（ビジネス情報処理Ⅰの復習）	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（１）	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（２）	様々な関数を使ったデータ処理 データの並び替え、ランキング	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（３）	データの抽出、検索と置換	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算（４）	ピボットテーブル クロス集計表、分割表の作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる（30 分）
6	データ分析（１）	データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い） データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する（30 分）
7	データ分析（２）	相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）、相関係数行列	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 相関、相関係数について予習する（30 分）
8	データ分析（３）	回帰分析の方法	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 回帰分析について予習する（30 分）
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる（30 分）
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
11	ビジュアルプログラミング（１）	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） Scratch について調べる（30 分）
12	ビジュアルプログラミング（２）	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
13	ビジュアルプログラミング（３）	変数、イベントの処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
14	ビジュアルプログラミング（４）	オリジナル作品の制作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2021 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、確認テスト（50%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ＩＣＴ概論	科目名（英文）	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1012a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICT の効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援する ICT の役割と位置づけを理解する（DP２）。 インターネットを中心とする ICT の利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見する。 ICT の役割と組織・個人との関係について自分の『気づき』を表現し、自ら発信できる。
授業方法と留意点	授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。 適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。 民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する ICT 関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、ICT（情報通信技術）、Society 5.0 とは何か	シラバスの確認（１０分） 配布資料の指定頁の予復習（３０分）
2	コンピュータと情報化社会	データと情報、コンピュータの歴史と仕組み	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
3	ハードウェアとソフトウェア	ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
4	ハードウェアとソフトウェア２	ソフトウェアの台頭、プラットフォーマーの誕生	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
5	コンピュータの未来	コンピュータとデータ通信技術の進化と未来	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
6	e-commerce（電子商取引）	流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI 利活用事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
7	顧客インターフェースの ICT	フロントオフィス（Front Office）、バックオフィス（Back Office）、サービス業（金融、観光等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
8	仲介機能の ICT	ミドルオフィス（Middle Office）、ソフトウェア・エージェント、流通業（小売り、物流等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
9	AI（人工知能）が変える社会	AI の歴史と種類（特化型 AI と汎用 AI）、データ・AI 活用領域の広がり	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
10	クラウドコンピューティングと IoT	クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業の ICT 事例（Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart 等） ・グループワーク・発表	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
11	シェアリングエコノミー	AI 等を活用した新しいビジネスモデルとその影響	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
12	ビッグデータ	ビッグデータを取り巻く ICT の進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
13	オープンデータ	オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
14	ICT とマネジメント	社会や企業が求める人材、ICT を用いた問題解決のプロセス、実践	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
15	まとめ	総括	授業内容の見直し（９０分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートの提出（40%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。
学生へのメッセージ	教科書は使用しません。教員作成のスライドを使用します。 欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の研究室等	11 号館７階　梅原講師室

備考	初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、ChatGPT といった AI を初め情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。 その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。 こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。 また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収拾能力、情報精査能力を身につけてもらう。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。(DP2)
授業方法と留意点	この講義では、９０分を前後半のパートで構成する。前半約３０分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半６０分はインターネットを活用した情報収拾をしてレポートを作成してもらう。全１５回の講義のなかでは、２回程度の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。本講義の授業テーマは、初回アンケートによる興味対象、社会情勢を元に内容や順序を変更するため、授業計画通りには進行しない可能がある。 各回ごとに講義の配布資料（pdf ファイル）を配布するため、教科書の購入は必須ではない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
3	ソーシャルメディアと情報２	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
4	個人情報管理とプライバシー保護１	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
5	個人情報管理とプライバシー保護２	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
6	個人情報管理とプライバシー保護３	・E-commerce（電子商取引） ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
7	確認テスト	・前半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
9	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
10	科学技術と情報倫理･知的財産権２	エセ科学／未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
12	最新時事問題１	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
13	最新時事問題２	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
14	確認テスト	・後半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目：情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法（基準）：平常点（出席態度、レポート課題）60%、確認テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。　そのため、本講義では講義中に喋ったり、席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、ChatGPT といった AI を初め情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。 その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。 こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。 また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収拾能力、情報精査能力を身につけてもらう。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。(DP2)
授業方法と留意点	この講義では、９０分を前後半のパートで構成する。前半約３０分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半６０分はインターネットを活用した情報収拾をしてレポートを作成してもらう。全１５回の講義のなかでは、２回程度の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。本講義の授業テーマは、初回アンケートによる興味対象、社会情勢を元に内容や順序を変更するため、授業計画通りには進行しない可能がある。 各回ごとに講義の配布資料（pdf ファイル）を配布するため、教科書の購入は必須ではない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
3	ソーシャルメディアと情報２	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
4	個人情報管理とプライバシー保護１	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
5	個人情報管理とプライバシー保護２	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
6	個人情報管理とプライバシー保護３	・E-commerce（電子商取引） ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
7	確認テスト	・前半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
9	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
10	科学技術と情報倫理･知的財産権２	エセ科学／未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
12	最新時事問題１	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
13	最新時事問題２	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
14	確認テスト	・後半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目：情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法（基準）：平常点（出席態度、レポート課題）60%、確認テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。　そのため、本講義では講義中に喋ったり、席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	市場調査入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1015a0		

授業概要・目的	社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 　情報・データの収集・分析の能力を身につける。 SDGs-8, 9
到達目標	社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。 問題発見能力、問題解決能力、分析力を身につける(DP2)
授業方法と留意点	授業は予習をもとに進めるので、毎回予習をしておくこと。 その後、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で解説する。資料は事前に DL し、ノートを必ず取ること。 対面授業ではあるが、新型コロナが完全に終息している場合には、学生同士の話し合いなどを行う。 授業の後半では、実際に web 調査票を作って、実践してみる。 教科書を持参すること、忘れた場合、自己責任でどうにかすること(事前にコピーするなど)。 資料は moodle で配布する、毎週必ずチェックすること。 また、小テスト、課題の提出はすべて Moodle で行うのでスマホを持参すること。
科目学習の効果（資格）	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 市場調査とは？	授業の概要について	事前学習課題：市場調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題：社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題：社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題：社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題：ラポールとは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
6	量的調査と質的調査――それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題：量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
7	官庁統計 1――官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	事前学習課題：官庁統計とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
8	官庁統計 2――官庁統計による諸研究/ 1～8 回のまとめ	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。/中間テストの実施と解説	事前学習課題：官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
9	量的調査 1――統計学と質問紙調査（1）	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題：質問紙調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
10	量的調査 2――統計学と質問紙調査（2）	質問紙調査の方法について。 統計的手法	事前学習課題：調査で使う統計の知識について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
11	量的調査 3――質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題：質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
12	質的調査 1――聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：聞き取り調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
13	質的調査 2――参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：参与観察とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
14	質的調査 3――ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)

	15	全体のまとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。/期末テストの実施と解説	事前学習課題：社会調査の基礎について総復習しておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(1 時間)

関連科目	「市場調査法」,「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法―2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の提出の累積点(10%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)、web 調査票の提出(10%)の合計(100%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10 分まで)は減点の対象となる。 出席点などはない。
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、無許可のスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。許可のないスマホなどの使用に対しては退室してもらうことがあります。 遅刻は減点(10 分まで)の対象となります。 このことを承知したうえで受講すること。 授業内に課した課題については，授業中あるいは次週の授業で解説してフ
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	授業に参加した学生のみ、毎回の小テストの受験、授業課題の提出を実施することができます。 毎回の授業課題(小テスト、授業課題)には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいっさい認めません。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 1 時間以上をかけること。 授業内で課された課題については，授業内、または、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。

科目名	人的資源管理論Ⅰ	科目名（英文）	Human Resources Management Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2020a0		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっています。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 [授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。また、速やかに教科書の手配をしてください。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを１対１で見るLMXとリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題：配付資料を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料を１時間程度読むこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され（独立変数）、各々が何に影響を与えるのか（成果変数）について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと
10	中間テスト、解説	中間テストと解説を行います。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を１時間程度読むこと 事後学習：中間テストの内容を１時間程度復習すること
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類がある	事前課題：配付資料および教科書の第11章を１時間程度読むこと

		のか等について学びます。	事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと
13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テストと解説を行います。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、組織行動論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	中間テスト 50 点、期末テスト 50 点、合計 100 点 なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（西之坊研究室）
備考	

科目名	人的資源管理論Ⅱ	科目名（英文）	Human Resources Management II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2021a0		

授業概要・目的	[授業概要] 組織行動論は社会心理学や心理学をベースに、組織で働く個人あるいは集団の行動や心理について研究し、組織目標を達成するために人をマネジメントする産業組織心理学と重複の多い学問分野です。組織行動論の特徴は、「因果関係を考える」ところにあります。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明したり、動画を視聴したりすることで、より深い組織行動論への理解を促します。 [授業目的] 組織における人の行動を理解し、どのように人をマネジメントするのかに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	①組織行動論の基本的な理論を理解できるようになる。 ②学習した組織行動論の理論を用いて、大学生が関わる日常的な組織であるアルバイト、部活・サークル人などの事例・現象を説明できるようになる。(DP3)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントや動画を活用し、組織における人の行動について解説します。 この授業を受講するには、経営管理論を理解していることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方に「組織行動論とは何か」ついて説明します。	シラバスを読み、講義資料を印刷した上で１時間程度目を通しておくこと
2	行動を駆動する力	ワーク・モチベーションを中心としたモチベーション理論を学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと
3	やりがいの設計	職務設計と内発的動機づけを学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと
4	やる気を引き出す評価	公平理論と組織的公正を学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと
5	組織とのよき出会い	採用の意思決定について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第４章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第４章を１時間程度読むこと
6	組織に馴染むプロセス	組織社会化について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと
7	組織と個人の約束	心理的契約について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第６章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第６章を１時間程度読むこと
8	中間テスト	テストと解説を行います。	事前課題：配付資料を１時間程度読むこと 事後学習：中間テストの内容を１時間程度復習すること
9	マネジャーの仕事	モチベーション論とリーダーの行動について学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
10	組織を動かすリーダー	変革型・カリスマ型リーダーシップについて学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第８章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと
11	集団の持つ力	グループ・ダイナミクスについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと
12	もめごとを乗り越える	コンフリクトと交渉について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 10 章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 10 章を１時間程度読むこと

	13	貢献を引き出す関わり合い	組織文化とコミットメントについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと
	14	「私らしさ」と「我々らしさ」	組織アイデンティティについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと
	15	期末テスト	テストと解説をします。	事前課題：これまでの講義資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること

関連科目	経営管理論、人的資源管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	組織行動	鈴木竜太・服部泰宏	有斐閣ストゥディア
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テスト（50%）、期末テスト（50%）で評価します。また、授業態度や不正行為などによって加点・減点をする場合があります。 なお、出席が 8 割に満たないと単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（西之坊研究室）
備考	

科目名	現代日本経営史	科目名（英文）	Business History of Modern Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2022a0		

授業概要・目的	本講義では、日本の公益事業（電気、水道、港湾、鉄道等）の特徴について、経営史学の視座から検討することを課題とします。受講生は、インフラを供給する企業の歴史や、他国と比較した時の日本の公益事業の特徴を学ぶことができます。
到達目標	1. 経営史に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	講義形式と後半一部を演習形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や成績評価について紹介します	事前：シラバスを読んでおく（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
2	日本の近代化と産業インフラの必要性	日本の公益事業について、明治期初期を中心に概観します	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
3	事例分析：大阪市の築港事業	明治初期に必要とされた「公益事業」の一角である港湾事業の経営史を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
4	事例分析：関西をとりまく電鉄事業（１）阪急電鉄と小林一三	産業化とともに必要とされた輸送機能「鉄道路線」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（15 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
5	事例分析：関西を取り巻く電鉄事業（２）南海、京阪、近鉄の誕生	産業化とともに必要とされた輸送機能「鉄道路線」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（20 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
6	事例分析：大阪市の電気事業	1900 年代からの第二次産業革命と電気事業の拡張について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（25 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
7	比較分析：東京	関西都市圏の公益事業の特徴と関東都市圏の公益事業のあり方を比較によって検討します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（30 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
8	比較分析：都市と地方の公益事業の違い	戦前期の都市圏と地方部（農業地帯）における公益事業のあり方を比較によって検討します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（35 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
9	戦中戦後の公益事業：国家統制と自由化	戦前期におきた「電力国家管理」と戦後におきた「電力再編成」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（40 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
10	戦後の公益事業（電力、電鉄、港湾事業）	1970 年代までの戦後高度経済成長と公益事業について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（45 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
11	オイルショック以後の公益事業	1970 年代以後の「公益事業の自由化」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（50 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
12	現代の公益事業論：財源の縮小とインフラの老朽化問題	現代のインフラ老朽化問題について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（55 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
13	グループ演習①有価証券報告書をもとにした調査	現代の公益事業を営む企業を対象に、「経営課題」「課題解決」「資金繰り」について調査資料を作成してもらいます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：有価証券取引報告書を分担、要約してくる（60 分）
14	グループ演習②プレゼンテーションの作成、ディスカッション	調査資料をもとに、グループでディスカッションし、プレゼンテーション資料を作成してもらいます。	事前：有価証券報告書の要約をもとに、グループに共有する資料を作成する（60 分） 事後：プレゼンテーション資料を分担、作成する（60 分）
15	グループ演習③プレゼンテーション	プレゼンテーションに基づいてグループで発表してもらいます。	事前：プレゼンテーションの作成と発表練習をしてくる（60 分） 事後：プレゼンテーションのフィードバックをもとに最終レポートを作成する（60 分）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（1-12 回講義終了後に提出）40%、演習レポート（13-15 回の授業に関するもの）60%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	生産管理論	科目名（英文）	Production and Operations Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2023a0		

授業概要・目的	・事例等を交えながら「イノベーション」の現代社会における正確な位置付けと、将来志向によるイノベーションの必要 性について　説明する。 ・理論的な枠組みだけでなく、個別、具体的な手法や秘訣なども採り上げた実践的な論法について説明する。 ・イノベーションを推進するための燃料となり得る「アイデア」創出の考え方について説明する。
到達目標	・企業、団体組織やチームにおける創造性あふれる闘う集団へと変えるために必要な思考力を育成する。 ・地域や企業組織に内在する様々な「知」の集合体を活かしたイノベーションを見いだす力を醸成する。 ・人の知識とコミュニティの創造に関係が深い出来事について、その活動のプロセスを描き出すことができる知識創造論に基づ　く分析力を養成する。 ・所属組織に限らず地域社会を良い方向へと変革するソーシャル・イノベーターの育成を目指す。
授業方法と留意点	・当該授業内容に関する資料を Teams のチャネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備等の上、授業に参加して下さい。 ・毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を提示します。指定時限までに提出して下さい。 ・毎回授業の最終で次回の予習項目を提示しますので、各自、事前に学習してきて下さい。
科目学習の効果（資格）	文科系学部卒でもメーカー等理工系学生の採用の多い業界で必要とされる、社会科学の知識をもった人材育成を目指します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス	イノベーションとは何か 【ディスカッション形式】	【事後】Teams 録画視聴による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30 分）
2	イノベーションの具体的中身とは？	企業･団体など組織におけるイノベーションが必要な事情と､その対策(方向性)について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
3	アイデア創出のための組織における考え方	組織内におけるイノベーション創出基盤とは何か？ 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
4	直面する課題解決のためのイノベーション活用	客観的なデータ解析の考え方とイノベーション創出のキッカケについて【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
5	創造的思考と独創性	ブレーンストーミングの活用とビジネスモデル創出について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
6	イノベーションのプロセス	事例等を参考としたプロジェクトの評価基準について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
7	イノベーションを育む組織風土	組織におけるリーダー役としての思考について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
8	日常におけるイノベーション思考	探究心による日常生活におけるイノベーション創出の考え方 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
9	ソーシャル･イノベーション	ソーシャル・イノベーションの要件とは？ 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
10	ソーシャル･イノベーションの事例研究（１）	様々な事例に基づく成功要因と懸念事項について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
11	ソーシャル･イノベーション政策	国および自治体等との連携による取り組みの考え方について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
12	オープンイノベーション	企業等経営戦略としてオープンイノベーションの総合力と盲点について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
13	マーケティング･イノベーション	ニーズ志向に基づくマーケティングとイノベーションの関係性について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
14	イノベーションに関わる知的財産権	テクノロジー･イノベーションの将来的方向性について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
15	イノベーションの事業化	イノベーション型ベンチャー企業における未来志向について 【反転授業・座学形式】	【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	①毎回の小レポートに対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。また小レ-ポート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合、予習項目について事前に調べてきた場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして履修者全員に Teams にて資料配付します。 ②期末試験（評価割合：50%） イノベーションの基本的な戦略的考え方を習得した知識から知恵として活用する学習効果を測定するため、総括的評価として実施します（記述式）。
学生への メッセージ	科学的要素のある内容ですが、普段の生活等でも将来使用する工学的知識ですので、知識として習得してもらいたい。
担当者の 研究室等	11 号館７階
備考	・次回の講義資料は毎週金曜日にアップしますので、当該週の木曜日までに自身でダウンロードして下さい。なお、再掲載はしませんので承知して下さい。期末定期試験では講義資料（紙ベース）の持ち込みは可です。

科目名	企業論	科目名（英文）	Theory of Corporate Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2024a0		

授業概要・目的	この授業ではまず、そもそも「企業とはなにか」、「企業と会社の違いとはなにか」、「大企業と中小企業を分ける基準や両者の違いはなにか」など、企業に関するさまざまな疑問について検討する。そのうえで、経営学（とくに経営管理）に関する諸理論や考え方を検討し、企業が存続・発展していくにあたり求められるマネジメントのあり方を考える。 　この授業ではまた、CSR（企業の社会的責任）や SDGs（持続可能な開発目標）についても検討し、企業の社会的役割やそうした役割が企業経営にとってどのような意味を持つのかについても考える。
到達目標	・企業規模の違いがマネジメントのあり方にあたえる影響について、説明できる。 ・企業における事業活動（本業）と社会活動（CSR、社会貢献）がいかに関連しているかについて、論理立てて説明できる。（ＤＰ３） ・この授業で学習した諸理論や考え方を、自分自身や自身の身近なことと関連づけて分析できる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	・授業で用いる資料は Moodle を通じて配布する ※授業準備の都合上、アップロードが直前や前日の夜遅くになる場合が発生すると考えられます。その際は、スマホ等の電子端末で入力をしていただくようお願いいたします ・小テスト、および授業内課題は Moodle、もしくは Teams を用いて実施予定のため、スマホやパソコン等の電子端末を忘れずに毎回持参すること ・授業の進度等に応じて、授業計画を変更する可能性がある点に留意すること
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	第２回以降の授業内容や進め方、成績評価、注意点等について説明する	【事前】 シラバスを読んでおく（10 分） 【事後】 説明した授業内容や進め方等を再確認し、理解しておく（10 分）
2	企業とはなにか	企業と会社の違いや企業をみる視点、企業形態について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
3	株式会社のしくみ	株式会社の特徴やしくみについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
4	大企業と中小企業（1）	大企業と中小企業を分ける基準や企業規模の違いが、マネジメントのあり方にあたえるさまざまな影響について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
5	大企業と中小企業（2）	企業規模の違いが、企業の所有と経営、資金調達のあり方にあたえる影響について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
6	第１回小テスト＋解説	第１回小テストを実施し、解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2 時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1 時間）
7	企業と管理（１）	テイラー・システムについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
8	企業と管理（２）	フォードシステムについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
9	企業と管理（３）	メイヨーらの人間関係論について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
10	企業と管理（４）	バーナードの近代管理論について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分）

			【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
11	第2回小テスト＋解説	第2回小テストを実施し、解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1時間）
12	企業と社会：CSRとはなにか	企業と社会との関係性、CSRとはなにかについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
13	戦略的CSR、CSV	戦略的CSRやCSV（共通価値の創造）について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
14	CSRとSDGs	CSR と SDGs との関係性について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
15	全体まとめと到達度確認テスト	これまでの授業内容に関するまとめを行ない、到達度確認テストを実施する	【事前】 到達度確認テストの範囲（これまでの全ての授業内容）を復習しておく（4時間） 【事後】 到達度確認テストで間違った問題や要点を復習しておく（2時間）

関連科目

地域産業論、中小企業論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキスト 現代企業論 〈第4版〉	坂本恒夫・大坂良宏・鳥居陽介	同文館出版
2	よくわかる企業論 （第2版）	佐久間信夫	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）

【成績評価】
①授業内課題、提出物（ミニレポート）：30%
②小テスト：30%
③到達度確認テスト：40%

学生へのメッセージ

企業を捉える視点はひとつではありません。ぜひこの授業を、企業をみる多角的な視点を知るきっかけとしてください。

担当者の研究室等

11号館7階 木下研究室

備考

・到達度確認テストの詳細については、授業で説明します

科目名	ＣＳＲ経営論	科目名（英文）	Corporate Social Responsibility Manegement
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2025a0		

授業概要・目的	日本に存在する企業の圧倒的大多数を占めているのは中小企業であり、中小企業は日本経済・社会をけん引する主役といっても過言ではない。また、日本では中小企業で働く人の割合は約７割を占め、われわれにとって、中小企業は働く場としてもひとつの有力な選択肢ともなっている。 こうした点をふまえ、この授業ではまず「中小企業とはなにか」について考えた上で、適宜、大企業と比較しつつ中小企業の特徴や課題について検討する。さらにこの授業では、近年注目が高まっているCSR（企業の社会的責任）についても検討し、企業の社会的役割、およびそうした役割が中小企業経営にとってどのような意味をもつのかについても考えていく。
到達目標	・中小という企業規模ゆえの強み、および弱みについて説明できる。 ・中小企業の社会的責任と企業経営（本業）がいかに関連しているかについて、論理立てて説明できる。（ＤＰ３） ・事例分析を通じて当該中小企業が抱える経営課題を発見し、その解決策を提案できる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	・授業で用いる資料はMoodleを通じて配布する ※授業準備の都合上、アップロードが直前や前日の夜遅くになる場合が発生すると考えられます。その際は、スマホ等の電子端末で入力をしていただくようお願いいたします ・授業内課題はMoodle、もしくはTeamsを用いて実施予定のため、スマホやパソコン等の電子端末を忘れずに毎回持参すること ・授業の進度等に応じて、授業計画を変更する可能性がある点に留意すること ・授業テーマに関する外部講師をゲストスピーカーとして招き、講演していただく授業回を設ける可能性がある
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	第２回以降の授業内容や進め方、成績評価、注意点等について説明する	【事前】 シラバスを読んでおく（10分） 【事後】 説明した授業内容や進め方等を再確認し、理解しておく（10分）
2	中小企業とはなにか	「中小企業とはなにか」という中小企業研究の根本的な問いについて考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
3	大企業と中小企業	「大」企業と「中小」企業という企業規模の違いが、マネジメントのあり方にあたえる影響について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
4	中小企業とベンチャー企業	「ベンチャー企業とはなにか」や、中小企業ととベンチャー企業との違い、共通点について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
5	中小企業の金融	中小企業による資金調達の特徴や課題について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
6	中小企業政策	中小企業政策の歴史や現状、課題および展望について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
7	第１回確認テスト＋解説	第１回確認テストを実施し、解説を行なう	【事前】 確認テストの範囲を復習しておく（2時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1時間）
8	下請システムとものづくり中小企業	日本的下請システムとその変化について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
9	中小企業と国際化	中小企業の国際化の現状や課題について検討し、中小企業に応じた国際化のあり方について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
10	中小企業の事業承継	中小企業の事業承継の現状と課題について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間）

			【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
11	中小企業とネットワーク	中小企業ネットワークについて検討し、ネットワークが中小企業にとってもつ意味について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
12	第２回確認テスト＋解説	第２回確認テストを実施し、解説を行なう	【事前】 確認テストの範囲を復習しておく（2 時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1 時間）
13	働く場としての中小企業	働く場としての中小企業がもつ特徴や中小企業での働きがいなどについて検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
14	中小企業の社会的責任（１）	「CSR（企業の社会的責任）とはなにか」を検討したのち、CSR の歴史について検討する。その上で中小企業に焦点をあて、社会的責任を検討する意義を確認する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
15	中小企業の社会的責任（１）	中小企業のステイクホルダーや、中小企業の社会的責任の特徴について検討し、中小企業の社会的責任のあり方について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）

関連科目

現代企業論、地域産業論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中小企業の経営	許伸江	八千代出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中小企業・ベンチャー企業論	植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治	有斐閣
2	よくわかる中小企業　［第２版］	関智宏編著	ミネルヴァ書房
3	21 世紀中小企業論	渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫	有斐閣

評価方法（基準）

【成績評価】
①授業内課題：30%
②確認テスト：40%
③ミニレポート：30%

学生へのメッセージ

私たちにとって身近な存在である中小企業について学ぶことで、これまでとはちがう企業をみる視点が得られるかもしれません。

担当者の研究室等

11 号館 7 階 木下研究室

備考

科目名	グローバル経営論	科目名（英文）	Global Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2026a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業の経営活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と学生同士のグループワークを通じて国際経営論に関する理論の発展や経営機能の国際化要因について学習する。 企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠である。
到達目標	①海外直接投資の理論の概要を説明できる。 ②企業がマーケティング・生産・研究開発などの経営機能を国際化する論理を説明できる。 ③国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の経営活動を分析できる。（ＤＰ３） ④企業の海外進出に関して、論理的思考に基づいて問題を発見することができる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	パワーポイントによる解説を中心に授業を行う。学習内容に関連したグループワークを適宜実施する。また、複数回の学習内容を踏まえた応用的なグループワークも行う。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと国際経営論の概要、海外進出の理由について学習する。	事前：シラバスと教科書の第１章を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	海外直接投資の理論	海外直接投資の代表的な理論とその発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第２章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第３章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	多国籍企業の組織デザイン	多国籍企業の経営組織の概要とその進化について学習する。	事前：教科書の第４章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	トランスナショナル経営	I-R フレームワークとトランスナショナル経営について学習する。	事前：教科書の第５章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	海外子会社の経営	海外子会社の類型化や成長のプロセスについて学習する。	事前：教科書の第６章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	日本企業による海外進出	第２回から第６回までの学習内容を踏まえて、日本企業の海外進出に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：第２回から第６回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	国際マーケティング（1）	国際マーケティングのプロセスについて学習する。	事前：教科書の第７章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	国際マーケティング（2）	新興国における国際マーケティングについて学習する。	事前：教科書の第７章と第８回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	国際マーケティング（3）	第８回と第９回の学習内容を踏まえて、日本企業の新興国向け製品開発に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：第８回、第９回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	ものづくりの国際拠点展開（1）	海外生産拠点の設立・運営や知識移転について学習する。	事前：教科書の第８章を読んでおくこと（1 時間） 事後：事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	ものづくりの国際拠点展開（2）	第 11 回の学習内容を踏まえて、海外生産拠点の設立と知識移転に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：教科書の第８章と第 11 回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	研究開発の国際化	海外研究開発の要因や海外研究開発拠点のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第９章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	グローバル製品開発	第 13 回の学習内容を踏まえて、グローバル製品開発に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：教科書の第９章と第 13 回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	国際的な人的資源管理	海外駐在員や現地従業員のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第 10 章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと（1.5 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目：国際経営論Ⅱ、経営学入門、マーケティング入門、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一　・林正・多田　和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	海外研究開発拠点の役割と進化　アジア新興国における日本企業の事例	畠山俊宏	三恵社
2			
3			

評価方法（基準）	第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末テスト 80%で評価する。
学生への	予習・復習を行い、グループワークに積極的に参加して欲しい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	企業分析（経営組織ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3044a0		

授業概要・目的	【概要】 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認するためのものである。講義方法はテキストに基づく企業事例についてグループプレゼンテーションを行う講義である。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 【目的】 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源をどのように活用し、社会の発展に貢献しているのか等、企業の実態を理解する。
到達目標	経営組織論に関連する企業のケースに関してテキストを通じて学習し、説明できることを目標とする。(DP４)
授業方法と留意点	本講義は、テキストに基づく企業事例を学習し、プレゼンテーションおよびレポートを課すことで知識を得ることである。
科目学習の効果（資格）	組織の管理と運営に関する具体的な課題と企業の抱える現実的問題を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的･目標および授業の進め方や成績評価法について説明します。	事前課題：シラバスをよく読み、教科書を早めに購入して１時間程度読んでおくこと。 事後課題：プレゼンテーションの準備を１時間程度行うこと。
2	プレゼンテーションに関する説明	プレゼンテーションを行うための説明を行います。また、発表グループ分けおよびレポート作成の章を決めますので、履修者は必ず出席すること。	事前課題：テキストを１時間程度読み、ケーススタディとなっている企業について調べること。 事後課題：ケーススタディレポートを１時間程度で作成すること。
3	発表資料､課題レポート作成	プレゼンテーション資料作成作業を行います。	事前課題：テキストを１時間程度読み、ケーススタディとなっている企業について調べること。 事後課題：発表資料あるいは課題レポートを１時間程度で作成すること。
4	企業の誕生	メルカリの設立と成長についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
5	会社とはだれのものか	カゴメの株主拡大戦略についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
6	メルカリの設立と成長（組織の誕生と成長）	メルカリの誕生と成長についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
7	環境・戦略・組織	フォードと GM の覇権交代についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
8	GE のリストラクチャリングと組織改革	GE の組織改革についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
9	コマツの革新と組織改正	コマツのビジネス･システムの革新と IOT および組織改正についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
10	富士フィルムの企業変貌と組織変革	富士フィルムの企業変貌と組織変革についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
11	経営理念と組織文化	リクルートの起業家精神に基づく組織文化についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について１時間程度調べて理解を深めること。
12	人材マネジメントと組織運営	双日の人事管理と組織運営についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を１時間程度読んでおくこと。

			事後課題：該当企業について 1 時間程度調べて理解を深めること。
13	日本的生産システムと組織	トヨタ自動車の生産方式と組織についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を 1 時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について 1 時間程度調べて理解を深めること。
14	ビジネス倫理と組織要因	JR 西日本の新幹線台車亀裂トラブルと組織要因についてプレゼンテーションを履修者が行い、教員が解説します。	事前課題：テキストの該当する章を 1 時間程度読んでおくこと。 事後課題：該当企業について 1 時間程度調べて理解を深めること。
15	まとめ	経営組織論の実践的内容を包括的にまとめます。	事前課題：1 時間程度テキストを読んで事前学習すること。 事後課題：1 時間程度テキストを読んで本日の解説を用いて復習すること。

関連科目

その他の企業経営コース科目と関係する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケースに学ぶ経営学(第 3 版)	東北大学経営学グループ	有斐閣ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

プレゼンテーション 70 点、レポート 30 点の合計 100 点で成績をつけます。
なお、8 割以上出席がないと単位を認めない場合があります。ただし、就職活動や慶弔関係でやむを得ず欠席した時は、証拠を現認した上で配慮する場合があります。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

11 号館８階　西之坊研究室

備考

科目名	経営学特講Ⅱ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2047a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。 マーケティング入門、マーケティング戦略論で学んだことをさらに発展させ、とりわけ、「サービス」「消費者」の視点からマーケティングについて学んでいきます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「ツーリズム」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・サービスを提供する企業のマーケティング戦略を比較・分析できる。 ・サービスを購買する消費者の購買意思決定プロセスについて説明することができる。 ・サービスを消費する消費者視点を踏まえながら、自らマーケティング戦略を策定できる問題解決力、実践力を身につける。
授業方法と留意点	・講義に加え、新製品に関するニュースなどを題材に議論することも予定しています。 ・企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 ・詳細は、Microsoft Teams に掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	サービスマーケティングの概要	サービスマーケティングの概要について説明します。	【事前学習】マーケティング入門の概要について復習する(30 分)。 【事後学習】サービスマーケティングの概要について復習する(30 分)。
2	サービスの分類	サービス活動の対象と性質について理解を深めます。	【事前学習】サービス製品の特長について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの分類について復習する(30 分)。
3	サービスのタイプ	コア・サービスとサブ・サービスについて説明します。	【事前学習】サービス製品の差別化について考える(30 分)。 【事後学習】サービスのタイプについて復習する(30 分)。
4	サービスマーケティングミックス	「モノ」のマーケティングと「サービス」のマーケティングの相違について理解を深めます。	【事前学習】サービスのマーケティングの特徴について考える(30 分)。 【事後学習】サービスマーケティングミックスについて復習する(30 分)。
5	サービス・スケープ	フィジカルエビデンスの役割について説明します。	【事前学習】サービスにおける物理的環境について考える(30 分)。 【事後学習】(30 分)。サービス・スケープについて復習する(30 分)。
6	サーバクション･フレームワーク	サービスエンカウンターについて説明します。	【事前学習】サービス提供者の接遇について考える(30 分)。 【事後学習】サービスエンカウンターについて復習する(30 分)。
7	サービスの品質評価	サービスの品質評価方法について理解を深めます。	【事前学習】サービスの品質について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの品質評価について復習する(30 分)。
8	サービスの満足評価	期待と満足の関係について説明します。	【事前学習】顧客満足について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの満足評価について復習する(30 分)。
9	インターナルマーケティング	従業員満足について説明します。	【事前学習】従業員満足について考える(30 分)。 【事後学習】インターナルマーケティングについて復習する(30 分)。
10	サービス・プロフィット・チェーン	サービス・プロフィット・チェーンについて理解を深めます。	【事前学習】サービス・プロフィット・チェーンについて予習する(30 分)。 【事後学習】サービス・プロフィット・チェーンについて復習する(30 分)。
11	サービスの購買行動	消費者の購買意思決定プロセスの概要について理解します。	【事前学習】最近購買したサービスに関する購買行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】サービスの購買行動について復習する(30 分)。
12	購買前の情報処理	消費者の内部探索･外部探索について理解を深めます。	【事前学習】購買前の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買前の情報処理について復習する(30 分)。
13	購買時の情報処理	製品やサービスに対する態度について説明します。	【事前学習】購買時の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買時の情報処理について復習する(30 分)。
14	購買後の情報処理	購買後の満足の仕組みについて説明します。	【事前学習】購買後の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買後の情報処理について復習する(30 分)。
15	まとめ	これまでの授業を振り返ります。	【事前学習】これまでの授業の重要ポイントについて復習する(30 分)。 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末レポートに備える(30 分)。

関連科目	マーケティング入門、マーケティング戦略論、リテールマーケティング
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者行動論	青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司	有斐閣
2	観光ビジネスの新展開	福本賢太・田中祥司	晃洋書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	発表、小テスト等４０％ 期末レポート６０％
学生への メッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の 研究室等	田中研究室　１１号館８階
備考	教科書の使い方等については，第１回目の講義時にお伝えします。 各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。 Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	経営学特講Ⅲ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration III
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3048a0		

授業概要・目的	現代の企業は集団を形成して経済活動を行っている。したがって，企業を分析するためには，企業集団の経営成績，財政状態を把握する必要がある。この講義では，企業集団の経営成績，財政状態を表す連結財務諸表の作成方法を学習することにより，企業集団の経済活動に対する理解を深める。
到達目標	①連結財務諸表の作成方法を学ぶことで，企業集団の開示する情報を理解する(DP2)。 ②連結会計のルールを，その背後にある考え方を意識して学習することによって，体系的に物事を捉える能力を培う(DP3)。
授業方法と留意点	講義資料等は Moodle 上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定，公認会計士試験，税理士試験において有意義な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の概要についての説明	事前：シラバスの確認(30 分) 事後：講義資料の復習(30 分)
2	個別財務諸表の作成 1	企業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
3	個別財務諸表の作成 2	個別損益計算書，個別損益計算書の作成	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
4	連結会計の概要	連結会計の概要についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
5	資本連結 1	連結貸借対照表の作成（100%子会社の場合）についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
6	資本連結 2	連結貸借対照表の作成（部分所有の場合）についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
7	資本連結 3	支配獲得後第 1 期における連結損益計算書の作成についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備(60 分) 事後：試験の復習(30 分)
9	資本連結 4	子会社配当金の修正についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
10	資本連結 5	支配獲得後 2 期目の連結についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
11	成果連結 1	内部取引，債権・債務の相殺消去についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
12	成果連結 2	未実現利益の消去(ダウン・ストリーム)の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
13	成果連結 3	未実現利益の消去(アップ・ストリーム)の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
14	総合問題	総合問題の演習と解説	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
15	振り返りとまとめテスト	振り返りとまとめテスト	事前：試験の準備(120 分) 事後：試験の復習(60 分)

関連科目：商業簿記，会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 2 級	TAC 株式会社(簿記検定講座）編著	TAC 出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計論	梅原秀継	白桃書房
2	実証会計・ファイナンス　R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社
3			

評価方法（基準）	確認テスト 20%，中間試験 30%，まとめテスト 50%（15 回目の講義で実施）で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を 行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっ きりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e- learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking―10.Output	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 3 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習するこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 10.Output	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 3 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中高で学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 ~ 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1~4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	何　雨桐.担当者未定
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1,2,3,4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1,2,3,4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること (0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-4 まで復習すること (0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること (0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	It is important to try to come to every class as the skills we learn each week will build upon each other. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 6 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への メッセージ	第１回の授業で、授業の進め方・評価等に関して説明します。受講予定者は、必ず教科書を準備して初回から出席してください。 積極的に授業に参加することを期待しています。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テストと期末テスト 60%、授業中の学習、態度、参加状況（授業での呼応状況など）40%。
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 5 回欠席した場合、本コースの合格は極めて難しくなります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	Let's have fun learning English conversation!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡　晴美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への メッセージ	英語の４技能５領域〔Reading, Listening, Writing, Speaking（やり取り・発表）〕を育成する学習活動を行います。 英語を使うことを楽しみましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達すること
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。教科書を持ってこない、スマホを触る、居眠りする、私語をするなどして授業参加しない人は、その都度 3～5 点減点されます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総

				復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	MIDTERM & FINAL EXAMS 40%、授業活動60%の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 教科書を持ってこない、スマホを触る、私語をする、居眠りするなどして授業活動に参加しない場合、その都度3〜5点減点します。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking-10.Output	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 6 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 10.Output	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 6 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5-8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中高で学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 ~ 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5~8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	何　雨桐.担当者未定
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5,6,7,8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5,6,7,8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5-8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	It is important to try to come to every class as the skills we learn each week will build upon each other. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	-まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	第１回の授業で授業内容・評価方法等に関して説明します。受講予定者は、教科書を準備して必ず初回から出席してください。 積極的に授業に参加することを期待しています。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 Ib
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テストと期末テスト 60%、授業中の学習、態度、参加状況（授業での呼応状況など）40%。
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5 回の欠席で合格することは困難である。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	Let's continue having fun learning English conversation!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾀﾝｼｭｰ ｱﾚｻﾝﾄﾞﾛ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第１回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。教科書を持ってこない、スマホを触る、居眠りする、私語をするなどして授業参加しない人は、その都度 3～5 点減点されます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総

				復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 Ib
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間試験 20%、最終試験 20%、授業活動 60%
学生への メッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 教科書を持ってこない、スマホを触る、私語をする、居眠りするなどして授業活動に参加しない場合、その都度 3〜5 点減点します。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。この講義ではビジネス・経営に関する内容を扱う。
到達目標	「読解力」としては、CEFR-J[A2-2]を目標とし、「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とする。また「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。４回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト（3～5 分）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	
2	Chapter1 Business and our lives	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
3	Chapter1 Business and our lives	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
4	Chapter2 Enterprises and companies	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
5	Chapter2 Enterprises and companies	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
6	Chapter3 The PEST analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
7	Chapter3 The PEST analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
8	臨時試験①		
9	Chapter4 The SWOT analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
10	Chapter4 The SWOT analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
11	Chapter5 Resource management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
12	Chapter5 Resource management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
13	Chapter6 Team management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
14	Chapter6 Team management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
15	臨時試験②		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL Business Management	Ikuko Ueno	SANSHUSHA
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常点（発言、課題、提出物）　40% 臨時試験　60%（臨時試験１　30%、臨時試験２　30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No.0001-0040 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙 動詞の形１	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No.0041-0080 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙 動詞の形２	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No.0081-0120 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No.0121-0160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No.0161-0200 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	単語小テスト No.0201-0240 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No.0241-0280 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No.0281-0320 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No.0321-0360 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No.0361-0438 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P.55-60 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No.0001-0040 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙 動詞の形１	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No.0041-0080 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙 動詞の形２	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No.0081-0120 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No.0121-0160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No.0161-0200 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	単語小テスト No.0201-0240 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No.0241-0280 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No.0281-0320 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No.0321-0360 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No.0361-0438 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P.55-60 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと 1.5 時間
2	Chapter 1 Joys of Anticipation	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
3	Chapter 1 Joys of Anticipation	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
4	Chapter 2 How Long Does It Take to Make a Friend?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
5	Chapter 2 How Long Does It Take to Make a Friend?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
6	Chapter 3 How to Form Good Habits	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
7	Chapter 3 How to Form Good Habits	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
8	Chapter 4 How to Beome More Productive	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
9	Chapter 4 How to Beome More Productive	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
10	Chapter 5 Introverts and Extroverts	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
11	Chapter 5 Introverts and Extroverts	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
12	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	前期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
13	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	前期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく 1.5 時間
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習 1.5 時間

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Life Topics: Changing Views 総合英語ライフトピックス 5	Jonathan Berman	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100％
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	8 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱａ	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと
2	Unit 1　What Did People Use Before Erasers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
3	Unit 1　What Did People Use Before Erasers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
4	Unit 2　Who Is Barbie?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
5	Unit 2　Who Is Barbie?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
6	Unit 3　How Did T-shirts Become Popular?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
7	Unit 3　How Did T-shirts Become Popular?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
8	Unit 4　Who Invented Cotton Candy?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
9	Unit 4　Who Invented Cotton Candy?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
10	Unit 5　Which Came First, the TV or the RC?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
11	Unit 5　Which Came First, the TV or the RC?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
12	Unit 6　Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
13	Unit 6　Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（1時間）
14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく（1時間）
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 3	Arnold Arao	南雲堂「
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	j授業参加度　　４０％ まとめのテストの成績　６０％
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
2	Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 2 Business English	小テスト（Unit1） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit2 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
4	Unit 2 Business English	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する
5	Unit 3 Culture Skills	小テスト（Unit2） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
6	Unit 3 Culture Skills	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 4 More than Just Words	小テスト（Unit3） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
8	Unit 4 More than Just Words	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 5 Meetings	小テスト（Unit4） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit5 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
10	Unit 5 Meetings	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 6 Business Communication Style	小テスト（Unit5） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit6 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
12	Unit 6 Business Communication Style	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 7 Let’s negotiate.	小テスト（Unit6） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit7 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
14	Unit 7 Let’s negotiate.	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
15	まとめテスト	Unit1-７の単語、文法事項の確認とテスト	事前学習：テキスト(Unit1-7)の復習,単語、文法事項を整理し、小テストの間違いを確認する（0.5 時

				間） 事後学習：単語と文法問題を再度確認する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から教科書を準備し出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方･評価方法などについて説明する。	第２週目の授業に間に合うように教科書を購入する。
2	Week 2: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
3	Week 3: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
4	Week 4: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
5	Week 5: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
6	Week 6: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
7	Week 7: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備(90 分)
9	Week 9: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
10	Week 10: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
11	Week 11: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
12	Week 12: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
13	Week 13: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
14	Week 14: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備(90 分)

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2	S. Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめのテスト１(Midterm Exam) 20% まとめのテスト２(Final Exam) 20% 授業活動(Vocabulary test、提出物、授業活動への積極参加など) 60%
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	やむを得ない欠席は 3 回までしか認められません。遅刻・早退・中抜けは、累積三回で一回の欠席になります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で３～５点減点します。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Suntory University Preps Workers for Global Growth	講義の進め方、評価方法の説明。 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	シラバスを読んでおくこと。1時間
2	Unit3 Japanese office Worker's Stunning iPhone Sketches	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。 リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
3	Unit4 Perceptions of Space, from Japan to the World	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
4	Unit5 Robots to Descend on Haneda Airport	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
5	第一回チェックテスト Unit2 Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline	第一回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。スクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間
6	Unit6 Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
7	Unit 8 Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
8	Unit11 Things Japanese People Should Not Say to Westerners	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
9	Unit12 If Addressed by a Westerner..	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
10	第二回チェックテスト Unit9 Englishnization Advances at Rakuten	第二回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間
11	Unit15 University Survival Strategy	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
12	Unit16 Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
13	Unit18 Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
14	Unit19 How to Overcome the GAIJIN Complex	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
15	チェックテスト第三回	第三回チェックテスト	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間

関連科目：ビジネスイングリッシュ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生への メッセージ	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室　（木曜２限）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1 There is More than One Way to Be a Leader 語彙　設問　ポイント文と文法	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明 ユニット１	ユニット１予習 （１時間以上）
2	Unit1 There is More than One Way to Be a Leader 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１ 単語テスト１	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１復習 ユニット 14 予習（１時間以上）
3	Unit14 Two Great Painters 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１４ 単語テスト２	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１復習 ユニット１４予習（１時間以上）
4	Unit14 Two Great Painters 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１４ 単語テスト３	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１４復習 ユニット 14 予習（１時間以上）
5	チェックテスト第一回 採点　講評/解説	ユニット 1, １4, 復習 復習テスト・採点・質問受付・解説	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット 1, 14 復習、テスト対策 （１時間以上）
6	Unit2 A Cool Response to Food Waste 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット２ 単語テスト４	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット２復習 ユニット２予習（１時間以上）
7	Unit2 A Cool Response to Food Waste 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット２ 単語テスト５	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット２復習 ユニット９予習（１時間以上）
8	Unit9 Currying Favor in Britain and Japan 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット９ 単語テスト６	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット９復習 ユニット９予習（１時間以上）
9	Unit9 Currying Favor in Britain and Japan 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット９ 単語テスト７	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット９復習 ユニット９予習（１時間以上）
10	チェックテスト第二回 採点　講評/解説	ユニット２，９復習 テスト・採点・質問受付・解説	テキスト内の単語、ポイント文法など ユニット 2, ９復習（１時間以上）
11	Unit12 The Age of Innocence 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 12 単語テスト８	テキスト内の単語、ポイント文法など ユニット１２予習（１時間以上）
12	Unit12 The Age of Innocence 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 12 単語テスト９	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１２復習 ユニット１２予習（１時間以上）
13	Unit4 Could Your Face Cost You Your Privacy? 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット４ 単語テスト 10	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１２復習 ユニット４予習（１時間以上）
14	Unit4 Could Your Face Cost You Your Privacy? 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット４ 単語テスト 11	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット ４復習 ユニット４予習（１時間以上）
15	チェックテスト第三回 採点　講評/解説	ユニット 4、12 復習 テスト	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット 4, 12 復習（１時間以上）

関連科目	実践英語入門、実践英語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P Newell, Takane Yamaguchi	金星堂

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト、チェックテスト　積極的参加評価　など　100％ 欠席４回未満の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	ゆっくりしたペースで進みますので、わからないところがあれば質問してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室７号館２F
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　永里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会 話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授 業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
2	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
3	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
4	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
5	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
6	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
7	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
8	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
9	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
10	Unit 5 What’s on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
11	Unit 5 What’s on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
12	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
13	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
14	Review 1	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
15	Review 2	期末テスト	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山　照彦 / LiveABC editors	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法　期末テスト（40%）

（基準）	小テスト（30%） その他授業中の態度や課題の提出（30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
2	Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 2 Business English	小テスト（Unit1） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit2 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
4	Unit 2 Business English	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 3 Culture Skills	小テスト（Unit2） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
6	Unit 3 Culture Skills	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 4 More than Just Words	小テスト（Unit3） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
8	Unit 4 More than Just Words	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 5 Meetings	小テスト（Unit4） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit5 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
10	Unit 5 Meetings	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 6 Business Communication Style	小テスト（Unit5） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit6 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
12	Unit 6 Business Communication Style	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 7 Let’s negotiate.	小テスト（Unit6） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit7 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
14	Unit 7 Let’s negotiate.	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
15	まとめテスト	Unit1-７の単語、文法事項の確認と	事前学習：テキスト(Unit1-7)の復習,今までの学習

			テスト	した単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく（0.5時間） 事後学習：知らない単語、文法事項は暗記する（0.5時間）

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から教科書を準備し出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC試験などを積極的に受験しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡　晴美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要及び評価方法の説明	教科書の予習 ※2 回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Google で検索すること。) 聴き読み Listening Marathon （目安：30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
2	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
3	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
4	Unit 2: Foods	小テスト： Unit 1 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
5	Unit 2: Foods	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
6	Unit 3: Foreign Language Learning	小テスト： Unit 2 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
7	Unit 3: Foreign Language Learning	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
8	Unit 4: Sports	小テスト： Unit 3 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み

			Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
9	Unit 4: Sports	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
10	Unit 5: Fashion	小テスト： Unit 4 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
11	Unit 5: Fashion	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
12	Unit 6: Living Things	小テスト： Unit 5 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
13	Unit 6: Living Things	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
14	Review: Units 1-6	小テスト： Unit 6 Units 1-6 の総括と質疑応答、課題への総合評価 Final due: Listening Marathon	教科書の復習 聴き読み （目安：各 30 分～1 時間） Students should review the unit from the last lesson
15	Course review and evaluation. Feedback	In-Class Review Assessment（授業内試験） これまでの項目を総復習	今学期の総復習を、教科書の音声データを使って行う（聴き読み方式） （目安：各 30 分～1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AMBITIONS: Elementary［４技能統合型で学ぶ英語コース：初級編］	熊澤孝昭、静 哲人、望月正道 編著	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

In-Class Review Assessment （授業内試験）： 40%
小テスト （第１回目の授業で配布する別紙の小テスト範囲に沿って出題）： 20%
In-Class Tasks and Homework （授業中:Unit の問題、クラスでの発表など 授業外の宿題・課題:授業の予習と復習、聴き読み、Listening Marathon など）： 40%

学生へのメッセージ

英語の４技能５領域〔Reading, Listening, Writing, Speaking（やり取り・発表）〕を育成する学習活動を行います。
英語を使うことを楽しみましょう。

担当者の研究室等

非常勤講師室（7 号館２階）

備考

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。この講義ではビジネス・経営に関する内容を扱う。
到達目標	「読解力」としては、CEFR-J[A2-2]を目標とし、「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とする。また「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。４回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	
2	Chapter7 The Japanese HRM systems	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
3	Chapter7 The Japanese HRM systems	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
4	Chapter8 What is marketing?	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
5	Chapter8 What is marketing?	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
6	Chapter9 The marketing mix	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
7	Chapter9 The marketing mix	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
8	臨時試験①		
9	Chapter10 Financial statements	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
10	Chapter10 Financial statements	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
11	Chapter11 Digital technology and business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
12	Chapter11 Digital technology and business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
13	Chapter12 Including SDGs in business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
14	Chapter12 Including SDGs in business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
15	臨時試験②		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL Business Management	Ikuko Ueno	SANSHUSHA
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常点（発言、課題、提出物）　40% 臨時試験　60%（臨時試験１　30%、臨時試験２　30%）
学生への メッセージ	できるだけペアワーク、グループワークをベースにした講義にしたいと思っています。英語が苦手な学生も、まずは参加しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0809-0880 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0881-0950 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0951-1020 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1021-1090 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1091-1160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1161-1230 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1231-1300 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1301-1370 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1371-1440 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1441-1500 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading　550	David E.Bramley／中井弘一	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題提出状況及び課題の正解率　100%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0809-0880 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0881-0950 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0951-1020 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1021-1090 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1091-1160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1161-1230 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1231-1300 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1301-1370 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1371-1440 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1441-1500 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading　550	David E.Bramley／中井弘一	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出状況及び課題の正解率　80%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習 1.5 時間
2	Chapter 6 Social Media and Loneliness	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
3	Chapter 6 Social Media and Loneliness	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
4	Chapter 7 Five Healthy Habits	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
5	Chapter 7 Five Healthy Habits	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
6	Chapter 8 Are Humans Outdated Machines? Part I	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
7	Chapter 8 Are Humans Outdated Machines? Part I	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
8	Chapter 9 Are Humans Outdated Machines? Part II: Controlling Stress	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
9	Chapter 9 Are Humans Outdated Machines? Part II: Controlling Stress	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
10	Chapter 10 The Happiness Set Point	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
11	Chapter 10 The Happiness Set Point	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
12	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	後期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
13	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	後期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく 1.5 時間
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習 1.5 時間

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Life Topics: Changing Views 総合英語ライフトピックス 5	Jonathan Berman	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	8 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習
2	Unit 7　Why Are Pencils Yellow?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
3	Unit 7　Why Are Pencils Yellow?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
4	Unit 8　What Are the Ends of Shoelaces Called?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
5	Unit 8　What Are the Ends of Shoelaces Called?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
6	Unit 9　Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
7	Unit 9　Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
8	Unit 10　Why Do We Drink So Much Coffee?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
9	Unit 10　Why Do We Drink So Much Coffee?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
10	Unit 11　Which Came First, Lighters or Matches?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
11	Unit 11　Which Came First, Lighters or Matches?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
12	Unit 12　Why Is Meat from Pigs Called "Pork"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
13	Unit 12　Why Is Meat from Pigs Called "Pork"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 3	Arnold Arao	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度　４０％ まとめのテストの成績　６０％
学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｃ	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：テキストを準備して、Unit8 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間）事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 リスニング問題、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 9 The Use of Social Media	小テスト（Unit8：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit9 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
4	Unit 9 The Use of Social Media	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 10 Effective Business Writing	小テスト（Unit9：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit10 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
6	Unit 10 Effective Business Writing	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 11 The Modern Office	小テスト（Unit10：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit11 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
8	Unit 11 The Modern Office	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 12 Socializing with a Purpose	小テスト（Unit11：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：、Unit12 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
10	Unit 12 Socializing with a Purpose	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 13 The Business Trip	小テスト（Unit12：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit13 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
12	Unit 13 The Business Trip	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 14 Dining In and Dinig Out	小テスト（Unit13：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit14 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）

	14	Unit 14 Dining In and Dinig Out	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題 Unit14 小テスト　解答と解説	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
	15	まとめ Unit 8-14 の復習	全体（Unit8-14）の単語・文法事項の確認 まとめテスト	事前学習：テキスト(Unit8-14)の復習,これまでの単語、文法事項を整理し確認する（0.5 時間） 事後学習：わからなかった単語、文法事項を暗記する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 ・学習成果の確認として、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方･評価方法などについて説明する。	第２週目の授業に間に合うように教科書を購入する。
2	Week 2: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
3	Week 3: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
4	Week 4: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
5	Week 5: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
6	Week 6: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
7	Week 7: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備(90 分)
9	Week 9: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
10	Week 10: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
11	Week 11: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
12	Week 12: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
13	Week 13: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
14	Week 14: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備(90 分)

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2	S. Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめのテスト１(Midterm Exam) 20% まとめのテスト２(Final Exam) 20% 授業活動(Vocabulary test、提出物、授業活動への積極参加など) 60%
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	やむを得ない欠席は 3 回までしか認められません。遅刻・早退・中抜けは、累積三回で一回の欠席になります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で３～５点減点します。

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	ＴＯＥＩＣとは　コース説明 リスニング Unit１　　品詞分けプリントで品詞解説 文法問題　　単語	左記範囲の単語演習、文法問題予習（1時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。 文法は丸覚えではなく授業のポイントを押さえて応用が効くように綺麗にまとめる。文章題は教科書だけでなくプリントも見ておくこと。
2	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展　文章題に慣れる	単語テスト１ リスニング Unit２　文法問題　文章問題　単語 文法「接続詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。文法は答えを覚えるのではなく応用が効くように解説を聞いた後はわかりやすくポイントをまとめておくこと。
3	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト２　リスニング Unit３ 文法問題　文章問題　単語　文法「前置詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語演習は雑に書かないこと。意味と発音を意識しながら丁寧にやること。 文章題は形式によって素早く解く物と間違わず正確に読み取るパターンの物の違いを意識して予習すること。
4	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト３　リスニング Unit４ 文法文章問題　単語 文法「分詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 今回の範囲である分詞については苦手な人が多いので授業の解説のあと調べてまとめておく事。過去分詞を過去形と勘違いしない事。
5	テスト一回め 語彙発展 文章形式の文法問題を解く	総合テスト第１回　Unit５ 文章文法問題 文法「分詞２」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習 （２時間） テストに出そうな問題は解説を必ずしているので特に文法事項は復習しておくこと。応用問題を想定して丸覚えしない事。
6	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却　フィードバック　単語テスト４　リスニング Unit ６　文法問題　単語 文法「関係代名詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） テストは、授業での解説を聴いて必ず何故間違えたのかメモをちゃんと書き入れて復習しておくこと。 文章題は他人の答えを丸覚えするのではなく自分の言葉でも回答ができるように練習すること。
7	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト５　リスニング Unit ７ 文法文章問題　単語　文法「関係代名詞２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語ワークシートは溜めずに出すこと。雑に書いている物には指導があるので書き方を工夫すること。 関係代名詞についてよく分からないところは教科書問題をやるだけでなく基礎に戻ってまとめておく事。
8	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト６　リスニング Unit ８ 文法文章問題　単語　文法「不定詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 不定詞の用法に応じて文の意味が正確に取れるようにしておく。やや特殊な用法についても説明するのでメモをとりきちんとまとめて分かるようにおくこと。
9	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト７　リスニング Unit ９ 文法文章問題　単語　文法「不定詞動名詞」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 応用力をつけるために、意識して不定詞をとる動詞と動名詞を取る動詞を区別して覚えること。決まった動詞しか出ないので適当に勘でやらない事。文章題はプリントもよく見て内容把握をしておく事。
10	テスト第２回　語彙発展 文章形式の文法問題を解く 品詞の観点をもって文法問	チェックテスト第２回フィードバック Unit １０ 文法問題　単語　　単語テスト７	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 答え合わせの後、過去形と完了形の使い分けについ

	題を解く	文法「過去形と現在完了形」	て分からない者が多いので、解説をちゃんと聴いて書き込んでおく事。文章題の中の時制にも注目して復習する事。テストにも出る。
11	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト８　リスニング Unit１１　文法文章問題　単語　文法「現在完了形と完了進行形」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 完了進行形については馴染みのない者もいるのできちんと解説を聞いてどんな時に使うのか例を探してみる事。教科書の文章問題から引用してまとめるのも良い。
12	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト９　リスニング Unit １２　文法問題　単語 文法「受身形１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 単純な受け身形だけではなく完了形受け身や進行形受け身形について説明するので授業の後良くまとめておく事。 単語ワークを溜めている者、遅れてもちゃんと出すこと。
13	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１０　リスニング Unit13　文章文法問題　単語 「受身形２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
14	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１１　リスニング Unit14　文章文法問題　単語 「副詞修飾」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
15	テスト第三回 品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	チェックテスト第３回 フィードバック	試験範囲の単語演習、文章文法問題予習復習 （２時間）

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST１	Yasuyuki Kitao　他	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%

学生へのメッセージ

e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しづつ英語力をつけていってください。
少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室 7 号館 2 階（木曜午前中）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	ＴＯＥＩＣとは　コース説明 リスニング Unit１　　品詞分けプリントで品詞解説 文法問題　　単語	左記範囲の単語演習、文法問題予習（1時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。 文法は丸覚えではなく授業のポイントを押さえて応用が効くように綺麗にまとめる。文章題は教科書だけでなくプリントも見ておくこと。
2	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展　文章題に慣れる	単語テスト１ リスニング Unit２　文法問題　文章問題　単語 文法「接続詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。文法は答えを覚えるのではなく応用が効くように解説を聞いた後はわかりやすくポイントをまとめておくこと。
3	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト２　リスニング Unit３ 文法問題　文章問題　単語　文法「前置詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語演習は雑に書かないこと。意味と発音を意識しながら丁寧にやること。 文章題は形式によって素早く解く物と間違わず正確に読み取るパターンの物の違いを意識して予習すること。
4	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト３　リスニング Unit４ 文法文章問題　単語 文法「分詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 今回の範囲である分詞については苦手な人が多いので授業の解説のあと調べてまとめておく事。過去分詞を過去形と勘違いしない事。
5	テスト一回め 語彙発展 文章形式の文法問題を解く	総合テスト第１回　Unit５ 文章文法問題 文法「分詞２」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習 （２時間） テストに出そうな問題は解説を必ずしているので特に文法事項は復習しておくこと。応用問題を想定して丸覚えしない事。
6	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却　フィードバック　単語テスト４　リスニング Unit ６　文法問題　単語 文法「関係代名詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） テストは、授業での解説を聴いて必ず何故間違えたのかメモをちゃんと書き入れて復習しておくこと。 文章題は他人の答えを丸覚えするのではなく自分の言葉でも回答ができるように練習すること。
7	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト５　リスニング Unit ７ 文法文章問題　単語　文法「関係代名詞２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語ワークシートは溜めずに出すこと。雑に書いている物には指導があるので書き方を工夫すること。 関係代名詞についてよく分からないところは教科書問題をやるだけでなく基礎に戻ってまとめておく事。
8	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト６　リスニング Unit ８ 文法文章問題　単語　文法「不定詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 不定詞の用法に応じて文の意味が正確に取れるようにしておく。やや特殊な用法についても説明するのでメモをとりきちんとまとめて分かるようにおくこと。
9	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト７　リスニング Unit ９ 文法文章問題　単語　文法「不定詞動名詞」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 応用力をつけるために、意識して不定詞をとる動詞と動名詞を取る動詞を区別して覚えること。決まった動詞しか出ないので適当に勘でやらない事。文章題はプリントもよく見て内容把握をしておく事。
10	テスト第２回　語彙発展 文章形式の文法問題を解く 品詞の観点をもって文法問	チェックテスト第２回フィードバック Unit １０ 文法問題　単語　　単語テスト７	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 答え合わせの後、過去形と完了形の使い分けについ

	題を解く	文法「過去形と現在完了形」	て分からない者が多いので、解説をちゃんと聴いて書き込んでおく事。文章題の中の時制にも注目して復習する事。テストにも出る。
11	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト８　リスニング Unit１１　文法文章問題　単語　文法「現在完了形と完了進行形」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 完了進行形については馴染みのない者もいるのできちんと解説を聞いてどんな時に使うのか例を探してみる事。教科書の文章問題から引用してまとめるのも良い。
12	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト９　リスニング Unit １２　文法問題　単語 文法「受身形１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 単純な受け身形だけではなく完了形受け身や進行形受け身形について説明するので授業の後良くまとめておく事。 単語ワークを溜めている者、遅れてもちゃんと出すこと。
13	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１０　リスニング Unit13　文章文法問題　単語 「受身形２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
14	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１１　リスニング Unit14　文章文法問題　単語 「副詞修飾」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
15	テスト第三回 品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	チェックテスト第３回 フィードバック	試験範囲の単語演習、文章文法問題予習復習 （２時間）

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST１	Yasuyuki Kitao　他	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト、まとめテスト等　100%

学生へのメッセージ

e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しづつ英語力をつけていってください。
少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室 7 号館 2 階（木曜 1,3 時間目）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　永里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会 話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授 業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
2	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
3	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
4	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
5	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
6	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
7	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
8	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
9	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
10	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
11	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
12	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
13	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
14	Review 2	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。 テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。
15	Review	期末テスト	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山　照彦 / LiveABC editors	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末テスト（40%） 小テスト（30%） その他授業中の態度や課題の提出（30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：テキストを準備して、Unit8 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 リスニング問題、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 9 The Use of Social Media	小テスト（Unit8：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit9 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
4	Unit 9 The Use of Social Media	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 10 Effective Business Writing	小テスト（Unit9：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit10 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
6	Unit 10 Effective Business Writing	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 11 The Modern Office	小テスト（Unit10：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit11 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
8	Unit 11 The Modern Office	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 12 Socializing with a Purpose	小テスト（Unit11：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：、Unit12 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
10	Unit 12 Socializing with a Purpose	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 13 The Business Trip	小テスト（Unit12：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit13 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
12	Unit 13 The Business Trip	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 14 Dining In and Dinig Out	小テスト（Unit13：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit14 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5

				時間)
	14	Unit 14 Dining In and Dinig Out	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題 Unit14 小テスト　解答と解説	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
	15	まとめ Unit 8-14 の復習	全体（Unit8-14）の単語・文法事項の確認 まとめテスト	事前学習：テキスト(Unit8-14)の復習,これまでの単語、文法事項を整理し確認する（0.5 時間） 事後学習：わからなかった単語、文法事項を暗記する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 ・学習成果の確認として、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Self Introduction. Course introduction.	Self introductions. Textbook and course explanation.	Review 1.30 hour
2	Unit 1/ What's your name?	Talking about yourselves. Asking and responding to personal questions.	Review 1.30 hour
3	Unit 1/ What's your name?	Exchanging personal information.	Review 1.30 hour
4	Unit 2/ Fashion.	Describing and understanding descriptions of clothing.	Review 1.30 hour
5	Unit 2/Fashion	Expressions and adjectives used to describe clothing.	Review 1.30 hour
6	Unit 3/ How do you stay healthy?	Giving and understanding advice about staying healthy.	Review 1.30 hour
7	Unit 3/ How do you stay healthy?	Words and expressions used to talk about healthy and unhealthy habits.	Review 1.30 hour
8	Test and Review and Feed Back.		Review 1.30 hour
9	Unit 5/How did you get there?	Directions	Review 1.30 hour
10	Unit 4/ How did you get there?	Describing the location of the place. Prepositions of location.	Review 1.30 hour
11	Unit 5/ What's that?	Describing and understanding descriptions of objects.	Review 1.30 hour
12	Unit 6/ What's your dream?	Describing goals, and responding to questions about them.	Review 1.30 hour
13	Seasonal events and activities.	Welcoming a visitor	Review 1.30 hour
14	Unit 6/ Outlining your future plans	Discussing your future plans.	Review 1.30 hour
15	Test and Review and Feed Back.		Review 1.30 hour

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success	Marc Helgesen	Pearsons
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	English Central 20% In-class tests. 20% 授業への参加、貢献（answering of oral questions, role-plays, successfully completing paperwork in group discussions, 小テスト、まとめテスト等も含む）　60%
学生へのメッセージ	I look forward to meeting you all.
担当者の研究室等	Part time teacher's room, building 7, 2nd floor
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネス中国語基礎 a	科目名（英文）	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1336e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 ①中国語の音節，ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第１課 お名前は何ですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 人称代名詞 名前の聞き方を答え方 「是」の述語文の使い方 「?」の疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第２課 これは私のパソコンです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 指示代名詞 疑問詞疑問文 「的」の使い方 副詞「也」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第３課 こちらの冬は寒いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 場所代名詞 形容詞述語文 疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第４課 私は毎日七時に起きます。 ☆単元テスト①	☆単元テスト①（第１～３課） ①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞述語文 時間詞の置く場所 省略疑問文 ③ドリル	事前に、第 1～3 課復習すること、単元テスト①の準備をする 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第５課 私の家は学校から遠いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞「在」 介詞「離」 反復疑問文 方位詞の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第６課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 量詞 「所有」を表現する「有」の文 疑問詞「几」と「多少」 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課復習 ☆単元テスト②	事前に、第 4～6 課復習すること、単元テスト②の準備をする。
12	第７課 あなたは今年いくつですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「存在」を表現する「有」の文 年齢の聞き方 親族の名称 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第８課	①本文の「基本表現」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認す

		私たちは図書館で勉強しています。	②文法のポイント 介詞「在」の表現 連動文 疑問詞 ③ドリル	る。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「完了」の表現 原因「なぜ」の表現 「A と B は同じだ」の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい ☆単元テスト③	☆第 7～9 課復習 ☆単元テスト③	事前に、第 7～9 課復習すること、単元テスト③の準備をする。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出 40% テスト 60%で評価する。
学生への メッセージ	★水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。 ★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

科目名	ビジネス中国語基礎b	科目名（英文）	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1337e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音１　中国語の音節，声調 ２　単母音	事前にテキストを目を通す、 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音３　複母音 ４　鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音５　子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
5	第１課　お名前は何ですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方，フルネームの言い方と尋ね方。 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
6	第 2 課　これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 3 課　こちらの冬は寒いです」	場所代名詞 形容詞述語文 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 4 課　私は毎日七時に起きます ☆単元テスト①	動詞述語文 動作の時点を表す文 省略疑問文 短文・練習題・発音練習	事前に、テスト１の準備をする。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 5 課　私の家は学校から遠いです	所在表現「在」・介詞「離」 反復疑問文 方位詞 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 6 課　あなたは週に何コマの授業がありますか	所有表現「有」 量詞・疑問詞「几」「多少」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課の復習	事前に、テスト２の準備をする。 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 7 課　あなたは今年いくつですか②	存在表現「有」 年齢の聞き方・親族の名称 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 8 課　私たちは図書館で勉強しています	介詞「在」 連動文１　疑問詞「怎 me」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 9 課　あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎 me」 「A 跟 B 一様」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい ☆単元テスト③	第 7～9 課の復習	事前に、テスト３の準備をする。 授業後、いままで習った部分の総復習をすること。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加度・受講態度・課題 50%　　テスト 50%
学生への メッセージ	月曜日開講の[ビジネス中国語基礎 a]と同一教科書を使用。教科書は必ず購入してください。教科書購入の予定がない場合は履修を見合わせてください。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	月曜日の「ビジネス中国語基礎 a 」を同時に履修することが可能です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｃ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1338e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 10 課 私はパンを食べたいです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「想」 選択疑問文 提案の表現 ③ドリル	練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第 11 課 母は私より背が高い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 比較の表現 「喜歓」の表現 「越 A 越 B」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 過去の経験を表現する「過」の文 助動詞「打算」 変化を現す「了」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第 13 課 私は手紙を書いている。	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 動作の進行を表現する 連動文 推量・確認の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第 14 課 私は英語を話せます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね型 要請の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 「是～.的」の構文 人民元の数え方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	読む・書く復習②	第 10 課～第 15 課の読む･書く復習の練習	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
8	☆テスト①	☆テスト①（第 10 課～第 15 課）	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
9	第 16 課 十五課を習い終えました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 兼語文「請」 結果補語 介詞「用」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 方向補語「来」「去」 介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 可能補語 動詞＋「得/不＋了」 「先 A, 然后 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 19 課 兄が走るのが早い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 様態補語 時量の表現 数量表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか　確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。

13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 　二重目的語の構文 　助動詞「得」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	読む・書く復習②	第 16 課～第 20 課の読む・書く復習の練習	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。
15	☆テスト②	☆テスト②（第 16 課～第 20 課）	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法（基準）

出席と課題の提出 40%
テスト 60%で評価する。

学生へのメッセージ

★水曜日のビジネス中国語 d を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。
授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
事前・事後学習に 1 時間すること。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

水曜日のビジネス中国語 d を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

科目名	日本語表現法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする 課題１のフィードバック
7	文章を引用する	文章引用の方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章を引用を練習する	1 時間の事前事後学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前事後学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前事後学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2)、レポート（30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをする。

科目名	日本語表現法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、１０００字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	１時間
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 事前事後あわせて１時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
11	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題３】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
12	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて１時間
13	レポートの書き方２	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題２を見直す 事前事後あわせて１時間
14	【課題３】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて１時間
15	レポートの講評	【課題３】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて１時間

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回(２０%×２)、レポート(３０%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(３０%)により評価する。 課題、レポート計３回を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室　　学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（3）	資料引用の復習（図表の引用）	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（1）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（2）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（1）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（2）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村　梨恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	前期の復習（後半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分けなど	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションの解説	ディスカッションの素材・テーマ等に関する解説	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方について	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションに向けて	資料の作成についてなど	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	課題③の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。

	質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石　典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1347a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前に第 1 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	事前に第 1 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前に第 2 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	事前に第 2 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
5	1 次方程式(1)	・等式の基本法則	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
6	1 次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
7	1 次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
8	1 次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
9	連立 1 次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
10	連立 1 次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
11	連立 1 次方程式(3)	・消去法	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前に第 5 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	事前に第 5 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
14	確率(1)	・確率の計算	事前に第 6 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前に第 6 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。

関連科目：数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の課題（演習）30%、期末試験期間中に課す定期試験 70%の配分で成績評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	5 号館 1 階(数学準備室)
備考	事前事後学習は毎回 30 分以上の時間をかけてください。課題は採点して、重要な箇所は講義中に解説します。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石　典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1348a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。具体的には、１次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前に第 8 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前に第 8 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の課題（演習）30%、期末試験期間中に課す定期試験 70%の配分で成績評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	5 号館 1 階(数学準備室)
備考	事前事後学習は毎回 30 分以上かけてください。重要な項目は講義中に解説します。

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤.中尾　千晶.横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1358a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（３０分） 事後：本実習の理解を深める（３０分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（３０分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（３０分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：全授業の総括（３０分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要）

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	保健論	科目名（英文）	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今浦　千信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2329a1		

授業概要・目的	健康課題について考えるとともに、自らの健康づくりや疾病予防に積極的に取り組むことが求められている。 本講義では、生涯を通した健康・スポーツのあり方の重要性について学習し、健康保持増進について実践することができる基礎的な知識を身につける。
到達目標	【準備学習について】 健康に関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。 また、スポーツや運動で興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。 【到達目標について】 （１）　健康課題について理解し、豊かなスポーツライフの実現について考えることができる。 （２）　スポーツの楽しみ方を知る｛する」「見る」「支える」 （３）　健康とスポーツの関わりに対してその見方、考え方を働かせ課題を挙げ検討することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。 資料配布、パワーポイント等を用いる。グループディスカッションを通して他人の意見を聞きいれ、自分の考えを他人に伝えたりする。
科目学習の効果（資格）	自分の健康について考えることができる。スポーツの楽しみ方を知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 健康とは	授業内容 評価方法について 健康の概念について	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
2	ヘルスプロモーション	日本や海外における健康政策について知る	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
3	スポーツと体力	体力とはなにか 自分の今の体力を考えてみよう	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
4	食事と健康	私たちのからだを構成する骨、筋肉、内臓、神経などについて知りそれらを作る栄養素について考える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
5	睡眠と健康	生活のリズムを整える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
6	生活習慣病について	メタボリックシンドローム	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
7	スポーツと安全	心肺蘇生法 熱中症対策など	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
8	フェアプレーの精神	ドーピングと健康、薬物と健康	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
9	競技スポーツ	アスリートと健康	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
10	スポーツはもっとオモシロイ	スポーツの楽しみ方を知り、積極的に健康について考える。地域とスポーツの関わり方について考える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
11	スポーツボランティア	支えるスポーツ	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
12	パリ 2024 夏季オリンピックについて	オリンピックの歴史 興味のある種目についてグループディスカッションをし、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
13	パリ 2024 夏季オリンピックについて	興味のある種目についてグループディスカッションをし、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
14	生涯スポーツ	生涯にわたって自分が取り組んでいけそうな運動についてグループディスカッションにより、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
15	レポート課題 まとめ	スポーツと健康に関するまとめ	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：今後についての検討（30 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小レポート（５０％） グループワーク（２０％）

	授業まとめのレポート（３０％） で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を５回以上した際の単位取得は認めない。

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	連　傑濤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1301a1		

授業概要・目的	【授業概要】 心理学は、人間の行動を理解、予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。 【授業目的】 本講義の目的は下記の３つである。 １）心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 ２）情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 ３）自己を探求するための手がかりをつかめるようにする。
到達目標	本講義の具体的な到達目標として以下の３点を挙げる。(DP1) 1)「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 社会場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定であり、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる場合がある。 ※授業中、Moodle や Teams にて小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考えてみましょう。そしてそれを習慣化してみましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学についてふりかえってみましょう。 教科書第１章を予習してください。
3	学習心理学	臨界期の概念、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、鏡映描写実験、社会的学習について解説します。	教科書第２章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
4	生理心理学	中枢神経系、末梢神経系、感情について解説します。	教科書第３章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
5	知覚心理学	知覚の体系化、知覚の恒常性、視覚、聴覚、触覚から認知へについて解説します。	教科書第４章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
6	認知心理学	注意、記憶、言語について解説します。	教科書第５章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
7	社会心理学 1-自分と他者のかかわり	自己、印象形成、ステレオタイプ、態度、原因帰属について解説します。	教科書第６章の前半を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
8	社会心理学２-社会と集団 テスト１	社会認知、集団行動、社会的排斥について解説します。授業内のテスト１を実施します。	教科書 1-６章を事前に復習してください。 教科書第６章の後半を事前に予習してください。
9	パーソナリティ心理学	パーソナリティの測定、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第７章と参考書「心理学」第 10 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
10	臨床心理学-1	精神分析療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法について解説します。	教科書第８章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
11	臨床心理学-2	うつ病、不安症、統合失調症、発達障害について解説します。	参考書「よくわかる臨床心理学」p56-p80 を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
12	発達心理学-1	生涯発達理論、乳幼児期から児童期までの養育、発達について解説します。	教科書第９章と参考書「心理学」第 19 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
13	発達心理学-2	子どもの気質、愛着、発達の病理について解説します。	参考書「心理学」第 20 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
14	神経心理学	脳の構造、失語症、失認症、失行症について解説します。	教科書第 10 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
15	まとめとテスト２	授業全体のまとめを簡潔に解説してから、授業内のテスト２を実施します。	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目：心理学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学入門	板口典弘、相馬花恵	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	よくわかる臨床心理学	下山晴彦	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法 （基準）	【授業内小テスト】20% 【提出物：レポート】10% 【テスト１】30% 【テスト 2】40% ※授業内テスト、レポートの提出物、テストの得点を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	事前事後学習について毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 授業中、質疑応答以外の私語が禁止です。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1302a1		

授業概要・目的	心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。「心理と社会」では、特に現代社会や社会情勢と人の行動との関わりについて解説していく。社会で活躍するために必要な幅広い教養を身につける。 SDGs-3, 5, 10
到達目標	1)社会が個人に与える影響を理解する。 2)個人が社会に与える影響を理解する。 3)社会の中のコミュニケーションについて理解を深める。 4)幅広い教養を身につける(DP１)。
授業方法と留意点	毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で授業を行う。資料を DL し、ノートを必ず取ること。 ｊ授業中には、学生同士の話し合いなどを行う。 授業の連絡は、teams　で行う。毎週必ず授業開講時刻に確認すること。 また、小テスト、課題の提出は授業中に、moodle で行うのでスマホなどを持参すること。
科目学習の効果（資格）	近年の経済不況や就職難などの社会変化が個人と集団の心理や行動にどのような影響を及ぼすのかを理解し、それにどのように対応すべきかなどの能力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･社会の中の心理とは？	授業内容、授業方法について説明します。 社会と心理との関係	事前学習課題：社会心理学について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人が社会に影響を受ける事例についてまとめておくこと(1 時間)
2	社会と心理学	社会心理学の歴史と課題	事前学習課題：社会心理の歴史について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会心理学の今後の課題についてまとめておくこと(1 時間)
3	社会的認知と集団心理	原因帰属	事前学習課題：社会的認知について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が行動を起こしたときの原因帰属の理論についてまとめること(1 時間)
4	自己の社会化と動機づけ	自己知覚理論	事前学習課題：自己知覚理論について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が社会に適応するメカニズムについてまとめること(1 時間)
5	社会的態度と態度変容	説得と態度変化	事前学習課題：態度変化とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：説得の効果とその理論についてまとめること(1 時間)
6	対人行動の明暗	攻撃と援助行動	事前学習課題：自分のこれまでの攻撃行動の内容についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が他者を助ける条件についてまとめること(1 時間)
7	社会の中の対人関係	印象形成、関係維持、関係崩壊	事前学習課題：自分が他人から持たれる第一印象についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：関係維持をするために必要な要因についてまとめること(1 時間)
8	対人関係と健康	ストレッサーとコーピング	事前学習課題：現在自分が感じているストレスについてあげること(1 時間) 事後学習課題：ストレスのコーピング法について、具体例も含めてまとめること(1 時間)
9	対人関係と幸福	ソーシャル・サポート	事前学習課題：人が幸福を感じる瞬間について調べること(1 時間) 事後学習課題：周りの人からのソーシャルサポートの種類とその効果についてまとめること(1 時間)
10	社会的影響	同調と服従	事前学習課題：自分が周りに同調した例をあげておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が誰かに服従するときに心理状態についてまとめておくこと(1 時間)
11	集団の影響	社会的促進と社会的手抜き	事前学習課題：社会的促進について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会的手抜きの具体例とその防止策についてまとめておくこと(1 時間)
12	集団過程	集団における意思決定	事前学習課題：最近自分が行った意思決定について、あげておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人の意思決定と集団の意思決定の違いについてまとめておくこと(1 時間)
13	集合と群衆	群衆行動の生起メカニズム	事前学習課題：群衆とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：群衆行動の具体例とその効果についてまとめておくこと(1 時間)
14	流言と流行	噂の心理、流行の心理	事前学習課題：最近流行ったこと、モノについて調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：噂の心理、効果について具体例を含めてまとめること(1 時間)
15	社会情勢と人間の心理/全体のまとめ	社会問題の中での人間の心理/最終テストの実施と解説	事前学習課題：これまでの内容について総復習を行うこと(1 時間)

				事後学習課題：心理と社会との関係についてまとめておくこと(1時間)

関連科目	「心理学Ⅰ」と関連する。「心理学Ⅰ」を受講した後に本授業を受けることが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーション心理学	深田博己	北大路書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の累積点（20%）、最終の小テスト(80%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10分まで)、私語など他人の迷惑となる行為は減点の対象となる。出席点などはない。
学生への メッセージ	人は社会の中で生きています。人は集団に流されたり，社会に踊らされたりします。そのようなときにどのような心理が働いているのかを解説していく。 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。スマホなどの使用に関しては退室をしてもらうことがあります。遅刻は減点(10分まで)の対象となります。 授業の連絡はTeams で行います。 資料の配布は、毎週moodle で行います。
担当者の 研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室
備考	授業に出席した人のみ、毎回の小テストと授業課題を実施できます。 小テスト、授業課題などの不正(出席していないのに受験、提出)は、すべて失格(単位なし)となります。 小テスト、授業課題には締切があります。 必ず厳守してください。締切以降の受験、提出はいっさい認めません。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	好井　裕明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1311a1		

授業概要・目的	私たちは普段、多くの他者と出会い、さまざまなつながりを作っています。この他者とのつながりが、社会の基本であり、社会学が考える基本的テーマです。本講義では、私たちが生きて在る「今、ここ」を中心として、個人や他者、状況や社会をどのように考えることができるのかを説明します。また「らしさ」や「ちがい」、「環境」をキータームとして、多様な社会問題の一端を説明します。 日常生活において他者や社会を考え直し、普段ほとんど見直すことがない常識（「あたりまえ」の知）に息づいている様々な「思いこみ」や「決めつけ」をつくりかえ、より積極的に社会や状況とかかわっていくことができる主体を形成することが本講義がめざす目的です。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会学とは何か	本講義の概要を説明し、社会学とは何かを説明する。	（事前）高校で習った「現代社会」を思い出しておく(2 時間)。 （事後）授業内容を復習し、教科書の「はじめに」を読んでおく（2 時間）。
2	社会学的考え方の基本１	社会を考える６つの視点のうち「構造」「行為」「関係性」を説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第 1 章の前半を読み、理解する（2 時間）。
3	社会学的考え方の基本２	社会を考える６つの視点のうち「自己」「日常生活世界」「人々の方法」を説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第 1 章の後半を読み、理解する（2 時間）。
4	日常性という宝箱１	シュッツの日常生活世界論、生活構造論を説明し	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第２章の前半を読み、理解する（2 時間）。
5	日常性という宝箱２	日常的な他者理解のありようを「類型化」「カテゴリー化」から説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第２章の後半を読み、理解する（2 時間）。
6	スマホのある日常を考える	スマホがどのように私たちの日常を支配しているのかを説明する。	（事前）自分が普段どのようにスマホとつきあっているかを考えておく（2 時間）。 （事後）教科書第３章を読み、理解する（2 時間）。
7	映画『フリークス』を視聴する	社会学的想像力をかきたてる傑作である『フリークス』を視聴し、その意味を解説する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）視聴した映画で、何を得たのかを確認しておく（2 時間）。
8	「らしさ」を考える	社会や他者を考えるカギとしての「らしさ」とは何かを説明する。その後、性差、ジェンダーについてさらに考える。	（事前）教科書第４章前半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第４章前半を読み、理解する（2 時間）。
9	性的少数者をめぐる問題	性的少数者をめぐる問題を説明する。その後時間があれば、ユニークフェイスも問題も説明する	（事前）教科書第４章後半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第４章後半を読み、理解する（2 時間）。
10	ドキュメンタリー『ハーヴェイ・ミルク』を視聴する	性的少数者をめぐる優れたドキュメンタリーを視聴し、性的少数者の解放運動を理解する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）視聴したドキュメンタリーで内を得たのかを確認しておく（2 時間）。
11	カテゴリー化を考える	障がい者問題を手がかりとして「ちがい」とは何かを説明する。障害者スポーツが提起する問題も説明する。	（事前）教科書第５章を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第５章を読み、理解する（2 時間）。
12	環境問題を考える１	環境問題のこれまでを「環境汚染」「水俣病問題」を中心に説明する。	（事前）教科書第６章前半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第６章前半を読み、理解する（2 時間）。
13	環境問題を考える２	環境問題の現在とこれからを「生活環境主義」「原発問題」を中心に説明する。	（事前）教科書第６章後半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第６章後半を読み、理解する（2 時間）。
14	被爆問題のドキュメンタリーを視聴する	NHK スペシャル「キノコ雲の下で何が起きていたのか」を視聴し、広島・長崎の被爆問題を説明する。	（事前）被爆問題について何を学んできたのかを思い出しておく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、被爆問題のこれからを考える（2 時間）。
15	まとめ	これまでの講義内容を今一度整理し、「今、ここ」から考える社会学の面白さと意義を確認する。	（事前）教科書第７章を読んでおく（2 時間）。 （事後）社会学の講義内容全体を復習しておく（2 時間）。

関連科目　社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「今、ここ」から考える社会学』	好井　裕明	筑摩書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	期末テストはしないで、講義内容の理解を前提とした課題レポート（2000～2500 字）で評価します。 授業参加態度２０％と課題レポート８０％で評価します。
学生への メッセージ	できるだけ興味深い講義をしたいと思いますが、最初から聞く気のない学生は受講しないでほしいと思います。話を聞かず、スマホなどをいじって教室の後ろにただ座っている「無駄」などしない学生とむきあい、その場で感じ考えることも含めて語っていきたいですね。
担当者の 研究室等	３号館 3 階好井研究室
備考	

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	須藤　遙子.稲生　勝.平山　洋介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1312a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。 本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。 具体的には、３人の担当教員の専門からメディア、都市、環境というテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。 これらを通して、受講生自身が知的専門職業人として上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	本講義は、３名の教員により５回ずつのオムニバス形式で開講される。 講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「メディア」「都市」「環境思想」に関わる問題に対し、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、メディア１：メディアとは	講義へのオリエンテーション メディア、コミュニケーション、情報とは	（事前）シラバスの理解（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
2	メディア２：マス・コミュニケーションとは	マスコミ４媒体、大衆（マス）、インターネットとの比較	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
3	メディア３：ジャーナリズム	グーテンベルクの活版印刷、新聞、権力の番犬	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
4	メディア４：インターネット	WWW、地球村、SNS	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
5	メディア５：ファクトチェック	フェイクニュース、「いいね！」、AI	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
6	都市再生１	ホットスポットを発明する	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
7	都市再生２	ファンタジー・シティ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
8	都市再生３	若者のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
9	都市再生４	女性のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
10	都市再生５	大災害からの地域再建	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
11	社会思想１：社会と社会構成体	意識は社会的存在、生活に規定されている…	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
12	社会思想２：資本主義とは？	資本主義の特徴；①製品→商品 ②労働力も商品 ③自己増殖する資本	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
13	社会思想３：資本主義の問題	疎外、搾取、環境破壊	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
14	社会思想４：資本主義から帝国主義へ	戦前型帝国主義と現代帝国主義の相違	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
15	社会思想５：世界規模で広がる帝国主義への抵抗運動	貧困、飢餓の訴え、環境保全運動	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）

関連科目　社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各教員の配分 30%（内訳は、平常点５0%、課題５0%）×３人＝90% 出席を加味した全体の授業参加度 10%
学生への メッセージ	現代社会の課題となっているテーマを取り上げます。 テーマに関心をもった「やる気のある学生」は受講してください。 大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階　稲生研究室、平山研究室、須藤研究室
備考	

科目名	政治学概論Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Politics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2415a2		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下の平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。(DP１)
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション—政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
2	政治と権力①政治の条件とは何か？	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
3	政治と権力②正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
4	日本の政治システム①民主主義（デモクラシー）	日本の政治が現在採用している民主主義(デモクラシー)について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第十八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第二十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
8	戦後の日本政治①GHQ 占領下の日本政治	戦後の GHQ 占領下である 1940 年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55 年体制の成立	日本独立期である 1950 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく 1960 年代の日本政治について授業します。	事事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	戦後の日本政治④自民党の	自民党の中で田中派支配が行われてい	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十

		派閥の興隆	た 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート（50%）と授業中ないし授業後に行う小テスト（50%）で評価します。
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS02416a2		

授業概要・目的	世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム（現実主義）とアイデアリズム（理想主義）という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の理性的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の１公正な配分を行いがちであると考えています。 現代の世界の政治でも、リアリズムとアイデアリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、いまだに国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の理性的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しうるような政権を選ばねばなりません。 しかし主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やアイデアリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。(DP１)
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。また文章の読解能力・作成能力を高めるため、政治学に関する文献を読み、レポートを提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、世界の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―国際政治とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
2	国際政治の歴史①主権国家の形成とアイデアリズム	主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をアイデアリズムの観点から授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
3	国際政治の歴史②冷戦の勃発	第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
4	対外政策―リアリズムの諸理論	モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
5	日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交	日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
6	日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争	冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
7	日本外交の歴史③今世紀の日本外交	米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、有事法制によって生じた日本外交の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
8	日本外交の歴史④安倍晋三政権における日本の安全保障	安倍晋三政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
9	日本外交の歴史⑤岸田文雄政権における日本の安全保障	岸田文雄政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
10	国家観の歴史的起源―プラトン、アリストテレス	国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう

			一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	国家理性とリアリズム—マキアヴェッリ	マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
12	戦争状態と国家—ホッブズ	ホッブズ『リヴァイアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の諸理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
13	民主的な国家観—ロック・ルソー	ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第三章・第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）
14	アイデアリズムの起源—カント	カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のアイデアリズムの起源としてのカントの道徳観・国際秩序観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目

中学・高校の公民、日本史、世界史など。大学の日本外交史、国際政治、西洋政治思想史など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想と啓蒙（2023 年春出版予定）	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治学	中西寛他	有斐閣
2	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
3			

評価方法（基準）

レポート（50%）、授業中ないし授業後に行う小テスト（50%）で評価します。
レポートは教科書から出題しますので、必ず購入すること。

学生へのメッセージ

新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の世界の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室

備考

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1501a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 課題ついては授業内にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	坂口有芸（７号館５階） 加野　佑弥（７号館５階）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。

科目名	インターンシップ基礎	科目名（英文）	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1502a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元にした話題提供から議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	水野武（７号館３階） 加野研究室（７号館５階）
備考	

科目名	ビジネスインターンシップⅠ	科目名（英文）	Business Internship I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2505a3		

授業概要・目的	主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で 1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 SDGｓ4-4 SDGｓ8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・講義委でのインターンシップと民間企業が行う 1day 仕事体験の違いを理解する ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（0.5 時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5 時間)
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること（0.5 時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5 時間)
4	企業研究を志望動機に結び付ける	・志望動機を組み立て方について考える ・企業研究を志望動機に結び付ける	・事前学修：自身の興味のある企業について調べること(0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5 時間)
5	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5 時間)
6	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（0.5 時間）
7	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5 時間)
8	履歴書･エントリーシートについて考える①	・エントリーシートとは何かを知る ・エントリーシートを書くための前準備を行う	・事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること(0.5 時間)
9	履歴書･エントリーシートについて考える②	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5 時間)
10	グループディスカッション①	・企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える ・実際にグループディスカッションに取り組む	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5 時間) ・事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返る(0.5 時間)
11	グループディスカッション②	・議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること(0.5 時間)
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5 時間)
13	課題のプレゼンテーション	・インターン先を調べて、インターンシ	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること

	②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（0.5時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)

関連科目

キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点(ミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する。
※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す。

学生へのメッセージ

インターンシップの流れは以下のとおりである。
※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定）
なお、インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある。
COVID-19などのパンデミックの影響や天候の問題により、先方都合で実習が中止になることもある。

担当者の研究室等

石井研究室（７号館５階）
加野研究室（７号館５階）

備考

教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
服　　装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。
予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。
※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名（英文）	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月２２日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(１時間)
2	直前学修② ６月２２日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(２時間)
10	事後学修① ９月１４日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5時間)
11	事後学修② ９月１４日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ ９月２８日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ ９月２８日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ １０月５日(土)　３限目(予定)	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(１時間)
15	事後学修⑥ １０月５日(土)　４限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(１時間)

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。
担当者の 研究室等	石井研究室（７号館５階） 加野研究室（７号館５階）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。

科目名	キャリアプラン	科目名（英文）	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1507a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、他者に自分の意志が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（1時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（2時間）
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1時間）

関連科目

・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
担当者の研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目：就職実践基礎・コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力を推奨します。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）は moodle に掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1510a3		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安：30分)
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：30分)
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安：2時間)
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習（模擬選考） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：2時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安：2時間)

			※評定あり	

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループデイスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点
学生への メッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　全学教育機構
備考	

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Business Manners I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　全学教育機構（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	何　雨桐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1,2,3,4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1,2,3,4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	It is important to try to come to every class as the skills we learn each week will build upon each other. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする 課題１のフィードバック
7	文章を引用する	文章引用の方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章を引用を練習する	1 時間の事前事後学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前事後学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前事後学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2)、レポート（30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをする。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1344a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、１０００字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	１時間
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 事前事後あわせて１時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
11	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題３】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
12	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて１時間
13	レポートの書き方２	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題２を見直す 事前事後あわせて１時間
14	【課題３】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて１時間
15	レポートの講評	【課題３】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて１時間

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回(２０%×２)、レポート(３０%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(３０%)により評価する。 課題、レポート計３回を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室　　学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村　梨恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1345a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	前期の復習（後半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分けなど	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションの解説	ディスカッションの素材・テーマ等に関する解説	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方について	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションに向けて	資料の作成についてなど	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	課題③の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。

	質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1349a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 課題ついては授業内にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	坂口有芸（７号館５階） 加野　佑弥（７号館５階）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1350a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元にした話題提供から議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	水野武（７号館３階） 加野研究室（７号館５階）
備考	

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introduction to Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義とマネジメント検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。（ＤＰ２） ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連したマネジメント検定の過去問題の演習を行う。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第 1 部第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	企業のかたち	企業の形態について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	大規模な会社における企業統治（1）	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 3 章 1・2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	大規模な会社における企業統治（2）	株式会社の様々な統治形態について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 3 章 3・4 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	日本型企業システム	日本企業の雇用慣行や企業統治について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	企業経営と全社戦略	全社戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 1 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	全社戦略としての成長戦略	成長戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	全社的な経営資源の配分	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学習する。	事前：教科書の第 2 部第 3 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	事業戦略	事業戦略と競争戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	経営戦略論の時代的変遷	経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 5 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	機能別戦略（1）	マーケティング戦略について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 1 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	機能別戦略（2）	研究開発戦略・生産戦略について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	経営組織の形態（1）	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 1・2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	経営組織の形態（2）	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	経営組織の形態（3）	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2・3 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目：現代企業論、中小企業論、経営戦略論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マネジメント検定試験公式テキストⅢ級　経営学の基本	一般社団法人　日本経営協会	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末テスト 80%で評価する。

学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introduction to Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＨＪＫＬＭＮＯ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。（ＤＰ２） ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントもしくはレジュメによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した演習を行う。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、公認会計士、公務員試験、大学院試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	企業のかたち	企業の形態と分類について学習する。	事前：教科書の第 2 章、第 3 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	株式会社の統治の仕組み	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	経営理論の歴史(1)	産業革命が生み出した作業管理手法の必要性について学習する。	事前：教科書の第 5 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	経営理論の歴史（2）	フレデリック・テイラーの生み出した科学的管理法について学習する。	事前：教科書の第 6 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	経営理論の歴史（3）	1920 年代の古典的、新古典的経営理論（フォード、ファヨール、メイヨー）について学習する。	事前：教科書の第 7 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	経営理論の歴史（4）	1930 年代バーナードの近代的組織論について学習する。	事前：教科書の第 11 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	経営組織論（1）	組織とはなにか、学習する。	事前：教科書の第 12 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	経営組織論（2）	基本的な組織形態とさまざまな組織形態について学習する。	事前：教科書の第 13 章、第 14 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	経営戦略論（1）	1960 年代チャンドラー、アンゾフの経営戦略論について学習する。	事前：教科書の第 15 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	経営戦略論（2）	1980 年代マイケル・ポーターの競争戦略論について学習する。	事前：教科書の第 15 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	人事管理とリーダーシップ論	人事管理の歴史と人的資源管理について学習する。	事前：教科書の第 16 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	マーケティング論	マーケティングの誕生から基礎理論までを学習する。	事前：教科書の第 17 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	生産管理論	現代の作業管理のあり方について歴史的に学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	日本的経営論	日本での経営方式の強み、弱みについて学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2・3 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目	日本経営史、外国経営史、経営戦略論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキスト経営学	井原久光	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各講義後に実施する小テスト 40%、期末レポート 60%で評価する。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	
備考	①小テストは、講義終了後から次回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introduction to Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義とマネジメント検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。（ＤＰ２） ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連したマネジメント検定の過去問題の演習を行う。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第 1 部第 1 章を読んでおくことを事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	企業のかたち	企業の形態について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	大規模な会社における企業統治（1）	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 3 章 1・2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	大規模な会社における企業統治（2）	株式会社の様々な統治形態について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 3 章 3・4 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	日本型企業システム	日本企業の雇用慣行や企業統治について学習する。	事前：教科書の第 1 部第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	企業経営と全社戦略	全社戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 1 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	全社戦略としての成長戦略	成長戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	全社的な経営資源の配分	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントについて学習する。	事前：教科書の第 2 部第 3 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	事業戦略	事業戦略と競争戦略について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	経営戦略論の時代的変遷	経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第 2 部第 5 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	機能別戦略（1）	マーケティング戦略について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 1 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	機能別戦略（2）	研究開発戦略・生産戦略について学習する。	事前：教科書の第 3 部第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	経営組織の形態（1）	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 1・2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	経営組織の形態（2）	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	経営組織の形態（3）	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第 4 部第 2 章 2・3 節を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目	現代企業論、中小企業論、経営戦略論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マネジメント検定試験公式テキストⅢ級　経営学の基本	一般社団法人　日本経営協会	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末テスト 80%で評価する。

学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	経営管理論	科目名（英文）	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	【授業概要】 基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。 【目的】 経営学の基本的な理論と概念を理解すること
到達目標	【到達目標】 企業は組織目標を達成するために多くの人が協働することが必要になる。そのために企業は組織を管理しなければならない。この講義では、組織管理について一般的な知識を修得することを目的とする。具体的には次の２点を修得できる。 （１）企業における組織管理の実体を知ることができる（DP２）。 （２）企業における組織管理を行う目的や理論について基礎知識を修得できる。(DP２)
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の最後に理解度テストを行うことがあります。
科目学習の効果（資格）	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	事前課題：配付資料および参考書を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
3	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォーディズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マグレガーのX理論・Y理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
10	中間テスト、解説	中間テストと解説を行います。	事前課題：第1～9回に行った講義内容を１時間程度復習しておくこと。 事後課題：中間テスト内容を踏まえて第1～9回の講義資料を復習すること。
11	モチベーション向上の実践	TESSEI の事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読む

		介します。	こと
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テストと解説を行います。	事前課題:第1〜14回に行った講義内容を1時間程度復習しておくこと。 事後課題:期末テスト内容を踏まえて第1〜14回の講義資料を復習すること。

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）

中間テスト50点と期末テスト50点によって評価します。
なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が8割に満たない場合は単位を認めない場合がある。

学生へのメッセージ

経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。
授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。

担当者の研究室等

11号館8階　西之坊准教授室

備考

科目名	経営管理論	科目名（英文）	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	【授業概要】 基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。 【目的】 経営学の基本的な理論と概念を理解すること
到達目標	【到達目標】 企業は組織目標を達成するために多くの人が協働することが必要になる。そのために企業は組織を管理しなければならない。この講義では、組織管理について一般的な知識を修得することを目的とする。具体的には次の２点を修得できる。 （１）企業における組織管理の実体を知ることができる（DP２）。 （２）企業における組織管理を行う目的や理論について基礎知識を修得できる。(DP２)
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の最後に理解度テストを行うことがあります。
科目学習の効果（資格）	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	事前課題：配付資料および参考書を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
3	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォーディズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マグレガーのX理論・Y理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
10	中間テスト、解説	中間テストと解説を行います。	事前課題：第1～9回に行った講義内容を１時間程度復習しておくこと。 事後課題：中間テスト内容を踏まえて第1～9回の講義資料を復習すること。
11	モチベーション向上の実践	TESSEI の事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読むこと
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習：配付資料および参考書を１時間程度読む

		介します。	こと
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	事前課題:配付資料および参考書を1時間程度読み、前回の復習をすること 事後学習:配付資料および参考書を1時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テストと解説を行います。	事前課題:第1〜14回に行った講義内容を1時間程度復習しておくこと。 事後課題:期末テスト内容を踏まえて第1〜14回の講義資料を復習すること。

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）

中間テスト50点と期末テスト50点によって評価します。
なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が8割に満たない場合は単位を認めない場合がある。

学生へのメッセージ

経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。
授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。

担当者の研究室等

11号館8階　西之坊准教授室

備考

科目名	地域産業論	科目名（英文）	Regional Industries
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1002a0		

授業概要・目的	私たちが暮らしと産業とのかかわりは一見では分かりにくい。しかし両者は密接に関連しており、その地域の産業の盛衰は私たちの暮らしをも左右しうる。日本各地にはさまざまな産業が存在しているが、それらの産業を形成している主体は中小企業である。つまり、地域産業のあり様を捉えるためには、その地域に存在する中小企業をみることが重要となってくる。 そこでこの授業では、地域産業の活性化にあたっては中小企業の活性化が重要であることをまず確認する。その上で、中小企業を基軸とした地域産業活性化のさまざまなあり方について検討することを目的する。
到達目標	・私たちが暮らしと産業の結びつきについて説明できる。 ・地域産業、およびその構成主体である中小企業に関する基礎知識を習得する。（ＤＰ２） ・中小企業の活性化が地域産業の活性化にむすびつくメカニズムを説明できる。
授業方法と留意点	・授業で用いる資料はMoodleを通じて配布する ※授業準備の都合上、アップロードが直前や前日の夜遅くになる場合が発生すると考えられます。その際は、スマホ等の電子端末で入力をしていただくようお願いいたします ・小テスト、および授業内課題はMoodle、およびTeamsを用いて実施予定のため、スマホやパソコン等の電子端末を忘れずに毎回持参すること ・授業の進度等に応じて、授業計画を変更する可能性がある点に留意すること ・授業テーマに関する外部講師をゲストスピーカーとして招き、講演していただく授業回を設ける可能性がある
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	第２回以降の授業内容や進め方、成績評価、注意点等について説明する	【事前】 シラバスを読んでおく（10分） 【事後】 説明した授業内容や進め方等を再確認し、理解しておく（10分）
2	私たちの暮らしと産業、中小企業	産業が私たちの暮らしに与える影響について検討し、両者の関係を理解するためには中小企業をみることが必要であることを確認する 地域産業を構成する主体である中小企業の重要性について確認する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
3	中小企業の特徴と経営課題	大企業とは異なる中小企業がもつ特徴や経営課題について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
4	地域産業と中小企業	中小企業と地域とのかかわりについて検討し、地域産業に果たす中小企業の重要性について確認する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
5	中小企業に対する政策的支援	中小企業に対する政策的支援（中小企業政策）の歴史や、現状および課題について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
6	第１回小テスト＋解説	第２～５回の授業内容に関する小テストを実施し、その後解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1時間）
7	地域と活性化	この授業のキーワードでもある「地域」についていま一度検討し、何をもって地域、あるいは地域産業の活性化といえるのかについて考える	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
8	地域の「内」からの発展	地域産業の活性化において、地域の「外」からではなく、「内」からの発展という視点の重要性について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
9	産学連携による地域産業活性化（１）	ケーススタディを通じて、中小企業と高校との産学連携による地域産業振興の現状、課題および展望について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
10	産学連携による地域産業活性化（２）	ケーススタディを通じて、中小企業と大学との産学連携による地域産業振興の現状、課題および展望について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分）

			【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
11	第２回小テスト＋解説	第７～10 回の授業内容に関する小テストを実施し、その後解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2 時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1 時間）
12	企業の社会活動と地域産業活性化	「企業の社会活動とはなにか」について検討したのち、当該活動が地域産業活性化にむすびつくメカニズムについて考える	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
13	中小企業の社会活動を通じた地域産業活性化（１）	中小企業の社会活動の特徴や課題について確認し、当該活動を通じた地域産業活性化の可能性について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
14	中小企業の社会活動を通じた地域産業活性化（２）	中小企業の社会活動のを促進するための方策について検討する 中小企業の社会活動の持続可能性を支える条件について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
15	まとめと到達度確認テスト	これまでの授業内容に関するまとめと、学習内容の到達度を確認するためのテストを実施する	【事前】 到達度テストの範囲であるこれまでの全ての授業内容を復習しておく（４時間） 【事後】 到達度確認テストの復習しておく（１時間）

関連科目

現代企業論、中小企業論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）

【成績評価】
①授業内課題、提出物（ミニレポート）：30%
②小テスト：30%
③到達度確認テスト：40%

学生へのメッセージ

この授業を、地域産業や中小企業が私たちの暮らしと深くかかわっていることを知るきっかけとしてください。

担当者の研究室等

11 号館 7 階 木下研究室

備考

・到達度確認テストの詳細については、授業で説明します

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目　ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階（小林研究室）
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目　ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力など、情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、Excel を用いた表計算、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコン、OS の概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用	ファイルとフォルダーの操作、Windows アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文字の書式設定・保存	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（2）	文書の作成、箇条書き、タブとインデント	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（3）	表の作成、画像、図形の挿入と編集	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	文書作成（4）	表現力アップのための応用技術、アウトライン、レポート作成に活用できる機能	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
9	前半のまとめ、中間レポート課題	前半のまとめと振り返り、中間レポート課題	タイピング練習（5 分） 前半の内容を復習しておく（90 分）
10	表計算（1）	表の作成と編集、セルの書式設定、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	表計算（2）	データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図等）	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の活用、スライドの視覚効果	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	表計算で作成したグラフの活用、テーマ別スライド作成	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	後半のまとめ、最終レポート課題	後半のまとめと振り返り、最終レポート課題	タイピング練習（5 分） 後半の内容を復習しておく（90 分）

関連科目　ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excel を用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	Excel を用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、Excel の演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。1 回目～10 回目は教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。11 回目以降は教科書は不要である。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 表計算（ビジネス情報処理Ⅰの復習）	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（１）	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（２）	様々な関数を使ったデータ処理 データの並び替え、ランキング	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（３）	データの抽出、検索と置換	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算（４）	ピボットテーブル クロス集計表、分割表の作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる（30 分）
6	データ分析（１）	データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い） データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する（30 分）
7	データ分析（２）	相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）、相関係数行列	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 相関、相関係数について予習する（30 分）
8	データ分析（３）	回帰分析の方法	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 回帰分析について予習する（30 分）
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる（30 分）
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
11	ビジュアルプログラミング（１）	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） Scratch について調べる（30 分）
12	ビジュアルプログラミング（２）	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
13	ビジュアルプログラミング（３）	変数、イベントの処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
14	ビジュアルプログラミング（４）	オリジナル作品の制作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、確認テスト（50%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金　政芸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excel を用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	Excel を用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、Excel の演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。1 回目～10 回目は教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。11 回目以降は教科書は不要である。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 表計算(ビジネス情報処理Ⅰの復習)	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（1）	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（2）	様々な関数を使ったデータ処理 データの並び替え、ランキング	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（3）	データの抽出、検索と置換	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算（4）	ピボットテーブル クロス集計表、分割表の作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる（30 分）
6	データ分析（1）	データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する（30 分）
7	データ分析（2）	相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)、相関係数行列	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 相関、相関係数について予習する（30 分）
8	データ分析（3）	回帰分析の方法	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 回帰分析について予習する（30 分）
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる（30 分）
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
11	ビジュアルプログラミング（1）	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） Scratch について調べる（30 分）
12	ビジュアルプログラミング（2）	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
13	ビジュアルプログラミング（3）	変数、イベントの処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
14	ビジュアルプログラミング（4）	オリジナル作品の制作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、確認テスト（50%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　共同研究室　(5)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excel を用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	Excel を用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、Excel の演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。1 回目～10 回目は教科書の持参が必要であるが、補助教材の配付や、課題の提出に Moodle を使用する。11 回目以降は教科書は不要である。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 表計算（ビジネス情報処理Ⅰの復習）	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（１）	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（２）	様々な関数を使ったデータ処理 データの並び替え、ランキング	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（３）	データの抽出、検索と置換	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算（４）	ピボットテーブル クロス集計表、分割表の作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる（30 分）
6	データ分析（１）	データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い） データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する（30 分）
7	データ分析（２）	相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）、相関係数行列	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 相関、相関係数について予習する（30 分）
8	データ分析（３）	回帰分析の方法	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 回帰分析について予習する（30 分）
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる（30 分）
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
11	ビジュアルプログラミング（１）	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） Scratch について調べる（30 分）
12	ビジュアルプログラミング（２）	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
13	ビジュアルプログラミング（３）	変数、イベントの処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
14	ビジュアルプログラミング（４）	オリジナル作品の制作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、確認テスト（50%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	企業社会で活躍・貢献できる幅広い教養をもつビジネス・パーソンとしてのスキルを身につけるため、コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を修得する。 本科目では、Excel を用いたデータ処理とデータ分析の基礎となる演習を通して、ビジネスの場面で求められる情報・データの活用を通した表現力を身につけることを目指す。 また、プログラミングの入門部分の演習を通して、論理的思考を身につけることを目指す。
到達目標	Excel を用いた表計算の応用的な使い方から実践に活用できるデータ分析、プログラミング入門の知識と技術を修得することができる。知的専門職業人として活躍するための基盤となる、コンピュータを目的に応じて利用できる基礎的な知識と技術を修得することができる。（ＤＰ２） 本授業では、Excel の演習を通して、実践的技能を修得し、ビジュアルプログラミングを通して論理的思考の手続きを理解することができる。
授業方法と留意点	授業は、パソコンによる課題作成を通した演習が中心となる。授業は、教科書に沿った説明と演習で構成する。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、習熟度にはかなりの個人差があるので、授業時間外の予・復習等、主体的な学修が求められる。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 表計算（ビジネス情報処理Ⅰの復習）	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集、データの集計（和、平均）	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（１）	様々な関数の利用、相対参照と絶対参照	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（２）	様々な関数を使ったデータ処理 データの並び替え、ランキング	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（３）	データの抽出、検索と置換	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算（４）	ピボットテーブル クロス集計表、分割表の作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） ピボットテーブルを使ってどのような集計が可能か調べる（30 分）
6	データ分析（１）	データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い） データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 代表値、度数分布、ヒストグラムについて予習する（30 分）
7	データ分析（２）	相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）、相関係数行列	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 相関、相関係数について予習する（30 分）
8	データ分析（３）	回帰分析の方法	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 回帰分析について予習する（30 分）
9	データ分析応用	統計データを使った分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） 総務省統計局のサイトにどのようなデータがあるか調べる（30 分）
10	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
11	ビジュアルプログラミング（１）	言語の概要と特徴、プログラミング環境	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） Scratch について調べる（30 分）
12	ビジュアルプログラミング（２）	繰り返し、分岐を使った処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
13	ビジュアルプログラミング（３）	変数、イベントの処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
14	ビジュアルプログラミング（４）	オリジナル作品の制作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） 前回授業の振り返り（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス入門、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2021 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中の演習課題（50%）、確認テスト（50%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、単位修得には８割以上の課題提出が必要となります。
学生への メッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	ＩＣＴビジネス入門	科目名（英文）	Introduction to ICT Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICT の効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援する ICT の役割と位置づけを理解する（DP２）。 インターネットを中心とする ICT の利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見する。 ICT の役割と組織・個人との関係について自分の『気づき』を表現し、自ら発信できる。
授業方法と留意点	授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。 適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。 民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する ICT 関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、ICT（情報通信技術）、Society 5.0 とは何か	シラバスの確認（１０分） 配布資料の指定頁の予復習（３０分）
2	コンピュータと情報化社会	データと情報、コンピュータの歴史と仕組み	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
3	ハードウェアとソフトウェア	ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
4	ハードウェアとソフトウェア２	ソフトウェアの台頭、プラットフォーマーの誕生	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
5	コンピュータの未来	コンピュータとデータ通信技術の進化と未来	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
6	e-commerce（電子商取引）	流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI 利活用事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
7	顧客インターフェースの ICT	フロントオフィス（Front Office）、バックオフィス（Back Office）、サービス業（金融、観光等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
8	仲介機能の ICT	ミドルオフィス（Middle Office）、ソフトウェア・エージェント、流通業（小売り、物流等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
9	AI（人工知能）が変える社会	AI の歴史と種類（特化型 AI と汎用 AI）、データ・AI 活用領域の広がり	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
10	クラウドコンピューティングと IoT	クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業の ICT 事例（Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart 等） ・グループワーク・発表	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
11	シェアリングエコノミー	AI 等を活用した新しいビジネスモデルとその影響	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
12	ビッグデータ	ビッグデータを取り巻く ICT の進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
13	オープンデータ	オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
14	ICT とマネジメント	社会や企業が求める人材、ICT を用いた問題解決のプロセス、実践	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
15	まとめ	総括	授業内容の見直し（９０分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートの提出（40%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。
学生へのメッセージ	教科書は使用しません。教員作成のスライドを使用します。 欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の研究室等	11 号館７階　梅原講師室
備考	初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。

科目名	ＩＣＴビジネス入門	科目名（英文）	Introduction to ICT Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＨＪＫＬＭＮＯ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICT の効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援する ICT の役割と位置づけを理解する（DP２）。 インターネットを中心とする ICT の利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見する。 ICT の役割と組織・個人との関係について自分の『気づき』を表現し、自ら発信できる。
授業方法と留意点	授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。 適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。 民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する ICT 関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、ICT（情報通信技術）とは何か	シラバスの確認（１０分） 配布資料の予復習（３０分）
2	コンピュータと情報化社会	データと情報、コンピュータの歴史と仕組み、第４次産業革命、Society 5.0	配布資料の予復習（４０分）
3	ハードウェアとソフトウェア	ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類（構造化データ、非構造化データ）	配布資料の予復習（４０分）
4	ハードウェアとソフトウェア２	ソフトウェアの台頭、プラットフォーマーの誕生	配布資料の予復習（４０分）
5	コンピュータの未来	コンピュータとデータ通信技術の進化と未来、AI の進化	配布資料の予復習（４０分）
6	e-commerce（電子商取引）	B2C（Business to Consumer）企業対消費者間の取引、B2B（Business to Business）企業対企業間の取引	配布資料の予復習（４０分）
7	顧客インターフェースの ICT	フロントオフィス（Front Office）、バックオフィス（Back Office）、サービス業（金融、観光等）情報化	配布資料の予復習（４０分）
8	仲介機能の ICT	ミドルオフィス（Middle Office）、ソフトウェア・エージェント、流通業（小売り、物流等）情報化	配布資料の予復習（４０分）
9	AI（人工知能）が変える社会	人工知能の歴史と種類、ディープラーニング、AI を活用した新しいビジネスモデル	配布資料の予復習（４０分）
10	クラウドコンピューティングと IoT	クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業の ICT 事例（Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart 等） ・グループワーク・発表	配布資料の予復習（４０分）
11	シェアリングエコノミー	経済効果、既存産業や市場に与える影響、サービス事例	配布資料の予復習（４０分）
12	ビッグデータ	ビッグデータを取り巻く ICT の進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、	配布資料の予復習（４０分）
13	オープンデータ	オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介	配布資料の予復習（４０分）
14	ICT とマネジメント	社会や企業が求める人材、ICT を用いた問題解決のプロセス、実践	配布資料の予復習（４０分）
15	まとめ	総括	授業内容の見直し（９０分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートの提出（40%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。
学生へのメッセージ	教科書は使用しません。教員作成のスライドを使用します。 欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の	

研究室等	
備考	初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。

科目名	ＩＣＴビジネス入門	科目名（英文）	Introduction to ICT Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどのような社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICT の効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どのような価値創造が可能になるかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援する ICT の役割と位置づけを理解する（DP２）。 インターネットを中心とする ICT の利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見する。 ICT の役割と組織・個人との関係について自分の『気づき』を表現し、自ら発信できる。
授業方法と留意点	授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。 適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを取り上げる。 民間企業の経営者を招いて講演を行う場合もある。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する ICT 関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、ICT（情報通信技術）、Society 5.0 とは何か	シラバスの確認（１０分） 配布資料の指定頁の予復習（３０分）
2	コンピュータと情報化社会	データと情報、コンピュータの歴史と仕組み	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
3	ハードウェアとソフトウェア	ハードウェアとソフトウェアの種類と役割、データの種類	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
4	ハードウェアとソフトウェア２	ソフトウェアの台頭、プラットフォーマーの誕生	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
5	コンピュータの未来	コンピュータとデータ通信技術の進化と未来	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
6	e-commerce（電子商取引）	流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI 利活用事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
7	顧客インターフェースの ICT	フロントオフィス（Front Office）、バックオフィス（Back Office）、サービス業（金融、観光等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
8	仲介機能の ICT	ミドルオフィス（Middle Office）、ソフトウェア・エージェント、流通業（小売り、物流等）情報化	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
9	AI（人工知能）が変える社会	AI の歴史と種類（特化型 AI と汎用 AI）、データ・AI 活用領域の広がり	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
10	クラウドコンピューティングと IoT	クラウドコンピューティングサービス、グローバル企業の ICT 事例（Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart 等） ・グループワーク・発表	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
11	シェアリングエコノミー	AI 等を活用した新しいビジネスモデルとその影響	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
12	ビッグデータ	ビッグデータを取り巻く ICT の進展、ビッグデータの質的側面、量的側面、	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
13	オープンデータ	オープンデータの意義と目的、日本と世界の相違点、事例紹介	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
14	ICT とマネジメント	社会や企業が求める人材、ICT を用いた問題解決のプロセス、実践	配布資料の指定頁の予復習（４０分）
15	まとめ	総括	授業内容の見直し（９０分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートの提出（40%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。
学生へのメッセージ	教科書は使用しません。教員作成のスライドを使用します。 欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。 友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の研究室等	11 号館７階　梅原講師室
備考	初回の授業ガイダンスでは、シラバス説明、成績評価基準の説明を説明するので、必ず出席すること。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得する(DP２)。
授業方法と留意点	この授業では、ICT を活用しながら講義とワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、ワークで課題を発見する。更に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。また、情報倫理についての理解度を確認するまとめのテストを実施する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・授業方法 ・情報倫理の概要 ・グラフィックレコーディング手法	事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
2	情報セキュリティとサイバー犯罪	・不正アクセス・なりすまし ・情報の改ざん ・機密性、完全性、可用性 ・クラウドサービスのリスク ・ネットウィルス・マルウェア ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
3	事例研究(1)	・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
4	ソーシャルメディアと情報	・ネット時代のコミュニケーション ・ブログ・SNS・電子メール ・拡散と炎上 ・ネット依存・誹謗・中傷 ・ソーシャルゲーム ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
5	事例研究(2)	・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
6	個人情報管理とプライバシー保護	・個人情報の漏えい ・個人情報保護 ・プライバシー侵害 ・忘れられる権利 ・組織と個人の守秘義務 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
7	事例研究(3)	・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
8	理解の確認テストと質疑応答	・理解の確認テスト ・質疑応答	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
9	E-commerce（電子商取引）とセキュリティ	・電子決済・取引 ・個人情報のためのネット認証 ・ネット広告 ・ネットオークション・ショッピング ・売買トラブル（悪徳商法・詐欺） ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
10	事例研究(4)	・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
11	知的財産権と著作権	・知的財産の侵害 ・データの捏造、改ざん、盗用 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・マルチメディアコンテンツの複製 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
12	事例研究(5)	・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
13	コンプライアンスと法令遵守、企業倫理 事例研究(6)	・ネット炎上対策 ・企業における情報倫理 ・IT システムと企業倫理 ・課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（討論・まとめ）	事前学習：要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
14	理解の確認テストと質疑応答	・理解の確認テスト ・質疑応答	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
15	授業のまとめ	・総括 ・振り返り	事前学習：これまでの授業の復習（2 時間） 事後学習：なし

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	超スマート社会を生きるための情報のセキュリティ	佐藤 万寿美、高橋 参吉、坂井 貴	実教出版

		と倫理	行、橋本 正隆、長谷川 友彦、村山 佳之、高野 将弘	
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3			

評価方法 （基準）	この授業はレポート課題 80%、理解の確認テスト 20%で評価する。
学生への メッセージ	毎回の課題を期日までに必ず提出すること。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＨＪＫＬＭＮＯ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的

社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、ChatGPT といった AI を初め情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。

その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。

こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。

また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収拾能力、情報精査能力を身につけてもらう。

到達目標

インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。(DP2)

授業方法と留意点

この講義では、９０分を前後半のパートで構成する。前半約３０分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半６０分はインターネットを活用した情報収拾をしてレポートを作成してもらう。全１５回の講義のなかでは、２回程度の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。本講義の授業テーマは、初回アンケートによる興味対象、社会情勢を元に内容や順序を変更するため、授業計画通りには進行しない可能がある。

各回ごとに講義の配布資料（pdf ファイル）を配布するため、教科書の購入は必須ではない。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
3	ソーシャルメディアと情報２	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
4	個人情報管理とプライバシー保護１	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
5	個人情報管理とプライバシー保護２	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
6	個人情報管理とプライバシー保護３	・E-commerce（電子商取引） ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
7	確認テスト	・前半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
9	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
10	科学技術と情報倫理･知的財産権２	エセ科学／未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
12	最新時事問題１	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
13	最新時事問題２	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
14	確認テスト	・後半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目

情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法（基準）

平常点（出席態度、レポート課題）60%、確認テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。　そのため、本講義では講義中に喋ったり、席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的

社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、ChatGPT といった AI を初め情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。

その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。

こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。

また、毎回のレポート作成を通し、現代社会で必須スキルである情報収拾能力、情報精査能力を身につけてもらう。

到達目標

インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。(DP2)

授業方法と留意点

この講義では、９０分を前後半のパートで構成する。前半約３０分は、各テーマに関する倫理観、法律、事例紹介、防止・対応策を座学形式で行い、後半６０分はインターネットを活用した情報収拾をしてレポートを作成してもらう。全１５回の講義のなかでは、２回程度の確認テストを実施し、情報倫理についての理解度を確認する。本講義の授業テーマは、初回アンケートによる興味対象、社会情勢を元に内容や順序を変更するため、授業計画通りには進行しない可能がある。

各回ごとに講義の配布資料（pdf ファイル）を配布するため、教科書の購入は必須ではない。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・イントロダクション ・情報倫理の必要性	事前学習：なし 事後学習：なし
2	ソーシャルメディアと情報	・ソーシャルネットワーク ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
3	ソーシャルメディアと情報２	・ソーシャルゲーム ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
4	個人情報管理とプライバシー保護１	・プライバシー ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
5	個人情報管理とプライバシー保護２	・情報セキュリティ ・サイバー犯罪 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
6	個人情報管理とプライバシー保護３	・E-commerce（電子商取引） ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
7	確認テスト	・前半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
8	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
9	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
10	科学技術と情報倫理･知的財産権２	エセ科学／未科学 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
11	情報倫理	・総括 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
12	最新時事問題１	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
13	最新時事問題２	・最新の話題を紹介 ・レポート課題	事前学習：前回の復習（10 分） 事後学習：レポート作成（30 分程度）
14	確認テスト	・後半総括 ・確認テスト	事前学習：前回の復習（30 分） 事後学習：なし
15	フォローアップ	・テスト解説 ・フォローアップ	事前学習：なし 事後学習：なし

関連科目

情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)

評価方法（基準）

平常点（出席態度、レポート課題）60%、確認テスト 40%を踏まえて総合的に評価する。

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	講義の後半パート、レポート作成中は他の学生との積極的な意見交換や議論を推奨する。　そのため、本講義では講義中に喋ったり、席を離れ自由に出歩いても構わない。

科目名	情報と職業	科目名（英文）	Information and Career
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1007a0		

授業概要・目的	情報と職業の関係について、国の政策、企業の戦略、個人の職業観の変化などの視点をもとに学修する。情報技術を専門とする職業だけでなく、一般的な職業において、情報通信技術がいかに活用されているのか、導入する際に考慮すべき点などについて考える。そして、情報化の進展に伴うビジネス構造の変化、変化しつつある人間の役割の変化について考え、情報化社会における情報と職業の関係を見直す。
到達目標	社会において、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術の活用が不可欠となっている。これまでとは異なる新たなビジネスが登場し、ビジネスの構造も変化してきている。そのため、情報処理技術を用いて情報・データを収集・分析し、論理的思考のもとに様々な問題に対応する力が求められている。そこで、情報通信技術の進展が、社会にどのような影響を及ぼしているのか、ビジネスの構造がどのように変化しているのかについて理解する。また、職業観や仕事に対する価値観の変化、社会で求められる職務能力、職業倫理や社会的責任について知り
授業方法と留意点	授業は、前半を講義形式、後半を個人授業課題または、グループワークにて実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、グループワークは、ディスカッションやプレゼンテーションの課題を指示する。また、実際に情報を活用したビジネスを考案し、コンテストへの申請も検討します。
科目学習の効果（資格）	・情報と職業に関係する課題や業界・企業等への関心を高め、より容易に理解できる。 ・情報と職業に関する理解を深め、関連したニュースの基礎的な思考力・判断力が養成できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と役割	・シラバスの確認（１５分） ・配布資料の予復習（１時間）
2	情報化社会の進展とビジネス人材の変化	情報化社会のビジネス人材の要件、ビジネス人材に期待されるスキル	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
3	経営資源としての情報	経営資源としての情報の収集、分析、活用のプロセス	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
4	企業における情報の活用（1）	製造業における情報化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
5	企業における情報の活用（2）	小売業における情報化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
6	企業における情報の活用（3）	流通業における情報化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
7	企業における情報の活用（4）	その他の業種における情報化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
8	インターネットビジネス	インターネットの進展、インターネットによる新たなビジネスモデル	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
9	情報産業の発展と社会的責任	情報通信技術を活用する企業の社会的責任	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
10	情報化社会におけるリスクマネジメント（1）	情報化社会における犯罪、職業人としての情報倫理	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
11	情報化社会におけるリスクマネジメント（2）	企業の情報セキュリティ、リスク管理とその手法	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
12	情報化社会における職業観や価値観の変化	情報化社会の進展に伴う職業観、価値観の変化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
13	人間と情報システムの関わり（1）	仕事の量・質の変化、人間とシステムの関係、企業内の情報化と求められる資質・職務能力の変化	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
14	人間と情報システムの関わり（2）	AI／サービスロボットの浸透に伴う人材市場の動向、ヒトとシステムの共創モデル	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
15	まとめ	総括	・授業内容の見直し（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	情報と職業	駒谷昇一、辰己丈夫	オーム社
2	超 AI 入門—ディープラーニングはどこまで進化するのか	松尾豊	NHK 出版
3	コンピュータが仕事を奪う	新井紀子	日本経済新聞出版社

評価方法（基準）	受講姿勢（５０％）と小レポート（５０％）をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階（梅原研究室）
備考	

科目名	マーケティング入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1009a0		

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。知的専門職業人として活躍するため必要なマーケティングの視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。 中小企業等の組織におけるマネジメントのコンサルティングの実践経験から、製品開発や販売など実践事例を紹介しながら解説を行う。
到達目標	１）マーケティング論の基礎的な知識を習得する。(DP２) ２）マーケティング論的な視点で物事をとらえ問題を発見できるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	講義が中心だが、学生同士で議論をし、発表する機会もある。 教科書にそって授業は進めるが、毎回、プリントを用意する。また小テスト等を行う。授業中、練習問題を考察・検討・発表してもらう。
科目学習の効果（資格）	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング活動を身近に理解できるようになる。マーケティング論的発想ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティングの本質とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
2	マーケティングの４P	マーケティングを考えるときの基本となる４Pについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
4	顧客満足とは	顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する（1時間)。 【事後学習】 次回の中間テストに備える（1時間）
7	中間テスト 製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
8	ブランドとは	ブランドの意義を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
9	ブランドのマネジメント	強いブランドを構築するための戦略について考える	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
10	流通チャネルとマネジメント	製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割とマネジメント方法について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
11	営業とは	日本特有の人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
12	価格設定とマネジメント	価格設定の基本的考え方と価格戦略について学ぶ。	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
13	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1時間）
14	サービス･マーケティングとソーシャルマーケティング	サービス・マーケティングとソーシャル･マーケティングの基本的な考え方について学ぶ	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1時間) 【事後学習】 学習した内容を復習する（1時間）
15	総括	これまで学んだことの総チェックをおこなう。	【事前学習】 教科書等をよみこれまで学習した内容について復習する。（３時間） 【事後学習】 総チェックした結果をふりかえる（２時間）

関連科目	経営学、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論、 マーケティング演習などマーケティングコース科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング【第２版】	恩蔵直人	日経文庫
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティングをつかむ【新版】	黒岩健一郎	有斐閣
2	１からのマーケティング【第４版】	石井淳蔵他	碩学舎
3			

評価方法 （基準）	講義内課題の提出と小テストで 50%、総まとめテストで 50%
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかを関心を持って講義に臨んでもらいたい。 教科書は必ず購入すること。
担当者の 研究室等	１１号館７階　鶴坂教授室
備考	

科目名	マーケティング入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1009a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティングの基本的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。 つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「モノ」だけではなく「サービス」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。(DP2) ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較・分析することができる。
授業方法と留意点	・講義に加え、新製品に関するニュースを題材に議論も予定しています。 ・企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 ・詳細は、Microsoft Teams に掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティングの本質とは	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
2	マーケティングの４P	マーケティングを考えるときの基本となる４P について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
4	顧客満足とは	顧客満足とは何か。満足を得るための組織とはどのようなものかを考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する（1 時間)。 【事後学習】 次回の中間テストに備える（1 時間）
7	中間テスト 製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 次回の小テストに備える
8	ブランドとは	ブランドの意義を考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
9	ブランドのマネジメント	強いブランドを構築するための戦略について考える	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
10	流通チャネルとは	製品を顧客が手にするまでの流通チャネルの果たす役割について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
11	流通チャネルのマネジメント	流通チャネルをいかにコントロールしていくのかなど戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
12	営業とは	人的販売である営業の果たす役割や、理想の営業とは何かを考える。	【【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
13	価格設定の考え方	価格設定の基本的な考え方を学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
14	価格のマネジメント	価格に関する戦略について学ぶ。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 次回の小テストに備える（1 時間）
15	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 【事後学習】 これまでの復習をし期末テストに備える（６時間）

関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング戦略論、リテール・マーケティング、消費者行動論等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日経文庫
2	マーケティングの力	恩蔵直人・坂下玄哲	有斐閣
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（発表等）４０％ 最終レポート６０％
学生への メッセージ	新製品や新しいサービスに関する情報を自ら取得するように心がけてください。
担当者の 研究室等	田中研究室　１１号館８階
備考	教科書については第１回目の授業時に説明致します。 各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。 Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	消費者心理学	科目名（英文）	Consumer Psychology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	消費者心理やマーケティングに関連する心理について解説していきます。 現代社会における消費者心理と行動を解説していく。 経営における消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。 消費者心理における多様な諸問題に関心を寄せ、それらの問題に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。 SDGs-8,9,12
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して，多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。経営に役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。 ビジネスに役立つ実践能力を身に着けることができる。 問題発見能力、問題解決能力を身につける(DP2)。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自，ノートやメモを必ず取ること。 授業中にディスカッションやグループワークを行う(コロナが完全に終息していた場合)。 第１回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 毎回授業内で課題が出るので、回答すること。 ディスカッションやグループワークなどのアクティブ・ラーニングの要素を取り入れているので、積極的かつ主体的に課題に取り組むこと(コロナが完全に終息していた場合)。
科目学習の効果（資格）	経営における消費者の心理と行動を理解することができる。マーケティングに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 消費者心理学の位置づけ	授業内容，授業方法について説明します。 消費者心理学とは？ 授業課題の提出方法と授業内テストの解答方法の説明	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費者心理とはどんな心理学だったかまとめておくこと(1 時間)
2	経営と消費者心理学	授業の受け方、課題の提出の仕方 消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：経営と心理について考えてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(1 時間)
3	消費者心理学におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(1 時間)
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(1 時間)
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(1 時間)
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1 時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(1 時間)
7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(1 時間)
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション/1～8 回のまとめ	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？/中間テストの実施と解説	事前学習課題：インターネットの発展について、1990 年代から調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(1 時間)
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(1 時間)
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビ CM の歴史について調べること(1 時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(1 時間)
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業 CM について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(1 時間)
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(1 時間)
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておく(1 時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について

				具体例を含めてまとめておくこと(1 時間)
	14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題：接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1 時間) 事後学習課題：接客サービスの効果と問題点についてまとめておくこと(1 時間)
	15	消費者心理学と消費行動の今後/ 9～15 回のまとめ	消費者はこれからどのような商品，サービスを選んでいくのか？/期末テストの実施と解説	事前学習課題：今後求められるサービスについて、プランを練ってくること(1 時間) 事後学習課題：経営における消費者心理の役割について総復習を行うこと(1 時間)

関連科目	「心理学Ⅰ、心理学Ⅱ」と関連する。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者心理学	山田一成・池内裕美	勁草書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の累積(10%)、中間テスト(40%)と期末テスト(50%)の合計で，総合的に判断する。 締切以降の小テストの受験、授業課題の提出はいっさい認めません。
学生への メッセージ	皆さんの身の回りの購買行動の中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょう？なぜ，そのサービスを選んだのでしょう？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて，消費者心理の具体例を交えながら，解説していきます。 他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。遅刻(10 分まで)などは減点の対象となります。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。スマホなどの使用に対しては退室してもらうことがあります。遅刻(10 分まで)は減点の対象となります。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 1 時間以上かけること。

科目名	消費者心理学	科目名（英文）	Consumer Psychology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	消費者心理やマーケティングに関連する心理について解説していきます。 現代社会における消費者心理と行動を解説していく。 経営における消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。 消費者心理における多様な諸問題に関心を寄せ、それらの問題に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。 SDGs-8,9,12
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して，多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。経営に役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。 ビジネスに役立つ実践能力を身に着けることができる。 問題発見能力、問題解決能力を身につける(DP2)。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自，ノートやメモを必ず取ること。 授業中にディスカッションやグループワークを行う(コロナが完全に終息していた場合)。 第１回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 毎回授業内で課題が出るので、回答すること。 ディスカッションやグループワークなどのアクティブ・ラーニングの要素を取り入れているので、積極的かつ主体的に課題に取り組むこと(コロナが完全に終息していた場合)。
科目学習の効果（資格）	経営における消費者の心理と行動を理解することができる。マーケティングに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 消費者心理学の位置づけ	授業内容，授業方法について説明します。 消費者心理学とは？ 授業課題の提出方法と授業内テストの解答方法の説明	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費者心理とはどんな心理学だったかまとめておくこと(1 時間)
2	経営と消費者心理学	授業の受け方、課題の提出の仕方 消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：経営と心理について考えてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(1 時間)
3	消費者心理学におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(1 時間)
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(1 時間)
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(1 時間)
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1 時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(1 時間)
7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(1 時間)
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション/1～8 回のまとめ	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？/中間テストの実施と解説	事前学習課題：インターネットの発展について、1990 年代から調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(1 時間)
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(1 時間)
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビ CM の歴史について調べること(1 時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(1 時間)
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業 CM について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(1 時間)
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(1 時間)
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておく(1 時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について

				具体例を含めてまとめておくこと(1 時間)
	14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題：接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1 時間) 事後学習課題：接客サービスの効果と問題点についてまとめておくこと(1 時間)
	15	消費者心理学と消費行動の今後/ 9～15 回のまとめ	消費者はこれからどのような商品，サービスを選んでいくのか？/期末テストの実施と解説	事前学習課題：今後求められるサービスについて、プランを練ってくること(1 時間) 事後学習課題：経営における消費者心理の役割について総復習を行うこと(1 時間)

関連科目	「心理学Ⅰ、心理学Ⅱ」と関連する。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者心理学	山田一成・池内裕美	勁草書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の累積(10%)、中間テスト(40%)と期末テスト(50%)の合計で，総合的に判断する。 締切以降の小テストの受験、授業課題の提出はいっさい認めません。
学生への メッセージ	皆さんの身の回りの購買行動の中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょう？なぜ，そのサービスを選んだのでしょう？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて，消費者心理の具体例を交えながら，解説していきます。 他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。遅刻(10 分まで)などは減点の対象となります。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。スマホなどの使用に対しては退室してもらうことがあります。遅刻(10 分まで)は減点の対象となります。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 1 時間以上かけること。

科目名	財務諸表論入門	科目名（英文）	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1012a0		

授業概要・目的	会計とは，特定の組織による経済活動を貨幣額で記録して計算し，その結果を報告するシステムである。このシステムを通じて作成された会計情報が，社会にとってどのような役割を果たすのかを意識して，財務諸表の基本的な作成ルールとその背景にある考え方を学習する。
到達目標	①企業が開示する情報を理解する。 ③財務諸表の基本的な作成ルールを，その背後にある考え方を意識して学習することによって，体系的に物事を捉える能力を培う。 ②社会における会計情報の役割を理解する。
授業方法と留意点	講義資料等は Moodle 上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験する際の基礎となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の説明	事前：シラバスの確認(30 分) 事後：講義資料の復習(30 分)
2	企業活動の会計 1	資金調達活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
3	企業活動の会計 2	資金投下活動の会計，営業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
4	会計公準	会計公準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
5	企業会計原則	企業会計原則についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
6	現金主義会計と発生主義会計	認識と測定についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
7	ディスクロージャー制度	企業に対する開示規制についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備(90 分) 事後：試験の復習(30 分)
9	会計基準	会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
10	収益認識会計	収益認識の会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
11	財務諸表の内容 1	損益計算書，貸借対照表についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
12	財務諸表の内容 2	株主資本等変動計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
13	財務諸表の内容 3	キャッシュフロー計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
14	財務諸表分析入門	収益性の説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
15	講義の振り返りとまとめテスト	講義の振り返りとまとめテスト	事前：テストの準備(90 分) 事後：テストの復習(30 分)

関連科目：商業簿記，財務会計論，連結会計論，会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計・入門[第 14 版]	桜井久勝・須田一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計論	梅原秀継	白桃書房
3	実証会計・ファイナンス　R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社

評価方法（基準）	確認テスト(20%)，中間試験(40%)，まとめテスト(40%)で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	財務諸表論入門	科目名（英文）	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1012a0		

授業概要・目的	会計とは，特定の組織による経済活動を貨幣額で記録して計算し，その結果を報告するシステムである。このシステムを通じて作成された会計情報が，社会にとってどのような役割を果たすのかを意識して，財務諸表の基本的な作成ルールとその背景にある考え方を学習する。
到達目標	①企業が開示する情報を理解する。 ③財務諸表の基本的な作成ルールを，その背後にある考え方を意識して学習することによって，体系的に物事を捉える能力を培う。 ②社会における会計情報の役割を理解する。
授業方法と留意点	講義資料等は Moodle 上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験する際の基礎となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要の説明	事前：シラバスの確認(30 分) 事後：講義資料の復習(30 分)
2	企業活動の会計 1	資金調達活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
3	企業活動の会計 2	資金投下活動の会計，営業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
4	会計公準	会計公準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
5	企業会計原則	企業会計原則についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
6	現金主義会計と発生主義会計	認識と測定についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
7	ディスクロージャー制度	企業に対する開示規制についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備(90 分) 事後：試験の復習(30 分)
9	会計基準	会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
10	収益認識会計	収益認識の会計基準についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
11	財務諸表の内容 1	損益計算書，貸借対照表についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
12	財務諸表の内容 2	株主資本等変動計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
13	財務諸表の内容 3	キャッシュフロー計算書についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
14	財務諸表分析入門	収益性の説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
15	講義の振り返りとまとめテスト	講義の振り返りとまとめテスト	事前：テストの準備(90 分) 事後：テストの復習(30 分)

関連科目：商業簿記，財務会計論，連結会計論，会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計・入門[第 14 版]	桜井久勝・須田一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計論	梅原秀継	白桃書房
3	実証会計・ファイナンス　R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社

評価方法（基準）	確認テスト(20%)，中間試験(40%)，まとめテスト(40%)で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	本講義では経済に関する基礎的専門知識を学んでいただきます。大まかに言えば、財やサービスを生産し、売ったり買ったりして、儲けたり消費したりすることを経済と言います。例えば皆さんも通学には電車やバスという交通サービスを購入（消費）し、学食の定食にもお金を払って定食という財を消費しています。また、そのお金は皆さんのお父さん、お母さん、ないしは皆さんが自らの労働力を仕事先（バイト先）に売って入手しています。一方、電車やバス、学食や定食はある日忽然と現れたわけではなく、原材料の生産・販売や運転手さんや食堂の方々の労働を経て、私たちの手元に届いていている。そして不思議なことに多少差異はあれど、私たちは、まあまあ満足できる生活をしているわけです。それだけ経済は、私たちのごく身近にある不思議な現象なのです。 問題は、経済を通して私たちの生活が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということです。例えば 10 年以上前に太平洋を挟んだアメリカ合衆国の住宅ローン市場に問題が発生し、これが原因で多くの先輩達が就職に難儀しました。また、コロナ感染症後の世界はどうなるのか、これも私たちの経済活動題と直結します。したがって、私たちは経済を積極的に理解し、自力で判断するための基礎的専門知識が必要なのです。もちろん、経営学を専攻するためにも必須な知識です。 本講義では基礎的ながらも経済に関する重要な専門知識を学生の理解度を重視しながら進める予定です。また現実の経済の動きを知るために必要に応じて政府、日銀などの資料を紹介し、解説します。
到達目標	１．経済に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP２) ２．経済問題を初歩的ながら読み解くことができるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	１．講義は対面式で進めます。ただし、事情を鑑みオンライン式に切り替える場合もあります。 ２．毎回の構成は、①事前学習（予習）、②対面式で受講、③事後学習（復習と小テスト）です。 事後学習の小テストは Moodle で行います。 ３．資料の配布は Moodle で行います。 ４．漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teams のチャネル「質問箱」に書き込んでも結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	事前：特になし、事後：復習と小テスト
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	事前：教科書（第１章、pp.19-32）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	事前：教科書（第２章、pp.33-48）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	事前：教科書（第３章、pp.49-64）と配布資料による予習、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	事前：教科書（第４章、pp.65-81）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	事前：教科書（第５章、pp.83-98）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	事前：教科書（第 6 章、pp.99-113）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	これまでの内容について復習し受験のこと。
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	事前：教科書（第７章、pp.115-132）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰについて解説する。	事前：教科書（第 8,9 章、pp.137-163）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰの重要な構成要素である消費と投資について解説する。	事前：教科書（第 10 章、pp.165-178）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	事前：教科書（第 11 章、pp.179-194）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	事前：教科書（第 12 章、pp.195-212）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	事前：教科書（第 13 章、pp.213-227）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	事前：教科書（第 14 章、pp.229-244）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	１．事後学習小テスト(40%)+期中試験(30%)+全講義終了後の試験(30%)で評価します。 ２．単位取得には２試験双方の受験が必須です。小テスト・試験はMoodleやFormsで実施します。 ３．事前・事後学習小テストへのアクセスに必要なURLやパスワードは各回教室で掲示します。 ４．学習意欲（注意：出席率ではありません）の顕著な学生には加点します。 ５．評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。
学生への メッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢で臨んでください。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
担当者の 研究室等	１１号館７階(杉本研究室)
備考	学習小テストや中間試験の解説は講義中に行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	本講義では経済に関する基礎的専門知識を学んでいただきます。大まかに言えば、財やサービスを生産し、売ったり買ったりして、儲けたり消費したりすることを経済と言います。例えば皆さんも通学には電車やバスという交通サービスを購入（消費）し、学食の定食にもお金を払って定食という財を消費しています。また、そのお金は皆さんのお父さん、お母さん、ないしは皆さんが自らの労働力を仕事先（バイト先）に売って入手しています。一方、電車やバス、学食や定食はある日忽然と現れたわけではなく、原材料の生産・販売や運転手さんや食堂の方々の労働を経て、私たちの手元に届いていている。そして不思議なことに多少差異はあれど、私たちは、まあまあ満足できる生活をしているわけです。それだけ経済は、私たちのごく身近にある不思議な現象なのです。 問題は、経済を通して私たちの生活が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということです。例えば 10 年以上前に太平洋を挟んだアメリカ合衆国の住宅ローン市場に問題が発生し、これが原因で多くの先輩達が就職に難儀しました。また、コロナ感染症後の世界はどうなるのか、これも私たちの経済活動題と直結します。したがって、私たちは経済を積極的に理解し、自力で判断するための基礎的専門知識が必要なのです。もちろん、経営学を専攻するためにも必須な知識です。 本講義では基礎的ながらも経済に関する重要な専門知識を学生の理解度を重視しながら進める予定です。また現実の経済の動きを知るために必要に応じて政府、日銀などの資料を紹介し、解説します。
到達目標	１．経済に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP２) ２．経済問題を初歩的ながら読み解くことができるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	１．講義は対面式で進めます。ただし、事情を鑑みオンライン式に切り替える場合もあります。 ２．毎回の構成は、①事前学習（予習）、②対面式で受講、③事後学習（復習と小テスト）です。 事後学習の小テストは Moodle で行います。 ３．資料の配布は Moodle で行います。 ４．漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teams のチャネル「質問箱」に書き込んでも結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	事前：特になし、事後：復習と小テスト
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	事前：教科書（第１章、pp.19-32）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	事前：教科書（第２章、pp.33-48）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	事前：教科書（第３章、pp.49-64）と配布資料による予習、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	事前：教科書（第４章、pp.65-81）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	事前：教科書（第５章、pp.83-98）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	事前：教科書（第 6 章、pp.99-113）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	これまでの内容について復習し受験のこと。
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	事前：教科書（第７章、pp.115-132）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰについて解説する。	事前：教科書（第 8,9 章、pp.137-163）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰの重要な構成要素である消費と投資について解説する。	事前：教科書（第 10 章、pp.165-178）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	事前：教科書（第 11 章、pp.179-194）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計 1.5 時間）
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	事前：教科書（第 12 章、pp.195-212）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	事前：教科書（第 13 章、pp.213-227）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	事前：教科書（第 14 章、pp.229-244）と配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	１．事後学習小テスト(40%)+期中試験(30%)+全講義終了後の試験(30%)で評価します。 ２．単位取得には２試験双方の受験が必須です。小テスト・試験はMoodleやFormsで実施します。 ３．事前・事後学習小テストへのアクセスに必要なURLやパスワードは各回教室で掲示します。 ４．学習意欲（注意：出席率ではありません）の顕著な学生には加点します。 ５．評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。
学生への メッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢で臨んでください。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。
担当者の 研究室等	１１号館７階(杉本研究室)
備考	学習小テストや中間試験の解説は講義中に行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。

科目名	ミクロ経済学（火曜日配信）	科目名（英文）	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。そのうちミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論です。本講義ではミクロ経済学を現実の経済事象と照らし合わせながら解説し、基礎的専門知識としての使えるミクロ経済学を学んでいただきます。 ・この科目は２クラスに分かれます。 ＡからＫクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、ＬからＵクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。
到達目標	１．経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる。(DP２) ２．現実の経済事象を初歩的ながら論理的に解明できるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	・この科目は２クラスに分かれます。 ＡからＫクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、ＬからＵクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。 １．この講義は動画視聴によるオンディマンド式で進めます。状況を鑑み一部でオンライン式・対面式を採用することもあります。 ２．動画や配布資料ならびに各テスト・試験はmoodleに掲載しています。 ３．【注意】動画視聴ならびに各テスト受験期間は毎回指定の１週間です。テスト受験結果を期間後に確認することはできますが、過去動画の視聴や過去テストの受験は期間後にはできません。大学の方針ですので注意してください。 ４．毎回の構成は、①事前学習（教科書精読)、②資料を基に動画視聴と確認テスト受験、③事後学習（復習とまとめテスト受験）です。 ・１つの動画は15分程度の長さで毎回に2～4本あります。 ・１つ動画を視聴したら確認テストを受験してください。確認テストに制限時間はなく期間内に２回受験できます。 ・動画視聴と確認テスト受験が終わったら、復習の上、まとめテストを受験してください。まとめテストの制限時間は20分です。 ５．資料(pdfファイル)は印刷しても結構ですが、できればタブレットPCを使うなどして直接ファイルに書き込むようにしてください。 ６．漠然と視聴するのではなく、教科書をよく読んだ上で、その回の到達目標を意識しながら学修してください。その方が学修効果が高くなります。また質問はTeamsのチャネル「質問箱」に書き込んでください。上手く説明できない場合にはオンラインで説明しますので、その旨、連絡ください。
科目学習の効果（資格）	TV や新聞、インターネットから無造作に流れ出る経済事象を自らで整理し、自らで判断するための基礎的知識が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶことを知る	・ミクロ経済学とは何か？ ・身近な問題をミクロ経済学で考える。 ・講義の概要	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
2	需要の理論(1)：　需要曲線の意味、２つの満足度	・需要曲線とは ・需要曲線が右下がりの理由 ・市場需要曲線 ・２つの効用概念	事前：教科書(第２章,pp.31-36)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計２時間
3	需要の理論(2)：　需要面から見た価格変化、満足度をお金で測る	・需要曲線のシフト要因 ・消費者余剰	事前：教科書(第２章,pp.36-46)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計２時間
4	需要の理論(3)：消費の組合せには一定の法則がある	・無差別曲線の導出 ・応用事例	事前：教科書(第３章,pp.51-53)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト 計1.5時間
5	需要の理論(4)：最適な消費の組合せ、ここまでの応用	・予算制約線と価格や所得の変化 ・最適消費点 ・需要曲線の導出 ・基数的効用の応用 ・序数的効用の応用	事前：教科書(第３章,pp.49-51,53-58)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計２時間
6	供給の理論：供給曲線の意味、供給面から見た価格変化、生産者の利益をお金で測る	・供給は企業の話？ ・供給曲線 ・供給曲線のシフト要因 ・生産者余剰 ・利潤は最大化されているか？	事前：教科書(第４章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
7	微分と限界概念：企業の利潤最大化	・企業の利潤最大化条件 ・微分の意味 ・限界~とは。微分との関係は。 ・練習してみよう	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
8	需要曲線と弾力性：価格を上げていいもの悪いもの	・弾力性とは ・需給の価格弾力性の重要性 ・弾力性を左右する要因 ・応用事例	事前：教科書(第５章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
9	期中試験	ここまでの総括	復習をしておいてください。
10	市場の理論：市場構造の相違、市場自由化を進める理由、市場は万能ではない	・完全競争市場 ・市場における価格の決定 ・社会的余剰に基づく望ましい市場とは ・市場が不得意とすること ・応用事例	事前：教科書(第６章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
11	需要と供給で解く経済問題	・価格が上がるのに需要が増える ・豊作貧乏の謎	事前：教科書(第７章,除くpp.107~110)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験

		・失業 ・価格が付くモノ、付かないモノ	事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
12	余剰分析で解く経済問題	・余剰の復習 ・ダフ屋（転売屋）の存在 ・飲み放題戦略 ・定食戦略 ・租税負担	事前：教科書（第 8 章,pp.119-131）精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
13	市場の失敗(1)：環境問題、無料の公園と有料の公園の違い	・市場の失敗 ・外部効果 ・環境問題と解決方 ・公共財	事前：教科書(第 9 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
14	市場の失敗(2)：情報を持つ者と持たざる者による取引	情報の非対称性とは ・逆選択の問題 ・モラルハザードの問題 ・これら問題への対策	事前：教科書(第 10)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
15	市場の失敗(3)：独占の原因と弊害	・独占市場の特徴 ・独占企業の価格決定	事前：教科書(第 11 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間

関連科目

経営学関連科目、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱ、コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ　等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学の基礎　ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

１．確認テスト(10%)+まとめテスト(30%)+期中試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。
２．各テスト・試験は Moodle で実施します。
3. 評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。

※この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
※まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

学生へのメッセージ

経済学の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。

担当者の研究室等

11 号館 8 階岩坪教授室

備考

各テストや試験の解説は Moodle 経由で行います。間違えた点については何故違ったのかを確認してください。
・この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
・まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

科目名	ミクロ経済学（水曜日配信）	科目名（英文）	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。そのうちミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論です。本講義ではミクロ経済学を現実の経済事象と照らし合わせながら解説し、基礎的専門知識としての使えるミクロ経済学を学んでいただきます。 ・この科目は２クラスに分かれます。 AからKクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、LからUクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。
到達目標	１．経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる。(DP２) ２．現実の経済事象を初歩的ながら論理的に解明できるようになる。(DP２)
授業方法と留意点	・この科目は２クラスに分かれます。 AからKクラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、LからUクラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。 クラスを間違えると評価されませんので注意してください。 ・まず自分の所属するTeamsに登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。 １．この講義は動画視聴によるオンディマンド式で進めます。状況を鑑み一部でオンライン式・対面式を採用することもあります。 ２．動画や配布資料ならびに各テスト・試験はmoodleに掲載しています。 ３.【注意】動画視聴ならびに各テスト受験期間は毎回指定の１週間です。テスト受験結果を期間後に確認することはできますが、過去動画の視聴や過去テストの受験は期間後にはできません。大学の方針ですので注意してください。 ４．毎回の構成は、①事前学習（教科書精読)、②資料を基に動画視聴と確認テスト受験、③事後学習（復習とまとめテスト受験）です。 ・1つの動画は15分程度の長さで毎回に2～4本あります。 ・1つ動画を視聴したら確認テストを受験してください。確認テストに制限時間はなく期間内に2回受験できます。 ・動画視聴と確認テスト受験が終わったら、復習の上、まとめテストを受験してください。まとめテストの制限時間は20分です。 ５．資料(pdfファイル)は印刷しても結構ですが、できればタブレットPCを使うなどして直接ファイルに書き込むようにしてください。 ６．漠然と視聴するのではなく、教科書をよく読んだ上で、その回の到達目標を意識しながら学修してください。その方が学修効果が高くなります。また質問はTeamsのチャネル「質問箱」に書き込んでください。上手く説明できない場合にはオンラインで説明しますので、その旨、連絡ください。
科目学習の効果（資格）	TVや新聞、インターネットから無造作に流れ出る経済事象を自らで整理し、自らで判断するための基礎的知識が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶことを知る	・ミクロ経済学とは何か？ ・身近な問題をミクロ経済学で考える。 ・講義の概要	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
2	需要の理論(1)：　需要曲線の意味、２つの満足度	・需要曲線とは ・需要曲線が右下がりの理由 ・市場需要曲線 ・２つの効用概念	事前：教科書(第2章,pp.31-36)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
3	需要の理論(2)：　需要面から見た価格変化、満足度をお金で測る	・需要曲線のシフト要因 ・消費者余剰	事前：教科書(第2章,pp.36-46)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
4	需要の理論(3)：消費の組合せには一定の法則がある	・無差別曲線の導出 ・応用事例	事前：教科書(第3章,pp.51-53)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト 計1.5時間
5	需要の理論(4)：最適な消費の組合せ、ここまでの応用	・予算制約線と価格や所得の変化 ・最適消費点 ・需要曲線の導出 ・基数的効用の応用 ・序数的効用の応用	事前：教科書(第3章,pp.49-51,53-58)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2時間
6	供給の理論：供給曲線の意味、供給面から見た価格変化、生産者の利益をお金で測る	・供給は企業の話？ ・供給曲線 ・供給曲線のシフト要因 ・生産者余剰 ・利潤は最大化されているか？	事前：教科書(第4章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
7	微分と限界概念：企業の利潤最大化	・企業の利潤最大化条件 ・微分の意味 ・限界~とは。微分との関係は。 ・練習してみよう	事前：特になし 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計1.5時間
8	需要曲線と弾力性：価格を上げていいもの悪いもの	・弾力性とは ・需給の価格弾力性の重要性 ・弾力性を左右する要因 ・応用事例	事前：教科書(第5章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
9	期中試験	ここまでの総括	復習をしておいてください。
10	市場の理論：市場構造の相違、市場自由化を進める理由、市場は万能ではない	・完全競争市場 ・市場における価格の決定 ・社会的余剰に基づく望ましい市場とは ・市場が不得意とすること ・応用事例	事前：教科書(第6章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計2.5時間
11	需要と供給で解く経済問題	・価格が上がるのに需要が増える ・豊作貧乏の謎	事前：教科書(第7章,除くpp.107~110)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験

		・失業 ・価格が付くモノ、付かないモノ	事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
12	余剰分析で解く経済問題	・余剰の復習 ・ダフ屋（転売屋）の存在 ・飲み放題戦略 ・定食戦略 ・租税負担	事前：教科書（第 8 章,pp.119-131）精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
13	市場の失敗(1)：環境問題、無料の公園と有料の公園の違い	・市場の失敗 ・外部効果 ・環境問題と解決方 ・公共財	事前：教科書(第 9 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
14	市場の失敗(2)：情報を持つ者と持たざる者による取引	情報の非対称性とは ・逆選択の問題 ・モラルハザードの問題 ・これら問題への対策	事前：教科書(第 10)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間
15	市場の失敗(3)：独占の原因と弊害	・独占市場の特徴 ・独占企業の価格決定	事前：教科書(第 11 章)精読 受講：動画視聴→確認テスト受験 事後：まとめテスト受験 計 2.5 時間

関連科目

経営学関連科目、マクロ経済学、ファイナンスⅠ・Ⅱ、コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ　等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学の基礎　ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

１．確認テスト(10%)+まとめテスト(30%)+期中試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。
２．各テスト・試験は Moodle で実施します。
3. 評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。

※この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
※まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

学生へのメッセージ

経済学の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要です。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進してください。

担当者の研究室等

11 号館 8 階岩坪教授室

備考

各テストや試験の解説は Moodle 経由で行います。間違えた点については何故違ったのかを確認してください。
・この科目は 2 クラスに分かれます。
　A から K クラスは「ミクロ経済学（火曜日配信)」、L から U クラスは「ミクロ経済学（水曜日配信)」です。
　クラスを間違えると評価されませんので注意してください。
・まず自分の所属する Teams に登録してください。そこのアプリにある「授業」をクリックすると、資料や動画がアップされた画面になります。

科目名	マクロ経済学	科目名（英文）	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1014a0		

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では，国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお，ミクロ経済学では，経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。 マクロ経済学では、景気変動、物価、消費、投資、金融市場、金融政策、財政政策など広い範囲の問題を取り扱います。基本的にはテキストにしたがった講義ですので、事前に予習しておかないと講義を受けると理解が難しくなります。また現実の経済のデータの利用に関しても講義中に話しますが、自分でもデータを入手、分析できるスキルを身につけるようにして下さい。 講義中には政府、日銀などが公表した政策方針、調査や新聞などの報道、解説も適宜取り上げます。
到達目標	１．マクロ経済学の基礎的理論を理解する（DP２） ２．日本経済の動向、経済政策の効果について理解する（DP2） ３．経済データの入手、分析することができるスキルを身に付ける（DP2）
授業方法と留意点	教科書を中心にして行うが，適宜，新聞や TV で取り上げられたトピックも用いる。講義を妨げる私語、携帯電話の使用は厳に慎むこと。減点、単位失格の対象となります。 Moodle で復習のための小テストを行います。単に正解することではなく、その問題、解答の意味を理解することを心がけてください。数学的なモデル（数式)、グラフで分析、考察することが多いので、基本的な概念をよく理解することが大事なので、テキスト、講義などを丹念に理解することが大事になります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験・経済学検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？ マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	ＧＤＰとは何だろうか？	付加価値、三面等価の原則 GDP の範囲、GNI (GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第１章を読んでおくこと。(60分)
3	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（1）	ケインズ型の消費関数	テキスト第２章「ケインズ型の消費関数」を読んでおくこと。（６０分）
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（2）	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第２章「ライフサイクル仮説、恒常所得仮設」「貯蓄の決定」を読んでおくこと。（６０分）
5	設備投資と在庫投資（1）	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第３章「投資の決定要因」「資本の限界生産性と資本の使用者費用」を読んでおくこと。（６０分）
6	設備投資と在庫投資（2）	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第３章「調整費用モデル」を読んでおくこと。（６０分）
7	金融と株価（1）	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第４章「企業の資金仲達手段」「家計の資産選択」を読んでおくこと。（６０分）
8	金融と株価（2）	株価の決定理論、トービンのｑ	テキスト第４章「株価の決定理論」「トービンのｑ理論」を復習しておくこと。（６０分）
9	貨幣の需要と供給（1）	貨幣の機能、貨幣ストックの概念、	テキスト第５章「貨幣の３つの機能」「貨幣の概念「貨幣需要動機を読んでおくこと。（６０分）
10	貨幣の需要と供給（2）	貨幣需要関数、貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利子率の決定	テキスト第５章「貨幣需要関数」「ハイパワードマネーと貨幣の供給」「貨幣乗数」を読んでおくこと。（６０分）
11	乗数理論と IS-LM 理論（1）	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第６章「有効需要の原理」「乗数理論」を読んでておくこと。（６０分）
12	乗数理論と IS-LM 理論（2）	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析	テキスト第６章「IS 曲線と LM 曲線」「IS-LM 分析」、７章「IS-LM 分析における金融政策の有効性」を読んでおくこと。（６０分）
13	ＩＳ－ＬＭ分析と財政･金融政策の効果（1）	流動性のわな、非伝統的金融政策、ルーカス批判、	テキスト第６章「IS-LM 分析における経済政策の有効性」、第７章「経済政策はなぜ必要か？」第８章「財政赤字と国債」を読んでおくこと。（６０分）
14	ＩＳ－ＬＭ分析と財政･金融政策の効果 (2)	日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第７章「IS-LM 分析における経済政策の有効性」、第７章「経済政策はなぜ必要か？」を読んでおくこと。（６０分）
15	インフレとデフレ	インフレーション、デフレーション	テキスト第９章「インフレとデフレ」を読んでおくこと。（６０分）

関連科目	ミクロ経済学、経済学入門、ファイナンスⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題（テストまたはレポート）　50% 小テスト 50% 小テストは原則毎回 Moodle で行います。

学生への メッセージ	事前に指定されたテキストの範囲を読んで問題意識を持って講義に臨んでください。事後にはテキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(杉本研究室)
備考	講義に関する連絡は Teams で連絡します。必ず確認して下さい。

科目名	経営統計学	科目名（英文）	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1016a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	１．経営諸科学に関する統計データを整理し、適切な表・グラフで表現できる。(DP２) ２．基本統計量および２変量間の関係性を理解し、数値で表現することができる。(DP２) ３．知的専門職業人として企業社会で活躍するために、実際の情報やデータを活用し、その結果を適切に表現できる。(DP２)
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。 統計検定３級の出題範囲表（一部を除く）に対応している。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	配付資料を読んでおく（30 分）
2	統計学の基礎的発想（１）	変数、尺度水準	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
3	統計学の基礎的発想（２）	標本空間と事象、確率分布	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
4	統計資料の整理（１）	統計資料の収集と読み方、時系列データ	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
5	統計資料の整理（２）	統計資料のまとめ方、提示の方法	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
6	データの集計（１）	代表値について、平均値、分散、標準偏差	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
7	データの集計（２）	度数分布、ヒストグラム、各種グラフと図、標準化	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ・中間試験	前半部分の振り返りとまとめ、中間試験	前半部分の内容を見直しておく（90 分）
9	データの集約（１）	クロス表とクロス集計	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
10	データの集約（２）	クロス集計の実践	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
11	データの相関関係（１）	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
12	データの相関関係（２）	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
13	統計と確率	条件的確率、ベイズの定理	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
14	統計学の応用	母集団と標本 統計的検定・推定について	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
15	全体のまとめ・最終試験	全体の振り返りとまとめ、最終試験	全体の内容を見直しておく（120 分）

関連科目：数学基礎Ⅰ、数学基礎 II、ビジネス情報処理Ⅱ、マーケティングリサーチⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の提出課題（50%）、中間・最終試験（50%）をもとに総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。
担当者の研究室等	11 号館７階（杉本研究室）
備考	Moodle で資料を配布します。事前に登録しておいて下さい。

科目名	経営統計学	科目名（英文）	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1016a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	１．経営諸科学に関する統計データを整理し、適切な表・グラフで表現できる。(DP２) ２．基本統計量および２変量間の関係性を理解し、数値で表現することができる。(DP２) ３．知的専門職業人として企業社会で活躍するために、実際の情報やデータを活用し、その結果を適切に表現できる。(DP２)
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、演習を取り入れつつ授業を進める。配布資料に含まれる演習問題を解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。 統計検定３級の出題範囲表（一部を除く）に対応している。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	配付資料を読んでおく（30 分）
2	統計学の基礎的発想（１）	変数、尺度水準	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
3	統計学の基礎的発想（２）	標本空間と事象、確率分布	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
4	統計資料の整理（１）	統計資料の収集と読み方、時系列データ	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
5	統計資料の整理（２）	統計資料のまとめ方、提示の方法	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
6	データの集計（１）	代表値について、平均値、分散、標準偏差	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
7	データの集計（２）	度数分布、ヒストグラム、各種グラフと図、標準化	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ・中間試験	前半部分の振り返りとまとめ、中間試験	前半部分の内容を見直しておく（90 分）
9	データの集約（１）	クロス表とクロス集計	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
10	データの集約（２）	クロス集計の実践	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
11	データの相関関係（１）	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
12	データの相関関係（２）	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
13	統計と確率	条件的確率、ベイズの定理	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
14	統計学の応用	母集団と標本 統計的検定・推定について	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
15	全体のまとめ・最終試験	全体の振り返りとまとめ、最終試験	全体の内容を見直しておく（120 分）

関連科目：数学基礎Ⅰ、数学基礎 II、ビジネス情報処理Ⅱ、マーケティングリサーチⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の提出課題（50%）、中間・最終試験（50%）をもとに総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学的な思考が必要となる学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な取り組みを期待します。
担当者の研究室等	11 号館７階（杉本研究室）
備考	Moodle で資料を配布します。事前に登録しておいて下さい。

科目名	市場調査入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1017a0		

授業概要・目的	社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 　情報・データの収集・分析の能力を身につける。 SDGs-8, 9
到達目標	社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。 問題発見能力、問題解決能力、分析力を身につける(DP2)
授業方法と留意点	授業は予習をもとに進めるので、毎回予習をしておくこと。 その後、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で解説する。資料は事前に DL し、ノートを必ず取ること。 対面授業ではあるが、新型コロナが完全に終息している場合には、学生同士の話し合いなどを行う。 授業の後半では、実際に web 調査票を作って、実践してみる。 教科書を持参すること、忘れた場合、自己責任でどうにかすること(事前にコピーするなど)。 資料は moodle で配布する、毎週必ずチェックすること。 また、小テスト、課題の提出はすべて Moodle で行うのでスマホを持参すること。
科目学習の効果（資格）	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 市場調査とは？	授業の概要について	事前学習課題：市場調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題：社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題：社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題：社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題：ラポールとは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
6	量的調査と質的調査――それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題：量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
7	官庁統計 1――官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	事前学習課題：官庁統計とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
8	官庁統計 2――官庁統計による諸研究/ 1～8 回のまとめ	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。/中間テストの実施と解説	事前学習課題：官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
9	量的調査 1――統計学と質問紙調査（1）	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題：質問紙調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
10	量的調査 2――統計学と質問紙調査（2）	質問紙調査の方法について。 統計的手法	事前学習課題：調査で使う統計の知識について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
11	量的調査 3――質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題：質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
12	質的調査 1――聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：聞き取り調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
13	質的調査 2――参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：参与観察とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
14	質的調査 3――ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)

	15	全体のまとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。/期末テストの実施と解説	事前学習課題：社会調査の基礎について総復習しておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(1 時間)

関連科目	「市場調査法」,「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法―2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の提出の累積点(10%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)、web 調査票の提出(10%)の合計(100%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10 分まで)は減点の対象となる。 出席点などはない。
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、無許可のスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。許可のないスマホなどの使用に対しては退室してもらうことがあります。 遅刻は減点(10 分まで)の対象となります。 このことを承知したうえで受講すること。 授業内に課した課題については，授業中あるいは次週の授業で解説してフ
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	授業に参加した学生のみ、毎回の小テストの受験、授業課題の提出を実施することができます。 毎回の授業課題(小テスト、授業課題)には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいっさい認めません。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 1 時間以上をかけること。 授業内で課された課題については，授業内、または、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。

科目名	市場調査入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1017a0		

授業概要・目的	社会調査(市場調査)の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。 　情報・データの収集・分析の能力を身につける。 SDGs-8, 9
到達目標	社会調査(市場調査)の基礎知識を得ることができる。社会調査(市場調査)の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。 問題発見能力、問題解決能力、分析力を身につける(DP2)
授業方法と留意点	授業は予習をもとに進めるので、毎回予習をしておくこと。 その後、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で解説する。資料は事前に DL し、ノートを必ず取ること。 対面授業ではあるが、新型コロナが完全に終息している場合には、学生同士の話し合いなどを行う。 授業の後半では、実際に web 調査票を作って、実践してみる。 教科書を持参すること、忘れた場合、自己責任でどうにかすること(事前にコピーするなど)。 資料は moodle で配布する、毎週必ずチェックすること。 また、小テスト、課題の提出はすべて Moodle で行うのでスマホを持参すること。
科目学習の効果（資格）	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 市場調査とは？	授業の概要について	事前学習課題：市場調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題：社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題：社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題：社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題：ラポールとは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
6	量的調査と質的調査――それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題：量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
7	官庁統計 1――官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	事前学習課題：官庁統計とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
8	官庁統計 2――官庁統計による諸研究/ 1～8 回のまとめ	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。/中間テストの実施と解説	事前学習課題：官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
9	量的調査 1――統計学と質問紙調査（1）	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題：質問紙調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
10	量的調査 2――統計学と質問紙調査（2）	質問紙調査の方法について。 統計的手法	事前学習課題：調査で使う統計の知識について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
11	量的調査 3――質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題：質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
12	質的調査 1――聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：聞き取り調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
13	質的調査 2――参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：参与観察とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)
14	質的調査 3――ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(1 時間)

	15	全体のまとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。/期末テストの実施と解説	事前学習課題：社会調査の基礎について総復習しておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(1 時間)

関連科目	「市場調査法」,「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法―2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の提出の累積点(10%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)、web 調査票の提出(10%)の合計(100%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10 分まで)は減点の対象となる。 出席点などはない。
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 アクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。 他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、無許可のスマホなどの使用など)はすべて禁止とします。許可のないスマホなどの使用に対しては退室してもらうことがあります。 遅刻は減点(10 分まで)の対象となります。 このことを承知したうえで受講すること。 授業内に課した課題については，授業中あるいは次週の授業で解説してフ
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	授業に参加した学生のみ、毎回の小テストの受験、授業課題の提出を実施することができます。 毎回の授業課題(小テスト、授業課題)には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいっさい認めません。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 1 時間以上をかけること。 授業内で課された課題については，授業内、または、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。

科目名	マネジメントサイエンス	科目名（英文）	Management Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1017a0		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス（経営科学，オペレーションズ・リサーチ）とは，経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより，経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では，回帰分析，重回帰分析や AHP 法，日程計画，線形計画法，待ち行列や意思決定理論等を中心とした，基本的な知識と技法（解法）について修得することが目的である。
到達目標	経営における諸問題を，自らどの手法で分析すれば良いか理解し，電卓等を使った数値計算などで最適な答えを導き出すことができる。またその結果についてどう意思決定すれば良いかを経営的視点から判断することが出来る。(DP2)
授業方法と留意点	事前に Moodle にて資料を配付しますので，必ず予修してください。授業内では配付資料の説明は最小限に留め，手法や理論の裏側にある点や実際での利用状況等を解説し，ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた課題を解くことで理解を深めます。その課題に取り組んでいく中で，経営における問題の発見や，その構造のあらましを把握する能力を養って欲しいと考えます。 また実際の現場で活躍する人材をお呼びし，話を聞く機会も設けます。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート，基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ，販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方，評価方法，マネジメントサイエンスの概要	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
2	マネジメントサイエンスの現状	ゲストスピーカーによる現況の説明と質疑応答，教員による解説	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
3	経営科学と経営工学，経営管理と経営分析	OR，経営科学，コンピュータ，経営工学，経営管理，意思決定，収益性，安全性，生産性，成長性	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
4	経営計画，システムズアプローチ，意思決定	利益計画，販売計画，生産計画，資金計画，システム，システム工学，意思決定，意思決定支援システム	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
5	線形計画法（1）	線形計画法，図的開放	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
6	線形計画法（2）	シンプレックス法	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
7	日程計画法（1）	順序づけ，アローダイヤグラム，PERT	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
8	日程計画法（2）	PERT，CPM，PDM	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
9	在庫問題（1）	ABC 分析，ABC 分析	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
10	在庫問題（2）	定期発注法，発注点法，２瓶法	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
11	ゲーム理論（1）	ゲーム理論，純粋戦略，混合戦略，優位性の原理	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
12	ゲーム理論（2）	非ゼロ和ゲーム，囚人のジレンマ，交互ゲーム	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
13	意思決定法	一対比較，AHP，ファジイ	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
14	全体のまとめ，今後の展開，最終レポート課題	全体のまとめ	配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分） 演習問題を解き理解する（30 分）
15	最終試験	記述式試験	試験勉強（180 分以上）

関連科目：数学基礎Ｉ，数学基礎 II，経営統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic 経営科学	西田俊夫	現代数学社
2	経営科学　経営工学　第３版	古殿幸雄	中央経済社
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（50%）、最終試験（50%）をもとに総合的に評価します。 授業中の課題提出状況が単位取得に大きく影響しますので、計画的に受講してください。
学生へのメッセージ	予修と演習を中心とした内容になります。数学が苦手な人には辛いかもしれませんが，すべては四則演算の組み合わせです。乗り越えましょう。 学生と教員は対立関係ではありません。同じ方を向いて進んでいきます。前進してください。うしろから見守ります。
担当者の研究室等	11 号館８階(小林研究室)
備考	１）ノートパソコンもしくはタブレットがあれば授業が受けやすいと思います。また試験の際には電子機器類は持込不可にしますので，電卓を用意ください。 ２）数学に弱い学生さんは，他の学生以上に学修してください。 ３）受講生の状況により，授業進度を変更することがあります。

科目名	経営組織論	科目名（英文）	Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1018a0		

授業概要・目的	[授業概要] 経営組織論の理論は、企業のみならず病院や行政機関、スポーツチームなど、様々な組織で活用できます。学生の皆さんは、アルバイト、部活動・サークルなど、日常生活をよりよくするために活用できるでしょう。受講生の皆さんが、経営組織論の理論を理解し、実践できるようになること、さらには、経営組織論の理論を日常生活の中で活かせるようになることが本講義のねらいです。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 [授業目的] 組織のマネジメントに関する理解を深め、活用できることを目的としています。
到達目標	①経営組織論の理論を体系的に理解できる。 ②様々な組織を、理論的に考察・分析できるようになる。 ③経営組織論の理論を、日常生活の問題解決に活かせるようになる。(DP3)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における経営組織の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営管理論の基礎を理解していることが望まれます。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	事前：シラバスを読み、講義資料を印刷した上で1時間程度目を通すこと 事後：講義内容を30分程度復習すること
2	経営組織とは	組織の定義とはどのようなものなのか、人が集まれば組織というのかなどについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと
3	組織の基本原理	基本的な組織構造や、人のやる気を高める組織設計とはどのようなものなのかなどについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと
4	意思決定	組織活動の中で誰が意思決定を行っているのか、その際何が問題になるのか、どうすれば意思決定が受け入れられるのかなどについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと
5	メンバーのやる気を高める（モチベーション）	組織におけるモチベーションマネジメントについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第4章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第4章を1時間程度読むこと
6	メンバーを引っ張る（リーダーシップ）	組織のメンバーを引っ張るリーダーシップについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと
7	チームを組む（チームワーク）	チームがどのように意思決定、モチベーション、リーダーシップと関係しているのか説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第6章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第6章を1時間程度読むこと
8	中間テスト、解説	中間テスト後、解説を行います。	事前課題：配付資料および教科書を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書を用いて1時間程度テスト内容を復習すること
9	組織の形を整える（組織形態）	環境の変化に応じて組織の形を変えるか、戦略と組織形態との関係について説明します。	事前課題：シラバスおよび教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと
10	組織文化	組織文化をどのようにマネジメントすれば良いのか説明します。	事前課題：シラバスおよび教科書の第8章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと
11	知識創造（情報・知識を捉える）	知識を生み出す組織とはどのようなものなのか、知識の創造とマネジメントについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと
12	イノベーション	イノベーションの生成・普及のプロセスについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第10章を1時間程度読むこと

			事後学習：配付資料および教科書の第 10 章を 1 時間程度読むこと
13	他の組織と協力する（ネットワーク）	組織内ネットワーク、組織間ネットワークについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと
14	組織変革	組織変革の必要性と難しさについて説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テスト後、解説を行います。	事前課題：配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書を用いて 1 時間程度テスト内容を復習すること

関連科目

人的資源管理論、経営管理論、組織行動論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営組織入門	上林憲雄・庭本佳子（編著）	文眞堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営組織論（はじめての経営学）	鈴木竜太	東洋経済
2			
3			

評価方法（基準）

中間テスト（50%）、期末テスト（50%）で評価します。ただし、授業態度や不正行為などによって加点・減点をする場合があります。
なお、出席が 8 割に満たないと単位を認めない場合がある。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

11 号館 8 階　西之坊研究室

備考

科目名	競争戦略論	科目名（英文）	Competitive Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2019a0		

授業概要・目的	世界経済のパラダイムが大きく変化するなか、企業の競争戦略の重要性はますます高まっている。それは、企業の成長や発展において非常に重要な意思決定の基盤となっているからである。この授業では、マイケル・E・ポーターの『競争の戦略』『競争戦略論』をもとに、業界における競争の性質、競争の行動パターンを決める諸要因について学び、効果的な競争戦略の策定について考察する。
到達目標	・競争戦略論における諸理論の知識が身につく。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、企業の競争戦略を分析する力が身につく（DP3）。
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodleから事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	業界の構造分析の基礎①	マイケル・E・ポーターの５つの競争要因について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	業界の構造分析の基礎②	業界内の競争と新規参入の脅威について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	業界の構造分析の基礎③	代替品の脅威、売り手と買い手の交渉力について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	三つの競争戦略①	コストリーダーシップについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	三つの競争戦略②	差別化について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	三つの競争戦略③	コスト集中と差別化集中について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	業界と競争業者の分析①	競合他社の目標と力量を把握することについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	業界と競争業者の分析②	マーケットシグナルを把握して、競争企業の行動を分析する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	業界と競争業者の分析③	業界の変化と製品ライフサイクルについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	業界環境のタイプ別競争戦略①	市場分散型業界の競争戦略について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	業界環境のタイプ別競争戦略②	先端・成熟・衰退業界の競争戦略について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	業界環境のタイプ別競争戦略③	グローバル業界の競争戦略について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	戦略的意思決定	生産能力拡大戦略および新規事業の参入戦略について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目：経営戦略論、企業分析（企業戦略ケース分析）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
2	競争戦略論〈1〉	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
3	競争戦略論〈2〉	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度をはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。
学生への メッセージ	・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）
備考	

科目名	経営戦略論	科目名（英文）	Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2019a0		

授業概要・目的	この授業では、経営戦略の諸理論の体系的解説とその現実的応用の説明に力点を置き、身近なビジネストピックスを引用しながら、ビジネスの最前線で起きる様々な問題を発見し、経営課題の形成と、問題解決を模索する力を自然に身につけることを目指す。さらに、経営戦略論を始めて学ぶ学生を対象に、事業戦略、企業戦略、多国籍企業のグローバル戦略の基本的な理論や概念を解説することを目的としている。
到達目標	・経営戦略論における諸理論の知識が身につく。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、経営戦略を分析する力が身につく（DP3）。
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodleから事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	経営学の視点から戦略を考える	戦略の定義および基本要素について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	企業を取り巻く外部環境	PESTおよびPESTELモデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	産業構造と企業戦略	業界の収益性と潜在力を説明するためマイケル・E・ポーターの５つの競争要因を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	企業の内部分析	企業の競争優位性を保つ多様な条件について解説し、企業のコアコンピタンス、能力、資源が企業活動に与える影響について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	事業戦略：イノベーションおよびプラットフォーム	製品のライフサイクルに合わせて、顧客や競合他社の行動に対応しながら戦略を合理的に展開する方法について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	事業戦略：市場地位別戦略	市場地位別の競争優位戦略の各類型（リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー）とその事例について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	事業戦略：差別化と低コスト化	差別化戦略と低コスト化戦略について考察し、その要因が発生するメカニズムについて理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	事業戦略：ブルーオーシャン戦略	差別化戦略と低コスト化戦略の結合について、ブルーオーシャン戦略を用いて考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	企業戦略：垂直統合と多角化	企業戦略を定義し、これらを評価する各次元（垂直統合、多角化、地理的範囲）について学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	企業戦略：戦略的アライアンスとM&A	企業はなぜ戦略的な提携関係を結び、競合他社と合弁企業を設立するのかについて考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	多国籍企業のグローバル戦略①	多国籍企業の海外進出およびグローバル戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	多国籍企業のグローバル戦略②	グローバル企業の統合（効率性）とローカル適合（柔軟性）のモデルを用いて、グローバル企業の戦略的位置について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目	競争戦略論、企業分析（企業戦略ケース分析）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	戦略経営論―競争力とグローバリゼーション	マイケル A.ヒット、ロバート E.ホスキソン、R.デュエーン・アイ	センゲージラーニング

			ルランド	
	2	経営戦略入門	網倉久永、新宅純二郎	日本経済新聞出版社
	3	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度をはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。
学生への メッセージ	・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）
備考	

科目名	人的資源管理論	科目名（英文）	Human Resources Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2021a0		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっています。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ｉでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 [授業目的] 企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。また、速やかに教科書の手配をしてください。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを１対１で見るLMXとリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題：配付資料を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料を１時間程度読むこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され（独立変数）、各々が何に影響を与えるのか（成果変数）について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと
10	中間テスト、解説	中間テストと解説を行います。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を１時間程度読むこと 事後学習：中間テストの内容を１時間程度復習すること
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類がある	事前課題：配付資料および教科書の第11章を１時間程度読むこと

		のか等について学びます。	事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと
13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと
15	期末テスト、解説	期末テストと解説を行います。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、組織行動論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	中間テスト 50 点、期末テスト 50 点、合計 100 点 なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（西之坊研究室）
備考	

科目名	組織行動論	科目名（英文）	Organizational Behavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2022a0		

授業概要・目的	[授業概要] 組織行動論は社会心理学や心理学をベースに、組織で働く個人あるいは集団の行動や心理について研究し、組織目標を達成するために人をマネジメントする産業組織心理学と重複の多い学問分野です。組織行動論の特徴は、「因果関係を考える」ところにあります。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明したり、動画を視聴したりすることで、より深い組織行動論への理解を促します。 [授業目的] 組織における人の行動を理解し、どのように人をマネジメントするのかに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	①組織行動論の基本的な理論を理解できるようになる。 ②学習した組織行動論の理論を用いて、大学生が関わる日常的な組織であるアルバイト、部活・サークル人などの事例・現象を説明できるようになる。(DP3)
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントや動画を活用し、組織における人の行動について解説します。 この授業を受講するには、経営管理論を理解していることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方に「組織行動論とは何か」ついて説明します。	シラバスを読み、講義資料を印刷した上で１時間程度目を通しておくこと
2	行動を駆動する力	ワーク・モチベーションを中心としたモチベーション理論を学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第１章を１時間程度読むこと
3	やりがいの設計	職務設計と内発的動機づけを学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第２章を１時間程度読むこと
4	やる気を引き出す評価	公平理論と組織的公正を学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第３章を１時間程度読むこと
5	組織とのよき出会い	採用の意思決定について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第４章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第４章を１時間程度読むこと
6	組織に馴染むプロセス	組織社会化について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第５章を１時間程度読むこと
7	組織と個人の約束	心理的契約について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第６章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第６章を１時間程度読むこと
8	中間テスト	テストと解説を行います。	事前課題：配付資料を１時間程度読むこと 事後学習：中間テストの内容を１時間程度復習すること
9	マネジャーの仕事	モチベーション論とリーダーの行動について学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第７章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第７章を１時間程度読むこと
10	組織を動かすリーダー	変革型・カリスマ型リーダーシップについて学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第８章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第８章を１時間程度読むこと
11	集団の持つ力	グループ・ダイナミクスについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第９章を１時間程度読むこと
12	もめごとを乗り越える	コンフリクトと交渉について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 10 章を１時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 10 章を１時間程度読むこと

	13	貢献を引き出す関わり合い	組織文化とコミットメントについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと
	14	「私らしさ」と「我々らしさ」	組織アイデンティティについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12 章を 1 時間程度読むこと
	15	期末テスト	テストと解説をします。	事前課題：これまでの講義資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること

関連科目	経営管理論、人的資源管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	組織行動	鈴木竜太・服部泰宏	有斐閣ストゥディア
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テスト（50%）、期末テスト（50%）で評価します。また、授業態度や不正行為などによって加点・減点をする場合があります。 なお、出席が 8 割に満たないと単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（西之坊研究室）
備考	

科目名	中小企業論	科目名（英文）	Small and Medium-Sized Enterprises
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2023a0		

授業概要・目的	日本に存在する企業の圧倒的大多数を占めているのは中小企業であり、中小企業は日本経済・社会をけん引する主役といっても過言ではない。また、日本では中小企業で働く人の割合は約７割を占め、われわれにとって、中小企業は働く場としてもひとつの有力な選択肢ともなっている。 こうした点をふまえ、この授業ではまず「中小企業とはなにか」について考えた上で、適宜、大企業と比較しつつ中小企業の特徴や課題について検討する。さらにこの授業では、近年注目が高まっているCSR（企業の社会的責任）についても検討し、企業の社会的役割、およびそうした役割が中小企業経営にとってどのような意味をもつのかについても考えていく。
到達目標	・中小という企業規模ゆえの強み、および弱みについて説明できる。 ・中小企業の社会的責任と企業経営（本業）がいかに関連しているかについて、論理立てて説明できる。（ＤＰ３） ・事例分析を通じて当該中小企業が抱える経営課題を発見し、その解決策を提案できる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	・授業で用いる資料はMoodleを通じて配布する ※授業準備の都合上、アップロードが直前や前日の夜遅くになる場合が発生すると考えられます。その際は、スマホ等の電子端末で入力をしていただくようお願いいたします ・授業内課題はMoodle、もしくはTeamsを用いて実施予定のため、スマホやパソコン等の電子端末を忘れずに毎回持参すること ・授業の進度等に応じて、授業計画を変更する可能性がある点に留意すること ・授業テーマに関する外部講師をゲストスピーカーとして招き、講演していただく授業回を設ける可能性がある
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	第２回以降の授業内容や進め方、成績評価、注意点等について説明する	【事前】 シラバスを読んでおく（10分） 【事後】 説明した授業内容や進め方等を再確認し、理解しておく（10分）
2	中小企業とはなにか	「中小企業とはなにか」という中小企業研究の根本的な問いについて考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
3	大企業と中小企業	「大」企業と「中小」企業という企業規模の違いが、マネジメントのあり方にあたえる影響について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
4	中小企業とベンチャー企業	「ベンチャー企業とはなにか」や、中小企業ととベンチャー企業との違い、共通点について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
5	中小企業の金融	中小企業による資金調達の特徴や課題について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
6	中小企業政策	中小企業政策の歴史や現状、課題および展望について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
7	第１回確認テスト＋解説	第１回確認テストを実施し、解説を行なう	【事前】 確認テストの範囲を復習しておく（2時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1時間）
8	下請システムとものづくり中小企業	日本的下請システムとその変化について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
9	中小企業と国際化	中小企業の国際化の現状や課題について検討し、中小企業に応じた国際化のあり方について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
10	中小企業の事業承継	中小企業の事業承継の現状と課題について検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間）

			【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
11	中小企業とネットワーク	中小企業ネットワークについて検討し、ネットワークが中小企業にとってもつ意味について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
12	第２回確認テスト＋解説	第２回確認テストを実施し、解説を行なう	【事前】 確認テストの範囲を復習しておく（2 時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1 時間）
13	働く場としての中小企業	働く場としての中小企業がもつ特徴や中小企業での働きがいなどについて検討する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
14	中小企業の社会的責任（１）	「CSR（企業の社会的責任）とはなにか」を検討したのち、CSR の歴史について検討する。その上で中小企業に焦点をあて、社会的責任を検討する意義を確認する	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
15	中小企業の社会的責任（１）	中小企業のステイクホルダーや、中小企業の社会的責任の特徴について検討し、中小企業の社会的責任のあり方について考える	【事前】 テキストの指定箇所を読んでくる。テキストのわからない用語を調べてくる（１時間） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）

関連科目

現代企業論、地域産業論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中小企業の経営	許伸江	八千代出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中小企業・ベンチャー企業論	植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治	有斐閣
2	よくわかる中小企業　［第２版］	関智宏編著	ミネルヴァ書房
3	21 世紀中小企業論	渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫	有斐閣

評価方法（基準）

【成績評価】
①授業内課題：30%
②確認テスト：40%
③ミニレポート：30%

学生へのメッセージ

私たちにとって身近な存在である中小企業について学ぶことで、これまでとはちがう企業をみる視点が得られるかもしれません。

担当者の研究室等

11 号館 7 階 木下研究室

備考

科目名	現代企業論	科目名（英文）	Contemporary Corporations
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2024a0		

授業概要・目的	この授業ではまず、そもそも「企業とはなにか」、「企業と会社の違いとはなにか」、「大企業と中小企業を分ける基準や両者の違いはなにか」など、企業に関するさまざまな疑問について検討する。そのうえで、経営学（とくに経営管理）に関する諸理論や考え方を検討し、企業が存続・発展していくにあたり求められるマネジメントのあり方を考える。 　この授業ではまた、CSR（企業の社会的責任）や SDGs（持続可能な開発目標）についても検討し、企業の社会的役割やそうした役割が企業経営にとってどのような意味を持つのかについても考える。
到達目標	・企業規模の違いがマネジメントのあり方にあたえる影響について、説明できる。 ・企業における事業活動（本業）と社会活動（CSR、社会貢献）がいかに関連しているかについて、論理立てて説明できる。（ＤＰ３） ・この授業で学習した諸理論や考え方を、自分自身や自身の身近なことと関連づけて分析できる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	・授業で用いる資料は Moodle を通じて配布する ※授業準備の都合上、アップロードが直前や前日の夜遅くになる場合が発生すると考えられます。その際は、スマホ等の電子端末で入力をしていただくようお願いいたします ・小テスト、および授業内課題は Moodle、もしくは Teams を用いて実施予定のため、スマホやパソコン等の電子端末を忘れずに毎回持参すること ・授業の進度等に応じて、授業計画を変更する可能性がある点に留意すること
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	第２回以降の授業内容や進め方、成績評価、注意点等について説明する	【事前】 シラバスを読んでおく（10 分） 【事後】 説明した授業内容や進め方等を再確認し、理解しておく（10 分）
2	企業とはなにか	企業と会社の違いや企業をみる視点、企業形態について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
3	株式会社のしくみ	株式会社の特徴やしくみについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
4	大企業と中小企業（1）	大企業と中小企業を分ける基準や企業規模の違いが、マネジメントのあり方にあたえるさまざまな影響について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
5	大企業と中小企業（2）	企業規模の違いが、企業の所有と経営、資金調達のあり方にあたえる影響について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
6	第１回小テスト＋解説	第１回小テストを実施し、解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2 時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1 時間）
7	企業と管理（１）	テイラー・システムについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
8	企業と管理（２）	フォードシステムについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
9	企業と管理（３）	メイヨーらの人間関係論について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（１時間）
10	企業と管理（４）	バーナードの近代管理論について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30 分）

			【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
11	第2回小テスト＋解説	第2回小テストを実施し、解説を行なう	【事前】 小テストの範囲を復習しておく（2時間） 【事後】 小テストの解説をふまえ、間違った問題や要点を復習しておく（1時間）
12	企業と社会：CSRとはなにか	企業と社会との関係性、CSRとはなにかについて検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
13	戦略的CSR、CSV	戦略的CSRやCSV（共通価値の創造）について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
14	CSRとSDGs	CSR と SDGs との関係性について検討する	【事前】 授業テーマに関連する内容や記事を新聞やインターネットで調べておく（30分） 【事後】 授業内課題を含め、授業内容を見直し、整理しておく（1時間）
15	全体まとめと到達度確認テスト	これまでの授業内容に関するまとめを行ない、到達度確認テストを実施する	【事前】 到達度確認テストの範囲（これまでの全ての授業内容）を復習しておく（4時間） 【事後】 到達度確認テストで間違った問題や要点を復習しておく（2時間）

関連科目

地域産業論、中小企業論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキスト 現代企業論 〈第4版〉	坂本恒夫・大坂良宏・鳥居陽介	同文館出版
2	よくわかる企業論 （第2版）	佐久間信夫	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）

【成績評価】
①授業内課題、提出物（ミニレポート）：30%
②小テスト：30%
③到達度確認テスト：40%

学生へのメッセージ

企業を捉える視点はひとつではありません。ぜひこの授業を、企業をみる多角的な視点を知るきっかけとしてください。

担当者の研究室等

11号館7階 木下研究室

備考

・到達度確認テストの詳細については、授業で説明します

科目名	イノベーション論	科目名（英文）	Managing Innovation
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2025a0		

授業概要・目的	・事例等を交えながら「イノベーション」の現代社会における正確な位置付けと、将来志向によるイノベーションの必要 性について　説明する。 ・理論的な枠組みだけでなく、個別、具体的な手法や秘訣なども採り上げた実践的な論法について説明する。 ・イノベーションを推進するための燃料となり得る「アイデア」創出の考え方について説明する。
到達目標	・企業、団体組織やチームにおける創造性あふれる闘う集団へと変えるために必要な思考力を育成する。 ・地域や企業組織に内在する様々な「知」の集合体を活かしたイノベーションを見いだす力を醸成する。 ・人の知識とコミュニティの創造に関係が深い出来事について、その活動のプロセスを描き出すことができる知識創造論に基づ　く分析力を養成する。 ・所属組織に限らず地域社会を良い方向へと変革するソーシャル・イノベーターの育成を目指す。
授業方法と留意点	・当該授業内容に関する資料を Teams のチャネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備等の上、授業に参加して下さい。 ・毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を提示します。指定時限までに提出して下さい。 ・毎回授業の最終で次回の予習項目を提示しますので、各自、事前に学習してきて下さい。
科目学習の効果（資格）	文科系学部卒でもメーカー等理工系学生の採用の多い業界で必要とされる、社会科学の知識をもった人材育成を目指します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス	イノベーションとは何か 【ディスカッション形式】	【事後】Teams 録画視聴による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30 分）
2	イノベーションの具体的中身とは？	企業･団体など組織におけるイノベーションが必要な事情と､その対策(方向性)について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
3	アイデア創出のための組織における考え方	組織内におけるイノベーション創出基盤とは何か？ 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
4	直面する課題解決のためのイノベーション活用	客観的なデータ解析の考え方とイノベーション創出のキッカケについて【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
5	創造的思考と独創性	ブレーンストーミングの活用とビジネスモデル創出について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
6	イノベーションのプロセス	事例等を参考としたプロジェクトの評価基準について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
7	イノベーションを育む組織風土	組織におけるリーダー役としての思考について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
8	日常におけるイノベーション思考	探究心による日常生活におけるイノベーション創出の考え方 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
9	ソーシャル･イノベーション	ソーシャル・イノベーションの要件とは？ 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
10	ソーシャル･イノベーションの事例研究（１）	様々な事例に基づく成功要因と懸念事項について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
11	ソーシャル･イノベーション政策	国および自治体等との連携による取り組みの考え方について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
12	オープンイノベーション	企業等経営戦略としてオープンイノベーションの総合力と盲点について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
13	マーケティング･イノベーション	ニーズ志向に基づくマーケティングとイノベーションの関係性について【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
14	イノベーションに関わる知的財産権	テクノロジー･イノベーションの将来的方向性について 【反転授業・座学形式】	【事前】次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
15	イノベーションの事業化	イノベーション型ベンチャー企業における未来志向について 【反転授業・座学形式】	【事後】Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	①毎回の小レポートに対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。また小レ-ポート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合、予習項目について事前に調べてきた場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして履修者全員に Teams にて資料配付します。 ②期末試験（評価割合：50%） イノベーションの基本的な戦略的考え方を習得した知識から知恵として活用する学習効果を測定するため、総括的評価として実施します（記述式）。
学生への メッセージ	科学的要素のある内容ですが、普段の生活等でも将来使用する工学的知識ですので、知識として習得してもらいたい。
担当者の 研究室等	11 号館７階
備考	・次回の講義資料は毎週金曜日にアップしますので、当該週の木曜日までに自身でダウンロードして下さい。なお、再掲載はしませんので承知して下さい。期末定期試験では講義資料（紙ベース）の持ち込みは可です。

科目名	日本経営史	科目名（英文）	Japanese Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2026a0		

授業概要・目的	本講義では、日本の公益事業（電気、水道、港湾、鉄道等）の特徴について、経営史学の視座から検討することを課題とします。受講生は、インフラを供給する企業の歴史や、他国と比較した時の日本の公益事業の特徴を学ぶことができます。
到達目標	1. 経営史に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	講義形式と後半一部を演習形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や成績評価について紹介します	事前：シラバスを読んでおく（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
2	日本の近代化と産業インフラの必要性	日本の公益事業について、明治期初期を中心に概観します	事前：前回の配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
3	事例分析：大阪市の築港事業	明治初期に必要とされた「公益事業」の一角である港湾事業の経営史を学びます	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（10 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
4	事例分析：関西をとりまく電鉄事業（１）阪急電鉄と小林一三	産業化とともに必要とされた輸送機能「鉄道路線」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（15 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
5	事例分析：関西を取り巻く電鉄事業（２）南海、京阪、近鉄の誕生	産業化とともに必要とされた輸送機能「鉄道路線」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（20 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
6	事例分析：大阪市の電気事業	1900 年代からの第二次産業革命と電気事業の拡張について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（25 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
7	比較分析：東京	関西都市圏の公益事業の特徴と関東都市圏の公益事業のあり方を比較によって検討します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（30 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
8	比較分析：都市と地方の公益事業の違い	戦前期の都市圏と地方部（農業地帯）における公益事業のあり方を比較によって検討します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（35 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
9	戦中戦後の公益事業：国家統制と自由化	戦前期におきた「電力国家管理」と戦後におきた「電力再編成」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（40 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
10	戦後の公益事業（電力、電鉄、港湾事業）	1970 年代までの戦後高度経済成長と公益事業について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（45 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
11	オイルショック以後の公益事業	1970 年代以後の「公益事業の自由化」について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（50 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
12	現代の公益事業論：財源の縮小とインフラの老朽化問題	現代のインフラ老朽化問題について学習します。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（55 分） 事後：当日提示する課題を解きレポートを作成する（60 分）
13	グループ演習①有価証券報告書をもとにした調査	現代の公益事業を営む企業を対象に、「経営課題」「課題解決」「資金繰り」について調査資料を作成してもらいます。	事前：前回までの配布資料に目を通して復習を行う（60 分） 事後：有価証券取引報告書を分担、要約してくる（60 分）
14	グループ演習②プレゼンテーションの作成、ディスカッション	調査資料をもとに、グループでディスカッションし、プレゼンテーション資料を作成してもらいます。	事前：有価証券報告書の要約をもとに、グループに共有する資料を作成する（60 分） 事後：プレゼンテーション資料を分担、作成する（60 分）
15	グループ演習③プレゼンテーション	プレゼンテーションに基づいてグループで発表してもらいます。	事前：プレゼンテーションの作成と発表練習をしてくる（60 分） 事後：プレゼンテーションのフィードバックをもとに最終レポートを作成する（60 分）

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト（1-12 回講義終了後に提出）40%、演習レポート（13-15 回の授業に関するもの）60%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	外国経営史	科目名（英文）	Global Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2027a0		

授業概要・目的	本講義では、主にアメリカの経営史について、経営学の発達および経営史学の視座から検討することを課題とします。受講生は、「企業」というものが誕生してくるの歴史の経緯や、他国と比較した時の日本の企業の特徴を学ぶことができます。
到達目標	1. 経営史に関する基礎的専門知識を理解できるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	講義形式と演習形式を一部併用して授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方について概説します。最終的な成績評価についても説明します。	事前学習：シラバスを読んでくる（３０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
2	アメリカ経営史（1）	アメリカにおける「標準化生産」の系譜について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
3	アメリカ経営史（2）	テイラーによる生産管理のはじまりについて学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
4	アメリカ経営史（3）	フォードによる大量生産、大量消費のシステムについて学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
5	アメリカ経営史（4）	アメリカとドイツが主導した第二次産業革命（化学と電気）について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
6	アメリカ経営史（5）	アメリカの経済恐慌と戦争経済による経済復活について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
7	戦後の外国経営史	戦後アメリカの経営手法のグローバル化と各国への普及について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
8	事例分析：鉄鋼産業	戦前戦後から発展した鉄鋼産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
9	事例分析：電力産業	戦前戦後から発展した電力産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
10	事例分析：石油化学産業	戦前戦後から発展した化学産業とベースとなる技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
11	オイルショック以後の外国経営史	オイルショック以後、1900 年代から隆盛を誇った「重厚長大型産業」の斜陽産業化について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
12	事例分析:オイルショック後の自動車産業	オイルショックから変化する自動車産業とベースとなる生産技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
13	事例分析:オイルショック後の家電産業	オイルショックから変化する家電産業とベースとなる生産技術について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
14	現代の外国経営史	1990 年代以後、「日本的経営：トヨタシステム」がアメリカで分析され、アメリカの中でトヨタシステムが育っていく過程について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。
15	事例分析:プラットフォーム産業の誕生	1990 年代から生まれてきた新たなビジネスモデルとしてのプラットフォーム産業について学習します。	事前学習：配布資料を読んでくる（６０分）、事後学習：配布資料を読み返す（６０分）。

関連科目	日本経営史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（1-12 回講義終了後に提出）40%、演習レポート（13-15 回の授業に関するもの）60%で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	国際経営論Ⅰ	科目名（英文）	International Business Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2028a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業の経営活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と学生同士のグループワークを通じて国際経営論に関する理論の発展や経営機能の国際化要因について学習する。 企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠である。
到達目標	①海外直接投資の理論の概要を説明できる。 ②企業がマーケティング・生産・研究開発などの経営機能を国際化する論理を説明できる。 ③国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の経営活動を分析できる。（ＤＰ３） ④企業の海外進出に関して、論理的思考に基づいて問題を発見することができる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	パワーポイントによる解説を中心に授業を行う。学習内容に関連したグループワークを適宜実施する。また、複数回の学習内容を踏まえた応用的なグループワークも行う。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと国際経営論の概要、海外進出の理由について学習する。	事前：シラバスと教科書の第１章を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	海外直接投資の理論	海外直接投資の代表的な理論とその発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第２章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	多国籍企業による国際競争の歴史	多国籍企業の発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第３章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	多国籍企業の組織デザイン	多国籍企業の経営組織の概要とその進化について学習する。	事前：教科書の第４章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	トランスナショナル経営	I-R フレームワークとトランスナショナル経営について学習する。	事前：教科書の第５章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	海外子会社の経営	海外子会社の類型化や成長のプロセスについて学習する。	事前：教科書の第６章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	日本企業による海外進出	第２回から第６回までの学習内容を踏まえて、日本企業の海外進出に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：第２回から第６回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	国際マーケティング（1）	国際マーケティングのプロセスについて学習する。	事前：教科書の第７章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	国際マーケティング（2）	新興国における国際マーケティングについて学習する。	事前：教科書の第７章と第８回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	国際マーケティング（3）	第８回と第９回の学習内容を踏まえて、日本企業の新興国向け製品開発に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：第８回、第９回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	ものづくりの国際拠点展開（1）	海外生産拠点の設立・運営や知識移転について学習する。	事前：教科書の第８章を読んでおくこと（1 時間） 事後：事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	ものづくりの国際拠点展開（2）	第 11 回の学習内容を踏まえて、海外生産拠点の設立と知識移転に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：教科書の第８章と第 11 回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	研究開発の国際化	海外研究開発の要因や海外研究開発拠点のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第９章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	グローバル製品開発	第 13 回の学習内容を踏まえて、グローバル製品開発に関するビデオを視聴してグループワークを行う。	事前：教科書の第９章と第 13 回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	国際的な人的資源管理	海外駐在員や現地従業員のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第 10 章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと（1.5 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目：国際経営論Ⅱ、経営学入門、マーケティング入門、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一　・林正・多田　和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	海外研究開発拠点の役割と進化　アジア新興国における日本企業の事例	畠山俊宏	三恵社
2			
3			

評価方法（基準）	第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末テスト 80%で評価する。
学生への	予習・復習を行い、グループワークに積極的に参加して欲しい。

メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	国際経営論Ⅱ	科目名（英文）	International Business II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2029a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業による新興国ビジネスを分析する能力を習得することである。現在では多くの多国籍企業が新興国市場に参入するようになっており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには新興国ビジネスに関する基礎的知識を習得することが重要となっている。本講義では、教員による講義と学生同士のグループワークを通じて、新興国を開拓するために必要となる国際経営論の基本的な知識や新興国ビジネスや新興国市場の特徴について学習する。
到達目標	①国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の新興国ビジネスを分析できる。（ＤＰ３） ②多国籍企業の新興国市場開拓プロセスに関して、論理的思考に基づいて問題を発見することができる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	パワーポイントによる解説を中心に授業を行う。学習内容に関連したグループワークを適宜実施する。
科目学習の効果（資格）	マネジメント検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際貿易の進化	本講義のガイダンスと国際貿易の概要について学習する。	事前：シラバスと教科書の第 1 章を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	海外直接投資と多国籍企業	海外直接投資と多国籍企業の概要について学習する。	事前：教科書の第 2 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	国際化の意思決定とボーングローバル	多国籍企業の国際化プロセスとボーングローバルカンパニーについて学習する。	事前：教科書の第 3 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	市場参入と集中・分散戦略	海外市場の参入形態の種類と経営資源の国際配置について学習する。	前：教科書の第 4 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	国際経営組織	多国籍企業の経営組織と海外子会社の進化について学習する。	事前：教科書の第 5 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	トランスナショナル・モデル	トランスナショナル・モデルについて学習する。	事前：教科書の第 6 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	メタナショナル・モデル	メタナショナル・モデルについて学習する。	事前：教科書の第 7 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	ネオ国際ビジネスモデル	新興国市場の重要性について学習する。	事前：教科書の第 8 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	新興市場の概要	多国籍企業の立地先としての新興国の優位性について学習する。	事前：教科書の第 9 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	東アジア市場	NIE s やＡＳＥＡＮなどの東アジア諸国の市場の特徴について学習する。	事前：教科書の第 10 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	南アジア市場	インドなどの南アジア諸国の市場の特徴について学習する。	事前：教科書の第 11 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	アフリカ市場	アフリカ諸国の市場の特徴について学習する。	事前：教科書の第 12 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
13	イスラムビジネス	ハラールやイスラム金融などのイスラームビジネスの特徴について学習する。	事前：教科書の第 13 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	BOP ビジネス	BOP ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第 14 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	グローバル・イノベーション	多国籍企業のイノベーションについて学習する。	事前：教科書の第 15 章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目：国際経営論Ⅰ、経営学入門、経営戦略論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一　・林正・多田和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末テスト 80%で評価する。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、グループワークに積極的に参加して欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	

科目名	情報科学	科目名（英文）	Information Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2030a0		

授業概要・目的	コンピュータの機能と利用法の基礎的な事柄について学ぶ。コンピュータの基礎分野に関する知識の修得は、今後の情報系の科目を修得する上での基盤となる。コンピュータによる数値、文字、画像、音声の表現方法、およびコンピュータの主要構成要素である論理回路、コンピュータの構成要素について学ぶ。また、コンピュータシステム、コンピュータを制御するオペレーティングシステム、ファイル処理、高水準プログラミング言語の特徴、プログラミングの基礎、アルゴリズム、ネットワーク等について学ぶ。
到達目標	本授業は、コンピュータ・ソフトウェアに関する理解を深め、コンピュータの構成要素であるハードウェアと基本ソフトウェアを中心に、コンピュータの機能と利用する上で理解しておくべき基礎的事項について理解する。 （１）コンピュータの仕組み、データ表現について理解する （２）アルゴリズムの基本概念について理解する （３）コンピュータの論理的構造の理解を通して論理的思考を身につけ、問題を発見する能力の基礎を構築する（ＤＰ3）
授業方法と留意点	本授業は、前半を講義形式、後半を実習形式として実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、授業内にてテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、必ず取り組むこと。実習は、グループワークにて取り組むものとし、成果物を授業内にて発表する。
科目学習の効果（資格）	・普段何気なく利用しているコンピュータの仕組みが理解できる。 ・様々なデータ処理アルゴリズムを理解できる。 ・プログラミングに必要な基礎的な力が修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、情報科学とは	・シラバスの確認（１５分） ・配布資料の予復習（１時間）
2	数値の表現	２進数、１０進数、１６進数	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
3	数値の計算と変換	ｎ進数の計算と補数表現	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
4	文字・画像・音声の表現	データの表現方法とデータ量	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
5	ハードウェアとソフトウェア	プログラムの実行と管理	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
6	プログラミング（1）	プログラムの基本概念、プロセス管理、メモリ管理、入出力管理、ファイル管理	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
7	プログラミング（2）	プログラムの作成手順とその性質	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
8	プログラミング（3）	プログラムの開発技法	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
9	アルゴリズム（1）	アルゴリズムの基本、アルゴリズム記述練習	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
10	アルゴリズム（2）	整列アルゴリズム	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
11	アルゴリズム（3）	探索アルゴリズム	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
12	アルゴリズム（4）	その他のアルゴリズム	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
13	システムの開発と運用	システム開発の運用手順と運用方法	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
14	データベース	ファイルの種類、データ構造	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
15	総括	総復習、これからの情報化社会と課題	・授業内容の振り返り（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	令和05年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室	栢木 厚	技術評論社
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（50%）、グループワークとアプリの出来栄え（50%）をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11号館７階（梅原講師室）
備考	

科目名	プログラミングⅠ	科目名（英文）	Programming Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2031a0		

授業概要・目的	当授業では、プログラミングに必要な基礎知識と Python を用いたプログラムの書き方について学習します。授業内容や課題の難易度は、プログラミングの初学者を対象としています。アルゴリズムを考えて、フローチャートを理解し、Python で簡単なプログラムが作成できる能力の獲得を目的とします。
到達目標	（1）アルゴリズムを考えてフローチャートを書くことができる（DP３） （2）Python の文法が理解できる （3）プログラミング言語を独習できる知識が身につく（DP３）
授業方法と留意点	授業資料（PDF）は、各回の授業日までに Web Folder のプログラミングⅠまたはプログラミングⅡのクラスにアップロードします。毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経営学部でプログラミングを学ぶ意義、授業の進め方、評価について	事前：シラバスを確認（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
2	プログラミングの理解（1）	ビジュアルプログラミング	事前：「ビジュアルプログラミング」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
3	プログラミングの理解（2）	アルゴリズム、制御構造	事前：「アルゴリズム、制御構造」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
4	プログラミングの理解（3）	フローチャート、変数	事前：「フローチャート、変数」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
5	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ（1）	倍数の判定、素数の判定	事前：「倍数判定、素数判定」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
6	ゲーム制作を通してプログラミングを学ぶ（2）	簡単なゲームの作成	事前：ビジュアルプログラミングを用いたゲームデザインについて調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
7	Python によるプログラミング（1）	プログラミングの基本ルール、画面出力	事前：Python の「画面出力」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
8	Python によるプログラミング（2）	式と演算、変数	事前：Python の「式と演算、変数」について調べる（30 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
9	Python によるプログラミング（3）	変数、データ型	事前：Python の「変数、データ型」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
10	Python によるプログラミング（4）	コンテナ	事前：Python の「コンテナ」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
11	Python によるプログラミング（5）	条件分岐	事前：Python の「条件分岐」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
12	Python によるプログラミング（6）	分岐構文	事前：Python の「分岐構文」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
13	Python によるプログラミング（7）	繰り返し	事前：Python の「繰り返し」について調べる（20 分） 事後：授業内容見直し（30 分）
14	総括	総復習、テスト対策	事前：これまでの内容の確認（60 分） 事後：テスト勉強（60 分）
15	期末テスト、質疑応答	期末テスト、質疑応答	事前：これまでの内容の確認（60 分） 事後：テストの振り返り（60 分）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新・明解 Python 入門 第２版	柴田　望洋	SB クリエイティブ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50%、授業中の課題 50%をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	事前学習については、授業計画を確認して予習に努めましょう。事後学習では、わからないところの理解に努めましょう。 欠席した場合は、必ず Web Folder から授業資料を取得し、自習により追いついてください。

	友達同士で教え合って、それでも解決できなければ遠慮なく質問に来てください。
担当者の 研究室等	
備考	Windows 操作（キーボード入力、テキストのコピー&ペースト、ファイルの扱い）がスムーズにできると、授業に取り組みやすいのでパソコンに慣れていない人は、「ミカタイプ」や「すし打」等でタイピング練習をしておいてください。

科目名	プログラミングⅡ	科目名（英文）	Programming II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2032a0		

授業概要・目的	当授業では、Python の基礎知識を持っていることを前提にして、経営分析に役立つプログラミング処理を学びます。 企業の財務統計データを読み込み、収益性分析、安全性分析、生産性分析、成長性分析等の計算をプログラムで実装できる能力の獲得を目的とします。
到達目標	（1）プログラミングの構成要素を説明できる （2）ファイルの入出力処理を理解できる （3）実務に応用できるプログラミング能力が身につく（DP３）
授業方法と留意点	対面授業とする。教材配布及び課題提出には Web Folder を使用する。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。
科目学習の効果（資格）	基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、統合開発環境	事前学習：シラバスを読む（30 分） 事後学習：プログラミング環境の構築手順の復習（40 分）
2	プログラミングの基礎知識（1）	プログラミングの考え方、画面出力	事前学習:Python の「画面出力」について調べる（20 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
3	プログラミングの基礎知識（2）	変数とデータ型	事前学習：Python の「変数とデータ型」について調べる（20 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
4	プログラミングの基礎知識（3）	コンテナ	事前学習:Python の「コンテナ」について調べる（20 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
5	プログラミングの基礎知識（4）	条件分岐	事前学習:Python の「条件分岐」について調べる（20 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
6	プログラミングの基礎知識（5）	繰り返し	事前学習:Python の「繰り返し」について調べる（20 分） 事後学習：授業内容見直し（60 分）
7	中間テスト	中間テスト	事前学習：これまでのおさらい（120 分） 事後学習：中間テストの振り返り（40 分）
8	中間テストの復習	中間テストの復習	事前学習：これまでのおさらい（60 分） 事後学習：授業内容見直し（40 分）
9	プログラミングの応用（1）	関数	事前学習：Python の「関数」について調べる（30 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
10	プログラミングの応用（2）	オブジェクト	事前学習：Python の「オブジェクト」について調べる（60 分） 事後学習：授業内容見直し（30 分）
11	プログラミングの応用（3）	モジュール	事前学習：Python の「モジュール」について調べる（120 分） 事後学習：授業内容見直し（60 分）
12	プログラミングの応用（4）	財務統計データ処理１	事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる（120 分） 事後学習：授業内容見直し（60 分）
13	プログラミングの応用（5）	財務統計データ処理２	事前学習：財務統計データの計算方法とその実装方法について調べる（120 分） 事後学習：授業内容見直し（60 分）
14	総復習	これまでのおさらい	事前学習：これまでのおさらい（120 分） 事後学習：授業内容見直し（60 分）
15	期末テスト、質疑応答	期末テスト、質疑応答	事前学習：これまでの内容の確認（120 分） 事後学習：テストの振り返り（60 分）

関連科目	プログラミングⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新・明解 Python 入門 第２版	柴田　望洋	SB クリエティブ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 50%、授業中の課題 50%をもとに総合的に評価します。 課題を期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点されます。
学生へのメッセージ	プログラムは数をこなさなければ身につきません。 皆さん一人一人がプログラムを学ぶ目的を見出し、積極的に予習・復習することを期待します。
担当者の	

研究室等	
備考	

科目名	経営情報システムⅠ	科目名（英文）	Management Information Systems Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2033a0		

授業概要・目的	組織の経営において、経営情報システムはもっとも重要な要素の一つである。現在の情報社会を構築し、また、発展させ続けているのは情報システムを効果的に活用している組織や団体などである。 本講義では、経営情報システムの利点に関する基本的な知識や発展の経緯を学ぶとともに、最新の技術動向についても紹介する。 SDGs-9,12
到達目標	（１）経営情報システムの重要性を説明できる （２）経営情報システムを支える技術について知識を持っている （３）経営情報システムの構築と運用における課題について説明できる DP3
授業方法と留意点	スライド資料を使いながら、事例や理論について説明する。学生が講義中に最新動向を調べて発表したり、グループによるディスカッション、ディベートなども行う。
科目学習の効果（資格）	企業経営において情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まる。 IT パスポートをはじめとする情報処理技術者試験を受験する援助となる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、情報社会と経営情報システム	予習：シラバスを読んでおく（３０分） 復習：ディスカッションの準備（１時間）
2	経営情報システムの知名度	ディスカッション テーマ「情報システムを見たことありますか？」	予習：ディスカッションの準備（１時間） 復習：ディスカッションで出た意見のまとめ（３０分）
3	企業の経営情報システム（1） ものづくりと経営情報システム	生産情報、生産管理システム、品質管理	予習：なし 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
4	企業の経営情報システム（2） 「最強」の販売員と経営情報システム	POS、需要予測、在庫管理	予習：最近の購買行動を振り返る（３０分） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
5	企業の経営情報システム（3） 身近にある経営応報システム	反転授業 グループディスカッション	予習：ディスカッションの準備（１時間） 復習：ディスカッションで出た意見の分類（１時間）
6	経営情報システムの技術（1） 経営情報システムの科学	シミュレーション、モデリング	予習：シミュレーション、モデリングと名のつくものを調べる（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
7	経営情報システムの技術（2） 経営情報システムの限界	集合知、人工知能、ビッグデータ	予習：IT の負の面を調べる（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
8	経営情報システムの技術（3） 経営情報システムの最新トピック	反転授業 グループディスカッション	予習：ディスカッションの準備（１時間） 復習：ディスカッションで出た意見の分類（１時間）
9	経営情報システムと組織（1） 経営情報システムを活性化させる組織	ナレッジマネジメント、BPR、SNS、プロジェクト管理	予習：組織的な IT 利用の例を調べる（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
10	経営情報システムと組織（2） サイバー犯罪と経営情報システム	サイバーテロ、情報セキュリティ、クラウド	予習：サイバー犯罪について調べる（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
11	経営情報システムと組織（3） 経営情報システムは必要か否か？	反転授業 グループディスカッション	予習：ディスカッションの準備（１時間） 復習：ディスカッションで出た意見の分類（１時間）
12	これからの経営情報システム（1） 経営情報システムを駆使できる人材へ	CIO、e-ラーニング、資格情報、国の方針など	予習：経営情報に関する資格や職業を調べる（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
13	これからの経営情報システム（2） 生活の豊かさと経営情報システム	RESAS 医療情報、自治体情報システム	予習：RESAS を触る（１時間） 復習：授業中に出てきた用語やキーワードをテレビやインターネットで探す（３０分）
14	これからの経営情報システム（3） 経営情報システムのこれからの価値	反転授業 グループディスカッション	予習：ディスカッションの準備（１時間） 復習：ディスカッションで出た意見の分類（１時間）

	15	まとめ	講義に関する質問への回答	予習：これまでの授業内容をまとめる（２時間）

関連科目	経営情報システムⅡ、プログラミング、ビジネスデータ分析、ビジネス IT 演習、ビジネスシミュレーション、流通情報システム

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト 経営情報システム３級 （第２版）	久保貞也	社会保険研究所
2			
3			

評価方法 （基準）	期末レポート（50%）、課題やミニレポート（30%）、授業への参加度（20%）により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく対処するので注意すること。
学生への メッセージ	経営情報は 21 世紀の経営を支える先端学問分野です。経営情報システムの重要性や面白さ、奥深さに触れて、多様な科目に興味を持ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（久保准教授室）
備考	事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合があるので授業に遅刻しないこと。 授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ３回のうち１回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待する。

科目名	経営情報システムⅡ	科目名（英文）	Management Information Systems II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2034a0		

授業概要・目的	企業経営において経営情報システムは，戦略的システムとして業務遂行に欠かせない要素の一つとなっており，組織との関わりに着目しながら理解することが求められている。この授業では，経営情報システムⅠで学習した知識を活かしながら，様々な分析手法を実際に excel によって分析を行ない，トータルとして経営情報システム構築の一端を知ることで，その理解を深める。
到達目標	経営情報システムについて，事例を通して総合的に学ぶことで社会における経営情報システムの役割について知り，経営情報システムの課題や期待について理解することができる。また，データベースを設計，開発するための知識・技能を身につけることができる。(DP3)
授業方法と留意点	ｅｘｃｅｌで演習を行ないながら授業を進める。授業では Windows の環境で進めるので，他の OS 利用者は各自で補完しておくこと。単にテキストと同じ結果が出て満足するだけでなく，それをどう活かせば経営的に良い方向へ動くのか，常に「経営者」の視点で問題を考えながら受講して欲しい。
科目学習の効果（資格）	企業経営で情報技術がどのように活用されているかについての理解が深まると共に，情報システムの設計，開発に関する知識を身につけることができる。 中小企業診断士試験を受験する援助となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本授業の方法等の確認，システムとは	テキスト第 1，2 章をを読んでおく（30 分）
2	分析リテラシー	分析とは，データの捉え方	テキスト第 3 章を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
3	データの所在と取り込み	データの所在，データの取り込み，POS システム	テキスト第 4 章を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
4	データベース（1）	ソート，検索，抽出	テキスト第 5 章の前半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
5	データベース（2）	ピボットテーブル，単純集計，クロス集計，フィルター，構成比，累計，複数集計，ドリルダウン集計，スライサー，ピボットグラフ	テキスト第 5 章の後半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
6	販売データの分析と活用(1)	Z チャート，傾向変動，季節変動	テキスト第 9 章の前半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
7	販売データの分析と活用(2)	販売計画の作成と評価，商品や部門の評価，ABC 分析，パレート分析	テキスト第 9 章の後半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
8	生産データの分析と活用(1)	在庫管理，定期発注方式，定量発注方式	テキスト第 10 章の前半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
9	生産データの分析と活用(2)	線形計画法，生産計画，輸送計画，人員配置計画	テキスト第 10 章の後半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
10	会計データの分析と活用(1)	各種経営指標	テキスト第 11 章の前半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
11	会計データの分析と活用(2)	損益分岐点分析，キャッシュフロー分析	テキスト第 11 章の後半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
12	設備投資に関する分析と活用	正味現在価値，投資シミュレーション	テキスト第 12 章を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
13	POS データの分析と活用（1）	デシル分析，RFM 分析	テキスト第 13 章の前半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
14	POS データの分析と活用（2）とまとめ	バスケット分析，トータルとしてのシステム	テキスト第 13 章の後半を読んで理解する（30 分） テキストの例題を解く（60 分）
15	全体のまとめ，最終レポート課題	全体復習，最終レポート課題	全体の内容を復習しておく（120 分）

関連科目	経営情報システムⅠ，プログラミング，ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネスデータの分析リテラシーと活用	寺島　和夫	同文舘出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題・成果物（50%），最終レポート課題（50%）をもとに総合的に評価します。 この授業は演習中心であるため，単位修得には 8 割以上の課題提出が必要となります。
学生へのメッセージ	パソコンを使った演習を取り入れながら進めますので，継続的な授業への参加を期待します。 また，授業の中で生じた疑問等の自己解決に努めるなど，積極的な参加を心がけて下さい。 学生と教員は対立関係ではありません。同じ方を向いて進んでいきます。前進してください。うしろから見守ります。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（小林研究室）
備考	

科目名	情報ネットワークとセキュリティ	科目名（英文）	Information Network and Security
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2035a0		

授業概要・目的	本講義では、社会、産業の重要なインフラストラクチャーであり、さまざまな分野で欠かせないコンピュータネットワークについて学習する。特に、ネットワークを構成する基本的な技術を整理し、どのようにして相互にデータのやりとりができるのか、それらの技術がどのように活用されているのかについて平易に解説する。また、LAN やインターネットはもとより、モバイル通信およびネットワークセキュリティの基本的考え方についても、最新の技術動向やトピックスを交えて講義する。
到達目標	・ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について学ぶことができる。 ・セキュリティ・インシデントと基本対策について学ぶことができる。 ・企業が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。(DP3)
授業方法と留意点	・授業は、教材を用いた「講義」形式で進める。 ・教材は、配布資料を使用する。 ・教材は、講義開始１週間前に WebFolder にアップロードしておく。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 IT パスポート、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメントなど IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	情報ネットワークとは	主に以下について取り上げる。 ・ネットワークの分類 ・OSI 参照モデル ・通信方式等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
2	TCP/IP の基礎（１）	主に以下について取り上げる。 ・TCP/IP ・IP、TCP、UDP ・IP アドレス等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
3	TCP/IP の基礎（２）	主に以下について取り上げる。 ・ポート ・ARP ・ルータ、デフォルトゲートウェイ等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
4	有線・無線 LAN の基礎	主に以下について取り上げる。 ・無線通信の構成、方式 ・周波数、帯域 ・無線 LAN の規格等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
5	インターネットとサービス（１）	主に以下について取り上げる。 ・インターネットの構成と接続 ・ドメイン ・DNS 等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
6	インターネットとサービス（２）	主に以下について取り上げる。 ・認証 ・Cookie ・メール配送の仕組み等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
7	インターネットとサービス（３）	主に以下について取り上げる。 ・DHCP ・IP 到達性 ・ルーティングテーブル等 ・中間テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
8	セキュリティの概念と対策	主に以下について取り上げる。 ・情報セキュリティの定義と要素 ・各種セキュリティガイドライン ・情報資産等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
9	サイバー攻撃の手法（１）	主に以下について取り上げる。 ・不正のメカニズム ・代表的なサイバー攻撃 ・攻撃者のタイプ等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
10	サイバー攻撃の手法（２）	主に以下について取り上げる。 ・サイバー攻撃の手口、メカニズム等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。

				（学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	11	サイバー攻撃の手法（３）	主に以下について取り上げる。 ・サイバー攻撃の手口、メカニズム等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	12	情報セキュリティの基礎技術と対策（１）	主に以下について取り上げる。 ・暗号化の考え方 ・暗号化の技術と種類 ・認証等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	13	情報セキュリティの基礎技術と対策（２）	主に以下について取り上げる。 ・多層防御 ・プロキシサーバ ・DMZ 等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	14	情報セキュリティの管理	主に以下について取り上げる。 ・情報セキュリティポリシー ・リスクアセスメント ・情報セキュリティガバナンス ・期末テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	15	総括	主に以下について取り上げる。 ・第 1-14 回のまとめ	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）

関連科目	情報処理関連の基礎科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネットワークがよくわかる本	福永勇二	SB クリエイティブ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・期末テスト（70~80%）、レポートもしくは小テスト（20~30%）で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（針尾教授室）
備考	テストや出席に関する不正については厳しく対応します。またテスト実施日については、講義の進行状況によって変更する場合があります。

科目名	コンピュータデータ分析	科目名（英文）	Computer Data Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2036a0		

授業概要・目的	データ分析は現在の経営活動において必要不可欠なものである。実績のデータから示される傾向や予測値とのギャップから経営活動を評価し、改善のプロセスを明らかにしていく取り組みが求められている。 しかしながら、データ分析を実践的に行うには、経営学的な知見に関わるビジネス力、データサイエンスとして統計学などの知識、および、データサイエンスを実行するためのデータエンジニアリングを同時に修得する必要がある。 本講義ではコンピュータによるデータ分析を実践的に行うために、複数のソフトウェアによるデータ分析方法を学び、それらと連動した形でテキストマイニングを利用方法も修得する。さらに、実践の場に近い状態として複数のデータベースを連結させて分析データを抽出、加工して生成するプロセスを学び、経営情報の現場に即した演習を行う。
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標である。 （１）データ分析を複数の方法で行える技能を身につける （２）データ分析の応用方法とビジネスでの提案に結びつける流れについて理解する （３）データ分析を実際に行う際に必要となる準備作業を担当できる知識を持つ
授業方法と留意点	演習は毎時間、情報処理室に導入されているソフトウェアを前提として行う。演習課題を実行しながら、現在の ICT 環境の理解を進める。実践的な分析や処理、および提案や発表を行うため、積極的な授業参加を心がけて欲しい。
科目学習の効果（資格）	情報処理技術者試験のデータベース関連の基礎知識

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、履修上の注意など	事前：シラバスを読んでくる（30 分） 事後：自宅での学習環境の構築（2 時間）
2	表計算ソフトによるデータ分析（１）	Excel での統計分析	事前：これまで Excel で習ったことの復習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
3	表計算ソフトによるデータ分析（２）	Excel での統計分析 オープンデータの利用	事前：オープンデータのサイトを見る（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
4	表計算ソフトによるデータ分析実習	反転授業	事前：発表資料の作成（1 時間） 事後：他の人の発表内容の振り返り（30 分）
5	統計ソフトによるデータ分析（１）	R による統計分析	事前：R に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
6	統計ソフトによるデータ分析（２）	R による統計分析 分析の半自動化	事前：統計分析の復習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
7	統計ソフトによるデータ分析実習	反転授業	事前：発表資料の作成（1 時間） 事後：他の人の発表内容の振り返り（30 分）
8	テキストマイニングによるデータ分析（１）	KHCoder の利用方法 テキストマイニングの分析手法	事前：KHCoder に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
9	テキストマイニングによるデータ分析（２）	FileMaker と組み合わせたスクレイピング	事前：FileMaker に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
10	テキストマイニングによるデータ分析実習	反転授業	事前：発表資料の作成（1 時間） 事後：他の人の発表内容の振り返り（30 分）
11	データベースソフトによるデータエンジニアリング（１）	RDB によるデータの結合 データクレンジング	事前：RDB に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
12	データベースソフトによるデータエンジニアリング（２）	スクリプトによるデータ処理	事前：ローコード開発に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
13	データベースソフトによるデータエンジニアリング実習	反転授業	事前：発表資料の作成（1 時間） 事後：他の人の発表内容の振り返り（30 分）
14	データの可視化	複数ソフトでのグラフ機能	事前：グラフ機能に関する予習（30 分） 事後：実習課題の復習（1 時間）
15	まとめ	講義全体の振り返り	事前：実習内容のまとめ（1 時間） 事後：今後の学習について検討（30 分）

関連科目：ＩＣＴビジネス演習Ｂ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学修レポート 50%、提出物や発表等 50%で評価する。
学生へのメッセージ	実習内容は大変だと思いますが、データ分析はこれからの重要なスキルです。頑張って授業を受けてください。
担当者の研究室等	11 号館７階　久保准教授室
備考	

科目名	コンピュータサイエンス	科目名（英文）	Computer Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2032a0		

授業概要・目的	ソフトウェアの基本的な仕組みとデータベースについて理解し、要件定義・設計・開発・検証・評価までの一連のソフトウェア開発工程を学ぶと同時に、最新の AI について OSS を活用した開発をグループワークで体験する。
到達目標	本授業は、コンピュータ・ソフトウェアに関する理解を深め、ノンプログラミングツールを用いて日常生活の不便や地域課題の解決に役立つアプリケーションを実装する考え方や手順を習得する。 （1）ソフトウェアの種類と仕組み、データ表現について理解する （2）データベースの基本的な仕組みと操作方法について理解する （3）最新の AI の開発と試行を体験し、それらの活用方法について理解する （4）ソフトウェアの開発を通して論理的思考を身につけ、問題を発見する能力の基礎を構築する（ＤＰ3）
授業方法と留意点	本授業は、前半を講義形式、後半を実習形式として実施する。講義資料は、各回の授業日までに Web Folder にアップロードする。また、授業内にてテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、必ず取り組むこと。実習は、グループワークにて取り組むものとし、成果物を授業内にて発表する。
科目学習の効果（資格）	・世の中で活躍するソフトウェアの仕組みが理解できる。 ・ノンプログラミングツールによるソフトウェアの開発技術が身につく。 ・一連のソフトウェア開発手順を理解できる。 ・AI が身近なものであることを理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、コンピューターサイエンスとは	・シラバスの確認（１５分） ・配布資料の予復習（１時間）
2	ソフトウェア（1）	OS、ファイルシステム、アプリケーション、ソフトウェア	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
3	ソフトウェア（2）	データと情報、検索システム、広告、クラウドシステム	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
4	ソフトウェア（3）	開発方法、ライブラリ、API、知的財産、オープンソース	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
5	データベース（1）	関係データベース、正規化、SQL	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
6	データベース（2）	SQL を用いたデータ検索、データ結合	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
7	データベース（3）	SQL を用いたデータ集計	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
8	データベース（4）	NoSQL データベース、CAP 定理、データモデル	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
9	アプリ開発（1）	要件定義（グループワーク）	・要件定義書の作成（１時間）
10	アプリ開発（2）	アプリ設計（グループワーク）	・設計書類の作成（１時間）
11	アプリ開発（3）	アプリ開発・検証（グループワーク）	・アプリケーションの実装（１時間）
12	AI 実践（1）	AI の仕組みと試行	・配布資料の予復習（１時間） ・授業内容の見直し（１時間）
13	AI 実践（2）	AI の独自データ学習	・学習データの収集と整備（２時間）
14	AI 実践（3）	AI 活用方法の発表	・発表資料の作成（１時間）
15	総括	総復習	・授業内容の振り返り（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養としてのコンピューターサイエンス	ブライアン・カーニハン	日経 BP
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（50%）、グループワークとアプリの出来栄え（50%）をもとに総合的に評価する。この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階（梅原講師室）
備考	

科目名	プロダクトデザインⅠ	科目名（英文）	Product Design Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2038a0		

授業概要・目的	デジタルコンテンツの作成技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、その基礎技術としてデジタル画像処理とコンピュータグラフィックスをとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。更に、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	デジタル画像処理とコンピュータグラフィックスの利用技術と生成手法について学び、情報技術を活用した多彩な表現力について習得する。
授業方法と留意点	初回に授業の説明を行うので、必ず出席すること。理由無く欠席した場合は受講する意思がないとみなす。私語等で授業の邪魔となる場合は退場並びにそれ以降の受講を遠慮してもらうので注意すること。また、この授業では、ICT を活用しながら実施する。講義資料はすべて Moodle を通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので、必ずダウンロードして授業を受けるように。プロダクトデザインⅠⅠはプロダクトデザインⅠを履修していないと合格しない。プロダクトデザインⅠⅠの履修を予定している者は、必ずこの科目を履修すること。
科目学習の効果（資格）	マルチメディア検定、CG クリエイター検定のための基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マルチメディアを用いた応用技術	ガイダンス、CG 映画、ビデオゲーム、マルチメディア通信応用システム、仮想現実感	事前学習：なし 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
2	CG の基本演習	CG 作成手順、簡単な立体形状の作成、CG 画像の実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
3	基本的なシーンファイルの設定	座標系、カメラと照明の設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
4	基本的な立体形状の作成	立体形状の作成方法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
5	物体の背景	図と地、物体背景のデザイン	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
6	物体の移動・回転・縮小・拡大	移動・回転・縮小・拡大の設定と見え方	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
7	人間の知覚特性	感覚と知覚による認知、視覚の特性、空間の認識、恒常性、錯視、立体視	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
8	理解の確認テストと質疑応答	理解の確認テスト、質疑応答、前半のまとめ	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
9	色彩表現	加法混色、減法混色、RGB/XYZ 表示系、マンセル表色系	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
10	色彩デザイン演習	立体の色彩表現	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
11	２次元画像処理の基礎	画像の標本化と量子化、2 値化処理、合成と変換、コントラストの変換、モザイク処理、特殊効果	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
12	物体の質感	さまざまな物体の質感	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
13	物体の模様とデザイン	テクスチャマッピング、模様とデザイン	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
14	理解の確認テストと質疑応答	理解の確認テスト、質疑応答	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
15	授業のまとめ	総括、振り返り	事前学習：これまでの授業の復習（2 時間） 事後学習：なし

関連科目	プロダクトデザイン II、情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の提出物 80%、理解の確認テスト 20%で評価する。
学生へのメッセージ	後期にプロダクトデザイン II を履修する場合は、必ず事前にプロダクトデザインⅠを履修すること。プロダクトデザイン II だけを受講することはできない。また、オンラインでの出席は認めない。必ず授業に出席すること。

担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	

科目名	プロダクトデザインⅡ	科目名（英文）	Product Design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2039a0		

授業概要・目的	デジタルコンテンツの作成技術は、教育、医療、経営など、我々の生活に関わるさまざまな分野で活用されている。本講義では、その基礎技術としてデジタル画像処理とコンピュータグラフィックスをとりあげ、その利用技術と生成手法について学んでいく。更に、プログラミング演習を行うことで授業内容の理解を深める。
到達目標	デジタル画像処理とコンピュータグラフィックスの利用技術と生成手法について学び、情報技術を活用した多彩な表現力について習得する。
授業方法と留意点	講義資料はすべて Moodle を通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので，必ずダウンロードして授業を受けるように。プロダクトデザインＩＩを履修する場合は、必ず事前にプロダクトデザインＩを履修していること。プロダクトデザインＩＩだけを受講することはできない。また、この授業は、情報関連分野の専門科目として情報処理の基礎科目やプログラミング演習を習得した中級者向けに講義を行っていくため、他学科の学生は授業の内容をよく確認してから受講すること。
科目学習の効果（資格）	マルチメディア検定、CG クリエイター検定のための基礎知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、CG の基本演習の復習	プログラムの書き方と実行、ワールド座標とローカル座標	事前学習：なし 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
2	模様と凹凸表現	テクスチャマッピング、バンプマッピング	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
3	カメラワークとライティング	カメラや光源の種類と設定	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
4	繰り返し処理	プログラミング言語の構文（while 文、if 文）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
5	物体の立体表現	モデリング手法　レンダリング手法	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
6	物体の CSG 表現	複雑な立体形状の作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
7	立体表現の応用	正多面体、半多面体、トーラス	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
8	立体表現のデザイン	スィープ表現、曲線表現（スプライン曲線、ベジェ曲線）、立体文字	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
9	CG アニメーション	アニメーションの原理、仮現運動、カメラワーク、動きの生成、CGA の実例紹介	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
10	CGA の制作演習	CG アニメーションの作成	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
11	理解の確認テストと質疑応答	理解の確認テスト、質疑応答	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
12	作品制作(1)	最終課題の制作演習、これまでの復習	事前学習：作品制作の準備をしておく（30 分） 事後学習：これまでの復習(30 分)
13	作品制作(2)	最終課題の制作演習、これまでの復習	事前学習：作品制作の計画・準備をしておく（30 分） 事後学習：これまでの復習(30 分)
14	作品制作(3)	最終課題の制作演習、これまでの復習	事前学習：作品制作の計画・準備をしておく（30 分） 事後学習：これまでの復習(30 分)
15	授業のまとめ	総括、振り返り	事前学習：これまでの授業の復習（2 時間） 事後学習：なし

関連科目	プロダクトデザイン I、情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の提出物 59%、理解の確認テスト 10%、最終課題 31%で評価する。
学生へのメッセージ	プロダクトデザイン II を履修する場合は、必ず事前にプロダクトデザイン I を履修していること。プロダクトデザイン II だけを受講することはできない。また、オンラインでの出席は認めない。必ず授業に出席すること。
担当者の	11 号館 8 階 堀井教授室

研究室等	
備考	

科目名	ビジネスシミュレーション	科目名（英文）	Business Simulation
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2026a0		

授業概要・目的	シミュレーションとはコンピュータを用いて現象をモデル化して実験する方法です。コンピュータの発展にともなって地球規模のシミュレーションも行えるようになってきました。 この授業ではシミュレーションの基礎を学び、その上でビジネスの現場でシミュレーションがどのように使えるかについて学びます。
到達目標	この授業での到達目標は次のとおりです。 （1）シミュレーションを構成する要素が説明できる （2）シミュレーションの有効性と限界を説明できる （3）ビジネスにおけるシミュレーションモデルの提案ができる
授業方法と留意点	コンピュータを用いた体験を含めた学習を行う。課題を多く出すため、授業への出席は必須である。 授業内ではシミュレーションの活用についてのグループディスカッションやシミュレーション自体を製作する演習なども行う。 企業・団体等の実務者によるレクチャーも検討している。
科目学習の効果（資格）	基本情報処理技術者や中小企業診断士などの情報技術と経営の実践に関する知識

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	この授業の進め方、必要とする関連知識の説明	事前：シラバスを読む（３０分） 事後：関連知識のキーワードを調べる（１時間）
2	シミュレーション概論	シミュレーションとは何かを知る	事前：シミュレーションについて過去に習った内容を見直す（１時間） 事後：購買行動について分枝限定法を試す（３０分）
3	品質情報基礎（1）	経営情報で扱う基礎的な分析技法、ＱＣ７つ道具、ヒストグラム、散布図などについて総合的に概要を整理	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
4	品質情報基礎（2）	経営情報で扱う基礎的な分析技法、ＱＣ７つ道具、ヒストグラム、散布図などについて総合的に概要を整理	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
5	販売情報分析（1）	販売動向によるデータの加工および分析、さらに今後の戦略を考えるための技法の活用方法	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
6	販売情報分析（2）	販売動向によるデータの加工および分析、さらに今後の戦略を考えるための技法の活用方法	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
7	中間グループワーク	反転授業 グループディスカッション	事前：事例報告の準備（２時間） 事後：事例に関する復習（３０分）
8	投資経済性分析（1）	原価情報と経済性分析、利益情報分析、投資プロジェクトの経済性分析などと、さまざまなシミュレーションによる問題解決の方法	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
9	投資経済性分析（2）	原価情報と経済性分析、利益情報分析、投資プロジェクトの経済性分析などと、さまざまなシミュレーションによる問題解決の方法	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
10	経営シミュレーション（1）	問題解決のためにシミュレーションによって最適解を求める技法である発注シミュレーション、日程計画シミュレーション、待ち行列シミュレーションなど	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
11	経営シミュレーション（2）	問題解決のためにシミュレーションによって最適解を求める技法である発注シミュレーション、日程計画シミュレーション、待ち行列シミュレーションなど	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
12	モデリング演習（1）	任意の方法でシミュレーションを作る	事前：シミュレートしたいものを複数用意する（２時間） 事後：シミュレーションを試す（１時間）
13	モデリング演習（2）	任意の方法でシミュレーションを作る	事前：シミュレーションの作成（２時間） 事後：発表のポイントをまとめる（３０分）
14	モデリング演習（3）	グループ発表 作成したシミュレーションの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う（１時間） 事後：聴講した発表についてまとめる（３０分）
15	本授業のまとめ	授業で習ったことの体系化を行う	事前：これまで習ったことの確認（２時間） 事後：ノートをまとめる（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	意思決定のための経営情報シミュレーション	飯島 正樹他	同文舘出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末レポート　40% 授業中の課題　40% 発表などの成果物　20%
学生への メッセージ	シミュレーションはビジネスでも日常生活でも使える有用な手法です。コンピュータの利便性を活かせるシミュレーションについて理解して、経営情報学の面白さに触れて下さい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	流通情報システム論	科目名（英文）	Distribution Information Systems
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2019a0		

授業概要・目的	流通は消費と生産を結びつける活動であり、流通によって社会経済の動きが活性化する。以前は企業の生産活動と販売活動の周辺にある物流活動は支援的な業務と見られていた。しかし、情報社会の進展と合わせて物流活動の重要性が高まり、現在ではモノやサービスを届ける活動や戦略が経営活動で大きな意味を持つようになった。 本講義では重要性を増している流通システムとそれを支える情報システムについて、基礎的な理論から実際の実例までを取り扱う。そして、地域活性化や情報社会でのモノ以外の流通についても解説を行う。 SDGs-8,9,12
到達目標	（１）身近にある流通システムの概要を説明できる （２）経営戦略としての流通の重要性を理解できる （３）物流システムの要素を説明できる （４）流通システムにおける情報技術の必要性を理解できる DP3
授業方法と留意点	授業では受講生が主体的に学ぶために質問力の養成を図る。サブテーマ３回のうち１回を反転授業として受講生の予習を前提としたグループディスカッションを計画している。積極的な授業参加と主体的な学習を期待する。 企業、公的団体の実務者による情報提供も行う場合がある。 なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。
科目学習の効果（資格）	・販売士検定３級試験の流通関連の知識

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業の進め方 ・受講者の自己紹介	事前：シラバスを読んでくる（３０分） 事後：課題提出日の確認（３０分）
2	身近にある流通（１）	・コンビニエンスストア ・ファーストフード	事前:授業内容に関連するストアを調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
3	身近にある流通（２）	・ショッピングセンター ・アウトレットパーク	事前:授業内容に関連するショッピングセンターを調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
4	身近にある流通（３）	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備（２時間） 事後:前回授業で提案した質問に対する回答を作る（１時間）
5	人が動く流通（１）	・購買行動 ・出店計画	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
6	人が動く流通（２）	・町おこし（観光政策） ・都市計画	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
7	人が動く流通（３）	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備（２時間） 事後:前回授業で提案した質問に対する回答を作る（１時間）
8	物流システム（１）	・物流センタ ・配送計画	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
9	物流システム（２）	・共同配送 ・個別配送	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
10	物流システム（３）	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備（２時間） 事後:前回授業で提案した質問に対する回答を作る（１時間）
11	情報と流通システム（１）	・情報技術と流通システム ・流通システムの情報インフラ	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
12	情報と流通システム（２）	・ロジスティクスシステム ・Web 流通システム	事前:授業内容のキーワードについて調べる（１時間） 事後：授業内容に関連するニュースや記事を探す（３０分）
13	情報と流通システム（３）	・反転授業 ・グループディスカッション	事前：事例報告の準備（２時間） 事後:前回授業で提案した質問に対する回答を作る（１時間）
14	ケーススタディ	・事例紹介 ・外部講師（調整によって変更あり）	事前：事例に関する予習（１時間） 事後：事例に関する復習（３０分）
15	本講義のまとめ	総復習	事前：ノートのまとめ（２時間） 事後：必要な部分の復習（１時間）

関連科目	「経営情報システムⅠ」、「経営情報システムⅡ」、「ビジネスシミュレーション」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末レポート（５０％）、授業中の課題やミニレポート（２０％）、反転授業やグループディスカッションでの発表（３０％）
学生への メッセージ	流通情報システムは「経営情報」によって大きく飛躍した分野です。身近にもたくさんの事例がありますから、興味を持って楽しみながら学びましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室
備考	事前・事後学習課題について授業の冒頭に Moodle やミニッツペーパーなどで確認を行うので、遅刻せずに出席すること。

科目名	消費者行動論	科目名（英文）	Consumer Behavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2042a0		

授業概要・目的	近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視角から、消費行動について基本的知識を身につけ体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。
到達目標	消費者行動論に関する基本的知識を、幅広く修得することができる。（ＤＰ３） 消費者行動論やマーケティングのスキルを理解し、活用することができる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	講義形式 『消費行動』のテキストは、第３版を準備して下さい。
科目学習の効果（資格）	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	消費者行動論の全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	消費行動の心理学的アプローチ	消費者行動を心理学的に考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の心理学的アプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	消費行動の社会学的アプローチ	消費者行動を社会学的に考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の社会学的アプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動とプロセスに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、顧客満足に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	STP アプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、高付加価値商品と消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	消費行動の歴史的変遷	消費行動の歴史的変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史的変遷に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者行動全般に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動　第３版	武居　奈緒子	晃洋書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１１号館８階　武居教授室
備考	

科目名	マーケティング戦略論	科目名（英文）	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2043a0		

授業概要・目的	マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングを捉え、学んでいきます。 知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング戦略論の考え方や基礎知識について学びます。 中小企業の経営革新や創業の支援を行った担当教員の経験を活かして、事例を使った実践的教育を行います。
到達目標	・知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング戦略の考え方について理解する。(DP３) ・身近な事例をマーケティング戦略に結び付けて考えることができる。（ＤＰ３）
授業方法と留意点	講義が中心です。教科書を利用し毎回プリントを配布します。また授業内容から小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第１章の読解（２時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】教科書第２章の読解（１時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インアーネットの影響などを考えます。	【事前学習】教科書第３章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】教科書第４章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
5	需要多様性への対応	探しだされた市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】教科書第５章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】教科書第６章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
7	新製品開発戦略	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】教科書第７章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】教科書第８章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。	【事前学習】教科書第９章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】教科書第10章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】教科書第11章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】教科書第12章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】教科書第13章の読解（1時間） 【事後学習】教科書を読み直し、次回小テストに備える（1時間）
14	事例研究１	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解（1時間） 【事後学習】事例を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているか確認をする（1時間）
15	総括	これまで学習した内容の総チェック行います。	【事前学習】これまで学習した内容の復習（３時間） 【事後学習】総チェックの結果をふりかえる（２時間）

関連科目	マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング、マーケティング演習等マーケティング関連科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門マーケティング戦略［新版］	池尾恭一	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略【新版】	沼上幹	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	提出物と小テストで 50%、総まとめテスト 50%
学生への メッセージ	教科書の予習、復習を図ることで、マーケティング知識の定着が図れます。将来、仕事でマーケティングを活かしたい人はしっかりと学んでください。
担当者の 研究室等	１１号館７階（鶴坂研究室）
備考	

科目名	メディアと社会	科目名（英文）	Media and Sociaty
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　孝文
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2044a0		

授業概要・目的	本講義では、マス・メディアからインターネットに代表されるメディアと情報通信技術の発展が近代社会の成り立ちにどのように影響を及ぼしてきたかについて、メディア研究の理論及びケース事例を参照しつつ多角的に考察する。
到達目標	各種メディアの機能、社会的役割を説明できる。 インターネットがつながる仕組みと問題について説明できる。（ＤＰ３） メディアリテラシーを身につけ、メディアが発するメッセージに対して客観性を持った評価を行うことができるようになる。
授業方法と留意点	・事前学習として、映像や資料を teams に掲載します。それらを必ず見るようにしてください。 ・授業当日は、teams クイズ→講義・演習→振り返り・課題の流れを基本とします。
科目学習の効果（資格）	・メディア変遷と産業および文化としてのメディアを理解できる ・情報メディアを介して、潜在するネット事象への関心を高め、社会的な課題が理解できる ・Web/SNS 等デジタルな手段が提供する役割・特性の相違にもとづき、デバイスやネットを使い分ける判断力が養成できる ・同僚・先輩学生と意見交換を図るためのメディアリテラシーの基礎的な素養を身につけることができる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業ガイダンス 「コミュニケーション」とは何か データ・情報・知識・理論の違い	事後学習：イントロダクション内容をまとめる（標準学習時間：1.5 時間）
2	情報社会	情報社会論 マスメディア論 マクルーハン	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
3	情報通信ネットワーク	情報通信の歴史 モバイル通信の仕組み 次世代通信「ケータイ 5G」	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
4	マス・メディア（1）	最近の公開データから読み解く、メディア事情 情報通信白書／電通白書などから	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
5	マス・メディア（2）	新聞 映画／音楽 放送（テレビ・ラジオ） インターネット 情報の信頼と信用	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
6	著作権（1）	知的財産権とは、TPP（環太平洋経済連携協定）知財分野、著作権保護期間の延長	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
7	著作権（2）	著作隣接権、著作人格権、肖像権、フェアユース、日本の n 次創作文化（コミックマーケットと同人誌）、JASRAC、改正著作権法、同一性保持権	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
8	広告・キャンペーン	広告とは、マス・メディアと広告 インターネット広告（バナー広告／検索連動型広告／行動ターゲティング広告） クチコミとインフルエンサー キャンペーン	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
9	ネットメディア（1）インターネットの変化	Web3.0 とは リアル空間／サイバー空間 NFT	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
10	ネットメディア（2）シェアリングとサブスクリプション	ロングテール、ソーシャルキャピタル、ダイナミックプライシング、サブスクリプション（継続課金）	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
11	ネットメディア（3）IoT 社会とビッグデータ、AI	すべてのモノがインターネットにつながる IoT 製品／IoT 社会 次世代通信「ケータイ 5G」ビッグデータの活用 人工知能	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
12	情報リテラシー（1）デマ・ネット炎上	災害時・コロナ禍における社会不安 インフォデミック ネット炎上	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
13	情報リテラシー（2）ネット空間における規範と秩序	誹謗中傷／炎上 法規制 情報リテラシー	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
14	これからのメディアを考える	メディアの事業変化 メディアの多角化戦略	事前学習：teams による資料共有による予習（標準学習時間：1 時間） 事後学習：まとめと振り返り（標準学習時間：1.5 時間）
15	総括	メディアと社会に関する講義総括	事前学習：これまでの講義内容を見直し質問があれ

				ばを Web フォーム入力する。(標準学習時間:1 時間)

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プロデュースの基本	木﨑賢治	インターナショナル新書
2	入門メディア社会学	井川充雄・木村忠正	ミネルヴァ書房
3	正しいコピペのすすめ	宮武久佳	岩波ジュニア新書

評価方法 （基準）	各回課題（３０％）、平常点（１５％）、期末レポート（５５％）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	デジタルメディアの登場によりメディアが個人の活動や社会とどのように変化したか、今後どのように進化していくか私たちの生活にどのような効果と影響を及ぼすのかを学習します。 またメディアの変遷として新聞・放送といったマス・メディアから学ぶことで、その違いを多様な視点から考察します。
担当者の 研究室等	横山孝文（３号館３階）
備考	・初回授業で、講義および課題の進め方の詳細の説明、学習支援ツール（Web フォーム・質問共有システムなど）の使用方法を説明するので、必ず出席してください。 ・出席は、IC 管理および teams 参加により総合的に判断します。

科目名	メディア戦略論	科目名（英文）	Media Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2022a0		

授業概要・目的	本講義では、企業のマーケティング政策における IT 導入戦略（メディア戦略）の立案・策定から導入・評価に取り組むうえで必要となる概念、フレームワーク、戦術的手法およびテクノロジーについて学ぶ。これまで IT 導入戦略の立案・策定においては、様々なアプローチや方法論が提唱されているが、ここでは企業価値及び競争優位性の向上を図ることを目指した中長期的な IT 導入戦略を重視し、主に競争戦略論で取り上げられる概念、フレームワークを中心に解説する。また IT 導入戦略の導入・評価においては、情報通信技術を導入した先進的な企業のマーケティング取り組み事例のほか、当該技術の導入効果を評価する際に用いられている評価モデルや指標についても取り上げる。
到達目標	・競争戦略論の代表的な概念、フレームワークについて説明ができる。 ・近年のマーケティング政策で導入されている代表的な情報通信技術・サービス、その動作原理について説明ができる。 ・企業のメディア戦略の概要を説明できる。 ・企業が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。(DP３)
授業方法と留意点	・授業は、教材を用いた「講義」形式で進める。 ・教材は、配布資料を使用する。 ・教材は、講義開始１週間前に WebFolder にアップロードしておく。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。 IT パスポート試験・基本情報技術者試験など IT 系の資格を取得するのに関連する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業の競争環境と経営戦略（1）	主に以下について取り上げる。 ・本講義の進め方 ・経営戦略の考え方 ・経営戦略のフレームワーク	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
2	企業の競争環境と経営戦略（2）	主に以下について取り上げる。 ・プロダクトライフサイクル ・イノベータ理論 ・価格戦略	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
3	企業の競争環境と経営戦略（3）	主に以下について取り上げる。 ・戦略策定のパターン ・プロダクトライルサイクル ・イノベーション理論	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
4	企業の競争環境と経営戦略（4）	主に以下について取り上げる。 ・コモディティ化 ・戦略策定のパターン ・後発企業の戦略	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
5	メディア戦略の理論（1）	主に以下について取り上げる。 ・顧客とは ・顧客顧客化戦略 ・顧客分析のフレームワーク	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
6	メディア戦略の理論（2）	主に以下について解説する。 ・現代マーケティングとテクノロジー ・メディア戦略のフレームワーク ・消費者行動モデル	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
7	メディア戦略の理論（3）	主に以下について取り上げる。 ・パーチェスファネルの構造 ・マーケティングメディアミックス ・テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
8	メディア戦略を支える技術（1）	主に以下について取り上げる。 ・インターネット広告 ・インターネット広告と配信の仕組み ・パーチェスファネルと広告配信	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
9	メディア戦略を支える技術（2）	主に以下について取り上げる。 ・媒体と広告の評価指標 ・広告効果の測定 ・広告効果改善の計画立案	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
10	メデイア戦略を支える技術（3）	主に以下について取り上げる。 ・ターゲティング広告の種類と方法 ・ターゲティング広告を支える技術	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容

		・顧客情報の活用と重要基盤技術	を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
11	メディア戦略の設計と立案（1）	主に以下について取り上げる。 ・環境分析と戦略立案 ・外部環境分析 ・内部環境分析	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
12	メディア戦略の設計と立案（2）	主に以下について取り上げる。 ・顧客分析 ・ペルソナ ・カスタマージャーニーマップ	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
13	メディア戦略の設計と立案（3）	主に以下について取り上げる。 ・カスタマージャーニーマップ作成方法 ・ペルソナの作成 ・カスタマージャーニーマップの作成	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
14	メディア戦略の設計と立案（4）	主に以下について取り上げる。 ・カスタマージャーニーマップの発表 ・テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
15	総括	主に以下について取り上げる ・第 1-14 回のまとめ	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）

関連科目	経営情報システム、コンテンツビジネスなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ウェブ解析士 2020		一般社団法人ウェブ解析士協会
2			
3			

評価方法（基準）	テスト（70~80%）、レポートもしくは小テスト（20~30%）で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階（針尾教授室）
備考	テストや出席に関する不正については厳しく対応します。またテスト実施日および各回テーマについては、講義の進行状況によって変更する場合があります。

科目名	コンテンツビジネス	科目名（英文）	Content Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2036a0		

授業概要・目的	本講義では、IT の急速な進展を背景として、今後高い成長が見込まれるコンテンツ（クリエイティブ）産業について学ぶ。コンテンツ産業とは、映像、音楽、ゲーム、書籍などのコンテンツの制作や流通に携わる産業の総称であり、近年、これらコンテンツ流通のグローバル化が加速する中で、その潜在力と波及効果の大きさから、我が国の主要な成長分野として強化・育成に取り組まれている。そこで、この講義では、代表的なコンテンツ業界（放送、映画、広告、出版、音楽）の産業構造、市場動向、関連法、ビジネスモデル、コンテンツ制作・流通、イノベーションについて解説する。また後半は、非コンテンツ業界（主にメーカー）によるコンテンツビジネスに向けた取り組みの最新情勢について取り上げる。
到達目標	・代表的なコンテンツ（クリエイティブ）業界の構造とビジネスモデルを説明できる。 ・日米のコンテンツ産業政策の違いについて説明できる。 ・製造業、サービス業で取り組まれているコンテンツ開発の事例を取り上げ説明できる。 ・企業が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につける。(DP3)
授業方法と留意点	・授業は、「講義中心」形式で進める。 ・教材は、配布資料を使用する。 ・教材は、講義開始１週間前に WebFolder にアップロードしておく。
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・コンテンツ（クリエイティブ）ビジネスとは ・本講義で取り上げるコンテンツ（クリエイティブ）産業について	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
2	放送業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・放送法等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
3	放送業界（2）	主に以下について取り上げる ・放送業界（1）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
4	映画業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・ビジネスモデル ・映画製作等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
5	映画業界（2）	主に以下について取り上げる ・映画業界（1）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
6	広告業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・マス広告とインターネット広告 ・ネット広告の仕組み等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
7	広告業界（2）	主に以下について取り上げる ・広告業界（1）の続き ・中間テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
8	出版業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向 ・関連法 ・電子書籍流通等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
9	出版業界（2）	主に以下について取り上げる ・出版業界（1）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
10	音楽業界（1）	主に以下について取り上げる ・産業構造 ・市場動向	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容

		・関連法 ・音楽 SNS 等	を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
11	音楽業界（２）	主に以下について取り上げる ・音楽業界（１）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
12	他業界（１）	主に以下について取り上げる ・自動車業界を取り巻く IT 環境 ・日米中の自動車市場 ・MaaS ・スマートカー等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
13	他業界（２）	主に以下について取り上げる ・時計業界を取り巻く IT 環境 ・時計のイノベーション史 ・スマートウォッチ等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
14	他業界（３）	主に以下について取り上げる ・飲料食品業界を取り巻く IT 環境 ・飲料食品メーカーによるコンテンツ開発と目的等 ・期末テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
15	総括	主に以下について取り上げる ・全体のまとめ	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）

関連科目	メディア戦略論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初回講義にて指定		
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・期末テスト（70~80%）、レポートもしくは小テスト（20~30%）で評価する。
学生への メッセージ	ウィルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想がつきませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（針尾教授室）
備考	テストや出席に関する不正については厳しく対応します。またテスト実施日および各回テーマについては、講義の進行状況によって変更する場合があります。

科目名	ブランド論	科目名（英文）	Brand Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2047a0		

授業概要・目的	身近にある「ブランド」がどのような意味を持ち、企業や私たち消費者、さらには社会にとってどのような意義を持つものなのかを、事例を使って考察していくなかで、ブランドとマーケティングの関係について明らかにすることを目的としている。
到達目標	・ブランドの意義を理解できる（DP3)。 ・ブランドとマーケティングの関係を理解する（DP3)。 ・ブランド経営の在り方について理解する（DP3）
授業方法と留意点	講義が中心だが、講義中、学生同士で議論し発表をしてもらうこともある。
科目学習の効果（資格）	リテールマーケティング資格
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ブランドが注目される理由	ブランドが企業において重要となった経緯について考える。	事前：教科書第１章を読む（１時間） 事後：ブランド拡張して成長している身近なブランドを見つけ、いつからブランド拡張を始めたのか調べる（１時間)。
2	マーケティング発想からブランド発想へ、プロダクトからブランドへ	マーケティングにおける「ブランド」の役割の重要性について考える。 商品名がブランドに転換していく過程とマーケティング戦略との関係について考える。	事前：教科書第２、３章を読む（2 時間)。 事後：身近なブランドをあげてブランドの便益①情緒②自己表現③社会性について説明する（１時間)。
3	ブランドづくりに不可欠な取り組み	ブランドづくりの過程と必要なマネジメント上の取り組みについて考える。	事前：教科書第４章を読む（１時間)。 事後：授業でとりあげたブランド「ハイチオール C」のようなブランディング手法を採用している他のブランドを見つけ、どのように展開しているか説明する（１時間)。
4	用途開発によるブランド育成	大塚製薬「ポカリスエット」を例にあげ、用途を広げながらブランドを育成する手法について考える。	事前：教科書第５章を読む（１時間)。 事後：身近なブランドで、ブランドの意味を訴求するために、パッケージデザインでどのような工夫が行われているかを考える（１時間)。
5	ブランドを成長させるマネジメント	ロングセラーブランドを生み出すマネジメント方法について考える。	事前：教科書第６章を読む（１時間)。 事後：ブランドを一つあげて、その熱烈なファン層とどのようなコミュニケーションを図ることができるかを考える（１時間)。
6	ポジショニングとブランド	マーケティングにおける STP とブランディングの関係について考える。	事前：教科書第７章を読む（１時間)。 事後：授業でとりあげた緑茶飲料市場を構成する主要なブランドを複数あげ、それぞれのポジショニングの違いを説明する（１時間)。
7	市場のカテゴリを創造するブランド	製品カテゴリを横断するブランド展開について考える。	事前：教科書第８章を読む（１時間)。 事後：授業でとりあげた GREEN　DA・KA・RA は今後、製品展開を含めどのようなマーケティングを行うべきかをまとめる（１時間)。
8	ブランド拡張を通じてのブランド進化	Ｐ＆Ｇのファブリーズを例として、ブランド拡張することで、ブランドを成長させることについて考える。	事前：教科書第９章を読む（１時間)。 事後：身の回りでブランド拡張されているものをみつけ、商品のバリエーションが増えるにつれ、ブランドの理念がどのように変化していったのかを考える（１時間)。
9	サービスブランドの育成	サービスにおけるブランド育成方法について考える。	事前：教科書第 10 章を読む（１時間)。 事後：製品ブランドとサービスブランドの違いについて考える（１時間)。
10	ブランド・ビジョンと事業	ブランド・ビジョンと事業展開の関係について考える。	事前：教科書第 11 章を読む（１時間)。 事後：ブランド・ビジョンを大事にしている会社を見つけ、どういう点でそう思うのかを説明する（１時間)。
11	技術・市場分野の拡大によるブランド進化	技術を変え、市場分野を変えながらブランドの進化を図ることについて考える。	事前：教科書第 12 章を読む（１時間)。 事後：身近なブランドを取り上げ、そのブランドが提供する経験価値の構造を考える（１時間)。
12	シグネチャー・ストーリーの観点からのブランド構築	シグネチャー・ストーリーの活用によってブランドを広く浸透させる方法について「ナイキ」を例として考える。	事前：教科書第 13 章を読む（１時間)。 事後：シグネチャー・ストーリーの観点から、コカ・コーラ、アップル、ナイキを比較し、これら企業のマーケティングに共通するものは何かを考える（１時間)。
13	ブランド・レゾナンスとビジョン	ブランド・レゾナンスについて説明したうえで、事業ビジョンが生み出すブランドとブランド・レゾナンスについて考える。	事前：教科書第 14 章を読む（１時間)。 事後：あなたが応援しているブランドに対する「応援」と思う行動にはどのようなものがあるか、なぜそのような行動をするのか考える（１時間)。
14	複数ブランドのマネジメント	ブランドを通じた消費者との長期的な関係性の構築、単一のブランドのファンに同じ企業の他ブランドのファンになってもらうことのメリットｔについて考える。	事前：教科書第 15 章を読む（１時間)。 事後：消費財のリレーションシップ・マーケティングを実施するにあたり、コミュニティ以外で消費者を囲いこむ方法にはどのような方法があるかを考える（１時間)。
15	総まとめ	これまで学習してきたことを確認するためのまとめを行う	事前：これまでの復習を行う（３時間)。 事後：まとめの点検結果をふりかえる（２時間)。

関連科目	マーケティング入門、マーケティング戦略論などマーケティングコースの科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からのブランド経営	石井淳蔵、廣田章光編著	碩学舎
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営者のためのブランド経営実践	石井淳蔵	碩学舎
2			
3			

評価方法 （基準）	・事後学習課題の提出と小テストで 50%、総まとめテストで 50%
学生への メッセージ	・事前、事後学習を行いながら授業にでて学びを深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館７階　鶴坂研究室
備考	

科目名	リテールマーケティング	科目名（英文）	Retail Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2048a0		

授業概要・目的	マーケティングとは、企業の対市場活動です。このようにマーケティングを捉えると、マーケティングの領域は幅広くなります。この講義では、その中でも、小売業に焦点を当て、リテールマーケティングの基本的知識を身につけ、基本的概念・分析枠組みについて理解を深めることを目的とします。
到達目標	リテールマーケティングの基本的知識を修得し、基本的フレームワークや概念を理解できる。(DP３)
授業方法と留意点	対面授業
科目学習の効果（資格）	小売業をマーケティングの視点から考察することができます。 リテールマーケティング（販売士）検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	リテールマーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、リテールマーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
2	マーケティングとは？	マーケティングについて、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングについて関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
3	流通とは	流通の役割について、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
4	実務家の先生をお招きして	実務家の先生をお招きしての講義になります。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通の役割に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
5	小売業とは（１）	小売業の内容と役割について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の内容と役割に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
6	小売業とは（２）	小売業の役割について、企業の具体的事例を取り上げて考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の役割に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
7	小売業の革新	小売業の革新的行動について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、小売業の革新的行動に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
8	百貨店のマーケティング	百貨店のマーケティング戦略について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店のマーケティング戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
9	スーパーマーケットのマーケティング（１）	スーパーマーケットのマーケティング戦略について、取り上げます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
10	スーパーマーケットのマーケティング（２）	スーパーマーケットのマーケティング戦略の具体的な事例を取り上げて、検討していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、スーパーマーケットの取り組みに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
11	コンビニエンス・ストアのマーケティング	コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略について、考察してきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、コンビニエンス・ストアのマーケティング戦略に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
12	中小小売商問題	中小小売商問題について、考察していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、中小小売商問題に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
13	ナショナルブランドとプライベートブランド	ナショナルブランドとプライベートブランドの相違点について、考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ナショナルブランドやプライベートブランドに関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
14	流通系列化	流通系列化の現実的問題について考えていきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通系列化に関連する内容を読みましょう。(所要時間１時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、リテールマーケティングの総復習をしておきましょう。(所要時間１時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１１号館８階　武居教授室
備考	

科目名	サービスマーケティング	科目名（英文）	Services Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2049a0		

授業概要・目的	本授業は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。 マーケティング入門、マーケティング戦略論で学んだことをさらに発展させ、とりわけ、「サービス」「消費者」の視点からマーケティングについて学んでいきます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、「ツーリズム」を含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・サービスを提供する企業のマーケティング戦略を比較・分析できる。 ・サービスを購買する消費者の購買意思決定プロセスについて説明することができる。 ・サービスを消費する消費者視点を踏まえながら、自らマーケティング戦略を策定できる問題解決力、実践力を身につける。
授業方法と留意点	・講義に加え、新製品に関するニュースなどを題材に議論することも予定しています。 ・企業における最新のマーケティングの理解を深めるために、ゲスト講師による講義を行う場合もあります。 ・詳細は、Microsoft Teams に掲載しますので、毎週、確認ください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	サービスマーケティングの概要	サービスマーケティングの概要について説明します。	【事前学習】マーケティング入門の概要について復習する(30 分)。 【事後学習】サービスマーケティングの概要について復習する(30 分)。
2	サービスの分類	サービス活動の対象と性質について理解を深めます。	【事前学習】サービス製品の特長について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの分類について復習する(30 分)。
3	サービスのタイプ	コア・サービスとサブ・サービスについて説明します。	【事前学習】サービス製品の差別化について考える(30 分)。 【事後学習】サービスのタイプについて復習する(30 分)。
4	サービスマーケティングミックス	「モノ」のマーケティングと「サービス」のマーケティングの相違について理解を深めます。	【事前学習】サービスのマーケティングの特徴について考える(30 分)。 【事後学習】サービスマーケティングミックスについて復習する(30 分)。
5	サービス・スケープ	フィジカルエビデンスの役割について説明します。	【事前学習】サービスにおける物理的環境について考える(30 分)。 【事後学習】(30 分)。サービス・スケープについて復習する(30 分)。
6	サーバクション･フレームワーク	サービスエンカウンターについて説明します。	【事前学習】サービス提供者の接遇について考える(30 分)。 【事後学習】サービスエンカウンターについて復習する(30 分)。
7	サービスの品質評価	サービスの品質評価方法について理解を深めます。	【事前学習】サービスの品質について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの品質評価について復習する(30 分)。
8	サービスの満足評価	期待と満足の関係について説明します。	【事前学習】顧客満足について考える(30 分)。 【事後学習】サービスの満足評価について復習する(30 分)。
9	インターナルマーケティング	従業員満足について説明します。	【事前学習】従業員満足について考える(30 分)。 【事後学習】インターナルマーケティングについて復習する(30 分)。
10	サービス・プロフィット・チェーン	サービス・プロフィット・チェーンについて理解を深めます。	【事前学習】サービス・プロフィット・チェーンについて予習する(30 分)。 【事後学習】サービス・プロフィット・チェーンについて復習する(30 分)。
11	サービスの購買行動	消費者の購買意思決定プロセスの概要について理解します。	【事前学習】最近購買したサービスに関する購買行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】サービスの購買行動について復習する(30 分)。
12	購買前の情報処理	消費者の内部探索･外部探索について理解を深めます。	【事前学習】購買前の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買前の情報処理について復習する(30 分)。
13	購買時の情報処理	製品やサービスに対する態度について説明します。	【事前学習】購買時の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買時の情報処理について復習する(30 分)。
14	購買後の情報処理	購買後の満足の仕組みについて説明します。	【事前学習】購買後の行動についてまとめる(30 分)。 【事後学習】購買後の情報処理について復習する(30 分)。
15	まとめ	これまでの授業を振り返ります。	【事前学習】これまでの授業の重要ポイントについて復習する(30 分)。 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末レポートに備える(30 分)。

関連科目	マーケティング入門、マーケティング戦略論、リテールマーケティング
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者行動論	青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司	有斐閣
2	観光ビジネスの新展開	福本賢太・田中祥司	晃洋書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	発表、小テスト等４０％ 期末レポート６０％
学生への メッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の 研究室等	田中研究室　１１号館８階
備考	教科書の使い方等については，第１回目の講義時にお伝えします。 各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。 Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	データサイエンスⅠ	科目名（英文）	Data Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2050a0		

授業概要・目的	近年、マーケティング戦略の立案などに際し、市場調査が頻繁に利用されている。市場調査により収集されたマーケティング・データは、企業の意思決定において様々な形で利用される。ただし、これらのデータはそのままの形では有効に利用することが難しい。よって、種々の分析手法をもって、まずは有益な情報に変換されることとなる。本講義では、このようなマーケティング・データを扱うためのデータ分析手法について、多変量解析を中心に学習する。
到達目標	１．経営諸科学に関する統計データに対し、統計的仮説検定の考え方や２変量および多変量解析の手法を学習することで、情報の収集・分析の能力を身につける。(DP３) ２．企業社会における諸問題に対し、データを分析することで得られた客観的な事実をもって対処する、問題解決力を身につける。 ３．データの特徴を理解し、適切な分析手法の適用から得られた結果や情報を、正しく相手に伝える表現力を身につける。
授業方法と留意点	本講義ではExcelおよびSPSSを使用します。 毎回の講義時に、講義内容に関連する課題を課します（Moodleからの提出)。 また、授業の連絡等にはTeamsを利用します。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目（E科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティング・リサーチとデータ分析の関係について	事後学習：配布レジュメの見直し
2	リサーチの流れとデータの役割	マーケティング・リサーチの基本知識、実行手順などについて	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
3	基礎統計	記述統計、グラフなど	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
4	仮説検定(1)	無相関検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
5	仮説検定(2)	カイ二乗検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
6	仮説検定(3)	平均値の差による検定	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
7	多変量解析(1)	回帰・重回帰分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
8	多変量解析(2)	重回帰分析を使用した需要予測	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと 8回目以降対面での授業実施
9	多変量解析(3)	時系列解析手法	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
10	多変量解析(4)	分散分析・数量化理論Ⅰ類	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
11	多変量解析(5)	SPSSを使用した多変量解析の計算手法	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
12	多変量解析(6)	判別分析・数量化理論Ⅱ類	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
13	多変量解析(7)	クラスター分析・コレスポンデンス分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
14	多変量解析(8)	主成分分析・因子分析	事前学習：前回配布レジュメの見直し 事後学習：配布レジュメを見直し、課題を解くこと
15	講義まとめ	半年間の講義のまとめと復習、質問への対応など	講義で扱った内容を見直し、しっかりと理解すること。これまでの課題を解きなおす。質問したい事項があればまとめておく。

関連科目：経営統計学、マーケティングリサーチⅡ（ビジネスデータ分析)、調査実践演習ⅠⅡ（市場調査実習ⅠⅡ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義時の課題70%、期末レポート30%
学生へのメッセージ	理解できないところを、理解できないままにしておかないこと。 わからないところは、遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	11号館8階、樋口研究室
備考	毎回の課題（演習問題）については次週の講義で解説を行う。 毎週の事前・事後学習にかける時間の目安は4～5時間程度とする。

科目名	データサイエンスⅡ	科目名（英文）	Data Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2051a0		

授業概要・目的	これからのマーケッターは、データを読む力、データを扱う力、データを分類する力、データから予測する力、そしてデータに基づいて説明する力、いわゆるデータサイエンスの力が求められる。そこで本講義では、消費者のニーズや消費行動を科学的に理解するための統計理論及び各種データ分析技法について、実習を通して実践的に学んでいく。
到達目標	・基本統計量の意味を十分理解し、実際の統計分析において利用できる。 ・SPSS/Excel を使用して基本的な統計処理・分析ができる。具体的には、基本統計量の出力、散布図等グラフ類の作表、相関分析について ・検定・推定の基本的な考え方を理解し、SPSS/Excel および手計算にて算出できる。 ・ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となる ICT 活用能力を身につける。 ・問題発見能力、情報の収集・選別・分析力を身につける。(DP１・DP２)
授業方法と留意点	・授業は、「演習」形式で進める。 ・教材は、指定教科書および配布資料を使用する。 ・指定教科書は、受講前に購入しておくこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・講義の進め方、評価について説明 ・SPSS 基本操作の確認 ・統計学基礎力テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
2	相関と回帰①	・相関係数 ・相関分析 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
3	相関と回帰②	・回帰係数 ・回帰分析 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
4	相関と回帰③	・重回帰分析 ・分析を行う上での留意事項	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
5	類型化と分類①	・判別分析 ・クラスター分析 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
6	類型化と分類②	・判別分析と重回帰分析 ・分析を行う上での留意事項	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
7	変数の縮約と潜在因子の発見①	・主成分 ・主成分分析の考え方 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
8	変数の縮約と潜在因子の発見②	・因子 ・因子分析の考え方 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
9	前半まとめとテスト	・前半まとめと ・中間テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
10	変数の縮約と潜在因子の発見③	・主成分分析と因子分析 ・分析を行う上での留意事項	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させ

			る。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
11	検定①	・検定の考え方と種類 ・独立性の検定 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
12	検定②	・1 サンプルの t 検定 ・対応のあるサンプルの t 検定 ・SPSS での操作	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
13	検定③	・分析を行う上での留意事項	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
14	後半まとめとテスト	・後半まとめと ・期末テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
15	総括	主に以下について取り上げる ・まとめ	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）

関連科目	経営統計学、ビジネス情報処理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	テスト（80%）、レポートもしくは小テスト（20%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（針尾教授室）
備考	新型コロナの感染被害状況により、対面からオンラインに切り替える場合もあります。その場合、在宅での受講条件として Excel を必要としますので、履修登録前に確認をしておいてください。 テストや出席に関する不正については厳しく対応します。またテスト実施日及び各回で取り扱うテーマについては、進行状況によって変更する場合があります。

科目名	マーケティングリサーチⅠ	科目名（英文）	Marketing Research Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金　政芸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2052a0		

授業概要・目的	現代社会では、市場調査（マーケティングリサーチ）を含む多種多様な社会調査が行われている。社会調査は調査の目的によってその方法も異なる。この講義では、調査の目的にあわせて調査方法を決定する方法から、調査の企画と実施、調査データの作成、分析と報告の方法を、実践的な例を取りあげつつ解説していく。
到達目標	社会調査の種類と調査目的に合った社会調査の方法を説明できる。(DP3) 社会調査の全体的な流れを理解する。 質問紙調査の具体的な方法を理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行われるが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。
科目学習の効果（資格）	社会調査の全体の流れを理解できるようになる。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（B 科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会調査の基礎（1）	社会調査の定義と必要性	（事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
2	社会調査の基礎（2）	社会調査の種類	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
3	社会調査の基礎（3）	量的調査と質的調査、社会調査と統計学	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
4	社会調査の企画（1）	社会調査の全体的な流れ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
5	社会調査の企画（2）	変数の定義と尺度水準、ものごとを変数として捉えること	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
6	社会調査の企画（3）	問と仮説の立て方	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
7	調査票の作成（1）	サンプリング①：無作為抽出	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
8	調査票の作成（2）	サンプリング②：サンプリングの実際	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
9	調査票の作成（3）	ワーディング①：設問の構成、回答方法	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
10	調査票の作成（4）	ワーディング②：ワーディングの注意点	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
11	調査票の作成（5）	調査票全体の構成	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習

			する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
12	調査の実施	調査実施の方法、調査時の注意点	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
13	データの作成（1）	エディティング、コーディング	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
14	データの作成（2）	アフターコーディング、エラーチェック	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする
15	データの保存と報告	データの保存方法、コードブックの作成、調査結果の報告時の注意点	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく （事後）前回の講義内容を、配布資料をもとに復習する ※事前学習時間＋事後学習時間＝1 時間を目安とする

関連科目	調査実践演習 I、調査実践演習 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	受講態度 20%、課題と試験 80%
学生への メッセージ	社会調査士資格の取得に必要な科目です。資格の取得を考えている人は必ず受講してください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　共同研究室　(5)
備考	

科目名	マーケティングリサーチⅡ	科目名（英文）	Marketing Research II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2053a0		

授業概要・目的	計量的データをもちいた分析は、統計学的な裏づけによって支えられている。この講義は、計量的な調査データを用いた実証研究に必要な統計的知識を学ぶものである。具体的に取り上げる内容は、変数の種類、代表値、Σ、分散と標準偏差、相関係数、回帰直線、確率変数、確率分布、正規分布、t 分布、χ2 分布、母平均・母分散の推定、帰無仮説、平均の差の検定、母相関係数の検定、独立性の検定、エラボレーションなどで、これらを体系的に習得することが本講義の目的である。
到達目標	１．経営諸科学に関する統計データを整理し、適切な表・グラフで表現できる。 ２．基本統計量および２変量間の関係性を理解し、数値で表現することができる。 ３．検定・推定の基本的な考え方を理解し、計算及び結果の読み取りができる。 ４．Excel 等を使用した統計分析の能力を身につける。(DP３) ５．知的専門職業人として企業社会で活躍するために、実際の情報やデータを活用し、その結果を適切に表現できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、演習を取り入れつつ授業を進める。講義内容に関連する演習問題を解くことで理解を深める。講義では適宜 Excel を利用する。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目（D 科目）である。 統計検定３級の出題範囲表（一部）に対応している。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法 変数と尺度水準	配付資料を読んでおく（30 分）
2	記述統計（１）	基本統計量のおさらい	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
3	記述統計（２）	データの読み取り グラフの作成	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
4	相関と回帰（１）	相関係数 回帰分析（１）	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
5	相関と回帰（２）	回帰分析（２） 標準化	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
6	確率分布（１）	確率論の基礎 同時確率変数	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
7	確率分布（２）	二項分布 正規分布	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
8	推測統計（１）	母集団と標本 信頼区間	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
9	推測統計（２）	統計的仮説検定の考え方 無相関検定	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
10	推測統計（３）	平均値差の検定	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
11	推測統計（４）	SPSS の使い方 さまざまな検定	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
12	２変量と多変量	SPSS による２変量解析の練習 多変量解析とは	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
13	期末課題（１）	期末レポート（１）	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
14	期末課題（２）	期末レポート（２）	事後課題に取り組む（60 分） 配布資料を読んでおく（30 分）
15	全体のまとめと復習	全体の振り返りと復習	全体の内容を見直しておく（120 分）

関連科目	経営統計学、データサイエンスⅠ（マーケティング情報解析）、調査実践演習ⅠⅡ（市場調査実習ⅠⅡ）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義時の課題 70%、期末レポート 30%
学生へのメッセージ	理解できないところを、理解できないままにしておかないこと。 わからないところは、遠慮なく質問してください。
担当者の研究室等	11 号館８階　樋口研究室
備考	毎回の課題（演習問題）については次週の講義で解説を行う。 毎週の事前・事後学習にかける時間の目安は 4～5 時間程度とする。

科目名	商業簿記	科目名（英文）	Commercial Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2054a0		

授業概要・目的	1年次で学習した内容をさらに発展させた簿記および会計学の知識を養成することを目的とする。具体的には日商簿記２級の商業簿記を中心に、より実践的な会計知識を学習する。
到達目標	令和６年度以降の日本商工会議所簿記検定２級（商業簿記）レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。(DP1) 企業の財務諸表を読み解き、財政状態および経営成績を概括することができる。(DP3)
授業方法と留意点	日商簿記２級の商業簿記の内容を中心に授業を進める。また関連する日商簿記３級の内容も適宜扱うが、全てを取り上げることが難しいため、簿記３級レベルの知識を有していることが望ましい。授業の前半では当該テーマの解説を行い、後半では問題演習を行う。商業簿記２級で扱われるテーマは非常に多岐にわたるため、受講を円滑にするためには毎授業ごとに予復習を行うことが必須である。 詳細な留意点に関しては初回授業時に説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定２級の合格を目指す。 ただし、当該検定に合格するには、本講義に加えて、２級レベルの工業簿記も習得する必要がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて復習認する。教科書のテーマ０、１をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。また質問があれば準備しておくこと。
2	商品売買	教科書のテーマ２に従い、簿記３級範囲の商品売買の復習とともに、返品や割引などに関する演習を行う。	教科書のテーマ２をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること。（1.5時間）
3	現金および預金	教科書のテーマ３に従い、現金預金に関連する項目の演習を行う。	教科書のテーマ３をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
4	債権・債務	教科書のテーマ４に従い、クレジット売掛金や電子記録債権・債務などの債権・債務に関連する項目の演習を行う。	教科書のテーマ４をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
5	有価証券	教科書のテーマ５に従い、有価証券に関する知識を整理する。	教科書のテーマ５をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
6	有形固定資産	教科書のテーマ６、７に従い、有形固定資産の取得や減価償却などに関する知識を整理する。	教科書のテーマ６、７をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
7	リース取引	教科書のテーマ８に従い、リース取引の知識を整理し、問題演習に取り組む。	教科書のテーマ８をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
8	無形固定資産等と研究開発費、引当金	教科書のテーマ９、１０に従い、無形固定資産等および引当金に関する問題演習を行う。	教科書のテーマ９、１０をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
9	外貨換算会計、税金	教科書のテーマ１１、１２に従い、外貨換算会計および税金に関する知識を整理する。	教科書のテーマ１１、１２をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
10	課税所得の算定と税効果会計、株式の発行	教科書のテーマ１３、１４に従い、株式の発行に関する知識を整理し、問題演習に取り組む。	教科書のテーマ１３、１４をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
11	剰余金の配当と処分、株主資本等変動計算書	教科書のテーマ１５に従い、剰余金に関する知識を整理し、株主資本変動計算書を概括する。	教科書のテーマ１５をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
12	決算手続き（１）	教科書のテーマ１６の中でも、株主資本変動計算書に重点をおいて問題演習に取り組む。	教科書のテーマ１６をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
13	決算手続き（２）	教科書のテーマ１６に従い、決算手続きを概説し、精算表の作成に取り組む。	教科書のテーマ１６をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
14	収益の認識基準	教科書のテーマ１７に従い、税効果会計に関する知識を整理する。に従い、税効果会計に関する知識を整理する。	教科書のテーマ１７をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。
15	本支店会計、合併と事業譲渡	教科書のテーマ１８、１９に従い、税効果会計に関する知識を整理する。に従い、税効果会計に関する知識を整理する。	教科書のテーマ１８、１９をしっかり「予習」しておくこと（1.5時間）。 当該テーマを「合格トレーニング」で演習すること（1.5時間）。

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	合格テキスト 日商簿記２級 商業簿記	TAC 簿記検定講座	TAC 出版
2	合格トレーニング 日商簿記２級 商業簿記	TAC 簿記検定講座	TAC 出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末考査　70%、授業で出題する課題　30% 課題の受験方法等に関しては、初回講義で説明をする。
学生への メッセージ	商業簿記２級で扱う内容は３級に比べて非常に多岐にわたるものであるが、会計知識はビジネス言語とも呼ばれ、企業の経済活動を解釈するうえで非常に有用なツールである。早い段階で応用的な簿記・会計学の知識を習得することは社会に出てからも非常に有用である。 予復習をしっかりと行い、主体的に授業へと参加することが望ましい。
担当者の 研究室等	11 号館８階伊瀬研究室
備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 講義受講にあたって、スマートフォンなどネット接続可能な端末を平常点計算のために使用する。 上記の説明および講義に関する詳細な留意点に関しては初回授業時に説明するので、必ず出席すること。

科目名	工業簿記	科目名（英文）	Industry Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業(メーカー)を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な内部取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、複式簿記に加えて原価計算の利用も必要となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
到達目標	①　工業簿記および原価計算の意義を理解した上で、製品の原価計算に必要なデータとはどのようなもので、それらをどのように収集していくかについての知識を身につける。(DP3) ②　工業簿記および原価計算の基本事項を理解し、日商簿記検定２級程度の工業簿記の記帳ができるようになる。(DP2)
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を行う。授業計画に従い、各回の授業テーマについての解説を行う。毎回解説を行ったうえで、学生の理解度を知るため授業後半 20 分程度を使ってその日にやったテーマに関する小テストを実施する。小テストの答え合わせは、次の回の授業の最初に行う。小テストを受ける際には、電卓が必要になることがあるので、授業には電卓を持ってくること。 また、授業で用いる補足資料のプリントは、事前に Teams や Moodle で掲示するので各自プリントアウトして授業に持参すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定２級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと簿記の基本事項の確認	授業の内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、複式簿記の基本事項の確認(仕訳など)	事前：借方・貸方の区別や仕訳などの簿記の基本事項を復習しておく(4 時間) 事後：簿記の基本事項のうち苦手箇所を再度復習する(2 時間)
2	工業簿記の基礎	工業簿記と原価計算、原価計算の目的、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
3	原価計算の基礎	原価の一般概念、原価の諸概念、原価要素	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
4	材料費の計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
5	材料費の計算(2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
6	労務費の計算(1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
7	労務費の計算(2)	消費賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
9	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
10	部門別計算(2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
11	部門別計算(3)	補助部門費の配賦	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
13	総合原価計算(1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
14	総合原価計算(2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった例題の復習をする(1 時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(2 時間)。 事後：特に苦手な部分を復習する(4 時間)。

関連科目	簿記入門、財務会計論、管理会計論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生へのメッセージ	講義についてわからないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)

備考	Moodle のコース名 および登録キーについては、授業の際に周知します。

科目名	財務会計論Ⅰ	科目名（英文）	Financial Accounting Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2056a0		

授業概要・目的	財務会計とは、企業の財政状況や経営成績を株主や債権者等の利害関係者に伝達することを目的に、企業活動を認識・報告することであり、会計あるいが会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれる。企業の経済活動を正確に理解するためには、この「ビジネス言語」を正しく読み取る能力が必要である。この講義の目的は、財務諸表がどのように作成されているのかを理解し、作成された財務諸表をどのように活用すべきかを学習することである。
到達目標	財務諸表を作成する一連の流れを理解し、作成された財務諸表から企業活動の概要を読み取ることができるようになることを目指す。(DP1) また、その知識を応用して財務諸表に示された会計情報を用い、自ら投資判断を行うことができるようになることを本講義の目的とする。(DP3,4)
授業方法と留意点	本講義の受講に当たっては、日商簿記２級、３級の商業簿記の基礎的知識を習得していることが望ましい。 配布する資料をもとに授業を進める。 授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。 詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定試験２級以上、税理士試験、公認会計士試験、ファイナンシャル・プランナーの資格取得に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明、会計の意義	本講義の進め方および講義予定を説明する。また、財務会計の種類と目的に関する概括を行う。	会計の種類と目的について自分なりに調べておくこと（1時間)。
2	財務会計への法規制と財務会計の役割(1)	日本の財務会計と会社法、金融商品取引法および法人税法との関係性を解説する。また、財務会計が担う役割についてを説明する。	会計の役割を整理しておくこと（１時間)。 「トライアングル体制」および財務会計の役割を整理しておくこと（1.5時間)。
3	財務会計への法規制と財務会計の役割(2)	財務会計において重要な役割を担う公認会計士制度に関しての説明を行う。また、公認会計士資格およびその業務内容に関する説明を行う。	公認会計士が担う役割を理解しておくこと（０．５時間)。 公認会計士資格およびその業務内容について整理する（１．５時間)。
4	財務会計のシステムと基本原則	複式簿記の構造や損益計算、資産評価の基本原則を説明する。	財務会計が担う役割を理解しておくこと（０．５時間)。 損益計算および資産評価の基本原則を整理しておくこと（１．５時間)。
5	株式会社の設立と資金調達	株式会社の設立にかかる一連の流れを説明するとともに、自己資本と他人資本について解説する。	自己資本と他人資本について整理しておくこと（1時間)。
6	社債	企業の資金調達法の一つである社債について詳細に説明を行う。	社債に関する知識を整理しておくこと（１時間)。
7	仕入・生産活動	企業の営業循環を説明するとともに、仕入・生産活動に関連する企業活動を概観する。	企業の仕入・生産活動および原価、人件費などを整理しておくこと（１時間）
8	販売活動	売上の認識と測定法や売上原価の計算方法、棚卸資産の期末評価を解説する。	企業の仕入・生産から販売までの営業循環を整理しておくこと（2時間)。
9	固定資産	固定資産の種類や取得についてを解説する。また、研究活動と特許等の無形固定資産に関する説明を行う。	固定資産の種類や取得についてを整理しておくこと（２時間)。
10	減価償却	固定資産の価値減耗の認識法である減価償却に関する説明を行う。	減価償却の概要とその具体的な方法を整理しておくこと（２時間)。
11	財務諸表の作成	財務諸表の作成にかかる一連の流れを整理するとともに、報告式と勘定式による表示法を解説する。	財務諸表の作成の流れと表示されている情報が何を示しているのかを整理しておくこと（２時間）
12	クリーン・サープラス関係	貸借対照表と損益計算書に関する概括を行うとともにそれら二つの繋がりであるクリーン・サープラス関係に関する説明を行う。	貸借対照表と損益計算書に関する知識を整理しておくこと（１時間)。 貸借対照表と損益計算書の繋がりを整理しておくこと（１時間)。
13	財務分析	財務分析を行う上で、重要となる指標をいくつか説明する。また、財務分析をより簡便的に行うことができる比例縮尺財務諸表の見方を説明する。	貸借対照表と損益計算書に関する知識を整理しておくこと（1時間） 自ら興味のある企業の比例縮尺財務諸表を確認しておくこと（１時間）
14	事例研究（１）	実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行い、その結果に関する議論を行う。	「財務分析」で用いた資料を確認しておくこと（1時間)。
15	事例研究（２）	実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行い、その結果に関する議論を行う。	第12回で用いた資料を確認しておくこと(1時間)。

関連科目	会計情報特論,会計情報分析論,管理会計論,財務会計特論,中小企業会計論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計・入門	櫻井　久勝、須田　一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計講義(第23版)	櫻井　久勝	中央経済社

	3			

評価方法 （基準）	期末レポートの評価　７０％、毎授業で出題する課題の成績３０％
学生への メッセージ	本講義により会計の基礎的知識を習得することは、公認会計士あるいはファイナンシャルプランナー等の受験に役立つ他、就職活動ひいては就職後においても有用なものとなる。また、自らの資金運用としての投資判断にも役立つものであるので、主体的に授業へと参加してもらいたい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(伊瀬研究室)
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 スマートフォンなどのネット接続可能な端末を平常点計算のために使用するので、必ず持参すること。 上記の使用方法およびその他の詳細な留意事項に関しては初回授業で説明する。

科目名	財務会計論Ⅱ	科目名（英文）	Financial Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2057a0		

授業概要・目的	財務会計とは、企業の財政状況や経営成績を株主や債権者等の利害関係者に伝達することを目的に、企業活動を認識・報告することであり、会計および会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれる。企業の経済活動を正確に理解するためには、この「ビジネス言語」を正しく読み取る能力が必要である。 この講義では、財務会計論Ⅰの内容を前提に、株主資本等変動計算書の作成方法や財務諸表分析などを学習し、より実践的に財務諸表を活用できるようになることを目的とする。
到達目標	財務諸表で示されている会計情報を正しく理解することで、企業の実態に関する概要を把握することができるようになることを目標とする。(DP1) また、各財務指標などを用いて投資判断を行うことができるようになることを目指す。(DP3,4)
授業方法と留意点	受講に関しては、日商簿記３級レベルの基礎知識を習得していることおよび財務会計論Ⅰを受講していることが望ましい。 配布する資料をもとに授業を進める。 授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。 詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	簿記検定試験２級以上、税理士試験、公認会計士試験、ファイナンシャル・プランナーの資格取得に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明、財務会計の役割	本講義の進め方および講義予定を説明する。また、財務会計論Ⅰの内容を概括する。	財務会計論Ⅰの資料を復習しておくこと（1時間）
2	財務諸表の作成（1）：キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書の意義とその作成法および示されている情報の解釈についてを説明する。	キャッシュ・フロー計算書の作成法について整理しておく（２時間）
3	キャッシュ・フローと会計発生高	当期純利益とキャッシュ・フローの関係性を解説するほか、当期純利益の非現金収支部分である会計発生高の性質に関する説明を行う。	キャッシュ・フローと会計発生高についてを整理しておく（１時間）。
4	財務諸表の作成（2）：株主資本等変動計算書	第四の財務諸表とも呼ばれる株主資本等変動計算書の内容を概説するとともにその作成法に関する説明を行う。	株主資本等変動計算書について自分なりに調べておくこと（１時間）。 株主資本等変動計算書やキャッシュ・フロー計算書が作成される意義について整理しておくこと（１時間）。
5	財務諸表の作成（3）：株主資本等変動計算書	株主資本等変動計算書の作成方法を説明し、数値例を用いて問題に取り組む。	株主資本等変動計算書の作成方法を復習しておくこと（１時間）。 授業で配布する問題に取り組む（１時間）。
6	財務諸表による経営分析（1）	財務会計論Ⅰで扱った指標も踏まえて、より詳しく財務諸表分析、特に安全性を行う方法を紹介する。	財務会計論Ⅰで扱った指標を復習しておくこと（１時間）。 各指標の意味と計算方法を整理しておくこと（１時間）。
7	財務諸表による経営分析（2）	財務諸表分析により企業の収益性を分析する方法を紹介する。	各指標の意味と計算方法を整理しておくこと（１時間）。
8	財務諸表による経営分析（3）	財務諸表分析により企業の収益性を分析する方法を紹介する。その中でも特に、ROE に着目して解説を行う。	各指標の意味と計算方法を整理しておくこと（１時間）。
9	ケーススタディ：財務諸表による経営分析(1)	実際の企業データを用いて、企業の収益性、安全性および成長性を分析し、その内容に関する検討を行う。	実際の企業データから財務分析を行い、自らの解釈を行うこと（３時間）
10	ケーススタディ：財務諸表による経営分析(2)	実際の企業データを用いて、企業の収益性、安全性および成長性を分析し、その内容に関する検討を行う。	実際の企業データから財務分析を行い、自らの解釈を行うこと（３時間）
11	ケーススタディ：日本企業の国際比較	実際の企業データを用いて、日本企業が国際的にどのような位置づけにいるのかを概観する。	伊藤レポートの内容について整理すること（１時間）。
12	利益マネジメント、会計不正とその実例	企業が利益を恣意的に操作して報告を行うことが確認されている。なぜそのような行動をとるのか、またそのことによる社会への影響を実例を踏まえて考察する。	利益マネジメントの種類とその影響を整理しておくこと（１時間）。 会計不正が行われた実例とその影響を調べておくこと（２時間）。
13	自主的開示、会計基準の国際統合	近年、企業は情報を自主的に開示することがある。なぜこのような行動を企業がとるのかを解説する。また、グローバル化に伴い、会計基準がどのように変化していくのかを考察する。	自主的に開示を行なっている企業を調べ、その内容を整理すること（1時間）。 会計基準の変遷について整理すること（1時間）。
14	ESG 投資	環境、社会への取り組みなどを投資判断に織り込む ESG 投資に関する解説および ESG 投資が投資活動全体にもたらす影響を考察する。	ESG投資とは何かを事前に調べておくこと(1時間)。 ESG 投資を促進するような行動をとる企業の実例を調べること（1時間）。
15	講義の総括	第１回から 14 回で学習した内容の概括を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと（２時間）。

関連科目	企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論、財務会計論Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定なし		
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計・入門	櫻井　久勝、須田　一幸	有斐閣アルマ
2	財務会計講義(第 23 版)	櫻井　久勝	中央経済社
3	財務会計の理論と実証	ウィリアム　R　スコット　訳：太田　康広　椎葉　淳　西谷順平	中央経済社

評価方法 (基準)	期末レポートの評価　７０％、講義内で出題する課題　３０％
学生への メッセージ	講義により会計の基礎的知識を習得することは、公認会計士あるいはファイナンシャルプランナー等の受験に役立つ他、就職活動ひいては就職後においても有用なものとなる。また、自らの資金運用としての投資判断にも役立つものであるので、主体的に授業へと参加してもらいたい。
担当者の 研究室等	11 号館８階(伊瀬研究室)
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 スマートフォンなどのネット接続可能な端末を平常点計算のために使用するので、必ず持参すること。 上記の使用方法およびその他の留意事項に関しては、初回講義で説明する。

科目名	連結会計論	科目名（英文）	Consolidated Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	IDD2058a0		

授業概要・目的	現代の企業は集団を形成して経済活動を行っている。したがって，企業を分析するためには，企業集団の経営成績，財政状態を把握する必要がある。この講義では，企業集団の経営成績，財政状態を表す連結財務諸表の作成方法を学習することにより，企業集団の経済活動に対する理解を深める。
到達目標	①連結財務諸表の作成方法を学ぶことで，企業集団の開示する情報を理解する(DP2)。 ②連結会計のルールを，その背後にある考え方を意識して学習することによって，体系的に物事を捉える能力を培う(DP3)。
授業方法と留意点	講義資料等は Moodle 上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定，公認会計士試験，税理士試験において有意義な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の概要についての説明	事前：シラバスの確認(30 分) 事後：講義資料の復習(30 分)
2	個別財務諸表の作成 1	企業活動の会計についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
3	個別財務諸表の作成 2	個別損益計算書，個別損益計算書の作成	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
4	連結会計の概要	連結会計の概要についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
5	資本連結 1	連結貸借対照表の作成（100%子会社の場合）についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
6	資本連結 2	連結貸借対照表の作成（部分所有の場合）についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
7	資本連結 3	支配獲得後第 1 期における連結損益計算書の作成についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
8	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の準備(60 分) 事後：試験の復習(30 分)
9	資本連結 4	子会社配当金の修正についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
10	資本連結 5	支配獲得後 2 期目の連結についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
11	成果連結 1	内部取引，債権・債務の相殺消去についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
12	成果連結 2	未実現利益の消去(ダウン・ストリーム)の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
13	成果連結 3	未実現利益の消去(アップ・ストリーム)の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
14	総合問題	総合問題の演習と解説	事前：講義資料の予習(30 分) 事後：練習問題の復習(30 分)
15	振り返りとまとめテスト	振り返りとまとめテスト	事前：試験の準備(120 分) 事後：試験の復習(60 分)

関連科目：商業簿記，会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 2 級	TAC 株式会社(簿記検定講座）編著	TAC 出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務会計論	梅原秀継	白桃書房
2	実証会計・ファイナンス　R による財務・株式データ分析	笠原晃恭・村宮克彦	新生社
3			

評価方法（基準）	確認テスト 20%，中間試験 30%，まとめテスト 50%（15 回目の講義で実施）で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	管理会計論Ⅰ	科目名（英文）	Management AccountingI
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2032a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計の意義・役割について学んだ上で、標準原価計算や予算管理など伝統的な管理会計の諸技法の基礎知識を身につける。
到達目標	①　財務会計情報との違いを知ったうえで、管理会計情報の特質について理解する。 ②　管理会計情報を用いて、企業の問題点の発見や解決をするための基礎知識を身につける。(DP3)
授業方法と留意点	教科書を用いて、講義形式で対面授業を行う。授業計画に従い、各回の授業テーマについての解説を行う。毎回解説を行ったうえで、学生の理解度を知るため授業後半 20 分程度を使ってその日にやったテーマに関する小テストを実施する。小テストの答え合わせと解説は、次の回の授業の最初に行う。小テストを受ける際には、電卓が必要になることがあるので、授業には電卓を持ってくること。 また、授業で用いる補足資料のプリントは、事前に Teams や Moodle で掲示するので各自でプリントアウトして授業に持参すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定２級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび原価計算の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、原価計算の基本事項の確認	事前：教科書の「第１章　原価計算の意義」を読んでおく(2 時間)。 事後：教科書の「第１章　原価計算の意義」の内容をノートに整理する(2 時間)
2	管理会計の意義(1)	企業会計とは何か、財務会計と管理会計の相違	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
3	管理会計の意義(2)	管理会計の体系(業績管理会計と意思決定会計)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
4	標準原価計算(1)	原価管理の意味、標準原価計算の意義と目的、標準原価の種類	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
5	標準原価計算(2)	原価標準の設定、原価差異の分析(直接材料費、直接労務費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
6	標準原価計算(3)	原価差異の分析(製造間接費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
7	損益分岐点分析	損益分岐点分析の意義、損益分岐点の計算方法、原価の固変分解	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
8	直接原価計算	直接原価計算の意義、直接原価計算の計算構造、直接原価計算と経営管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
9	予算管理(1)	予算管理の意義、予算管理の機能	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
10	予算管理(2)	予算の種類と体系、予算の編成、参加的予算管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
11	予算管理(3)	予算統制と予算実績差異分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
12	差額原価収益分析(1)	経営意思決定の意義と分類、経営意思決定のプロセス、特殊原価概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
13	差額原価収益分析(2)	業務執行的意思決定と差額原価収益分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
14	設備投資の経済性計算	戦略的意思決定の意義、設備投資案の評価方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(4 時間)。 事後：今までやった内容の中で特に苦手な部分の復習をする(4 時間)。

関連科目：工業簿記、財務会計論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生への メッセージ	講義について分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	Moodle のコース名および登録キーについては、授業の際にも周知します。

科目名	管理会計論Ⅱ	科目名（英文）	Management AccountingII
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2033a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計論Ⅰの内容を理解していることを前提にして、原価企画や ABC など 1980 年代後半から登場してきた戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計の領域の諸技法について学んでいく。
到達目標	①　伝統的な管理会計と戦略管理会計の相違点について理解する。 ②　戦略管理会計から得られる情報を用いて、経営戦略の遂行・修正に必要な分析を行うための基礎知識を身につける。(DP3)
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を行う。授業計画に従い、各回の授業テーマについての解説を行う。毎回解説を行ったうえで、学生の理解度を知るため授業後半 20 分程度を使ってその日にやったテーマに関する小テストを実施する。小テストの答え合わせは、次の回の授業の最初に行う。 小テストを受ける際には、電卓が必要になることがあるので、授業には電卓を持ってくること。 また、授業で用いる補足資料のプリントは、事前に Teams や Moodle で掲示するので各自プリントアウトして授業に持参すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定１級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび管理会計の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等の説明、管理会計の基本事項の確認	事前：教科書の「第２章　管理会計の意義」を読んでおく(3 時間) 事後：教科書の「第２章　管理会計の意義」の内容をノートに整理する(1 時間)。
2	原価企画(1)	原価企画の定義、原価企画の目的と特徴	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
3	原価企画(2)	原価企画の基礎概念とプロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
4	原価企画(3)	目標原価の設定方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
5	原価企画(4)	VE による目標原価の達成活動	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
6	原価企画(5)	原価見積による設計代替案に対する経済性の評価、マイルストーン管理、原価企画の課題	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
7	ABC(1)	ABC の意義、ABC の特質、ABC の基礎概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
8	ABC(2)	ABC の計算構造、ABC による製品原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
9	ABC(3)	ABM の意義、活動分析、原価作用因分析、業績分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
10	ABC(4)	ABB の意義、ABB における予算編成プロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
11	バランスト・スコアカード(1)	バランスト・スコアカードの意義、バランスト・スコアカードの基本構造	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
12	バランスト・スコアカード(2)	因果連鎖、戦略マップ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
13	バランスト・スコアカード(3)	バランスト・スコアカードによる戦略の具体化と監視、バランスト・スコアカードによる戦略のコントロール	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
14	ライフサイクル・コスティング	ライフサイクル・コスティングの意義、ライフサイクル・コストの特徴、ライフサイクル・コストのマネジメント	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(1 時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容をしっかり復習する(6 時間)。 事後：難しかったテーマについてもう一度復習する(2 時間)

関連科目：工業簿記、管理会計論Ⅰ、財務会計論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)と定期試験の点数（70%）に基づいて評価する。
学生への メッセージ	講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	Moodle のコース名および登録キーについては、授業の際に周知します。

科目名	会計情報分析論	科目名（英文）	Financial Statement Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2034a0		

授業概要・目的

・　企業は誕生してから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり，会計情報には企業がおこなった経済活動が反映されている。
・　会計情報を理解すれば，企業がどのような経済活動を行い，利益を獲得したのかその仕組みを理解することができる。

到達目標

・　企業の財務諸表などの会計情報を収集することができる。(DP3：情報の収集)
・　基本財務諸表である貸借対照表と損益計算書の会計情報を用いて,資金調達から利益獲得までの企業がおこなう諸活動の全体像が理解できる。(DP3：論理的な思考力)
・　企業の安全性，収益性，効率性を分析することができる。(DP3：分析力)
・　企業内部の利害関係者である管理者や経営者の観点から，問題を発見し，改善策が提案できる。(DP3：問題を発見する能力)

授業方法と留意点

原則対面授業を実施するが，オンライン授業ツールである Moodle と Teams を利用する。
・　講義レジュメ→Moodle から事前入手（必ず持参すること）
・　講義スライド→Moodle から事後閲覧（講義後、必要に応じて活用）
・　小テスト→Teams の「講義日」チャンネルで実施
・　連絡事項→Teams の「連絡用」チャンネル

☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。
☆　病気や体調不良による欠席届は、必ず１か月以内に、診断書とともに、対面で提出してください。
☆　学生証による出席確認ができなかった出席訂正は、講義日当日分のみ授業内で申し出てください。

科目学習の効果（資格）

中小企業診断士，証券アナリスト，ファイナンシャルプランナー，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要	事前：配布資料の入手と確認（30 分） 事後：授業アンケート（10 分）
2	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト①（20 分）
3	貸借対照表と資本	企業の資金調達の状態と財務諸表の入手方法	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト②（20 分）
4	百分率貸借対照表と推移比分析	百分率貸借対照表の作成と推移比分析	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト③（20 分）
5	貸借対照表と安全性分析	企業の安全性と改善策	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：復習（60 分）
6	安全性と改善策	課題①（BS を用いた安全性分析）	課題①（120 分）
7	報告式損益計算書と勘定式損益計算書	勘定式損益計算書と段階別利益	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト④（20 分）
8	百分率損益計算書と利益率	百分率損益計算書と趨勢比分析	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑤（20 分）
9	収益性と改善策	収益性を向上させる改善策	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑥（20 分）
10	産業別損益計算書	産業別損益計算書の特徴	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑦（20 分）
11	収益性と改善策	課題②（PL を用いた収益性分析）	課題②（120 分）
12	収益性と効率性	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑧（20 分）
13	投下資本利益率の要因分解	ROA の 2 分解と要因分析	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑨（20 分）
14	デュポン展開と資本コスト	ROA のデュポン展開と資本コスト	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：小テスト⑩（20 分）
15	収益性と効率性	講義まとめと課題③（＝最終テスト、BS と PL を用いた収益性と効率性分析）	事前：講義資料の確認（30 分） 事後：最終テストの確認（120 分）

関連科目

企業簿記（簿記入門），財務会計論，管理会計論，企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない。講義資料（スライド，レジュメ等）は Moodle からダウンロードし利用すること。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日本経済新聞社

評価方法（基準）

★原則基準１：小テスト 20%＋課題①20%＋課題②20%＋最終テスト 40%
・　小テストは Teams から 10 回ほど実施予定
・　課題及び最終テストは対面で実施予定
☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。

学生へのメッセージ

会計情報分析論では，経営者の立場から，企業経営の問題点について検討し，改善策を提案できることを目標とする。経営者になる・なったつもりで講義に挑んでほしい。

担当者の研究室等

11 号館７階　呉研究室

備考

科目名	ファイナンスⅠ	科目名（英文）	Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2062a0		

授業概要・目的	現代は人生100年時代と言われ、長い人生を過ごすためにはお金の計画的なやり繰りが必要です。ファイナンスⅠではお金の基礎知識やお金を取り巻く環境について扱います。 人は生きていく上でお金を利用します。働いてお金を受け取り、モノやサービスの消費に使います。消費以外にも投資という形でお金に働かせ活かすこともできます。さらに消費や投資のためお金を借りることもあります。 ファイナンスとは端的に言えばお金の管理を意味し、学問としてのファイナンスとは消費や投資・借入に際し、お金をいかに管理すべきかを論じた分野です。お金の管理と言えば企業のそれを想起するかもしれませんが、個人や家計でも重要です。今はその重要性が分からなくても、社会に出れば否応なくファイナンスの重要性を認識するようになるでしょう。 本講義はこのようなファイナンスの基礎を学んでいただきます。
到達目標	１．金利、貨幣、リスクおよび金融商品に関する情報を分析できるようになる。(DP３) ２．資金調達・資産運用の窓口となる金融機関の特徴や金融市場を論理的思考を通して考えられるようになる。(DP３) ３．長期資産運用に関し、論理的観点からのポイントが分かるようになる 。(DP３)
授業方法と留意点	１．講義は対面式で進めます。 ２．毎回の構成は、①対面式で受講、②事後学習（復習、テスト)、③事前学習（予習、テスト）です。①は50分程度、②は30程度、③は残り10分程度プラス帰宅後学習時間を想定しています。 ３．資料は講義開始１週間前以前に配布します。つまり講義時には当回に加え次回の資料も配布されています。 ４．資料の配布はOneNoteのクラスノートブック（大学支給のOffice365の機能の一つ)で行います。クラスノートブックへのアクセスの仕方や使い方等については第１回目講義で説明します。なお、OneNoteはペーパレス化に向け格段に進化しており、非常に便利です（可能ならばタブレットPCを持参してください)。 ５．漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teamsのチャネル「質問箱」に書き込んでも結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。
科目学習の効果（資格）	金融経済動向に関する情報やデータを分析するための基礎的能力が身につく。FP資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンスⅠで学ぶ内容を概観し、ファイナンスが身近な存在であることを述べる	事前：特になし 事後：課題と事後テスト
2	ファイナンスの重要性	人生におけるお金の問題について考える	事前：配布資料による予習と事前テスト、事後：復習と事後テスト（計１時間）
3	貨幣（お金）とは	現代の貨幣（通貨）について解説し、貨幣と物価の関係について解説する	事前：教科書（第２、４章、pp.27-42,62-63）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と小テスト（計1.5時間）
4	お金と時間の仲介役：金利（１）	金利とは何か、単利と複利、実質利子率と名目利子率、利子率の決定要因等を解説する	事前：教科書（第３章、pp.43-52）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
5	お金と時間の仲介役：金利（２）	現在価値と将来価値、債券価格の決定と金利の関係、利回り等を解説する	事前：教科書（第３章、pp.52-55）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認と、マーケットデータを読む際の注意点を述べる	事前：教科書（第３章、pp.55-60）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	事前：教科書（第１２，１３章、pp.194-222）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計２時間）
8	中間試験	前回までのまとめとして試験を行う	復習しておくこと
9	金融システム概観	金融システムの役割や日本の金融システムについて解説する。なお、講義冒頭で前回中間試験について解説する。	事前：教科書（第１、７章、pp.11-21,109-110）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
10	日本の金融サービス業（１）	保険会社の機能や実態について解説する	事前：教科書（第８章、pp.130）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
11	日本の金融サービス業（２）	銀行の機能や実態について解説する。また公的金融機関についても解説する。	事前：教科書（第７、８章、pp.110-129,137-144）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計２時間）
12	日本の金融サービス業（３）	証券会社、証券取引所、格付け機関等、株式や債券といった有価証券を取り扱う機関について解説する	事前：教科書（第８章、pp.130-136）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計２時間）
13	ファイナンスの基礎理論（１）	ポートフォリオ理論の前提となる期待収益率、リスク、投資機会集合について解説する	事前：教科書（第１４章、pp.223-230）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計２時間）
14	ファイナンスの基礎理論（２）	ポートフォリオ理論の前提となる投資家の選好を解説し、資産運用の基礎を解説する	事前：教科書（第１４章、pp.223-230）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）
15	ファイナンスの基礎理論（３）	現代ファイナンス論の基礎となるCAPMについて言及の後、現代ファイナンス論の論点である効率的市場仮説やアノマリーについて述べる	事前：教科書（第１４章、pp.223-230）と配布資料による予習・事前テスト、事後：復習と事後テスト（計1.5時間）

関連科目	経営学関連科目、ミクロ経済学、ファイナンスⅡ、コーポレートファイナンスⅠ・II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシックプラス　金融論　第３版	家森信善	中央経済社
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	１．事前テスト(20%)+事後テスト(20%)+期中試験(30%)+期末試験(30%)で評価します。 ２．評価対象となるためには、２試験の受験、11 回以上の出席（含む期中試験）が必要です。必要に応じテスト・試験にパスワードを設定するかもしれません。 ３．質問を積極的にする学生には加点します。 ４．評価に係る計算方法等詳細は初回講義で説明します。
学生への メッセージ	企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっています。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	テストや試験の結果は返却し解説を付記しているので必ず見直してください。

科目名	ファイナンスⅡ	科目名（英文）	Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2063a0		

授業概要・目的	本講義の目的は次の通りです。①ファイナンスＩの知識をもとに、個人・家計レベルのファイナンスに関する初歩的・実践的な能力を修得します。すなわち、「お金を借りる・返す」や「資産運用」について、初歩から始めて可能な限り実践に則した事例や考え方について解説し演習を行います。②コートレート・ファイナンスで必要となる基礎知識を修得します。なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実について適宜言及します。
到達目標	１．住宅資金借入に関する情報を収集し分析の上、借入計画が立てられるようになる。(DP３) ２．資産形成・運用に関する情報を収集し分析できるようになる。(DP３) ３．コーポレートファイナンスで用いるCAPMの考え方が分かるようになる。(DP３)
授業方法と留意点	講義は対面式で進めます。ただし、状況を鑑みて他の方法に切り替える場合もあります。 毎回の構成は、①事前学習（予習、小テスト)、②対面式で受講（含む演習)、③事後学習（復習と小テスト）です。資料の配布は、Microsoft Teams経由でOneNoteのクラスノートブック（大学支給のOffice365の機能の一つ)で行い、クラスノートブックにしたがって学習を進めていきます。クラスノートブックへのアクセスの仕方や使い方等については第１回目講義で説明します（動画を準備します)。なお、OneNote はペーパレス化に向け格段に進化しており、非常に便利です（可能ならばタブレットやノートPCを持参してください)。 また、漠然と出席するのではなく、予習・復習を行い、疑問点は迷うことなく質問し解決してください。講義中でも良いし、Teamsのチャネル「質問箱」に書き込んでも結構です。質問など積極的姿勢は高い学習意欲の表れとして評価の対象でもあります。
科目学習の効果（資格）	資金借入や資産形成・運用に関する初歩的かつ実践的な能力が身につく。 FP資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンス II で学ぶこと、Teams によるオンライン形式を予定	事前：特になし 事後：　復習と小テスト
2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計1.5時間）
3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計1.5時間）
4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と課題１（計２時間）
5	資産運用の基礎知識（１）	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
6	資産運用の基礎知識（２）	現代ポートフォリオ理論	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
7	資産運用の基礎知識（３）	理論の限界、より実践へ	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と課題２（計２時間）
8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	事前：配布資料による予習（小テストはなし)、事後：復習と小テスト（計1.5時間）
9	株式投資（１）	日本の株式市場、投資とトレード	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
10	株式投資（２）	資金管理	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と課題３（計２時間）
11	株式投資（３）	リスク管理	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
12	株式投資（４）	エッジについて	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と課題４（計２時間）
13	株式投資（５）	理論的根拠について	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
14	株式投資（６）	分析手法について	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計２時間）
15	再考：資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	事前：配布資料による予習・小テスト、事後：復習と小テスト（計１時間）

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンスI,II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則、事前学習小テスト(20%)+事後学習小テスト(20%)+課題(30%)+全講義終了後の試験(30%)で評価します。単位取得には全講義終了後の試験受験が必須です。ただし、学習意欲（注意：出席率ではありません）の顕著な学生には加点します。詳細は初回講義で説明します。
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっています。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を期待します。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	事前学習小テストの解説は講義中に、事後学習小テストや課題の解説はMoodle経由で行います。特に間違えた点については何故違ったのかを確認してください。

科目名	コーポレート・ファイナンスⅠ	科目名（英文）	Corporate Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2037a0		

授業概要・目的	企業は経済活動を行うにあたって様々なマーケットと関係性を持っている。コーポレート・ファイナンスでは、その中でも「お金」のマーケットとの関係性に注目することで、どのような金融活動を行うことが企業にとって最適かを分析する。 本講義の目的は、コーポレート・ファイナンスの基礎概念を理解することである。具体的には、コーポレート・ファイナンスの基本的な理論を学習後に、基礎理論に基づいた分析ツールを用いて事例研究を行い、結果に関する評価および議論を行う。
到達目標	企業の経営活動にとって欠かすことのできないコーポレート・ファイナンスの基本概念を理解し、資本コストなど企業を分析する上で必要な数値を自ら算出することができる。(DP3)
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。コーポレート・ファイナンスで学習する内容をより実践的に身に付けるためには、授業で紹介した理論等を用いて自ら計算することが必要である。そのため、適宜出題する練習問題等を授業の事前および事後に積極的に取り組むことが望ましい。 詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	企業への就職を希望する者や起業を志す者にとっては、企業の財務活動の基本的概念を理解することができる。また、公認会計士、証券アナリストなどの資格試験範囲にも関連している。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	コーポレート・ファイナンスの基礎的内容および本講義の概要を説明する。	講義で配布する資料に目を通し、コーポレート・ファイナンスが企業活動の中でどのような領域を扱うのかを整理しておくこと（２時間）。
2	会計とファイナンス	コーポレート・ファイナンスを理解する上で重要な会計とファイナンスの基礎知識を概説するとともに、両者のつながりや違いなどについてを解説する。	会計とファイナンスがどのような内容を扱うかを自分なりに整理しておくこと（１時間）。 会計とファイナンス、それぞれの目的および違いについて整理しておくこと（１時間）。
3	財務諸表（１）	企業の財政状態や経営成績が示されている財務諸表に関する概説を行い、投資家の目線から企業の状況をどのように把握するのかについてを解説する。	財務諸表とはどのようなものかを参考文献等で事前に調べておくこと（１時間）。 財務諸表がどのような目的で作成されるのか、また財務諸表にどのような情報が示されているかを整理しておくこと（１時間）。
4	財務諸表（２）	財務諸表に基づいた企業分析についてを概説する。また、実際の企業データから簡易的な財務分析を行う。	第３回で配布した資料を復習し、財務諸表に関する知識を整理しておくこと（1 時間）。実際の企業データを用いて簡易的な財務分析を行うこと（1 時間）。
5	資金調達	企業の資金調達の手段である債権および株式に関する基礎知識を解説するとともに、これらの資金調達活動がどのように違うのかを分析する。	直接金融と間接金融について参考文献等で事前に調べておくこと（１時間）。 債権と株式の特徴および両者の違いについて整理しておくこと（2 時間）
6	資本コスト（１）	企業の資金調達活動を理解する上で重要な資本コストという概念を解説する。	企業の視点および投資家の視点から資本コストがどのような意味を持つかを事前に調べておくこと（１時間）。 負債の資本コスト、株式の資本コストおよび、加重平均資本コストを整理し、それぞれの関係性を理解すること（2 時間）。
7	資本コスト（２）	資本コストを算出する上で重要な CAPM に関する説明を行う。また、実際のデータでこのモデルを活用する。	第６回で配布した資料を復習し、資本コストに関する知識を整理しておくこと（2 時間）。 実際の企業データを用いて簡易的な資本コスト推定を行うこと（1 時間）
8	現在価値	ファイナンスの基礎知識である現在価値の概要を説明する。	現在価値とは何か、どのような意味を持つのかを事前に調べておくこと（１時間）。 現在価値について、配布資料をもとに整理しておくこと（１時間）。
9	現在価値：演習（1）	現在価値に関する問題を演習する。	授業で配布する現在価値を用いる練習問題に取り組むこと（1.5 時間）。
10	現在価値：演習（2）	現在価値に関する問題を演習する。	授業で配布する現在価値を用いる練習問題に取り組むこと（1.5 時間）。
11	企業の投資決定(1)	企業の投資決定方法を解説する。具体的には NPV 法の計算方式に関する解説を行う。	講義で配布する練習問題に取り組むこと（1.5 時間）。
12	企業の投資決定(2)	企業の投資決定方法を解説する。具体的には IRR 法の計算方式に関する解説を行う。	講義で配布する練習問題に取り組むこと（1.5 時間）。
13	企業の資本構成と配当政策（1）	配当政策に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの理論を用いて、資本構成が企業価値に与える影響を考察する。	資本構成が及ぼす企業価値および株主価値への影響を整理しておくこと（２時間）
14	企業の資本構成と配当政策（2）	配当政策に関する基礎理論であるモディリアーニ・ミラーの理論を用いて、資本構成および配当政策が企業価値に与える影響を考察する。	税金およびデフォルトコストを考慮した場合に、資本構成が企業価値および株主価値に及ぼす影響を整理しておくこと（２時間）
15	最終試験・解説、質疑応答	第１回目から第 14 回目までの内容を踏まえた最終試験を実施する（60 分）。その後、試験内容の解説および質疑応答を行う。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと（２時間）。

関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定なし		

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コーポレート・ファイナンス入門＜第２版＞	砂川 信幸	日経文庫
2	知識の基盤になるファイナンス	石橋 尚平 高橋 陽二 内木 栄莉子	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	最終試験 70%， 毎授業内で出題する課題 30% 最終試験は、第 15 回講義内で対面にて実施する予定であるが、状況によればオンライン環境下でのネット試験とする可能性がある。変更が生じた場合は、速やかに周知を行うので、初回講義で指定する所定の連絡媒体をこまめに確認しておくこと。
学生への メッセージ	コーポレート・ファイナンスで扱う内容には、聞きなれない専門用語が多分に含まれ、難解に感じるかもしれない。しかし、その仕組みや理論をしっかりと理解すれば、実社会でも役立つ有用なツールとなる。そのため、毎授業ごとに予復習を行うことが望ましい。
担当者の 研究室等	伊瀬研究室（11 号館 8 階）
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 スマートフォンなどのネット接続可能な端末を平常点計算のために使用するので、必ず持参すること。 上記の使用方法およびその他の留意事項に関しては、初回講義で説明する。

科目名	コーポレート・ファイナンスⅡ	科目名（英文）	Corporate Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2038a0		

授業概要・目的	企業は経済活動を行うにあたって様々なマーケットと関係性を持っている。コーポレート・ファイナンスでは、その中でも「お金」のマーケットとの関係性に注目することで、どのような金融活動を行うことが企業にとって最適かを分析する。 コーポレート・ファイナンスⅡではコーポレート・ファイナンスⅠで学んだ知識を前提として、より発展的な内容を扱うとともに、事例研究を通して実践的な知識を紹介する。 本講義の目的は、企業の財務行動を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し、より実践的な経営学的素養を培うことである。
到達目標	企業の金融活動を正しく理解し、企業における実社会のさまざまな意思決定や行動が、企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自分なりに、評価し、判断することができる。(DP3,4)
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を進める。 授業では事例研究等を行う予定であるので、主体的に授業に取り組むことが望ましい。 詳細な留意点は初回授業で説明するので、必ず受講すること。
科目学習の効果（資格）	企業への就職を希望する者や起業を志す者にとっては、企業の財務活動の基本的概念を理解することができる。また、公認会計士、証券アナリストなどの資格試験範囲にも関連している。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の概要説明	講義の概要説明を行うとともに、コーポレート・ファイナンスⅠで扱った内容を概括する。	コーポレート・ファイナンスⅠにおいて説明した現在価値の意味とその算定方法を復習しておくこと（2時間）。
2	企業価値評価(1)	企業価値に関する解説を行うとともに、企業価値評価法の概要および純資産法を解説する。	企業価値とは何かを事前に調べておくこと（1.5時間）。 授業資料を復習し、それぞれの企業価値評価法を整理しておくこと（1.5時間）
3	企業価値評価(2)	市場において成立する価格をもとにする「マーケット・アプローチ」による企業価値評価法を概説し、その中でも「マルチプル法」に焦点を当てて解説する。	マルチプル法が使用された事例を新聞記事等で調べておくこと（１時間）。 授業で配布する練習問題に取り組み、マルチプル法を修得すること（１時間）
4	企業価値評価(3)	市場において成立する価格をもとにする「マーケット・アプローチ」による企業価値評価法を概説し、その中でも「マルチプル法」に焦点を当てて解説する。	授業で配布する練習問題に取り組み、マルチプル法を修得すること（１時間）
5	企業価値評価と理論株価(1)	配当割引モデルに基づいた企業価値評価法を説明する。	CAPM および DDM 法を整理しておくこと（2時間）。
6	企業価値評価と理論株価(2)	DDM（配当割引モデル）法を用いた企業価値評価法および理論株価の算出方法を解説したのちに練習問題を通して、理論への理解を深める。	DDM 法を整理し、特徴および問題点に関する議論を受講生同士でディスカッションすること（3時間）。
7	企業価値評価と理論株価(3)	DCF 法を用いた企業価値評価法および理論株価の算出方法を解説したのちに練習問題を通して、理論への理解を深める。	DCF 法を整理しておくこと（2時間）。
8	企業価値評価と理論株価(4)	DCF 法の演習問題およびケーススタディに取り組む。	DCF 法を整理し、特徴および問題点に関する議論を受講生同士でディスカッションすること（3時間）。
9	企業価値評価と理論株価(5)	講義で解説した企業価値評価法全体を概括し、練習問題に取り組む。	講義内で配布する演習問題に取り組み、企業価値評価法を整理しておくこと（２時間）。
10	ROE と財務分析(1)	ROE という収益性指標が何を示しているのかを解説する。	ROE について事前に調べておくこと（１時間）。 ROE の算出方法を整理すること（１時間）
11	ROE と財務分析(2)	ROE を分解する「デュポン展開」に関する解説を行う。	デュポン展開について事前に調べておくこと（１時間）。 講義で配布する練習問題に取り組むこと（１時間）。
12	ROE と財務分析(3)	ROE を分解する「デュポン展開」に関する解説を行う。	デュポン展開の各構成要素が何を示しているのかを整理すること（２時間）。
13	ROE と財務分析：ケーススタディ	実際の企業データを用いて、デュポン展開を行い、その結果に関する解釈および議論を行う。	興味のある企業を選定し、自らデュポン展開を行うこと（３時間）。
14	日本企業の今とこれから	日本企業の ROE およびデュポン展開の各構成要素の数値を他国の数値と比較し、日本企業がどのような位置づけにいるのかを確認するとともに、今後の展望を考察する。	伊藤レポートの内容を整理すること（1.5時間）
15	最終試験、解説・質疑応答	第１回目から第 14 回目までの内容を踏まえた最終試験を行う(60 分)とともに、その解説・質疑応答を行う(30 分)。	これまでの授業内容で理解できていない部分などを事前に把握しておくこと（２時間）。

関連科目：簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『特に指定なし』		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コーポレート・ファイナンス入門＜第２版＞	砂川 信幸	日経文庫
2	知識の基盤になるファイナンス	石橋 尚平 高橋 陽二 内木 栄莉	中央経済社

			子	
	3			

評価方法 （基準）	最終試験　70%，講義内で出題する課題 30% 最終試験は第 15 回講義内で対面にて実施予定であるが、状況によればネット環境下での受験に形式を変更する可能性がある。変更が生じた場合は速やかに周知するので、初回講義で指定する講義の連絡媒体をこまめに確認しておくこと。
学生への メッセージ	コーポレート・ファイナンスで扱う内容には、聞きなれない専門用語が多分に含まれ、難解に感じるかもしれない。しかし、その仕組みや理論をしっかりと理解すれば、実社会でも役立つ有用なツールとなる。そのため、毎授業ごとに予復習を行うことが望ましい。
担当者の 研究室等	伊瀬研究室（11 号館 8 階）
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 スマートフォンなどのネット接続可能な端末を平常点計算のために使用するので、必ず持参すること。 上記の使用方法およびその他の留意事項に関しては、初回講義で説明する。

科目名	ベンチャービジネス論	科目名（英文）	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2066a0		

授業概要・目的	新規事業の着想から，ビジネスモデルの構築，そして実際の起業に至るまでの諸課題や実務についての講義，並びに各界における起業経験者の体験談を聞き，起業の実際，事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。 【担当教員実務経歴】 ・金融機関勤務（本部企画部・本店営業部与信業務） ・ベンチャー投資財団（投資業務） ・監査法人（ＶＢ株式上場コンサルティング） ・ベンチャー企業監査役（複数社） ・静岡大学大学院教授（ベンチャー創出支援事業）
到達目標	「起業」そのものを自身の将来の照準として身近に捉えられるよう、新規ビジネスの必要性について学び、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	授業時における小レポートについて ◆毎回提示する小レポートにおける［設問１］（授業内容に関する設問）により、当日の授業内容を整理し理解を深めること。 ◆小レポートの［設問２］（授業内容についての質問事項および要望）は、回答を付け一覧表にして次回以降での授業時に資料配付するので、情報共有として疑問点と回答を読み再整理すること。
科目学習の効果（資格）	自身が取り組むべき課題の明確化により、将来、取得すべき専門知識としての資格について整理し、計画的な取得が望めます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 起業家教育を受ける理由	＜事後＞ Team 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間） ＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分）
2	起業家を取り巻く社会システム	社会ステークホルダーとの関係と戦略・戦術の基本的考え方	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
3	起業家としての経営的視点と意思決定	起業家に求められる資質と法人組織の役割	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
4	ベンチャー企業における組織体制	株主との関係と戦略的医師決定手法の考え方	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
5	市場参入における環境分析能力	事業ドメインの設定と経営資源の有効活用	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
6	事業における知財戦略	事業の核となる知財の有効活用とさの仕組みに関する基本的考え方	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
7	企業成長に必要な収益モデリング	財務の基本的考え方と起業成功事例研究	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
8	事業プランニング	起業計画に必要な基本的整理事項の理解	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
9	＜非常勤講師＞① ベンチャー起業家による実務体験	ベンチャー立ち上げの動機から事業展開に至るまでの課題とその解決の考え方。	＜事前＞ 非常勤講師に関する情報をネット等で調査した上で、質問事項の検討（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）

10	＜非常勤講師＞② ベンチャー起業家による実務体験	ベンチャー立ち上げの動機から事業展開に至るまでの課題とその解決の考え方。	＜事前＞ 非常勤講師に関する情報をネット等で調査した上で、質問事項の検討（30 分） ＜事後＞ Tems 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
11	＜非常勤講師＞③ ベンチャー起業家による実務体験	ベンチャー立ち上げの動機から事業展開に至るまでの課題とその解決の考え方。	＜事前＞ 非常勤講師に関する情報をネット等で調査した上で、質問事項の検討（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
12	＜非常勤講師＞④ ベンチャー起業家支援機関による実務	業家支援の立場で求められる起業家像について、対談方式にて説明。	＜事前＞ 非常勤講師に関する情報をネット等で調査した上で、質問事項の検討（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
13	ベンチャー起業家におけるリスク認識	起業家に伴う様々なリスクをどのように認識し、低減させるかについての考え方	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
14	事業管理の考え方	起業家に必要な資質である企業管理者としての役割	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
15	事業継続ノウハウ	事業継続と成長に向けての考え方	＜事前＞ 授業で提示した次回予習項目について、ネット等を活用した事前学習（30 分） ＜事後＞ Teams 録画視聴による復習と授業で学んだキーワードを調べることによる再認識（1 時間）

関連科目

ビジネスプランニング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①毎回の小レポートによる評価（50%）
毎回の授業後に提示する小レポートの設問１について、自身の考えに基づく回答を評価する。また、設問２の質問事項については、質問者を匿名にて次回の授業に全員に質問内容とその回答票を提示します。更に事前予習項目の提出をもって加点評価とします。
②期末定期試験（50%）
講義全般についての設問を提示します。全て記述式により自身の回答を記載してもらいます。

学生へのメッセージ

①毎回の小レポート設問の考え方
次回授業の冒頭にて解説をします。なお、設問に対する回答は「正解」「不正解」を問うものではなく、小レポートに記載した自身の考えを評価します。
②非常勤講師について
担当する非常勤講師については、講師の都合や調整により前後する場合があります。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　林研究室

備考

毎回の講義資料は Teams にアップしますので、授業回翌週の火曜日までに各自、ダウンロードしておくようにして下さい。期末定期試験では当該講義資料（紙ベース）での持ち込みは可です。なお、講義資料は毎週火曜日に次回の講義資料と入れ替えますので承知して下さい。

科目名	ビジネスプランニング	科目名（英文）	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3040a0		

授業概要・目的	企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。 シミュレーション（成果物）は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表（４期分）の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。 【担当教員実務経歴】 ①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社） 【SDGs－.9】(産業と技術革新の基盤を作る) ⑤ベンチャービジネスプラン審査員（複数機関） ⑤文部科学省「EDGE-NEXT（ベンチャー創出）事業　実務担当者
到達目標	将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。（ＤＰ４）
授業方法と留意点	【授業形態】演習講座（チームディスカッション） チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行ういます。 各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が事前に見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修は避けて下さい（全回出席を原則とします）。
科目学習の効果（資格）	ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。 販売市場分析能力。 組織の一員としての役割認識と遂行能力。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは？	講座ガイダンス（演習方法・評価方法） 事業計画策定の留意点および考え方。 授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事後＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1時間）
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。	＜事前＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1時間） ＜事後＞チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理（30分）
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	＜事前＞チームでの成果物（創業事業計画書、資金繰り表）の提出（１時間：チーム単位） ＜事後＞プレゼンテーションデータの作成（１時間：チーム単位）
13	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位でのプレゼンテーションデータの作成および修正	＜事前＞プレゼンデータの確認（１時間） ＜事後＞プレゼン発表練習（各自担当部分）（１時

	プレゼンテーション事前練習		間）
14	プレゼン発表（1） （3～4 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。
15	プレゼン発表（2） （3～4 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。

関連科目	ベンチャービジネス論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	①プレゼン発表によるチーム単位での評価（評価割合：80%） 「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。 なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。 ②期末レポート（評価割合：20%） チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習（シミュレーション）により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。
学生への メッセージ	通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。 就活の面接時における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。 なお、欠席が事前に見込まれる学生については、チーム単位での演習に付き、チームメンバーに迷惑等が生じますので、履修は避けて下さい（全回出席が原則）。
担当者の 研究室等	１１号館７階　林研究室
備考	自身のパソコンでの履修が可能な学生（各自、自身のＰＣノートを持ち込んでディスカッションしてもらいます）。 「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。 定員制ではありませんが、演習講座に付き毎回 の出席が難しい方は履修を避けて下さい。欠席があると評価対象から外れます。

科目名	知的財産管理論	科目名（英文）	Intellectual Properties Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDS2037a0		

授業概要・目的	近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。 戦略的且つ、組織的な研究開発の推進により創出される企業の新たな価値（知の潜在成長力）である知的財産権の活用方法、管理体系について学びます。 【SDGs-９】（産業と技術革新の基盤をつくろう） 【担当教員実務経歴】 ①地域金融機関（本店営業部　ベンチャー新規事業融資審査担当） ②新日本監査法人（ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価） ③ベンチャー投資財団（株式公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導） ④静岡大学（知的財産本部副本部長　研究シーズ、特許等の出願、管理に係る指導業務）
到達目標	知的財産の代表格である特許権の他、著作権、製品企画・販売戦略に必要な商標権、コンテンツビジネスに係わる価値（知財権）の戦略的活用法の基礎的知識を会得し、将来、企業における無形資産管理専門人材としての育成を目指します。（ＤＰ４） 社会活動における知的財産権の法的効力を理解した企業人を目指します。（ＤＰ４）
授業方法と留意点	当該授業内容に関する資料を Teams のチャネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。 毎回、講義内容に関する質問（小レポート）を提示します。指定時限までに提出してもらいます。 毎回授業の最終で次回の予習項目を提示しますので、各自、事前に学習してきて下さい。
科目学習の効果（資格）	文科系分野の人材であっても、技術、発明等による製品、商品の活用手法、および法令遵守による事業遂行に係る留意すべき点を認識し、将来の企業での業務に役立てることができます。 特に、身の回りにある製品や商品の販売戦略、海外への進出等に必要な管理手法を会得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 知的財産とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 社会で活躍する知財人材とは？ 小レポート設問による授業内容の再確認。	＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30 分）
2	知的財産制度 知的財産の種類と機能	制度としての必要性と消費生活における知的財産の役割 小レポート設問による授業内容の再確認。	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
3	知的財産制度 知財権の法的保護	企業における知的財産の活用手法と企業内戦略組織の組立 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
4	知的資産の流出防止と企業戦略	ニーズ志向での知財戦略 知的活用での知財戦略 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
5	文科系色の知的財産権創出の考え方	ビジネスモデルと差別化知財戦略における留意点 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
6	ノウハウの管理手法と企業内知財の取扱法務	営業秘密（不正競争防止法）と 職務発明（事例研究）の考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
7	知的財産権の法的効力と活用	独占禁止法と知的財産法との関係性 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
8	知的財産権創出における知財市場調査手法	知的財産権調査の考え方 知的財産権調査の実践（目的別） 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
9	企業財務における知的財産権の位置づけ	知財価値評価説明のための財務基礎知識 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
10	知的財産の経済的価値評価	知財価値評価のための考え方とその必要意義 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
11	知財ファイナンスのための金融投資手法の基礎	金融投資基礎知識と知財ファイナンスの基礎 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
12	知的財産権の侵害行為と防御手法	侵害訴訟の考え方と法的対応策 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
13	知財出願実務と契約手法	出願実務および契約実務の留意点 小レポート設問による授業内容の再確	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。

		認	＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
14	国際ライセンス手法と法務 国際標準規格の考え方	国際ライセンス条約と国際標準化 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業の用語についてネットや新聞等を活用した事前学習（30 分）。 ＜事後＞Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。
15	総論 アニメ著作権における事業活動	知財立国としての知財の考え方（まとめ） 小レポート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（３０分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	知的創造活動と知的財産	工業所有権情報・研修館	工業所有権情報・研修館
2			
3			

評価方法（基準）

①毎回の小レポート内の［設問１］に対する回答評価（評価割合：50%）
授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。また小レポート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合、および予習項目について事前に調べてきた方は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。
②期末試験（評価割合：50%）
知的財産権の基本的な戦略的考え方を習得した知識から知恵として活用する学習効果を測定するため、総括的評価として実施します。

学生へのメッセージ

将来企業人の一員となるために必要な産業界（実務）の知識を習得してください。
知的財産に関する政策や企業活動等の記事は、日々、新聞等に掲載されていますので、普段より新聞を読む習慣を身に付けてください。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

工業所有権情報・研修館のホームページ「知的財産人材の育成」カテゴリーにある「知的創造活動と知的財産」のテキスト（無料）をダウンロードし、参考資料として活用してください。
毎回の講義資料を Teams からダウンロードして講義に臨んで下さい。講義資料は毎週金曜日に次回資料と入れ替えますので、承知して下さい。期末定期試験てせは、講義資料（紙ベース）での持ち込みは可です。

科目名	企業分析（経営戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3042a0		

授業概要・目的	この授業では、企業経営における簡単な事例を取り上げ、経営戦略、マーケティング戦略におけるさまざまなプレームワークの基本的な手法を理解し、競争状況を素早く把握することで、経営課題の形成と正しい決断を模索する力を身につけることを目指す。さらに、論理思考や問題解決における重要なプレームワークを学ぶことで、3年次以降の卒業研究や業界研究に有効活用することを目指す。
到達目標	・企業戦略における諸理論の知識が身につく。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生はケース分析に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本プレームワークが有効に活用できる。
授業方法と留意点	・講義資料（レジュメ、ワークシート）は教室で配布する。各講義資料はMoodleから事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	クリティカルシンキング①	本格的なケース分析の前に、論理思考や問題解決における重要なプレームワークを学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	クリティカルシンキング②	本格的なケース分析の前に、論理思考や問題解決における重要なプレームワークを学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	環境分析とケーススタディ	企業経営の前提となるマクロ環境を分析するプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	5つの力分析とケーススタディ	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	3C分析とケーススタディ	事業の重要な要素である市場・顧客、競合、自社の3つにフォーカスして事業やマーケティングの方向性に関する実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	SWOT分析とケーススタディ	自社の内部環境と外部環境をポジティブな側面とネガティブな側面から整理することで、経営課題や経営機会の検討できるプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	バリューチェーンとケーススタディ	事業活動を機能ごとに分類し、どの部門で付加価値が生み出されているか分析するプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	3つの基本戦略とケーススタディ	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるプレームワークについて、M･E. ポーターの３つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	アクションマトリックスとケーススタディ	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	戦略キャンバスとケーススタディ	ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い差別化戦略と低コスト化戦略の結合を検討する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	VRIOとケーススタディ	組織が持つ内部資源の有効活用可能性をチェックするプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	ポジショニングとケーススタディ	2次元のマトリックスを使い自社と他社の製品のポジショニングを示したり、比較できるプレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	マーケティングミックスとケーススタディ	企業がターゲット市場やポジショニングを踏まえ、具体的に顧客にアプローチするための施策の組み合わせについて学び、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目	競争戦略論、経営戦略論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	戦略経営論―競争力とグローバリゼーション	マイケル A.ヒット、ロバート E.ホスキソン、R.デュエーン・アイルランド	センゲージラーニング
2	グロービス MBA キーワード 図解 基本フレームワーク 50	グロービス	ダイヤモンド社
3	強みを磨き、競争を勝ち抜く―企業戦略(VISIONARY SEMINARS 4)	鈴木貴博	KADOKAWA

評価方法（基準）

・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。
・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。
・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度をはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。
・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。

学生へのメッセージ

・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。
・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

担当者の研究室等

洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）

備考

科目名	ＩＣＴビジネス演習Ａ	科目名（英文）	ICT Business Practice A
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3070a0		

授業概要・目的	本講義では、ネットワークの運用・管理に関する基礎知識を学び、社会にとって必要不可欠なインターネットを用いたコミュニケーションを題材にクライアント/サーバシステムの仕組みやプロトコルなどについて理解を深めていく。
到達目標	ネットワークを構成する基本的な技術とその活用について習得する。
授業方法と留意点	講義資料はすべて Moodle を通じて配布する。配布期間以外の再配布はないので，必ずダウンロードして授業を受けるように。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験や基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、通信技術の概要	情報化社会の基盤システム、コンピュータネットワークの発展と役割、クライアント・サーバシステム	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
2	通信の基礎	伝送路の接続形態、ネットワークトポロジー、データ伝送方式、同期方式、多重化と分離、交換方式、伝送媒体	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
3	通信プロトコル	通信プロトコルの役割、ネットワークアーキテクチャ、OSI 参照モデル、TCP/IP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
4	LANのネットワーク構成要素	LAN と WAN、ネットワークの構成規模、イーサネット、LAN ケーブル、リピータハブ、スイッチ、MAC アドレス、ルーティング機能	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
5	TCP の特徴と役割(1)	プロトコルフォーマット、コネクションの確立、TCP ヘッダ、シーケンス番号と応答番号	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
6	TCP の特徴と役割(2)	ウィンドウ制御、再送制御、輻輳制御、アプリケーションとの仲介、TCP と UDP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
7	IP の特徴と役割(1)	転送先、IP パケット、IP ヘッダ、IP アドレス	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
8	IP の特徴と役割(2)	経路 MTU 探索、チェックサム、動的ルーティング、ICMP	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
9	電子メール(1)	電子メールの仕組み、メールクライアントとメールサーバ、メールヘッダー、SMTP、DNS サーバ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
10	電子メール(2)	POP、IMAP、Web メール、MIME の役割と機能	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
11	Web ブラウザの仕組み	Web クライアントとサーバシステム、DNS サーバ、HTTP、FQDN、リクエストとレスポンスメッセージ	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
12	Web ブラウザの拡張機能、Web 解析	プラグイン・インタフェース、Cookie 管理、プロキシサーバ暗号化・認証、Web コンサルティング	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
13	Web デザインの基本	サイトの目的、ターゲットユーザ、ユーザビリティ、アクセシビリティ、ライカビリティ、ホワイト・グレースペース、HTML、JavaScript	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：練習課題を解く(1 時間)
14	理解の確認テストと質疑応答	理解の確認テスト、質疑応答	事前学習：テストの準備（2 時間） 事後学習：テスト問題の復習（1 時間）
15	授業のまとめ	総括、振り返り	事前学習：これまでの授業の復習（2 時間） 事後学習：なし

関連科目	情報ネットワーク、情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の提出物 80%、理解の確認テスト 20%で評価する。
学生へのメッセージ	オンラインでの出席は認めない。必ず授業に出席すること。

担当者の 研究室等	11 号館 8 階 堀井教授室
備考	

科目名	ＩＣＴビジネス演習Ｂ	科目名（英文）	ICT Business Practice B
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3071a0		

授業概要・目的	情報社会の重要なビジネススタイルである IT を駆使したビジネスについて、前半はネットショップに着目して、その設計、構築、さらに運用に関する調査・分析の演習を行う。具体的には、実際のネットショップの分析をデータベースソフトや統計ソフトウェアを用いて行い、次に、仮想店舗のコンセプトの提案、商品ページの設計、ウェブサイト全体のデザインを実習する。後半はデータベースソフトウェアを利用して各自で設計するアプリケーションの制作を行う。 SDGs-12
到達目標	この講義によって以下の事柄を達成することが目標です。 （１）ネットショップを構成する技術の説明ができる （２）経営情報化戦略から現場の情報活用の連携について理解する （３）自分がイメージする効率化を IT の活用で実現する方法を見つけ出せる DP4
授業方法と留意点	演習は毎時間、情報処理室に導入されているソフトウェアを前提として行う。ただし、状況によって自宅において無料で導入できるものだけで演習課題を実施できるように調整する。演習課題を実行しながら、現在の ICT 環境の理解を進める。実践的な調査活動や分析、および提案や発表を行うため、積極的な授業参加を心がけて欲しい。 実務者による講演、情報提供を入れる予定である。
科目学習の効果（資格）	情報技術を活用した経営の総合的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本演習の狙い、評価方法についてなど 自習課題（データベースソフトウェア）の説明	事前：シラバスを読んでおくこと（３０分） 事後：学修環境のセットアップ（１時間）
2	調査の設計	実在するネットショップの調査項目を検討する。 FileMaker Pro（データベースソフトウェア）を用いた調査ノートを作成する。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：調査候補となる事例を集める（１時間）
3	調査の実施	ネットショップの必要事項を把握する。 調査ノートの機能を向上させる。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：調査ノートの更新（１時間）
4	調査の実施、報告内容の検討	調査結果を整理し、報告書の構成を検討する。 構築するネットショップのコンセプトを明確にする。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：既存のネットショップに対する位置付けを確認する（３０分）
5	調査報告	調査報告書を作成する。 全体発表もしくはグループ内発表を行う。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：他者の発表内容を利用して学修過程を見直す（１時間）
6	分析の方向検討	エビデンスベースドの考え方を実践するために収集データに整合する分析方法を確認する。 データベースのエクスポート機能の活用方法を知る。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：統計分析の手法確認（１時間）
7	統計分析	統計ソフトウェアを利用して、収集したデータの分析を行う。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：分析結果の妥当性の検討（１時間）
8	分析結果の報告	分析結果の共有を行う。 調査対象の関係を図示化する。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：経営戦略関連の学び直し（１時間）
9	戦略の立案	分析結果から経営情報化に向けた戦略を立案する。 戦略の実現のために必要なデータベース技術を検討し、学修計画を見直す。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：他の経営戦略を用いた検討（１時間）
10	構築実習（１）	データベースの設計（正規化）を行う。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：設計内容の見直し（１時間）
11	構築実習（２）	画面遷移を設計する。 自動化機能を実装する。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：画面機能の修正（１時間）
12	構築実習（３）	ユーザーインタフェースの検討を行う。 ユーザーテストの有効性を知る。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（１時間） 事後：構築実習内容のデバッグ（１時間）
13	構築実習（４）	デバッグの実践を行う。	事前：データベースソフトウェアに関する自習（３０分） 事後：構築実習の仕上げ（１時間）
14	全体発表会	構築したアプリに関するプレゼンテーション（選抜者）を実施する。	事前：構築実習の報告資料作成（１時間） 事後：技術動向の調査（１時間）
15	個別報告会、最新動向の把握	学修成果の報告（全員）を行う。 実務者の講演を実施する（予定）。	事前：学修成果の報告資料作成（１時間） 事後：学修成果を振り返る（１時間）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>プログラミング、マルチメディア処理Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>学修レポート 50%、提出物や発表等 50%で評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>この演習では、情報技術をいかに効果的に活用して新しいビジネスを立ち上げるかを体験しようと思っています。プログラミングが苦手でも大丈夫ですので、楽しく受講してください。
統計ソフトの R や FileMaker Pro を活用した個人利用のデータベースと企業の現場でも利用できる分析やデーターベースシステム（仮想店舗や社内アプリ）の製作を導入します。国内でも珍しい取り組みです。積極的に学んで成果を上げてください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館７階久保准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後の学習課題については授業冒頭に Moodle やミニペーパーなどで提出する場合があるので授業に遅刻しないこと。
FileMaker Pro の学修はオンライン教材を活用して行うこと。</td></tr>
</table>

科目名	ＩＣＴビジネス演習Ｃ	科目名（英文）	ICT Business Practice C
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3072a0		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能（AI）や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI にできないことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。
到達目標	1）AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること 2）AI の構築手順を知り、独自の AI を構築できること 3）AI を活用したビジネスプランを発案し、グループディスカッションにより洗練させた上で、プレゼンテーションできること
授業方法と留意点	講義は、情報処理室で行う。演習課題を実行しながら、AI に関する理解を進める。 グループでの討論や協働作業、および発表も含むため、積極的な授業参加を心がけること。 グループで作成したビジネスプランは、コンテスト等への申請も視野に入れる。そのため、授業計画は、各年度の社会情勢に応じて変更する可能性がある。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	この授業の進め方、必要とする関連知識の説明	事前：シラバスを読む（３０分） 事後：関連知識のキーワードを調べる（１時間）
2	AI の基本原理と最新動向	AI の基本原理と最新動向を説明する	事前：AI の動向を調べてくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
3	ニューラルネットワーク（1）概要説明	ニューラルネットワークについての概要を説明する	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
4	ニューラルネットワーク（2）教師データの作成	教師データを作成し、AI モデルの作成を行う	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
5	ニューラルネットワーク（3）実施、評価	AI を活用し、その結果を評価する	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
6	畳み込みニューラルネットワーク（1）概要説明	畳み込みニューラルネットワークの概要を説明する	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
7	畳み込みニューラルネットワーク（2）教師データの作成	教師データを作成し、AI モデルの作成を行う	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
8	畳み込みニューラルネットワーク（3）実施、評価	AI を活用し、その結果を評価する	事前：前回の講義ノートを読んでくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
9	AI の事例調査	反転授業 グループディスカッション	事前：前回の講義ノートを読んでくる、AI の事例調査をしてくる（３０分） 事後：今回の講義ノートを読み返して理解を深めておく（３０分）
10	AI によるビジネスプランの発案（1）※グループワーク	AI によるビジネスプランを作成する	事前:AI によるビジネスプランの案を複数用意する（２時間） 事後：シミュレーションを試す（１時間）
11	AI によるビジネスプランの発案（2）※グループワーク	AI によるビジネスプランを作成する	事前：AI によるビジネスプランの作成（２時間） 事後：発表のポイントをまとめる（３０分）
12	AI によるビジネスプランの発案（3）※グループワーク	AI によるビジネスプランを作成する	事前：AI によるビジネスプランの作成（２時間） 事後：発表のポイントをまとめる（３０分）
13	AI によるビジネスプランの発案（4）※グループワーク	AI によるビジネスプランを作成する	事前：AI によるビジネスプランの作成（２時間） 事後：発表のポイントをまとめる（３０分）
14	AI によるビジネスプランのプレゼンテーション　※グループワーク	グループ発表 作成したビジネスプランの説明	事前：プレゼンテーションの準備を行う（１時間） 事後：聴講した発表についてまとめる（３０分）
15	総括	授業で習ったことの体系化を行う	事前：これまで習ったことの確認（２時間） 事後：ノートをまとめる（１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Excel でわかるディープラーニング超入門	涌井良幸，涌井貞美	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、出席３０％、レポート（課題・プレゼンテーション等）の出来栄え７０％で評価する。 ただし、全１５回中５回以上の欠席で成績に関係なく「不可」とする。

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	マーケティング演習Ａ	科目名（英文）	Marketing Practice A
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3073a0		

授業概要・目的	企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につけます。 とりわけ、マーケティング演習Ａでは、質的調査(定性調査)の方法について理解を深めます。 グループで課題に取り組み、実践することで、質的調査に関する研究方法を身に付けることを目的とします。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく「サービス」を対象とした調査についても解説します。
到達目標	・質的調査の視点から企業のマーケティングリサーチについて評価できる。 ・質的調査の実践を通して消費者意識の比較・分析をすることができる。 ・質的調査の結果を基に、自らマーケティング戦略を策定できる問題解決力、実践力を身につける。(DP４)
授業方法と留意点	・グループワークを中心に授業を進めます(毎回の出席は必須条件です。欠席は３回まで認めます。欠席が４回以上の場合、採点の対象になりません)。 ・グループは初回の授業時に決定します。初回は必ず出席してください。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらいます。グループのメンバーと協力して取り組んでください。 ・受講人数によっては、進め方を変更する可能性があります。具体的な進め方等については、授業時にお伝えします。
科目学習の効果（資格）	実践的な研究方法を遂行する知識が身につきます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	調査方法の概要	調査方法の概要について説明する。	【事前学習】(30 分) これまで受講したマーケティングに関連する科目の復習を行うこと。 【事後学習】(30 分) 調査方法の概要について説明できるようにする。 グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。
2	調査テーマの検討	先行研究等から調査テーマについて紹介する。	【事前学習】(30 分) 調査方法の概要について復習を行うこと。 【事後学習】(30 分) 授業で紹介した先行研究の調査方法について説明できるようにする。
3	インタビュー調査①	グループメンバーと協力しながらインタビューの内容について議論する。	【事前学習】(30 分) 前回の授業で紹介した以外の先行研究の調査方法について調べる。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
4	インタビュー調査②	先週の議論を踏まえながら、グループメンバーと協力し、インタビューの内容を決める。	【事前学習】(30 分) 企業が行っているインタビュー調査について調べる。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
5	インタビュー調査③	他のグループに対してインタビューを実践する。	【事前学習】(30 分) インタビューの準備を行う。 【事後学習】(30 分) インタビュー結果の整理を行う。
6	インタビュー調査④	先週に続き、他のグループに対してインタビューを実践する。	【事前学習】(30 分) インタビューの準備を行う。 【事後学習】(30 分) インタビュー結果の整理を行う。
7	分析①	インタビュー内容についてグループで議論し、まとめる。	【事前学習】(30 分) インタビューのまとめ方について調べる。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々で行う。
8	分析②	先週に続き、インタビュー内容についてグループで議論し、まとめる。	【事前学習】(30 分) インタビューのまとめ方について検討する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々で行う。
9	分析③	テキストマイニングソフトを用いて分析する。	【事前学習】(30 分) テキストマイニングソフトについて調べる。 【事後学習】(30 分) テキストマイニングソフトの使い方について復習する。
10	分析④	先週に続き、テキストマイニングソフトを用いて分析する。	【事前学習】(30 分) テキストマイニングソフトの分析方法について調べる。 【事後学習】(30 分) テキストマイニングソフトの使い方について復習する。
11	発表準備①	分析結果についてグループで議論し、まとめる。	【事前学習】(30 分) 分析結果のまとめ方について調べる 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々で行う。
12	発表準備②	先週に続き、分析結果についてグループで議論し、まとめる。	【事前学習】(30 分) 分析結果のまとめ方について検討する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。

	13	発表①	グループで発表する(もしくは他グループの発表を評価する)。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分) グループ発表(他グループ含め)について評価する。
	14	発表②	グループで発表する(もしくは他グループの発表を評価する)。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分) グループ発表(他グループ含め)について評価する。
	15	まとめ	これまでのグループ発表を振り返りながら、質的研究について全体的なまとめを行う。	【事前学習】(30 分) これまでの授業内容について振り返る。 【事後学習】(30 分) 全体を通しての成果と反省についてまとめる。

関連科目	マーケティング、消費者行動論、リテールマーケティングなどマーケティングコース科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

評価方法 (基準)	グループワークの成果物（60%）　発表（40%）
学生への メッセージ	授業時間外のグループワークは、オンラインを用いるなど工夫してください。 毎回の出席が必須です。遅刻は認めておりません。欠席が 4 回以上の場合、採点の対象になりません。
担当者の 研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・予習・復習に少なくとも 1 時間はかけてください。 ・また発表の準備にはそれ以上の時間がかかります。スケジュールを予め調整してください。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	マーケティング演習Ｂ	科目名（英文）	Marketing Practice B
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3074a0		

授業概要・目的	企業のマーケティング活動に関連したデータの取扱方法を学び実践に活用できるよう理解を深めることを目的とする。 この授業では、定量的データに着目し、分析の考え方から分析手法を学習する。また、授業ではマーケティング理論を復習した上で、データを活用した分析を行う。
到達目標	①マーケティング活動における定量的データの扱い方を理解する。 ②何を知りたいかによってどの分析を活用すればよいのか、分析方法の特徴を理解できる。 ③分析から得た結果とマーケティング戦略とを結びつけて考えることができる。
授業方法と留意点	講義を行ったうえで、各自、例題を解いてもらう（分析を行ってもらう）。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン	マーケティング及びマーケティング・リサーチの復習と確認を行います。	事前学習：マーケティングの基本的考え方を復習しておく（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（1時間）。
2	データの取得と整理、サンプリング	データおよび収集方法、サンプリング方法の復習と確認を行います。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
3	質問票の作成と測定尺度	質問票の作成と測定尺度についての復習と確認を行います。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
4	市場反応分析　相関	価格と売上の関係について考える上で、相関分析を使っていきます。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
5	市場反応分析　重回帰	売上は販売促進の効果と言えるのか、あるいは価格に左右されるのか分析を交えて考えます	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
6	市場セグメンテーションとクラスター分析	STP の復習を行い、セグメンテーションの実例に取り組みます。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
7	新製品の普及	新製品開発と新製品の普及についての復習を行い、バスモデルについて学びます。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する。（１時間）。
8	中間ふりかえり	中間テストとふりかえりを行います。	事前学習：中間テストの準備を行う（２時間）。 事後学習：中間テストの結果をふりかえる。（１時間）。
9	顧客の管理と CRM（１）	顧客管理の重要性と CRM（Customer Relationship Management）について解説をします。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
10	顧客の管理と CRM（２）	第 9 回で説明した考え方を復習した上でデータを使った分析に挑戦します。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
11	ビッグデータとクロスセリング（１）	クロスセリングの考え方について解説します。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
12	ビッグデータとクロスセリング（２）	アソシエーション分析と活用について解説します。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題を取り組み提出する（１時間）。
13	ケース１	実際に自分なりに分析をしてレポートをしあげましょう。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題（ケース１）を取り組む（１時間）。
14	ケース２	実際に自分なりに分析をしてレポートをしあげましょう。	事前学習：次回学ぶ部分に目を通す（１時間）。 事後学習：課題（ケース２）を取り組む（１時間）。
15	総括	ケース１，ケース２とも自分の意見等も加え、提出できる体裁を整えましょう。	事前学習：ケース１，ケース２について自分のレポートをチェックする（１時間）。 事後学習：ケース１、ケース２のレポートを完成させて提出する（２時間）。

関連科目	マーケティングコース科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題提出 20%、中間テスト 20%、期末課題 40%
学生へのメッセージ	教材等は事前に Teams にアップしますので、必ずダウンロードをして授業時には持参ください。
担当者の研究室等	11 号館７階鶴坂研究室
備考	

科目名	マーケティング演習C	科目名（英文）	Marketing Practice C
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3075a0		

授業概要・目的	企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につけます。 とりわけ、ケース課題に取り組むことで実践的なマーケティングを身に付けることを目的とします。 グループでケース課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく「サービス」に関するマーケティングについても解説します。
到達目標	・企業あるいは消費者を中心とした複数のケースに取り組むことで、企業のマーケティング活動についてマーケティング・マネジメントの視点だけではなく、消費者の視点で説明することができる。 ・複数のケース課題に取り組むことで、企業間のマーケティング戦略を比較・分析することができる。 ・自らマーケティング戦略を策定できる問題解決力、実践力を身につける。(DP４)
授業方法と留意点	・グループワークを中心に授業を進めます(毎回の出席は必須条件です。欠席は 3 回まで認めます。欠席が 4 回以上の場合、採点の対象になりません)。 ・グループは初回の授業時に決定します。初回は必ず出席してください。 ・1 つのケースにつき、2 回の授業(180 分)で準備を行います。その後、各グループによる発表を行います。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらいます。グループのメンバーと協力して取り組んでください。 ・受講人数によっては、進め方を変更する可能性があります。具体的な進め方等については、授業時にお伝えします。
科目学習の効果（資格）	実践的なマーケティングを遂行する知識が身につきます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義Ⅰ	マーケティングの概要についての復習を行う。	【事前学習】(30 分) マーケティング戦略論の復習を行うこと。 【事後学習】(30 分) マーケティング戦略構築から実行までの流れを説明できるようにする。 グループのメンバー間で連絡がとれるようにしておくこと。
2	講義Ⅱ	消費者行動の概要について復習を行う。	【事前学習】(30 分) 消費者行動論の復習を行うこと。 【事後学習】(30 分) 消費者の視点からマーケティング戦略について説明できるようにする。
3	事例研究Ⅰ 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	【事前学習】(30 分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
4	事例研究Ⅰ 議論とグループ案の検討	ケースで求められている問についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	【事前学習】(30 分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30 分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。
5	事例研究Ⅰ グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。
6	事例研究Ⅱ 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	【事前学習】(30 分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
7	事例研究Ⅱ 議論とグループ案の検討	ケースで求められている問についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	【事前学習】(30 分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30 分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。
8	事例研究Ⅱ グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。
9	事例研究Ⅲ 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	【事前学習】(30 分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
10	事例研究Ⅲ 議論とグループ案の検討	ケースで求められている問についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	【事前学習】(30 分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30 分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。
11	事例研究Ⅲ グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分)

			他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。
12	事例研究Ⅳ 問題読解とグループワーク	ケースを考察する上で必要な理論の解説を行う。その後、ケースについてグループのメンバーと協力しながら理解を深める。	【事前学習】(30 分) 前回授業で示した事例について書籍や HP を用いてその概要について理解する。 【事後学習】(30 分) 議論の整理を個々人で行う。
13	事例研究Ⅳ 議論とグループ案の検討	ケースで求められている問についてグループで議論し、パワーポイントにまとめる。	【事前学習】(30 分) ケース課題について自分の意見をまとめる。 【事後学習】(30 分) グループ案をパワーポイントでまとめ、完成させる。
14	事例研究Ⅳ グループ案の発表	グループ毎に発表し、それについて議論を行います。	【事前学習】(30 分) グループ発表の準備を行う。 【事後学習】(30 分) 他のグループとの比較を通して、自グループの発表を振り返る。
15	まとめ	これまでのグループ発表を振り返りながら、企業のマーケティングについて企業視点・消費者視点で全体的なまとめを行う。	【事前学習】(30 分) これまでのグループの発表を振り返る。 【事後学習】(30 分) 全体を通しての成果と反省についてまとめる。

関連科目	マーケティング、消費者行動論、リテールマーケティングなどマーケティングコース科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークの成果物（60%）　発表（40%）
学生への メッセージ	授業時間外のグループワークは、オンラインを用いるなど工夫してください。 毎回の出席が必須です。遅刻は認めておりません。欠席が 4 回以上の場合、採点の対象になりません。
担当者の 研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・予習・復習に少なくとも 1 時間はかけてください。 ・また発表の準備にはそれ以上の時間がかかります。スケジュールを予め調整してください。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	調査実践演習Ⅰ	科目名（英文）	Research Practice Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀.金　政芸.西岡　暁廣
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3076a0		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅰでは、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。 データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。 計量的なデータを用いた論文が書ける（DP4）。
授業方法と留意点	本講義は、以下の２つの形態で実施される。 1）講義形式　2）学生が作業をおこなう実習形式
科目学習の効果（資格）	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（G 科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の全体的な流れ、授業の進め方など	配布資料に基づく予習
2	基本的な統計量	平均値・中央値・分散・標準偏差	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
3	2 変数間の関係を探る	相関係数・クロス表・平均の差	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
4	推測統計の考え方	推測統計の基本的な発想	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
5	統計的仮説検定	カイ 2 乗検定、相関係数の検定、T 検定	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
6	多変量解析 1	分散分析、重回帰分析	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
7	多変量解析 2	主成分分析	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
8	調査テーマ・サブテーマの検討 1	問いと仮説の設定	（事前・事後）各自で問いや仮説を検討する（1 時間）
9	調査テーマ・サブテーマの検討 2	問いと仮説の設定	（事前・事後）各自で問いや仮説を検討する（1 時間）
10	調査項目・質問文案の検討 1	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	（事前・事後）各自で質問項目・質問文案を検討する（1 時間）
11	調査項目・質問文案の検討 2	各自の仮説に対応した質問項目、質問文案の作成	（事前・事後）各自で質問項目・質問文案を検討する（1 時間）
12	調査項目・質問文案の検討 3	質問項目、質問文案の全体での調整	（事前・事後）各自で質問項目・質問文案を検討する（1 時間）
13	データ収集方法・作業分担の検討	調査対象者・サンプリング方法の選定	（事前）各自で実施案を検討する（0.5 時間） （事後）検討の経緯についてまとめておく（0.5 時間）
14	プリテスト	仮調査票を用いたプリテストと調査票の修正	（事前）各自で調査票の問題点を確認しておく（0.5 時間） （事後）検討の経緯についてまとめておく（0.5 時間）
15	調査票・コードブックの作成	調査票・コードブックを完成させる	（事前）各自で調査票の問題点を確認しておく（0.5 時間） （事後）検討の経緯についてまとめておく（0.5 時間）

関連科目

市場調査入門、マーケティングリサーチⅠ（市場調査法）、経営統計学、マーケティングリサーチⅡ（ビジネスデータ分析）、データサイエンスⅠ（マーケティング情報解析）、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	授業への取り組み度 20%、課題等 80%
学生への メッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。
担当者の 研究室等	樋口：11 号館 8 階　樋口研究室 金：11 号館 8 階　金研究室
備考	

科目名	調査実践演習Ⅱ	科目名（英文）	Research Practice II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口　友紀.金　政芸.西岡　暁廣
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎		
科目ナンバリング	IDD3077a0		

授業概要・目的	本講義は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成をおこなう。その後、各自の仮説をもとにデータ分析をおこない、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、本講義の目標である。調査のテーマは「大学生の社会生活と職業意識」を予定している。 市場調査実習Ⅱでは、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。
到達目標	計量的調査をおこなう際に必要となる知識を獲得する。 データ分析をおこなうためのスキルを獲得する。 計量的なデータを用いた論文が書けるようになる（DP4）。
授業方法と留意点	授業は、学生が実際に作業をおこなう実習形式でおこなわれる。成果物に関して、学生相互にディスカッションを行い問題点の把握と改善をおこなう。
科目学習の効果（資格）	社会調査を実施する際の全過程を体験する。 「社会調査士」資格取得に必要な科目（G 科目）である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実査	調査票の配布・回収	（事前）各自で調査票配布時の注意点を確認しておく（0.5 時間） （事後）実施時の問題点についてまとめておく（0.5 時間）
2	データ入力・コーディング 1	データの入力とコーディング	（事前）各自でデータ入力方法について復習しておく（1 時間） （事後）入力時の不具合について問題点をまとめておく（0.5 時間）
3	データ入力・コーディング 2	データの入力とコーディング	（事前）各自でデータ入力に関する作業の確認をしておく（0.5 時間） （事後）入力時の不具合について問題点をまとめておく（0.5 時間）
4	エラーチェック	入力ミスのチェック、ロジカルエラーチェック	（事前）各自でエラーチェックの方法について復習しておく（1 時間） （事後）作業時の不具合について問題点をまとめておく（0.5 時間）
5	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 1	SPSS を用いて単純集計、クロス表、カイ 2 乗検定をおこなう	（事前）各自で分析方法について復習しておく（1 時間） （事後）分析をおこない、結果をまとめておく（1.5 時間）
6	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 2	SPSS を用いて相関係数の検定、T 検定をおこなう	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
7	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 3	SPSS を用いて分散分析、重回帰分析をおこなう	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
8	統計処理ソフトを用いたデータ分析方法 4	SPSS を用いて主成分分析、尺度構成をおこなう	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
9	基礎集計	基礎集計項目の検討、基礎集計表の作成	基礎集計表の作成
10	データ分析と仮説の再検討 1	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
11	データ分析と仮説の再検討 2	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
12	データ分析と仮説の再検討 3	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
13	データ分析と仮説の再検討 4	データ分析と仮説検証、その結果をふまえた仮説の再検討	（事前）各自で分析をおこなっておく（1 時間） （事後）分析と結果まとめ、次回の方針について確認しておく（1.5 時間）
14	報告書執筆 1	分析結果をまとめた報告書の作成	（事前）報告書執筆に関する問題点を確認しておく（0.5 時間） （事後）報告書を執筆しておく（1.5 時間）
15	報告書執筆 2	報告書の完成	（事前）報告書執筆に関する問題点を確認しておく（0.5 時間） （事後）報告書を執筆しておく（1.5 時間）

関連科目	市場調査入門、マーケティングリサーチⅠ（市場調査法）、経営統計学、マーケティングリサーチⅡ（ビジネスデータ分析）、データサイエンスⅠ（マーケティング情報解析）、社会学Ⅰ、社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	作業の進捗（20%）・成果報告書（80%）
学生への メッセージ	特定の単位を取得していないと履修できませんので注意してください。また、実習科目という性格上出席が大前提になるので、よほどの事情がない限り欠席は認めません。 ※本科目は「市場調査実習Ⅰ」とセットで履修することを前提としています。「市場調査実習Ⅰ」を履修せず「市場調査実習Ⅱ」のみ履修することは原則として認めていません。
担当者の 研究室等	樋口：11 号館 8 階　樋口研究室 金：11 号館 8 階　金研究室
備考	

科目名	中小企業会計論	科目名（英文）	Accounting for Small and Medium-Sized Entites
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3041a0		

授業概要・目的	証券取引所に株式を上場することで資金調達を行う上場会社（大企業）は，投資家保護を目的とする金融証券取引法，債権者保護を目的とする会社法，課税公平を目的とする税法の３つの法律にもとづいた会計処理が求められる。しかし，株式を一般に公開しない中小企業は，会社法と税法にもとづいた会計処理が求められる。 本講座では，中小企業会計の最低限の基準である「中小企業の会計に関する基本要領（以下，基本要領)」について学習する。また，基本要領による会計処理と中小企業を対象とする他の会計基準「中小企業の会計に関する指針（以下，中小指針)」及び「法人税法」による会計処理の共通点と相違点について把握する。
到達目標	中小企業の経営者及び管理者として、経営意思決定で必要となる判断力、問題解決能力を習得するために、 ①　中小企業の最低限の会計基準である基本要領の内容が理解でき、会計処理とその影響が理解できる。(DP4：判断力) ②　中小企業を対象とする３つの会計基準（基本要領，中小指針，法人税法）による会計処理の共通点と相違点、その影響について理解できる。（DP4：問題解決能力）
授業方法と留意点	原則対面授業を実施するが、オンライン授業ツールである Moodle と Teams を利用する。 ・　本講座では，簿記に関する基本知識（簿記入門又は日商簿記３級）を有することを前提とする。 ・　講義レジュメ→Moodle から事前入手(必ず持参すること) ・　講義スライド→Moodle から事後閲覧（必要に応じて活用） ・　小テスト→Teams で実施 ☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。 ☆　病気や体調不良による欠席届は、必ず１か月以内に、診断書とともに、対面で提出してください。 ☆　学生証による出席確認ができなかった出席訂正は、講義日当日分のみ授業内で申し出てください。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，税理士，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基本要領の概要	・基本要領の概要 ・資料配布	事前：配布資料と講義計画の確認（20 分） 事後：授業アンケートの回答（20 分）
2	総論	・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項	事前：基本要領の総論の確認（20 分） 事後：小テスト①（30 分）
3	収益と費用の基本的な会計処理	・収益と費用の認識基準と基本的な会計処理	事前：基本要領の各論①の確認（20 分） 事後：小テスト②（30 分）
4	資産と負債の基本的な会計処理	・資産と負債の基本的な会計処理	事前：基本要領の各論②の確認（20 分） 事後：小テスト③（30 分）
5	金銭債権と金銭債務①	・金銭債権と取得価額	事前：基本要領の各論③の確認（20 分） 事後：小テスト④（30 分）
6	金銭債権と金銭債務②	・金銭債務と債務額	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑤（30 分）
7	貸倒損失と貸倒引当金	・倒産と倒産の可能性	事前：基本要領の各論④の確認（20 分） 事後：小テスト⑥（30 分）
8	有価証券①	・有価証券と取得原価	事前：基本要領の各論⑤の確認（20 分） 事後：小テスト⑦（30 分）
9	有価証券②	・有価証券の評価方法	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑧（30 分）
10	有価証券③	・有価証券の評価替え	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑨（30 分）
11	中間テスト	・中間テスト	事前：これまでの講義資料を用いて復習（60 分） 事後：中間テストの解答の確認（60 分）
12	棚卸資産①	・棚卸資産と取得原価	事前：基本要領の各論⑥の確認（20 分） 事後：小テスト⑩（30 分）
13	棚卸資産②	・棚卸資産の評価方法と評価基準	事前：講義スライドとレジュメによる復習 事後：小テスト⑩（30 分）
14	経過勘定	・当期の損益と次期の損益	事前：基本要領の各論⑦の確認（20 分） 事後：小テスト⑪（30 分）
15	まとめ	まとめと期末テスト	事前：これまで学習した基本要領の確認（30 分） 事後：期末テストの解答の確認（60 分）

関連科目：簿記入門，財務会計論，管理会計論，会計情報分析論，企業分析（財務戦略ケース分析），経営財務論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、「中小企業の会計に関する基本要領」を活用する。また，各テーマについては，以下の参考書を反映したレジュメを活用する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営に役立つ中小企業会計要領の実務対応	上西佐大信	ぎょうせい
2	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社
3	中小企業会計基本要領による会計処理と法人税申告書の書き方	三浦昭彦	大蔵財務協会

評価方法（基準）

★小テスト（30%）＋中間テスト（30%）＋期末テスト（40%）
☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。

学生への メッセージ	中小企業の経営者，経理担当者，管理者として活躍することを希望される方を対象に，中小企業にとって最低限必要となる会計処理の知識について学習します。複式簿記の内容が中小企業でどのように実践されているのかを確認する機会になると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　呉研究室
備考	講義の題材となる会計基準は以下からも入手できます。 ・　「基本要領」(https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/sme_support/guide/#point) ・　「中小企業の会計に関する指針」(https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/sme_support/guide/#guide)

科目名	企業分析（財務戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis for Financial Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3043a0		

授業概要・目的	利益獲得を目的とする企業は，企業の諸活動を財務情報として報告している。財務情報を理解すれば，企業がどのような活動を行い，利益を獲得しているのかについて理解できる。本講座では，損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書という財務３表を用いて，利益を生み出す企業の財務戦略について把握する。また，企業外部の利害関係者の観点から，企業の財務戦略を分析・評価することで，ビジネスパーソンとして最低限必要である知識を提供する。
到達目標	企業の経営者及び投資家の観点から、経営意思決定で必要となる判断力、問題解決能力を習得できる。具体的には、 ①　企業の財務諸表を入手することができる。 ②　損益計算書を用いて利益マップを作成し，利益の量（利益額）と質（利益率）の側面で企業の収益性を評価することができる。 ③　貸借対照表を用いて企業別（産業別）の資金調達と資金運用の特徴について説明できる。(DP4：判断力) ④　キャッシュフロー計算書の３つの企業活動によるキャッシュフローを用いて企業の財務戦略に関する８つのパターンが把握できる。(DP
授業方法と留意点	原則対面授業を実施するが，オンライン授業ツールを利用する。 ・　講義レジュメ→Moodle から事前入手 ・　講義スライド→Moodle から事後閲覧 ・　小テスト→Teams の講義日チャンネルで実施 ☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。 ☆　病気や体調不良による欠席届は、必ず１か月以内に、診断書とともに、対面で提出してください。 ☆　学生証による出席確認ができなかった出席訂正は、講義日当日分のみ授業内で申し出てください。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，証券アナリスト，ファイナンシャルプランナー，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財務諸表の関係	企業活動と財務３表との関係	事前：講義資料の入手（20 分） 事後：授業アンケート（10 分）
2	資本市場と情報開示	株式会社と資本市場との関係、財務諸表の入手方法	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
3	損益計算書と利益	売上高と営業利益の利益マップ	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
4	損益計算書と利益率①	同業種の利益と利益率の利益マップ	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
5	損益計算書と利益率②	異業種の利益と利益率の利益マップ	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
6	課題①	利益マップの作成と収益性分析	課題①（120 分）
7	貸借対照表と負債	負債と企業の資金調達の状態	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
8	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
9	貸借対照表と損益計算書	貸借対照表と損益計算書の関係	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
10	課題②	BS と PL を用いた財務指標	課題②（120 分）
11	キャッシュフロー計算書	3 つの活動によるキャッシュフロー	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
12	キャッシュフロー計算書と財務戦略	キャッシュフローのパターンと財務戦略	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
13	財務戦略と財務諸表	財務戦略と 3 つの財務諸表との関係	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
14	財務戦略と財務諸表	財務戦略と 3 つの財務諸表との関係	事前：講義資料の確認（20 分） 事後：小テスト（20 分）
15	まとめ	まとめと期末テスト（財務戦略と財務 3 表の関係）	事前：これまでの講義内容の確認（60 分） 事後：期末テスト（120 分）

関連科目：簿記入門，財務会計論，会計情報分析論，経営財務論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、以下，参考書を反映し，各テーマについてレジュメを活用する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上祐太郎	東洋経済新報社

評価方法（基準）	小テスト（20%）＋課題①（20%）＋課題②（20%）＋期末テスト（40%） ☆　出席日数が３分の２（１０回）を超えない場合、成績評価の対象外とする。
学生へのメッセージ	本講義では，企業の活動を記録した会計情報を用いて，利益につながる企業の財務戦略について理解することを目標とします。投資家またはアナリストになる・なったつもりで講義に挑んでください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　呉研究室

備考	

科目名	経営学特講Ⅰ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲　秀樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3080a0		

授業概要・目的	本講義では、税理士として長年培ってきた視点で、現在の世の中の仕組みについて掘り下げて解説する。会社の仕組みはどうなっているのか、利益はどのように測定するのかなど教科書には載っていない切り口で解説し、本講義を受講することにより学生のみなさんは会計の基本を習得することができる。
到達目標	この講義を通して、会計・税務の知識がいかに実社会で役に立つかを、実例を交えながら解説する。学生のみなさんが会計・税務を身近なものと感じ、獲得した知識を活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で、ポイントがわかるような説明を加えながら、実務家として経験したことをベースに、会計・税務について解説する。PowerPoint を活用して学生が講義内容に集中できるよう工夫する。
科目学習の効果（資格）	実際にあった事柄をもとに話をするので、会計・税務の活きた知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	これから１５回にわたって講義をする内容について概観する	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
2	モノが動くとお金も動く	会計の役割について、またその歴史について	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
3	会社はだれのものか？	資本と経営に分離について説明し、監査の必要性とその内容について見ていく	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
4	儲けと損失	利益測定について 簿記の手ほどきを教授する	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
5	経費か資産か	貸借対照表と損益計算書の関係を説明する	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
6	モノは使えば価値が減る？	モノによって、使えば価値が減るものと減らないものがある 減価償却の考え方について教授する	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
7	利益の使い方	企業が獲得した利益について考える 設備投資をするのか、社員に還元するのか、株主に配当するのか、その選択肢について考察する	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
8	IT 時代の会計	IT 技術が進化し、経験がなくとも、ある程度の会計処理ができるようになってきた	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
9	税金の話	税金について考えよう 税金はなぜ課されるのか？どのような種類の税金があって、どのように課されるのか	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
10	税務調査がやってきた	税務調査はなぜ必要なのか 国税局や税務署の税務調査はどんなもので、どのように行われ、最終的にどうなるのか	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
11	お金を有効活用する	貯金だけではお金は貯まらない 不動産投資と株式投資について考える	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
12	相続税の話	相続税ってよく聞くけど… 相続税ってじつは 10 人に 1 人しかかっていない…	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
13	相続税対策	相続税にも節税対策はある 財産の評価方法について	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
14	税理士って面白い	税理士として長年過ごしてきたが、こんなに面白い仕事はない	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）
15	まとめ	１５回の講義を締めくくって	復習課題の実施（指示した問題を解き Teams で提出する）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法　平常点（講義後の課題の提出、30%）と、期末に実施する試験（70%）の合計によって評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	

科目名	民法	科目名（英文）	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3083a0		

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものが多い。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人（一般の市民）の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後に、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる、私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができることを目的としている。また、社会における法的問題がいかなることであるかを理解できるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。以下の点に留意すること。 ・レジュメは Teams でデータ配信する。それゆえ、レジュメは「各自で」情報処理室または自宅等で印刷すること。 ・講義内での PC 資料は可能のため、データ上で記載等することで印刷に代替することは可能。 ・講義は「対面方式」であり、「いかなる理由であれ出席しない人欠席扱い」とする。 ・講義は、録画のうえ、Teams にアップロードを行う。欠席者はこれにより勉強・復習を行うこと。あくまで資料の一つであり録画の品質等は担保できない。 ・成績は下記参照。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみ	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。

		ます。	復習：不当利得の形を判例を通じせて入りすること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。

関連科目

憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

以下の点を必ず留意すること。
・Teams を使った配信型の小テスト（70～80%：講義状況により変化する）。未提出者のそのテストの成績は 0 点となる。
・Teams 上での小テストは自宅で、資料を見ながらでも解答可能。ただし、適当に解答して合格するほど簡単なテストとはしておりません。
・教室での小テスト（10～20%：講義状況により変化する）。いかなる理由であれ、未受験者のそのテストの成績は 0 点となる。
それらの合計 100 点満点で計算を行う予定である。

学生へのメッセージ

5 時間目講義のため、欠席する者、途中で帰宅する者等が多数発生します。
いかなる理由であれ、欠席者は採点対象外です。出席する意思のない者は、受講しないでください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　大川研究室

備考

大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っている。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。
近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	本多　康作
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3050a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として当然に知っておくべき知識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで本授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義する予定である。本授業は、会社法全体を概観する入門的な授業である。
到達目標	この授業を通じて学生は、会社法の全体構造を理解し、かつ基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとって、有用な知識を身に着けることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ルールの説明と、会社法総論・会社法総則	最初に、本授業を受講する際のルールついて理解する。そのうえで、会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書２ページ～４０ページを読む（2 時間）。 事後に教科書２ページ～４０ページを読む（2 時間）。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に４２ページ～６５ページを読む（2時間）。 事後に４２ページ～６５ページを読む（2時間）。
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に６６ページ～８６ページを読む（2時間）。 事後に６６ページ～８６ページを読む（2時間）。
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に８６ページ～１０７ページを読む（2時間）。 事後に８６ページ～１０７ページを読む（2時間）。
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に１０５ページ～１３２ページを読む（2 時間）。 事後に１０５ページ～１３２ページを読む（2 時間）。
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に１３３ページ～１５０ページを読む（2 時間）。 事後に１３３ページ～１５０ページを読む（2 時間）。
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役について学ぶ。	事前に１５０ページ～１５５ページを読む（2 時間）。 事後に１５０ページ～１５５ページを読む（2 時間）。
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に１５５ページ～１６４ページを読む（2 時間）。 事後に１５５ページ～１６４ページを読む（2 時間）。
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に１６４ページ～１８０ページを読む（2 時間）。 事後に１６４ページ～１８０ページを読む（2 時間）。
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に１８０ページ～１９２ページを読む（2 時間）。 事後に１８０ページ～１９２ページを読む（2 時間）。
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に１９３ページ～２１６ページを読む（2 時間）。 事後に１９３ページ～２１６ページを読む（2 時間）。
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に２１７ページ～２２３ページを読む（2 時間）。 事後に２１７ページ～２２３ページを読む（2 時間）。
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に２２５ページ～２３６ページを読む（2 時間）。 事後に２２５ページ～２３６ページを読む（2 時間）。
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に２３７ページ～２９０ページを読む（2 時間）。 事後に２３７ページ～２９０ページを読む（2 時間）。
15	会社の消滅と倒産処理、外国	更生、解散、通常清算、特別清算、外国	事前に２９１ページ～３１４ページを読む（2 時

	会社	会社について学ぶ。	間)。 事後に２９１ページ～３１４ページを読む（2 時間)。

関連科目	金融商品取引法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信し、その回答内容を合算して評価対象とする（課題の得点 100%)。
学生への メッセージ	私語は認めない。私語をはじめ、授業態度が悪い場合は、単位を認定しない。こうした本授業を履修する際の注意事項を含む授業ルールは、初回の授業で説明する。
担当者の 研究室等	本多研究室（11 号館 9 階）
備考	

科目名	労働法	科目名（英文）	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺山　洋一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3051a0		

授業概要・目的	雇用・労働関係の法律については、大別して、 ①　労働者の保護を主眼とする個別的な労働関係の法律 ②　労働組合が主体となる集団的な労使関係の法律 ③　労働市場に関する法律 に分けることができます。 本講義では、上記①を中心として、②を補足的に取り扱います。 法学の基礎知識を土台として、労働契約法（解雇、雇止め等）、労働基準法（賃金、労働時間等）などの雇用・労働関係の法律について、代表的な最高裁判決を紹介しつつ、立法政策的な観点も含め、説明を行います。
到達目標	個別的な労働関係及び集団的な労使関係の法律に関する基本的な知識や知見、実務の在り方を理解した上で、就職に向けて、また、就職（起業）後において、実際に起きている雇用・労働関係をめぐる諸問題について、法的視点から考察できる能力を身につけることを目標とします。(DP1)
授業方法と留意点	初回（第１回）のガイダンスで、授業の進め方を説明します。履修を希望される方は、必ず出席してください。 ガイダンスの内容に従って、基本的に、出席した授業ごとに持ち点が積み上がる方式となります。 毎回の授業中において、リアクションペーパー（RP、記述式）やプチテスト（PT、レベルチェック）が行われます。 履修者自ら主体的に習得すべき情報が多い授業ですので、日頃から着実にたゆまず取り組んでください。 座席指定や私語の禁止、無断欠席による単位不認定などの決まり事があります。履修に際して、特にご注意ください。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官試験などの公務員試験や、社会保険労務士の資格取得のためにも、有益な内容となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	雇用･労働関係の法律の座標 ～ガイダンス～	・　憲法との関連 ・　雇用契約の当事者 ・　法的責任の在り方	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
2	多様な働き方に応じた法制	・　雇用契約 ・　請負契約 ・　委任契約	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
3	非正規雇用労働者	・　契約社員 ・　パート社員 ・　派遣労働者等	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
4	募集・採用	・　募集・採用 ・　インターンシップ ・　内定	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
5	整理解雇	・　整理解雇 ・　退職勧奨	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
6	解雇	・　懲戒処分 ・　雇止め	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
7	定年	・　定年退職	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
8	その他の離職	・　自主退職 ・　倒産	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
9	賃金	・　賃金の構成 ・　賃金の支払いの５原則 ・　賞与・休業手当	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
10	割増賃金	・　割増率 ・　算定基礎から除外される手当 ・　最低賃金	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
11	労働時間と時間外労働	・　法定労働時間 ・　３６協定 ・　上限規制	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
12	休憩・休日・年次有給休暇	・　休憩 ・　休日・休息 ・　年次有給休暇	番号１の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振返りを行う。(計２時間)
13	団体交渉と労働協約	・　労働組合の現状 ・　労働委員会 ・　労働協約の締結 ・　チェック・オフ	番号２の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。(計２時間)
14	不当労働行為救済制度	・　団体交渉の拒否 ・　不利益取扱い ・　支配・介入	番号２の教科書の該当箇所について、授業前の下調べ、授業後の振り返りを行う。(計２時間)
15	締めくくり考査と総括	・　既習した知識や知見が定着しているかを評定するために実施	講義内容の振返り、教科書や例題等の総ざらいを行う。(２時間)

関連科目：日本国憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 人事労務関係法　令和６年度版	テラボ	斉家書房
2	【電子】 小規模企業のための労使関係法　令和６年度版	テラボ	斉家書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【電子】 振り返り例題　労働法　令和６年度版	テラボ	斉家書房
2	【電子】 振り返り例題　労使関係法　令和６年度版	テラボ	斉家書房

	3			

評価方法 （基準）	原則として、授業への取組姿勢（RP や PT を含む。）〔８０％〕により、成績を判断します。 併せて、終盤に、締めくくり考査〔２０％〕を実施し、授業への取組姿勢を総合的に考慮して評価します。 コロナウイルス感染症対策等の特別な事情により、上記内容の割合を変更することがあります。 なお、講義の内容が、その当日の RP や PT に必ずしも出題されるわけではありません。
学生への メッセージ	初回のガイダンス及び Teams を通じて、授業に必要な情報をお伝えします。ガイダンス時に、教科書等の購入方法を説明します。 毎回の講義では、レジュメを使用せず、各自が購入した教科書等を使用します。 基本的に、講義で重要な基礎的事項を説明し、その後、自ら進んで教科書や参考書を通じて関係条文や裁判例などを学んでいただき、PT で、主体的に習得した法的知識のレベルチェックを行うという流れとなります。 RP や PT の内容は、おおむね教科書や参考書から出題され、事前・事後の学修として２時間程度を要します。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　寺山教授室
備考	講義では、民法（債権法）の特別法である労働契約法、強行法規としての労働基準法その他の雇用・労働関係の法律という幅広い範囲を扱うとともに、関連条項も多岐にわたります。 履修に当たって、法律の条項や裁判例の読み方をひと通り学習しておくことが望まれます。 なお、必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘する場合があります。

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	仲宗根　京子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3052a0		

授業概要・目的	この講義では、「金融商品取引法」で定められている法制度･法規制について学習することを目的とします。法律科目の中でも金融商品取引法は専門性が高く、法律の条文を読み解くのは少し難しいものになっています。講義内容としては、経済社会において必要不可欠となっている証券市場に関する情報開示ルールや禁止されている不正行為を中心に見ていきます。最終的に、この講義では金融商品取引法にどのような規制が何のために存在するかを明らかにしていくことを目的としています。
到達目標	この講義を通じて学生には、金融商品取引法で定められた法規制を理解できるようにすることに加え、証券市場を取り巻く法的問題点に対して論理的に検討できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義内容に合わせてレジュメはTeamsを利用して配布します。講義の最後にその日の復習としてグループで問題を解いてもらいます。答え合わせをして間違えた部分を中心に毎回の復習をするようにしてください。
科目学習の効果（資格）	金融の中でも証券取引に関する専門性の高い法律知識を習得し、難解な法律を読み解くことができるようにします。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方	シラバスの確認（予習 30 分）
2	金融商品市場の基本的な仕組み	社会基盤としての市場および投資活動	証券市場について大まかに調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
3	金融商品取引法の適用範囲	金融商品取引法の目的と適用範囲	金融商品取引法について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
4	有価証券の上場と取引所	有価証券の上場	上場や証券市場について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
5	企業内容の開示規制①	開示規制の概要と発行開示制度	発行開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
6	企業内容の開示規制②	目論見書制度、発行登録制度	目論見書について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
7	企業内容の開示規制③ 情報開示の公平性確保	継続開示制度、FD ルール	継続開示について調べる（予習：1 時間、復習 1 時間）
8	確認試験（中間）	第 2 回～第 7 回の総括および確認試験	第 2 回～第 7 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）
9	情報開示の正確性確保、課徴金制度	監査制度、行政審査、課徴金制度の概要	監査および課徴金について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
10	虚偽の情報開示と法的責任	発行市場･流通市場における書類の虚偽記載等の民事責任	損害賠償請求に関する損害賠償額の立証と消滅時効について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
11	インサイダー取引の規制	インサイダー取引の意義と法規制	インサイダー取引とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
12	相場操縦の規制	相場操縦の意義と法規制	相場操縦とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
13	風説の流布･偽計取引等の規制、不公正な行為の法的責任、詐欺的行為の禁止	金商法 157 条および 158 条、不公正の行為に関する民事責任と刑事責任	金商法 157 条および 158 条について調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
14	公開買付け制度（TOB）	公開買付けの意義と法規制	公開買付とは何か調べる（予習 1 時間、復習 1 時間）
15	確認試験（期末）	第 9 回～第 14 回の総括および確認試験	第 9 回～第 14 回の授業で扱った内容すべてについて復習する（2 時間）

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法（第４版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	確認試験を 2 回実施し、中間（50%）および期末（50%）として評価する。
学生へのメッセージ	金融や株式取引などに興味のある学生は新たな法的視点を得ることができると思います。ただし、専門的で特別な法律であることから内容的が難しいものとなりますので、そのつもりで受講してください。安易な気持ちで受講することがないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階
備考	

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1301a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。 授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅰでは、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	１）心理学についての基礎知識を習得する。(DP1) ２）人間の行動を理解する。 ３）社会の中の自己を確認する。 ４）実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料はMoodleに提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とはどのような学問か	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究の考え方、今までの歩みについて概説する。	事前：心理学の印象について自分なりの考えをまとめておくこと 学期末に向けての注意点は覚えておく（1時間） 事後：課題作成（1時間）
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	前回の授業でのVTRについて課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献・を紹介するので読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめ、ノートを作成（1時間）
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	前回の授業の課題を提出する。 事前：実験手続き・関連文献を紹介するので読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
5	社会的学習（１）	学習とは学校での勉強のことではなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
6	社会的学習（２）	子どもたちは様々な社会・環境から影響を受け経験を積んでいく。事実に基づいた出来事を紹介し、社会的学習について考察する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する 実験結果についてレポート作成する（２時間）
8	動機づけ（１）	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
9	動機づけ（２）	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成すること 授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えをまとめ提出する。(2時間)
10	動機づけ（３）	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
11	パーソナリティ（１）	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
12	パーソナリティ（２）	パーソナリティのとらえ方。パーソナリティの形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
13	パーソナリティ（３）	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
14	パーソナリティ（４）	パーソナリティについて自己分析を行う。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	事前：授業全般、分からない部分についてまとめておくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）

関連科目	心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>講義内で行う確認テスト・小テスト・課題・レポート等を総合的に評価する。
【確認テスト 50%、小テスト・課題・レポート等 50%】</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。
心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。
講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。
授業内で、携帯や PC を使用し課題を提出して頂きます。デヴァイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。</td></tr>
</table>

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	連　傑濤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1301a1		

授業概要・目的	【授業概要】 心理学は、人間の行動を理解、予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。 【授業目的】 本講義の目的は下記の３つである。 １）心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 ２）情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 ３）自己を探求するための手がかりをつかめるようにする。
到達目標	本講義の具体的な到達目標として以下の３点を挙げる。(DP1) 1)「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 社会場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定であり、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる場合がある。 ※授業中、Moodle や Teams にて小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考えてみましょう。そしてそれを習慣化してみましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学についてふりかえってみましょう。 教科書第１章を予習してください。
3	学習心理学	臨界期の概念、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、鏡映描写実験、社会的学習について解説します。	教科書第２章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
4	生理心理学	中枢神経系、末梢神経系、感情について解説します。	教科書第３章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
5	知覚心理学	知覚の体系化、知覚の恒常性、視覚、聴覚、触覚から認知へについて解説します。	教科書第４章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
6	認知心理学	注意、記憶、言語について解説します。	教科書第５章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
7	社会心理学 1-自分と他者のかかわり	自己、印象形成、ステレオタイプ、態度、原因帰属について解説します。	教科書第６章の前半を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
8	社会心理学２-社会と集団 テスト１	社会認知、集団行動、社会的排斥について解説します。授業内のテスト１を実施します。	教科書 1-６章を事前に復習してください。 教科書第６章の後半を事前に予習してください。
9	パーソナリティ心理学	パーソナリティの測定、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第７章と参考書「心理学」第 10 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
10	臨床心理学-1	精神分析療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法について解説します。	教科書第８章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
11	臨床心理学-2	うつ病、不安症、統合失調症、発達障害について解説します。	参考書「よくわかる臨床心理学」p56-p80 を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
12	発達心理学-1	生涯発達理論、乳幼児期から児童期までの養育、発達について解説します。	教科書第９章と参考書「心理学」第 19 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
13	発達心理学-2	子どもの気質、愛着、発達の病理について解説します。	参考書「心理学」第 20 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
14	神経心理学	脳の構造、失語症、失認症、失行症について解説します。	教科書第 10 章を事前に予習してください。 ミニレポートにまとめましょう。
15	まとめとテスト２	授業全体のまとめを簡潔に解説してから、授業内のテスト２を実施します。	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目：心理学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学入門	板口典弘、相馬花恵	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	よくわかる臨床心理学	下山晴彦	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法 （基準）	【授業内小テスト】20% 【提出物：レポート】10% 【テスト１】30% 【テスト 2】40% ※授業内テスト、レポートの提出物、テストの得点を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	事前事後学習について毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 授業中、質疑応答以外の私語が禁止です。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1302a1		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	１）心理学の知識を幅広く習得する（DP1）。２）社会と個人の関係を理解する。３）集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。４）状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTRを使用する。 簡単な心理学実験や自己分析などを行い、ディスカッション、課題の提出やレポートの提出を求める場合がある。 講義資料はムードルに提示する。 講義の中で、課題の回答や、意見を求める場合は、Moodle・Google forms・QRコードを用いる。 回答を回収した上で、心理学の問題について解説する。携帯を忘れたり、充電が切れている場合は、紙での回答ができるので申し出て提出すること。
科目学習の効果（資格）	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは何か、社会・集団の中の心理について	授業の進め方、注意点について説明する。心理学、心理学研究についての考え方について説明する。後期において取り扱うトピックの概要説明。 【初回授業の実施方法】 授業は、オンライン（オンデマンド）で実施。 １回目は、Teamsにアクセスし、その後、ムードルの第１回目授業を閲覧すること。 【Teams コード】【ムードル登録キー】は、シラバス下部に表記しています。	事前：心理学はどのような学問かまとめておく（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
2	知覚（１）	人間理解につながる「見えのしくみ」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
3	知覚（２）	知覚の種類、特徴、見えに及ぼす社会的影響について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
4	知覚（３）	知覚と消費行動。見る行為と消費がどのようにつながっているのか、説明する。	事前：実験について事前に紹介するので関連文献を読んでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する 実験についてまとめる（２時間）
5	対人関係（１）	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
6	対人関係（２）	人はどのような事をきっかけに親しくなっていくのか、実験によって科学的に証明された「対人魅力」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
7	対人関係（３）	「対人魅力」について説明する。親しくなっていく要因について更に解説する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
8	対人関係（４）	「対人魅力」の分野における、好きと愛の行動パターンについての研究を紹介する。自己の愛のタイプについて実際に考えてみる。 第８回より対面授業	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
9	集団（１）	「集団」についての心理学的視点・これまでの研究を紹介する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
10	集団（２）	「集団討議」について考えてみる。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
11	集団（３）	集団のもつ持つ影響力として「同調」と「服従」について説明する。	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
12	集団（４）	ジンバルドーが行った「監獄実験」について説明する。	事前：うわさの実験について紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
13	集団（５）	「情報伝搬」「うわさ」によるパニック行動、うわさの分類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	事前：どのような援助が考えられるか考えておくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）
14	集団と援助行動	集団の中に個人が埋没すると、援助行動が行われない場合がある。援助行動が行われない状況とはどのような状況か、意	事前：関連文献等を紹介するのでよんでおくこと（1時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1時間）

			思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。	
	15	まとめ・確認テスト	授業全体のまとめ・確認テストを行う。	事前：疑問点がどこにあるのか考えておく（1 時間） 事後：授業についてまとめノート作成する（1 時間）

関連科目	心理学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で行う確認テストやレポート、課題提出等を総合的に評価する。 【授業内で行う小テスト・確認テスト 50%　　課題・レポート提出 50%】
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。 私語、他の授業の勉強、授業への回答以外で携帯を触る、他の学生へ迷惑が及ぶような場合、教員がそのように判断した場合は退出を求める場合が
担当者の 研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	提出課題等は、その都度、指示に従い回答、提出して下さい。それらの課題やレポートは評価の対象となります。 授業内で、携帯や PC を使用し課題を提出して頂きます。デヴァイスは十分充電を行っておいて下さい。忘れたり、充電が切れた場合は、用紙での提出も可能なので、申し出てください。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1302a1		

授業概要・目的	心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。「心理と社会」では、特に現代社会や社会情勢と人の行動との関わりについて解説していく。社会で活躍するために必要な幅広い教養を身につける。 SDGs-3, 5, 10
到達目標	1)社会が個人に与える影響を理解する。 2)個人が社会に与える影響を理解する。 3)社会の中のコミュニケーションについて理解を深める。 4)幅広い教養を身につける(DP１)。
授業方法と留意点	毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で授業を行う。資料を DL し、ノートを必ず取ること。 ｊ授業中には、学生同士の話し合いなどを行う。 授業の連絡は、teams　で行う。毎週必ず授業開講時刻に確認すること。 また、小テスト、課題の提出は授業中に、moodle で行うのでスマホなどを持参すること。
科目学習の効果（資格）	近年の経済不況や就職難などの社会変化が個人と集団の心理や行動にどのような影響を及ぼすのかを理解し、それにどのように対応すべきかなどの能力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･社会の中の心理とは？	授業内容、授業方法について説明します。 社会と心理との関係	事前学習課題：社会心理学について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人が社会に影響を受ける事例についてまとめておくこと(1 時間)
2	社会と心理学	社会心理学の歴史と課題	事前学習課題：社会心理の歴史について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会心理学の今後の課題についてまとめておくこと(1 時間)
3	社会的認知と集団心理	原因帰属	事前学習課題：社会的認知について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が行動を起こしたときの原因帰属の理論についてまとめること(1 時間)
4	自己の社会化と動機づけ	自己知覚理論	事前学習課題：自己知覚理論について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が社会に適応するメカニズムについてまとめること(1 時間)
5	社会的態度と態度変容	説得と態度変化	事前学習課題：態度変化とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：説得の効果とその理論についてまとめること(1 時間)
6	対人行動の明暗	攻撃と援助行動	事前学習課題：自分のこれまでの攻撃行動の内容についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が他者を助ける条件についてまとめること(1 時間)
7	社会の中の対人関係	印象形成、関係維持、関係崩壊	事前学習課題：自分が他人から持たれる第一印象についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：関係維持をするために必要な要因についてまとめること(1 時間)
8	対人関係と健康	ストレッサーとコーピング	事前学習課題：現在自分が感じているストレスについてあげること(1 時間) 事後学習課題：ストレスのコーピング法について、具体例も含めてまとめること(1 時間)
9	対人関係と幸福	ソーシャル・サポート	事前学習課題：人が幸福を感じる瞬間について調べること(1 時間) 事後学習課題：周りの人からのソーシャルサポートの種類とその効果についてまとめること(1 時間)
10	社会的影響	同調と服従	事前学習課題：自分が周りに同調した例をあげておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が誰かに服従するときに心理状態についてまとめておくこと(1 時間)
11	集団の影響	社会的促進と社会的手抜き	事前学習課題：社会的促進について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会的手抜きの具体例とその防止策についてまとめておくこと(1 時間)
12	集団過程	集団における意思決定	事前学習課題：最近自分が行った意思決定について、あげておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人の意思決定と集団の意思決定の違いについてまとめておくこと(1 時間)
13	集合と群衆	群衆行動の生起メカニズム	事前学習課題：群衆とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：群衆行動の具体例とその効果についてまとめておくこと(1 時間)
14	流言と流行	噂の心理、流行の心理	事前学習課題：最近流行ったこと、モノについて調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：噂の心理、効果について具体例を含めてまとめること(1 時間)
15	社会情勢と人間の心理/全体のまとめ	社会問題の中での人間の心理/最終テストの実施と解説	事前学習課題：これまでの内容について総復習を行うこと(1 時間)

				事後学習課題：心理と社会との関係についてまとめておくこと(1時間)

関連科目	「心理学Ⅰ」と関連する。「心理学Ⅰ」を受講した後に本授業を受けることが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実	北大路書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーション心理学	深田博己	北大路書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小テストと授業課題の累積点（20%）、最終の小テスト(80%)の割合で、総合的に判断する。 遅刻(10分まで)、私語など他人の迷惑となる行為は減点の対象となる。出席点などはない。
学生への メッセージ	人は社会の中で生きています。人は集団に流されたり，社会に踊らされたりします。そのようなときにどのような心理が働いているのかを解説していく。 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、スマホなどの使用など)はすべて禁止とします。スマホなどの使用に関しては退室をしてもらうことがあります。遅刻は減点(10分まで)の対象となります。 授業の連絡はTeams で行います。 資料の配布は、毎週moodle で行います。
担当者の 研究室等	11号館7階 牧野(幸)准教授室
備考	授業に出席した人のみ、毎回の小テストと授業課題を実施できます。 小テスト、授業課題などの不正(出席していないのに受験、提出)は、すべて失格(単位なし)となります。 小テスト、授業課題には締切があります。 必ず厳守してください。締切以降の受験、提出はいっさい認めません。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1303a1		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまいがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけではなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面にぶつかることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	１．一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ ２．哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ（DP1）
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果（資格）	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える（30 分）
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
3	「知る」とは何か？	プラトンの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
6	世界は本当に「存在」するのか？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
7	実は「私」しか存在していないのではないか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる議論について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
8	「理性」はどこまで考えられるのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
10	存在しないものに「感情」を抱くか？	フィクションについての考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
11	どうすれば「人間の生きる世界」を観察することができるのか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
12	「言葉」は「意味」を伝えるためだけのものか？	サールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
13	「他者」とはどういうものか？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
14	「客観性」とはどのようなことか？	正しさの多様性について考える	予習：主題となる議論について調べておく（30 分） 復習：講義ノートを見直す（30 分）
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す（計 1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観念論ってなに？　オックスフォードより愛をこめて	冨田恭彦	講談社現代新書
2			
3			

評価方法（基準）	授業内課題８０％、毎回の授業コメント２０％の割合で評価する。

学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。 見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱　良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1304a1		

授業概要・目的	「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」,「他者とは何か」,「幸せとは何か」など，人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。 この授業は，そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では古今の哲学思想をもとにして人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み，さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。
到達目標	（１）哲学に関する基礎的な知識を習得すること。(DP1) （２）人間存在や現代社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。 （３）自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。
授業方法と留意点	講義形式 教科書の内容を中心に授業を行う。加えて、授業時に講義内容に関するプリントを配布する。教科書は遅くとも３回目の講義までには入手すること。その他の参考文献などは必要に応じて授業中に適宜紹介する。 受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。授業内では口頭説明や板書を自分の判断でノート等に書き残し、授業後にまとめなおしておくこと。授業内容について調べたり、他の受講者とディスカッションなどを行うことを推奨する。不明な点があれば、授業前後に担当教員に積極的に質問すること。 病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。 授業の理解度を試す小レポートを数回実施する。小レポートと期末レポートの提出は Moodle 上で行ってもらう。 問い合わせ、質問等には授業前後の時間、E-mail および Teams で対応することができる。
科目学習の効果（資格）	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、ねらいについて説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
2	経験の貧困	教科書の序章をもとに、現代社会における「経験の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
3	象徴の貧困	教科書の序章をもとに、現代社会における「象徴の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
4	教育の貧困	教科書の第４章をもとに、現代社会における「教育の貧困」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
5	大衆とは何か	教科書の第４章をもとに、現代社会における「大衆」とは何かについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
6	ポピュリズムとは何か	教科書の第５章をもとに、現代社会における「ポピュリズム」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
7	現代民主主義とルソー	教科書の第５章をもとに、現代社会における現代民主主義のあり方とルソーの思想の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
8	現代のテクノロジーと政治	教科書の第５章をもとに、現代社会におけるテクノロジーと政治の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
9	現代的な欲求のあり方について	教科書の第１章をもとに、現代社会における欲求のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
10	現代的な性愛のあり方について	教科書の第７章をもとに、現代社会における性愛のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
11	マクルーハンのメディア論	教科書の第３章をもとに、マクルーハンのメディア論について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
12	現代メディア論	教科書の第３章をもとに、現代社会におけるメディアと人間のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）

13	人間の野蛮化と部族化について	教科書の第３章をもとに、現代社会における人間の「野蛮化」と「部族化」について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
14	未来の世界と自己のあり方について	教科書の第３章をもとに、未来の世界とそこでの自己のあり方について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。（１時間程度）〈復習〉授業後のノート・資料の整理。授業内容についての調査。他の受講者とのディスカッション。（１時間程度）

関連科目

哲学Ⅰ、社会学、社会と人権

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	曲がり角の向こう-現代社会への問いかけ	庭田茂吉ほか編	萌書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業内での小レポート等を４０％、期末レポートを６０％として、総合的に評価する。

学生へのメッセージ

授業前に教科書の指定された箇所を読んでおくこと。

提出物は期限内に出すこと。特別な事情があって遅れる場合はその旨を連絡すること。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

質問・相談等には、授業前後の時間、学内メールおよび Teams で対応することができる。

授業外学習は授業期間全体で 60 時間程度と定められている。内訳は以下の通り。
・ノート等の整理、配布資料の読み直し（毎回１時間程度。計１５時間）
・授業内容についての調査、受講者同士のディスカッション（毎回１時間程度。計１５時間）
・小レポート、期末レポートの準備・作成（計３０時間）

科目名	倫理学	科目名（英文）	Ethics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU2305a1		

授業概要・目的	科学技術の急速な発達、宗教的権威の低下、資本主義と市場原理主義の支配を背景として、現代社会における倫理的な問題は、複雑さを増し、また、解決が難しいものとなっている。この講義では、倫理と倫理学の基本的な知識を学ぶとともに、現代の倫理的な問題に対するアプローチを試みる。
到達目標	倫理と倫理学の基本を学び、理解する。 倫理学のさまざまな立場の特長を理解する。 現代社会における倫理的な問題がどうして生じているのかを理解する。 倫理的な問題に対して、各自で考え、解決の方向を探っていく。(DP1)
授業方法と留意点	マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしよう』をテキスト（基本資料）として用いる。 事前学習はサンデルの著書の該当箇所をあらかじめ読んでくること。また、事前学習、レポート課題もこの著書の事例について考えてもらう。一つのテーマにつき一度は授業時間内でディスカッションをする予定。 講義そのものは、こちらの計画に沿って進める。 サンデルの扱っていない問題など、適宜資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・倫理と倫理学の区別 ・倫理学の立場の違いについて ・倫理学の扱う領域について	倫理についての自分なりの考えをまとめる。
2	功利主義（1）	・功利主義とは何か ・最大多数の最大幸福 ・幸福とは何か ・ベンサムとミルの立場	サンデル　第１章を参照
3	功利主義（2）	・選好功利主義（ヘア） ・トロッコ問題の解決策はあるのか	サンデル　第２章を参照
4	功利主義（3）	・功利主義への批判と功利主義の応答 ・幸福（快楽）か義務か	功利主義の問題についてまとめる レポート課題
5	義務論（1）	・カントの義務論 ・ヒュームのカント批判	サンデル　第５章を参照
6	義務論（2）	・機会の平等をめぐる学説 ・ロールズの思想	サンデル　第６章を参照
7	市場と道徳（1）	・リバタリアニズムの主張 ・リバタリアニズムとコミュニタリアニズム	サンデル　第４章を参照
8	市場と道徳（2）	・金で買えるもの、買えないもの ・インセンティブの問題 ・経営の倫理	サンデル　第７章を参照 レポート課題
9	徳倫理学の復権	・古代ギリシアの徳倫理学 ・現代の徳倫理学	サンデル　第８章
10	良心と悪の問題	・良心とは何か ・根源悪の問題	良心と悪について自分の考えをまとめる。
11	自由と決定論	・人間的自由とは何か ・自由と責任	人間の自由と責任について自分の考えをまとめる。 レポート課題
12	現代の倫理的問題（１）	・現代の倫理的状況 ・脳死と臓器移植の問題	配付資料を参照 臓器移植についての自分の考えをまとめる。
13	現代の倫理的問題（2）	・安楽死・自殺の権利をめぐる問題	配付資料を参照 安楽死についての自分の考えをまとめる。
14	現代の倫理的問題（3）	・自然に「権利」はあるのか ・動物に「権利」はあるのか ・地球全体主義について	配付資料を参照 レポート課題
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	これからの「正義」の話をしよう	サンデル	ハヤカワ文庫
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内のレポート・平常点（35%）、授業後のレポート（65%） 出席は評価対象としない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室）
備考	事前学習に 22 時間半（1 回あたり 90 分）

	事後学習とレポート課題を合わせて 37 時間半

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　康司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1306a1		

授業概要・目的	歴史学とは、過去の諸事象を研究する学問である。物事を長期的な視野からみるという姿勢を持つことや、現在とは異なる政治・社会・文化等を知ることは、現代社会を見つめ直す際に重要な手段となる。 そのなかで、本授業では、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。 古代から近現代まで、毎回テーマを設定し、講義を行う。 随時、最新の研究成果を紹介するとともに、歴史学の手法や考え方についても紹介する。
到達目標	本授業を通じて日本の歴史に関する正しい知識を得るとともに、歴史学的な考え方について理解するようになることを目標とする（DP１）。
授業方法と留意点	授業ごとにプリントを配付する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法、歴史学を学ぶ意義について説明します。	シラバスを一読してくること（所要時間２０分）。
2	古代１：古代国家の形成	農耕社会の成立から、ヤマト政権の誕生、律令国家の形成までを学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
3	古代２：摂関政治から院政へ	摂関政治や院政について学びます。また、仏教や新たな文化の発達についても説明します。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
4	古代３：武士の登場	武士の誕生と貴族社会の関係について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
5	中世１：武家政権の成立と展開	武家政権である平氏政権や鎌倉幕府について学びます。特に、鎌倉幕府の成立過程について説明を加えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
6	中世２：元寇から南北朝内乱へ	鎌倉幕府の制度や承久の乱、元寇について学び、鎌倉幕府滅亡の要因について考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
7	中世３：室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立や、南北朝の動乱について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
8	中世４：戦国時代へ	戦国大名の登場から天下統一までの動向を学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
9	近世１：江戸幕府の成立と展開	江戸幕府の成立過程や制度、対外政策について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
10	近世２：江戸幕府の動揺	幕藩体制や江戸幕府の諸政策・改革について学びます。また、江戸時代の村についても説明をします。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
11	近世３：江戸幕府の終焉	倒幕運動の広まりや、江戸幕府の対外政策・開港について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
12	近現代１：明治政府の成立と近代国家への歩み	明治政府の諸政策を学び、近代国家への歩みについて考えます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
13	近現代２：日清・日露戦争と日本	日清・日露戦争や国際関係、当時の日本政治について学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
14	近現代３：第二次世界大戦	第二次世界大戦と日本の関わりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。
15	近現代４：戦後日本と現代社会	敗戦後の復興と現代社会への繋がりについて学びます。	予習：高校教科書の該当する記述を一読しておくこと（所要時間６０分）。 復習：レジュメやノートで授業を振り返っておくこと（所要時間６０分）。

関連科目	
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業ごとのコメントペーパー　30% 期末試験　70% コメントペーパーでは、授業の内容を理解しているかを評価する。 期末試験では、授業全体を通じて日本の歴史の流れを理解したかを評価する。
学生への メッセージ	積極的に学ぶ意欲を持つ学生の受講を希望します。 わからないことがあれば、放置せず、自分で調べたり、質問をする癖をつけましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1307a1		

授業概要・目的	講義するのは、都市から見た世界史（特に中国史とヨーロッパ史）です。なお歴史（の学び）とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません（もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが）。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です（異文化理解≒自文化理解）。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。偏見から脱け出す。(DP1)
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は２つ。第１は、こつこつ授業に出てノートを取り（プリントにメモして）、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第２は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。（この授業では出席を取らないから）第２の方法にも可能性はある、が、全 15 回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない（なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱いで得点は０点、下手すれば学期の全単位剥奪… 危険きわまりない）。つまらない結論だが、第１の方法が、もっとも簡単かつ安全だろう。王道とは、そんなものである。急がば回れ。Festina lente（ゆっくり急げ）。
科目学習の効果（資格）	都市という視点から世界史（特に中国とヨーロッパの歴史）の概要を説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身に着ける。偏見から脱け出せる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／ 手で食べる文化は劣っている？／ 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか？／ 乳幼児のおよそ半分が死んでしまう／ 戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心／ 就活や通勤がない世界／ 家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事／ 恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」／ Love is blind（恋は盲目）	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢／ 男尊女卑になる社会構造／ それでも、勝ち負けはっきりした結婚（または人生）などない	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
6	都市を窓に世界史を見る	日本史（１国の歴史）だけでも大変なのに／ 都市という視点／ 人間社会が集約される場所	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
7	都市を窓に世界史を見る	世界史の流れが分かる場所／ 歴史らしい歴史の始まり／ 文明は都市と共にある	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
8	都市を窓に世界史を見る	ヒト（人類）はどうやって動物的生活から脱け出したか／ 農業革命そして都市革命／ ヒトの偉さと醜さが集約される場所	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）／ レポート準備（1 時間）
9	都市を窓に中国史を見る	中国の歴史は政治的な都市を軸として展開／ 「中国」の原義は「中心の都市」／ 領域国家の大統合（天下統一）	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）／ レポート準備（1 時間）
10	都市を窓に中国史を見る	多文化・多民族を統べる巨大国家、中国の歴史が本格的にスタート／ 都市は大帝国の行政拠点／ 都市も大帝国の統治方針と共に変わる	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）／ レポート準備（1 時間）
11	都市を窓に中国史を見る	巨大インフラ大運河と中国都市の変容／ ナイトライフ、ファストフード、エンターテインメント産業／ それでも、何よりまず行政拠点であった	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）／ レポート準備（1 時間）
12	都市を窓に中国史を見る	中国全体で見れば農村的な社会が続いた／ 西洋との関係、日本との違い／ 始まった本格的な都市化	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）／ レポート準備（1 時間）
13	都市を窓にヨーロッパ史を見る	ヨーロッパの歴史は小さな都市を軸として展開／ 決して豊かとは言えない自然／ ユーラシアの辺境と言う位置	プリントの読み返しと先読み（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）
14	都市を窓にヨーロッパ史を見る	農業経済と宗教組織がヨーロッパ都市を育てた／ 政治的分裂が都市の自治を育てた／ ヨーロッパ都市が大きくなったのは近代	プリントの読み返しと先読み／ レスポンス・ペーパー
15	都市を窓にヨーロッパ史を見る	近代への反省が現代の出発点／ ヨーロッパで見られる小さな都市への回帰の試み／ 手がかりは、ヒューマンスケールのコンパクトさ、住民自身による都市コントロールの可能性	プリントの読み返し（1 時間）／ レスポンス・ペーパー（1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	レスポンス・ペーパー（50%）、レポート（50%）。レポートは授業内容から出題（だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらためて文献を読む必要はない）。授業に出ているだけでは１点も付けない（出席点はない）が、やる気がある人には最大限チャンスを与える（この点は、これまでの受講生にも定評がある）。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邉　英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1308a1		

授業概要・目的	地誌学は，地域を構成する諸要素を体系的に捉え，その特色を解明しようとする分野である。本講義では，世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して，地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について，具体的な事例を通して理解できるようになる（DP1）。 さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し，自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。
科目学習の効果（資格）	中学校社会教員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと（事後学習３時間）
2	熱帯気候と住民生活（1）	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
3	熱帯気候と住民生活（2）	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
4	熱帯気候と住民生活（3）	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
5	熱帯気候と住民生活（4）	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
6	乾燥･半乾燥気候と住民生活（1）	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
7	乾燥･半乾燥気候と住民生活（2）	乾燥地帯で生きる人々（1）	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
8	乾燥･半乾燥気候と住民生活（3）	乾燥地帯で生きる人々（2）	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
9	寒帯・冷帯気候と住民生活（1）	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
10	寒帯・冷帯気候と住民生活（2）	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
11	寒帯・冷帯気候と住民生活（3）	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
12	温帯気候と住民生活（1）	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
13	温帯気候と住民生活（2）	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
14	温帯気候と住民生活（3）	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること（事前学習３時間）

関連科目：人文地理学，自然地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イヌイット：「極北の狩猟民」のいま	岸上伸啓	中央公論新社
2	おいしいコーヒーの経済論：「キリマンジャロ」の苦い現実＜増補版＞	辻村英之	太田出版
3	アンデス自然学	水野一晴編	古今書院

評価方法（基準）	期末試験 60%，授業内課題 30%，中間試験 10% 授業内課題は，各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。また，中間試験は授業内で実施し，論述形式で出題する。授業内で実施する中間試験については，翌週以降の授業で解説を行う。
学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため，毎回きちんと出席し，ノートを取りながら集中して受講してください。また，簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林　基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1309a1		

授業概要・目的

この授業では人文地理学という学問分野の基礎知識について学びます。

人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。

本講義では、こうした人文地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。

到達目標

・人文地理学の基本となる考え方について説明できること。

・特定の問題について人文地理学的な視点から捉えることができること。

授業方法と留意点

・主に　①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。

・学生の皆さんには、理解度を問うための授業内小課題（理解度チェックなど）と期末レポートに取り組んでもらいます。授業内課題ではディスカッションや自分なりの意見を発表してもらう場合もあります。

科目学習の効果（資格）

担当教員は、人文地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。

（1）一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。

（2）さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。

（3）個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。

（4）距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。

（5）人と

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史	地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	グローバルサプライチェーン	グローバルサプライチェーンの発展とその背景、リスク等について理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	ツーリズムの発展と課題	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	これからのツーリズム	パンデミックを経た後の今後のツーリズムの在り方について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	感染症と地理学	感染症についての地理学的な知見について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	これからの社会と地理学:総括	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			

	3
評価方法 （基準）	レポート 70%、授業内の小課題 30%
学生への メッセージ	大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。 （1）扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。 （2）試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。 この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえることを切に願います。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館５階小林研究室。 ※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください（hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp）。
備考	提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1310a1		

授業概要・目的

日本の近現代（明治時代から現代まで）の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。

本年度は、「私小説（わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとして成立し続けている。多様な「私小説」の諸相を辿りながら、履修者自身の「私」を見つめ直す機会にできればと考えている。

授業は「文学を読んでいない」「活字を読むのが苦手」の人も楽しめるよう、映像や漫画などを用いながら分かりやすく進めていく。この授業をきっかけに、本を読む習慣を身につけてほしい。

到達目標

①文学作品を読解する力を身につける
②日本文学の特徴や歴史について理解する
③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う
（DP1）

授業方法と留意点

講義を中心に行う。小説を読むことが中心となるが、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。

授業語、授業内容についてのコメントを記載してもらう。次回授業時に、コメントの内容を共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。

授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遥「小説神髄」、二葉亭四迷「浮雲」、森鴎外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
3	私小説の起源（1）	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
4	私小説の起源（2）	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
5	私小説の起源（3）	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
6	私小説の流行（1）	徳田秋声「黴」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
7	私小説の流行（2）	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
8	私小説の流行（3）	『奇跡』同人の作品、芥川龍之介、谷崎潤一郎の作品などを読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
9	私小説批判（1）	横光利一「春は馬車に乗つて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
10	私小説批判（2）	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
11	私小説批判（3）	梶井基次郎「檸檬」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
12	戦後の私小説（1）	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
13	戦後の私小説（2）	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など（第三の新人）を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
14	戦後の私小説（3）	現代までの私小説について概括する また、この回で試験の案内をする	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
15	総括・試験（レポート）	試験（レポート）を実施する	これまでの授業の振り返り

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法

履修者が多数の場合（80 人以上を目安とする）

（基準）	試験９０％ 平常点（コメントシートの内容）１０％ 上記以外の場合 平常点（コメントシートの内容）60% レポート 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	古矢研究室（7 号館 4 階）
備考	提出されたコメントに対するフィードバックは、次の授業内で行う。 事前事後学習時間は 60 時間（事前 2 時間、事後 2 時間）を目安とする。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小池　高史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS01311a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、地域・都市、医療・福祉、世代・人口といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。これらを通して、受講生自身が知的専門職業人として上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッションなども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション 集団とは何か	（事前）シラバスの理解（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
2	1　社会学の基礎	社会学のはじまり デュルケームとヴェーバー	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
3	1　社会学の基礎	社会的行為と役割	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
4	1　社会学の基礎	機能と予言	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
5	2　地域と都市	コミュニティとは何か	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
6	2　地域と都市	町内会・自治会	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
7	2　地域と都市	団地コミュニティ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
8	3　医療と福祉	認知症	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
9	3　医療と福祉	ケアと援助拒否	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
10	4　世代と人口	人口の高齢化	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
11	4　世代と人口	人口転換と人口減少	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
12	4　世代と人口	少子化	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
13	4　世代と人口	未婚化・晩婚化	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
14	4　世代と人口	世代効果と加齢効果	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）
15	まとめ	講義を終えるにあたって	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（2時間） （事後）資料に基づく内容の復習（2時間）

関連科目：社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：授業内の課題100%で評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	現代社会の課題となっているテーマを取り上げます。テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階　小池准教授室
備考	

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	好井　裕明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS01311a1		

授業概要・目的	私たちは普段、多くの他者と出会い、さまざまなつながりを作っています。この他者とのつながりが、社会の基本であり、社会学が考える基本的テーマです。本講義では、私たちが生きて在る「今、ここ」を中心として、個人や他者、状況や社会をどのように考えることができるのかを説明します。また「らしさ」や「ちがい」、「環境」をキータームとして、多様な社会問題の一端を説明します。 日常生活において他者や社会を考え直し、普段ほとんど見直すことがない常識（「あたりまえ」の知）に息づいている様々な「思いこみ」や「決めつけ」をつくりかえ、より積極的に社会や状況とかかわっていくことができる主体を形成することが本講義がめざす目的です。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会学とは何か	本講義の概要を説明し、社会学とは何かを説明する。	（事前）高校で習った「現代社会」を思い出しておく(2 時間)。 （事後）授業内容を復習し、教科書の「はじめに」を読んでおく（2 時間）。
2	社会学的考え方の基本１	社会を考える６つの視点のうち「構造」「行為」「関係性」を説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第 1 章の前半を読み、理解する（2 時間）。
3	社会学的考え方の基本２	社会を考える６つの視点のうち「自己」「日常生活世界」「人々の方法」を説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第 1 章の後半を読み、理解する（2 時間）。
4	日常性という宝箱１	シュッツの日常生活世界論、生活構造論を説明し	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第２章の前半を読み、理解する（2 時間）。
5	日常性という宝箱２	日常的な他者理解のありようを「類型化」「カテゴリー化」から説明する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）教科書第２章の後半を読み、理解する（2 時間）。
6	スマホのある日常を考える	スマホがどのように私たちの日常を支配しているのかを説明する。	（事前）自分が普段どのようにスマホとつきあっているかを考えておく（2 時間）。 （事後）教科書第３章を読み、理解する（2 時間）。
7	映画『フリークス』を視聴する	社会学的想像力をかきたてる傑作である『フリークス』を視聴し、その意味を解説する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）視聴した映画で、何を得たのかを確認しておく（2 時間）。
8	「らしさ」を考える	社会や他者を考えるカギとしての「らしさ」とは何かを説明する。その後、性差、ジェンダーについてさらに考える。	（事前）教科書第４章前半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第４章前半を読み、理解する（2 時間）。
9	性的少数者をめぐる問題	性的少数者をめぐる問題を説明する。その後時間があれば、ユニークフェイスも問題も説明する	（事前）教科書第４章後半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第４章後半を読み、理解する（2 時間）。
10	ドキュメンタリー『ハーヴェイ・ミルク』を視聴する	性的少数者をめぐる優れたドキュメンタリーを視聴し、性的少数者の解放運動を理解する。	（事前）前回の講義内容を復習しておく（2 時間）。 （事後）視聴したドキュメンタリーで内を得たのかを確認しておく（2 時間）。
11	カテゴリー化を考える	障がい者問題を手がかりとして「ちがい」とは何かを説明する。障害者スポーツが提起する問題も説明する。	（事前）教科書第５章を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第５章を読み、理解する（2 時間）。
12	環境問題を考える１	環境問題のこれまでを「環境汚染」「水俣病問題」を中心に説明する。	（事前）教科書第６章前半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第６章前半を読み、理解する（2 時間）。
13	環境問題を考える２	環境問題の現在とこれからを「生活環境主義」「原発問題」を中心に説明する。	（事前）教科書第６章後半を読んでおく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、今一度教科書第６章後半を読み、理解する（2 時間）。
14	被爆問題のドキュメンタリーを視聴する	NHK スペシャル「キノコ雲の下で何が起きていたのか」を視聴し、広島・長崎の被爆問題を説明する。	（事前）被爆問題について何を学んできたのかを思い出しておく（2 時間）。 （事後）講義内容を参考にし、被爆問題のこれからを考える（2 時間）。
15	まとめ	これまでの講義内容を今一度整理し、「今、ここ」から考える社会学の面白さと意義を確認する。	（事前）教科書第７章を読んでおく（2 時間）。 （事後）社会学の講義内容全体を復習しておく（2 時間）。

関連科目：社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「今、ここ」から考える社会学』	好井　裕明	筑摩書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	期末テストはしないで、講義内容の理解を前提とした課題レポート（2000～2500 字）で評価します。 授業参加態度２０％と課題レポート８０％で評価します。
学生への メッセージ	できるだけ興味深い講義をしたいと思いますが、最初から聞く気のない学生は受講しないでほしいと思います。話を聞かず、スマホなどをいじって教室の後ろにただ座っている「無駄」などしない学生とむきあい、その場で感じ考えることも含めて語っていきたいですね。
担当者の 研究室等	３号館 3 階好井研究室
備考	

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	須藤　遙子.稲生　勝.平山　洋介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1312a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。 本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。 具体的には、３人の担当教員の専門からメディア、都市、環境というテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。 これらを通して、受講生自身が知的専門職業人として上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	本講義は、３名の教員により５回ずつのオムニバス形式で開講される。 講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「メディア」「都市」「環境思想」に関わる問題に対し、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、メディア１：メディアとは	講義へのオリエンテーション メディア、コミュニケーション、情報とは	（事前）シラバスの理解（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
2	メディア２：マス・コミュニケーションとは	マスコミ４媒体、大衆（マス）、インターネットとの比較	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
3	メディア３：ジャーナリズム	グーテンベルクの活版印刷、新聞、権力の番犬	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
4	メディア４：インターネット	WWW、地球村、SNS	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
5	メディア５：ファクトチェック	フェイクニュース、「いいね！」、AI	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
6	都市再生１	ホットスポットを発明する	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
7	都市再生２	ファンタジー・シティ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
8	都市再生３	若者のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
9	都市再生４	女性のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
10	都市再生５	大災害からの地域再建	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
11	社会思想１：社会と社会構成体	意識は社会的存在、生活に規定されている…	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
12	社会思想２：資本主義とは？	資本主義の特徴；①製品→商品 ②労働力も商品 ③自己増殖する資本	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
13	社会思想３：資本主義の問題	疎外、搾取、環境破壊	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
14	社会思想４：資本主義から帝国主義へ	戦前型帝国主義と現代帝国主義の相違	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
15	社会思想５：世界規模で広がる帝国主義への抵抗運動	貧困、飢餓の訴え、環境保全運動	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）

関連科目　社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各教員の配分 30%（内訳は、平常点５0%、課題５0%）×３人＝90% 出席を加味した全体の授業参加度 10%
学生への メッセージ	現代社会の課題となっているテーマを取り上げます。 テーマに関心をもった「やる気のある学生」は受講してください。 大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階　稲生研究室、平山研究室、須藤研究室
備考	

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	須藤　遙子.稲生　勝.平山　洋介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1312a1		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。 本講義では、さまざまな社会問題を発見しそれを解決するために必要な、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。 具体的には、３人の担当教員の専門からメディア、都市、環境というテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。 これらを通して、受講生自身が知的専門職業人として上記の問いに向きあえるようになることを目的とする。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる（DP1）。 社会問題を発見し、社会学的な発想をもとに考察できる。 社会問題について、社会学の知識に基づいた解決策を考えることができる。
授業方法と留意点	本講義は、３名の教員により５回ずつのオムニバス形式で開講される。 講義形式を基本とするが、学生どうしでのディスカッション、映像資料の視聴なども適宜おこなう。
科目学習の効果（資格）	現代社会における「メディア」「都市」「環境思想」に関わる問題に対し、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、メディア１：メディアとは	講義へのオリエンテーション メディア、コミュニケーション、情報とは	（事前）シラバスの理解（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
2	メディア２：マス・コミュニケーションとは	マスコミ４媒体、大衆（マス）、インターネットとの比較	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
3	メディア３：ジャーナリズム	グーテンベルクの活版印刷、新聞、権力の番犬	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
4	メディア４：インターネット	WWW、地球村、SNS	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
5	メディア５：ファクトチェック	フェイクニュース、「いいね！」、AI	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
6	都市再生１	ホットスポットを発明する	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
7	都市再生２	ファンタジー・シティ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
8	都市再生３	若者のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
9	都市再生４	女性のライフコースと住まい	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
10	都市再生５	大災害からの地域再建	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
11	社会思想１：社会と社会構成体	意識は社会的存在、生活に規定されている…	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
12	社会思想２：資本主義とは？	資本主義の特徴；①製品→商品 ②労働力も商品 ③自己増殖する資本	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
13	社会思想３：資本主義の問題	疎外、搾取、環境破壊	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
14	社会思想４：資本主義から帝国主義へ	戦前型帝国主義と現代帝国主義の相違	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）
15	社会思想５：世界規模で広がる帝国主義への抵抗運動	貧困、飢餓の訴え、環境保全運動	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）資料に基づく内容の復習（0.5時間）

関連科目：社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	各教員の配分 30%（内訳は、平常点５0%、課題５0%）×３人＝90% 出席を加味した全体の授業参加度 10%
学生への メッセージ	現代社会の課題となっているテーマを取り上げます。 テーマに関心をもった「やる気のある学生」は受講してください。 大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階　稲生研究室、平山研究室、須藤研究室
備考	

科目名	法学入門	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	團野　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS01313a1		

授業概要・目的	私たちは社会の中で生きており、社会の構成メンバーの利害を調整し、また、秩序を維持するためのルール（規範）が法です。法を学ぶことは社会の仕組みを知るだけでなく、自分の身を守ることにもつながります。この講義では、法の基本的な知識と考え方を学ぶこととしており、特に、基本的な法である憲法と民法を中心的に説明します。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①　法学の基本的な考え方を理解し、法令の読み方を身に着ける ②　憲法の理念を理解し、そこで規定されている人権や統治に対する考え方についての知識を身に着ける ③　民法の基本事項を理解する
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようにしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果（資格）	法律的な考え方が身につくことで、社会をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法を学ぶことの意味、法とは何か、法源、法律の学び方	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
2	法令の読み方と解釈	法令及び条文の構成、法令用語の基礎知識、法令解釈の方法	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間） 第２回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
3	憲法とは何か	憲法とは、近代的な憲法の発展、日本国憲法の概要と特徴	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
4	人権と法（Ⅰ）	人権の歴史、基本的人権の一般原則、人権の体系、人権の保障範囲、基本的人権の制限、人権を享有する主体、法の下の平等	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
5	人権と法（Ⅱ）	自由権の内容と種類、精神的自由権、経済的自由権、人身（身体）の自由	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
6	人権と法（Ⅲ）	社会権、受益権、参政権、幸福追求権及び新しい人権	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間） 第６回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
7	国家と法	国民主権、三権分立、国会、内閣、裁判所、地方自治、憲法の保障	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
8	平和と法	日本国憲法と平和主義、憲法９条の法的性格と解釈	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間） 第８回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
9	民法の概要・財産法（Ⅰ）	民法の概要、財産法の概要、権利と義務、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
10	財産法（Ⅱ）	法律行為、権利能力・意思能力・行為能力、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
11	財産法（Ⅲ）	代理、時効、契約	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
12	財産法（Ⅳ）	物権、所有権、不法行為、事務管理、不当利得、債務の担保	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間） 第 12 回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
13	家族法（Ⅰ）	家族法の概要、親族、夫婦、親子関係、未成年者と父母の親権、親族間の扶養義務	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
14	家族法（Ⅱ）	相続、相続人と相続分、遺言	配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間）
15	裁判制度/まとめ	裁判所の役割と機能、事件の種類と裁判の流れ、裁判例と判例/まとめ	授業での配付資料を読み直して、ノートを整理すること（約３時間） これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。（約３時間）

関連科目：憲法、民法、労働法、刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
2	民事法入門	野村豊弘	有斐閣
3	民法	我妻榮	勁草書房

評価方法：期末試験の点数（６０％）と小テストの点数（４０％）の合計点で評価します。

（基準）	
学生への メッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　團野研究室
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものであり、初学者を対象としていますので、復習に重点を置いていただくようにお願いします。特に、講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを取るようにしてください。 また、資格試験のために法律を勉強しようと考えている方は、ご自分に合った参考書（入門書）を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読むことを心掛けると、理解が進むと思われます。

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	Japanese Constitution
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	團野　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IS01314a1		

授業概要・目的	憲法は、国家の最高法規として、国家組織を規定し、国のあり方を提示しています。 憲法を学ぶことは、私たちの人権はどのようなメカニズムで守られているのかについて理解を深めたり、社会や経済が変化していく中で日本はどうあるべきかを考える契機になったりします。 この授業では、日本国憲法の成り立ち、基本的考え方、憲法をめぐる様々な議論に関して学習するとともに、個別事例（判例）の検討を通じて重要事項への理解を深めることとしています。
到達目標	この授業を通じて学生は次の目標を達成することを目指します。 ①　憲法の成り立ちや基本的な理念を理解できること ②　憲法をめぐる様々な論点を理解し、自分なりの見解を持つこと
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようにしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果（資格）	憲法の知識を身に着けることで、社会における様々な問題をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法の意義	憲法の意義、日本国憲法の成立、憲法の解釈適用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
2	国民主権	国民主権、三権分立、選挙制度など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
3	平和主義	平和主義の意義、憲法９条の解釈と運用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間） 第３回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
4	基本的人権の保障	人権の歴史、人権の類型、人権の主体、人権保障の限界など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
5	包括的基本権	個人の尊重、法の下の平等、幸福追求権など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
6	精神的自由権（Ⅰ）	思想・良心の自由、信教の自由	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
7	精神的自由権（Ⅱ）	表現の自由、学問・教育の自由	配付資料を見直すともに、ノートを整理すること（約３時間） 第７回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
8	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
9	身体的自由権	適正手続の保障など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
10	社会権・受益権・参政権	社会権の内容、受益権の内容、参政権の内容など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間） 第 10 回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること（約３時間）
11	統治機構（国会）	国会の地位、国会議員など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
12	統治機構（内閣）	行政権と内閣、議院内閣制など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
13	統治機構（裁判所）	司法権の意義、裁判所の組織など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
14	統治機構（財政）	財政民主主義、租税法律主義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間）
15	統治機構（地方自治）	地方自治の意義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること（約３時間） これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。（約３時間）

関連科目：法学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
2	憲法	辻村みよ子	日本評論社
3			

評価方法（基準）	小テスト（40 点）と定期試験（60 点）の得点合計で評価します。
学生へのメッセージ	日本国憲法の知識は社会に出た際に有益なものです。この機会に基本事項を学んでおくことで、皆さんの進路や社会との関わり方が広がると思いますので、ぜひ積極的な学習をお願いします。
担当者の	11 号館 10 階　團野研究室

研究室等	
備考	講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを必ずとるとともに、復習を欠かさずに行って下さい。 講義の内容は基本事項が中心ですが、将来目指す進路によってはもっと深い知識が必要な場合もあります。その場合、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。

科目名	日本の政治	科目名（英文）	Japanese Politics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2315a1		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下の平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。(DP１)
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション—政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治—国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
2	政治と権力①政治の条件とは何か？	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
3	政治と権力②正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
4	日本の政治システム①民主主義（デモクラシー）	日本の政治が現在採用している民主主義(デモクラシー)について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第十八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第二十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
8	戦後の日本政治①GHQ 占領下の日本政治	戦後の GHQ 占領下である 1940 年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55 年体制の成立	日本独立期である 1950 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく 1960 年代の日本政治について授業します。	事事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	戦後の日本政治④自民党の	自民党の中で田中派支配が行われてい	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十

		派閥の興隆	た 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	レポート（50%）と授業中ないし授業後に行う小テスト（50%）で評価します。
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室
備考	

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2316a1		

授業概要・目的	世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム（現実主義）とアイデアリズム（理想主義）という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の理性的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の１公正な配分を行いがちであると考えています。 現代の世界の政治でも、リアリズムとアイデアリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、いまだに国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の理性的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しうるような政権を選ばねばなりません。 しかし主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やアイデアリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。(DP１)
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。また文章の読解能力・作成能力を高めるため、政治学に関する文献を読み、レポートを提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、世界の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、世界の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―国際政治とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
2	国際政治の歴史①主権国家の形成とアイデアリズム	主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をアイデアリズムの観点から授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
3	国際政治の歴史②冷戦の勃発	第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
4	対外政策―リアリズムの諸理論	モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
5	日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交	日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
6	日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争	冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
7	日本外交の歴史③今世紀の日本外交	米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、有事法制によって生じた日本外交の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
8	日本外交の歴史④安倍晋三政権における日本の安全保障	安倍晋三政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
9	日本外交の歴史⑤岸田文雄政権における日本の安全保障	岸田文雄政権における日本の安全保障の転換について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
10	国家観の歴史的起源―プラトン、アリストテレス	国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう

			一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
11	国家理性とリアリズム—マキアヴェッリ	マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
12	戦争状態と国家—ホッブズ	ホッブズ『リヴァイアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の諸理論について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
13	民主的な国家観—ロック・ルソー	ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第三章・第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）
14	アイデアリズムの起源—カント	カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のアイデアリズムの起源としてのカントの道徳観・国際秩序観について授業します。	事前学習：参考書の該当箇所（『政治思想の知恵』第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。

関連科目

中学・高校の公民、日本史、世界史など。大学の日本外交史、国際政治、西洋政治思想史など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想と啓蒙（2023 年春出版予定）	和田泰一・高山裕二編	ナカニシヤ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治学	中西寛他	有斐閣
2	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
3			

評価方法（基準）

レポート（50%）、授業中ないし授業後に行う小テスト（50%）で評価します。
レポートは教科書から出題しますので、必ず購入すること。

学生へのメッセージ

新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の世界の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　和田研究室

備考

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	出口　寛子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1317a1		

授業概要・目的	この授業では、最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫やデザインについて学び、快適な住生活について考える力を身につけることを目的としています。また、後半に「リノベーション」に関する実習に取り組むことによって、快適な住空間を具体的に計画し表現する手法を身につけます。
到達目標	住空間の質を高めるために必要となる、住まいのデザインに関する基礎知識を身につけることが目標である。　(DP1)
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った、パワーポイント資料及び板書にて講義を行なう。随時資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	インテリアや住空間のデザインに関する知識と、図面の読み取り方や表現手法の基礎が身につく。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･住まいとデザインの概要	講義の進め方や受講上の注意点などのガイダンスと、住まいとデザインの概要について説明する。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
2	インテリアの構成要素 1：人間と空間	人体の寸法や感覚などの特性を学び、人間の空間認知の法則を理解する。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
3	インテリアの構成要素 2：家具･インテリアファブリックス	住空間を構成する家具やウィンドウトリートメントなどのインテリアファブリックスのデザインについて学ぶ。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
4	インテリアの構成要素 3：内装のデザイン	住空間を構成する床・壁・天井の内装材の種類と特性について学ぶ。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
5	キッチン･水廻りのデザイン	キッチンや浴室などの水廻りの形状･素材・機能について学ぶ。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
6	インテリアの色彩計画	インテリア計画におけるカラーコーディネートについて学ぶ。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
7	インテリアの照明計画	インテリア計画における照明器具の種類・機能・プランニングについて学ぶ。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
8	インテリアスタイルのデザイン	住空間全体のイメージを決定するインテリアスタイルのパターンについて紹介する。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
9	住まいと生活環境	住宅デザインと気候･風土の関係性や住まいの現状について学び､未来の住宅のあり方について考える。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
10	住まいの歴史：日本の住宅デザイン	ライフスタイルの変化に適応してきた日本の住宅デザインの変遷について紹介する。	講義で学んだ知識をもとに、身近な住環境を観察し、その評価および問題点を発見する。また問題解決に向けて､資料収集を積極的に行う｡(1 時間程度)授業内で設けた予習復習課題について、授業内容を確認しながら行う。(1 時間程度)
11	「団地のリノベーション」1：課題説明	課題の提示および図面を描くための基礎知識を学ぶ。各自でコンセプトを設定する。	提案のために必要な情報を収集する。提案を複数検討する。(2 時間程度)
12	「団地のリノベーション」2：提案内容の検討	プレゼンテーションシートの表現方法について学ぶ。各自の提案内容を確認しブラッシュアップさせる。	提案内容をまとめてプレゼンテーションシートの表現方法を検討する。(2 時間程度)
13	「団地のリノベーション」3：提案内容のまとめ	提案内容をプレゼンテーションシートにまとめる。	プレゼンテーションシートをまとめて完成させる。(2 時間程度)
14	「団地のリノベーション」4：提案の発表と評価	各自がまとめた提案を発表し評価する。	他者の提案・発表から自分の提案を振り返りまとめる。（２時間程度）
15	住まいとデザインのまとめ	講義を通して習得した知識を整理し、まとめる。	講義で配布した資料の整理および復習（２時間程度）

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>特になし</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>期末テスト：50%、授業での提出物：20%、実習課題：30%を、合わせて評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td></td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>(1)原則、3 分の 2 以上の出席およびリノベーション実習課題の提出を必須とする。これを満たさない場合は期末テスト受験不可とする。
(2)毎回の事前・事後学習は、①身近な住環境を観察しその評価および問題点を発見する、そしてその問題解決に向けて授業の復習や資料収集等を行う、②授業内容を確認しながら予習復習課題を実施する、とする。なお、これらの学習時間の目安は、合計 2 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大谷　侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1318a1		

授業概要・目的	人類は地球上に形作られた自然環境を利用しながら日々の生活を営んでいます。 しかしその自然環境の成り立ち：ストーリーをきちんと理解している人はどれくらいいるでしょうか？例えば、山脈はどのように形成されるのか？や、毎日飲む水はどこから来ているのか？など。自然地理学はそうした私達をとりまく自然環境の諸要素（山、水、土、地形等）を理解する学問分野です。今後、旅行したい場所はありますか？もしあればその場所の自然地理を理解していれば、旅はもっと面白いものになります。 とはいえ自然地理学に触れたことのない人も多いと思うので、なるべく分かりやすく、取っ付き易い講義にします。具体的には、身近な自然環境からアプローチをしたり、自然を忠実に表現しているジブリ作品等を使って説明します。そして日本のみならず世界の人々が地域固有の自然の上でどのような生活を営んでいるのかについて概観し、自然⇔人類との繋がりを自ら考察できる能力の獲得を目指します。
到達目標	【本授業における到達目標】 ・この講義では「自然地理学」の視点から地域の自然と人との関わり合いを考察・説明できることが最終目標です。 その目標を到達するためのKPI（Key Performance Indicator）を以下のように設定します。 →「日本あるいは世界の中で、任意の地域における自然の成り立ちとそれを利用した人々の営みを説明できる。」(DP1)
授業方法と留意点	毎回の授業後にFormsから感想、質問、コメント等のリアクションペーパーを記述してもらいます。
科目学習の効果（資格）	自然⇔人との相互関係の理解。地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上 。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第1回　ガイダンス(授業の進め方、到達目標の説明)	授業の進め方、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	第 2 回　地理学のなかの自然地理学の位置付けとその役割	地理学の中の自然地理学の内容	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
3	第 3 回　地形の成り立ちと自然資源	日本列島の成り立ちと地形	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
4	第 4 回　山に支えられる地域の水環境	山麓の水資源	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
5	第 5 回　世界の水環境と人々の暮らし	水環境と人	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
6	第 6 回　ジブリで学ぶ自然地理学入門①「天空の城ラピュタ」ー炭鉱と炭住の形成ー	炭鉱と人々のくらし	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
7	第 7 回　ジブリで学ぶ自然地理学入門②「もののけ姫」ーたたら場の形成と山と人との関わり合いー	「たたら場」から学ぶ自然と人との相互関係	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
8	第 8 回　ジブリで学ぶ自然地理学入門③「となりのトトロ」ー日本の里山形成と人々の生活ー	日本の里山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
9	第 9 回　ジブリで学ぶ自然地理学入門④「平成狸合戦ぽんぽこ」「耳をすませば」ー丘陵地帯とニュータウン開発ー	日本の里山と開発	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
10	第 10 回　ジブリで学ぶ自然地理学入門⑤「千と千尋の神隠し」ー温泉のメカニズムと温泉街の形成ーと、日本の自然環境を知る（関西編）	日本の温泉とその成り立ち	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
11	第 11 回　世界の山岳氷河	山岳氷河と温暖化、水資源	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
12	第 12 回　日本の自然環境を知るー沖縄編ー	沖縄の水環境と人々の暮らし	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
13	第 13 回　世界の自然環境を知るーアフリカ編ー	アフリカの自然環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
14	第 14 回　自然地理学の活かし方ービジネスの観点からー	自然地理学をビジネスへと活かす	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
15	第 15 回　授業のまとめ	まとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業後に Forms から提出してもらうコメント、感想、質問(60%)と、期末に提出を求めるレポート(40%)をもとに評価する。
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階（大谷研究室）
備考	事前事後学習時間の目安は全体で 10 時間。 毎回の授業終了後や授業開始時には不明点や質問等に関してフィードバックをおこないます。

科目名	環境と現代社会	科目名（英文）	Environment and Modern Sociaty
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上　尚之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2319a1		

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「ＣＳＲ経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史的流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。(DP１)
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果（資格）	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業の CSR 部門における必須知識の獲得を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回　日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
2	第 2 回　日本における環境経営の本格開始—ISO14001:1996 発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
3	第 3 回　トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
4	第 4 回　３Ｒからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
5	第 5 回　環境経営とサスティナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
6	第 6 回　社会的な影響に配慮するとはどういうことか—トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
7	第 7 回　2003 年は日本のＣＳＲ元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
8	第 8 回　ISO26000 とサステナビリティ経営—ＣＳＲの国際規格 ISO26000 の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
9	第 9 回　ISO26000 の社会的責任を果たすための 7 つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
10	第 10 回　社会的責任の 7 つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
11	第 11 回　組織にとっての ISO26000 を順守するメリットは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
12	第 12 回　ISO26000 の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
13	第 13 回　中小企業に ISO26000 を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
14	第 14 回　ＧＲＩとは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
15	第 15 回　国連主導のＣＳＲ—ＳＤＧｓ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する（９０分)。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学出版会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	積極的授業参加度・発表（45 点） 定期試験（55 点)、定期試験等が実施できない時はレポートに変える場合がある。
学生への	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	公衆衛生学	科目名（英文）	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2320a1		

授業概要・目的	授業では、まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う内容の全体像とその方法論の概要を把握するとともに、私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人口転換と疫学転換	人類史と人の健康	・予習をすること（教科書第 1 章 p8-10，第 2 章 p23-26）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
2	公衆衛生とは	日本の公衆衛生の歴史	・予習をすること（教科書第 1 章 p1-8，10-12 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること（30 分）
3	人口統計（1）	人口静態統計	・予習をすること（教科書第 2 章 p19，26-28）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
4	人口統計（2）	人口動態統計、生命表	・予習をすること（教科書第 2 章 p19-30）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
5	疫学（１）	疫学の歴史と指標	・予習をすること（教科書第 3 章 p33-42）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
6	疫学（２）	因果推論	・予習をすること（教科書第 3 章 p42-54）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
7	疾病予防	予防医学の考え方	・予習をすること（教科書第 4 章 p55-59）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
8	感染症と予防（1）	感染症の疫学と予防	・予習をすること（教科書第 5 章 p87-104，171-182）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
9	感染症と予防（2）	感染症流行拡大の事例	・予習をすること（教科書第 5 章 p87-104，171-182）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
10	生活習慣病と予防	生活習慣病の疫学と予防	・予習をすること（教科書第 5 章 p104-117，79-86）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
11	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	・予習をすること（教科書第 6 章 p145-154，207-213，216-221）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
12	国際保健	世界の健康・日本の健康	・予習をすること（教科書第 13 章 p351-365）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
13	移民と健康（1）	移民の健康と社会	・予習をすること（前前回配布の課題に取り組むこと）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
14	移民と健康（2）	日本在住外国人の健康	・予習をすること（前回配布の課題に取り組むこと）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）
15	研究の倫理	人体実験の歴史と研究の倫理	・予習をすること（教科書第 1 章 p15-17）（30 分） ・わからない点をまとめ、疑問をもちながら授業に臨み、質問すること　（30 分）

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2024	辻一郎他	南江堂
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 国民衛生の動向 2023/2024 / 厚生労働統計協会 / 厚生労働統計協会 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	課題および/または小テスト(100%)で評価する。 60%以上を合格とする。 4/5 以上の出席を成績評価の対象とする.
学生への メッセージ	・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・授業資料は電子ファイルで事前に Moodle にて配布する。必要に応じて各自印刷して授業に臨むこと。 ・わからない点を次回授業までに解決するため、質問をすること。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24
備考	必要に応じて課題および/または小テストについて授業で解説する。

科目名	産業技術史	科目名（英文）	History of Industrial Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元　弘行
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3321a1		

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義の資料・レポートなどは全て「moodle」を利用して入手してください。レポートの提出も同様です。産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、可能な限りできるだけ多くの資料と視聴覚教材を用いて解説する予定である。
科目学習の効果（資格）	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	産業技術史を学ぶにあたって／特許から見た産業発展史	産業技術史を学ぶ意味を考える。 明治時代の近代日本創生から現代のプロパテント時代まで、日本の産業発展に特許制度が果たした役割を理解し、我が国の歴史から産業発展と特許制度の関係を学ぶ。	課題レポート提出①
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①：たたら製鉄の技術	金属材料の基礎について学ぶ。 伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②：近代製鋼法の技術	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③：高炉の技術	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。	課題レポート提出④
5	製鉄・鉄鋼産業の技術史④：新素材の技術	国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。	課題レポート提出⑤
6	自動車産業の歴史①:自動車産業のあけぼの	国産自動車トヨダ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史②:自動車産業の基礎技術	自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。	課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史③:低公害自動車「CVCC エンジン」の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史④:ハイブリットカー・電気自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史⑤:燃料電池自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①:高速鉄道のかかえる社会的問題	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②:新幹線の技術	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。 新幹線を作る様々な技術（町工場がもつアナログ的な技術）を学ぶ。	課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③:リニアモーターカーの技術	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。 また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。	課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の１つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	課題レポート提出⑮

関連科目	産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	各授業毎の課題レポート（全 15 枚）を 100 点配分で評価する。なお、評価の基準は、すべての課題レポートを提出し、それぞれのレポートの内容について、題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さなどから総合的に評価し、60 点以上を合格とする。なお、課題レポートのフィードバックは、「moodle」を利用する予定である。上記に加えて後期期末試験を 100 点配分で実施し、60 点以上を合格とする。最終評価は、レポートが 50%、後期期末試験が 50%配分の 100 点満点で総合評価し、60 点以上を合格とする。
学生への メッセージ	各授業毎の課題レポートは、全て期限内に提出してください。レポートの作成においては、レポート課題の理解、課題に沿った解答、内容の正確な理解、専門用語の正確な理解、論理的でわかりやすい展開、自分なりの視点で課題を考察、独創性の芽が感じられる内容を書けるように整理し、文章にまとめる力をつけてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として 2 時間程度である。

科目名	科学技術教養（V）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅　恵造
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	本講義では，病気・くすりの発見や原因解明の歴史，微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1)　病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2)　病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	バイオ医薬品（抗体医薬品）（湯浅）	抗体医薬品は，これまでの低分子医薬品と比較して，高い治療効果と副作用の軽減が期待できるため，近年，注目が高まっている。本講義では，抗体とは何か，そしてこれまでに開発された抗体医薬品について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
2	病気と遺伝子（船越）	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷（変異）」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
3	認知症～その原因と治療法（宮崎）	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ（尾山）	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
5	薬物乱用と依存性薬物（居場）	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
6	ミトコンドリアと病気（井尻）	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
7	くすりとタンパク質のかたち（中嶋）	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
8	機能性糖質（大橋）	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
9	不妊のしくみ（西村）	日本人夫婦（カップル）は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかはっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
10	化粧品とバイオテクノロジー（西矢）	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。

11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術（松尾）	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21 世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。 本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、 バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
12	機能性食品などの新しい食品の形態（青笹）	食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味，触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
13	担当：新任教員、内容：未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
14	遺伝子組換え植物とその将来（長田）	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。
15	感染症とその予防（見坂）	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生動向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。
講義メモを含む課題未提出の場合は欠席 1 日とする。
原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ

本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。

担当者の研究室等

1 号館 8 階　松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室
1 号館 9 階　尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室

備考

欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する（遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす）。

科目名	科学技術教養（R）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本　淳二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。 毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。 最終回には、まとめテストを行う。 担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。 提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果（資格）	身近な住環境から地球環境まで、デザイン、環境工学、暮らし、に関する知識と考え方、手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 自然の力をかりる住住環境デザイン	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等の説明） 古代より人間は自然と共生するために住環境にさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの事例と現代の建築・空間デザインの事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
2	環境配慮の空間デザイン	従来から着目されている省エネルギー建物から ZEB（ゼロエネルギー建築）への展開と、近年着目されている県境配慮、知的生産性向上建物の現状について学ぶ。 また、均質で不満の少ない環境から、変化と刺激を感じる環境の提供へのパラダイムシフトによる、多様性がある人中心の環境設計の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
3	スマートウェルネスなまちづくり	環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
4	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインを建築家（藤井厚二、小玉祐一郎）の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
5	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
6	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
7	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しい デザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
8	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
9	生活におけるにおい･かおり	住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめとした感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
10	地球共生デザインから考えるモノとコトのデザイン	社会問題や環境問題、人と生態系の両方に「コト」と「モノ」両方からアプローチする地球共生デザインの　在り方を実践例を通して考える。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
11	家族の変化と住まい	家族の変化と住要求の関係、時代の変化による世帯構造及び住まいの変容について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
12	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がりと、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。　まとめておくこと（1 時間）
13	地域と景観	地域に居住･生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
14	野生動物との共存のデザイン	近年増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習(45 分以上)，復習(45 分以上)を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること（1 時間）

関連科目	なし
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 科学技術教養（R）　住環境デザイン学科　教科書 / 摂南大学理工学部住環境デザイン学科 / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。
学生への メッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。初回の授業および 15 回目のまとめテストは、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階　樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久冨教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、 12 号館 6 階　坂本教授室
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。

科目名	科学技術教養（A）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池内　淳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどの様に考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodle に掲載あるいは各講義時に配布する。 Teams や Moodle 等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	環境共生の建築物	太陽・風の有効利用、CASBEE の考え方	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	商業の建築	商業施設、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	交通の建築	陸・海・空の交通にかかわる建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の歴史	歴史的建築から建築における多様な「技術」について理解を深める	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	快適な温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築をつくる	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバーションといった建築保存の視点から見る	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書・資料等は、授業で配布あるいは Moodle に掲載予定		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が 100%となる）により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が 80%以上の履修者を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。
担当者の研究室等	８号館３階・各授業担当者の研究室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる（出席率 80%以上を成績評価の対象／30 分以上の遅刻は欠席扱いとする／遅刻は２回で欠席１回とみなす）。 事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業１回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養（M）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田　周之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	機械工学とは〝ヒトが活動する上での効率化と合理化，自動化を図る機械〟の原理，性能，製作，利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は，機械力学，材料力学，熱力学，流体力学の４力学を基軸とし、その応用分野は多岐にわたる。 本講義は，機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより，機械工学の全体像を俯瞰しつつ，履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。
到達目標	・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り，機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき，機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・Web 上で配布するテキスト（PDF）に目を通し，ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し，スライド資料を用いた講義を行う。(60 分) ・講義メモと課題を作成し，指示に従って提出する。(30 分) ・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。 ・切り替える日時や受講方法の連絡には Teams を使うので，注意しておくこと。
科目学習の効果（資格）	・機械工学科の基本的な知識をを俯瞰的に知ることことができる。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき，受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割	M1 テキスト第 1 章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
2	いろいろな機械材料	・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会	M1 テキスト第 3～5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
3	道具と機械	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	M1 テキスト第２章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
4	空間を移動する	・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術 ・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術	M2 テキスト第 6～8 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
5	精密に加工する	・ものの大きさと精密さ ・精密・超精密加工の発展 ・超精密加工の応用事例 ・超精密加工と超精密工作機械	M1 テキスト第 7 章に目を通し,ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
6	ものづくりの科学と技術	・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する	M1 テキスト第 6、8 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
7	作業を補助する機械	・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング	M1 テキスト第 9・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
8	機械をかしこくする	・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術	M1 テキスト第 11 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
9	ミクロの機械	・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット	M1 テキスト第 12～14 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
10	流れを利用する	・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用	M2 テキスト第 2・3 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
11	陸上を移動する	・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送	M2 テキスト第 4・5 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
12	計測する	・度量衡と政治 ・ものの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術	M2 テキスト第 9・10 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
13	制御する	・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術	M2 テキスト第 11・12 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
14	生命・生体にならう 1	・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械	M2 テキスト第 13・14 章に目を通し，ポイントをまとめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）
15	生命・生体にならう 2	・健康とスポーツのための機械	M2 テキスト第 14・15 章に目を通し，ポイントをま

			・人間工学	とめておくこと（2 時間） 関連事項について調べる（2 時間）

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。
学生への メッセージ	本講義を受講することにより，機械工学が対象とする学問・専門分野や，機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では，あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで，知識や視野を広げることができます.
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	

科目名	科学技術教養（E）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上　雅彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的

電気・情報に関する学問分野には，電気工学，電子工学，通信工学，情報工学などがある．電気工学は，発変電や送電，動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野，電子工学は，電気の高速応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野，通信工学は，有線や無線通信，通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野，情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である．これらは，全て「電気」という共通項があり，「情報」が深くかかわる．しかし，それぞれの分野が特化し，かつ高度化したことにより，これらを全て網羅して理解することが難しくなってきている．
本講義では，これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しずつ学ぶことで，その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に，多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする．

到達目標

電気情報工学全般を学ぶことで，電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり，どの様な応用があるかを理解することが目標である．

授業方法と留意点

・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。
・講義 13 回分はパワーポイントを用いた口述講義の動画を Moodle で視聴。各回で出される課題に解答し，Moodle で提出する。
・講義 2 回分では研究室紹介動画視聴後にレポートを Moodle で提出する。

教科書が必要となるので，入手しておくこと．

科目学習の効果（資格）

電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている．
また，どの分野においても情報の知識は欠かせない．これらの原理や特性を知ることで，
自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる．
国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第１回課題　約１時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造，発変電，送電のしくみ	第２回課題　約１時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か，半導体の機能，集積回路の作成技術	第３回課題　約１時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気を用いた照明器具の発展，照明器具と消費電力，照明器具の応用	第４回課題　約１時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路，能動回路と受動回路，集積回路，身近な製品の電子回路	第５回課題　約１時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル，２進数とは，論理回路入門	第６回課題　約１時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ，パソコンの内部構造，スーパーコンピュータ	第７回課題　約１時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは，家電製品に組み込まれたマイコン，プログラミングの基礎	第８回課題　約１時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3 原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第９回課題　約１時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第 10 回課題　約１時間
11	電波と放送	電波と応用分野，変調と復調，衛星放送からデジタル放送へ	第 11 回課題　約１時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史，携帯電話，通信のこれから	第１２回課題　約１時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ，歴史，接続方法，危険性	第１３回課題　約１時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介１	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する (6 つの研究室)	第 14 回レポート 約２時間
15	研究室紹介２	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する (5 つの研究室)	第 15 回レポート 約２時間

関連科目

各自の学科で並行して開設されている数学，物理系科目も履修しておくことが望ましい．

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘，堀内利一，鹿間信介	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点 13 回とレポート 2 回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を 90%、レポートの評価点を 10%とする。
ただし、課題とレポート提出率 80%以上を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ

身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等

１号館４階および５階の電気電子工学科教員室
授業担当責任者 井上雅彦教授室（１号館４階）

備考	課題提供はMoodle上で行い、課題&レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題＆レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養（C）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本　俊太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	授業の目的は，受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原理を知ってもらうことである．第１回の授業では，身の回りの土木技術の例を取り上げ，それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する．第２・３回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する．第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料，第8～11回は設計方法，第12～15回は計画と環境問題について講義する．
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し，土木技術と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式．授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する． ・歴史と人物と基本原理をセットとして取り扱う．第４回以降は材料や設計の基本原理を扱う．基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う． ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には，サンプルや簡単な実験を併用する．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網，上下水道，エネルギー施設，防災施設，憩い．・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社，設計コンサルタント，公務員，メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料，土と人類，土と木 締固めて使う,事例1(古くからの技術),事例２（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性，品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料，リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか. 歩測からGPSまで，原理，応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか. 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める．水と波の力を計算する．川，ダムと港の設計へ. 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割，地下空間. 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 （計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題，循環型社会 （環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学 （上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C	都市環境工学科全教員	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			
3			

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート 50%の総合点で評価する．※レポートは，授業のまとめとして毎回提出すること．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです．

担当者の 研究室等	講義担当者居室　1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは，毎回1時間程度としてください.

科目名	科学技術教養（T）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東　武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA3322a1		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し，それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを，基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について，各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書１章の予習復習(1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書１章の予習復習(1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書１章の予習復習、レポート課題(1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書２章の予習復習(1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書２章の予習復習(1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書２章の予習復習、レポート課題(1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説に ついて概観する。	教科書５章の予習復習(1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証す る近代自然科学の萌芽を考える。	教科書５章の予習復習(1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙 を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書５章の予習復習、レポート課題(1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
12	電磁波	光は波である．弦を伝わる波は，弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返し現れて波になっている．光が波ならば，いったい何の振動なのだろうか．マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なのがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

		近年では省エネルギーな発光ダイオード（LED）が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	
14	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X 線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

関連科目

数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ

科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。

担当者の研究室等

担当教員の居室〔1 号館 2 階(東谷)， 5 号館 1 階(友枝・小林・東)， 8 号館 2 階(長島)〕

備考

遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を 行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっ きりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e- learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking―10.Output	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 3 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習するこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 1 Places Part A Yakushima	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 1 Places Part A Yakushima	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 1 Places Part A Yakushima	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 1 Places Part B Tioman Island, Malaysia	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 1 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 2 Culture Part A Intercultural Differences	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 2 Culture Part B Cultural Similarities	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 2 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 3 Seasons Part A The Rainy Season	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 10.Output	事前学習：Theme 3 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 3 Seasons Part B Autumn Colors	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 3 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 1 から 3 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中高で学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 ~ 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1~4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	何　雨桐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1,2,3,4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1,2,3,4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 - 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1-4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	It is important to try to come to every class as the skills we learn each week will build upon each other. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 から 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1 から 4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅱa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰa	科目名（英文）	Basic English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 1 People	Reading 1	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 1 People	Reading 2	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 1 People	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 2 Climate	Reading 1	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 2 Climate	Reading 2	事前学習 Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 2 Climate	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 3 Lifestyle	Reading 1	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 3 Lifestyle	Reading 2	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 3 Lifestyle	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 4 Places	Reading 1	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 4 Places	Reading 2	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 4 Places	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
14	Unit 1 ～ 4	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Unit 1～4 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 6 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への メッセージ	第１回の授業で、授業の進め方・評価等に関して説明します。受講予定者は、必ず教科書を準備して初回から出席してください。 積極的に授業に参加することを期待しています。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テストと期末テスト 60%、授業中の学習、態度、参加状況（授業での呼応状況など）40%。
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 5 回欠席した場合、本コースの合格は極めて難しくなります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	Let's have fun learning English conversation!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡　晴美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への メッセージ	英語の４技能５領域〔Reading, Listening, Writing, Speaking（やり取り・発表）〕を育成する学習活動を行います。 英語を使うことを楽しみましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達すること
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。教科書を持ってこない、スマホを触る、居眠りする、私語をするなどして授業参加しない人は、その都度 3～5 点減点されます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総

				復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	MIDTERM & FINAL EXAMS 40%、授業活動60%の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 教科書を持ってこない、スマホを触る、私語をする、居眠りするなどして授業活動に参加しない場合、その都度3〜5点減点します。

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅰb	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part Ⅰ から Part Ⅶ	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 IIb
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ｉｂ	科目名（英文）	Basic English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習:テキストの指示 p.139 に従い StreamLine にアクセスする(0.5 時間)
2	Unit 1 Meeting New People	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 1 Meeting New People	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 1 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 2 School Life	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 2 School Life	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 2 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 3 Seeing a Doctor	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 3 Seeing a Doctor	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 3 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 4 Expressing Yourself	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 4 Expressing Yourself	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 4 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 5 Getting Around	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 5 Getting Around	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 6 Talking about the Time	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 6 Talking about the Time	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 1	Part I から Part VII	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit 1-6 の内容を復習してくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅱｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）（木曜の１．３時間目）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking-10.Output	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 6 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・ABAX LMS についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：ABAX LMS の登録方法について確認すること(0.5 時間)
2	Theme 4 Cities Part A Megacities	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
3	Theme 4 Cities Part A Megacities	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
4	Theme 4 Cities Part A Megacities	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
5	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
6	Theme 4 Cities Part B Megacities: Problems	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 4 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
7	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
8	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
9	Theme 5 Travel Part A Tourism: Advantages	8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
10	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
11	Theme 5 Travel Part B Tourism: Disadvantages	5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 8.Learing Language Patterns 9.Secoond Reading 10.Output	事前学習：Theme 5 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
12	Theme 6 Food Part A Hot Pot	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
13	Theme 6 Food Part A Hot Pot	4.Summary 5.Words 6. Critical Reading 7.Critical Thinking 10.Output	事前学習：Theme 6 Part A の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
14	Theme 6 Food Part B East Asian Food	1.Warming-Up 2.Main Reading 3.Understanding the Story 4.Summary	事前学習：Theme 6 Part B の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	到達度確認テスト	事前学習：Theme 4 から 6 までの内容を総復習すること（0.5 時間） 事後学習：ABAX LMS にて学習した内容を復習すこ

				と（0.5時間）

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Asian Issues 1	Alastair Graham-Marr	Abax
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5-8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	授業に出席し、積極的に参加して下さい。中高で学習した英語を活用し、さらに自分で発信できるようになりましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西原　菜月
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 ~ 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5~8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	英語が身に付くことで、自身の知見が広がるだけでなく、将来の可能性も飛躍的に広がります。外国語は一朝一夕には習得することはできませんが、日々学習を重ねることで必ず使いこなせるようになりますので一緒に頑張っていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	何　雨桐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5,6,7,8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5,6,7,8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅰａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	必要に応じて、テキストの音声をダウンロードし、繰り返し聞く、シャドウイングをするなどの自習をし、気になる点を授業で確認できるようにして下さい。適宜小テストを行うので、その予習・復習もして下さい。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 - 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5-8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	It is important to try to come to every class as the skills we learn each week will build upon each other. I look forward to teaching you this year!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 から 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5 から 8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復

				習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語Ⅰa
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・Online Workbook についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：Online Workbook にアクセスし登録をすること(0.5 時間)
2	Unit 5 JOBS	Reading 1	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
3	Unit 5 JOBS	Reading 2	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
4	Unit 5 JOBS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 5 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
5	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 1	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
6	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Reading 2	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
7	Unit 6 HOMES AND BUILDINGS	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 6 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
8	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 1	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
9	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Reading 2	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
10	Unit 7 FOOD AND CULTURE	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
11	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 1	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
12	Unit 8 TRANSPORTATION	Reading 2	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
13	Unit 8 TRANSPORTATION	Language Development / Watch and Listen	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間))
14	Unit 5 ～ 8	Online Workbook による総復習	事前学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 5 から Unit 8 の総復習	事前学習：Unit 5～8 まで復習すること（0.5 時間） 事後学習：Online Workbook にて学習した内容を復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉａ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prism Reading Intro SB with Digital Pack	Kate Adams	Cambridge University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ 進度によりシラバス記載の授業内容は変わることがあります。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	-まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	第１回の授業で授業内容・評価方法等に関して説明します。受講予定者は、教科書を準備して必ず初回から出席してください。 積極的に授業に参加することを期待しています。
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 Ib
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間テストと期末テスト 60%、授業中の学習、態度、参加状況（授業での呼応状況など）40%。
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5 回の欠席で合格することは困難である。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	Let's continue having fun learning English conversation!
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾀﾝｼｭｰ ｱﾚｻﾝﾄﾞﾛ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。 その他の詳細は、第１回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。教科書を持ってこない、スマホを触る、居眠りする、私語をするなどして授業参加しない人は、その都度 3～5 点減点されます。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総

				復習すること(0.5時間)

関連科目	基礎英語 Ib
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間試験 20%、最終試験 20%、授業活動 60%
学生への メッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 教科書を持ってこない、スマホを触る、私語をする、居眠りするなどして授業活動に参加しない場合、その都度 3〜5 点減点します。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ　シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語 Ib
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ）　100% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。）
学生への メッセージ	授業は全て英語で行います。 会話力、ＴＯＥＩＣの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。 ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。 講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。 頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1326c 1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とす
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC,英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法・リンガポルタについての説明	事前学習:本科目のシラバスを読んでくること(0.5 時間) 事後学習：リンガポルタで英語 Ib で学んだ内容を復習すること（0.5 時間）
2	Unit 7 Eating Out	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
3	Unit 7 Eating Out	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 7 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
4	Unit 8 At the Supermarket	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
5	Unit 8 At the Supermarket	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 8 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
6	Unit 9 Hobbies	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
7	Unit 9 Hobbies	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 9 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
8	Unit 10 Shop Till You Drop	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
9	Unit 10 Shop Till You Drop	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 10 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
10	Unit 11 Going on Vacation	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
11	Unit 11 Going on Vacation	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 11 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
12	Unit 12 Sports	Warm-up/Conversation/Grammar	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
13	Unit 12 Sports	Reading/Writing/Challenge Yourself	事前学習：Unit 12 の内容を予習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した項目を復習すること（0.5 時間）
14	Review 2	Unit 7 から Unit 12 の Review	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を復習すること（0.5 時間）
15	まとめ & 復習テスト	Unit 7 から Unit 12 の総復習	事前学習：Unit 7-12 の内容を復習してくること（0.5 時間） 事後学習：リンガポルタで学習した全ての項目を総復習すること(0.5 時間)

関連科目	基礎英語Ｉｂ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 1: Base Camp	角山照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 100%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館２階（非常勤講師室）（木曜の午前中、金曜日１限目の時間帯）
備考	

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。この講義ではビジネス・経営に関する内容を扱う。
到達目標	「読解力」としては、CEFR-J[A2-2]を目標とし、「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とする。また「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。４回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・毎回授業の始めに前回の授業の復習小テスト（3～5 分）を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	
2	Chapter1 Business and our lives	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
3	Chapter1 Business and our lives	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
4	Chapter2 Enterprises and companies	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
5	Chapter2 Enterprises and companies	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
6	Chapter3 The PEST analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
7	Chapter3 The PEST analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
8	臨時試験①		
9	Chapter4 The SWOT analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
10	Chapter4 The SWOT analysis	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
11	Chapter5 Resource management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
12	Chapter5 Resource management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
13	Chapter6 Team management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
14	Chapter6 Team management	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
15	臨時試験②		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL Business Management	Ikuko Ueno	SANSHUSHA
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常点（発言、課題、提出物）　40% 臨時試験　60%（臨時試験１　30%、臨時試験２　30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No.0001-0040 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙 動詞の形１	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No.0041-0080 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙 動詞の形２	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No.0081-0120 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No.0121-0160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No.0161-0200 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	単語小テスト No.0201-0240 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No.0241-0280 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No.0281-0320 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No.0321-0360 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No.0361-0438 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P.55-60 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No.0001-0040 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙 動詞の形１	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No.0041-0080 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙 動詞の形２	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No.0081-0120 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No.0121-0160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No.0161-0200 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	単語小テスト No.0201-0240 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No.0241-0280 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No.0281-0320 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No.0321-0360 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No.0361-0438 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P.55-60 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　80%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと 1.5 時間
2	Chapter 1 Joys of Anticipation	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
3	Chapter 1 Joys of Anticipation	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
4	Chapter 2 How Long Does It Take to Make a Friend?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
5	Chapter 2 How Long Does It Take to Make a Friend?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
6	Chapter 3 How to Form Good Habits	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
7	Chapter 3 How to Form Good Habits	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
8	Chapter 4 How to Beome More Productive	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
9	Chapter 4 How to Beome More Productive	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
10	Chapter 5 Introverts and Extroverts	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
11	Chapter 5 Introverts and Extroverts	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
12	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	前期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
13	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	前期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく 1.5 時間
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習 1.5 時間

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Life Topics: Changing Views 総合英語ライフトピックス 5	Jonathan Berman	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100％
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	8 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ｉａ	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと
2	Unit 1　What Did People Use Before Erasers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
3	Unit 1　What Did People Use Before Erasers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
4	Unit 2　Who Is Barbie?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
5	Unit 2　Who Is Barbie?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
6	Unit 3　How Did T-shirts Become Popular?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
7	Unit 3　How Did T-shirts Become Popular?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
8	Unit 4　Who Invented Cotton Candy?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
9	Unit 4　Who Invented Cotton Candy?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
10	Unit 5　Which Came First, the TV or the RC?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
11	Unit 5　Which Came First, the TV or the RC?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
12	Unit 6　Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
13	Unit 6　Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく（１時間）
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 3	Arnold Arao	南雲堂「
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ｊ授業参加度　　４０％ まとめのテストの成績　６０％
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅰa	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 It's a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
2	Unit 1 It's a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 2 Business English	小テスト（Unit1） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit2 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
4	Unit 2 Business English	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する
5	Unit 3 Culture Skills	小テスト（Unit2） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
6	Unit 3 Culture Skills	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 4 More than Just Words	小テスト（Unit3） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
8	Unit 4 More than Just Words	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 5 Meetings	小テスト（Unit4） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit5 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
10	Unit 5 Meetings	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 6 Business Communication Style	小テスト（Unit5） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit6 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
12	Unit 6 Business Communication Style	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 7 Let's negotiate.	小テスト（Unit6） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit7 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
14	Unit 7 Let's negotiate.	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
15	まとめテスト	Unit1-７の単語、文法事項の確認とテスト	事前学習：テキスト(Unit1-7)の復習,単語、文法事項を整理し、小テストの間違いを確認する（0.5 時

				間） 事後学習：単語と文法問題を再度確認する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から教科書を準備し出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	実践英語Ｉａ	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
2	Restaurants	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
3	Restaurants	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
5	Offices	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
6	Daily Life	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
7	Daily Life	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
8	Personnel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
9	Personnel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
10	Shopping	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
11	Shopping	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
12	Finances	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
13	Finances	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
14	Transportation	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
15	Transportation まとめと復習テスト	リスニング スピーキング リーディング	指定箇所の予習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC　L&R TEST〈初級編〉	角山　照彦 / Simon Capper / 遠藤　利昌	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	復習テスト …40% 授業への参加、貢献 …40% Class participation　２０％
学生へのメッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ｉａ	科目名（英文）	Practical English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2327c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	テキスト８ページから１２ページの､TOEIC の説明、及び教科書の構成､使用方法などを確認する。また、出版社のホームページにアクセスし､テキストの音声ファイルのダウンロード･ストリーミングができることも確認しておく。これらの準備に約一時間かけることとする。
2	Restaurants	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
3	Restaurants	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
5	Offices	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
6	Daily Life	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
7	Daily Life	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
8	Personnel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
9	Personnel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
10	Shopping	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
11	Shopping	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
12	Finances	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
13	Finances	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
14	Transportation	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及びその語彙の予習に約一時間かけることとする。
15	Transportation	リスニング	指定箇所の予習

		まとめと復習テスト	スピーキング リーディング	前期学習内容の復習に約一時間かけることとする。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC L&R TEST〈初級編〉	角山 照彦 / Simon Capper / 遠藤 利昌	成美堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	復習テスト …50% 授業内発表 …50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方･評価方法などについて説明する。	第２週目の授業に間に合うように教科書を購入する。
2	Week 2: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
3	Week 3: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
4	Week 4: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
5	Week 5: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
6	Week 6: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
7	Week 7: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備(90 分)
9	Week 9: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
10	Week 10: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
11	Week 11: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
12	Week 12: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
13	Week 13: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
14	Week 14: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備(90 分)

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2	S. Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめのテスト１(Midterm Exam) 20% まとめのテスト２(Final Exam) 20% 授業活動(Vocabulary test、提出物、授業活動への積極参加など) 60%
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	やむを得ない欠席は 3 回までしか認められません。遅刻・早退・中抜けは、累積三回で一回の欠席になります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で３～５点減点します。

科目名	実践英語Ⅰb	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞﾃｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit1 Suntory University Preps Workers for Global Growth	講義の進め方、評価方法の説明。 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	シラバスを読んでおくこと。1時間
2	Unit3 Japanese office Worker's Stunning iPhone Sketches	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。 リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
3	Unit4 Perceptions of Space, from Japan to the World	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
4	Unit5 Robots to Descend on Haneda Airport	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
5	第一回チェックテスト Unit2 Japan Productivity Gains Key to Staving off Decline	第一回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。スクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間
6	Unit6 Japanese Scientists Go High-tech to Repair Ancient Indonesian Temple	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
7	Unit 8 Multi-lingualization in Progress at Kyoto Station	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
8	Unit11 Things Japanese People Should Not Say to Westerners	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
9	Unit12 If Addressed by a Westerner..	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
10	第二回チェックテスト Unit9 Englishnization Advances at Rakuten	第二回チェックテスト 単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間
11	Unit15 University Survival Strategy	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
12	Unit16 Universities, NPOs Beef up Safety for Students Going Abroad	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
13	Unit18 Foreign-studies Universities to Train Volunteer Army of Interpreters	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	辞書を丁寧に引いて予習・復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
14	Unit19 How to Overcome the GAIJIN Complex	単語ワーク、リスニング ワークシート　読解演習	既習の学習内容を整理し、復習を行うこと。リスニングもオンラインサイトから聞いておくこと。1時間
15	チェックテスト第三回	第三回チェックテスト	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。リスニングのスクリプトもよく読み込んでおくこと。1時間

関連科目：ビジネスイングリッシュ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Leadership Adventures	Peter Nagano	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生への メッセージ	積極性を重視します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室　（木曜２限）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1 There is More than One Way to Be a Leader 語彙　設問　ポイント文と文法	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明 ユニット１	ユニット１予習 （１時間以上）
2	Unit1 There is More than One Way to Be a Leader 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１ 単語テスト１	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１復習 ユニット 14 予習（１時間以上）
3	Unit14 Two Great Painters 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１４ 単語テスト２	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１復習 ユニット１４予習（１時間以上）
4	Unit14 Two Great Painters 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット１４ 単語テスト３	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１４復習 ユニット 14 予習（１時間以上）
5	チェックテスト第一回 採点　講評/解説	ユニット 1, １4, 復習 復習テスト・採点・質問受付・解説	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット 1, 14 復習、テスト対策 （１時間以上）
6	Unit2 A Cool Response to Food Waste 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット２ 単語テスト４	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット２復習 ユニット２予習（１時間以上）
7	Unit2 A Cool Response to Food Waste 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット２ 単語テスト５	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット２復習 ユニット９予習（１時間以上）
8	Unit9 Currying Favor in Britain and Japan 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット９ 単語テスト６	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット９復習 ユニット９予習（１時間以上）
9	Unit9 Currying Favor in Britain and Japan 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット９ 単語テスト７	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット９復習 ユニット９予習（１時間以上）
10	チェックテスト第二回 採点　講評/解説	ユニット２，９復習 テスト・採点・質問受付・解説	テキスト内の単語、ポイント文法など ユニット 2, ９復習（１時間以上）
11	Unit12 The Age of Innocence 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 12 単語テスト８	テキスト内の単語、ポイント文法など ユニット１２予習（１時間以上）
12	Unit12 The Age of Innocence 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 12 単語テスト９	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１２復習 ユニット１２予習（１時間以上）
13	Unit4 Could Your Face Cost You Your Privacy? 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット４ 単語テスト 10	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット１２復習 ユニット４予習（１時間以上）
14	Unit4 Could Your Face Cost You Your Privacy? 語彙　設問　ポイント文と文法	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット４ 単語テスト 11	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット ４復習 ユニット４予習（１時間以上）
15	チェックテスト第三回 採点　講評/解説	ユニット 4、12 復習 テスト	テキスト内の単語、ポイント文法などユニット 4, 12 復習（１時間以上）

関連科目	実践英語入門、実践英語初級

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P Newell, Takane Yamaguchi	金星堂

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	小テスト、チェックテスト　積極的参加評価　など　100％ 欠席４回未満の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	ゆっくりしたペースで進みますので、わからないところがあれば質問してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室７号館２F
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　永里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会 話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授 業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
2	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
3	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
4	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
5	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
6	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
7	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
8	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
9	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
10	Unit 5 What’s on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
11	Unit 5 What’s on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
12	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
13	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
14	Review 1	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
15	Review 2	期末テスト	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山　照彦 / LiveABC editors	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法　期末テスト（40%）

（基準）	小テスト（30%） その他授業中の態度や課題の提出（30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：テキストを準備し、Unit1 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
2	Unit 1 It’s a pleasure to meet you.	文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 2 Business English	小テスト（Unit1） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit2 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
4	Unit 2 Business English	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 3 Culture Skills	小テスト（Unit2） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit3 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
6	Unit 3 Culture Skills	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 4 More than Just Words	小テスト（Unit3） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit4 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
8	Unit 4 More than Just Words	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 5 Meetings	小テスト（Unit4） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit5 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
10	Unit 5 Meetings	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 6 Business Communication Style	小テスト（Unit5） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit6 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
12	Unit 6 Business Communication Style	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 7 Let’s negotiate.	小テスト（Unit6） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit7 の知らない単語を確認し、テキストの英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らない単語・イディオムを暗記する（0.5 時間）
14	Unit 7 Let’s negotiate.	前回の小テストの解答と解説 文法事項等の確認 リスニングと文法等の練習問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
15	まとめテスト	Unit1-７の単語、文法事項の確認と	事前学習：テキスト(Unit1-7)の復習,今までの学習

			テスト	した単語、文法事項を整理し、小テストの間違いは必ず確認しておく（0.5時間） 事後学習：知らない単語、文法事項は暗記する（0.5時間）

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・テキスト（教科書）を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当日の授業態度における評価点をゼロとして扱います。その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず初回から教科書を準備し出席してください。 ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC試験などを積極的に受験しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	片岡　晴美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要及び評価方法の説明	教科書の予習 ※2 回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Google で検索すること。) 聴き読み Listening Marathon （目安：30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
2	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
3	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
4	Unit 2: Foods	小テスト： Unit 1 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
5	Unit 2: Foods	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
6	Unit 3: Foreign Language Learning	小テスト： Unit 2 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
7	Unit 3: Foreign Language Learning	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
8	Unit 4: Sports	小テスト： Unit 3 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み

			Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
9	Unit 4: Sports	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
10	Unit 5: Fashion	小テスト： Unit 4 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
11	Unit 5: Fashion	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
12	Unit 6: Living Things	小テスト： Unit 5 テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
13	Unit 6: Living Things	テキスト実践、解説、発表	教科書の予習・復習 聴き読み Listening Marathon （目安：各 30 分～1 時間） Students should: (1) Review the unit from the last lesson (2) Preview the unit for the next class
14	Review: Units 1-6	小テスト： Unit 6 Units 1-6 の総括と質疑応答、課題への総合評価 Final due: Listening Marathon	教科書の復習 聴き読み （目安：各 30 分～1 時間） Students should review the unit from the last lesson
15	Course review and evaluation. Feedback	In-Class Review Assessment（授業内試験） これまでの項目を総復習	今学期の総復習を、教科書の音声データを使って行う（聴き読み方式） （目安：各 30 分～1 時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	AMBITIONS: Elementary［４技能統合型で学ぶ英語コース：初級編］	熊澤孝昭、静 哲人、望月正道 編著	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

In-Class Review Assessment （授業内試験）： 40%
小テスト （第１回目の授業で配布する別紙の小テスト範囲に沿って出題）： 20%
In-Class Tasks and Homework （授業中:Unit の問題、クラスでの発表など 授業外の宿題・課題:授業の予習と復習、聴き読み、Listening Marathon など）： 40%

学生へのメッセージ

英語の４技能５領域〔Reading, Listening, Writing, Speaking（やり取り・発表）〕を育成する学習活動を行います。
英語を使うことを楽しみましょう。

担当者の研究室等

非常勤講師室（7 号館２階）

備考

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール　カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities. １年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	Participation in this course will improve the four main skill areas - speaking, listening, reading, and writing.「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson. 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development. TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1: Speaking About Yourself	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class
2	Unit 1: Speaking About Yourself	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
3	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
4	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
5	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
6	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
7	Review Units 1-3	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
8	Unit 4: Tell Me About You Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
9	Unit 4: Tell Me About You Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
10	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
11	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
12	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
13	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
14	Review Units 4-6	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN'UN-DO
2	The 1500 Core Vocabulary for the	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	e-learning を 20%、授業活動を 80%の割合とする。
学生への メッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ｉｂ	科目名（英文）	Practical English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田原　理恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2328c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席がある場合には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方、評価方法などの説明 アクティビティ	テキストの予習と単語の学習（1時間程度）
2	Unit 1: Jobs & Careers	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
3	Unit 1 : Jobs & Careers	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
4	Unit 2 : Entertainment	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
5	Unit 2 : Entertainment	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
6	Unit 3: Work Schedule	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
7	Unit 3: Work Schedule	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
8	Unit 4: Health & Fitness	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
9	Unit 4: Health & Fitness	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
10	Unit 5: Shopping	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
11	Unit 5: Shopping	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
12	Unit 6: Business Meeting	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
13	Unit 6: Business Meeting	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
14	Unit 8: Customer Needs	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストのこれまでの内容の復習（1時間程度）
15	復習、まとめテスト	これまでの内容の復習及びまとめテスト	テキストのこれまでの内容の復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Switch	Robert Hickling　他	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度…100%
学生への メッセージ	英語学習は地道な努力の積み重ねが必要です。授業中に出される指示に従い、他者とも協力しながら、積極的に活動に参加することを期待します。 全員で英語を学習する環境を作りましょう。 ※初回授業で授業の進め方や評価に関する詳細を説明します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画は進度によって変更する場合があります。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	村田　幸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。この講義ではビジネス・経営に関する内容を扱う。
到達目標	「読解力」としては、CEFR-J[A2-2]を目標とし、「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とする。また「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。４回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	
2	Chapter7 The Japanese HRM systems	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
3	Chapter7 The Japanese HRM systems	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
4	Chapter8 What is marketing?	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
5	Chapter8 What is marketing?	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
6	Chapter9 The marketing mix	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
7	Chapter9 The marketing mix	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
8	臨時試験①		
9	Chapter10 Financial statements	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
10	Chapter10 Financial statements	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
11	Chapter11 Digital technology and business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
12	Chapter11 Digital technology and business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
13	Chapter12 Including SDGs in business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
14	Chapter12 Including SDGs in business	①講義 ②問題 ③ペアワーク ④グループワーク	講義の復習(1 時間)
15	臨時試験②		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL Business Management	Ikuko Ueno	SANSHUSHA
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	平常点（発言、課題、提出物）　40% 臨時試験　60%（臨時試験１　30%、臨時試験２　30%）
学生への メッセージ	できるだけペアワーク、グループワークをベースにした講義にしたいと思っています。英語が苦手な学生も、まずは参加しましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0809-0880 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0881-0950 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0951-1020 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1021-1090 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1091-1160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1161-1230 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1231-1300 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1301-1370 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1371-1440 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1441-1500 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading　550	David E.Bramley／中井弘一	松柏社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題提出状況及び課題の正解率　100%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0809-0880 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0881-0950 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.0951-1020 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1021-1090 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1091-1160 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
7	Review	前半の復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1161-1230 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1231-1300 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1301-1370 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1371-1440 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト　NO.1441-1500 事前事後学習には，毎回１時間以上かけること
15	Review	後半復習	事前事後学習には，毎回１時間以上かけること

関連科目：TOEIC，英検ほか、英語関連の資格一般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading　550	David E.Bramley／中井弘一	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題　20% 課題提出状況及び課題の正解率　80%
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田儀　勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習 1.5 時間
2	Chapter 6 Social Media and Loneliness	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
3	Chapter 6 Social Media and Loneliness	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
4	Chapter 7 Five Healthy Habits	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
5	Chapter 7 Five Healthy Habits	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
6	Chapter 8 Are Humans Outdated Machines? Part I	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
7	Chapter 8 Are Humans Outdated Machines? Part I	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
8	Chapter 9 Are Humans Outdated Machines? Part II: Controlling Stress	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
9	Chapter 9 Are Humans Outdated Machines? Part II: Controlling Stress	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
10	Chapter 10 The Happiness Set Point	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
11	Chapter 10 The Happiness Set Point	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習 1.5 時間
12	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	後期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
13	Oral Presentation	スピーキング・リスニング	後期の内容からトピックを選んでのプレゼンテーション 1.5 時間
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく 1.5 時間
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習 1.5 時間

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Life Topics: Changing Views 総合英語ライフトピックス 5	Jonathan Berman	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%
学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	8 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習
2	Unit 7　Why Are Pencils Yellow?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
3	Unit 7　Why Are Pencils Yellow?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
4	Unit 8　What Are the Ends of Shoelaces Called?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
5	Unit 8　What Are the Ends of Shoelaces Called?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
6	Unit 9　Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
7	Unit 9　Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
8	Unit 10　Why Do We Drink So Much Coffee?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
9	Unit 10　Why Do We Drink So Much Coffee?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
10	Unit 11　Which Came First, Lighters or Matches?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
11	Unit 11　Which Came First, Lighters or Matches?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
12	Unit 12　Why Is Meat from Pigs Called "Pork"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
13	Unit 12　Why Is Meat from Pigs Called "Pork"?	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習（１時間）
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Answers to Everyday Questions 3	Arnold Arao	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加度　４０％ まとめのテストの成績　６０%
学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：テキストを準備して、Unit8 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間）事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 リスニング問題、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 9 The Use of Social Media	小テスト（Unit8：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit9 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
4	Unit 9 The Use of Social Media	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 10 Effective Business Writing	小テスト（Unit9：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit10 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
6	Unit 10 Effective Business Writing	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 11 The Modern Office	小テスト（Unit10：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit11 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
8	Unit 11 The Modern Office	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 12 Socializing with a Purpose	小テスト（Unit11：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：、Unit12 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
10	Unit 12 Socializing with a Purpose	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 13 The Business Trip	小テスト（Unit12：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit13 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
12	Unit 13 The Business Trip	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 14 Dining In and Dinig Out	小テスト（Unit13：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit14 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）

	14	Unit 14 Dining In and Dinig Out	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題 Unit14 小テスト　解答と解説	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
	15	まとめ Unit 8-14 の復習	全体（Unit8-14）の単語・文法事項の確認 まとめテスト	事前学習：テキスト(Unit8-14)の復習,これまでの単語、文法事項を整理し確認する（0.5 時間） 事後学習：わからなかった単語、文法事項を暗記する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 ・学習成果の確認として、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス　ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
2	Technology	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
3	Technology	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
5	Health	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
6	Travel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
7	Travel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
8	Business	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
9	Business	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
10	Entertainment	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
11	Entertainment	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
12	Education	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
13	Education	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
14	Housing	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
15	Housing まとめと復習テスト	リスニング スピーキング リーディング	指定箇所の予習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC　L&R TEST〈初級編〉	角山　照彦 / Simon Capper / 遠藤　利昌	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	復習テスト …40% 授業への参加、貢献 …40% Class participation　２０％
学生へのメッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ⅱａ	科目名（英文）	Practical English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中道　英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2329c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	テキスト８ページから１２ページまでのTOEICの説明、及び教科書の構成、使用方法などを確認する。また、出版社のホームページにアクセスし、テキストの音声ファイルのダウンロード・ストリーミングができることも確認しておく。これらの準備に約一時間かけることとする。
2	Technology	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
3	Technology	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
5	Health	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
6	Travel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
7	Travel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
8	Business	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
9	Business	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
10	Entertainment	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
11	Entertainment	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
12	Education	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
13	Education	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 リーディング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
14	Housing	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 リスニング問題、及び語彙の予習に約一時間かけることとする。
15	Housing まとめと復習テスト	リスニング スピーキング	指定箇所の予習

			リーディング	後期学習内容の復習に約一時間かけることとする。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC L&R TEST〈初級編〉	角山 照彦 / Simon Capper / 遠藤 利昌	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	復習テスト …50% 授業内発表 …50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	梅田　尋道
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方･評価方法などについて説明する。	第２週目の授業に間に合うように教科書を購入する。
2	Week 2: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
3	Week 3: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
4	Week 4: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
5	Week 5: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
6	Week 6: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
7	Week 7: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
8	Midterm Exam	これまでの復習を併せて行う。	Midterm Exam の準備(90 分)
9	Week 9: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
10	Week 10: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
11	Week 11: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
12	Week 12: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
13	Week 13: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
14	Week 14: Grammar, Vocabulary, Listening and Reading	読解・リスニング・会話練習を中心に授業を行う。 Summary 作成･単語の復習を各自で行う。	事前学習として Vocabulary Quiz の準備をする。事後学習としてその週に学習したパートの英文を２，３回音読する。(90 分)
15	まとめのテスト	これまでの復習を併せて行う。	テストの準備(90 分)

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2	S. Stempleski	Oxford
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめのテスト１(Midterm Exam) 20% まとめのテスト２(Final Exam) 20% 授業活動(Vocabulary test、提出物、授業活動への積極参加など) 60%
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を重ねて成長してください！

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	やむを得ない欠席は 3 回までしか認められません。遅刻・早退・中抜けは、累積三回で一回の欠席になります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で３～５点減点します。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	ＴＯＥＩＣとは　コース説明 リスニング Unit１　　品詞分けプリントで品詞解説 文法問題　　単語	左記範囲の単語演習、文法問題予習（1時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。 文法は丸覚えではなく授業のポイントを押さえて応用が効くように綺麗にまとめる。文章題は教科書だけでなくプリントも見ておくこと。
2	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展　文章題に慣れる	単語テスト１ リスニング Unit２　文法問題　文章問題　単語 文法「接続詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。文法は答えを覚えるのではなく応用が効くように解説を聞いた後はわかりやすくポイントをまとめておくこと。
3	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト２　リスニング Unit３ 文法問題　文章問題　単語　文法「前置詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語演習は雑に書かないこと。意味と発音を意識しながら丁寧にやること。 文章題は形式によって素早く解く物と間違わず正確に読み取るパターンの物の違いを意識して予習すること。
4	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト３　リスニング Unit４ 文法文章問題　単語 文法「分詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 今回の範囲である分詞については苦手な人が多いので授業の解説のあと調べてまとめておく事。過去分詞を過去形と勘違いしない事。
5	テスト一回め 語彙発展 文章形式の文法問題を解く	総合テスト第１回　Unit５ 文章文法問題 文法「分詞２」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習 （２時間） テストに出そうな問題は解説を必ずしているので特に文法事項は復習しておくこと。応用問題を想定して丸覚えしない事。
6	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却　フィードバック　単語テスト４　リスニング Unit ６　文法問題　単語 文法「関係代名詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） テストは、授業での解説を聴いて必ず何故間違えたのかメモをちゃんと書き入れて復習しておくこと。 文章題は他人の答えを丸覚えするのではなく自分の言葉でも回答ができるように練習すること。
7	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト５　リスニング Unit ７ 文法文章問題　単語　文法「関係代名詞２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語ワークシートは溜めずに出すこと。雑に書いている物には指導があるので書き方を工夫すること。 関係代名詞についてよく分からないところは教科書問題をやるだけでなく基礎に戻ってまとめておく事。
8	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト６　リスニング Unit ８ 文法文章問題　単語　文法「不定詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 不定詞の用法に応じて文の意味が正確に取れるようにしておく。やや特殊な用法についても説明するのでメモをとりきちんとまとめて分かるようにおくこと。
9	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト７　リスニング Unit ９ 文法文章問題　単語　文法「不定詞動名詞」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 応用力をつけるために、意識して不定詞をとる動詞と動名詞を取る動詞を区別して覚えること。決まった動詞しか出ないので適当に勘でやらない事。文章題はプリントもよく見て内容把握をしておく事。
10	テスト第２回　語彙発展 文章形式の文法問題を解く 品詞の観点をもって文法問	チェックテスト第２回フィードバック Unit １０ 文法問題　単語　　単語テスト７	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 答え合わせの後、過去形と完了形の使い分けについ

	題を解く	文法「過去形と現在完了形」	て分からない者が多いので、解説をちゃんと聴いて書き込んでおく事。文章題の中の時制にも注目して復習する事。テストにも出る。
11	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト８　リスニング Unit１１　文法文章問題　単語　文法「現在完了形と完了進行形」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 完了進行形については馴染みのない者もいるのできちんと解説を聞いてどんな時に使うのか例を探してみる事。教科書の文章問題から引用してまとめるのも良い。
12	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト９　リスニング Unit １２　文法問題　単語 文法「受身形１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 単純な受け身形だけではなく完了形受け身や進行形受け身形について説明するので授業の後良くまとめておく事。 単語ワークを溜めている者、遅れてもちゃんと出すこと。
13	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１０　リスニング Unit13　文章文法問題　単語 「受身形２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
14	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１１　リスニング Unit14　文章文法問題　単語 「副詞修飾」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
15	テスト第三回 品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	チェックテスト第３回 フィードバック	試験範囲の単語演習、文章文法問題予習復習 （２時間）

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST１	Yasuyuki Kitao　他	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　100%

学生へのメッセージ

e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しづつ英語力をつけていってください。
少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室 7 号館 2 階（木曜午前中）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久田　歩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	ＴＯＥＩＣとは　コース説明 リスニング Unit１　　品詞分けプリントで品詞解説 文法問題　　単語	左記範囲の単語演習、文法問題予習（1時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。 文法は丸覚えではなく授業のポイントを押さえて応用が効くように綺麗にまとめる。文章題は教科書だけでなくプリントも見ておくこと。
2	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展　文章題に慣れる	単語テスト１ リスニング Unit２　文法問題　文章問題　単語 文法「接続詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語は解説を授業で聴いたのち演習を自宅で行う。丁寧に書くこと。品詞を意識して書くこと。文法は答えを覚えるのではなく応用が効くように解説を聞いた後はわかりやすくポイントをまとめておくこと。
3	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト２　リスニング Unit３ 文法問題　文章問題　単語　文法「前置詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語演習は雑に書かないこと。意味と発音を意識しながら丁寧にやること。 文章題は形式によって素早く解く物と間違わず正確に読み取るパターンの物の違いを意識して予習すること。
4	オリエンテーション 品詞の認識　品詞とは　語彙発展	単語テスト３　リスニング Unit４ 文法文章問題　単語 文法「分詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 今回の範囲である分詞については苦手な人が多いので授業の解説のあと調べてまとめておく事。過去分詞を過去形と勘違いしない事。
5	テスト一回め 語彙発展 文章形式の文法問題を解く	総合テスト第１回　Unit５ 文章文法問題 文法「分詞２」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習 （２時間） テストに出そうな問題は解説を必ずしているので特に文法事項は復習しておくこと。応用問題を想定して丸覚えしない事。
6	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却　フィードバック　単語テスト４　リスニング Unit ６　文法問題　単語 文法「関係代名詞１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） テストは、授業での解説を聴いて必ず何故間違えたのかメモをちゃんと書き入れて復習しておくこと。 文章題は他人の答えを丸覚えするのではなく自分の言葉でも回答ができるように練習すること。
7	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト５　リスニング Unit ７ 文法文章問題　単語　文法「関係代名詞２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 単語ワークシートは溜めずに出すこと。雑に書いている物には指導があるので書き方を工夫すること。 関係代名詞についてよく分からないところは教科書問題をやるだけでなく基礎に戻ってまとめておく事。
8	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト６　リスニング Unit ８ 文法文章問題　単語　文法「不定詞」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 不定詞の用法に応じて文の意味が正確に取れるようにしておく。やや特殊な用法についても説明するのでメモをとりきちんとまとめて分かるようにおくこと。
9	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト７　リスニング Unit ９ 文法文章問題　単語　文法「不定詞動名詞」	テスト勉強、左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 応用力をつけるために、意識して不定詞をとる動詞と動名詞を取る動詞を区別して覚えること。決まった動詞しか出ないので適当に勘でやらない事。文章題はプリントもよく見て内容把握をしておく事。
10	テスト第２回　語彙発展 文章形式の文法問題を解く 品詞の観点をもって文法問	チェックテスト第２回フィードバック Unit １０ 文法問題　単語　　単語テスト７	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 答え合わせの後、過去形と完了形の使い分けについ

	題を解く	文法「過去形と現在完了形」	て分からない者が多いので、解説をちゃんと聴いて書き込んでおく事。文章題の中の時制にも注目して復習する事。テストにも出る。
11	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト８　リスニング Unit１１　文法文章問題　単語　文法「現在完了形と完了進行形」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習（２時間） 完了進行形については馴染みのない者もいるのできちんと解説を聞いてどんな時に使うのか例を探してみる事。教科書の文章問題から引用してまとめるのも良い。
12	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト９　リスニング Unit １２　文法問題　単語 文法「受身形１」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 単純な受け身形だけではなく完了形受け身や進行形受け身形について説明するので授業の後良くまとめておく事。 単語ワークを溜めている者、遅れてもちゃんと出すこと。
13	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１０　リスニング Unit13　文章文法問題　単語 「受身形２」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
14	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	単語テスト１１　リスニング Unit14　文章文法問題　単語 「副詞修飾」	左記範囲の単語演習、文章、文法問題予習復習　（２時間） 基本的な事であるが基本的な動詞の不規則活用をきちんと覚える事。受け身形に関しては単純な物でも間違える者が多いので選択型だけでなく実際に書いて変換する練習をすると定着して良い。
15	テスト第三回 品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題の問いの傾向を知り読み解く 語彙発展	チェックテスト第３回 フィードバック	試験範囲の単語演習、文章文法問題予習復習 （２時間）

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST１	Yasuyuki Kitao　他	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト、まとめテスト等　100%

学生へのメッセージ

e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
毎回の課題を有効に利用し、基礎から少しづつ英語力をつけていってください。
少しでも疑問に思う点や不明な点があれば、そのつど質問してください。

担当者の研究室等

非常勤講師室 7 号館 2 階（木曜 1,3 時間目）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ１５時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　永里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。 CEFR J[A2 2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会 話・ライティング力」としては、 CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、ある
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授 業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
2	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
3	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
4	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
5	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
6	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
7	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
8	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
9	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
10	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
11	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
12	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
13	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には１時間以上かけること。
14	Review 2	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。 テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。
15	Review	期末テスト	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には１時間以上かけること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山　照彦 / LiveABC editors	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末テスト（40%） 小テスト（30%） その他授業中の態度や課題の提出（30%）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	東野　厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行い、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 原則として、出席率 80%以上（12 回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 The Modern Workplace	授業の進め方、評価方法等の説明 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：テキストを準備して、Unit8 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
2	Unit 8 The Modern Workplace	文法事項等の確認 リスニング問題、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
3	Unit 9 The Use of Social Media	小テスト（Unit8：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit9 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
4	Unit 9 The Use of Social Media	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
5	Unit 10 Effective Business Writing	小テスト（Unit9：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit10 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
6	Unit 10 Effective Business Writing	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
7	Unit 11 The Modern Office	小テスト（Unit10：単語・文法問題） 単語の確認 テキストの読解、内容理解問題	事前学習：Unit11 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
8	Unit 11 The Modern Office	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
9	Unit 12 Socializing with a Purpose	小テスト（Unit11：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：、Unit12 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
10	Unit 12 Socializing with a Purpose	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
11	Unit 13 The Business Trip	小テスト（Unit12：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit13 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5 時間）
12	Unit 13 The Business Trip	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
13	Unit 14 Dining In and Dinig Out	小テスト（Unit13：単語・文法問題） 文法事項等の確認 テキストの読解、練習問題	事前学習：Unit14 の単語を確認し、英文を読んでおく（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語、イディオムを暗記する、英文の内容を理解できているか確認する（0.5

				時間)
	14	Unit 14 Dining In and Dinig Out	前回の小テストの解答と説明 文法事項等の確認 リスニング、文法確認問題 Unit14 小テスト　解答と解説	事前学習：内容把握・文法・リスニング問題をする（0.5 時間） 事後学習：知らなかった単語暗記し、間違った文法問題を確認する（0.5 時間）
	15	まとめ Unit 8-14 の復習	全体（Unit8-14）の単語・文法事項の確認 まとめテスト	事前学習：テキスト(Unit8-14)の復習,これまでの単語、文法事項を整理し確認する（0.5 時間） 事後学習：わからなかった単語、文法事項を暗記する（0.5 時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 4	Alison Kitｚman 他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　　100%
学生への メッセージ	・知っておきたい基本的なビジネスルールを英語で学びます。主体的に取り組み、英語の運用能力を向上させましょう。 ・学習成果の確認として、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Self Introduction. Course introduction.	Self introductions. Textbook and course explanation.	Review 1.30 hour
2	Unit 1/ What's your name?	Talking about yourselves. Asking and responding to personal questions.	Review 1.30 hour
3	Unit 1/ What's your name?	Exchanging personal information.	Review 1.30 hour
4	Unit 2/ Fashion.	Describing and understanding descriptions of clothing.	Review 1.30 hour
5	Unit 2/Fashion	Expressions and adjectives used to describe clothing.	Review 1.30 hour
6	Unit 3/ How do you stay healthy?	Giving and understanding advice about staying healthy.	Review 1.30 hour
7	Unit 3/ How do you stay healthy?	Words and expressions used to talk about healthy and unhealthy habits.	Review 1.30 hour
8	Test and Review and Feed Back.		Review 1.30 hour
9	Unit 5/How did you get there?	Directions	Review 1.30 hour
10	Unit 4/ How did you get there?	Describing the location of the place. Prepositions of location.	Review 1.30 hour
11	Unit 5/ What's that?	Describing and understanding descriptions of objects.	Review 1.30 hour
12	Unit 6/ What's your dream?	Describing goals, and responding to questions about them.	Review 1.30 hour
13	Seasonal events and activities.	Welcoming a visitor	Review 1.30 hour
14	Unit 6/ Outlining your future plans	Discussing your future plans.	Review 1.30 hour
15	Test and Review and Feed Back.		Review 1.30 hour

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success	Marc Helgesen	Pearsons
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	English Central 20% In-class tests. 20% 授業への参加、貢献（answering of oral questions, role-plays, successfully completing paperwork in group discussions, 小テスト、まとめテスト等も含む）　60%
学生へのメッセージ	I look forward to meeting you all.
担当者の研究室等	Part time teacher's room, building 7, 2nd floor
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン　ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	In this class we will focus on reading, vocabulary building and discussion to help you improve your English across a wide range of situations and topics.
到達目標	This course aims to help you participate in conversations and to help you share your opinions on issues that affect everyone's lives. You will also build your vocabulary of useful words. (DP1)
授業方法と留意点	Since classes are practice-based, actively participating in and contributing to learning activities in class is an important evaluation item. For out-of-class learning assignments, follow the pace and deadlines indicated.
科目学習の効果（資格）	Improve the students' abilty to discuss and share opinions on a range of topics, and to build vocabulary.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class and course introduction Unit 1: The Last Chance for a First Impression	Course Orientation Self Introductions Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
2	Unit 2: Why Learn English?	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
3	Unit 3: Focus on Photography	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
4	Unit 4: Gender Inequality in Japan	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
5	Unit 5: Social Media and the Internet	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
6	Unit 6: Indigenious People of the World	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
7	Unit 7: Great People in History	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
8	Mid-Term Exam Unit 8: The Road Less (or More) Traveled	Units 1 - 7 Review Exam Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Review the unit vocabulry for Units 1-7 Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
9	Unit 9: The Culture of Food	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
10	Unit 10: Freedom and Responsibility	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
11	Unit 11: Love One, Love All	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
12	Unit 12: Money and Finance	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
13	Unit 13: Careers: Nice Job!	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
14	Unit 14: Across the Universe: If Earth Were a Cherry Tomato	Pre-Reading Vocabulary Reading and Comprehension Group/Partner Work Internet Research	Preview the unit vocabulary Review the unit reading Complete Vocabulary Building exercise
15	Final Exam	Units 8 - 14 Review Exam	Review the unit vocabulry for Units 8-14

関連科目	
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's That You Say? 自ら発信するための英語力養成講座	Jono David	Nan'Un-Do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	Active Participation in class activities and attentiveness: 15% Mid-Term Exam: 35% Final Exam: 35% Assigned Homework Tasks: 15%
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting everyone and helping you to improve your English vocabulary and discussion skills. I hope you will all work with me to make the most of our time together.
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	

科目名	実践英語Ⅱｂ	科目名（英文）	Practical English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田原　理恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2330c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席は原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation Unit 7: Recruitment	授業の進め方、評価方法などの説明 リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
2	Unit 7: Recruitment	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
3	Unit 10: Advertising	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
4	Unit 10: Advertising	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
5	Unit 11: Factory Tour	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
6	Unit 11: Factory Tour	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
7	Unit 12: Money Matters	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
8	Unit 12: Money Matters	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
9	Unit 13: Leisure	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
10	unit 13: Leisure	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
11	Unit 14: Environment	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
12	Unit 14: Environment	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
13	Unit 15: Business Tie-Up	語句テスト リスニング、文法演習、語彙演習 確認テスト	テキストの予習復習と単語の学習（1時間程度）
14	Unit 15: Business Tie-Up	語句テスト リーディング、ライティング（スピーキング） 確認テスト	テキストのこれまでの内容の復習（1時間程度）
15	復習、まとめテスト	これまでの内容の復習及びまとめテスト	テキストのこれまでの内容の復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Switch	Robert Hickling　他	金星堂
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への メッセージ	英語学習は地道な努力の積み重ねが必要です。授業中に出される指示に従い、他者と協力して積極的に参加することを期待します。全員で英語を学習する環境を作りましょう。 ※初回授業で授業の進め方や評価に関する詳細を説明します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画は進度によって変わる場合があります。

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松本　裕也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3331c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。 (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・今後の授業の進め方、及び評価方法などの具体的な説明 ・クラスメートと打ち解けるためのアクティビティ	事前学習（1時間）: ・英語で自己紹介ができるように考えてくる。 事後学習（1時間）: ・シラバスを熟読しておく。
2	Unit 1：簡単な挨拶	・"Job hunting"をテーマに Speaking, または Activity ・自分を表現するにふさわしい英単語の発見 ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.10 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
3	マーケティングへの挑戦(1)	・「便利、もしくは不便だと感じるもの、サービス」の共有 ・グループワークとしてマーケティングを行う。(この回では、チームを作ります)。 ・チームメンバーの長所を見つけて、今後の課題への取り組みに備えます。 ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・生活をしていて「便利、もしくは不便だと感じるもの、サービス」を５つ見つけて、その理由を紙に書き出す。英語で簡単に説明できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備。 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
4	Unit 2：言葉の意味を尋ねる	・「和製英語」をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p. 16 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
5	マーケティングへの挑戦(2)	・"Shopping"をテーマに Speaking, または Activity ・グループワークとしてマーケティングを行う。(需要のある製品、サービスを考え、ビジネスプランを立てます) ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・需要のある製品、サービスを３つ考える。またビジネスプランとは何か、クラスメートに説明できるように事前に調査しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
6	Unit 3：電話での会話	・数字を使用した Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p. 22 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
7	マーケティングへの挑戦(3)	・「働き方」をテーマに Speaking, または Activity	事前学習（1時間）: ・SWOT 分析、４P とは何か事前に調べておくこと。

				・グループワークとしてマーケティングを行う。(生み出した製品、サービスの可能性を探りましょう) ・単語テスト	・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		8	Unit 4：電話での会話	・「伝言」をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p. 28のReading問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		9	マーケティングへの挑戦(4)	・"外食"をテーマに Speaking, またはActivity ・グループワークとしてマーケティングを行う。(前回生み出した需要のある製品、サービスを他のグループと共有して頂きます) ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・SWOT分析、４Pとは何か事前に調べておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		10	Unit 5：体調を伝える	・"Email"をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.34のReading問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		11	マーケティングへの挑戦(5)	・"Crowdfunding"をテーマにSpeaking, またはActivity ・「マーケティング」をグループワークとして行ってみます。(この回では、生み出した製品やサービスを宣伝するためのPower Point（最低6枚）を作成します。翌回も同様のアクティビティを行います。 ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・Power Point作成の為に、アウトラインを作成すること。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		12	Unit 6：スケジュールの組み立て	・「スケジュール」をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.40のReading問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		13	マーケティングへの挑戦(6)	・「モチベーション」をテーマにSpeaking, またはActivity ・「マーケティング」をグループワークとして行ってみます。(この回では、生み出した製品やサービスを宣伝するための広告を作成します。翌回も同様のアクティビティを行います) ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・Power Pointを最低3枚は完成させておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		14	マーケティングへの挑戦(7)	・Power Pointを使用してマーケティングの結果発表をプレゼンテーションとして行います。	事前学習（1時間）: ・プレゼンテーションの準備。チームメンバー全員が、必ず一人一回スピーチを行い、スピーチの長さは統一すること。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
		15	復習テスト Unit 7：好みを尋ねる	・復習テスト（Unit１～６）	事前学習（1時間）: ・復習テストへの準備

			・"Preference"をテーマにSpeaking, またはActivity	・p.46のReading問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / First Steps to Office English / Tae Kudo / Cengage Learning K.K 2 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法 （基準）	・単語テスト：20% ・復習テスト：30% ・授業内外での課題への取り組み：50%（教員からの質問に積極的に回答する姿勢や授業への集中度、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか、課題を提出しているか等） 注意： 1. 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席）。 2. 課題の提出が1週間遅れることに、付与される点数は、半減。
学生への メッセージ	・テストの点数だけを基準に成績はつけません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。 ・授業に関係のない行為（下記参照）は欠席、減点扱いの対象です。欠席や減点扱いとなった場合、成績の低下と単位取得の両方に影響します。 ① 私語など授業を妨害する行為は自動的に欠席とみなす。 ② 居眠り、携帯電話の使用は減点対象。 ③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）
担当者の 研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（メールにて要予約）にて対応する。

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松本　裕也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3332c1		

授業概要・目的	ビジネス分野で必要となるような専門性の高い単語や表現を学ぶ。また、様々なビジネスシーンを想定した文書や会話などを教材とし、実践的な英語力を養う。
到達目標	(1) 日本のビジネスシーンに留まらず、国際ビジネスの現状にも触れることで多角的な視点を養う。 (2) 前期は CEFR-J [B1.1]、後期は CEFR-J [B1.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・"Summer Vacation"をテーマにSpeaking, またはActivity ・前期に達成できたこと、できなかったことを振り返って、新しい目標を立てる。	事前学習（1時間）: ・夏休み中の出来事を英語で説明できるように準備しておく 事後学習（1時間）: ・シラバスを熟読しておく
2	Unit 8：誘うとき、誘われるときの対応	・"Invitation"をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.52 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
3	Cover Letter Workshop (1)	・英語での自己 PR 方法を、日本文化との違い等にも言及しながら学びます。 ・Quote（名言や格言）をリサーチ ・教員から配布する Worksheet を使って、自己分析 ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・卒業後に応募してみたい企業、もしくは、いまチャレンジしてみたいアルバイトを探しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・授業内で完成させられなかった課題を完成させる ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
4	Unit 9：スモールトーク	・「会話を楽しむ」をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.58 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
5	Cover Letter Workshop (2)	・性格診断テストの内容をグループになって確認 ・性格診断テストをグループワークとして行う ・これまでの取り組みで発見した新しいご自身の側面にも言及して、Cover Letter の draft を作成 ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・性格診断テストに関する資料を熟読しておくこと（教員から配布します）。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
6	Unit 10：場所を尋ねる	・「地図」をテーマにSpeaking, またはActivity ・単語テスト	事前学習（1時間）: ・p.64 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）: ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。
7	Cover Letter Workshop (3)	・Cover Letter をペアになって発表の	事前学習（1時間）:

				練習 ・練習が終わったグループは、Power Point（最低6枚）を使って Cover Letter Video を作成 ・単語テスト	・Cover Letter を完成させ、内容を覚えておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・単語テストの復習 ・授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
		8	Unit 11：道順を尋ねる	・「道順」をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・p.70 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		9	Cover Letter Workshop (4)	・Cover Letter Video を完成させる ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・Cover Letter Video を授業内で完成させられるように準備しておくこと（Power Point は最低3枚）。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		10	Unit 12：モノの使い方を尋ねる	・「オフィス機器」をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・p.76 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		11	Unit 13：ホテルでの会話	・"Hotel"をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・p.82 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		12	Unit 14：値段を尋ねる	・"Price"をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・p.88 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		13	Unit 15：レストランでの会話	・"レストラン"をテーマに Speaking, または Activity ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・p.94 の Reading 問題にチャレンジする。分からない語彙や文章は、授業で質問できるように準備しておくこと。 ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる ・単語テストの復習	
		14	総復習	・「秋学期」をテーマに Speaking, または Activity ・Cover Letter Video の鑑賞 ・単語テスト	事前学習（1時間）： ・これまで学んだ内容で理解出来ていない点がないか、確認しておく ・単語テストへの準備 事後学習（1時間）： ・授業で学んだ内容をノートにまとめる	

			・単語テストの復習
15	復習テスト&次年度のゴール設定	・復習テストを行い、授業の内容で理解できていない箇所を明確にする ・次年度に向けて、語学習得における新しい目標設定を行う	事前学習（1時間）: ・これまで学んだ内容(Unit 8～15)を復習する 事後学習（1時間）: ・授業で学んだ内容をノートにまとめる

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to Office English	Tae Kudo	Cengage Learning K.K
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・単語テスト：20%
・復習テスト：30%
・授業内外での課題への取り組み：50%（教員からの質問に積極的に回答する姿勢や授業への集中度、ペア・グループワークへの参加度、ノートやメモを取っているか、課題を提出しているか等）

注意：
1. 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする（3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席）。
2. 課題の提出が1週間遅れることに、付与される点数は、半減。

学生へのメッセージ

・テストの点数だけを基準に成績はつけません。アクティビティへの積極的な参加、講義に対する質問など、努力する姿勢が評価対象の中心です。

・授業に関係のない行為（下記参照）は欠席、減点扱いの対象です。欠席や減点扱いとなった場合、成績の低下と単位取得の両方に影響します。

① 私語など授業を妨害する行為は自動的に欠席とみなす。
② 居眠り、携帯電話の使用は減点対象。
③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
（原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。）

担当者の研究室等

7号館2階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（メールにて要予約）にて対応する。

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3333c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	（１）実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 （２）前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class introducation	ガイダンス	課題、小テスト対策
2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目：英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3334c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	（１）実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 （２）前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class introducation	ガイダンス	課題、小テスト対策
2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目：英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	アドバンスト英語Ⅰ	科目名（英文）	Advanced English I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田原　理恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2335c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」「リスニング力」として、アカデミックなトピックを扱った内容を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「会話・ライティング力」として、アカデミックなトピックを扱った内容について、意見交換、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、自分の考えを英語で表現することができる。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明 アクティビティ	テキストの予習（1時間程度）
2	Unit 1: Resourcefulness	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
3	Unit 1: Resourcefulness	Oral report Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
4	Unit 3: Emotional Support	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
5	Unit 3: Emotional Support	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
6	Unit 2: Women's Rights	語彙演習、リーディング、リスニング、スピーキング、Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
7	Unit 2: Women's Rights	Timed mini presentation Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
8	Unit 4: Poaching	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
9	Unit 4: Poaching	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
10	Unit 7: Food Waste	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
11	Unit 7: Food Waste	Oral report Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
12	Extra material	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
13	Unit 11: Cleaner Places	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Project planning	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
14	Unit 11: Cleaner Places	Project planning Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1時間程度）
15	Final quiz	Final quiz	テキストの復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Positive Action	Greg Goodmacher	National Geographic Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生への	演習型授業になりますので、積極的な授業への参加を期待します。双方向の活発な授業展開ができるような環境を全体で作っていきましょう。辞

メッセージ	書は必ず持参してください。初回授業で授業の進め方や評価方法についての詳細を説明しますので、必ず初回授業に出席してください。授業計画や内容は進度や状況によって変更する場合があります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	アドバンスト英語Ⅱ	科目名（英文）	Advanced English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田原　理恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3336c 1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」「リスニング力」として、アカデミックなトピックを扱った内容を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「会話・ライティング力」として、アカデミックなトピックを扱った内容について、意見交換、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、自分の考えを英語で表現することができる。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション Project oral report	Oral report の準備（1時間程度）
2	Unit 8: Climate Change	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
3	Unit 8: Climate Change	Oral report Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
4	Unit 9: Hair Donation	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
5	Unit 9: Hair Donation	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
6	Unit 10: Homeless People	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
7	Unit 10: Homeless People	Oral report Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
8	Unit 6: Bullying	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Project planning	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
9	Unit 6: Bullying	Project oral report Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
10	Unit 13: Suicide Prevention	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
11	Unit 13: Suicide Prevention	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
12	Unit 14: Peacebuilding	語彙演習 リーディング リスニング スピーキング Research	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
13	Unit 14: Peacebuilding	Timed mini presentation Critical Thinking	テキストの予習復習と research 学習（1.5 時間程度）
14	Extra material	Extra listening & reading practice	テキストの予習復習と research 学習（1時間程度）
15	Final quiz	Final quiz	テキストの復習（1時間程度）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Positive Action	Greg Goodmacher	National Geographic Learning
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%

（基準）	
学生への メッセージ	演習型授業になりますので、積極的な授業への参加を期待します。双方向の活発な授業展開ができるような環境を全体で作っていきましょう。辞書は必ず持参してください。初回授業で授業の進め方や評価方法についての詳細を説明しますので、必ず初回授業に出席してください。授業計画や内容は進度や状況によって変更する場合があります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	アドバンスト英語Ⅲ	科目名（英文）	Advanced English III
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田原　理恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3337c 1		

授業概要・目的	TOEIC 形式の問題を正確に解く力を身につける。さらに、これまでに身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を通して、各技能の応用力を養う。
到達目標	TOEIC 形式の問題を正確に解くことができるようになる。 TOEIC で扱われる日常生活やビジネスに関する内容に加えて、アカデミックなトピックを扱った内容についても自分の考えを英語で表現することができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示された期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation session Unit 1	Detailed class description Vocabulary, Listening, Reading Practice	Preparing for quizzes (about 1 hour)
2	Unit 2	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
3	Unit 3	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
4	Unit 4 Extra material	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity Research & report	Preparing for quizzes Research (about 1 hour)
5	Unit 5	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
6	Unit 6	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
7	Unit 7 Mid quiz	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity Mid quiz	Preparing for quizzes (about 1 hour)
8	Unit 8 Extra material	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity Research & report	Preparing for quizzes Research (about 1 hour)
9	Unit 9	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
10	Unit 10	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
11	Unit 11	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
12	Unit 12 Extra material	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity Research & report(timed mini presentation)	Preparing for quizzes Research (about 1 hour)
13	Unit 13	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
14	Unit 14	Vocabulary, Listening, Reading Practice & speaking activity	Preparing for quizzes (about 1 hour)
15	Final quiz	Final quiz	Reviewing vocabulary (about 1 hour)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST Advanced	YOSHIZUKA Hiroshi Graham Skerritt	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期途中や学期末に行う小テスト・復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表　100%
学生へのメッセージ	演習型授業になりますので、積極的な授業への参加を期待します。双方向の活発な授業展開ができるような環境を全体で作っていきましょう。辞書は必ず持参してください。初回授業で授業の進め方や評価方法についての詳細を説明しますので、必ず初回授業に出席してください。授業計画や内容は進度や状況によって変更する場合があります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	ビジネス中国語基礎ａ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1339e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 ①中国語の音節，ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第１課 お名前は何ですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 人称代名詞 名前の聞き方を答え方 「是」の述語文の使い方 「?」の疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第２課 これは私のパソコンです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 指示代名詞 疑問詞疑問文 「的」の使い方 副詞「也」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第３課 こちらの冬は寒いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 場所代名詞 形容詞述語文 疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第４課 私は毎日七時に起きます。 ☆単元テスト①	☆単元テスト①（第１～３課） ①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞述語文 時間詞の置く場所 省略疑問文 ③ドリル	事前に、第 1～3 課復習すること、単元テスト①の準備をする 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第５課 私の家は学校から遠いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞「在」 介詞「離」 反復疑問文 方位詞の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第６課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 量詞 「所有」を表現する「有」の文 疑問詞「几」と「多少」 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課復習 ☆単元テスト②	事前に、第 4～6 課復習すること、単元テスト②の準備をする。
12	第７課 あなたは今年いくつですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「存在」を表現する「有」の文 年齢の聞き方 親族の名称 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第８課	①本文の「基本表現」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認す

		私たちは図書館で勉強しています。	②文法のポイント 介詞「在」の表現 連動文 疑問詞 ③ドリル	る。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「完了」の表現 原因「なぜ」の表現 「A と B は同じだ」の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい ☆単元テスト③	☆第 7～9 課復習 ☆単元テスト③	事前に、第 7～9 課復習すること、単元テスト③の準備をする。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出 40% テスト 60%で評価する。
学生への メッセージ	★水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。 ★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

科目名	ビジネス中国語基礎ａ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1339e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音 ①中国語の音節，ピンイン、声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第１課 お名前は何ですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 人称代名詞 名前の聞き方を答え方 「是」の述語文の使い方 「?」の疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第２課 これは私のパソコンです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 指示代名詞 疑問詞疑問文 「的」の使い方 副詞「也」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第３課 こちらの冬は寒いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 場所代名詞 形容詞述語文 疑問文 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第４課 私は毎日七時に起きます。 ☆単元テスト①	☆単元テスト①（第１～３課） ①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞述語文 時間詞の置く場所 省略疑問文 ③ドリル	事前に、第 1～3 課復習すること、単元テスト①の準備をする 練習問題も解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第５課 私の家は学校から遠いです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 動詞「在」 介詞「離」 反復疑問文 方位詞の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第６課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 量詞 「所有」を表現する「有」の文 疑問詞「几」と「多少」 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課復習 ☆単元テスト②	事前に、第 4～6 課復習すること、単元テスト②の準備をする。
12	第７課 あなたは今年いくつですか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「存在」を表現する「有」の文 年齢の聞き方 親族の名称 ③ ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第８課	①本文の「基本表現」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認す

		私たちは図書館で勉強しています。	②文法のポイント 介詞「在」の表現 連動文 疑問詞 ③ドリル	る。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第 9 課 あなたは昨日どこに行きましたか？	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 「完了」の表現 原因「なぜ」の表現 「A と B は同じだ」の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい ☆単元テスト③	☆第 7～9 課復習 ☆単元テスト③	事前に、第 7～9 課復習すること、単元テスト③の準備をする。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法 （基準）	出席と課題の提出 40% テスト 60%で評価する。
学生への メッセージ	★水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。 ★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間すること。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｂ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1340e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音１　中国語の音節，声調 ２　単母音	事前にテキストを目を通す、 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音３　複母音 ４　鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音５　子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
5	第１課　お名前は何ですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方，フルネームの言い方と尋ね方。 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
6	第 2 課　これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 3 課　こちらの冬は寒いです」	場所代名詞 形容詞述語文 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 4 課　私は毎日七時に起きます ☆単元テスト①	動詞述語文 動作の時点を表す文 省略疑問文 短文・練習題・発音練習	事前に、テスト１の準備をする。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 5 課　私の家は学校から遠いです	所在表現「在」・介詞「離」 反復疑問文 方位詞 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 6 課　あなたは週に何コマの授業がありますか	所有表現「有」 量詞・疑問詞「几」「多少」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課の復習	事前に、テスト２の準備をする。 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 7 課　あなたは今年いくつですか②	存在表現「有」 年齢の聞き方・親族の名称 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 8 課　私たちは図書館で勉強しています	介詞「在」 連動文１　疑問詞「怎 me」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 9 課　あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎 me」 「A 跟 B 一様」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい ☆単元テスト③	第 7～9 課の復習	事前に、テスト３の準備をする。 授業後、いままで習った部分の総復習をすること。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加度・受講態度・課題 50%　　テスト 50%
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。月曜日の「ビジネス中国語基礎 a」と同一教科書を使用する。 月曜日の「ビジネス中国語基礎 a」を同時に履修することが可能です。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	月曜日の「ビジネス中国語基礎 a 」を同時に履修することが可能、同一教科書です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｂ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1340e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音篇	発音１　中国語の音節，声調 ２　単母音	事前にテキストを目を通す、 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	発音篇	発音３　複母音 ４　鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	発音篇	発音５　子音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
5	第１課　お名前は何ですか	動詞「是」の使い方。 姓の言い方と尋ね方，フルネームの言い方と尋ね方。 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
6	第 2 課　これは私のパソコンです	指示代名詞 疑問詞・副詞「也」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第 3 課　こちらの冬は寒いです」	場所代名詞 形容詞述語文 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第 4 課　私は毎日七時に起きます ☆単元テスト①	動詞述語文 動作の時点を表す文 省略疑問文 短文・練習題・発音練習	事前に、テスト１の準備をする。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第 5 課　私の家は学校から遠いです	所在表現「在」・介詞「離」 反復疑問文 方位詞 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 6 課　あなたは週に何コマの授業がありますか	所有表現「有」 量詞・疑問詞「几」「多少」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	☆単元テスト②	第 4～6 課の復習	事前に、テスト２の準備をする。 前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 7 課　あなたは今年いくつですか②	存在表現「有」 年齢の聞き方・親族の名称 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第 8 課　私たちは図書館で勉強しています	介詞「在」 連動文１　疑問詞「怎 me」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第 9 課　あなたは昨日どこに行きましたか	完了の「了」・原因の「怎 me」 「A 跟 B 一様」 短文・練習題・発音練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	おさらい ☆単元テスト③	第 7～9 課の復習	事前に、テスト３の準備をする。 授業後、いままで習った部分の総復習をすること。

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	参加度・受講態度・課題 50%　　テスト 50%
学生への メッセージ	月曜日開講の[ビジネス中国語基礎 a]と同一教科書を使用。教科書は必ず購入してください。教科書購入の予定がない場合は履修を見合わせてください。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	月曜日の「ビジネス中国語基礎 a 」を同時に履修することが可能です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｃ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1341e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 10 課 私はパンを食べたいです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「想」 選択疑問文 提案の表現 ③ドリル	練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第 11 課 母は私より背が高い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 比較の表現 「喜歓」の表現 「越 A 越 B」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 過去の経験を表現する「過」の文 助動詞「打算」 変化を現す「了」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第 13 課 私は手紙を書いている。	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 動作の進行を表現する 連動文 推量・確認の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第 14 課 私は英語を話せます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね型 要請の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 「是～.的」の構文 人民元の数え方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	読む・書く復習②	第 10 課～第 15 課の読む･書く復習の練習	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
8	☆テスト①	☆テスト①（第 10 課～第 15 課）	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
9	第 16 課 十五課を習い終えました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 兼語文「請」 結果補語 介詞「用」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 方向補語「来」「去」 介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 可能補語 動詞＋「得/不＋了」 「先 A, 然后 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 19 課 兄が走るのが早い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 様態補語 時量の表現 数量表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか　確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。

13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 　二重目的語の構文 　助動詞「得」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	読む・書く復習②	第 16 課～第 20 課の読む・書く復習の練習	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。
15	☆テスト②	☆テスト②（第 16 課～第 20 課）	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法（基準）

出席と課題の提出 40%
テスト 60%で評価する。

学生へのメッセージ

★水曜日のビジネス中国語 d を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。
授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
事前・事後学習に 1 時間すること。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

水曜日のビジネス中国語 d を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｃ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1341e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 10 課 私はパンを食べたいです。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「想」 選択疑問文 提案の表現 ③ドリル	練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第 11 課 母は私より背が高い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 比較の表現 「喜歓」の表現 「越 A 越 B」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 過去の経験を表現する「過」の文 助動詞「打算」 変化を現す「了」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第 13 課 私は手紙を書いている。	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 動作の進行を表現する 連動文 推量・確認の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第 14 課 私は英語を話せます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね型 要請の表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか？	①本文の「基本表現」 ② 文法のポイント 「是～.的」の構文 人民元の数え方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	読む・書く復習②	第 10 課～第 15 課の読む･書く復習の練習	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
8	☆テスト①	☆テスト①（第 10 課～第 15 課）	事前に、第 10 課～第 15 課の読む・書く復習、準備をすること。
9	第 16 課 十五課を習い終えました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 兼語文「請」 結果補語 介詞「用」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 方向補語「来」「去」 介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 可能補語 動詞＋「得/不＋了」 「先 A, 然后 B」の使い方 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第 19 課 兄が走るのが早い。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイン 様態補語 時量の表現 数量表現 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか　確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。

13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えます。	①本文の「基本表現」 ②文法のポイント 　二重目的語の構文 　助動詞「得」 ③ドリル	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	読む・書く復習②	第 16 課～第 20 課の読む・書く復習の練習	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。
15	☆テスト②	☆テスト②（第 16 課～第 20 課）	事前に、第 16 ～20 課の読む・書く復習、準備をすること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日中辞典		
2	中日辞典		
3			

評価方法（基準）

出席と課題の提出 40%
テスト 60%で評価する。

学生へのメッセージ

★水曜日のビジネス中国語 b を同時に履修することが可能です。教材は同一教材です。

★教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。
授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
事前・事後学習に 1 時間すること。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　非常勤講師室

備考

水曜日のビジネス中国語 d を同時に履修することが可能です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｄ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1342e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	毎回課題を提出すること。 テストを必ず受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 10 課 私はパンを食べたいです	助動詞「想」 選択疑問文 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
2	第 11 課 母は私より背が高い	比較表現 「越 A 越 B」 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある	過去の経験を表す表現 助動詞「打算」 変化の「了」 短文・練習題・発音練習 文法練習問題	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
4	第 13 課 私は手紙を書いている	進行形「在」 連動文２ 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
5	第 14 課 私は英語を話せます	助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか	「是.....的」の構文 人民元の数え方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
7	復習	第 10～15 課文法練習	練習問題を解答し、課題を提出すること。
8	☆　中間テスト	第 10～15 課復習	事前に第 10～１５課を復習する。
9	第 16 課 十五課を習い終えました	兼語文・結果補語 介詞「用」 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました	方向補語・介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります	可能補語 「先 A，然后 B」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
12	第 19 課 兄が走るのが早い	完了の「了」・原因を表す表現 様態補語・時量の表現 数量表現 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えています	二重目的語の構文 助動詞「得」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
14	第 16～20 課　復習	第 16～20 課の復習・練習	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、課題を提出すること。
15	まとめ	後期文法復習・練習 発音練習	事前に第 16～20 課を復習する。 発音を練習すること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	参加度・受講態度・課題 50%　テスト 50%
学生への メッセージ	教科書は必ず買ってください。月曜日の「ビジネス中国語基礎 c」を同時に履修することが可能、同一教科書です。 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	月曜日の「ビジネス中国語基礎 c」を同時に履修することが可能、同一教科書です。

科目名	ビジネス中国語基礎ｄ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1342e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。(DP1)
授業方法と留意点	毎回課題を提出すること。 テストを必ず受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 10 課 私はパンを食べたいです	助動詞「想」 選択疑問文 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
2	第 11 課 母は私より背が高い	比較表現 「越 A 越 B」 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
3	第 12 課 彼女は中国に行ったことがある	過去の経験を表す表現 助動詞「打算」 変化の「了」 短文・練習題・発音練習 文法練習問題	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
4	第 13 課 私は手紙を書いている	進行形「在」 連動文２ 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
5	第 14 課 私は英語を話せます	助動詞「会」「能」「可以」 動詞の重ね方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
6	第 15 課 あなたはいつ来たのですか	「是.....的」の構文 人民元の数え方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
7	復習	第 10～15 課文法練習	練習問題を解答し、課題を提出すること。
8	☆　中間テスト	第 10～15 課復習	事前に第 10～１５課を復習する。
9	第 16 課 十五課を習い終えました	兼語文・結果補語 介詞「用」 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
10	第 17 課 母が私に生活用品を送ってくれました	方向補語・介詞「給」 「从 A 到 B」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
11	第 18 課 私は中国語を聞いて分かります	可能補語 「先 A，然后 B」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
12	第 19 課 兄が走るのが早い	完了の「了」・原因を表す表現 様態補語・時量の表現 数量表現 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
13	第 20 課 鈴木先生は私たちにフランス語を教えています	二重目的語の構文 助動詞「得」の使い方 短文・練習題・発音練習	事前にテキストを目を通す、 授業後、習った発音を繰り返して読むこと。練習問題を解答し、課題を提出すること。
14	第 16～20 課　復習	第 16～20 課の復習・練習	事前にテキストを目を通す、 練習問題を解答し、課題を提出すること。
15	まとめ	後期文法復習・練習 発音練習	事前に第 16～20 課を復習する。 発音を練習すること。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい中国語（基礎編）	張慧娟　王武雲　朱藝	郁文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

評価方法 （基準）	参加度・受講態度・課題 50%　テスト 50%
学生への メッセージ	教科書は必ず買ってください。月曜日の「ビジネス中国語基礎 c」を同時に履修することが可能、同一教科書です。 事前・事後学習に 1 時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	月曜日の「ビジネス中国語基礎 c」を同時に履修することが可能、同一教科書です。

科目名	中国語を聞く a	科目名（英文）	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2343e1		

授業概要・目的	これまでに学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国への旅行や買い物などに困らないレベルの聞く力、話す力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。新出単語や文法を解説するとともに、対話文や例文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　キャンパスで（1） 対話文１　・文法　・　練習	1. 進行表現 2. 可能補語１	会話文をノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
2	第１課　キャンパスで（2） 対話文２　・文法　・　練習	3. 可能補語２ 4.「……，　好不好？」	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
3	第２課　アルバイト仲間 対話文１　・文法　・　練習	1. 様態補語 2. 可能補語と様態補語	会話文をノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
4	第２課　３人で京劇を見終わって 対話文２　・文法　・　練習	3. 比較表現１ 4. 比較表現２	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
5	☆単元テスト① （第１～２課の習熟度確認）	第１～２課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
6	第３課　程君がアルバイトをしているレストランへ Ⅰ（1） 対話文１　・文法　・　練習	1. 状態持続 2.「着」を用いた存現文 3.「(正) 在 V……」 と 「V 着」の違い	会話文をノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
7	第３課　程君がアルバイトをしているレストランへ Ⅰ（2） 対話文２　・文法　・　練習	4.「有点儿」 5. Ｖ１着（＋０２）　Ｖ２　（＋０２）	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
8	第４課　程君がアルバイトをしているレストランへ Ⅱ（1） 対話文１　・文法　・　練習	1.「把」構文 ①「把」　０＋Ｖ＋方向補語 ②「把」　０＋Ｖ＋結果補語	会話文をノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
9	第４課　程君がアルバイトをしているレストランへ Ⅱ（2） 対話文２　・文法　・　練習	③「把」０＋ＶＶ 「把」０＋「一下」 ④「把」０＋Ｖ＋「給」＋人 「把」０＋Ｖ＋「到」＋場所 「把」０＋Ｖ＋「在」＋場所	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
10	☆単元テスト② （第３～４課の習熟度確認）	第３～４課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
11	第５課　キャンパスで（1） 対話文１　・文法　・　練習	1. 名詞の重ね型 2.「下来」の派生義 3. 受身文　1 4. 可能性の「会」	会話文をノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
12	第５課　キャンパスで（2） 対話文２　・文法　・　練習	5. 受身文　2	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
13	第１課～第５課　基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
14	第１課～第５課　総合復習と練習	3. 総合復習・練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
15	☆単元テスト③ （前期第１～５課の習熟度確認）	第１～５課　日文中訳復習	テスト範囲の語彙，文法項目を確認しておく(事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。

関連科目：「中国語を話す a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	いつでも中国語　２	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2			
3			

評価方法：授業への参加度や課題：50%

（基準）	単元テスト：50%
学生への メッセージ	授業前・授業後の学習に１時間ずつ要します。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業は、1 年生の「ビジネス中国語基礎 a、 c」または「ビジネス中国語基礎 b、 d」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。

科目名	中国語を聞くｂ	科目名（英文）	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2344e1		

授業概要・目的	前期の「中国語を聞くａ」に続き、読む・聴く・話す・書くー四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国語を聞くａで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読める能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　北京国際空港で(1) 対話文・文法・練習	1.「不用」 + 述語フレーズ 2.「……的話，（就）～」 3.「有 / 没（有)」 + 名詞 ＋ 動詞	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
2	第６課　北京国際空港で(2) 短文・文法・練習	4. 跟……相比 5. 听説、听……説 6.「値得」 + 「一」 + Ｖ 7. 打算	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
3	第７課　キャンパスで（1) 対話文・文法・練習	1.「這　那　」と量詞 2. 動詞フレーズ + 「的」 3.「起来」の派生義	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
4	第７課　キャンパスで（2) 短文・文法・練習	4. ～極了 5. 終于 6. 一辺…… 一辺…… 7. 雖然…… 但是……	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
5	☆単元テスト① （第６～７課の習熟度確認)	第６～７課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
6	第８課　中華料理店で（1) 対話文・文法・練習	1.「怪不得」 2.「要」 3.「愛」 + 動詞フレーズ	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
7	第８課　中華料理店で（2) 短文・文法・練習	4. 又…… 又…… 5. 不僅…… 還…… 6. 只好 7. 向	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
8	第９課　チャイナドレス店で（1) 対話文・文法・練習	1. 主述述語文 2. 疑問詞 + 「也 / 都」…… 3.「是」を用いた譲歩構文	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。 本日（11/08（月)）から対面授業に切り替えた。
9	第９課　チャイナドレス店で（2) 短文・文法・練習	4. Ｖ成…… 5. 対……来説 6. 越来越……	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
10	☆単元テスト② （第８～９課の習熟度確認)	第８～９課の復習 / 質問と解答	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
11	第 10 課 帰国のあいさつ(1) 対話文・文法・練習	1.「就」 2.「才」 3.「就」と「才」	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
12	第 10 課 帰国のあいさつ(2) 短文・文法・練習	4. 戴上 / 穿上 5. 准備 6. 需要 7. 像……這様 / 那様	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
13	第６～10 課　基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
14	第６～10 課　総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。
15	☆単元テスト③ （後期第６～10 課の習熟度確認)	第６～10 課　日文中訳復習	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ１時間の学習を行う)。

関連科目：「中国語を聞くａ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	いつでも中国語　２	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2			
3			

評価方法：授業への参加度や課題： 50%

（基準）	単元テスト： 50%
学生への メッセージ	授業前・授業後の学習に１時間ずつ要します。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	「中国語を聞く a」を履修したうえ、「中国語を聞く b」を履修するのが望ましい。 授業は、1 年生の「ビジネス中国語基礎 a、 c」または「ビジネス中国語基礎 b 、 d」を履修しているか、これと同等レベルの中国語能力を備えていることを前提として進める。

科目名	中国語を話す a	科目名（英文）	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2345e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。(DP1)
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 再会する	文法 ①反語文の表現 ②積極的な姿勢を示す「来」	事前に、第１課の単語を覚える。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
2	第２課 入学する手続き	文法 ①兼語文 ②介詞「跟～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
3	第３課 リスニング授業	文法 ①形容詞の重ね型 ②助動詞「会」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
4	第４課 朝市を見物する	文法 ①存現文（場所詞＋動詞＋名詞） ②複文「除了 A～還 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第５課 動物園	文法 ①様態補語「得」 ②副詞「再」と「又」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第６課 中秋の名月	文法 ①「快要～了」 ②複文「一辺 A～一辺 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	復習課 単元テスト１	・第１課～第６課の復習 ・単元テスト１	第１課～第６課の復習すること。
8	第７課 国慶節	文法 ①複文「因為 A～所以 B」 ②可能補語	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第８課 京劇を見る	文法 ①「没想到～」 ②動詞「像」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第９課 本を借りる	文法 ①副詞「剛剛」 ②複文「一 A～就 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第１０課 助け合い	文法 ①動詞「覚得」 ②指示代名詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第１１課 ホテルを探す	文法 ①量詞「～宿」 ②複合方向補語「～出来」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第１２課 端午の節句	文法 ①複文「雖然 A～但是 B」 ②助詞「什麼的」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第１３課 日の出を見る	文法 ①動詞「打算」 ②複文「即使 A，也 B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文をじょ繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト２	単元テスト２	事前に、第７課～第 13 課の復習すること。

関連科目	「中国語を聞く a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

	番号 書籍名 著者名 出版社名 1 中日辞典　第３版 北京商務印書館・小学館 小学館 2 3
評価方法 （基準）	参加度と課題：50% テスト：50%で評価する
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 前・事後の学習に１時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	中国語を話すｂ	科目名（英文）	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2346e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。(DP1)
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１４課 ボランティア	文法 ①複文「如果 A，就 B」 ②助動詞「願意」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
2	第１５課 運動会	文法 ①介詞「為了～」「為～」 ②助動詞「応該」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
3	第１６課 孔子廟を参拝する	文法 ①複文「既是Ａ～又是Ｂ」 ②挿入語「据説～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
4	第１７課 スピーチコンクール	文法 ①受身文「被～」 ②接続詞「可是」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
5	第１８課 農家を訪問する	文法 ①「把」構文 ②「連Ａ都（也）Ｂ」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
6	第１９課 試験	文法 ①複合方向補語「～起来」 ②助詞「地」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
7	復習課 単元テスト１	・第１４課～第１９課の復習 ・単元テスト１	事前に、第 14 課～第 19 課を復習すること
8	第２０課 コートを買う	文法 ①複文「既Ａ、又Ｂ」 ②動量補語「一下児」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第２１課 懇親会	文法 ①副詞「早就」 ②介詞「向～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第２２課道を尋ねる	文法 ①「去～怎麼走？」 ②介詞「往～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第２３課 九寨溝	文法 ①「就像～一様」 ②助動詞「得」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第２４課 兵馬俑	文法 ①動詞「建議」 ②介詞「通過～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第２５課 仕事を探す	文法 ①指示代名詞「這様」 ②「不知道～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第２６課 見送り	文法 ①可能補語 ②「対～来説」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト２	・第２０課～第２６課の復習 ・単元テスト２	事前に、第 20 課～第 26 課の復習すること。

関連科目	「中国語を聞くａ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中日辞典　第３版</td><td>北京商務印書館・小学館</td><td>小学館</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>出席と課題の提出 50%
テスト 50%で評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。
授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。
前・事後の学習に１時間ずつ要します。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>７号館２階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1347a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする 課題１のフィードバック
7	文章を引用する	文章引用の方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章を引用を練習する	1 時間の事前事後学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前事後学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前事後学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2)、レポート（30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをする。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1347a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、１０００字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	１時間
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 事前事後あわせて１時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
11	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題３】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
12	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて１時間
13	レポートの書き方２	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題２を見直す 事前事後あわせて１時間
14	【課題３】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて１時間
15	レポートの講評	【課題３】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて１時間

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回(２０%×２)、レポート(３０%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(３０%)により評価する。 課題、レポート計３回を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室　　学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1347a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
6	フィードバック	課題１のフィードバック	1 時間の事前事後学習を目安とする 課題１のフィードバック
7	文章を引用する	文章引用の方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章を引用を練習する	1 時間の事前事後学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前事後学習を目安とする
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前事後学習を目安とする
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す 1 時間の事前事後学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前事後学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	1 時間の事前事後学習を目安とする 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2)、レポート（30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、１５時間。 提出課題については、個別にフィードバックをする。

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Expression Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1347a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、１０００字程度の論理的な文章を書くことができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義に基づいて、練習問題や課題に取り組む。 原則毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	１時間
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 事前事後あわせて１時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて１時間
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて１時間
11	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ 【課題３】レポートの説明	これまでの復習 事前事後あわせて１時間
12	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習 事前事後あわせて１時間
13	レポートの書き方２	レポート作成の方法と体裁について学ぶ	課題２を見直す 事前事後あわせて１時間
14	【課題３】レポートの提出 小テストの復習テスト	提出レポートのチェック 小テスト全体の講評	小テストの復習 事前事後あわせて１時間
15	レポートの講評	【課題３】レポートについて具体的にフィードバック	課題レポートの復習 事前事後あわせて１時間

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回(２０%×２)、レポート(３０%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(３０%)により評価する。 課題、レポート計３回を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室　　学習支援センター
備考	事前事後学習の総時間の目安は１５時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1348a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（3）	資料引用の復習（図表の引用）	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（1）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（2）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（1）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（2）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村　梨恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1348a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	前期の復習（後半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分けなど	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションの解説	ディスカッションの素材・テーマ等に関する解説	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方について	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションに向けて	資料の作成についてなど	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	課題③の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。

	質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1348a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。(DP1)
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワークや文章作成等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	レポートの書き方（2）	資料引用の復習（文章の引用） 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方（3）	資料引用の復習（図表の引用）	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題１】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題１のフィードバック ディスカッションの準備	課題１のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション（1）	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション（2）	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題２ 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション（1）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション（2）	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題３報告文	発表内容を報告文にまとめる	１時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題３のフィードバック メールの書き方	課題３のフィードバック メールの書き方の練習	１時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語（話し言葉、書き言葉）と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階　非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 フィードバックは、授業内で行う。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村　梨恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1348a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の説明	教科書を読み返す（60 分）
2	前期の復習（前半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読む（60 分）
3	前期の復習（後半）	前期の内容を復習する	プリント資料を読み、課題①を作成する準備を行う（150 分）
4	課題①「論説文」の作成	課題①論説文を作成する	―
5	ディスカッションについて	本授業におけるディスカッションのやり方についての説明、グループ分けなど	ディスカッションの準備を行う（60 分）
6	ディスカッションの解説	ディスカッションの素材・テーマ等に関する解説	ディスカッションの準備を行う（60 分）
7	ディスカッション①	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
8	ディスカッション②	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
9	ディスカッション③	ディスカッションを行う	【書記】 担当回のディスカッションについて、課題②「議事録」を作成する（60 分） 【それ以外】 ディスカッションの準備をする（60 分）
10	プレゼンテーションについて	本授業におけるプレゼンテーションのやり方について	プレゼンテーション資料の作成準備を行う（60 分）
11	プレゼンテーションに向けて	資料の作成についてなど	プレゼンテーション資料の作成・推敲やリハーサルを行う（150 分）
12	プレゼンテーション①	グループによる発表・質疑を行う	【発表者】 質疑の内容や今後の課題をまとめ、課題③の準備を行う（60 分） 【それ以外】 プレゼンテーション時の当番役の準備を行う（60 分）
13	プレゼンテーション②	グループによる発表・質疑を行う	課題③の準備を行う（60 分）
14	課題③「プレゼンテーション要旨」の作成	各人で発表内容をまとめた文章（要旨）を作成する	―
15	おわりに	課題③の返却・講評など	―

関連科目：すべての授業の日本語による課題作成

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業態度（呼応状態・積極性）・小テスト（30%）により評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	前期の内容に加え、ディスカッションやプレゼンテーションという新たな日本語表現に挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間となる。 提出課題については、添削および授業中のコメントを通して、フィードバックを行う。

	質問等は、出講時および非常勤講師室において対応する。

科目名	コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	Communication Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA2346a1		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	この授業を通じて学生には、高度なコミュニケーションスキルにより社会活動において自らが望む相応の結果を出せるようになることが期待される。 SDGs4 SDGs10
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	事前にシラバスを熟読しておくこと。 講義内容を復習し、理解しておくこと。 (目安：30分)
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	事前にコミュニケーションの本質を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：30分)
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	事前に論理的思考方法の概略を理解しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	事前に非言語コミュニケーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	事前にプレゼンテーションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション（個人プレゼンの準備）	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション（個人プレゼン完成） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと。 (目安：2時間)
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	事前に各種言語問題に目を通しておくこと。 学習範囲を復習しておくこと。 (目安：1時間)
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	事前にディスカッションの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習（基本編）で学ぶ。	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習（模擬選考） ※評定あり	事前に前回講義に基づく実践成果を整理しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：1時間)
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	事前にダイバーシティの概略を調査・確認しておくこと。 講義内容を復習し、実践すること。 (目安：2時間)
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。	事前に全ての範囲を復習しておくこと。 (目安：2時間)

			※評定あり	

関連科目	キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション 15 点、言語理解 20 点、グループデイスカッション 10 点、総合演習レポート 25 点
学生への メッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　全学教育機構
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大久保　勇輔
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1350a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）式の展開・因数分解 （2）方程式・不等式の解法 （3）場合の数・確率の計算 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習・レポート課題を適宜行います。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。また、基礎的な計算能力を体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前：第１章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	事前：第１章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前：第２章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	事前：第２章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
11	連立１次方程式(3)	・消去法	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前：第５章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列、組み合わせ	事前：第５章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
14	確率(1)	・確率の計算	事前：第６章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前：第６章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く

関連科目：数学基礎Ⅱ、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（60%）、レポート（40%）の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階
備考	事前事後学習は毎回１時間以上かけること。（目安：事前学習 30 分、事後学習 30 分） また期末試験前には 7.5 時間以上の学習時間が必要である。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馬場　良始
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1350a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	テキストの内容をよく理解し、掲載されている程度の難易度の問題を自分で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいて受講生が発表することにより授業を進める。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算（１）	・計算の法則 ・因数分解	テキストのセクション 1.1, 1.2 を予習し、講義終了後にレポートを提出する。事前 30 分、事後 30 分。
2	整式の計算（２）	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
3	分数式・無理式（１）	・通分の法則	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
4	分数式・無理式（２）	・平方根、立方根 ・有理化の計算	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
5	１次方程式（１）	・等式の基本法則	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
6	１次方程式（２）	・方程式の導き方 ・解き方	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
7	１次不等式（１）	・不等式の基本法則	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
8	１次不等式（２）	・不等式の導き方 ・解き方	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
9	連立１次方程式（１）	・連立方程式の導き方	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
10	連立１次方程式（２）	・解き方 ・基本法則	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
11	連立１次方程式（３）	・消去法	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
12	場合の数（１）	・数え上げの原則	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
13	場合の数（２）	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
14	確率（１）	・確率の計算	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
15	確率（２）	・くりかえす試行の確率	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。

関連科目：数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表 30%、レポート 30%、期末試験 40%
学生へのメッセージ	分かったつもりでいるが、実は理解できていない、ということはありませんか。この授業では、本当に自分が理解できているか自分に問いかけながら、再度、高校数学の内容に向き合ってもらいたいと思います。

担当者の 研究室等	5 号館 1 階
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1350a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 （1）式の展開・因数分解ができる。 （2）方程式・不等式を解くことができる。 （3）場合の数・確率の計算ができる。 を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習・レポート課題を適宜行います。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。また、基礎的な計算能力を体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前：第１章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	事前：第１章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前：第２章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
4	分数式・無理式(2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	事前：第２章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前：第３章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
11	連立１次方程式(3)	・消去法	事前：第４章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前：第５章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列、組み合わせ	事前：第５章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
14	確率(1)	・確率の計算	事前：第６章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前：第６章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く

関連科目	数学基礎Ⅱ、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（70%）、課題レポート（30%）の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。(目安：事前学習 30 分、事後学習 30 分) また期末試験前には 7.5 時間以上の学習時間が必要である。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早石　典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1350a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	事前に第 1 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	事前に第 1 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	事前に第 2 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	事前に第 2 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
5	1 次方程式(1)	・等式の基本法則	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
6	1 次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
7	1 次不等式(1)	・不等式の基本法則	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
8	1 次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	事前に第 3 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
9	連立 1 次方程式(1)	・連立方程式の導き方	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
10	連立 1 次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
11	連立 1 次方程式(3)	・消去法	事前に第 4 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	事前に第 5 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	事前に第 5 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
14	確率(1)	・確率の計算	事前に第 6 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	事前に第 6 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。

関連科目：数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の課題（演習）30%、期末試験期間中に課す定期試験 70%の配分で成績評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	5 号館 1 階(数学準備室)
備考	事前事後学習は毎回 30 分以上の時間をかけてください。課題は採点して、重要な箇所は講義中に解説します。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大久保　勇輔
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1351a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1 次関数、2 次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。(DP1)
授業方法と留意点	原則、対面授業で行う予定です（状況に応じて変更の可能性あり）。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き， 筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前：第 8 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前：第 8 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
8	整関数の微分(1)(対面開始)	・変化率 ・微分係数，接線	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く

関連科目：数学基礎Ⅱ、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（60%）、レポート（40%）の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。(目安：事前学習 30 分、事後学習 30 分) また期末試験前には 7.5 時間以上の学習時間が必要である。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馬場　良始
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1351a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	テキストの内容をよく理解し、掲載されている程度の難易度の問題を自分で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいて受講生が発表することにより授業を進める。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き， 筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	テキストのセクション 7.1, 7.2 を予習し、講義終了後にレポートを提出する。事前 30 分、事後 30 分。
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線，導関数	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
9	整関数の微分(2)	関数の増加，減少 ・関数のグラフ	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
10	整関数の微分(3)	・極大・極小	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	次回の講義箇所を予習し、講義終了後にレポートを提出する。 事前 30 分、事後 30 分。

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表 30%、レポート 30%、期末試験 40%
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解でき

	ることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の 研究室等	5 号館 1 階
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝　恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1351a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1 次関数、2 次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるために演習・レポート課題を適宜行います。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き， 筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前：第 7 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前：第 8 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前：第 8 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
8	整関数の微分(1)(対面開始)	・変化率 ・微分係数，接線	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	事前：第 9 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	事前：第 10 章の内容を予習する 事後：授業で扱った問を復習し、残った問を解く

関連科目：数学基礎Ⅱ、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（70%）、課題レポート（30%）の合計で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで確実に数学的素養を身につけましょう。
担当者の研究室等	5 号館 1 階
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。(目安：事前学習 30 分、事後学習 30 分) また期末試験前には 7.5 時間以上の学習時間が必要である。

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑦⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早石　典史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1351a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。具体的には、１次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標とする。
到達目標	基礎的な問題、具体的には指定教科書に掲載されている程度の難易度の問題を、自力で解けるようになること。(DP1)
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	事前に第 7 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	事前に第 8 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	事前に第 8 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	事前に第 9 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	事前に第 10 章の問に 30 分以上目を通し、課題レポート返却後に 30 分以上その復習をする。

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の課題（演習）30%、期末試験期間中に課す定期試験 70%の配分で成績評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	5 号館 1 階(数学準備室)
備考	事前事後学習は毎回 30 分以上かけてください。重要な項目は講義中に解説します。

科目名	情報技術演習	科目名（英文）	ICT Practice
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	星山　幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA2352a1		

授業概要・目的	本講義は，社会で通用する情報技術の取得とあわせて，ＩＴパスポート試験の足掛かりとなる IT 知識習得を目的としています．IT パスポート試験「テクノロジ系」分野に重点をおきながら，社会人となる学生が備えておくべき IT 基礎知識を学習します．
到達目標	IT を正しく理解し業務に効果的に IT を利活用することのできる“IT 力”の知識取得を目的とします．それと同時に IT パスポート試験の出題分野であるテクノロジ系（情報技術に関する基礎知識）の合格基準に達する知識習得も目的とします。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用しながら実践的課題を通して演習形式で学習します．夏休みの間の集中講座ですので体力と集中力を使います．体調に気を付けて受講してください．開講日は下記にある「備考欄」をご確認ください．
科目学習の効果（資格）	情報技術取得は文系の学生にとっても「就職や仕事に役に立つ」という大きなメリットがあります．また，情報技術の証明として「IT パスポート」は就活前に取っておいて損はない資格です．本講座終了後は「ＩＴパスポート試験講座」履修をおすすめします．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 関連資格の紹介 コンピュータシステム	コンピュータシステム 処理形態によるシステムの分類 利用形態やシステム構成による分類 システム評価指標と信頼性	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
2	ハードウェア	コンピュータの種類と 5 つの役割 演算と制御，記憶，入力と出力 インターフェース	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
3	ソフトウェア	OS の役割と 4 つの機能 データ管理とファイルシステム バックアップ アプリケーションソフトウェア 情報デザインとソフトウェアの権利	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
4	データベース 1	データベースの基本 関係データベース データ操作	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
5	データベース 2	データベース設計 データベース管理システムと SQL トランザクション処理	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
6	ネットワーク	ネットワーク方式 ネットワーク機器 通信プロトコル インターネットの仕組みとサービス	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
7	情報セキュリティ 1	情報セキュリティの脅威 リスクマネージメント 情報セキュリティマネージメント	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
8	情報セキュリティ 2	暗号技術の基本 デジタル署名と認証局 脅威への対策	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
9	情報セキュリティ 3	暗情報セキュリティ対策 情報セキュリティ実装技術	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
10	基本理論とアルゴリズム 1	基礎理論と数値の数え方 集合と論理演算 データの単位	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
11	基本理論とアルゴリズム 2	データ構造 アルゴリズムとフローチャート コンピュータ言語	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
12	基本理論とアルゴリズム 3	プログラミング基礎知識 選択処理と繰り返し処理 関数	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出(20 分)
13	CBT 試験対策とテクノロジ系まとめ 1	総復習　テクノロジ系問題と確認 1 テクノロジ系過去問題と確認	事前：1 回-12 回授業テーマの復習 1（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
14	CBT 試験対策とテクノロジ系まとめ 2	総復習　テクノロジ系問題と確認 2 テクノロジ系過去問題と確認	事前：1 回-12 回授業テーマの復習 2（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)
15	CBT 試験対策とテクノロジ系まとめ 3	総復習　テクノロジ系問題と確認 3 テクノロジ系過去問題と確認	事前：1 回-12 回授業テーマの復習 3（40 分） 事後：演習課題の完成・提出(50 分)

関連科目	「ＩＴパスポート試験講座」　ICT ビジネスコース科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【令和６年度】 いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集	高橋 京介	SB クリエイティブ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	かんたん合格 IT パスポート過去問題集 令和６年度	間久保 恭子	インプレス
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の実習課題（60%），総合課題などの演習（40%）を総合的に評価する。この授業は演習中心のため，出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる．

学生への メッセージ	IT パスポート資格の取得をぜひ視野に入れましょう．疑問は放置せず何でも質問してください．日常生活でも IT 技術はなくてはならないものになっていることから，あらためて勉強することで新しい気付きと面白さが生まれると思います．情報技術の取得は就活時のアピールにも使用できるので頑張ってください．事前の連絡は Teams を利用するのでそちらの確認もお願いします．
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	8 月最終週（8 月 26 日～8 月 30 日）の 5 日間で，2 時間目から 4 時間目の 15 回を予定しています．

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	ICA1353a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 課題により提出方法が異なることもあるので注意すること。 課題ついては授業内にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ
教科書	

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	水野 武（７号館３階） 加野　佑弥（７号館５階）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	ICA1353a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。 課題ついては授業内にフィードバックする。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・学ぶためのスキルを身につける	・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5 時間)
3	社会化と大学-摂南大学を知る-	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・社会化について考える	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後：0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：２時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える	・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前：0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5 時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5 時間)
12	ビブリオバトル	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義４で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（30%）、グループ課題(20%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	坂口有芸（７号館５階） 加野　佑弥（７号館５階）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる（Moodle か Web フォルダー等）ので各教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪＫ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元にした話題提供から議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	水野武（７号館３階） 加野研究室（７号館５階）
備考	

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 講義内で行われるグループディスカッションを通じて、他者理解及びコミュニケーションの必要性を理解する。(DP1)
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと(事前：１時間) ・配布したレジュメを見直すこと(事後：0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後：２時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べること(事後：0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べること(0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前：0.5 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後：0.5 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後：0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前：0.5 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前：１時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題につて調べること(事前：0.5 時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	坂口有芸（7号館５階） 加野佑弥（７号館５階）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法（Moodle、Teams、Web フォルダー等）は教員の指示に従うこと。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3351a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では教員と学生、学生同士で対話をしながら進行をするので、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、他者に自分の意志が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	事後学習：配付資料を熟読すること（1時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	事後学習：配付資料を熟読し、どんな業界があるのかを調べること（1時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	事後学習：配付資料を熟読し、どんな会社があるのかを調べること（1時間）
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	事後学習：配付資料を熟読し、自分のワークスタイルを考えること（1時間）
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	事後学習：配付資料を熟読氏、グループワークに取り組むこと（2時間）
6	営業思考を身につける	・どのような仕事に従事するでも役に立つ営業思考の基本を身につける	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間）
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーションを行う	事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと（1時間） 事後学習：他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	事後学習：配付資料を熟読し、自分の未来について考えること（1時間）
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	事後学習：配付資料を熟読し、自分について振り返ること(0.5時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	事後学習：配付資料を熟読し、自分の特性について考えること(0.5時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	事後学習エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	事後学習：配付資料を熟読し、自身のグループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：配付資料を熟読し、グループへの貢献の仕方を考えること(1時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	事後学習：配付資料を熟読し、対面での対人コミュニケーションについて考えること(1時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（1時間）

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物（30%）、グループ課題(20%)、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。なお、履修人数の増減に伴うグループワーク時のグループ数により講義内容の一部に変更が生ずる可能性があるので注意すること。
担当者の研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。 なお、各回の課題および小レポートへのフィードバックは全体に対して行う。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1356a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身につける。 課題ついては授業内にフィードバックする。 この科目は１年生向けの科目で、2024 年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーについて ・エンプロイアビリティとレポートについて	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	私が N0.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「N0.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること(２時間)
3	私が N0.1 プロジェクト②中間振り返り	・講義 2 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間)
4	私が N0.1 プロジェクト③最終振り返り	・講義 2 で設定した個別の課題の結果を振り返り、共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること(0.5 時間) ・第 1 回課題「N0.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること(２時間)
5	自身の意見を発信することを学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること(0.5 時間)
6	議論を進めるファシリテーションの基本①	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること(0.5 時間)
7	議論を進めるファシリテーションの基本②	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること（0.5 時間）
8	就職活動の現状を知る①－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
9	就職活動の現状を知る②－就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること(0.5 時間) ・第 2 回課題（就職活動を想定して、自身が今取り組まなければならないこと）をレポートにまとめる(1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル（研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書）の作成」	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	自身の履歴について考える	・自身のここまでの人生を振り返り「節目になった出来事」について考える	・講義全体を振り返ること ・第 3 回課題「人生すごろく」を作成すること(２時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 から取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・グループ課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返ること(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	毎回のミニッツペーパー（30%）、グループ課題（20%）、個人レポート３回（50%）を総合的に判断する。

（基準）	
学生への メッセージ	自身の学生生活について考えるために、様々な内容を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切さを学んでほしい。
担当者の 研究室等	坂口有芸（７号館５F） 加野研究室（７号館５階）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 課題の評価基準・書き方に関する注意事項は、講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2357a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること(１時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。 （警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
3	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して(NPO 法人事務局長)	・大阪市で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、 ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきた ホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
5	「公務員がハブになり市民・企業と協力して子どもを救う。」 ～公務員に向いていない人間が公務員になった結果～	・門真市の現状、降雨員としてのキャリアいついて自らの体験を踏まえてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
6	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
7	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ （社会福祉協議会職員）	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉 協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
8	講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について(就職部)	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(2 時間) ・事後学修：中間レポートを作成すること(2 時間)
10	働くことってどんなこと？日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう！(デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事と必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
12	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ （摂南大学ＯＢ／市役所職員）	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	先人(企業家)に学ぶ仕事への心構え （商工会議所/職員）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修：講義の全体を振り返ること(0.5 時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(1.5 時間)

<table>
<tr><td>関連科目</td><td>キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回の感想レポート（30%）、中間レポート１回（30%）、期末レポート１回(40%)を総合的に判断する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>石井三恵（７号館５F）
水野武（７号館３F）
加野研究室（７号館５階）</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>講師・内容は事情により変更することもある。
教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。
参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。</td></tr>
</table>

科目名	インターンシップ	科目名（英文）	Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	石井　三恵.加野　佑弥
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3354a1		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月２２日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(１時間)
2	直前学修② ６月２２日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(２時間)
10	事後学修① ９月１４日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5時間)
11	事後学修② ９月１４日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ ９月２８日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ ９月２８日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ １０月５日(土)　３限目(予定)	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(１時間)
15	事後学修⑥ １０月５日(土)　４限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(１時間)

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	石井研究室（７号館５階） 加野研究室（７号館５階）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用すること。

科目名	ビジネス実務	科目名（英文）	Practical Business Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3355a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、またキャリア支援デザイナーとしての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。(DP1)
授業方法と留意点	テキストはWeb上にアップロードするので、各自で事前に準備すること。授業は、講義中心で進めるが、ペアワーク、グループワークも実施する。毎回、学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。提出した課題については、授業内にてフィードバックを行う。質問等は授業中に受け付ける。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考えること(30分) ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめること(60分)
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修:企業のエコ活動について調べること(30分) ・事後学修：仕事とは何か、まとめること(60分)
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べること(30分) ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とPDCAを考え、まとめること(60分)
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成すること(30分) ・事後学修:あなたの予定表作成について振り返り、まとめること(60分)
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をすること(30分) ・事後学修:ケーススタディプリントをすること(60分)
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをすること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返すこと(60分)
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修:来客応対プリント①をすること(30分) ・事後学修:来客対応プリント②をすること(60分)
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べること(30分) ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をすること(60分)
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修:ビジネス文書始める前にをすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書②をすること(60分)
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をすること(30分) ・事後学修：ビジネス文書④をすること(60分)
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をすること(30分) ・事後学修：メール文書を作成すること(60分)
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べること(30分) ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成すること(60分)
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめること(30分) ・事後学修：設営事例をまとめること(60分)
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をすること(30分) ・事後学修：弔・贈答プリント②をすること(60分)
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考えること(30分) ・事後学修：共生関係について自らの考えをまとめること(60分)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 40%、ワーク・授業内課題等 30%、複数回のレポート課題 30%を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席６回以上）は評価できないことがある。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　全学教育機構（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。質問等は、メールやチャットにて受け付けます。

科目名	職業能力開発	科目名（英文）	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2360a1		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は 【目的】社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力＜論理的な思考力、新しいアイディアを生み出す発想力、チームワーク力の向上を目指すことが期待される。 【概要】 日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。 SDGs.4-4 SDGs.8-6
到達目標	１．日本の産業の変遷を理解する ２．ビジネスにおいて求めらえる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる ３．チームで成果物を創出する ４．自らのやる気の源泉を考えられるようになる （DP1）
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて意見を出すように心掛けること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	・講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 ・職業の定義を知る	事前学習：シラバスを熟読すること(0.5時間) 事後学修：講義の内容、進行方法を理解すること(0.5時間)
2	キャリア理論を学ぶ	・キャリアに関する様々な理論を知る	・事前学習：自身のキャリアいついて考えておくこと(0.5時間) ・事後学修：多数ある理論から興味を持ったものについて調べること(0.5時間)
3	グループワークのウォーミングアップ	・グループ分け ・グループで企画を考える	事前学習：自らのグループを確認し、グループへの貢献の仕方を考えておくこと(0.5時間) 事後学修：グループで課題に取り組むこと(0.5 時間)
4	社会的ネットワーク-自身を取り巻く人的環境の分析-	・社会的ネットワークとは何か理解する ・自身を取り巻く人的ネットワークを分析してみる	事前学習：自身が普段良く相談する相手について思い出しておくこと(0.5時間) 事後学修：配布レジュメと講義で行ったワークを振り返り、自身を取り巻く人的ネットワークについて考えること(0.5時間)
5	グループワークの提示	・グループワークの提示 ・グループで工程管理を考える	事前学習：リサーチプロポーザルとは何かを調べておくこと(0.5時間) 事後学修：グループで課題に取り組むこと(2.5 時間)
6	マーケット感覚を身につける	・市場化する社会について考える	事前学習：第 5 回ででる課題に取り組むこと(0.5時間) 事後学修：配付資料を見直し、市場化する社会の中で自分の出来ることについて考えること(0.5時間)
7	営業力向上計画	・「営業力とは何か」について個々で考える	事前学習：営業職について調べておくこと(0.5 時間) 事後学修：「営業力とは何か」について個々で考えること(0.5時間)
8	グループ発表	・講義④の課題のグループ発表	事前学修：発表の準備をしておくこと(0.5時間) 事後学習：自らの発表を内省すること(0.5時間)
9	ワークモティベーション研究の歴史を学ぶ①	・ワークモティベーション研究の歴史とその内容を知る	事前学習：自らのやる気の源泉について考えておくこと(0.5時間) 事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること(0.5時間)
10	ワークモティベーション研究の歴史を学ぶ②	・ワークモティベーション研究の歴史とその内容を知る	事前学習：他者はどんな時にやる気が出ると思うのか考えること(0.5時間) 事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること(0.5時間)
11	ライフデザイン①	・自らのライフデザインを考える	事前学習：自らの学生生活を内省すること(0.5 時間) 事後学修：講義内で出された課題を作成すること(0.5時間)
12	ライフデザイン②	・自らのライフデザインを考える	事前学習：自らの将来について考えること(0.5 時間) 事後学修：配付された資料を見直し、講義を振り返ること(0.5時間時間)
13	問題解決の事例を学ぶ	・実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る	事前学習：「問題」とは何か考えること(0.5時間) 事後学修：講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること(0.5時間)
14	内省する技術	・今までの学生生活を振り返って今後に活かす方法を知る	事前学修：今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておくこと(0.5時間)

				事後学習：講義内容を踏まえ、自らの学生生活を内省すること(0.5時間)
	15	講義のまとめ	・講義の振り返り	最終課題作成：課題を作成すること。提出物等、出し忘れが無いか確認すること(0.5時間) 事後学習：講義内容を振り返ること(0.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点・ミニッツペーパー（30%）、グループワーク等の提出課題（30%）、期末レポート（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。 講義では自ら考えて意見を出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えることを心がけることで、皆さんの就業力を伸ばすの方法を共に考える。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之.竹澤　健介.中尾　千晶
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1361a1		

授業概要・目的

生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標

この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点

実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど）
※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果（資格）

基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目

生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ

授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤.中尾　千晶.横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1362a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（３０分） 事後：本実習の理解を深める（３０分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（３０分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（３０分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：内容の振り返り（３０分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（３０分） 事後：全授業の総括（３０分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要）

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	生涯スポーツ実習	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤.今浦　千信.竹澤　健介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2363a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※１　各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※２　第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※３　悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点５０％、技能点２５％、態度点２５％ ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生への メッセージ	授業１回目（ガイダンス）は、総合体育館２階アリーナに集合してください。（更衣不要） 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。（コピー不可）
担当者の 研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	生涯スポーツ実習（ゴルフ）	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2363a1		

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。 SDGs-3,4,5
到達目標	①健康の保持増進ができる ②運動技能を向上させることができる ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる 学科の学習・教育目標との対応：[A] （DP1）
授業方法と留意点	事前ガイダンス（９０分）と集中授業４日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて５日間で行う。 日程は、事前ガイダンス（詳細はポータルで連絡）、９月９日（月）～１２日（木） ５日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。
科目学習の効果（資格）	ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認（１時間）
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
3	ゴルフの基礎技術（１）	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認（１時間） 事後：技術の反復練習　タオルスイングなど　授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
4	ゴルフの基礎技術（２）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
5	ゴルフの基礎技術（３）	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：技術の反復練習　ルールの再確認（１時間）
6	ゴルフの応用技術（１）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：技術の反復練習　ルールの再確認（１時間）
7	ゴルフの応用技術（２）	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
8	ゴルフの実践	ラウンド（９Ｈ）	事前：ラウンドのイメージトレーニング（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰ，Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点（態度点含む）５０％、技能点２５％および実習ノート２５％を総合評価する。
学生へのメッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。 事前ガイダンスは７月に行う予定です。ガイダンスの連絡はポータルを通して行います。
担当者の研究室等	総合体育館１階
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止）

	ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。シューズは運動に適したものかスニーカーで大丈夫です。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。 本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にな

科目名	スポーツと健康	科目名（英文）	Sports and Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今浦　千信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2364a1		

授業概要・目的	健康課題について考えるとともに、自らの健康づくりや疾病予防に積極的に取り組むことが求められている。 本講義では、生涯を通した健康・スポーツのあり方の重要性について学習し、健康保持増進について実践することができる基礎的な知識を身につける。
到達目標	【準備学習について】 健康に関する記事や映像などから事前に情報を得るようにしておく。 また、スポーツや運動で興味や関心または問題点をあらかじめ見つけておくこと。 【到達目標について】 （１）　健康課題について理解し、豊かなスポーツライフの実現について考えることができる。 （２）　スポーツの楽しみ方を知る｛する」「見る」「支える」 （３）　健康とスポーツの関わりに対してその見方、考え方を働かせ課題を挙げ検討することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。 資料配布、パワーポイント等を用いる。グループディスカッションを通して他人の意見を聞きいれ、自分の考えを他人に伝えたりする。
科目学習の効果（資格）	自分の健康について考えることができる。スポーツの楽しみ方を知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 健康とは	授業内容 評価方法について 健康の概念について	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
2	ヘルスプロモーション	日本や海外における健康政策について知る	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
3	スポーツと体力	体力とはなにか 自分の今の体力を考えてみよう	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
4	食事と健康	私たちのからだを構成する骨、筋肉、内臓、神経などについて知りそれらを作る栄養素について考える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
5	睡眠と健康	生活のリズムを整える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
6	生活習慣病について	メタボリックシンドローム	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
7	スポーツと安全	心肺蘇生法 熱中症対策など	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
8	フェアプレーの精神	ドーピングと健康、薬物と健康	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
9	競技スポーツ	アスリートと健康	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
10	スポーツはもっとオモシロイ	スポーツの楽しみ方を知り、積極的に健康について考える。地域とスポーツの関わり方について考える	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
11	スポーツボランティア	支えるスポーツ	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
12	パリ 2024 夏季オリンピックについて	オリンピックの歴史 興味のある種目についてグループディスカッションをし、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
13	パリ 2024 夏季オリンピックについて	興味のある種目についてグループディスカッションをし、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
14	生涯スポーツ	生涯にわたって自分が取り組んでいけそうな運動についてグループディスカッションにより、意見をまとめて発表する	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：講義のふりかえり（30 分）
15	レポート課題 まとめ	スポーツと健康に関するまとめ	事前：事前資料の確認（30 分） 事後：今後についての検討（30 分）

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小レポート（５０％） グループワーク（２０％）

	授業まとめのレポート（３０％） で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１F　体育館事務室
備考	初めのガイダンスには必ず出席のこと。 欠席を５回以上した際の単位取得は認めない。

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability I
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IKY2373a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	この授業を通して、授業で取り組んだ数的問題を概ね解けるようになっていることが求められる。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習（2 時間）
9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと（10 分）・講義で取り扱った問題の復習（1 時間）
15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習（2 時間）

関連科目：就職実践基礎・コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー＆ペーストでの入力を推奨します。 実施した小テスト、中間テストのフィードバック（解答・解説）は moodle に掲示、あるいは次回授業内で実施する予定です。 テキストのほか、一冊ノートを作ることを奨励します。

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：A○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01453a1,L科：LL01355a1,D科・S科：IL01362a1,P科：YL01418a2,J科：JL01364a1,W科：WL01343a1,N科：NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。 この授業は授業担当者として、北河内７市の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域おける課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション １限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 ２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション ３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 １限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 ２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション ３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 １限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 ２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション ３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 １限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 ２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション ３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ １限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ ２限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ ３限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>個人課題の評価（40%）、グループごとのルーブリック評価（30%）、グループワークの成果物（30%）

グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>増田知也（法学部・法律学科）　寝屋川キャンパス　11 号館 10 階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。</td></tr>
</table>

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：A○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01454a1,L科：LL01356a1,D科・S科：IL01363a1,P科：YL01419a2,J科：JL01365a1,W科：WL01344a1,N科：NL01345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点のようになることが期待される。 １）ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-beingを理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ななならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-8.9
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。 ３）Well-beingを理解し、実践するよう努める。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：「ビジネスのイメージは？」というテーマでルールを守って自由に書くこと（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。	・事前学習：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、　　どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた　　個条書きにすること（２時間） ・事後学修　：・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①－仕事の進め方－	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること（２時間）
11	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：・テキストの指定個所（pp.164-174）を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通した自己意識をレポートにまとめる。

			と（２時間）
12	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（２時間） ・事後学修：次回のグループワークのために、３つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかり読み込むこと（２時間）
13	ビジネスプラン①－起業への意識と「寄付の教室」－	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（２時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（２時間）
14	ビジネスプラン②－プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（２時間） ・事後学修：ビジネスプランの再考をする（２時間）
15	ビジネスプラン②－プレゼンテーション発表と授業の総まとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（２時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法（基準）

・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。

学生へのメッセージ

私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。

担当者の研究室等

石井研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。
学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振

				り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領（最新年度版）を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法 I で購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後） 教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： SNS 上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS 上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法（基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動１	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動２	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第３章第２節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第３章第３節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABD による)	教科書第４章第１節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABD による)	教科書第４章第２節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第４章第４節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第１･2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク１	総合的な学習の時間のテキスト第５章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	探求的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネージメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第１回目から１４回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>　学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス７号館３F 松浦研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業外学習総時間を 60 時間とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中　祐二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい（教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します）。 ・授業では、教科書（および配付資料）に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、（予告した上で）収録済講義動画を視聴した上で、ワークシート課題に充てる、反転授業を行うこと場合があります。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　　（2）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間)

			事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全･安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題：配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題：配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5 時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間)
15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1 時間) 事後課題：授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5 時間) 期末課題に備えて、先行研究渉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5 時間)

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣
2	新・教育の社会学	苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣

評価方法 （基準）	授業後課題（45%）・期末レポート課題（55%） ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	3 号館 3 階・竹中研究室
備考	

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１・第８章，配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第９章，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達３	青年期①……運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達４	青年期②……社会性の発達	テキスト第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解・言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目：教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	Teams コード 火曜５限： o3hr1s8 木曜１限： 9oex0u1 木曜５限： j4uz0u4 金曜５限： 8h3rwzd

	Moodle コース名と登録キー 火曜５限：2024 教育心理学（火５）　あるいは　24 教心（火５）　2024EPTUE5 木曜１限：2024 教育心理学（木１）　あるいは　24 教心（木１）　2024EPTHU1 木曜５限：2024 教育心理学（木５）　あるいは　24 教心（木５）　2024EPTHU5 金曜５限：2024 教育心理学（

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	１　授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 ２　講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 ３　Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果（資格）	教職科目 特別支援教育論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・クループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第１章を読み、今後の学習について見通しを持つ（２時間）・グループでの役割に応じて４回目授業での発表準備を進める（２時間）
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICF モデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第２章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて４回目の授業での発表準備を進める（２時間）
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第３章をよく読み、質問をまとめておく。（２時間）・ペアでの役割に応じて、4 回目の授業での発表の資料をＡ４一枚程度(両面可) にまとめる。（２時間）
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第１１章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。（２時間）・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。（２時間）
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第１０章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・グループでの役割に応じて、７回目の授業での発表資料をＡ４二枚以内（両面可）にまとめる。（２時間）
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第８章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
7	知的障害・発達障害について（１）	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書６・７・９章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。（２時間）
8	知的障害・発達障害について（２）	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。（２時間）授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。（２時間）
9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・ＬＧＢＴ・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童ついて学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第１２章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第５章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
11	通常学級での特別支援教育（小・中学校）	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第２回の授業内容について教科書やノートで復習しておく（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）
12	通常学級での特別支援教育（高等学校）	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる（２時間）・講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第１３章・１４章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・教科書と講義を元に学習内容をまとめる（２時間）
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問	・教科書第１５・第１６章をよく読み、疑問点をまとめておく。（２時間）・講義や教科書を元に学習内容をまとめる（２時間）

			題点を明らかにする。	
	15	発達障害等に対する指導技法　まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2 時間) ・今までの学修をふりかえる（２時間）・当日出題される課題に取り組み、提出する。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての特別支援教育　教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領　平成２９年４月告示	文部科学省	海文堂出版
3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）総則編	文部科学省	海文堂出版

評価方法 （基準）	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階松浦研究室
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程（カリキュラム）は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原理・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも 1 冊は入手すること（栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと）。 (3) 現行学習指導要領（本文・解説）は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程（カリキュラム）とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定（成績づけ）とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特徴、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
6	カリキュラム編成原理 1：経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
7	カリキュラム編成原理 2：系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
8	日本における学習指導要領の歴史 1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980 年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
9	日本における学習指導要領の歴史 2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990 年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
10	教育課程の思想と構造:領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おこなう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを作成する（20 時間）
12	総合的な学習（探究）の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習（探究）の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間）
14	カリキュラム・マネジメントの具体例：同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） カリキュラム編成レポートを改稿し提出する（10 時間）
15	総括:教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む（1 時間） 定期試験に向けた準備をする（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程（第５版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・髙田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会

評価方法 （基準）	（1）期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。 （2）授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。 評価基準（ルーブリック）の詳細は講義内で提示する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　鎌田研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。

科目名	道徳教育論	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく８類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後） 教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①： いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
12	授業づくりの実際②： SNS 上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS 上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実際について学ぶ。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）授業づくりの実際について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
2	『道徳教育』PLUS　考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
3			

評価方法（基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探求的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。
到達目標	1　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2　特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 3　合意形成に向けた学級での話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4　総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教職科目　特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、 教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第１章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をする（2 時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第２章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習する（2 時間）。
3	学級活動･ホームルーム活動１	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
4	学級活動･ホームルーム活動２	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第３章第１節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第３章第２節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2 時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第３章第３節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABD による)	教科書第４章第１節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABD による)	教科書第４章第２節を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2 時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第４章第４節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第１･2･3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク１	総合的な学習の時間のテキスト第５章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
13	探求的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク２	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章､講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2 時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネージメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク３	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2 時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第１回目から１４回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr>
<tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領　総合的な探求の時間編　平成２９年告示</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終レポート（30%）を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>　学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>寝屋川キャンパス７号館３F 松浦研究室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業外学習総時間を 60 時間とする。</td></tr>
</table>

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と 10 分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいのかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う（10 時間）
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用（デジタル教材を含む）に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間）
15	総括:教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する（1 時間） 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する（15 時間）

関連科目	同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では１単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準

評価方法（基準）

（1）模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および 10 分間の模擬授業を実施する。
（2）コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。
（3）授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。
※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。

学生へのメッセージ

授業のお知らせは Teams を通して連絡します。必ず Teams に登録してください。

担当者の研究室等

７号館３階(鎌田研究室)

備考

事前・事後学習総時間を 60 時間とする。
受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村　晃一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	昨今，子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり，課題が山積している。本講義では，生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し，具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで，生徒指導の諸課題に対応し，進路指導を通したキャリア教育の実現に寄与する。
到達目標	本講義を通して，生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね，学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また，進路指導では広くキャリア発達の視点から学び，将来教員になった際，子どもたちの社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。
授業方法と留意点	授業は対面形式で行う。PowerPoint を用いながら授業を展開し，毎時間課題を提示する。また，Teams のファイルより，各資料を共有する。本講義は，アクティブ・ラーニングを採用しているため，ディスカッションや KJ 法，ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて，授業では教科書を使用するため，毎時間持参すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	・生徒指導の定義と目的 ・生徒指導の構造（２軸３類４層構造） ・チーム支援による組織的対応	教科書Ｐ.１２～３８ 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	・児童生徒の発達を支える教育課程 ・教科，道徳科，総合的な学習（探求）の時間，特別活動の各領域と生徒指導との関連	教科書Ｐ.３９～６７ 学習課題：探求学習の４STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	・チーム学校における学校組織と生徒指導体制 ・生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援	教科書Ｐ.６８～１１８ 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	・いじめ防止対策推進法 ・いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書Ｐ.１１９～１４０ 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	・暴力行為に対する対応指針 ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 ・関係機関等との連携体制	教科書Ｐ.１４１～１５２ 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	・少年法と児童福祉法 ・少年非行の基本的な対応 ・喫煙，飲酒，薬物乱用 ・特定少年	教科書Ｐ.１５３～１７０ 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	・児童福祉法，児童虐待の防止に関する法律 ・学校の体制 ・虐待対応に対するアセスメント	教科書Ｐ.１７１～１８８ 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	・自殺対策基本法 ・自殺防止のための学校の組織体制と計画 ・関係機関との連携に基づく自殺予防の体制	教科書Ｐ.１８９～２０８ 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学，インターネットに関わる問題	・中途退学の関係法規と基本方針 ・インターネット問題への組織的取組 ・各課題に対する重層的支援構造	教科書Ｐ.２０９～２２０，Ｐ.２４０～２５４ 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	・不登校に関する関係法規と基本方針 ・不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 ・関係機関との連携体制	教科書Ｐ.２２１～２３９ 学習課題：不登校の定義，教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	・性に関する課題 ・発達障害に関する課題 ・支援を要する家庭状況 ・外国人児童生徒	教科書Ｐ.２５５～２８９ 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	・キャリア教育とは何か ・進路指導とキャリア教育の歴史的背景	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：４領域８能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「４領域８能力」	・４領域８能力 ・基礎的，汎用的能力	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	・中学校におけるキャリア発達 ・高等学校におけるキャリア発達 ・校種間連携	キャリア教育の手引き（配布資料） 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	・生徒指導の諸課題 ・進路指導とキャリア教育の結び付き ・総括	学習課題：第１～１４回で最も関心のあるトピックを１つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。
学生への メッセージ	生徒指導とは，児童生徒が，社会の中で自分らしく生きることができる存在へと，自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに，学生自身が自発的・主体的に学び，豊かな人間性を養う必要がある。本講義では，双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　西村研究室
備考	本講義は，複数の曜日時限が設けられている。必ず，自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は，幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に，学校における教育相談に焦点を当て，教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために，教育相談のもつ今日的な意義を解説し，カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について，実践的な取り組み方を考える。
到達目標	① 幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 ② 教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。講義の資料は，事前に Moodle で配付するので，各自入手しておくこと。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義，教師としての立場，カウンセリングマインド	テキスト第１講，配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方，カウンセリングの技法	テキスト第２講・第３講，配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造，チーム支援の意義，チームの作り方	テキスト第１講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際１	チーム支援のプロセス，アセスメント	テキスト第１講・第 10 講・第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際２	チーム支援の実際	テキスト第１講・第 10 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために，パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応１	“問題”とは何か，その原因・背景と対応，適応過程	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応２	ストレス，欲求不満，葛藤	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第９講，配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第５講，配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第４講，配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊……その理解と対応（グループ発表）	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動……その理解と対応（グループ発表）	テキスト第７講，配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題，教師のメンタルヘルス，さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講，配付資料を用いた予習・復習

関連科目：教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる！ 教職エクササイズ３　教育相談［第２版］	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の 研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 Teams コード 　月曜２限：xfdelyw 　火曜２限：mi255ww 　木曜１限：irmdqxv 　木曜４限：ui2p7a7 Moodle コース名と登録キー 　月曜２限：2024 教育相談（月 2）あるいは　24 教育相談（月 2）　2024ECMON2 　火曜２限：2024 教育相談（火 2）あるいは　24 教育相談

科目名	工業科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Engineering Education Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅰでは、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得と課題対応能力の向上を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭･校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、レポートの提出を求める。質疑応答等についても対面講義の中で行い、実践的な能力の向上を図る。また、小テストも実施する。
科目学習の効果（資格）	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	オリエンテーション。 工業教育の意義・役割について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
2	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
3	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈意義・役割・目標・内容等〉	工業教育における技術者倫理の育成について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
4	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（日本国憲法、教育基本法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
5	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（新旧教育基本法の比較等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
6	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
7	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（学校教育法施行規則、地教行法等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
8	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。（高等学校学習指導要領総則関係）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
9	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈教育関係法令〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（工業高等学校の目標等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
10	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する（高等学校学習指導要領解説工業編）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
11	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代初期の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
12	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（明治時代中期以降の工業の教育等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
13	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する（大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
14	工業教育の意義・歴史・法令関係 〈工業高校発展の歴史と現状〉	工業高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）
15	教科・工業の内容関係 〈教科・工業の共通科目〉	工業技術基礎および課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議を行う。 工業科教育法Ⅰで学習したことをまとめる。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてレポートの作成（2時間）

関連科目	教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 書籍名 著者名 出版社名 1 高等学校学習指導要領 文部科学省 2 高等学校学習指導要領解説工業編 文部科学省 3 新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究 池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 実教出版株式会社
評価方法 （基準）	提出物 70%、小テスト 30%により評価する。
学生への メッセージ	工業教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は 3 号館 1F 教務課へ

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡　優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは外国や専門学校における工業教育、さらに、工業高等学校における学習指導・学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価・授業改善、進路指導等について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭･校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、模擬授業も行う。
科目学習の効果（資格）	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	外国の技術･工業教育について	外国の技術･工業教育の具体例を説明する（韓国）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
2	外国の技術･工業教育について	外国の技術･工業教育の具体例を説明する（アメリカ）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
3	外国の技術･工業教育について	外国の技術･工業教育の具体例を説明する（ドイツ）。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
4	専修学校について	専修学校等などの工業教育の内容について説明する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
5	教材･教具と報告書について	工業高等学校における教材･教具と報告書について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
6	安全教育について	工業高等学校における安全教育について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
7	授業と学習指導案について	工業高等学校における授業と学習指導案について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 授業終了時に示す課題についてのレポート作成（2時間）
8	学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について	工業高等学校における学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について解説する。	参考書等による事前学修（2時間） 学習指導案の作成（2時間）
9	模擬授業１と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
10	模擬授業２と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
11	模擬授業３と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
12	模擬授業４と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）)
13	模擬授業５と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
14	模擬授業６と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修（4時間）
15	工業科教育法Ⅱのまとめ	工業高校における工業教育について研究協議を行う。	参考書等で事前学習（4時間）

関連科目：教職に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社

評価方法（基準）	提出物 50%、模擬授業 50%により評価する。
学生へのメッセージ	工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。
担当者の研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は３号館 1F 教務課へ

科目名	数学科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅰでは、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	（１）現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する３０分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 （２）相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけでなく、15 回の授業の後半でのマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。 加えて、レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いた講義も行う。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（高等学校一種免許（数学）） 数学科教育法Ⅰの内容は数学科教育法Ⅱへつながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メデイア、 教授メデイアの発展と現状、 チャート・カード・OHP などの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング（プレゼンテーション）・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30 分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング（プレゼンテーション）・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング（プレゼンテーション）・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　数		学校図書

		学編　理数編		
	2	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　総則編		東洋館出版社
	3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　数学編		日本文教出版

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループ活動においては、新しい教材開発など積極的な活動を求める。
担当者の 研究室等	５号館１階　数学研究室
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 II では、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法 I でまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力などを育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画を立て、学習指導案（指導細案）を作成し、約５０分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	授業では、講義だけでなくグループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許（数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思うこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50 分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Action のサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えを	課題レポート

			まとめ、各自の「学力観」を立てる。	

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅰを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　数学編　理数編		学校図書
2	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　総則編		東洋館出版社
3	中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　数学編		日本文教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が 50%、マイクロティーチングと評価のまとめで 50%とする。
学生へのメッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。
担当者の研究室等	５号館１階　数学研究室
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回２時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・数学科教育法Ⅲでは，中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め，実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。 ・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し，数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。 ・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく，グループ形成時にはその学習を協力体制を重視し，プレゼンテーション・模擬授業を通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し，自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 ・校種間の連携も考え、特に、小学校の学習・指導についても学ぶ。
到達目標	・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・授業力の理解とその育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	受講生数によっては、グループ学習・活動を実施することもある。 設定した課題（学習単元の指導法など）に積極的に取り組む。 成果として、発表・レポートの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法　（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
2	数学教科書分析（1）	学習指導要領などを基に教科書の分析法や，授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
3	数学教科書分析(2)	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
4	学習指導案作成	典型的な学習指導案の作成について学ぶ。（学習指導要領から目標などを学ぶ。）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
5	教科書分析・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的，注意点についてまとめ、発表する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
6	教科書分析・模擬授業に関わる考察（２）	相互の準備状況について意見交換を行い，発表に備える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や，授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
8	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(1)	各自の求める数学教育像の一つとして，「10or15 分間の模擬授業」をまとめ，実践する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
9	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(2)	グループ員各々の模擬授業を「学ぶものの立場」,「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し，自己評価を加えて総合的にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
10	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習(3)	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により，自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
11	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 学習指導要領の下、戦後の数学教育の発展に考察する。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
12	数学教材とその応用（１）	教科横断型、学年・校種を越えた数学教育の探求授業について考察していく。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
13	数学教材とその応用（２）	数学教材（発展的内容を含む）の一分野を基に教育・指導観を吟味する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
14	数学教材とその応用（３）	数学教材（発展的内容を含む）の一分野を基に課題研究に取り組む準備を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（240 分）

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目，一般教養科目を予め履修されておくことが望ましい。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>中等数学科教育法序論</td><td>黒田恭史</td><td>共立出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>○ 模擬授業関係を含む発表（30%）
○ 受講生同士の連携など（10%）
○ 学習状況・レポート（60%）
※模擬授業関係を含む発表は必須
※受講人数によってはグループ分けを行う</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>○ まずは、教育実習に対応できる教科指導法を身につける。
○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として，プレゼンテーション能力の育成をはかり，新しい教材開発など積極的な活動を求める。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>対応は、当該講義内が中心となります。
ただし、連絡を取る必要がある場合は、指定メールを利用してお問い合わせください。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。
○第 1 回目に本授業に関する説明を行います。教科書準備などはその後に判断してください。
○事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永　雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは，中学校・高等学校の数学科教員を目指し，実際に教科教育を担当できうるための高度な実践力の育成をめざす。 数学科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで培ってきた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と，体験したマイクロティーチングを礎にして，生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。 具体的には，探求型授業の取り組みなど行うために自らが題材設定し、その題材を様々な角度から分析・教材開発していく。 また必要に応じてグループ活動を学習形態に取り入れ，学習意欲が高まり，自ら学び自ら考える力を育てられるよう工夫を行う。 また，高度化された教科内容あるいは教科横断的教科内容を　取り入れることもある。 受講生は，それらを自己評価，あるいは相互に評価し合い，より完成度の高い授業を構築する。
到達目標	・中学校学習指導要領（数学）の内容の体得 ・数学的な活動を含んだ教育教育についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチグの実践力 ・各領域における一層の理解（高度化された教育内容・教科横断的学習を含む）
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決し，プレゼンテーションする資質や能力の涵養を目指す。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法　（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
2	・テーマ決め(1) （含:学習指導要領の概括）	中・高等学校数学の学習内容を改めて概括、領域の確認を行う。 発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
3	・テーマ決め(2)	発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。（第 2 グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
4	数学設定テーマ内容深化（1）	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
5	数学設定テーマ内容深化（2）	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。（第 2 グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
6	数学教材の応用	例示されたテーマで本授業の進め方を知り、各テーマのこれから進め方について確認する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
7	数学設定テーマと学校数学教材（1）	学校数学（学習指導要領・教科書）とその応用を用いて，設定テーマの応用について考察する。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
8	数学設定テーマと学校数学教材（2）	学校数学（学習指導要領・教科書）とその応用を用いて，設定テーマの応用について考察する。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
9	数学設定テーマと学校数学教材（3）	学校数学（学習指導要領・教科書）とその応用を用いて，設定テーマの応用について考察する。（第３グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
10	数学科指導案作成	これまでの学びを基に、テーマに沿って授業内容を構成する。 （予備発表を行うこともある）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
11	数学設定テーマの最終発表（1）	設定テーマでの数学教材発表（評価も取り入れる予定）を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。（第１グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
12	数学設定テーマの最終発表（2）	設定テーマでの数学教材発表（評価も取り入れる予定）を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。（第２グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
13	数学設定テーマの最終発表（3）	設定テーマでの数学教材発表（評価も取り入れる予定）を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。（第 3 グループ）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
14	数学設定テーマ報告書について	設定テーマで報告書を作成し、その内容について、討議なども可能な限り行い修正の後、完成に近づける。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180 分） 次回の内容を確認する（60 分）
15	まとめ	数学教育に必要な体系的な知識を身に	授業終了時に示す課題についてレポートの作成

			つけ、「生きる力」や「確かな学力」についても考慮し、教育者としての基盤を確立、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	（240 分）

関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目，一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中等数学科教育法序論	黒田 恭史	共立出版
2			
3			

評価方法 （基準）	○ 模擬授業関係を含む発表（30%） ○ 受講生同士の連携など（10%） ○ 学習状況・レポート（60%） ※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校・高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち，常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け，日々の課題を着実に解決し，自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。
備考	○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。 ○事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅰ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第 7 章、第 8 章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第 19 章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第 12 章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第 12 章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第 13 章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第 10 章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第 11 章
8	模擬授業と分析（1）	単独領域模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第 4 章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第 15 章
12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第 16 章
13	模擬授業と分析（2）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
14	模擬授業と分析（3）	領域統合型模擬授業	第 10～13 章、第 19 章、第 20 章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第 5 章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1　（令和３）		開隆堂
2	Sunshine English Course 2　（令和３）		開隆堂
3	Sunshine English Course 3　（令和３）		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語４技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
3	英語リーディングの科学－読めたつもりの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から４技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。 ★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名（英文）	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における３つの資質・能力を踏まえた「５つの領域」(「聞く」「読む」「話す（やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニット
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2024 年度は、第 8・9 回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いにどう見えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・連絡・教材・提出・録画等に、Teams, Webfolder, Zoom を利用する。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「５つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（１）
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（２）
4	教材研究と学習指導案の作成（１） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（３）
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（１）
6	模擬授業と分析（１） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（２）
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（１）
8	教材研究と学習指導案作成（２） ICT 等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（２）
9	ICT 活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析（２） 教員１人で ICT 機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（１）
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（２）
12	教材研究と学習指導案作成（３） ALT 等とのティーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析（３）教員２人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
15	これからの英語教育がめざ	討論と発表、筆記テスト	復習

	すもの		

関連科目	教職科目全般 英語科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版（ISBN: 9784469246216）	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language (ISBN:9780194233972)	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学習指導要領　（文部科学省 HP）		
2			
3			

評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　100（レッスンプラン作成　30%・授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・教育実習時に中高生にわかりやすくワクワクする授業を自力で立案・実施できるようになるには、「先生になりたい」気持ちだけでは足りません。言語に関する正確な知識と高い運用能力が必須です。教職課程の授業は全回、全力で予習・復習し、授業時間以外にも辞書をひいて英語を読み、英語の文法、語彙、スペル、発音等、基礎から復習をしてください。3 年次終わりまでに英検準 1 級レベルに到達しましょう。 ・担当者は、日本の小学校に英語活動が導入された時期に数年間、ALT や小学校教諭と小学校で教えたり、寝屋川市・大東市・教員免許更新
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（齋藤研究室）
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「３つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導（１）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（２）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第２言語習得と英語教育 音声指導（３）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業（1）：リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業（2）：ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	・社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する ・筆記テスト	これまでの自分の学習を振り返る

			・今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	

関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法　第３版 ISBN:9784469246216	望月　昭彦　編著	大修館書店
2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学習指導要領　（文部科学省 HP）		
2			
3			

評価方法 （基準）	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに充分な英語の知識と運用力を前提とした、 （１）模擬授業　100（レッスンプラン作成　30%・15 回の授業時間中に行う実技　40%・模擬授業に関するレポート　30%） （２）筆記テスト　100 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点の 60 点以上で合格とする。
学生への メッセージ	・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館４階(齋藤研究室)
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のＨＰで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods Ⅳ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は３つのことを行う。第１に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第２に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第３に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの４つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 　各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第１章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第２章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第３章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 10 章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第 10 章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 11 章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第 11 章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第 13 章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第 13 章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 18 章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第 18 章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第 19 章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第 19 章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第２章、第９章

関連科目：「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1　（令和３）		開隆堂
2	Sunshine English Course 2　（令和３）		開隆堂
3	Sunshine English Course 3　（令和３）		開隆堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモピア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から 4 技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。 ★Sunshine English Course1,2,3（中学英語教科書）は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。 ★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動
担当者の研究室等	7 号館 4 階　齋藤研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井　宏幸
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。 後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科･科目の構造について学びます。 後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など）を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告表の記入	
2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	〔事後〕ミニッツペーパの作成(200 分)
3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
4	経営学部･商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
5	経営リテラシーの構造的理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
11	授業づくりの基礎(3)	ICT を活用する教材づくり	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(180 分)
12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	〔事後〕学習指導案の作成(240 分)
13	学習指導案の作成と授業の実際(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	〔事後〕学習指導案の作成(240 分)
14	学習指導案の作成と授業の実際(2)	授業の展開での板書・説明と発問	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。 簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート・ミニッツペーパー５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。
担当者の研究室等	全学教育機構
備考	質問等はメール等で対応する。

科目名	社会科教育法Ⅰ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅰ (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく（3 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく（1 時間）。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む（3 時間）
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく（3 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく（2 時間）。事後については授業終了時に指示する（1 時間）。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく（1 時間）。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する（2 時間）。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく（1 時間）。 事後、興味を持った実践について調べる（2 時間）。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作

				成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定ながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編』は購入もしくは文部科学省 HP よりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果（資格）	中学校教員免許（社会科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく（2 時間）。事後学習については授業終了時に指示する（1 時間）。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく（1 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する（2 時間）。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく（2 時間）。事後課題については授業内で指示する（1 時間）。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方／北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア／アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ／オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む（2 時間）。模擬授業担当者は指導案を作成する（6 時間程度）。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う（2 時間）。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う（4 時間）。

関連科目	社会科教育法Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)　解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社
3			

評価方法 （基準）	成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。
学生への メッセージ	自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う（事前課題）。
15	総括ー社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3
評価方法 （基準）	事前学習課題の提出（30%）、模擬授業（50%）、各種課題（20%）等により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領（最新年度版）を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名（英文）	Social Studies Teaching Methods Ⅳ (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括ー社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目：原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

<table>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>課題・レポート（３０％）、模擬授業（５０％）、平常点：授業への貢献度等（20%）。
出席については全体の 80%以上の出席（15 回中 12 回以上）が必須。
出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>7 号館 2 階　非常勤講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。
中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法 I で購入済みの者は購入の必要なし）。
事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</td></tr>
</table>

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合っていただきます。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（１時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(2時間)
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（２時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えてくこと（３時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間）
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（２時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間）)

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお。講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
5	フリータートニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間） 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間） 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間)。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間）
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習:AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
12	就業力向上計画立案②	１１回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（1）	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能（評定なし）とします。
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。（1）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（2）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（3）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習（教育実習に係る事前及び事後指導）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成（2）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（3）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業（4）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際（1）	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際（2）	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目：教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	授業における積極性・貢献度（30%）、模擬授業（40%）、提出物（30%）によって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス７号館３階
備考	教職フォーラム（10月最終土曜日）、教育実習総括講義（11月最終土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。

	事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	栄養教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice in Teaching Ⅰ (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城　安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習で行う事前指導は、教育実習を円滑かつ効果的に実施するために、実習校の担当指導教員と連絡、調整する基本的なマナーなどを理解するとともに、栄養教諭として身につけるべき専門知識と技術の統合をはかるものである。教育実習の目的や内容を習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。また、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導上必要な技能と態度を修得し、栄養教諭として行う食に関する指導の具体的な技能と方法を修得する。さらに、実習終了後の成果発表の方法やまとめ方を学修する。
到達目標	① 教育実習に主体的に取り組むことができる。 ② 実習受け入れ校と打ち合わせをすることができる。 ③ 実習校と打ち合わせた内容で指導案を作成することができ、教育実習に必要な知識と技術を身につける。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③食に関する指導の手引きから読み解く ④グループ討議とロールプレイング
科目学習の効果（資格）	栄養教諭１種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教育実習の意義と目的	オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解し、教育実習に対する意欲を高める。	事前:栄養教育実習のてびきを熟読する(0.5 時間)。
2	事前挨拶について	マナーを守った電話対応で必要な情報を得る。(ロールプレイング・グループ討議)	事後：ワークシート提出（0.5 時間）
3	身だしなみについて	礼儀作法、言葉使い、守秘義務、マナーについて学修する。(挨拶、礼状の書き方の演習)	事後：ワークシート提出（0.5 時間）
4	教育実習における注意点について	教育実習記録の記入方法や欠勤届けについて、事例をもとに学修する。	事前:栄養教育実習のてびきを熟読する(0.5 時間)。
5	学校･学級経営の研究について	学校経営や学級経営がどのように行われているかその方法について考える。	事後：レポート提出(1 時間)。
6	食に関する指導の研究について	児童生徒の食生活に関する実態把握、教科等の指導、個別指導、連携調整、その他のポイントについてどのように調査･研究したらよいかグループで考え発表する。 （講義、グループ活動）	事前：配布資料を熟読する(0.5 時間)。 事後：ワークシート提出（0.5 時間)。
7	学習指導案の立て方	食教育上の課題を発見し、その課題を解決するための指導案を作成する。	事前：プリントの熟読と食に関して懸念される事項や食料自給率の問題を調べる(1 時間)。 事後：指導案提出(1 時間)。
8	生徒指導について	生徒指導は子どもの理解から始まることを理解し、その方法をグループで考え発表する。(グループ討議)	事前：配布資料を熟読する（0.5 時間)。 事後：レポート提出（1 時間)。
9	栄養食事管理について	栄養食事管理の方法、集団と個別や合理的配慮を要する児童生徒の栄養管理の方法について話し合う。 （グループ討議）	事前：配布資料を熟読する(1 時間)。 事後：ワークシート提出(0.5 時間)。
10	給食の時間の指導について（偏食指導）	給食の時間における指導の特質について理解し、偏食等の問題のある子どもへのことばがけについて学修する。 （講義、ロールプレイング）	事前：食に関して合理的配慮の必要な児童生徒について調べる(1 時間)。 事後：ワークシート提出(0.5 時間)。
11	給食の時間の指導について（事故防止）	給食の時間中に起きると想定される窒息事故、ノロウイルスに対する処置ができるように学修する。(講義・演習)	事前：ノロウイルスによる二次感染の予防対策について調べる(1 時間)。
12	給食の時間の指導について（給食当番）	給食当番へ、協力の大切さと衛生の観点で指導ができるように学修する。(講義・グループ討議・演習)	事後：ワークシート提出(0.5 時間)。
13	給食時のクラスの衛生管理について	給食時における衛生上の指導ができるように学修する。 （講義・グループ討議・ロールプレイング）	事前：給食時のクラスの衛生について調べる(1 時間)。 事後：ルーブリック表を提出(0.5 時間)。
14	食事のマナーについての指導方法について	給食時の食事のマナーについて指導できるように学修する。 （講義・グループ討議・ロールプレイング）	事前：食に関する指導の手引（食事のマナー）を熟読する(0.5 時間)。
15	成果発表会について	実習報告のまとめかたと発表の方法について学修する。 （講義・配布資料）	事後：レポート提出(1 時間)。

関連科目	学校栄養指導論Ⅰ・学校栄養指導論Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食に関する指導の手引き一第二次改訂版	文部科学省	東山書房
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	四訂栄養教諭論ー理論と実際ー	金田雅代	建帛社
2	配付資料		
3			

評価方法 （基準）	提出物　70% 学修への取り組み（ルーブリック評価）　30%
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館 326 号室 tel:072-800-1879（直通） E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp
備考	

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一.朝日　素明.鎌田　祥輝.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員６名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。１グループは１０名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・２回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読、小レポートの提出
3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読、小レポートの提出
4	「よい授業」を探究する:「わかる授業」と「たのしい授業」	「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。	（事前）「よい授業」のイメージを考えておく。 （事後）小課題を課す。
5	学習指導案を読み解く	・教師の主体的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。 ・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。	（事前）配付資料を読んでおく。 （事後）小課題を課す。
6	学校の危機管理（１）：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトなどを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
7	学校の危機管理（２）：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることなどを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
8	学校における行動問題支援（理論編）	学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。	（事前） 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 （事後） 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。
9	学校における行動問題支援（実践編）	持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。	（事前） 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 （事後） ２回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。
10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。

			（事後）小レポート
11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
12	生徒指導：生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	（事前）配布資料を熟読する。 （事後）小レポートの提出
13	進路指導：保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	（事前）配布資料を熟読する。 （事後）小レポートの提出
14	生徒指導・進路指導（中学校現場での実地学習）	近隣市の教育委員会との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導（生徒指導・進路指導のあり方）についてレポートにまとめる
15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します（87.5%（12.5%×7名））。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します（12.5%）。これらを合計し、最終的な評価とします。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（朝日、鎌田、西村、松浦、吉田） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口）
備考	事前・事後総学習時間は，60時間程度である。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）	科目名（英文）	Practical Seminar on Teaching (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城　安喜子.谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、栄養教諭となるために必要な知識技能を修得したことを確認するものである。よって、昨今の食に関する問題や教育実習でつかんだ児童・生徒の状況を踏まえ、これらの問題を解決するための手立てを、給食の時間や授業、家庭や地域との連携の場合について考えていく。さらに、考えた手立てを学習指導案や給食だよりといった具体的な指導に結び付け、模擬授業や親子料理教室などへ展開していく。児童・生徒が抱える食の課題に対する効果的な指導となるように実践的な手立てを修得し、豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①今までの学修を振り返り、各自の課題を発見することができる。 ②摂取する食品と健康との関連や毎日の食事と社会とのつながりについて、食育の視点で指導案を作成し模擬授業ができる。 ③児童・生徒が適量を食べようとするための指導ができる。 ④スポーツをする児童・生徒への個別指導の方法を考え、その一環として食品構成表を作成するなど食事提案ができる。 ⑤地場産物を活用した学校給食献立を考えることができ、そのメニューを活用した親子料理教室の企画書を作成することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントや配布資料を用いて授業をすすめる。 ②グループ討議では受身にならず、意欲的に意見交換を行い傾聴力や実行力を高める。 ③教育実習で経験した児童・生徒の状況を整理し、学校教育現場を常に想定しながら演習を行う。
科目学習の効果（資格）	栄養教諭Ⅰ種免許状
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実践演習について	教育実習の振り返りや「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づいて自分の課題を発見し、課題に取り組む。	予習：今までの教職科目を振り返る（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
2	教職の意義・役割について	「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」について各自振り返り発表、討議し、教職の意義や教員の役割、教職内容、児童・生徒に対する責任について考えを深め、自分の課題を克服する。	予習：「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」についてまとめておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
3	組織としての栄養教諭について	組織の一員としての自覚、食育のコーディネーターとしての在り方、保護者や地域の方々、児童・生徒との人間関係の構築等で自分の課題を発見し、克服しようとする手立てを考える。	予習：学校組織についてまとめておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
4	食に関わる問題について	学校が目指す児童・生徒像に近づけるため食育でどう近づいていくか考え、食育の全体計画を作成する。	予習：児童・生徒の食に関する課題をまとめてお（2 時間）く。 事後：レポート提出（3 時間）。
5	全体計画の発表	児童・生徒の食に関する問題点、目指す児童・生徒像から食育の全体計画を作成し発表する。	予習：食育の全体計画の修正（3 時間）。 事後：ルーブリック提出（1 時間）。
6	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について（指導案と指導資料）	給食では必ず提供される牛乳を飲もうとする意欲的を高める指導案作成と指導資料作り、家庭へのおたよりを作成する。	予習：牛乳と健康の保持増進について調べてお（2 時間）く。 事後：指導案提出（2 時間）。
7	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について（模擬授業と評価）	健康を考えて牛乳を飲もうとする意欲を高める模擬授業を行い、意見交換や発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく（2 時間） 事後：ルーブリック提出（1 時間）。
8	学校安全で行う安全教育について理解する。	学校での安全教育の位置づけを理解し、栄養教諭としての役割を考える。	予習：安全教育の 3 つの領域について調べておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
9	学校安全で行う食に関する災害安全学習について（模擬授業と評価）	災害時の食に関する学習の単元構成の発表と指導方法についてグループで考える。	予習：過去の災害時の食の問題について調べておく（3 時間）。 事後：災害時の食についての学習指導案提出（2 時間）。
10	適量を食べようとするための取組み（授業、給食時間の働きかけ）	児童・生徒の肥満や、やせの問題についてグループ討議を行い、児童・生徒が適量を食べようとするためには、どのような手立てが必要か考え、それに基づく学習指導案や給食だよりを作成する。	予習：食品構成をまとめておく（2 時間）。 事後：指導案提出（3 時間）。
11	障害のある児童生徒への食に関する指導について	障害のある児童生徒への食に関する指導の視点や展開を考える。	予習：特別支援学校について調べておく（2 時間）。 事後：レポート提出（1 時間）。
12	個別指導（食物アレルギー対応・スポーツをする児童・生徒）	食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題を考え、個々に対応した食品構成を作成し、それを基に指導演習を行う。	予習：食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題について調べておく（2 時間）。 事後：ルーブリック提出（1 時間）。
13	学校給食管理について（施設見学・調査）	学校給食施設を見学し、衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査する。	予習：学校給食の給食管理について調べておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
14	学校給食管理について（レポート作成）	学校給食における衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査したことや新たな発見・課題をまとめ発表する。	予習：学校給食の給食管理について課題点をまとめておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
15	家庭・地域連携について	児童・生徒の食の問題点を解決するための給食試食会を企画する。	予習：児童・生徒の食の問題点について調査しておく（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。

関連科目	全ての教職課程必修科目、栄養教諭免許状に関わる必修科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食に関する指導の手引き　第二次改訂	文部科学省	東山書房
2	栄養教諭論Ⅱ　実践研究	金田雅代	建帛社
3	プリント配布		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題提出物　60% 成果発表　30% 学修への取り組み（ルーブリック評価）　10%
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で自らの実習の課題点を見出し、課題解決のための目標を設定し、授業やグループワークを通して克服し、栄養教諭として実践的力量を身に付けましょう。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館 326 号室 tel:072-800-1879（直通） E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回 90 分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導 1	活動についての心構え，活動内容の確認，活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
2	事前指導 2	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
4	活動準備	受け入れ校と協議し，活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 （3 時間程度）
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目：すべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお，評価割合はそれぞれ 20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（鎌田研究室）、７号館４階（谷口研究室）、７号館３階（西村研究室）、7 号館 3 階（松浦研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け，その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回 90 分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは，教員免許状を取得するのに大いに資する。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前指導１	活動についての心構え，活動内容の確認，活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
2	事前指導２	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)
3	事前指導３	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
4	活動準備	受け入れ校と協議し，活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動　（日誌・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日誌等）の作成
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	すべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお，評価割合はそれぞれ 20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館３階（鎌田研究室）、７号館４階（谷口研究室）、７号館３階（西村研究室）、7 号館 3 階（松浦研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。１回の活動に対して，それぞれ 1、2 時間は必要です。

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞鍋　政明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校における職業教育や進路指導の全容を理解することがねらいである。 現代日本の産業構造と雇用状況、教育における職業指導の意義、若者をとりまく諸問題、高校における就職指導の実際、キャリア教育と職業指導などのテーマを、講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学ぶ。高校の進路指導をする上で欠かせない内容であるとともに、自らの進路決定をする上で必要な内容も多々含まれる授業である。
到達目標	①キャリア教育（職業指導・進路指導）の目的と方法について理解できる。 ②職業教育の理論、職業指導に必要な実践的な技法が理解できる。 ③社会の変化と生徒の社会的・職業的自立に求められる資質・能力を正しく説明できる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、進路指導、職業教育の実際について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。 毎回の授業では、教科書を中心とした説明に加え、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	自己紹介および授業の目標や意義について（説明・グループワーク等）	事前：これまで自分が受けてきた職業指導、進路指導、キャリア教育ついて整理する。(2 時間) 事後：配布資料等を確認する(2 時間)
2	教員免許についてガイダンス	高等学校農業教員免許取得の意義について（説明・グループワーク等）	事前：学習指導要領総則においてキャリア指導や職業指導に係る個所を調べる(2 時間) 事後：自らの職業についての考えをまとめる(2 時間)
3	職業教育･進路指導の歴史的変遷①	日本における職業指導の歴史的変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の職業指導の歴史的変遷について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
4	職業教育･進路指導の歴史的変遷②	日本における進路指導の歴史的変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の進路指導の歴史的編成について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
5	キャリア教育の歴史的変遷	日本におけるキャリア教育の歴史的変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本のキャリア教育の歴史的変遷について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
6	進路指導の意義と機能	進路指導の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の意義と機能について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
7	進路指導の組織体制と方法	進路指導の組織体制と方法について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の組織体制と方法について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
8	キャリア教育の意義と機能	キャリア教育の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の意義と機能について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
9	キャリア教育を充実させるための方策	キャリア教育を充実させるための方策について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育を充実させるための方策について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
10	キャリア教育の今後の方向性	キャリア教育の今後の方向性について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の今後の方向性について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
11	キャリア教育の現状	全国調査からみるキャリア教育の現状について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の現状について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
12	大学におけるキャリア教育	大学におけるキャリア教育について（説明・グループワーク等）	事前：大学におけるキャリア教育について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
13	コンテンツを活用してのワークショップ	「対立する意見をどうまとめていくか？」（説明・グループワーク等）	事前：STEAM 教育について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
14	職業教育の現状①	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる(2 時間) 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する(2 時間)
15	職業教育の現状②	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる(2 時間) 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する(2 時間)

関連科目	

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td>進路指導・キャリア教育論</td><td>望月由紀</td><td>学事出版</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>職業指導の視点から、教員という職業を理解するとととともに、自己の成長につなげて欲しい。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>5 号館 1 階</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	眞鍋　政明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教員として職業指導（キャリア形成・進路指導）に関する実践的な知識を得ることがねらいである。 高校（特に農業高校）を取り巻く社会の変化と生徒に求められる資質・能力について理解し、職業指導（キャリア形成・進路指導）の実践について講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学び、職業指導（キャリア形成・進路指導）に果たす教師の役割について考察する。
到達目標	①職業指導に関する基本的な概念や用語、役割や意義について正しく説明できる。 ②生徒理解に基づくキャリアガイダンス等の素養を身につけ簡単な指導計画の立案ができる。 ③キャリア教育に関わる実践上の課題について理解し教師としての主体的な基礎づくりができる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、特に農業高校生の進路指導の実際について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。毎回の授業では、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	授業の目標や意義．ＰＢＬについて（説明・グループワーク等）	事前：PBL 学習導入のメリットについて調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
2	職業指導を踏まえた教育課程の編成	学習指導要領に基づく教育課程と評価の在り方について（説明・グループワーク等）	事前：学習指導要領のねらいについて調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
3	職業教育の魅力化①	文部科学省における産業教育振興策について①（説明・グループワーク等）	事前：産業教育や専門高校の現状について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
4	職業教育の魅力化②	文部科学省における産業教育振興策について②（説明・グループワーク等）	事前：産業教育や専門高校の課題について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
5	農業教育の持つ教育力①	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について①（説明・グループワーク等）	事前：課題研究について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
6	農業教育の持つ教育力②	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について②（説明・グループワーク等）	事前：学校農業クラブ活動について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
7	農業教育の持つ教育力③	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ①（学外実習）	事前：視察する高校の学校像について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
8	農業教育の持つ教育力④	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ②（学外実習）	事前：視察する高校の学校像について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
9	農業教育における職業的活動①	知的財産教育、GAP、HACCP の導入による職業的活動の充実について①（説明・グループワーク等）	事前：知的財産教育について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
10	農業教育における職業的活動②	知的財産教育、GAP、HACCP の導入による職業的活動の充実について②（説明・グループワーク等）	事前：GAP,HACCP について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
11	高等学校における進路指導の実際①	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について①(説明・グループワーク等)	事前：高校生の就職における現状について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
12	高等学校における進路指導の実際②	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について②(説明・グループワーク等)	事前：高校生の就職指導における課題について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
13	雇用と労働の在り方を探る①	ソーシャルビジネスの創出について①（説明・グループワーク等）	事前：社会起業家について調べる(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
14	雇用と労働の在り方を探る②	ソーシャルビジネスの創出について②（説明・グループワーク等）	事前：ソーシャルビジネスプランについ考える(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)
15	まとめ	半期の授業についてまとめる（説明・グループワーク等）	事前：後期の授業全般について振り返る(2 時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2 時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	学校栄養指導論Ⅰ	科目名（英文）	School Health and Nutrition Guidance Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城　安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。食育基本法や学校給食法を理解しながら、学校における食育推進の在り方や学校給食管理の方法について学修し、栄養教諭の職務内容について考える。また、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴う食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、食料自給率の問題、地産地消の重要性、食文化や郷土料理の継承といった面からも学校給食をどのように生かしていくべきなのかを考える。さらに、児童生徒の食生活に関する実態把握やその指導法など栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 児童生徒の食生活に関する課題等に栄養教諭として対応していこうとする意欲を高める。 ② 学校給食法から学校給食の意義や目的を読み取り説明できる。 ③ 学校給食の実施基準を活用して、個人を対象とした栄養食事管理ができる。 ④ 学校給食衛生管理基準に沿った調理業務の指導ができる。 ⑤ 食をめぐる社会的状況や食文化の継承等を視野に入れた学校給食献立を計画することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③グループ討論と発表（ルーブリック） ④演習
科目学習の効果（資格）	栄養教諭１種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 栄養教諭の職務	オリエンテーション 関連法令から栄養教諭制度について知る。栄養教諭の職務内容について中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備」から読み取る。	事前：食に関する指導体制の整備について熟読する（テキスト）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
2	食育基本法	児童生徒の食生活ならびに栄養に関する課題や社会状況に対応した食に関する指導の必要性、意義について食育基本法から読み解く。	事前：食育基本法を熟読する（テキスト）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
3	第４次食育推進基本計画	食育推進のために栄養教諭は何をすべきか第 4 次食育推進基本計画から考える。	事前：第４次食育推進基本計画を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：第４次食育推進基本計画についてまとめる（2 時間）。
4	学校給食法	学校給食の意義と目的について学校給食法から読み解く。学校給食の基本計画の設定や調理指導、栄養教諭が行う学校給食全般を理解する。	事前：学校給食法を熟読する（テキスト）（2 時間）。 事後：学校給食の意義や目的についてまとめる（2 時間）。
5	学校給食の栄養管理（学校給食摂取基準の考え方）	学校給食の栄養管理を学校給食摂取基準から考える。	事前：日本人の食事摂取基準 2020 と学校給食摂取基準 2021 を熟読する（プリント（2 時間））。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
6	学校給食の栄養管理（個別対応）	クラス全体の食事管理と個別対応の方法ならびに評価について考える。	事前：個別的な相談指導を必要とする児童生徒の対象者について調べる（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
7	学校給食の衛生管理基準：給食施設及び設備の整理	学校給食衛生管理基準について理解し、学校給食調理場の施設設備をレイアウトする。	事前：学校給食衛生管理基準（施設設備について）を熟読する（プリント（2 時間））。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
8	学校給食の衛生管理基準：調理過程	献立作成、食材の購入、検収、保管についてまとめる。	事前：学校給食衛生管理基準（献立作成、食材購入、検収、保管について）を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
9	学校給食の衛生管理基準：演習	調理過程、配送についてまとめ、二次汚染防止のための手立てとして作業工程表作業動線図を作成する。	事前：学校給食衛生管理基準（作業工程表と作業動線図の作成について）を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：作業動線図・作業工程表を作成する（2 時間）。
10	学校給食の衛生管理基準：衛生管理体制	検食や保存食、衛生管理体制について学修する。	事前：学校給食衛生管理基準（衛生管理体制について）を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
11	学校給食の衛生管理基準：ノロウイルス対応	厚生労働省ノロウイルスに関する Q&A を理解し、ノロウイルス対策として、様々な場合を想定したマニュアルを作成する。	事前：ノロウイルス食中毒について調べる（2 時間）。 事後：学校給食衛生管理基準とノロウイルス対策についてまとめる（2 時間）。
12	学校給食の現状	学校給食実施状況調査から、児童生徒の実態を把握するための方法をグループで話し合い発表する。	事前：学校給食実施状況調査から課題点をまとめる（テキスト（2 時間））。 事後：児童の食生活に関するアンケート調査を作成する（2 時間）。
13	学校給食における食物アレルギー対応	学校給食における食物アレルギー対応指針から、対応のための体制づくりや準備すべき書類、調理現場での指導、クラスでの対応について考える。	事前：アナフィラキシーについて調べる（2 時間）。 事後：食物アレルギー対応マニュアルをまとめる（2 時間）
14	食料の供給状況や食文化の継承と学校給食	食料需給表から日本の食品供給状況について検討する。また、食文化の継承や地産地消について考え、学校給食献立の在り方について考える。	事前：最新の食料需給表を考察し、まとめる（プリント）（2 時間）。 事後：地域の食文化や特産物、郷土料理を活かした献立を作成する（2 時間）。
15	自然災害と学校給食	自然災害に備えた学校給食について考	事前：自然災害と学校給食についてまとめる（2 時

			え、栄養教諭の役割について考える。	間)。 事後：栄養教諭として自然災害にどう向き合うかまとめる（2時間)。

関連科目	学校栄養指導論Ⅱ　　栄養教育実習Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	四訂栄養教諭論ー理論と実際ー第２版	金田雅代	建帛社
2	食に関する指導の手引きー第二次改訂版	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験　　70%　　学習内容の理解。 レポート　　20%　　テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度　　10%　　主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス８号館 326 号室 tel:072-800-1879（直通） E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp
備考	

科目名	学校栄養指導論Ⅱ	科目名（英文）	School Health and Nutrition Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城　安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。子供の発育や発達、あるいは行動特性や教科等の特性を学びながら、食育の全体計画を作成し、子供の発達段階に応じ系統立った食育の模擬授業を行う。また、学校、家庭、地域と連携し学校給食を生きた教材として活用した食育の推進や、肥満、るい痩、食物アレルギーといった個別指導の実践につながる取り組みを行い、栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①こどもの発達段階が理解でき、発達段階に応じた内容の食育を考えることができる。 ②食に関する指導の全体計画の意義を説明でき、立案の方法がわかる。 ③教科の単元目標に沿った食育指導案を作成し、模擬授業をすることができる。 ④学校、家庭、地域が連携した食育指導を計画することができる。 ⑤学校給食を活用した食育の指導案を作成することができる。 ⑥個別指導の手法に基づいた栄養相談ができる。
授業方法と留意点	①パワーポイント及び配付資料による講義 ②グループワーク ③テーマに沿った指導案の作成と模擬授業を通して意見交換を行い、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し、その技能と方法を学修する。
科目学習の効果（資格）	栄養教諭１種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食に関する指導（指導案）	オリエンテーション。 学習発達理論について知り、小学校中学年における「食べ物の３つの働き」の授業でどう活用していくか考え、グループごとに指導案を作成する。	事前：ピアジェの学習発達理論を読む（プリント）（2 時間）。 事後：振り返りシート提出（2 時間）
2	食に関する指導（模擬授業）	第１回の指導案を基に、グループごとに模擬授業を行う。	事前：指導案・教材を作成する（ワークシート）（3 時間）。 事後：ルーブリック提出（1 時間）
3	食行動に関するステージ別指導	食行動に関するステージ別指導理論を知り、この理論に基づく野菜嫌いの子供への給食の時間の指導について考える。	事前：行動科学について調べる（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
4	コミュニケーション技術のコーチング	栄養教諭としてまず、子供とラポールの形成をどう築いていくかをグループで話し合い発表する。	事前：コーチングについて調べる（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
5	食に関する指導の全体計画の意義	食に関する指導の全体計画の意義について知り、実態に即した食に関する指導の全体計画を作成する。	事前：食に関する指導の全体計画について調べる（テキスト）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
6	学習指導要領について	学習指導要領について知り、そのねらいが「生きる力」であることに気づき、そのねらいに沿った授業とはどのようなものか考える。	事前：学習指導要領総則を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。
7	教科の目標に補完しあえる食育の指導案（家庭科、技術家庭科）	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。（家庭科、技術家庭）	事前：家庭科、技術家庭の学習指導要領を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
8	教科の目標に補完しあえる食育の指導案（保健体育）	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。（(保健体育）	事前：保健体育の学習指導要領を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
9	教科の目標に補完しあえる食育の指導案（道徳）	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。（(道徳）	事前：道徳の学習指導要領を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
10	食育指導の評価の方法	7 回～9 回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、食に関する指導の効果、児童生徒の理解、定着度を評価する方法を考える。	事前：模擬授業の練習ならびに教材作成をする。(3 時間) 事後：ルーブリック提出（1 時間）。
11	給食の時間における食育	給食の時間における食育の特性を理解し、ねらいをもった献立を作成し、指導媒体を活用した給食の時間の指導を行う。	事前：ねらいをもった献立作成と指導媒体の資料収集をする（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
12	総合的な学習の時間における食育	総合的な学習の時間の目標を知り、食育の単元を構成する。	事前：総合的な学習の時間の学習指導要領を熟読する（プリント）（2 時間）。 事後：ワークシート提出（2 時間）。
13	給食だよりの作成と活用方法	給食だよりを作成し発表する。	事前：今月の献立をもとに給食だよりに掲載する資料をまとめる（3 時間）。 事後：ルーブリック提出（1 時間）。
14	学校給食の生きた教材の活用法	地域の食文化や地場産物の活用という視点での家庭や地域との連携の必要性や地域との連携の方法について考える。	事前：地域の地場産業や郷土料理、食文化について調べる（2 時間）。 事後：(2 時間)。
15	肥満、るい痩、食物アレルギー等の個別指導	個々に応じた指導方法について知り、指導資料を作成し、グループ内でローリングプレーを行う。	事前：食品構成の作成法を調べる（2 時間）。 事後：レポート提出（2 時間）。

関連科目	学校栄養指導論Ⅰ　　栄養教育実習Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食に関する指導の手引き　第二次改	文部科学省	東山書房
2	四訂栄養教諭論ー理論と実際ー第２版	金田雅代	建帛社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	筆記試験　　70%　　学習内容の理解。 レポート　　20%　　テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度　　10%　　主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス８号館 326 号室 tel:072-800-1879（直通） E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp
備考	

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく 、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人お一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）テキスト P. 3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	（事前）テキスト P. 59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）テキスト P. 76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）テキスト P. 69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）テキスト P. 93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）テキスト P. 86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その１	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	（事前）コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 （事後）4 名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 8 回で取り上げた 4 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その１	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	（事前）フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 （事後））3 名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ　その２	前回取り上げた教育思想家 4 名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	（事前）第 10 回で取り上げた 3 名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物 1 名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 （事後）授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）テキスト P. 147～151 を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）テキスト P. 169～178 を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	教育情報出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　橋本研究室
備考	

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名（英文）	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果（資格）	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
4	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
6	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
7	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目：情報リテラシー科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂 4 版 情報モラル＆情報セキュリティ	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版
2	ICT 活用指導力アップ　教育の情報化　教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT 活用の理論と実践　DX 時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法（基準）	授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表（40%）をもとに総合して評価する
学生へのメッセージ	各自の IT スキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　橋本研究室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部［II］
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 9 階 中沼研究室
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅱ◎,Ｒ科：A◎,Ａ科：A◎,Ｍ科：A1○,Ｅ科：Ｂ△,Ｃ科：Ⅱ◎,Ｌ科：DP2◎,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎		
科目ナンバリング	Ｖ科・Ｒ科・Ａ科・Ｍ科・Ｅ科・Ｃ科：TT01461a1～TT01465a1,Ｌ科：LT01366a1～LT01370a1,Ｄ科・Ｓ科：IT01371a1～IT01375a1,Ｊ科：JT01361a～1JT01365a1,Ｗ科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法	期末レポート（80%）、中間レポート（20%）

（基準）	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS 上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25 通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生当人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大 2 次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
10	DV とデート DV	・DV の類型	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20 歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2 時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約 2 時間

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間

関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法 （基準）	・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%＋課題の得点95%）。定期試験は実施しない。
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　11号館10階　小野教授室
備考	本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。 オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。

科目名	現代韓国論	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	１．韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 ２．授業は、①講義、②Moodle を通じたレジュメの配信および課題等の提出、という２つの手段を適宜組み合わせて行なう。 ３．授業進度の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ４．本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果（資格）	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 （「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。）	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（１）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第１章　盧泰愚来日と天皇訪韓構想（２）	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第２章　慰安婦問題の展開（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第３章　村山談話と靖国問題（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	第Ⅰ部　相互信頼から相互不信へ	第４章　「小春日和」の時代（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	第Ⅱ部　対立激化への展開	第４章　「小春日和」の時代（２） 第５章　領土問題の相克と定着化（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	第Ⅱ部　対立激化への展開	第５章　領土問題の相克と定着化（２） 第６章　民主党政権と李明博政権（１）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	第Ⅱ部　対立激化への展開	第６章　民主党政権と李明博政権（２）	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（１）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	第Ⅱ部　対立激化への展開	第７章　外交争点としての「慰安婦」問題（２）	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	第Ⅱ部　対立激化への展開	第８章　文在寅政権の転換	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 （講義のまとめと補遺）	［事前学習］提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
3			

評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。）
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　7 号館 4 階　田中研究室
備考	・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　史一
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める（貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす（投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。 早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金（確定拠出年金）の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか…決められますか？　若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力（＝金融リテラシー）を若いうちから身につけておくことが必要です。 本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。
到達目標	ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。 具体的には ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる 以上を到達目標とします。
授業方法と留意点	基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。 授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。 また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。
科目学習の効果（資格）	日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができるようになります。 金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。 また、ファイナンシャルプランナー資格（民間資格）や、ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の資格取得にも役立ちます。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス／金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー（知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。 （注）課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎／貯蓄型商品	金融所品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益（リターン）をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや”格付け”についても学びます。	財務省のＨＰで２０年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

	いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験　：　６０％
課題①　キャッシュフロー表の作成　：　２５％
課題②　株式投資ゲームの参加　　：　１０％
講義への取り組み姿勢　：　５％
（注）履修学生が多大の場合、課題①　キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。

学生へのメッセージ

長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。
皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。
なお、授業計画は変更される場合があります

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス ３号館１階（教務課）
寝屋川キャンパス ７号館２階（非常勤講師室）

備考

オフィスアワー　：　授業の前後に対応します。
その他、質問等は　メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。
この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	SDGｓで読み解く淀川流域	科目名（英文）	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田　裕子.赤澤　春彦.朝田　康禎.郭　進.加嶋　章博.久保　貞也.小林　健治.後藤　和子.鳥谷部　壌.中塚　華奈.増田　知也.八木　紀一郎
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs(2030 年までの世界の目標)との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス―淀川流域のいま・過去・未来とＳＤＧｓ	科目全体のガイダンス(担当:朝田康禎)	事前：教科書[序章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か？[関連SDGs １３・６](担当：石田裕子)	事前：教科書[第１章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか？[関連 SDGs９・１７]（担当：石田裕子）	事前：教科書[第２章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか？[関連SDGs７・１６]（担当：鳥谷部壌）	事前：教科書[第４章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
5	些細なことで豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか？[関連 SDG １５]（担当：小林健治）	事前：教科書[第７章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは？[関連SDGs ３・１２]（担当：後藤和子）	事前：教科書[第６章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろう？[関連SDG １１]（担当：加嶋章博）	事前：教科書[第８章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか？[関連SDG１１](担当:赤澤春彦)	事前：教科書[第９章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか？[関連SDGs １・４・１１](担当：久保貞也)	事前：教科書[コラム③p.154]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う？[関連SDGs１・４・１１]（担当：八木紀一郎）	事前：教科書[第11章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは？[関連SDG２]（担当：中塚華奈）	事前：教科書[第10章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか？[関連SDG５]（担当：朝田康禎）	事前：教科書[第12章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における３市（門真市・寝屋川市・枚方市）の経済・産業構造はどう違うのか？[関連 SDGs８・９]（担当：郭進）	事前：教科書[第13章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすれば良いか？[関連SDG１７]（担当：増田知也）	事前：教科書[第14章]を読んでおくこと 事後：講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当？[関連SDGs14・１2]（担当：鳥谷部壌）	事前：教科書[第15章]を読んでおくこと 事後：講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目：摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域　近畿の水源から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壌　編著	昭和堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：第２回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認（クイズ or 簡単な小レポートなど）（いずれも５点満点、14 回分で計 70 点）と、期末のレポート（30 点）の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか１つを選択し、A4 で２枚程度のレポート作成に取り組む。
学生への メッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材に一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　１号館３階　都市環境工学科　石田研究室 寝屋川キャンパス　１号館７階　経済学部　後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	データサイエンス実践	科目名（英文）	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也.朝田　康禎.植杉　大.片田　喜章.橋本　はる美.牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的

これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。
ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。
本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

到達目標

この講義の到達目標は以下の通りである。
（１）現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる
（２）データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている
（３）インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

授業方法と留意点

本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

科目学習の効果（資格）

社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由(オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、 Society 5.0 時代のデータの価値について S 科　久保教授	事前の学修進展度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科　久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科　牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S 科　橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科　橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS（地域経済分析システム）によるオープンデータの分析 W 科　植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科　朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア（SPSS)によるデータ整理 S 科　牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科　牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S 科　牧野准教授	学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科　片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S 科　久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション（ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S 科　久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進展度

関連科目

データサイエンス展開

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での課題　70%、事前事後の学修進展度（アンケート）　15%、学修ノート　15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス　11 号館 7 階 久保教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本准教授室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名（英文）	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の４点を理解することが期待される。 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 SDGs-5
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対しての発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について箇条書きにしてくること（２時間） ・事後学修：SDGs＃５がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーヌ・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：日本が抱える問題　について、具体的数字を入れてレポートを書くこと（２時間）
4	日本の近代化	・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第５次男女共同参画基本計画	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、・ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	･性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：テキスト P40～52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成（２時間）
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修：ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする　　準備をすること（２時間） ・事後学修：結婚と母性信仰に関して、レポートを作成（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・６名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修：６名の女性に関するプレゼン（２時間） ・事後学修：６名の女性から学んだことのレポート作成（２時間）
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成 　　すること（２時間）
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修：アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える（２時間）
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：ワークシート#11（２時間）
12	リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修：リプロの意味と現状を調べる（２時間） ・事後学修：ワークシート#12（２時間）
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（２時間） ・事後学修：ワークシート#13（２時間）

14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（２時間）
15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）

グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。

担当者の研究室等

石井研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。
受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。

科目名	データサイエンス展開	科目名（英文）	Data Scicence Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪　晴彦.石井　三恵.伊藤　譲.後藤　一章.瀬川　智広.横山　喬之.米本　涼
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。 本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0（データ駆動型社会）やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」 は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4)
授業方法と留意点	・産官学のさまざま分野の講師によるオムニバス形式である（12回分）。 （外部から講師を招聘するため，日程やテーマが変更となることがある。） ・事前学習として、関連動画を視聴（もしくは資料を精読）し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべてICTツールを利用する。
科目学習の効果（資格）	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修：レポート（1時間）
2	データ駆動社会	・Society5.0概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション（DX）	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動やAIによる最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスやAI技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべきDX思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴／資料精読，課題レポート（1時間） 事後学修：レポート（1時間）

関連科目	情報系科目すべて
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1 号館 4F 諏訪教授室、7 号館 3F 石井教授室、1 号館 3F 伊藤教授室 米本研究室（7 号館 5 階）
備考	

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名（英文）	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内　睦博.新居　英志
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないとついてこれなくなりますので注意が必要です。
科目学習の効果（資格）	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション： コンピュータビジョンとは python ことはじめ	授業概要 画像処理と OpenCV python プログラミングの方法	自分でコンピュータビジョンについて調べる。 課題の完成
2	python 入門（1）	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門（2）	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門（3）	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門（4）	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグらミング（1）	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグらミング（2）	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグらミング（3）	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグらミング（4）	２値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグらミング（5）	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグらミング（6）	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグらミング（7）	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグらミング（8）	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング（1）	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング（2）	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	OpenCV による画像処理入門（改訂第３版）	小枝、上田、中村	講談社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内課題(60%)、プロジェクト課題(40%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等	寺内研究室（寝屋川キャンパス、１１号館１０階)、新居研究室（寝屋川キャンパス、７号館５階）
備考	

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名（英文）	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲.大川　謙蔵.大塚　正人.尾山　廣.佐藤　大作.白鳥　武.村瀬　憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は，学部の枠を越えた教養応用科目で，大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています. 科目のテーマである SDG s （持続可能な開発目標）とは，国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で，わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています. つまり，この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ，本格的なアクティブラーニング型教養科目です．反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク，ＡＢＤと振り返りにより生きた知識として定着させます．さらに，法学，経済学，環境工学，建築学，農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め，獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます．このような流れを通じて，大学生として必要な，SDGs を理解するための教養（特に，社会，経済，環境等）を身につけ，その知識をもとに考え，自分の意見を持ち，討議ができるようになります.
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について学び，説明と討議をすることができる. (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる. (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる. (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる.
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど，アクティブラーニングの手法を駆使します．授業開始時には，事前学習における知識の定着を確認するため，ICT ツールによるクイズ，ミニプレゼンを行い，中盤から後半部で各テーマをとりあげます．学生は解説時にはメモをとり，グループワークにより課題に取り組みます．授業の最後には，振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます．また，授業資料の管理状態も評価対象です.
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP１を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP１を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前：Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 13 を学び，ABD サマリを作成する 事前 ２：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
6	気候変動に関する諸問題２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前１：目標 14，15 を学び，ABD サマリを作成する 事前 ２：下記動画を視聴し，関連する話題に関して説明できるようになっておくこと. ・気候変動の対策 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPZjE
7	日本の食文化１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化１の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：日本の食文化２の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後：第１回レポート
9	地球共生デザインを考えるⅠ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：16、10（特に 10.2,10.3）、5（特に 5.1,5.2）、6（特に 6.3、6.6）、11（11.1,11.2）の ABD サマリを作成する。 事前２:【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考えるⅡ： 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：目標:16、10(特に 10.2,10.3)、4(特に 4.5,4.7)、6（特に 6.3、6.6)、11（11.1,11.2）の ADB サマリを作成する 事前２:前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

			めてみること。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
11	日本の国際貢献と法整備支援１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前１：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：以下の Web 記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html
12	日本の国際貢献と法整備支援２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前１：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前２：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf
13	持続可能な企業経営と ESG 投資１	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4 を学び、ABD サマリを作成する。
14	持続可能な企業経営と ESG 投資２	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する。
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17 の復習 事後：第２回レポート

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・理解度確認クイズ（個人：10%）
・事前・事後学習課題・ABD サマリ（個人：15%）
・取組み姿勢（チーム：20%）
・成果発表・プレゼンテーション１回（チーム：10%）
・振り返りシート（個人：20%）、・レポート２回（個人：20%）、・授業資料管理（個人：5%）
※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。

学生へのメッセージ

授業では，摂南大学のすべての学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等

【枚方キャンパス】大塚教授（薬学部１号館 5F）
【寝屋川キャンパス】村瀬准教授（１号館７F）、伊藤教授（１号館３F）、尾山教授（理工学部１号館９F）、白鳥准教授（１２号館７階）、佐藤准教授（１号館３F）、大川准教授（11 号館 9F）

備考

この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で，教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています．期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。

科目名	まちづくり入門	科目名（英文）	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷　樹一郎.池内　淳子.伊藤　譲.稲地　秀介.上野山　裕士.加嶋　章博.久保　貞也.中塚　華奈.野長瀬　裕二.野村　佳子.増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を続けている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	（1）まちづくりの課題を多面的に理解できる （2）大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する （3）主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多才な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果（資格）	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（1）	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	事前：シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後：授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（2）	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室　部長　大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（3）	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻　嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり（4）	グループ発表 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり（1）	産業とまちづくり 経済学部　野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり（2）	商業とまちづくり 経営学部　久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり（3）	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科　稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり（4）	観光とまちづくり 経済学部　野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり（5）	グループ発表 理工学部都市環境工学科　熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民（大学生）が関わるまちづくり（1）	まちづくりの担い手としての市民 法学部　増田講師	授業担当者から指示する
11	市民（大学生）が関わるまちづくり（2）	福祉とまちづくり 現代社会学部　上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民（大学生）が関わるまちづくり（3）	都市農業とまちづくり 農学部　中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民（大学生）が関わるまちづくり（4）	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科　加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民（大学生）が関わるまちづくり（5）	防災とまちづくり 理工学部建築学科　池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C科　熊谷教授	事前：これまでの講義の振り返り 事後：振り返りレポート

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題（60%）、事後レポートの採点結果（40%）とした上で、総合評価されます。
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室

備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的

本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。

本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。

なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。

到達目標

・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。
・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。
・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。
・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、

授業方法と留意点

・事前授業、現地派遣、事後授業の３つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、５限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。
・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。
・年度末にあたる2～3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出
5	成果報告会	留学での成果を披露	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship（EMI）、摂南大学PBLプロジェクトⅠなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）
現地活動評価　40%　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合）
事後授業評価　30%　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）

学生へのメッセージ

参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。

担当者の研究室等

鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）

備考

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名（英文）	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論（入門）. This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The course will also challenge students to rethink about their inherent ideas and values that are tied to their cultural environment. Additionally, building from the contents students should have learned from グローバル・シチズンシップ論（入門）, students will communicate their ideas with students abroad to expand their knowledge about global citizenship. *本科目の履修申請にあたっては以下の事項に留意すること。 - 本格目はグローバル・シチズンシップ副専攻を履修している２年次以上の学生を主な対象としているが、寝屋川キャンパスの２年次以上の学生であれば履修申込が可能である。 - 全て英語で実施される科目なので、履修者には少なくとも TOEIC500 点程度の英語力をあらかじめ備えていることが期待される。履修申請時には現在所持している TOEIC スコア等、自身の英語力を自己申告する必要があり、グローバル・シチズンシップ副専攻の履修者以外の学生については、履修の可否について選考が行われる場合がある。 - 本科目の開講曜日、時限は、履修登録後に登録済学生の各所属学部での時間割に配慮しつつ調整、決定されるので、平日の５限または６限といった遅い時間帯の開講となる可能性がある。 - そのほか、履修に関する留意事項について不明の点があれば２号館２階グローバル教育センター（旧・国際交流センター）に相談すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

関連科目：グローバル・シチズンシップ論（入門）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World　【※注意　この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
2			
3			

評価方法（基準）

Attendance and participation: 30%
Completion of assignments: 30%
Presentations: 40%

学生へのメッセージ

Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.

We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to lear

担当者の研究室等：教員室１（２号館２階）

備考：

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）	科目名（英文）	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ⅱ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。 なお、事前に承認された活動（例：協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト）の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 ・当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 ・異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（　）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループ
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	事前授業評価　30%　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　40%　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　30%　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名（英文）	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山　裕士.森　亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】事前配布資料を熟読する 【事後】本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて（オンデマンド）	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】経営学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部（食農ビジネス学科）における学びについて（オンデマンド）	農学部（食農ビジネス学科）教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】農学部（食農ビジネス学科）について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて（オンデマンド）	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】現代社会学部について調べる 【事後】講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
7	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教 材での事後学修内容をふりかえる　【事後】調査および対話内容の整理
8	農学部（食農ビジネス学科）における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供（問いかけ）とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを１つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】ポスター作成に向けた準備 【事後】ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】成果報告会の準備 【事後】成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成（オンデマンド）	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】レポート作成に向けた情報収集 【事後】レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック（オンデマンド）	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】各学部における学びの内容の復習 【事後】授業全体のふりかえり

関連科目：大学教養基礎Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：グループワークおよびポスター発表会への参画度合い（ピア評価；15%）、グループで作成するポスター（25%）のほか、個人で作成する事前学

（基準）	修シート（30%）、学びレポート（20%）、ふりかえりシート（10%）の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 3 号館 3 階　上野山研究室 2 号館 2 階　ラーニングセンター
備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024 年 9 月 3 日（火）、4 日（水）の 1 限～5 限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。 ・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に 60 時間程度取り組んでいただきます。

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名（英文）	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　正典
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ⅱ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01361a～1JT01365a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	平成 28 年６月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが一番の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。
到達目標	①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する ②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす ③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ ④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる ⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う
授業方法と留意点	①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する ②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること ③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
4	応用行動分析の基礎　1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を知る	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
5	応用行動分析の基礎　2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
6	コミュニケーションが苦手でこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
7	コミュニケーションが苦手でこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
10	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
11	保護者と良い関係が結べなかったと思う人へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援　1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援　2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る（２時間） 配布資料と授業内容を基に振り返る（２時間）

関連科目：心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / はじめてのポジティブ行動支援 / 松山康成 / 明治図書 2 / 保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック / 三田地真実他 / 金剛出版 3 /	
評価方法 （基準）	授業の出席・積極的参加　６０％　レポート４０％
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階　松浦研究室
備考	

科目名	人間関係論（ファシリテートレーニング）	科目名（英文）	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田　美保
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関り、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習	
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
8	体験学習④	コンセンサス実習① （正解のある課題）	体験での学びをまとめる
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② （正解のない課題）	体験での学びをまとめる
11	体験学習⑥	POPO（グループを観察する）	体験での学びをまとめる
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後にどう生かすか	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
3			

評価方法（基準）	実習参加態度（30%）、課題（20%）、期末レポート（50%）
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
担当者の研究室等	教員室２（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口　有芸.加野　佑弥.中澤　芽衣.松本　恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TKY1458a1,L科：LKY1360a1,D科・S科：IKY1367a1,J科：JKY1357a1,W科：WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いてABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身につけることを目指します．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている． (2)ABDによる読書法を身につけている． (3)チームワーク能力を身につけ，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDGｓとUNAIについて基礎的な知識を身につけている． (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている． (6)コミュニケーション能力を身につけ，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる． (7)自主的，計画的に学ぶ学習習慣を身につけている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術を修得します．教養の入門書として一般書を教材として，ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法やICTツールを活用して，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です．したがって，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識，ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法，自主学習の習慣などが身につく． 学習におけるICTツールの活用方法を知ることができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習：『おとなの教養』　序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門：第一章　宗教	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：教科書　第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章　人類の旅路	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門：第五章　経済	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：教科書　第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1時間以上） 事後学習：第１回レポートト（0.5時間以上）
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGｓとは何か 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDGs とは何か,指定した資料を調べる（1.5時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGｓを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：SDGｓとは何か，図書館，ネット等で調べる．自分の意見を持つ．(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：UNAIとは何かを調べる（1.0時間以上） 事後学習：第２回レポート（0.5時間以上）
10	自分を知る教養：岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章　「性格は変わらない」は本当か？ 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する（1.5時間以上）
11	自分を知る教養： 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第二章を読み事前学習シートを作成する（1.5時間以上）
12	自分を知る教養： 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	事前学習：教科書　第三章を読み事前学習シートを作成する（1.5時間以上）
13	自分を知る教養： 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：教科書　第四章を読み事前学習シートを作成する（1.5時間以上）
14	自分を知る教養：中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1時間以上） 事後学習：第３回レポート

				(0.5時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案（1.5時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK出版
2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法
（基準）

・授業への取り組み・ディスカッション 15%
・プレゼン相互評価・グループポスター 15%
・レポート 15%
・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20%
・クイズ 15%
・事前学習シート 15%
・ファイリング 5%

以上の評価点の合計で60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする．

学生への
メッセージ

この科目は摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の
研究室等

【寝屋川キャンパス】
坂口有芸（７号館５F），加野　佑弥（７号館５F），中澤芽衣（３号館３F），松本恭幸（３号館３F）

備考

この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています．また，学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居　英志.加野　佑弥.坂口　有芸.森　亜貴.米本　涼
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TKY1458a1,L 科：LKY1360a1,D 科・S 科：IKY1367a1,J 科：JKY1369a1,W 科：WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働して読書を行い，プレゼンテーションと対話を通じて，学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の入門的知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そして，知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法の基礎（要約，プレゼンテーション，対話）を身に付けている． (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる． (4)チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている． (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる． (6)テーマにそった対話（感想，質疑応答）を行うことができる． (7)自主学習の習慣を身に付けている．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説（教科書、ABD とは） 協働学習（p.18-47：要約，プレゼン，対話），振り返りシート	『おとなの教養２』序章を読み，事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？： 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け，役割分担，確認試験 解説（振り返りシート） 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第一章を読み，事前学習シートを作成する．
3	私たちはいま、どこにいるのか？： 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
4	私たちはいま、どこにいるのか？： 第三章「想像の共同体」	解説（事前学習シート）、確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 投票と表彰，振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する． ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度）
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表１回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	教科書第四章～六章を読み，事前学習シートを作成する． 事後学習：第１回レポート
6	説明力を鍛えるヒント： 第一章「間違いだらけの数学観」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み，事前学習シートを作成する．
7	説明力を鍛えるヒント： 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT（質問づくり） 協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第二章を読み，事前学習シートを作成する．
8	説明力を鍛えるヒント： 第三章「数学的思考のヒント」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第三章を読み，事前学習シートを作成する．
9	説明力を鍛えるヒント： 第四章「論理的な説明の鍵」	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明協働学習（要約・プレゼン・対話） 振り返りシート	教科書第四章を読み，事前学習シートを作成する．
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表２回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第２回レポート
11	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	『星の王子さま』1～10 章を読み，事前学習シート（要約、感想）を作成する（2 時間程度）
12	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み，事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話） 振り返りシート	教科書 21～27 章を読み，事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説，確認試験 協働学習（要約，プレゼン，対話）	教科書あとがきを読み，事前学習シートを作成する

		QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	
15	教養として文学作品に触れる：中間発表３回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答，評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2 時間程度） 事後学習：第３回レポート

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養２	池上彰	NHK 出版
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
3	数学的思考法―説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・授業への取り組み 15%
・プレゼン 15%
・レポート 20%
・振り返りシート 15%
・クイズ 15%
・事前学習シート 15%
・ファイリング 5%

以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．

担当者の研究室等

【寝屋川キャンパス】
坂口有芸(7 号館５F)，新居英志(7 号館 5F)，森亜貴(2 号館 2F ラーニングセンター)．加野佑弥（７号館５階），米本研究室（７号館５階）

備考

この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．この授業は原則的に対面で実施します．やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします．

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。 講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実に行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安：30分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS出版事業部	PS出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　7号館3階　全学教育機構
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.森　亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ⅱ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的

社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。
講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標

数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。
数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点

基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。

科目学習の効果（資格）

社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安：30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目

コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）

学生へのメッセージ

数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。
また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　全学教育機構

備考

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ⅱ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的

社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。
講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。

到達目標

数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。
数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。

授業方法と留意点

基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実に行い疑問を残さないよう心がけてください。

科目学習の効果（資格）

社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安：30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解（文章読解） 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)

関連科目

コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）

学生へのメッセージ

数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。
また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。

担当者の研究室等

寝屋川キャンパス　7 号館 3 階　全学教育機構

備考

科目名	簿記入門	科目名（英文）	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	①　簿記の基本的な仕組みについて理解する。(DP2) ②　簿記一巡の手続きについて理解し、日商簿記３級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。(DP2)
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を行う。授業計画に従い、各回の授業テーマについての解説を行う。毎回解説を行ったうえで、授業後半 20 分程度を使ってその日にやったテーマに関する小テストを実施する。小テストの答え合わせと解説は、次の回の授業の最初に行う。小テスト実施の際には、電卓が必要になるので、授業には必ず電卓を持ってくること。 また、授業で使う補足資料のプリントは、事前に Teams や Moodle で掲示するので各自プリントアウトして授業に持参すること。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、資産・負債・資本、収益・費用	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
6	簿記の基礎⑥	損益計算書及び貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
7	まとめ	第 1 回から第 6 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(3 時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3 時間)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越、小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
10	商品売買	三分法による商品売買取引の記帳、返品の処理、売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
14	手形･クレジット売掛金	手形の種類、約束手形の記帳、電子記録債権・債務、クレジット売掛金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収入金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・仮受金、差入保証金、受取商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
17	有形固定資産	有形固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
18	営業費･法定福利費･税金	営業費･法定福利費の記帳、税金の分類、法人税等・消費税の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
19	まとめ	第 8 回から第 18 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(3 時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3 時間)。
20	決算①	費用の前払い・収益の前受け	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
21	決算②	費用の未払い・収益の未収	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
22	決算③	試算表の作成 1(合計残高試算表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2 時間)。
23	決算④	試算表の作成 2(合計残高試算の作成及び売掛金明細表・買掛金明細表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2 時間)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2 時間)。
25	財務諸表の作成	損益計算書の作成、貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(2 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(2 時間)。
26	伝票	伝票の意味、3 伝票制、一部現金取引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
27	株式の発行、剰余金の配当と処分	株式会社の純資産、株式の発行・増資、剰余金の配当・処分	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(1 時間)。
28	まとめ	第 20 回から第 27 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する

			(3 時間)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(3 時間)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(3 時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3 時間)
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(3 時間)。 事後：間違えた問題を再度解く(3 時間)

関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式　日商簿記検定問題集　3 級　四訂版		実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%、定期試験 70%
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	Moodle のコース名および登録キーについては、授業の際にも周知します。

科目名	簿記入門	科目名（英文）	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＨＪＫＬＭＮＯ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	簿記とは，企業活動を一定のルールにもとづいて帳簿に記録する技術であり，この記録技術によって財務諸表とよばれる報告書が作成される。したがって，簿記を学習すると，企業がおこなうさまざまな活動を理解し、企業の報告書を分析することができる。
到達目標	①　財務諸表を作成する技術である複式簿記を用いて企業がおこなう取引を帳簿に記録できる。 ②　取引の発生から報告まで企業活動の全体像が理解できる。(DP2：経営諸科学に関する基礎知識) ③　他の会計関連科目の関連性が理解でき，会計に対する理解を深める。(DP2：経営諸科学に関する基礎知識)
授業方法と留意点	原則対面授業を実施するが，オンライン授業ツールである Moodle と Teams を利用する。 ・　講義レジュメ→Moodle から事前入手（講義時持参すること） ・　講義スライド→Moodle から事後閲覧（講義後、必要に応じて活用） ・　小テスト→Teams の該当講義日チャンネルで実施 ≫　Moodle（https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/） →コース→摂南大学→寝屋川キャンパス→経営学部→2024 年度簿記入門（呉）を検索し， →登録キー（2024）で自己登録 ≫　Teams コード（講義内で案内）で参加 ☆　病気や体調不良による欠席届は、必ず１か月以内に、診断書とともに、対面で提出してください。 ☆　学生証による出席確認ができなかった出席訂正は、講義日当日分のみ授業内で申し出てください。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎編：複式簿記	講義概要、簿記の目的、複式簿記	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
2	基礎編:貸借対照表と損益計算書	帳簿と財務諸表	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
3	基礎編：取引と仕訳①	取引と仕訳	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
4	基礎編：取引と仕訳②	仕訳と財務諸表	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
5	基礎編：転記①	仕訳と総勘定元帳	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
6	基礎編：転記②	総勘定元帳と財務諸表	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
7	基礎編：試算表	試算表とその役割	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
8	基礎編：決算①	決算手続と損益勘定	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
9	基礎編：決算②	決算手続と次期繰越	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
10	応用編：現金と預金①	現金と現金過不足	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
11	応用編：現金と預金②	当座預金と当座借越、小口現金	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
12	応用編：三分法	三分法と売上原価	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
13	応用編：返品と値引き	返品と値引き、諸掛り	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
14	応用編：商品有高帳①	先入先出法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：小テストを解く(20 分)、テキストの練習問題を解く(20 分)。
15	応用編：商品有高帳②	移動平均法	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
16	応用編：貸倒	貸倒損失と貸倒引当金	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
17	応用編：手形	約束手形の振出と受取	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
18	応用編:手形記入帳と電子記録債権	手形記入帳と仕訳、電子記録債権と債務	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
19	応用編:その他の債権と債務①	債権の取得と債務の発生	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
20	応用編:その他の債権と債務②	債権の消失と債務の消滅	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
21	応用編：固定資産①	固定資産の取得と売却	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
22	応用編：固定資産②	固定資産の減価償却	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
23	応用編：固定資産③	固定資産の期中取得と売却	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
24	応用編：営業費と税金	法人税法等、消費税、法定福利費	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
25	応用編:費用収益の見越し	未収収益と未払費用	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。

	26	応用編:費用収益の繰り延べ	前払費用と前受収益	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
	27	応用編：精算表①	6 桁精算表	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
	28	総合編：精算表②	決算整理事項	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
	29	総合編：精算表③	8 桁精算表	事前：教科書の予習(30 分)。 事後：小テスト(20 分)、テキストの練習問題(20 分)。
	30	まとめ	簿記の一巡のまとめ	事前：教科書の試算表、精算表の問題(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解答(30 分)

関連科目

財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式　日商簿記検定問題集　3 級　三訂版	渡辺正直　ほか	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級簿記の知識	山浦久司・大倉学	日経文庫
2	会計学入門	桜井久勝	日経文庫
3	決算書からすらすらわかる財務 3 表一体理解法	國貞克則	朝日新書

評価方法（基準）

小テスト 30%＋学期末試験 70%＝100%で評価する。
- 小テストはほぼ毎回 Teams より実施
- 期末試験は対面で実施予定

学生へのメッセージ

簿記は，帳簿に取引を記録する「技術」である。極めて簡単な仕組み（足し算と引き算のみ）であるが、慣れるまで記帳する練習が必要である。以下の学習方法を意識し練習することが望ましい。
- 事前に講義内容に関連するテキストの内容を「一読」する。
- 配布資料を活用し，「復習」する。テキストの問題を解いてみる。
- 毎回の講義は関連性が高く，「欠席」することは学習効果を下げることに注意する。
- わからないことはわかるまで「質問」する。
- 「電卓」を持参・利用する。

担当者の研究室等

11 号館 7 階(呉研究室)

備考

質問は、①講義内で質問、②Teams の質問チャネルで質問、③メールで質問、を活用してください。

科目名	簿記入門	科目名（英文）	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＰＱＲＳＴＵ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	「ビジネスの言語」といわれる会計情報がどのように作成されるかについて学習する。この会計情報の技術的基礎が複式簿記である。この講義では，複式簿記の基本概念から，財務諸表の作成までの一巡を説明する。
到達目標	①ビジネスの言語といわれる会計情報を学ぶことで，企業が開示する情報を理解する(DP2)。 ②複式簿記を学ぶことで世の中の仕組みについて理解を深める(DP2)。
授業方法と留意点	各講義の前半部分ではその時間の項目のポイントを整理して説明し，後半部分では講義の習熟度を高めるべく問題演習を行う。 簿記を全く学んだことがないということを前提に，基本的に日商簿記検定３級の範囲を取り扱う。 講義資料等はMoodle上に用意する。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定，公認会計士試験，税理士試験に向けた導入科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	概要の説明	事前：シラバスの確認(30分) 事後：講義資料の復習(30分)
2	簿記の基礎	簿記の５要素，取引の８要素の説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
3	仕訳	仕訳のルールについての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
4	商品売買１	分記法についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
5	商品売買２	三分法，掛取引についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
6	商品売買３	手付金の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
7	商品売買４	送料，商品券等の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
8	現金・当座預金	簿記上の現金，小切手についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
9	小口現金,クレジット売掛金	小口現金，クレジット売掛金についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
10	手形，電子記録債権・債務	手形取引の処理についての説明，債権債務を電子化したときの処理の説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
11	その他の取引１	貸付金・借入金についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
12	その他の取引２	有形固定資産の取得，売却時の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
13	その他の取引３	仮払金，仮受金，給与についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
14	試算表	決算整理前試算表の作成方法についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
15	中間試験	中間試験の実施と解説	事前：試験の勉強(60分) 事後：試験の復習(30分)
16	決算整理１	現金過不足についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
17	決算整理２	貯蔵品，当座借越についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
18	決算整理３	売上原価についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
19	決算整理４	貸倒れについての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
20	決算整理５	減価償却についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
21	決算整理６	経過勘定科目についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
22	精算表１	８桁精算表の作成方法についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
23	精算表２	基礎的な問題の演習と解説	事前：講義資料の予習(30分) 事後：問題の復習(30分)
24	精算表３	応用問題の演習と解説	事前：講義資料の予習(30分) 事後：問題の復習(30分)
25	資本取引１	株式の発行の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
26	資本取引２	剰余金の配当と処分の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
27	税金	法人税等，消費税の処理についての説明	事前：講義資料の予習(30分) 事後：練習問題の復習(30分)
28	個別問題	個別問題の演習と解説	事前：配布資料の予習(30分) 事後：問題の復習(30分)
29	総合問題	総合問題の演習と解説	事前：配布資料の予習(30分) 事後：問題の復習(30分)
30	振り返り	これまでの講義内容についての振り返り，質疑応答	事前：これまでの復習(30分) 事後：解説の復習(30分)

関連科目	財務諸表論入門，商業簿記，財務会計論，連結会計論，会計情報分析論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 3 級	TAC 株式会社(簿記検定講座) 編著	TAC 出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング 日商簿記 3 級	TAC 株式会社(簿記検定講座) 編著	TAC 出版
2			
3			

評価方法 （基準）	確認テスト(10%)，中間試験（20%），期末試験（70%）で評価する。
学生への メッセージ	簿記においては，積極的に手を動かすことが近道であり，問題演習を通じて講義の習熟度を高める。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井　宏幸
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。 後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科･科目の構造について学びます。 後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など）を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告表の記入	
2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	〔事後〕ミニッツペーパの作成(200 分)
3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
4	経営学部･商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
5	経営リテラシーの構造的理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
11	授業づくりの基礎(3)	ICT を活用する教材づくり	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(180 分)
12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	〔事後〕学習指導案の作成(240 分)
13	学習指導案の作成と授業の実際(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	〔事後〕学習指導案の作成(240 分)
14	学習指導案の作成と授業の実際(2)	授業の展開での板書・説明と発問	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	
16	ガイダンス「模擬授業演習の進め方」	後期の授業の進め方及び模擬授業の進め方	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
17	総合的科目	「課題研究」「総合実践」の教育の進め方	〔事後〕課題レポートの作成(240 分)
18	基礎的科目	基礎的科目の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス基礎」模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
19	基礎的科目	(1)「ビジネス基礎」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
20	ビジネス情報分野	ビジネス情報分野の教育の進め方	〔事後〕「情報処理」模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
21	ビジネス情報分野	(1)「情報処理」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
22	会計分野	会計分野の教育の進め方	〔事後〕「簿記」模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
23	会計分野	(1)「簿記」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
24	ビジネス経済分野	ビジネス経済分野の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス法規」模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
25	ビジネス経済分野	(1)「ビジネス法規」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
26	マーケティング分野	マーケティング分野の教育の進め方	〔事後〕「マーケティング」模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
27	マーケティング分野	(1)マーケティング」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)
28	４分野からの選択	ビジネス情報分野、会計分野、ビジネス経済分野、マーケティング分野から１分野を選択して模擬授業を行う準備	〔事後〕模擬授業のための学習指導案の作成(240 分)
29	４分野からの選択	(1)模擬授業	〔事後〕ミニッツペーパーの作成(200 分)

			(2)評価表の作成	
	30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、 及び自身が描く教員像について発表する	上記事後学習課題に要する時間も含め，総授業外学習時間は 120 時間である

関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。 簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版
2			
3			

評価方法 （基準）	課題レポート・ミニッツペーパー５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。
担当者の 研究室等	全学教育機構
備考	質問等はメール等で対応する。

科目名	情報科教育法	科目名（英文）	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し，情報教育のあり方について，学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え，担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また，指導案の作成，模擬授業の実施を通して，授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り，教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また，教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について，授業研究，教材設計，指導計画の作成を通して身につける。さらに，ディスカッションや模擬授業などを通し，て実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に，スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり，意見交換を行いながら学習指導案，学習教材などを作成するため，主体的・積極的な受講を求める。 なお受講生の状況により，弱点を徹底的に補うため，進度の変更を行うことがあることを留意されたし。
科目学習の効果（資格）	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化、共通教科情報科と専門教科情報科について	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
3	共通教科情報科の構成	共通必履修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」の内容構成	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
4	共通必履修科目「情報Ⅰ」の内容	「情報Ⅰ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
5	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（1）	情報社会の問題解決の学習内容	情報社会の問題解決について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
6	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（2）	コミュニケーションと情報デザインの学習内容	コミュニケーションと情報デザインについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
7	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（3）	コンピュータとプログラミングの学習内容	コンピュータとプログラミングについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
8	共通必履修科目「情報Ⅰ」の学習内容（4）	情報通信ネットワークとデータの活用の学習内容	情報通信ネットワークとデータの活用について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
9	情報教育の指導方法（1）	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	年間指導計画の作成、学習目標の明確化についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
10	情報教育の指導方法（2）	課題分析の方法、進め方	課題分析の方法についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
11	情報教育の指導方法（3）	評価の目的と対象、評価対象の具体化	評価の目的と対象についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
12	情報教育の指導方法（4）	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	学習課題に応じた評価方法についてまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
13	模擬授業：情報Ⅰ（1）	学習目標の明確化、学習指導案の書き方	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
14	模擬授業：情報Ⅰ（2）	教材研究の方法、授業分析	模擬授業の準備をする（150分） 教材研究、授業分析を行う（90分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半の振り返り、確認テストと解説	前半の内容を整理する（180分）
16	選択科目「情報Ⅱ」の内容	「情報Ⅱ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
17	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（1）	情報社会の進展と情報技術の学習内容	情報社会の進展と情報技術について調べまとめる(150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）

18	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（２）	コミュニケーションとコンテンツの学習内容	コミュニケーションとコンテンツについて調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
19	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（３）	情報とデータサイエンスの学習内容	情報とデータサイエンスについて調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
20	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（４）	情報システムとプログラミングの学習内容	情報システムとプログラミングについて調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
21	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（５）	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求の学習内容	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について調べまとめる（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
22	模擬授業：情報Ⅱ（１）	学習目標の明確化、学習指導案の作成	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
23	模擬授業：情報Ⅱ（２）	教材研究、授業分析	模擬授業の準備をする（150 分） 教材研究、授業分析を行う（90 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60 分）
24	模擬授業の展開（１）	学習目標の明確化、学習指導案の作成、教材研究	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150 分） 教材研究を行う（90 分）
25	模擬授業の展開（２）	相互評価、模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（150 分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90 分）
26	専門教科情報科の構成	専門教科情報科の内容構成、教育方法、共通教科情報科との差異	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
27	魅力ある授業の展開（１）	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
28	魅力ある授業の展開（２）	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
29	魅力ある授業の展開（３）	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150 分） 次回の内容を確認する（90 分）
30	全体のまとめと学力診断テスト	全体の振り返り、確認テストと解説、これからの教師に求められる授業力	後半の内容を整理する（180 分）

関連科目	情報関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	情Ⅰ706　図説情報Ⅰ	監修：渡辺美智子	実教出版
2	情 I706　図説情報Ⅰ　学習ノート	実教出版編修部	実教出版
3	高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説　情報編	文部科学省	開隆堂出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-	監修：　梅田恭子、齋藤ひとみ	実教出版
2			
3			

評価方法 （基準）	学習指導案などの成果物等（50%），学力診断テスト（40%），授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価 演習が中心となるため，継続的な授業への出席が必要です。
学生への メッセージ	学習者に対して授業を行うためには，周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（小林研究室）
備考	必要に応じて資料を配布します。

科目名	職業指導	科目名（英文）	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(１時間)。 事後学習：年間の学びの計画を立てること（３時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（２時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（２時間）。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（３時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（１時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（３時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（２時間）。 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(2時間)
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（３時間）。 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（１時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（２時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（３時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（１時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（２時間） 事後学習:自らの労働観について考えること(２時間)。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（２時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（２時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（２時間）。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えてくこと(３時間) 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（１時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと（１時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（３時間）。
14	模擬授業①	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（２時間）。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(２時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（３時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（１時間）
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（１時間）。 事後学習：後期の学習計画を立てること（３時間）
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習：商業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習：工業高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通課高校の職業指導事例に関すして調査すること（２時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（２時間）

20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（２時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）
21	職業指導･キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（２時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（２時間）
22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（２時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（２時間）
23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（２時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（２時間）。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILO の提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（２時間） 事後学習：配布資料を精読すること（２時間）。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AI による仕事の代替可能性について調査すること（２時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（２時間）。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（３時間）。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
27	就業力向上企画を立案②	・２６回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（３時間）。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること（１時間）
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（２時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（１時間）
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（１時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（２時間）
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（４時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（２時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	水野講師室（７号館３階）
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。
到達目標	研究倫理を遵守し､ファイナンス（金融）を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	原則として学生による発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表者だけでなく聴き手学生にも積極性を求めます。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはなりません。不幸にして欠席・遅刻しそうなら、教員に速やかに連絡すること。 また年末には卒研生（4回生）の卒論をルーブリック評価に基づき評価してもらう予定であり、これは皆さんへの評価にも直結します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習では所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。使う書籍は時には皆で決めることもあります。 発表者が発表準備をするのは当然ですが、聞き手学生も書籍の発表箇所を事前に読み、質問を考えておくことが重要です。また、適宜レポートも課します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ指導・教育する予定です。
関連科目	経営学関連科目、経済学入門、ICT 入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を仲間と協働しつつ率先して行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。年末の４年生卒論の評価も皆さんの評価の対象です。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となる。
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	本演習では、グループプレゼンテーションやグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論について学習する。
到達目標	①国際経営論に関する基礎的知識を習得する。 ②課題を分析して、自分の考えをまとめる力を身につける。 ③自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける。 ④他者と協同して主体的に課題に取り組む力を身につける。（ＤＰ５） ⑤適切な研究方法を習得し、研究倫理を遵守する重要性を理解する。（ＤＰ５）
授業方法と留意点	教科書を用いたグループプレゼンテーションと質疑応答、グループディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文献の輪読を通じて国際経営に関する基礎的な知識の理解を深めていく。発表グループは文献を熟読して内容をレジュメにまとめてプレゼンテーションを行う。その後、全体でグループディスカッションを行う。他のメンバーも事前に文献を読み、重要だ思う点と質問したい点についてまとめてくることが必要である。 なお、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
関連科目	経営学入門、経営戦略論、国際経営論Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新「国際経営」入門（第２版）	高橋浩夫	同文舘出版
2	東アジア優位産業―多元化する国際生産ネットワーク	塩地洋・田中彰編	中央経済社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	海外研究開発拠点の役割と進化　アジア新興国における日本企業の事例	畠山俊宏	三恵社
2			
3			

評価方法（基準）	下記の輪読の取り組み状況（100%）で評価する。 1.グループプレゼンテーションの内容 2.質疑応答における発言 3.グループディスカッションにおける発言
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館８階　畠山研究室
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、グループごとにテーマを設定して研究活動を行い、その成果を報告書としてまとめて発表を行う。
到達目標	①根拠に基づいて、論理的に自分の考えを説明する力を身につける。 ②明確でわかりやすいプレゼンテーションができる力を身につける。 ③適切な文献・資料を収集する力を身につける。 ④他者と協同して主体的に課題に取り組む力を身につける。（ＤＰ５） ⑤適切な研究方法を習得し、研究倫理を遵守する重要性を理解する。（ＤＰ５）
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループによる研究活動が主な活動になる。グループごとに研究調査、報告書の作成、成果発表に取り組む。 なお、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	経営学入門、経営戦略論、国際経営論Ⅰ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新「国際経営」入門（第２版）	高橋浩夫	同文舘出版
2	東アジア優位産業―多元化する国際生産ネットワーク	塩地洋・田中彰編	中央経済社
3			

評価方法（基準）	下記の取り組み状況（100%）で評価する。 1.報告書の内容 2.プレゼンテーションの内容
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11号館８階　畠山研究室
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 演習Ⅱでは、とりわけ、下記について取り組む。 ・演習Ⅰで修得した研究方法を意識しながら、卒業論文のテーマを決定する。 ・企業と連携し、製品開発等に取り組みながら、実践的なマーケティングについて学ぶ。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけではなく、「サービス」に関するマーケティングについても概説する。
到達目標	・研究倫理を遵守しつつ､マーケティングに関する諸問題に関心を寄せ、社会やゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけている。(DP5) ・業界や企業が抱える問題を発見し、それに応じた解決策を提案することができる。 ・質的・量的調査を通じて、消費者ニーズを的確に掴むことができる。 ・消費者ニーズを叶える製品の具体案を企業に提案できる。
授業方法と 留意点	・企業連携は、グループワークを中心に進める。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【前期】 1 回：授業の進め方について　役割・グループの決定 2 回～3 回：グループ毎に調査テーマの設定 4 回～9 回：調査の準備、および、実践 10 回～11 回：調査結果のまとめ 12 回～14 回：発表準備 15 回：発表 【後期】 1 回：授業の進め方について 2 回～14 回：卒業論文のテーマについて発表と議論 15 回：まとめ
関連科目	マーケティング、消費者行動論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	参加態度(役割・発表準備・発言)：40% 発表・発表資料：60%
学生への メッセージ	企業連携、是非、積極的に取り組んでください。
担当者の 研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約 1 時間程度)。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。 【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。
到達目標	①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。(DP5) ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。(DP5) 演習Ⅱの終わりには、4年次に提出する卒業論文序論を作成します。
授業方法と 留意点	①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③ビジネスプランコンテストに参加します。 ④卒業論文序論を作成します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」 【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかり聞くこと。発言等、授業へ積極的に参加した場合、加点します。 【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。 なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	0から1を生み出すデザイン思考の教科書	油井 毅	泉文堂
2			
3			

評価方法 （基準）	提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価（発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります） なお、出席が8割に満たない時は単位を認めない場合がある。
学生への メッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。
担当者の 研究室等	11号館8F　西之坊研究室
備考	①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	テーマ　経済データの利用 　日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。 （1）現状をよく知るために、新聞などを読む。 （2）理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 （3）論理的な思考をする。 （4）自分の考えを、口頭で発表する。 （5）形式の整った、内容のあるレポートを書く。 演習１を踏まえて、卒業研究のテーマを決め、研究を深める。 リモート講義、質問の対応は teams を使います。
到達目標	(1) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 (2) 正しい情報、データを入手し、分析できる。 (3) 論理的な思考をする。 (4))問題解決のための計画を立案し、計画を実行に移すことができる。 (5) 研究倫理を守ることができる。(DP5) (6) 他者と協働して、問題の解決に主体的に取り組むことができる。(DP5)
授業方法と 留意点	発表と討論による講義。出席と授業中の発言が、最も重視される。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書
2	データ分析をマスターする 12 のレッスン	畑農鋭矢・水落正明	有斐閣アルマ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。欠席は 10 点減点の原則です。具体的には第 1 回目の講義でお知らせします。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 7 階杉本研究室
備考	上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、演習Ⅰで学んだことを踏まえて、さらに進んだ管理会計の理論や実務について学ぶ。1980年代後半以降、伝統的な管理会計の理論や実務の限界が指摘されるようになり、戦略管理会計という新しい管理会計の研究が行われるようになった。そこで、本演習では、主としてこの戦略管理会計に焦点を当てて、授業を行う。
到達目標	研究倫理を遵守し、管理会計や経営管理に関する問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。(DP５)
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。毎回、発表者を事前に指名し、各回の授業テーマについて教科書の内容をまとめたレジュメを作成してもらった上で、それに基づき報告をしてもらう。報告の後で、授業の参加者でその内容について議論を行う。前期は個人で報告してもらい、後期はグループで報告をしてもらう。 授業に関する連絡を行うためにTeamsを利用する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書１章分。前期は、戦略管理会計の理論について書かれた教科書を用いて、ABCやバランス・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法について学ぶ。後期は、ABCやバランス・スコアカードなどのケース・スタディが書かれた本を教科書として用いて、実務において戦略管理会計の諸技法がどのように活用されているのかを学ぶ。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(2時間)。また、授業後にその日の授業内容についてまとめたレポートを毎回作成し(2時間)、次の授業の際に提出してもらう。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート80%、発表・授業中の発言20%
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示します。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	企業（または，世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し，問題を解決する方法を学習し，分析をおこない，わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	多様な社会の諸問題から研究テーマを発見し、問題解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけるために、 ①　研究目的に関連する背景（新聞記事，関連書籍）を調べ，説明する。(DP5) ②　研究テーマに関連する先行研究を把握する。(DP5) ③　卒業論文の序論を作成する。(目的，背景，先行研究，予想結果) ④　研究目的が達成できる分析方法を決定し，関連知識を取得する。(DP5) ⑤　将来の夢と希望就職先を具体的に決め，関連情報を収集する。
授業方法と 留意点	演習 2 では，学生自ら決めた研究テーマを用いて，研究目的，背景，先行研究，分析過程と結果について，プレゼンを行う。また，分析の客観的な根拠となるデータ分析に関する知識について学習する。 ①　　ゼミの活動に積極的に参加すること ②　　やむを得ない事情を除き，出席すること ③　　ディスカッションに積極的に参加すること ④　　学内で生じた問題については素早く相談すること
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	＋　前期では， 1. 研究目的，背景，演習①で指定した関連書籍の内容を発表する。 2. データ分析に関する知識について学習する。 3. 希望就職先に関する情報を収集する。 ＋　後期では， 1. 研究目的に合わせた分析を実施し，その結果を報告する。 2. 就職活動について，就職部，先輩の話を伺い，希望就職先を具体化する。 ＋　データ分析については，事前に課題などが提示される。提示された課題については，報告者でなくても事前に内容を読んでおき，わからない用語等を調べるなどし，ディスカッションに参加できるようにする。(詳細な計画については初日の演習で告知する)
関連科目	経営学に関連する授業全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫

評価方法 （基準）	研究論文の序論作成 30% 分析内容の報告 30% グループワーク・ディスカッションのへの参加，発表，報告，などの総合評価 40%
学生への メッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく，学生主導の学習の場であります。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し，参加するなど，イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階
備考	Teams で実施することもあります。また，課題の提出は DROPBOX を利用します。提出課題については，DROPBOX でフィードバックする予定です。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	【教養演習】 ・日商簿記３級の取得（履修生全員）　、金融機関への就職希望者については日商簿記２級の取得 ・TOEIC 試験への挑戦を重なることによる、TOEIC 点数の向上 ・株式投資シミュレーションによる資産運用の基本的な技法・知識の習得 ・Python、Ruby 等（コンピュータ言語）を用いたプログラミング技法の習得 【専門演習】 ・アイデアプランニング、特許活用製品企画に係るコンテストへの参加（チーム単位） ・企業研究およびインターンシップへの実習 ・卒業研究に必要な事前調査
到達目標	企業人材に必要とされる教養および専門知識が身に付きます。（ＤＰ５） 特に文科系学部だからと選択肢を狭めず、自身の能力を発揮できる業務の選択、企業で即戦力となりうる技能・知識を習得し、知恵としての応用力を高めます。（ＤＰ５）
授業方法と 留意点	対面による演習を実施します。 コンテスト参加については、チーム単位によるディスカッションを基本とします。 他の演習回については、毎回提示する課題解決のため、各自所有のノートパソコンを使用。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	１．コンテストへの参加 以下の内から各自、１つ選択。４名程のチームを編成。ディスカッションによる提案書作成・提出 ①開放特許を活用したビジネスアイデアコンテスト［経済産業省］ ②地域活性化アイデアコンテスト［経済産業省］ チーム自治による適宜、ディスカッションの時間、場を設定し、課題整理と提案書の作成を行う。 ２．企業研究 データに基づく企業訪問（一人あたり２社程度）　　個別指導による実施 ３．インターンシップの実施（夏期休暇中）　就職部と協働の上、実施企業を選定する。 ４．投資シミュレーション（株式投資） 「演習Ｉ」に続き、シミュレーションソフトを活用した自身の投資スタイルの構築を目指す。 ５．Ruby および Python（プログラミング）の組み立て方 課題に対し、各自所有のノートパソコンによるプログラムの実施。 ６．卒論研究の準備 テーマ選定（何を研究するのか） 仮説（事象）検討と解決策（調査方法）の検討 ７．TOEIC 受験回数経過による得点増進。 日商簿記３級の全員取得 日商簿記２級への挑戦（金融機関就職希望者のみ）
関連科目	「演習Ｉ」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	コンテスト結果（採択、表彰など）を問うものではなく、各演習課題への取組姿勢、理解度、応用による自己解決能力を個別指導により評価する。
学生への メッセージ	就職まで１年しかないという自覚の基に、真剣に取り組み自身の能力を最大限に引き出すことを目指してほしい。
担当者の 研究室等	１１号館７階＜林研究室＞
備考	ノートパソコンは演習の際には持参すること。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。
到達目標	研究倫理を遵守し､ファイナンス（金融）を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行います。発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表の準備をする人はいうまでもありませんが、聞き手の学生にも積極性を求めます。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しいと思います。 また年末には４年生の卒論をルーブリック評価に基づき評価をしてもらう予定です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月から６月にかけてテーマを選定し、順次作成します。１２月末までに８０％の完成を目指します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する予定です。
関連科目	経営学関連科目、経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を入念に行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。また、他のゼミ生の発表に対して積極的に質問する態度も大きな加点の対象となる。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となるのは想像がつくでしょう。
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。
担当者の研究室等	11 号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・ 目的	近年、企業を取り巻く環境は複雑化している。その中で、企業の財政状況や経営成績を正しく把握する能力の必要性はますます高まっている。 会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれ、企業の情報を読み解くためには必須の知識である。 この講義では、会計学の基礎的な知識を習得するとともに、会計学を実社会で有用に用いる方法を学習する。
到達目標	・実社会で会計というシステムがどのように扱われているのかを理解する。 ・会計情報を読み解くために必要な必要最低限の会計学の知識を習得する。 ・会計情報を根拠として、企業の状態を推量することができる。 ・卒業論文のテーマを思索し、研究を行う方策を計画することができる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同性を習得する。(DP5) ・研究倫理を理解し、実践することができる。(DP5)
授業方法と 留意点	講義形式ではなく，学生の参加形式であり、会計知識の習得・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなどを予定しています。 講義は基本的にアクティブラーニング形式ですので、個々人の積極的な参加が不可欠です。必ず出席をするようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、担当教員へできる限り事前に連絡してください。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	・前期の講義では、グループごとで企業の財務分析を行い、各グループの報告に基づいたディスカッションを行う。 ・後期の講義では、グループごとに研究テーマを策定し研究成果をまとめ、報告会で報告を行う。 ・該当講義および次回の講義テーマに関して、課題を提示する。事前および事後にわからない用語・事象など自ら調べ、円滑にディスカッションをできるように準備しておくこと。 講義の各回の詳細な内容などは初回授業で告知する。
関連科目	財務会計論など会計学に関する講義全般 ファイナンスに関する講義全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネススクールで教える経営分		
2	財務会計講義(第 23 版)		
3			

評価方法 （基準）	討議参加の積極性　20% グループワークでの協同性　30% 報告会での報告　50%
学生への メッセージ	この講義はゼミ形式の講義です。教員はあくまでもみなさんのサポート役です。主体的に参加し、この講義を有用に活用してください。また、議論したい、あるいは掘り下げてみたいテーマなどがあれば、積極的に提案してください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　伊瀬研究室
備考	感染拡大時における授業方法の変更などの留意事項に関しては、ゼミ所定の連絡方法で連絡しますので、こまめに確認しておいてください。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、専門演習Ⅰで学んだことをベースとしつつ、中小企業等の企業への訪問や工場見学を含めたフィールドワーク、企業家らとの交流などを引き続き実施する。これらの実践的な学習を通じ、さまざまな企業や人の考えに触れることにより、卒業論文の執筆に向けた各自の問題意識を深めることを目的とする。
到達目標	フィールドワークや共同プロジェクト等の実践的学習を通じて、 ①企業を含むさまざまな社会の諸問題に関心をもつ態度を身につけることができる。（ＤＰ５） ②中小企業の分析を行ない、当該中小企業が強み、弱み（課題）を発見できる。（ＤＰ３） ③分析を通じてあきらかになった中小企業の強み、弱み（課題）を解決するための方策を提案できる。（ＤＰ４） ②卒業論文の執筆に向けた各自の問題意識を深める。
授業方法と留意点	・フィールドワークの実施日時は、先方やゼミ生のスケジュールを調整のうえ決定するが、夏休みや春休み等を含めた演習の時間外になる可能性が高い点に留意しておくこと ・グループワークが基本となることにくわえ、フィールドワークや企業家等の学外の人たちとの交流もある。極力欠席はしないようにすること。体調不良など、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること ・他大学との交流（合同ゼミ）や共同プロジェクトを実施する場合がある
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習は、企業（とくに中小企業）と企業家をテーマとして進めるが、それに際しては、工場見学や企業訪問などのフィールドワークや企業家らとの交流をはじめとする、実践的な学びを重視する。 なお、本演習の軸となるフィールドワークでは、事前学習［文献調査、アポ取り、質問作成など］、事後学習［記録および報告資料の作成、プレゼン、ディスカッションなど］を含む）が必要となる。そのため、ゼミ時間外における準備等を含め、能動的な参加が求められる
関連科目	専門演習Ⅰ、卒業研究、中小企業論、地域産業論など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	フィールドワークへの参加、報告資料、プレゼン、ディスカッションでの積極性、レポートなどを含め、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メリハリをつけて、ゼミ活動を楽しみましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階 木下研究室
備考	参考書は適宜紹介し、教科書は必要であれば指示する

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	企業経営について関心のあるテーマを選定し、経営学の理論を用いて分析して卒業論文を作成する。
到達目標	①情報を幅広く収集・分析して新たな課題を発見する能力を習得する。（ＤＰ３） ②目標を明確に設定し、その達成のために適切な計画を立案し、実行する能力を習得する。（ＤＰ４） ③データベース等の使い方を理解し、適切な文献・資料を主体的に収集する能力を習得する。（ＤＰ５） ④適切な研究方法を習得し、研究倫理を遵守する重要性を理解する。（ＤＰ５） ⑤収集した文献・資料に基づいて、多面的な視点から分析する能力を習得する。（ＤＰ６） ⑥経営学の理論を踏まえて、研究目的に対して論理的に結論を導ける能力を習得する
授業方法と留意点	卒業論文の作成と最終発表会を行う。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	各自でスケジュールを立てて卒業論文を作成する。適宜、ゼミ内での進捗報告とディスカッションを行い、内容を深めていく。 提出を許可するまで定期的にゼミに出席して指導を受けることが必要である。なお、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	演習Ⅰ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	経営学部のルーブリックに基づいて卒業論文（90%）、最終発表会（10%）で評価する。
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	テーマ　経済データの利用 日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そのため、日本の企業。社会、経済の現状を分析する文献を手掛かりにその方法を学ぶ。 自分で問題を設定できる、　その問題を分析するための情報を収集できる.、情報、データを有効に活用できる能力を発揮できるようにして下さい。　演習１，２を通して考えてきた自分の研究をテーマの卒業研究を完成させていく。 講義の連絡、質問の受付などは teams を利用します。
到達目標	(1) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。(DP3) (2) 正しい情報、データを入手し、分析できる。(DP3) (3) 論理的な思考をする。(DP４) (4))問題解決のための計画を立案し、計画を実行に移すことができる。(DP4) (5) 研究倫理を守ることができる。(DP5) (6) 他者と協働して、問題の解決に主体的に取り組むことができる。(DP5) (7) 知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション能力と情報・データの活用を通した表現力を身につけている。(DP6)
授業方法と 留意点	個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。
授業テーマ・ 内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究の製作。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業での取り組み、卒研レポート、報告などで総合的に評価。 （１）日本語として成立しているか？（２）内容の充実（３）文献リスト（４）過去の研究の総括（５）独自性が卒業研究の採点ポイントとなる（詳細は経営学部のルーブリック評価に従う） 具体的採点基準は授業中にお知らせします。
学生への メッセージ	卒業研究の内容が重要なのは言うまでもないが、形式を整えることも必要である。またプレゼンテーションも重視される。いずれにしろ、早めに準備することが大切である。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階杉本研究室
備考	【学生へのメッセージ】 上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	卒業研究テーマに関連する経営現象について、今まで学んできた経営学の諸理論・諸概念を用いながら分析し、卒業研究論文を執筆していきます。 自分自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深めていきます。自分自身でしっかりと理解した内容をもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成させること。さらに、完成した卒業論文の内容を中間発表会および最終発表会でプレゼンテーションを行います。
到達目標	①研究倫理を遵守し､人材マネジメントを中心とした経営的課題に関心を寄せ､ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる（DP５）。 ②情報・データの収集・分析ができ、論理的思考を通して問題を発見できるようになる（DP３）。 ③発見した問題について、多角的視点から思考・判断し、問題解決のための計画立案・実践を通して問題を解決できるようになる（DP４）。 ④コミュニケーション能力の向上ならびに多面的視点に基いた情報・デ
授業方法と 留意点	文献研究及び事例分析
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	［授業内容］ 各自の研究テーマに沿って、文献、事例を分析していきます。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、併せて取り上げ、教育・指導します。 ［研究テーマ］ 戦略、組織、人に関わる組織マネジメントの諸課題に取り組んでいきます。 ［学習課題］ 常に新聞や専門雑誌に目を通し、研究テーマに関わる経営現象をチェックしておきましょう。 なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	経営管理論、経営組織論、人的資源管理論、組織行動論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間発表会 25%、最終発表会 50%、学部ルーブリックに基づいた評価を 25%の割合で評価する。 また、中間発表会および最終発表会では、それぞれ発表したところまでの卒業論文提出を必須とする。 なお、就職活動および慶弔関係以外でゼミの講義を８割以上出席しないと単位は認めない場合がある。
学生への メッセージ	他メンバーとの意見交換を積極的に行い、切磋琢磨しながら卒業研究論文に取り組んでいきましょう。
担当者の 研究室等	１１号館８階　西之坊研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	卒業研究は、演習（ゼミナール）の締め括りである。これまで学んだ経営学の領域から、自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深め、自身の理解のもとに、「論文」にふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成する。加えて、発表会において、完成した卒業論文の内容をパワーポイントを用いて各自プレゼンテーションを行う（持ち時間は質問を含め 20 分）。
到達目標	経営学部のルーブリック評価表に基づいて、論理的な内容をもち、形式の整った研究論文を仕上げる。それによって、分析力、判断力、主体性を身につける（ＤＰ３）（ＤＰ４）（ＤＰ５）。 論文内容を他人に説明するプレゼンテーション能力を身につける（ＤＰ６）。 他人の報告について、質問・コメントすることのできる能力を身につける。
授業方法と 留意点	卒業論文について、テーマの選択から、使用する資料、ストーリーなど、論文完成に向けて、個別の相談に応じます。進捗に沿った各段階での経過報告とプレゼンテーションに対して個別指導を行います。 卒業論文の完成に向けて少しずつだが、着実に、前進することが肝要です。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	卒業論文のテーマに関しては、経営学に含まれるものが望ましいが、特にこだわらない。企業ないし産業に関連するテーマであればよい。 卒業論文の完成と発表会での口頭報告を目指して、「割り当てられた日時に、経過報告・予備的なプレゼンテーションを行い、今後の作業についての指導を受ける」、というルーティンを繰り返す。 加えて、著作権や個人情報の保護など卒業論文の作成に際しての研究不正行為に改めて注意を喚起する。
関連科目	経営戦略論、経営組織論、企業分析（経営戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	卒業論文の内容と形式に関するルーブリック評価（50%）および卒業論文発表会での口頭報告の実施とその内容（50%）
学生への メッセージ	自ら、テーマを選定し、資料を収集し、形式を整えた論文の作成と報告という経験を通じて、自立した社会人（ビジネスパーソン）となるための第一歩を築いてください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	・3 年時後期から各自進めている企業分析をさらに進め、卒業論文を完成させる。また、実際の企業、経営、経済の動向について、会計領域に限定せずにその内容等を調べ、経営学全般の知識の修得に努めるとともに、社会人基礎力を身につける。加えて、不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
到達目標	・自分自身で、研究テーマを決める。何が問題なのか、何を調べたらいいのか、明らかにしたいのか、問題意識を明確に持ち問題　解決に主体的に取り組む。(DP5) ・テーマに沿って、必要な情報を収集し、分析し、問題を発見し解決し、説明できる能力を身につける（DP3） ・研究のプロセス管理がきちんとでき、計画に沿って研究を実践することができる。(DP4)。 ・研究内容を論文として書き上げる。 ・知的職業人として活躍するために必要なコミュニケーション能力と会計情報・データを活用し、研究内容を、他人に分か
授業方法と 留意点	基本的には、各自の進捗度の沿った個人指導が中心となるが、全員で中間発表、最終発表を行う卒業論文の経過発表を行い、必要に応じて修正、加筆を行う。 卒業論文完成後にゼミで発表会を開催する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	・各自のテーマにそって卒論を作成し、ゼミでプレゼンテーションを行う。 ・論文の内容はもちろんですが、そのまとめ方、論文の概要を分かりやすくまとめ、きちんと相手に伝わるようにプレゼンテーションができる、自分の意見をきちんと説明できるコミュニケーション能力の修得に努める。そのために、通常のゼミ室ではなく、プチテアトルで２，３，年次生の前でプレゼンテーションする機会を設ける。 ・実際の経営の現場を体験するために、校外学習（工場見学等）を実施する。 ・、卒論のチェックは、メールを利用して実施します。必要に応じて対面で個人指導を実施します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	研究への取り組み姿勢と卒業論文の経営学部ルーブリック評価などに基づき総合的に評価する。
学生への メッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。
担当者の 研究室等	11 号館８階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	各自選定した経営管理・管理会計に関するテーマに基づいて作成していく卒業論文の指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、様々な調査や文献・資料の収集を行い、論文を完成させていく。授業では、毎週交代で数人に卒業論文の中間報告をしてもらい、教員や他の受講生と意見交換をしながら、内容面・形式面の充実を図っていく。 並行して、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。
到達目標	①　研究倫理を遵守し､管理会計を中心とした経営問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。(DP５) ②　情報・データの収集・分析ができ、論理的思考を通して問題を発見できるようになる。(DP３) ③　発見した問題について、多角的視点から思考・判断し、問題解決のための計画立案・実践を通して問題を解決できるようになる。(DP４) ④　コミュニケーション能力の向上ならびに多面的視点に基いた情報・データを活用した
授業方法と 留意点	演習形式で授業を行う。卒業論文の作成に真摯に取り組み、４年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。授業では、受講生にレジュメを作成してもらい論文の中間報告や最終成果報告を行ってもらう。 授業に関する連絡を行うために Teams を用いる。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。 資料・文献の収集、調査、論文執筆については、授業時間以外の時間に行う。授業時間以外において積極的に研究を進めていく姿勢が重要である。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	論文 80%、発表 20%
学生への メッセージ	卒業論文は大学での 4 年間の学びの集大成です。しっかり頑張りましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	論文・発表の評価は、経営学部のルーブリック評価基準表を用いて行う。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	企業（又は、世の中で経済活動を行う経済主体)に関連する社会問題を発見し、問題を解決する方法を学習し、分析をおこない、わかった知識を社会に発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	多様な社会の諸問題から研究テーマを発見し、問題解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけるために、 ①　社会諸問題から，専門分野の課題を発見し，研究目的を明らかにする。(DP3) ②　研究目的に関連する先行研究（関連書籍・論文）をサーベイする。(DP3) ③　分析方法を決定し，分析を実施する。(DP4) ④　研究成果を文章としてまとめ，進捗報告を行い，コメントを求める。(DP5，6) ⑤　コメントを反映し，研究内容を調整する。(DP5，6) ⑥　卒業要件を満たす成績管理
授業方法と 留意点	卒論の相談は、①対面、②Teams、③Zoom で対応する。 卒業研究では、演習１と２で実施した研究テーマ、目的、分析内容を用いて、卒業論文を執筆し、進捗状況を随時報告する。(進捗状況によっては、週１回以上報告を実施することもある) ①　指導教員からのコメントを必ず反映し、次回の報告に挑む。 ②　他の報告に支障がないように、報告予定日を守る。 ③　卒論進捗報告とともに就職活動状況も報告する。 ④　学内で生じた問題については素早く相談する。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	＋前期では、 1. 各自の研究計画に沿った分析を実施する。 2. 研究内容に関連する先行研究（関連書籍・論文）をサーベイする。 3. 卒業論文を執筆する。 ＋後期では、 1. 卒業論文を完成する。 2. 卒業論文報告会に実施する。
関連科目	経営学に関連する授業全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
2	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版
3	戦略思考で読み解く経営分析入門	大津広一	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	卒業論文 70% 卒業論文報告会 30%
学生への メッセージ	就職活動、成績管理、卒業論文など、忙しい１年になると思います。皆さんが希望する就職先、満足する卒業論文が完成できるように頑張りましょう。
担当者の 研究室等	11 号館７階　呉研究室
備考	演習Ⅱと同様、Teams で対応することがあります。ゼミラインなどを随時確認ください。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	卒論作成に向けた個別指導を実施します。なお、３年次に策定した「卒業論文計画書」に従い、順次、仮説の立証に向けた調査および考察をしてもらいます。 また卒業論文計画書に記載したスケジュールに従い、「中間ドラフトの開示」および提出に向けた個別修正・訂正、追加見解の必要性など指示します。
到達目標	４年次の８月末までに原案を提出し、11 月末までの完成（提出期限）を目指し、各自で随時、進捗を確認して完成を目指します。 また、12 月末までに論文発表会を開催します。 ①社会生活における問題点など、新聞や書籍および研究論文を参考に、自身としての研究課題を見い出しテーマを設定すると共に、疑問に対する仮説の検証と論理的解決策を導き出す。（ＤＰ５） ②フィールド調査、ＩＴ活用によるネット調査を自ら企画・検討すると共に、得られた情報の統計的分析による客観的なデータ解析能力を身に付ける。（D
授業方法と 留意点	原則、Teams での個別相談または研究室での対応とします。 対面の際には、自身の PC を持参の上、授業に参加すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	【授業テーマ・卒論計画】 ・４月中旬：「卒論中間発表」　３年次に策定した「研究計画書」に基づく卒業研究の進捗を報告 ・５月～７月末：「各自仮説の検証」　仮説検証のためのアンケート調査、フィールド調査の実施 ・８月末：「原案の提出」　卒業研究論文の原案を提出 ・９月末：「原案の第一次校正」　個別に卒論原案に対する第一次校正を実施 ・１０月末：「第二次校正」　個別に第二次校正を実施 ・１１月末：「論文完成　提出」 ・１２：月中旬：「論文発表会」の開催 【方法】 ・全体での見直しまたは個別指導 【学習方法・課題】 ・自身の「研究計画書」に従い、各期限遵守による計画性をもった卒業研究を進めること。 ・疑問または研究方法で問題等が発生した場合は、逐次、連絡し方向性を正すこと。 ・先行研究論文は「研究計画書」策定後および研究途上でも、必要とあれらば取り寄せ、参考とすること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	中間ドラフトの提出と内容の精査（評価割合：30%） 第１次原案提出による論文進捗評価（評価割合：30%） 完成論文の評価（40%）
学生への メッセージ	各自の「卒論研究計画書」に従い、実効性の伴う調査をしてもらいたい。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　林研究室
備考	各定められた提出期限を厳守する事。提出が遅れた場合は総点より減点となりますので注意の事。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	演習Ⅰ、演習Ⅱの取組成果を卒業論文にとりまとめます。 これまでに獲得した知識や経験を後輩のゼミ生に伝承するとともに、上位年次の立場から後輩指導にも注力してください。
到達目標	（1）AI 等の情報処理技術を上手に使う術を知り、新しい技術やビジネスに興味を持つマインドが育つこと（DP３、DP５） （2）研究チーム毎の活動において自らの役割や立場に応じた適切な行動をとることができ、チームとして一定の目標を達成すること（DP４、DP５、DP６） （3）演習Ⅰ、演習Ⅱの成果を卒業論文にまとめること
授業方法と 留意点	前半は、AI に関する座学と実習をとおして、最先端の ICT を上手に使う術を身に着けてもらいます。 そのあと、学年混合チームを結成し、チーム毎にテーマを決め、設定課題の解決に向けた取り組みを実行してもらいます。 具体的なテーマは、共同研究や社会情勢に応じて、適宜変化します。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	座学と実習を通じて ICT を使いこなす知識と技能を習得します。 ゼミ内でのディスカッションを受けて、学年混合チームを結成し、社会ニーズに合致した研究プロジェクトを立ち上げます。 ゼミでは、大きなスケジュールは提示しますが、細かなスケジュールは学生自らが考えて設定することを基本とします。 皆さんの自発的な行動を期待します。 プロジェクトの進捗が悪い場合や、コンテンストの締切前などは、講義時間外の学習時間が長くなる場合があります。
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題への取組姿勢、出来栄え、討議への参加意欲で総合的に評価します。
学生への メッセージ	意思決定の軸は常に自己成長と捉え、ゼミ活動には積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　塚田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	卒業研究では、下記について取り組む。 ・演習Ⅰ、演習Ⅱで修得した研究方法を意識しながら、卒業論文を執筆する。 ※授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけではなく、「サービス」の視点からもマーケティングに関する指導を行う。
到達目標	・研究倫理を遵守し､マーケティングを中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し、積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５) ・情報・データの収集・分析ができるようになる。(DP３) ・論理的思考を通して問題を発見し、その問題を解決できるようになる。(DP４) ・コミュニケーション能力の向上ならびに多面的視点に基づき情報・データを活用した表現ができるようになる。(DP６)
授業方法と 留意点	・個人指導を中心とする。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	【前期】 1 回：授業の進め方について。スケジュールの確定。 2 回～14 回：卒業論文の執筆。途中に報告会での発表。 15 回：前期の成果と反省 【後期】 1 回：授業の進め方について。スケジュールの確定。 2 回～14 回：卒業論文と発表。 15 回：後期の成果と反省
関連科目	マーケティング、消費者行動論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	ルーブリック、および、発表をもとに評価を行う。
学生への メッセージ	最終学年です。 これまでの学びを論文にまとめあげて下さい。
担当者の 研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約 1 時間程度)。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前にお伝えします。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	演習ⅠおよびⅡで習得した知識や技能を用いて、企業、広くは経済活動を行う主体が抱える問題を発見し、問題解決のための方法を分析・考察することを目的とする。
到達目標	①　経済主体が抱える諸問題から課題を発見し、課題解決のための情報収集・分析能力を身につける。(DP3) ②　課題解決のために自ら計画を立案し、実行する問題解決力を身につける。(DP4) ③　社会・研究倫理を遵守し、問題解決に取り組む (DP5) ④　研究・調査結果を文章としてまとめ、定期的な進捗報告を行い、教員および他のゼミ生からの意見を求める (DP5,6) ⑤　他者からの意見を参照し、研究内容を進捗・改善する。(DP5,6)
授業方法と 留意点	卒論の相談は、対面・Zoom など研究成果を教員と学生が同時に確認できる媒体で行う。 卒業研究では、演習１と２で実施した研究テーマ、目的、分析内容を用いて、卒業論文を執筆し、進捗状況を随時報告する（進捗状況によっては、週１回以上報告を実施する)。 また、執筆にあたり、締切を含む各期日を厳守し、執筆計画を管理すること。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	【前期】 ① 卒業研究で調査する研究目的・内容を明確化する。 ② 研究内容に関連する文献を渉猟する。 ③ 卒業論文を執筆する。 【後期】 ① 卒業論文を完成する。 ② 報告会において論文内容を報告する。
関連科目	経営学に関連する授業全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	財務諸表分析〈23 版〉	桜井久勝	中央経済社
2	財務会計の理論と実証	ウィリアム・R・スコット，パトリシア・C・オブライエン	中央経済社
3	会計ディスクロージャーの経済分析	椎葉淳、 上枝 正幸 、高尾 裕二	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	卒業論文 70% 卒業論文報告会 30%
学生への メッセージ	卒業論文の執筆と並行して、就職活動・進学準備など非常に多忙な一年となるかと思います。執筆計画を自己管理し、大学生活の集大成であると満足できる論文を完成できるように頑張りましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(伊瀬研究室)
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・ 目的	演習Ⅰ・Ⅱを通じて学んだことをベースとしつつ、各自関心のある研究テーマを選定し、そのテーマに関する先行研究のサーベイ、データや情報の収集、および分析を行ない、卒業論文を執筆し、完成させる。
到達目標	①各自の選定した研究テーマに関する先行研究のサーベイやデータ・情報の収集、分析を通じて、当該テーマにおける課題や論点を発見することができる。（ＤＰ３） ②各自の選定した研究テーマにおいて発見した課題や論点を分析・考察し、それらに対する自分なりの解決策を提案することができる。（ＤＰ３、ＤＰ５）。 ③卒業論文の完成に向け、自身でスケジュールを立て、管理し、それを遂行することができる。（ＤＰ４） ④形式やルール、研究倫理を遵守した上で、論文を執筆し、完成させる。（ＤＰ５） ⑤自分の伝えたいことや専門的な
授業方法と 留意点	・対面、およびオンライン（Teams）での個人指導と主としつつ、ゼミ内でのプレゼンテーション、およびディスカッションの機会も設ける ・論文執筆におけるルールや形式、研究倫理をきちんと守って書くことも大切である。それらの点もあわせて指導する ・論文の執筆プロセスにおいてわからないことや不安なことがあれば、すぐに相談すること
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	各自の関心、および問題意識に基づき選定した研究テーマを選定し、卒業論文を執筆・完成させる。完成までのプロセスにおいては、個人指導が主とはなるが、進捗状況を含めたプレゼンテーションとディスカッションの機会をゼミ時間内で複数回設ける。また、卒業論文では論文のオリジナリティもそうだが、きちんと形式やルール、研究倫理を守って書くことも重視する。その点もあわせて指導していく。 卒業論文の完成に向けては、教員と対面、およびオンライン（Teams）でやりとりしながら進めていくが、各自で完成までのスケジュールを立て、管理して作業を進めていくことが必要、かつ重要となってくる。 ゼミでのプレゼンテーション、個人指導における教員とのやりとりに際しては、事前の準備や事後の学習（教員のコメントやディスカッションをふまえたプレゼン、あるいは発表資料のブラッシュアップ等）が必要となってくるが、それにくわえ、各自の研究テーマに関する先行研究のサーベイやデータ・情報収集、分析も必要となってくる。
関連科目	演習Ⅰ、演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介する		
2			
3			

評価方法 （基準）	卒業論文の形式（30%）、内容（50%）およびプレゼンテーション（20%）
学生への メッセージ	ゼミ活動の集大成が卒業論文です。完成させるのは大変ですが、がんばりましょう。
担当者の 研究室等	11 号館７階 木下研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山准教授室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	個別課題、グループワークを実施します。
担当者の 研究室等	11 号館７階　針尾研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、チームワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをチーム単位で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、討議課題を提示しますので、チーム単位で検討してむもらいます。チームで検討した事を発表してもらいます。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館７階　林研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスカッション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　樋口研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館７階（梅原講師室）
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館８階（小林研究室）
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 牧野(幸)准教授室
備考	Teams を用いた授業を行う場合、事前にお伝えします。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　田中准教授室
備考	Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階三木准教授室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	O
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　橋本研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	P
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 木下研究室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　武居教授室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　堀井教授室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館７階　久保准教授室
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金　政芸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などを行う連絡媒体は、初回講義時に案内します。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　共同研究室　(5)
備考	

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	U
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1088a0		

授業概要・ 目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的知識の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。 一斉連絡などは teams を使って行うようにします。
到達目標	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得すること（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行います。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学びます。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。
関連科目	「専門基礎演習」、各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	大学生としての修学に必要な基本的知識を修得できているか、すなわち課題へ取り組む積極的姿勢があるか、協働できているか、また、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・討論の内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されています。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。
担当者の 研究室等	伊瀬堂人研究室　11 号館 8 階
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　畠山准教授室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	洪　性奉
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	花木　完爾
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館７階　針尾研究室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポートの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館７階　呉研究室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大月　庄治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石川　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　樋口研究室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館７階（梅原講師室）
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	K
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階（小林研究室）
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館７階 牧野(幸)准教授室
備考	Teams を用いた授業を行う場合、事前にお伝えします。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　田中准教授室
備考	Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階三木准教授室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	O
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　橋本研究室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	P
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館７階　木下研究室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	R
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　堀井教授室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館７階　久保准教授室
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金　政芸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館８階　共同研究室　(5)
備考	

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	U
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定しています。
到達目標	大学生としての修学に必要な知識の修得をさらに推し進め、学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出せるようになる（DP２）
授業方法と 留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行います。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に速やかに担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験します。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習します。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援します。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行います。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導します。
関連科目	各コースの専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション・ディスカッションの内容等を総合的に評価します。
学生への メッセージ	専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されます。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら、実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席し、不明な点があれば積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	伊瀬堂人研究室　11 号館８階
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	情報通信技術の変遷について勉強し、その意義とあり方について学ぶ。 パソコンを活用し、情報検索や発表資料の作成を行い、情報通信技術を自由に使いこなせることを目的とする。 プログラミングの基礎を学習し情報通信技術の利便性や将来性を考える機会を持つ。 レポート作成における不正防止のための研究倫理について学習する。
到達目標	情報通信技術の変遷について知識を得る。社会の情報通信技術の利活用の事例について学び、情報社会の諸問題について関心を寄せ、グループディスカッションする。Excel でのデータ処理、分析の演習、プログラミングの演習を通して、パソコンを必要に応じて活用できる技術を身につける。(DP５) パソコンの演習を通して、情報通信技術を実践的に活用できる能力を身につける。
授業方法と 留意点	授業は、講義とパソコンを使った演習を行う。学習した内容やデータの分析結果等について発表する機会とグループでディスカッションする機会を持つ。遅刻や欠席は授業進行に影響するため、避けてください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	情報通信技術の歴史について学習する。 インフラ、デバイス、OS、アプリケーション、ネットワーク、周辺機器などの変遷や関連する企業についての知識を得る。 ・歴史について、各自テーマを決定して、資料収集し、発表の準備をする ・発表資料の作成（PowerPoint） ・発表と質問、質問に対する回答の練習 ・ディスカッション パソコンを使って演習する ・ホームページの作成 ・プログラミングの基本演習 ・成果の共有
関連科目	ビジネス情報処理Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題の提出（50%）、授業中の発表、授業の取り組み姿勢（50%）を総合して評価する。
学生への メッセージ	真面目に積極的に取り組んでください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階（橋本研究室）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習Ⅰでは、プレゼンテーションの実習と各自が興味のある分野についての自学自習の実践などを行う。調査の仕方や計画の立て方、PDCA サイクルの回し方などを実践的に学び、主体性を持った学習者の素養を磨く。 SDGs-4,8,9,11,12
到達目標	演習Ⅰでは次の事柄を目標とする。 （１）興味のある事柄に関する情報収集を適切に行える （２）プレゼンテーションを時間通りに行える （３）自ら学習する目的を立てられる （４）研究倫理を理解し、専門技術者として多様な社会での課題解決に向かう態度を育てる（DP5）
授業方法と 留意点	授業は学生参画型であり、予習・復習は必須である。自発的に学ぶ姿勢で出席すること。 前期はプレゼンテーションを行う。聴講者は質問することで授業に参加する。 後期は各自が主体的に計画を立てて学び、その学びのプロセスを共有する。 また、見学会や講演会などを随時、企画していく。 なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	前期は、各自でテーマを決め、プレゼンテーションを行う。後期は、個人、グループのいずれかで学習するテーマを決め、学習計画を立てる。そして、学習計画に沿って学びを実施し、PDCA サイクルを回しながら主体性のある学びの姿勢を構築する。 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容 70%、その他 30%
学生への メッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。
担当者の 研究室等	久保准教授室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	専門演習Ｉ	科目名（英文）	Seminar Ｉ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を習得することが目的である。演習Ｉでは、その基礎となる技術や知識を学んでいく。
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する（DP５）。
授業方法と留意点	ICT を活用しながらゼミ形式の授業を実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。 (1) 情報化社会におけるインターネットの活用技術 (2) ネットビジネスを取り巻く情報技術の基礎知識 (3) 効果的なプレゼンテーション方法 加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。 ［事前学習］ 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと（各 30 分)。 ［事後学習］ 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること（各 1 時間)。
関連科目	専門演習 II、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（課題の提出、発表）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けて欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　堀井教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。専門演習Ⅰでは，基本的な心理学の知識と消費者心理の知識を身につける。担当者が教科書の内容をまとめて，プレゼン発表し，参加者と質疑応答を行う。また、心理テクニックを学ぶために、実際に心理ゲームを行う。最終的に、一般心理学、経営に関する消費者心理，組織の中の人間関係などの基礎を学ぶことを目的とする。 SDGs-3，4，8，9，10，12
到達目標	一般的な心理学、消費者心理の基礎知識を身につけることができる。社会科学の研究法について知識を得ることができる。心理テクニックを身につけることができる。最終的に、自分自身でテーマを探し，心理学の研究手法を基に解決方法を身につけることができる。 問題発見能力、分析力を身につける。計画性を身につける。また、知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション・スキルと情報・データの活用を通した表現力を身につける。 　研究倫理を遵守し､心理学、消費者行動を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの
授業方法と留意点	対面授業を行う。 専門演習Ⅰでは，心理学の基礎知識を身につける。前期は心理ゲームの実施と心理学の概論書を使って担当者と一緒にディスカッションを行う。演習の方法は，毎回担当者がPPによる資料を作成し，プレゼンテーションを行い、他の学生とディベートを行う。後期は専門書の内容をまとめてプレゼンテーションとディベート、グループワークを行う。グループワークや反転授業などのアクティブ・ラーニングを積極的に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：一般心理学、経営における消費者心理，社会における人間関係，交渉術，説得テクニックなどについて 方法：担当学生がパワーポイントを用いてプレゼンを行う。参加者は必ず質問か発言を行い、グループワークに参加すること。また、心理テクニックについては、実際の心理ゲームの中で学ぶ。 事前学習課題：教科書、または、心理ゲームの下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) 事後学習課題：授業終了後に示す課題についてレポートなどを作成すること(1時間) さらに，経営学，心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ，指導・教育する。
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」､「市場調査入門」､「消費者心理学」を受講しておくことが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	［買わせる］の心理学	中村和正	MdNコーポレーション
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミニマムエッセンス　社会心理学	和田実	北大路書房
2	男と女の対人心理学	和田実	北大路書房
3			

評価方法（基準）	専門演習Ⅰへは遅刻せずに出席すること(オンラインを含む)を評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)，授業への積極的参加度(30%)，事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰには必ず遅刻せずに，出席し，積極的に発言すること(オンラインを含む)。アクティブ・ラーニングを取り入れているので、自主的・主体的に活動すること。
担当者の研究室等	11号館7階　牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは，経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため，Word，Excel，PowerPoint などの技術を修得してください。人としての心理を大切にするゼミであるので，“時間を守る，約束を守る，授業中私語をしない，寝ない，不必要なときにスマホなどを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。ゼミは、アクティブ・ラーニングの活動です。主体的・積極的に発言すること。 授業内で課された課題に対しては，その後のゼミの中で評価・解説を行い，フィードバックをする。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	企業のメディア戦略の目的・課題理解及び顧客データ活用に必要な基本的知識及びフレームワークを身につけることを目的として、主に以下の２つの内容について学ぶ。 １．企業のメディア戦略の取り組み事例 ２．消費者行動・心理学の基本理論及びフレームワーク
到達目標	研究倫理を遵守し､企業を取り巻く情報環境に関わる経営問題に関心を寄せ､ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と 留意点	【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心（グループ作業に必要な基本的設備については研究室にて準備） ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年２回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	主に以下の内容に取り組む。 ＜前期＞ 1 回：イントロダクション（演習 1 前期の進め方） 2 回：IT マーケティングと調査事例対象の説明（班分け、文献紹介） 3-5 回：リサーチ（文献等調査） 6-7 回：事業内容の理解（市場、顧客、商品・サービスの特徴等） 8-9 回：IT マーケティング戦略の理解（ウェブ事業の内容、導入アプリの仕組み等） 11-12 回：発表準備（発表資料作成） 13-14 回：発表（プレゼンテーション） 15 回：まとめ（総括、ゼミ合宿の準備） ＜後期＞ 1 回：イントロダクション（演習 1 後期の進め方） 2 回：インターネットと消費者（班分け、文献紹介） 3-5 回：消費者行動論（１） 6 回：発表 7-9 回：消費者行動論（２） 10 回：発表 11-13 回：消費者行動論（３） 14 回：発表 15 回：まとめ（総括、ゼミ合宿の準備） 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席状況、参加姿勢（発言，資料準備）、提出物
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　針尾教授室
備考	【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	近年の成熟市場環境下における企業間競争の激化によって、マーケティングの重要性がますます高まっています。この演習では、企業の存続・成長にとって必要不可欠なマーケティングについて研究します。マーケティングは、身近な学問なので、どこからでも課題の研究が始められます。この演習を通じて、マーケティングの基本的知識とマーケティングを学ぶことの楽しさを理解してもらいたいと思います。 全体連絡は、teams で行います。要件がある場合、緊急の場合は、武居の携帯電話に連絡して下さい。
到達目標	研究倫理を遵守し、マーケティング・流通に関する問題に関心を示し、ゼミメンバーでお互いにコミュニケーションを図る等の協働関係を構築し、問題解決に向けて、主体的に取り組む意欲にあふれ、積極的な態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	対面授業
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	マーケティングの基本的概念について学習します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	レポート（80%）、授業への取り組み（20%）
学生へのメッセージ	毎日、ポータルサイト、teams、ホームページをチェックするようにしましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階　武居教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング戦略論　第６版	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動　第３版	武居　奈緒子	晃洋書房
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	本ゼミでは、様々なマーケティングデータの分析を中心に、客観的事実に基づいた論文の書き方を学んでゆくことになります。 演習Ⅰではマーケティングに関する基礎知識の習得に加え、各種のデータ分析手法の基礎を学習します。 前期はデータ分析の基礎について講義を中心に進めますが、後期はゼミ生中心に多変量解析手法について学習内容のまとめや発表をしてもらうことになりますので、主体性を持ってゼミに取り組んでください。 その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱いますので、講義中、時間外を問わず、やりたいことがある場合は積極的に意見するようにして下さい。
到達目標	１．４年生時の卒業論文作成を見据え、必要となるであろうマーケティングに関する情報の収集・分析の能力を習得する。 ２．多変量解析手法について学習し、手法や結果の解釈に関する知識を企業社会における問題解決に適応する、問題解決力を身につける。 ３．情報・データの活用を通した適切な表現力を身につけるとともに、その知識について発表の機会を設けることで、主体的に学習に取り組む意欲や態度を養う。(DP５) ４．学生同士でのグループワークや教員とのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を向上させる。
授業方法と 留意点	適宜、ゼミ生による学習結果のまとめや発表、演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	本ゼミでは、マーケティングおよびデータの分析を主たるテーマとして扱います。 演習Ⅰでは、マーケティングにおける基礎知識およびデータ分析手法の基礎について、習得を目指します。 随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。 また、研究に関連する不正防止のための研究倫理について指導します。不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解した上で、研究活動に取り組んでください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題や発表の内容、授業態度などにより総合的に判断します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１１号館８階　樋口研究室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	マーケティングのゼミである. 知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティングの基礎的知識をしっかりと身に着けることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらう。 これらを通じて、マーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。 まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。
到達目標	①知的専門職業人として活躍するために必要なケティングの基礎的知識を身につけ実践できる。(DP５) ②フィールドワークを通じて、マーケティングの知識を応用できる力が身につく。(DP５) ③チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。(DP５) ④コミュニケーション能力と情報・データの活用を通した表現の向上を図る。(DP５)
授業方法と 留意点	マーケティング関連の講義を行いながらグループワークに取り組む。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用 [内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの基礎的な知識を課題を通じて検討する。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	マーケティング関連授業
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常の取組姿勢、学習状況，報告内容，レポートなどにより総合的に評価する.
学生への メッセージ	基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください
担当者の 研究室等	１１号館７階　鶴坂教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	専門分野の基礎を学びつつ，論文の読み方・書き方を学修し，各自が卒業研究で対象とする題材を１つ選定する。 と同時にゼミのテーマ，グループのテーマも同時に進め，協調性や忍耐力を涵養する。 最終的に卒業研究に繋げる道筋を見つける。
到達目標	ゼミのテーマ，グループのテーマ，自らのテーマについてバランス良く主体的に研究・調査を進め，その成果を説得力をもって発信することのできる能力を修得する。
授業方法と 留意点	前半は，論文の読み方，論文の書き方，パワーポイントの技術を磨きます。と同時に，ゼミ・グループ・個人の役割をしっかりと把握し，他人の意見を素直に聞く力を取り入れましょう。 後半は，様々なテーマを実現に移します。実際に行動し，机上の理論だけではなく，現実に即した『実学』を身につけていきましょう。 まだまだ考えるよりも，行動が先に出る時期です。どんどん失敗することで成長を体感しましょう。授業時間外の活動が多くなります。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	ICT ビジネスに関連するテーマを取り上げます。 前述の通り，ゼミのテーマ，グループのテーマ，自らのテーマの３つをバランス良く進めていきます。そのためにはまず２回生のうちに多くのインプットを行います。知識がないと，応用のしようがありません。多くの学生にとって欠けているのが「他人の話に素直に耳を傾ける」ことです。狭い世界で生きがちな昨今，それでは新しい「想像・創造」は困難でしょう。ICT 関連で実際に活躍しているゲストもお呼びし，ディスカッションを行う機会も設けます。また机上の論理だけではなく実際に外に飛び出し，最新の技術を知ってください。ゼミ合宿や企業見学等も提案ください。このゼミは「自由」です。しかし自由というのはこの上なく恐ろしく，すべての責任は後に自らに降ってきます。二十歳前後の人格形成の時期，ぜひ大きな人間になれるよう，常翔・・・羽ばたきましょう。
関連科目	専門演習Ⅱ，卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題への取組姿勢，出来栄え，討議への参加意欲等で総合的に評価します。
学生への メッセージ	教員は敵対関係ではありません。うしろからそっと見守り，押していきます。
担当者の 研究室等	11 号館８階　小林教授室
備考	ノートパソコンもしくはタブレットを持参してください（スマホ非推奨）。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。
到達目標	研究倫理を遵守し､ファイナンス（金融）を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	原則として学生による発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表者だけでなく聴き手学生にも積極性を求めます。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはなりません。不幸にして欠席・遅刻しそうなら、教員に速やかに連絡すること。 また年末には卒研生（4回生）の卒論をルーブリック評価に基づき評価してもらう予定であり、これは皆さんへの評価にも直結します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習では所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。使う書籍は時には皆で決めることもあります。 発表者が発表準備をするのは当然ですが、聞き手学生も書籍の発表箇所を事前に読み、質問を考えておくことが重要です。また、適宜レポートも課します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ指導・教育する予定です。
関連科目	経営学関連科目、経済学入門、ICT 入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を仲間と協働しつつ率先して行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。年末の４年生卒論の評価も皆さんの評価の対象です。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となる。
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	テーマ　データの有効な活用 日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そのため、日本の企業。社会、経済の現状を分析する文献を手掛かりにその方法を学ぶ。 自分で問題を設定できる、　その問題を分析するための情報を収集できる.、　情報、データを有効に活用できる能力を発揮できるようにして下さい。
到達目標	(1) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 (2) 正しい情報、データを入手し、分析できる。 (3) 論理的な思考をする。 (4))問題解決のための計画を立案し、計画を実行に移すことができる。 (5) 研究倫理を守ることができる。(DP5) (6) 他者と協働して、問題の解決に主体的に取り組むことができる。(DP5)
授業方法と 留意点	テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。欠席は原則 10 点減点です。くわしくは第 1 回目の講義でお知らせします。
学生への メッセージ	上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階杉本研究室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	データ分析をマスターする 12 のレッスン	畑農鋭矢、水落正明	有斐閣アルマ
2	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考える。本演習では、管理会計の意義や伝統的な管理会計の諸技法など管理会計の基礎的事項について学ぶ。
到達目標	研究倫理を遵守し、管理会計や経営管理に関する問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。(DP５)
授業方法と留意点	演習方式で授業を行う。毎回、発表者を事前に指名し、各回の授業テーマについて教科書の内容をまとめたレジュメを作成してもらった上で、それに基づき報告をしてもらう。報告の後で、授業の参加者でその内容について議論を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	企業会計および管理会計に関する基礎的な教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書１章分。前期は、管理会計を理解する上で欠かすことのできない決算書の仕組みや原価計算の基礎的な事項について学ぶ。後期は、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計技法について学んでいく。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(2 時間)。また、授業後に受講者全員にその日にやった内容についてまとめたレポートを毎回作成してもらい(2 時間)、次の授業の際に提出してもらう。 加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	レポート 80%、発表・授業中の発言 20%
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	教科書については第 1 回目の授業の際に指示します。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	本演習では、グループプレゼンテーションやグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論について学習する。
到達目標	①国際経営論に関する基礎的知識を習得する。 ②課題を分析して、自分の考えをまとめる力を身につける。 ③自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける。 ④他者と協同して主体的に課題に取り組む力を身につける。（ＤＰ５） ⑤適切な研究方法を習得し、研究倫理を遵守する重要性を理解する。（ＤＰ５）
授業方法と留意点	教科書を用いたグループプレゼンテーションと質疑応答、グループディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文献の輪読を通じて国際経営に関する基礎的な知識の理解を深めていく。発表グループは文献を熟読して内容をレジュメにまとめてプレゼンテーションを行う。その後、全体でグループディスカッションを行う。他のメンバーも事前に文献を読み、重要だ思う点と質問したい点についてまとめてくることが必要である。 なお、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
関連科目	経営学入門、経営戦略論、国際経営論Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新「国際経営」入門（第２版）	高橋浩夫	同文舘出版
2	東アジア優位産業―多元化する国際生産ネットワーク	塩地洋・田中彰編	中央経済社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	海外研究開発拠点の役割と進化　アジア新興国における日本企業の事例	畠山俊宏	三恵社
2			
3			

評価方法（基準）	下記の輪読の取り組み状況（100%）で評価する。 1.グループプレゼンテーションの内容 2.質疑応答における発言 3.グループディスカッションにおける発言
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館８階　畠山研究室
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	企業（または，世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し，問題を解決する方法を学習し，分析をおこない，わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	多様な社会の諸問題から研究テーマを発見し、問題解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけるために、 ①　会計セミナーに所属する学生として必要最低限である会計関連知識を習得する。 ②　簿記関連資格を取得する。 ③　多様な社会の諸問題から，企業に関連する問題に注目し，研究テーマを決める。(DP5) ④　研究目的を，会計情報等を根拠として提示しながら，説明できる。(DP5)
授業方法と留意点	演習１は講義形式ではなく，学生の参加形式であり，会計学の知識の習得，会計情報の分析，ディスカッションの実施，プレゼンによる知識の発信などが予定されている。 ①　ゼミの活動に積極的に参加すること ②　やむを得ない事情を除き，出席すること ③　ディスカッションに積極的に参加すること ④　学内で生じた問題については素早く相談すること
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	＋　前期では，簿記に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマを発見する。 ＋　後期では，会計に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマに関連する新聞記事などの背景を調べ，報告する。 ＋　毎週行われるテーマに合わせ，事前に課題などが提示される。提示された課題については，報告者でなくても事前にわからない用語等を調べるなどし，ディスカッションに参加できるようにすること。(詳細な計画については初日の演習で告知する)
関連科目	経営学に関連する授業全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫

評価方法（基準）	ディスカッションへの参加，発表，報告などを総合的に評価
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく，学生主導の学習の場であります。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し，参加するなど，イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館７階　呉研究室
備考	Teams で実施することもあります。初回ゼミラインなどの連絡方法を登録してもらいますので、必ず参加してください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	近年、企業を取り巻く環境は複雑化している。その中で、企業の財政状況や経営成績を正しく把握する能力の必要性はますます高まっている。 会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれ、企業の情報を読み解くためには必須の知識である。 この講義では、会計学の基礎的な知識を習得するとともに、会計学を実社会で有用に用いる方法を学習する。
到達目標	・実社会で会計というシステムがどのように扱われているのかを理解する。 ・会計情報を読み解くために必要な必要最低限の簿記の知識を習得する。 ・会計情報を根拠として、企業の状態を推量することができる。 ・卒業論文のテーマを思索する。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同性を習得する。(DP5) ・研究倫理を理解し、実践することができる。(DP5)
授業方法と 留意点	講義形式ではなく，学生の参加形式であり、会計知識の習得・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなどを予定しています。 講義は基本的にアクティブラーニング形式ですので、個々人の積極的な参加が不可欠です。必ず出席をするようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、担当教員へできる限り事前に連絡してください。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	・前期の講義では、企業分析を行うために必要な簿記および会計学の基礎的な知識を習得することに注力する。 ・後期の講義では、自ら企業の情報を収集し、その情報に基づいた企業分析を行い、結果の報告を行う。 ・該当講義および次回の講義テーマに関して、課題を提示する。事前および事後にわからない用語・事象など自ら調べ、円滑にディスカッションをできるように準備しておくこと。 講義の各回の詳細な内容などは初回授業で告知する。
関連科目	２年次…財務会計論Ⅰ・Ⅱ、商業簿記、３年次…コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱなど

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	指定なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネススクールで教える経営分析	太田 康弘	日経文庫
2	財務会計講義(第 23 版)	桜井 久勝	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	討議参加の積極性　30% グループワークでの協同性　30% ゼミでの報告　40%
学生への メッセージ	【学生へのメッセージ】 この講義はゼミ形式の講義です。教員はあくまでもみなさんのサポート役です。主体的に参加し、この講義を有用に活用してください。また、議論したい、あるいは掘り下げてみたいテーマなどがあれば、積極的に提案してください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　伊瀬研究室
備考	感染拡大時、災害時における授業方法の変更などの留意事項に関しては、ゼミ所定の連絡方法で連絡しますので、こまめに確認しておいてください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・ 目的	本演習では、日本においても圧倒的大多数を占め、重要な役割をはたしている中小企業、および中小企業と共生関係にある地域社会をテーマとして進める。 これに際しては、文献や統計資料を活用した座学のほか、実践として中小企業や地域へのフィールドワーク、企業家らとの交流を実施する。 これにより、中小企業や地域の実態を実際的に理解することを目的とする。
到達目標	①フィールドワーク等の実践的学習を通じて、中小企業の特徴や経営課題を発見することができる。 ②中小企業が抱える経営課題を解決するための方策についてゼミメンバーと議論し、提案することができる。 ③ゼミ、およびグループの一員として、メンバーと積極的に交流し、協働関係を築くことができる。（ＤＰ５） ④中小企業や地域社会を取り巻く様々な課題に関心を持ち、その諸課題の解決に向け、何が必要であるかを主体的に考えることができる。（ＤＰ５）
授業方法と 留意点	・フィールドワークの実施日時は、先方やゼミ生のスケジュールを調整のうえ決定するが、夏休みや春休み等を含めた演習の時間外になる可能性が高い点に留意しておくこと ・グループワークが基本となることにくわえ、フィールドワークや企業家等の学外の人たちとの交流もある。極力欠席はしないようにすること。体調不良など、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること ・他大学との交流（合同ゼミ）や共同プロジェクトを実施する場合がある
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	本演習は、中小企業と地域社会をテーマとして進める。 それにあたり、文献や統計資料を通じての学習もおこなうが、中小企業へのフィールドワークや企業家との交流をあわせて実施することで、中小企業や地域社会の実態についての実際的な理解を深める。 また、文献学習ではただ単に文献を読むだけではなく、内容にかんするレジュメの作成・報告・ディスカッション、フィールドワークでは事前学習［文献調査、アポ取り、質問作成など］、事後学習［記録および報告資料の作成、プレゼン、ディスカッションなど］を含む）が必要となる。そのため、ゼミ時間外における準備等を含め、能動的な参加が求められる。
関連科目	地域産業論、中小企業論、演習Ⅱ、卒業研究など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	フィールドワーク（事前事後学習含む）、報告資料、プレゼン、ディスカッションでの積極性、レポートなどを含め、総合的に評価する。
学生への メッセージ	メリハリをつけて、ゼミ活動を楽しみましょう！
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 木下研究室
備考	参考書は適宜紹介し、教科書は必要であれば指示する

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 とりわけ、下記について学ぶ。 ・企業のマネージャー・担当者へインタビューを行うことによって得た質的データの分析方法について ・課題に応じた質問票の作成方法と量的データの分析方法について ・上記から得た発見を具体的なマーケティング戦略と結びつける一連のプロセスについて グループで課題に取り組み、議論や発表を通してマーケティングへの理解を深める。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけでなく、「サービス」に関するマーケティングついても解説する。
到達目標	・研究倫理を遵守しつつ､マーケティングに関する諸問題に関心を寄せ、社会やゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけている。(DP5) ・企業のマーケティング活動についてマーケティング・マネジメントの視点だけではなく、消費者の視点で説明することができる。
授業方法と留意点	・グループワークを取り入れながら講義を進める。 ・各グループで企業や地域に関するテーマを見つけ、そのテーマに沿いながらマーケティングに関する学びを深める。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【前期】 1 回：授業の進め方について　役割・グループの決定 2 回～3 回：グループ毎にテーマの設定 4 回～5 回：インタビュー、フィールドワークに向けた準備 6 回～9 回：インタビュー、フィールドワーク 10 回～11 回：質的データの分析 12 回～14 回：発表準備 15 回：発表 【後期】 1 回：授業の進め方について　グループの決定 2 回～3 回：グループ毎にテーマの設定 4 回～6 回：質問票の作成・データ収集 7 回～10 回：データ分析 11 回～13 回：発表準備 14 回：発表 15 回：まとめ
関連科目	マーケティング、消費者行動論、演習Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度(役割・発表準備・発言)：40% 発表・発表資料：60%
学生へのメッセージ	企業のブランドマネージャーや地域のプロデューサーに来て頂くことを予定しています。 積極的に参加してください。
担当者の研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約 1 時間程度)。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1089a0		

授業概要・目的	近年、盛んに開発が進むAIや、IoT機器の調査・試行、そして、それらを活用したビジネスプランの考案、民間企業との共同研究等の活動を通して、情報処理技術を企業経営的観点から活用できる能力を養成します。
到達目標	（１）最新の情報処理技術やIoT機器を知り、それらをどのようにビジネスに役立てるかを考えること（DP５） （２）研究およびビジネスプランを行うチームにおいて、自身の立場や役割を自覚し、チームメンバと適切に協働できること（DP５） （３）ビジネスプランコンテストに応募すること
授業方法と留意点	まずは、AIやIoT機器の調査と試行を通じて、最先端のICTを使いこなす力を身に着けてもらいます。 その後、それらICTを活用した新しいビジネスを検討し、ビジネスプランコンテストに挑戦してもらいます。 そして、ビジネスプランを通して、社会課題や企業課題を見つめた上で、取り組む研究テーマを決定し、学年混合チームで課題解決に向けた取り組みを遂行してもらいます。具体的なテーマは、社会情勢に応じて変化します。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ゼミでは、ビジネスプランや研究テーマの状況について、プレゼンテーションとディスカッションを基本として進めます。 そのため、学生自身が考え、行動することが基本となり、 授業前後での積極的な取り組みが重要となります。 学生自らの自発的かつ積極的な取り組み姿勢を期待します。 なお、ビジネスプランコンテストの締め切り前等は、講義時間外での学習時間が長くなる場合があります。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題への取組姿勢、出来栄え、討議への参加意欲で総合的に評価します。
学生へのメッセージ	学生生活をどう過ごすかで将来の選択肢は大きく変わります。積極的なゼミ活動への参加を推奨します。
担当者の研究室等	11号館7階 梅原講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	エクセルを使ったデータの分析とテキストマイニングによる分析について学習する。インターネット上のデータを用いて、データの分析やアンケートデータの分析を行い、レポートを作成する。また、関連する文献や論文について調査をし、卒業研究に繋げるテーマを見つける。レポート作成における不正防止のための研究倫理について学習する。
到達目標	教育現場や社会の情報通信技術の利活用を理解し、情報社会の諸問題について関心を寄せ、グループディスカッションできる。Excel でのデータ処理、データの分析を通して、パソコンを使って発信することができる。(DP５)
授業方法と留意点	授業は、パソコンを使った演習形式で行う。学習した内容やデータの分析結果等について発表する機会とグループでディスカッションする機会を持つ。遅刻や欠席は授業進行に影響するため、避けてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	エクセルによるデータの分析と演習 テキストマイニングによるデータの分析と演習 関連する論文・文献の検索と整理 レポート作成のための構成検討 発表資料の作成 発表とディスカッション レポート作成における不正防止のための研究倫理 （事前・事後学習） 授業時間中にできなかった内容については授業外の時間を使って完成する 発表の場合は、事前に発表の練習をする
関連科目	専門演習Ⅰ（演習Ⅰ）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出（50%）、授業中の発表、授業の取り組み姿勢（50%）を総合して評価する。
学生へのメッセージ	真面目に積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館８階（橋本研究室）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	テーマ　経済データの利用 　日本社会、経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。 （１）現状をよく知るために、新聞などを読む。 （２）理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 （３）論理的な思考をする。 （４）自分の考えを、口頭で発表する。 （５）形式の整った、内容のあるレポートを書く。 演習１を踏まえて、卒業研究のテーマを決め、研究を深める。 リモート講義、質問の対応は teams を使います。
到達目標	(1) 理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 (2) 正しい情報、データを入手し、分析できる。 (3) 論理的な思考をする。 (4))問題解決のための計画を立案し、計画を実行に移すことができる。 (5) 研究倫理を守ることができる。(DP5) (6) 他者と協働して、問題の解決に主体的に取り組むことができる。(DP5)
授業方法と留意点	発表と討論による講義。出席と授業中の発言が、最も重視される。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書
2	データ分析をマスターする 12 のレッスン	畑農鋭矢・水落正明	有斐閣アルマ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書
2			
3			

評価方法（基準）	授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。欠席は 10 点減点の原則です。具体的には第 1 回目の講義でお知らせします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階杉本研究室
備考	上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	ゼミでは、研究活動を通じて、実践力の高い情報技術と専門知識の修得、グループでの取組みによる人間力の向上、ならびに、課題設定から問題解決へとつなげる統合力の養成を目指す。また、総合的な研究・教育を目指すために、自治体、地元企業、団体などと積極的に交流を行い、活動の場を広げる。 演習 II の前半では、正確な文章の書き方、公正なデータの扱い方、および、表現について実習形式で学ぶ。 後半は、研究テーマに関する調査や課題設定、および、その解決策の検討や実習を行い、協調作業の重要性や研究活動の意義を学ぶ。 作業計画を立てて、進捗を管理し、状況に応じて調整しながら目標を達成する実践的活動も行う。 日頃から経営や情報に関する情報収集に努め、ディスカッションでの発言を増やすことが重要である。 SDGs-4,8,9,11,12
到達目標	演習 II での目標は以下のとおりです。 （１）正確な意見表明ができる文章能力の修得 （２）社会貢献を意識した課題の設定 （３）研究倫理の必要性の理解 DP5
授業方法と 留意点	地域での実践や外部の評価を受けることを念頭に置いて、調査活動や製作活動を行う。また、活動の内容を正確に伝えるための文章力やプレゼンテーション能力の充実を図る。 卒業研究のテーマにつなげる学習を展開し、専門科目への興味を高めることも目的に含まれる。 なお、大学構内での対面授業が困難な場合は、課題提供型授業とオンライン型授業（一方向・双方向）などを組み合わせて実施する。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	演習 II では、卒業研究で取り扱うテーマを選定したり、実践的な課題に挑戦するための技術的な学習のためにグループによる輪読やプログラミング実習、および、発表を行う。研究の技術を身に付けた上で、卒業研究を遂行するために必要となる専門知識の修得を目指す。個人、グループにわかれて、卒業研究のテーマを選定し、研究の背景・意義・計画について、発表、議論を行う。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	演習中の発表内容、議論での積極性と内容を中心に評価する。 発表内容や活動内容 70%、その他 30%
学生への メッセージ	ゼミでの活動においては、知識、技術、そして、心を鍛えていきます。自らが「経営情報」の最先端で学んでいる者として誇りを持って、課題に挑んでください。
担当者の 研究室等	久保准教授室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	堀井　千夏
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	経営分野で活用する情報技術をテーマとした演習を行っていく。情報化社会で活躍するために必要な情報活用能力や技術を実践的に習得することが目的である。演習 II では、演習 I を土台として、さまざまな最新のテーマについて知識や技術を学んでいく。
到達目標	卒業研究に向けて、その土台となる技術や知識を習得する（DP５）。
授業方法と留意点	ICT を活用しながらゼミ形式の授業を実施し、グループ討論を交えながら課題についての資料収集や分析、発表などを行う。資料はホームページを通じて PDF ファイルで随時配布する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営分野における情報技術をテーマとして演習課題を与え、取り組んだ結果を議論する。主な授業内容は以下である。 (1) ネットビジネスのプランニングと試作システム (2) インターネットと WEB 統合技術 (3) 実践的なプレゼンテーション方法 加えて、情報処理分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育する。 ［事前学習］ 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと（各 30 分）。 ［事後学習］ 当該演習終了後、自らの考えをまとめておき、発表およびレポートの作成に備えること（各 1 時間）。
関連科目	演習 I、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（課題の提出、発表）により総合的に評価する。
学生へのメッセージ	特に予備知識は必要としないが、理解に必要なことは授業で順を追って説明するので、毎回出席を心掛けてほしい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　堀井教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	牧野(幸)ゼミは経営に関する心理を学ぶゼミである。演習Ⅱでは，社会科学の研究手法と経営心理の専門知識を身につける。文献の内容をまとめて，発表しながら，討論を行う。経営に関する消費者心理，マーケティングにおける心理的効果などの基礎を学ぶことを目的とする。 SDGs-3，4，8，9，10，12
到達目標	演習Ⅱでは自分でテーマを決め，文献を購読し，科学的考察の意味を理解できるようになることができることを目標とする。その後，実際に心理学の手法と専門知識を習得することを目標とする。 問題発見能力や分析力を身につける。計画性を養う。また、知的専門職業人として活躍するための前提となるコミュニケーション能力と情報・データの活用を通した表現力を身につける。 　研究倫理を遵守し､心理学、消費者行動を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決
授業方法と留意点	2024 年度は、基本的に対面授業を行う。 演習Ⅱでは，各自が興味のある分野の文献を選び、発表し、ディスカッションを行う。演習の方法は，毎回担当者が PP による資料を作成し，プレゼンテーションを行い、他の学生とディベートを行う。後期は専門書の内容をまとめてプレゼンテーションとディベート、グループワークを行う。グループワークや反転授業などのアクティブ・ラーニングを積極的に行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ・内容：経営における心理の専門知識と消費者心理の手法の実践 方法：各自文献を購読し，その内容をまとめてプレゼンテーションを行う。科学的な研究手法についても学ぶ。 事前学習課題：授業の下調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) さらに，経営学，心理学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き務める。
関連科目	「市場調査入門」,「消費者心理学」などを受けていることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習Ⅱは、遅刻、欠席せずに出席することを評価対象の最低条件とする。演習中の発表(50%)，授業への積極的参加度(30%)，事前事後学習課題(20%)の評価などで総合的に判断する。ディスカッション、グループワーク、反転授業などのアクティブ・ラーニングを行います。遅刻、欠席は減点の対象となります。
学生へのメッセージ	演習Ⅱには必ず遅刻せずに，出席し，自主的・主体的に発言すること(オンラインを含む)。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　牧野(幸)准教授室
備考	牧野(幸)ゼミは経営学部で心理学を学ぶゼミである。プレゼンテーションを行うことが多いため，Word，Excel，PowerPoint などの技術を習得する。何よりも人としての心理を大切にするゼミであるので，“時間を守る，約束を守る，授業中私語をしない，寝ない，不必要なときにスマホを触らない”など人としての最低限のマナーは必ず守ること。 授業内で課された課題に対しては，その後のゼミの中で評価・解説を行い，フィードバックをする。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	ファイナンス（金融）で扱う事象は、わたしたちの身の回りにあります。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、銀行や証券会社、保険会社、国債、株式、資産運用、キャッシュレス、フィンテック、企業の資金調達等々、社会にはお金に関する多様な問題を体系的に論じるのが学問としてのファイナンスです。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にあります。本ゼミでは、そのようなお金に関する問題を『研究・探究』し、ファイナンス（金融）の考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とします。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問いませんが、ゼミ仲間と協働しつつ関心を持って意欲的に主体的に参加し、態度として示してくれることに期待します。
到達目標	研究倫理を遵守し､ファイナンス（金融）を中心とした経営・経済問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行います。発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進めます。発表の準備をする人はいうまでもありませんが、聞き手の学生にも積極性を求めます。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しいと思います。　また年末には４年生の卒論をルーブリック評価に基づき評価をしてもらう予定です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月から６月にかけてテーマを選定し、順次作成します。１２月末までに８０％の完成を目指します。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する予定です。
関連科目	経営学関連科目、経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ活動に関心を持って意欲的に参加し、態度として示しているか否かで評価します。例えば、発表の準備を入念に行い、多面的視点で熟慮の跡が見られる態度は大きな加点の対象となります。また、他のゼミ生の発表に対して積極的に質問する態度も大きな加点の対象となる。一方、ゼミの欠席、特に発表者にも関わらず、無断で欠席する行為は大きな減点の対象となるのは想像がつくでしょう。
学生へのメッセージ	企業が学生に求める能力は依然として高いと思います。易きに流れるは世の常ですが、後悔するのは自分自身です。この点、重々承知のこと。
担当者の研究室等	11 号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	本演習では、演習Ⅰで学んだことを踏まえて、さらに進んだ管理会計の理論や実務について学ぶ。1980年代後半以降、伝統的な管理会計の理論や実務の限界が指摘されるようになり、戦略管理会計という新しい管理会計の研究が行われるようになった。そこで、本演習では、主としてこの戦略管理会計に焦点を当てて、授業を行う。
到達目標	研究倫理を遵守し、管理会計や経営管理に関する問題に関心を寄せ、ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につける。(DP５)
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。毎回、発表者を事前に指名し、各回の授業テーマについて教科書の内容をまとめたレジュメを作成してもらった上で、それに基づき報告をしてもらう。報告の後で、授業の参加者でその内容について議論を行う。前期は個人で報告してもらい、後期はグループで報告をしてもらう。 授業に関する連絡を行うためにTeamsを利用する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書１章分。前期は、戦略管理会計の理論について書かれた教科書を用いて、ABCやバランス・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法について学ぶ。後期は、ABCやバランス・スコアカードなどのケース・スタディが書かれた本を教科書として用いて、実務において戦略管理会計の諸技法がどのように活用されているのかを学ぶ。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(2時間)。また、授業後にその日の授業内容についてまとめたレポートを毎回作成し(2時間)、次の授業の際に提出してもらう。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート80%、発表・授業中の発言20%
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	11号館7階(三木准教授室)
備考	教科書については第1回目の授業の際に指示します。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	企業のメディア戦略の目的・課題理解及び顧客データ活用に必要な基本的知識及びフレームワークを身につけることを目的として、主に以下の２つの内容について学ぶ。 １．消費者行動・心理情報の分析モデル ２．消費者行動・心理データの分析方法
到達目標	研究倫理を遵守し､企業を取り巻く情報環境に関わる経営問題に関心を寄せ､ゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と 留意点	【すすめ方】 ・グループワークによる資料作成、発表が中心 ・他学年ゼミ生を含めた合同演習（年２回予定）とゼミ合宿を実施し、ゼミ学生間の交流を深めながら、研究・学習の質を高めていく。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	主に以下の内容に取り組む。 ＜前期＞ 1 回：イントロダクション（演習 2 前期の進め方） 2 回：アクイジションとリテンション（班分け、文献紹介） 3-5 回：メディア戦略論（IT マーケティング、タッチポイント、顧客体験） 6-7 回：顧客行動分析の方法（文献学習） 8-9 回：顧客行動分析（カスタマージャーニーマップを用いた分析） 11-12 回：発表準備（発表資料作成） 13-14 回：発表（プレゼンテーション） 15 回：まとめ（総括、ゼミ合宿の準備） ＜後期＞ 1 回：イントロダクション（演習 2 後期の進め方） 2 回：顧客データの扱い（班分け、文献紹介） 3-5 回：回帰分析、判別分析（１） 6 回：発表 7-9 回：クラスター分析、数量化理論三類（２） 10 回：発表 11-13 回：因子分析（３） 14 回：発表 15 回：まとめ（総括、ゼミ合宿の準備） 加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席状況、参加姿勢（発言，資料準備）、提出物
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　針尾教授室
備考	【学生へのメッセージ】 グループワークが中心ですので、時間や約束事をしっかり守って誠実に取り組んでください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	マーケティングについて、理論面と実態面の両側面から理解を深めることを目的とする。２回生で習得した専門用語、概念をさらに深化させていくとともに、実態分析にも力をそそいでいく。全体連絡は、teams で行います。要件がある場合、緊急の場合は、武居の携帯電話に連絡して下さい。
到達目標	研究倫理を遵守し、マーケティング・流通に関する問題に関心を示し、ゼミメンバーでお互いにコミュニケーションを図る等の協働関係を構築し、問題解決に向けて、主体的に取り組む意欲にあふれ、積極的な態度を身につけることができる。(DP５)
授業方法と留意点	対面授業
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	マーケティングの知識を深めたり、企業の成功要因について分析します。ケーススタディのアプローチ。 ゼミで与えられた課題には、真摯に取り組むように。加えて、当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケースに学ぶマーケティング	青木幸弘編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート（80%）、授業への取り組み（20%）
学生へのメッセージ	毎日、ポータルサイト、teams、ホームページをチェックするようにしましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階　武居教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	本ゼミでは、マーケティングや、マーケティングに関連する各種データの分析手法などを扱います。 前期には、演習Ｉで習得したマーケティングやデータ分析に関する知識を元に、実際にデータを利用して分析を行いながら、知見を得る訓練を積んでゆきます。 また、後期には各自卒業論文のテーマを決定し、それに基づいた学習およびデータの収集・分析を行います。 その他、学生の希望によりテーマなどを選択し、適宜扱います。
到達目標	１．４年生時の卒業論文作成を見据え、必要となるであろうマーケティングに関する情報の収集・分析の能力を習得する。 ２．多変量解析手法について学習し、手法や結果の解釈に関する知識を企業社会における問題解決に適応する、問題解決力を身につける。 ３．情報・データの活用を通した適切な表現力を身につけるとともに、その知識について発表の機会を設けることで、主体的に学習に取り組む意欲や態度を養う。(DP５) ４．学生同士でのグループワークや教員とのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を向上させる。
授業方法と 留意点	適宜、ゼミ生による学習結果のまとめや卒業論文進捗について発表、演習を実施します。そのため、出来る限り欠席は避けるようにしてください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	本ゼミでは、マーケティングや、マーケティングに関連する各種データの分析手法などを扱います。 演習Ⅱでは、演習Ｉにて習得した知識を基に、各種の多変量解析手法を習得します。前半では、パソコン演習を通してデータ分析方法を学び、実際にデータを使って分析を行います。また、後半からは各自卒業論文のテーマを選定し、その構成を詰めながら必要なデータを収集してゆきます。 随時ゼミ生中心にまとめや発表を行いますので、欠席を避け、発表などゼミ内で課した課題は必ず行うようにしてください。 また、研究に関連する不正防止のための研究倫理について引き続き指導します。不正防止のための研究倫理の指針・ガイドライン等を十分理解した上で、研究活動に取り組んでください。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法 （基準）	課題や発表の内容、授業態度などにより総合的に判断します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	１１号館８階　樋口研究室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	マーケティングのゼミである. マーケティングの基礎的知識をしっかりと身に着けることが大切であり、その定着を目指す。 そのために、フィールドワークを行い、課題発見、解決方法の策定、実行などに取り組んでもらい、マーケティングの知識の不足部分を補ってもらう。 これらを通じて、知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティング的な視点で事象をとらえることができることを目的とする。 さらに学生自らが主体的にゼミを運営することでポジティブな姿勢を身に着けることを目的とする。 まちづくりの実践や中小企業の経営革新等の支援を行ってきた担当者により、課題解決にむけた実践的な指導を行う。
到達目標	①フィールドワークを通じて、知的専門職業人として活躍するために必要なマーケティングの知識を応用できる。(DP５) ②チームで活動することで、自分の役割を認識し果たすことで、チームの成果を最大化する力が身に付く。(DP５) ③コミュニケーション能力と情報・データの活用を通した表現力の向上を図り、主体性を身に付ける。(DP５) ④下の学年のゼミ生をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる。(DP５)
授業方法と留意点	マーケティング関連の講義を行いながらグループワークを実施する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[授業テーマ] マーケティング論の定着と応用 [内容] ゼミとしてのチームビルディングを行い、相互理解や自己理解・他者への配慮の大切さを学ぶ。 グループごとの作業を通じ、チームで目的を達成することの実際を体験し、その重要性を学ぶ。 マーケティングの知識を課題を通じて活用していく。 フィールドワークを通じて、マーケティング課題の把握と解決策の構築等を行う。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、教育・指導する。
関連科目	マーケティング関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常の取組姿勢、学習状況，報告内容，レポートなどにより総合的に評価する.
学生へのメッセージ	基本チームで動きますので、欠席をするとほかのメンバーに迷惑がかかります。そのためには必ずゼミやゼミで取り組むことには参加をしてください。 ゼミ学習を有効なものにするのもしないのも、本人次第です。受け身ではなく、主体的にゼミに参画することで学ぶことの楽しさを知ってほしいと思います。 さらにチームのなかのひとりに負担が偏らないように、他者への配慮を忘れず自分の役割を果たすことを心掛けてください。 これらができないと、ゼミ自体の運営に支障をきたしますので、自覚の上、授業を受けてください。
担当者の研究室等	１１号館７階　鶴坂教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。 【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。
到達目標	①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。(DP5) ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。(DP5) 演習Ⅱの終わりには、4年次に提出する卒業論文序論を作成します。
授業方法と留意点	①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③ビジネスプランコンテストに参加します。 ④卒業論文序論を作成します。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」 【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかり聞くこと。発言等、授業へ積極的に参加した場合、加点します。 【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。 なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	0から1を生み出すデザイン思考の教科書	油井 毅	泉文堂
2			
3			

評価方法（基準）	提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価（発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります） なお、出席が8割に満たない時は単位を認めない場合がある。
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。
担当者の研究室等	11号館8F　西之坊研究室
備考	①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	本演習では、グループごとにテーマを設定して研究活動を行い、その成果を報告書としてまとめて発表を行う。
到達目標	①根拠に基づいて、論理的に自分の考えを説明する力を身につける。 ②明確でわかりやすいプレゼンテーションができる力を身につける。 ③適切な文献・資料を収集する力を身につける。 ④他者と協同して主体的に課題に取り組む力を身につける。（ＤＰ５） ⑤適切な研究方法を習得し、研究倫理を遵守する重要性を理解する。（ＤＰ５）
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	グループによる研究活動が主な活動になる。グループごとに研究調査、報告書の作成、成果発表に取り組む。 なお、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	経営学入門、経営戦略論、国際経営論Ⅰ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新「国際経営」入門（第２版）	高橋浩夫	同文舘出版
2	東アジア優位産業―多元化する国際生産ネットワーク	塩地洋・田中彰編	中央経済社
3			

評価方法（基準）	下記の取り組み状況（100%）で評価する。 1.報告書の内容 2.プレゼンテーションの内容
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11号館８階　畠山研究室
備考	授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	企業（または，世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し，問題を解決する方法を学習し，分析をおこない，わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	多様な社会の諸問題から研究テーマを発見し、問題解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけるために、 ①　研究目的に関連する背景（新聞記事，関連書籍）を調べ，説明する。(DP5) ②　研究テーマに関連する先行研究を把握する。(DP5) ③　卒業論文の序論を作成する。(目的，背景，先行研究，予想結果) ④　研究目的が達成できる分析方法を決定し，関連知識を取得する。(DP5) ⑤　将来の夢と希望就職先を具体的に決め，関連情報を収集する。
授業方法と 留意点	演習 2 では，学生自ら決めた研究テーマを用いて，研究目的，背景，先行研究，分析過程と結果について，プレゼンを行う。また，分析の客観的な根拠となるデータ分析に関する知識について学習する。 ①　　ゼミの活動に積極的に参加すること ②　　やむを得ない事情を除き，出席すること ③　　ディスカッションに積極的に参加すること ④　　学内で生じた問題については素早く相談すること
授業テーマ・ 内容、方法･事前、 事後 学習課題	＋　前期では， 1. 研究目的，背景，演習①で指定した関連書籍の内容を発表する。 2. データ分析に関する知識について学習する。 3. 希望就職先に関する情報を収集する。 ＋　後期では， 1. 研究目的に合わせた分析を実施し，その結果を報告する。 2. 就職活動について，就職部，先輩の話を伺い，希望就職先を具体化する。 ＋　データ分析については，事前に課題などが提示される。提示された課題については，報告者でなくても事前に内容を読んでおき，わからない用語等を調べるなどし，ディスカッションに参加できるようにする。(詳細な計画については初日の演習で告知する)
関連科目	経営学に関連する授業全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫

評価方法 （基準）	研究論文の序論作成 30% 分析内容の報告 30% グループワーク・ディスカッションのへの参加，発表，報告，などの総合評価 40%
学生への メッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく，学生主導の学習の場であります。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し，参加するなど，イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階
備考	Teams で実施することもあります。また，課題の提出は DROPBOX を利用します。提出課題については，DROPBOX でフィードバックする予定です。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	企業が直面する問題に関心をもち、その問題を解決するために必要な知識を身につける。 演習Ⅱでは、とりわけ、下記について取り組む。 ・演習Ⅰで修得した研究方法を意識しながら、卒業論文のテーマを決定する。 ・企業と連携し、製品開発等に取り組みながら、実践的なマーケティングについて学ぶ。 なお、授業担当者の旅行会社での経験から、「モノ」だけではなく、「サービス」に関するマーケティングについても概説する。
到達目標	・研究倫理を遵守しつつ､マーケティングに関する諸問題に関心を寄せ、社会やゼミの一員として互いの立場を尊重し積極的に他者との協働関係を築き、その問題の解決に主体的に取り組む意欲や態度を身につけている。(DP5) ・業界や企業が抱える問題を発見し、それに応じた解決策を提案することができる。 ・質的・量的調査を通じて、消費者ニーズを的確に掴むことができる。 ・消費者ニーズを叶える製品の具体案を企業に提案できる。
授業方法と留意点	・企業連携は、グループワークを中心に進める。 ・授業時間外にグループ発表の準備等を行ってもらう。グループのメンバーと協力して取り組むこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【前期】 1 回：授業の進め方について　役割・グループの決定 2 回～3 回：グループ毎に調査テーマの設定 4 回～9 回：調査の準備、および、実践 10 回～11 回：調査結果のまとめ 12 回～14 回：発表準備 15 回：発表 【後期】 1 回：授業の進め方について 2 回～14 回：卒業論文のテーマについて発表と議論 15 回：まとめ
関連科目	マーケティング、消費者行動論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その都度指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度(役割・発表準備・発言)：40% 発表・発表資料：60%
学生へのメッセージ	企業連携、是非、積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	田中研究室　11 号館 8 階
備考	・各回の授業に向けた準備(予習)や学びに対する復習が必要(約 1 時間程度)。 ・Teams を用いた授業を行う場合、事前に連絡致します。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	【教養演習】 ・日商簿記３級の取得（履修生全員）　、金融機関への就職希望者については日商簿記２級の取得 ・TOEIC 試験への挑戦を重なることによる、TOEIC 点数の向上 ・株式投資シミュレーションによる資産運用の基本的な技法・知識の習得 ・Python、Ruby 等（コンピュータ言語）を用いたプログラミング技法の習得 【専門演習】 ・アイデアプランニング、特許活用製品企画に係るコンテストへの参加（チーム単位） ・企業研究およびインターンシップへの実習 ・卒業研究に必要な事前調査
到達目標	企業人材に必要とされる教養および専門知識が身に付きます。（ＤＰ５） 特に文科系学部だからと選択肢を狭めず、自身の能力を発揮できる業務の選択、企業で即戦力となりうる技能・知識を習得し、知恵としての応用力を高めます。（ＤＰ５）
授業方法と留意点	対面による演習を実施します。 コンテスト参加については、チーム単位によるディスカッションを基本とします。 他の演習回については、毎回提示する課題解決のため、各自所有のノートパソコンを使用。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	１．コンテストへの参加 以下の内から各自、１つ選択。４名程のチームを編成。ディスカッションによる提案書作成・提出 ①開放特許を活用したビジネスアイデアコンテスト［経済産業省］ ②地域活性化アイデアコンテスト［経済産業省］ チーム自治による適宜、ディスカッションの時間、場を設定し、課題整理と提案書の作成を行う。 ２．企業研究 データに基づく企業訪問（一人あたり２社程度）　　個別指導による実施 ３．インターンシップの実施（夏期休暇中）　就職部と協働の上、実施企業を選定する。 ４．投資シミュレーション（株式投資） 「演習Ｉ」に続き、シミュレーションソフトを活用した自身の投資スタイルの構築を目指す。 ５．Ruby および Python（プログラミング）の組み立て方 課題に対し、各自所有のノートパソコンによるプログラムの実施。 ６．卒論研究の準備 テーマ選定（何を研究するのか） 仮説（事象）検討と解決策（調査方法）の検討 ７．TOEIC 受験回数経過による得点増進。 日商簿記３級の全員取得 日商簿記２級への挑戦（金融機関就職希望者のみ）
関連科目	「演習Ｉ」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	コンテスト結果（採択、表彰など）を問うものではなく、各演習課題への取組姿勢、理解度、応用による自己解決能力を個別指導により評価する。
学生へのメッセージ	就職まで１年しかないという自覚の基に、真剣に取り組み自身の能力を最大限に引き出すことを目指してほしい。
担当者の研究室等	１１号館７階＜林研究室＞
備考	ノートパソコンは演習の際には持参すること。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	伊瀬　堂人
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	近年、企業を取り巻く環境は複雑化している。その中で、企業の財政状況や経営成績を正しく把握する能力の必要性はますます高まっている。 会計学の知識は「ビジネス言語」とも呼ばれ、企業の情報を読み解くためには必須の知識である。 この講義では、会計学の基礎的な知識を習得するとともに、会計学を実社会で有用に用いる方法を学習する。
到達目標	・実社会で会計というシステムがどのように扱われているのかを理解する。 ・会計情報を読み解くために必要な必要最低限の会計学の知識を習得する。 ・会計情報を根拠として、企業の状態を推量することができる。 ・卒業論文のテーマを思索し、研究を行う方策を計画することができる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同性を習得する。(DP5) ・研究倫理を理解し、実践することができる。(DP5)
授業方法と 留意点	講義形式ではなく，学生の参加形式であり、会計知識の習得・グループディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなどを予定しています。 講義は基本的にアクティブラーニング形式ですので、個々人の積極的な参加が不可欠です。必ず出席をするようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、担当教員へできる限り事前に連絡してください。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	・前期の講義では、グループごとで企業の財務分析を行い、各グループの報告に基づいたディスカッションを行う。 ・後期の講義では、グループごとに研究テーマを策定し研究成果をまとめ、報告会で報告を行う。 ・該当講義および次回の講義テーマに関して、課題を提示する。事前および事後にわからない用語・事象など自ら調べ、円滑にディスカッションをできるように準備しておくこと。 講義の各回の詳細な内容などは初回授業で告知する。
関連科目	財務会計論など会計学に関する講義全般 ファイナンスに関する講義全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネススクールで教える経営分		
2	財務会計講義(第 23 版)		
3			

評価方法 （基準）	討議参加の積極性　20% グループワークでの協同性　30% 報告会での報告　50%
学生への メッセージ	この講義はゼミ形式の講義です。教員はあくまでもみなさんのサポート役です。主体的に参加し、この講義を有用に活用してください。また、議論したい、あるいは掘り下げてみたいテーマなどがあれば、積極的に提案してください。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　伊瀬研究室
備考	感染拡大時における授業方法の変更などの留意事項に関しては、ゼミ所定の連絡方法で連絡しますので、こまめに確認しておいてください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	梅原　喜政
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	近年、盛んに開発が進むAIや、IoT機器の調査・試行、そして、それらを活用したビジネスプランの考案、民間企業との共同研究等の活動を通して、情報処理技術を企業経営的観点から活用できる能力を養成します。
到達目標	（1）最新の情報処理技術やIoT機器を知り、それらをどのようにビジネスに役立てるかを考えること（DP５） （2）研究およびビジネスプランを行うチームにおいて、自身の立場や役割を自覚し、チームメンバと適切に協働できること（DP５） （3）ビジネスプランコンテストに応募すること （4）希望就職先を決定すること
授業方法と留意点	まずは、AIやIoT機器の調査と試行を通じて、最先端のICTを使いこなす力を身に着けてもらいます。 その後、それらICTを活用した新しいビジネスを検討し、ビジネスプランコンテストに挑戦してもらいます。 そして、ビジネスプランを通して、社会課題や企業課題を見つめた上で、取り組む研究テーマを決定し、学年混合チームで課題解決に向けた取り組みを遂行してもらいます。具体的なテーマは、社会情勢に応じて変化します。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	ゼミでは、ビジネスプランや研究テーマの状況について、プレゼンテーションとディスカッションを基本として進めます。 そのため、学生自身が考え、行動することが基本となり、 授業前後での積極的な取り組みが重要となります。 学生自らの自発的かつ積極的な取り組み姿勢を期待します。 なお、ビジネスプランコンテストの締め切り前等は、講義時間外での学習時間が長くなる場合があります。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題への取組姿勢、出来栄え、討議への参加意欲で総合的に評価します。
学生へのメッセージ	学生生活をどう過ごすかで将来の選択肢は大きく変わります。積極的なゼミ活動への参加を推奨します。
担当者の研究室等	11号館7階　梅原講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木下　和紗
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・目的	本演習では、専門演習Ｉで学んだことをベースとしつつ、中小企業等の企業への訪問や工場見学を含めたフィールドワーク、企業家らとの交流などを引き続き実施する。これらの実践的な学習を通じ、さまざまな企業や人の考えに触れることにより、卒業論文の執筆に向けた各自の問題意識を深めることを目的とする。
到達目標	フィールドワークや共同プロジェクト等の実践的学習を通じて、 ①企業を含むさまざまな社会の諸問題に関心をもつ態度を身につけることができる。（ＤＰ５） ②中小企業の分析を行ない、当該中小企業が強み、弱み（課題）を発見できる。（ＤＰ３） ③分析を通じてあきらかになった中小企業の強み、弱み（課題）を解決するための方策を提案できる。（ＤＰ４） ②卒業論文の執筆に向けた各自の問題意識を深める。
授業方法と留意点	・フィールドワークの実施日時は、先方やゼミ生のスケジュールを調整のうえ決定するが、夏休みや春休み等を含めた演習の時間外になる可能性が高い点に留意しておくこと ・グループワークが基本となることにくわえ、フィールドワークや企業家等の学外の人たちとの交流もある。極力欠席はしないようにすること。体調不良など、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること ・他大学との交流（合同ゼミ）や共同プロジェクトを実施する場合がある
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習は、企業（とくに中小企業）と企業家をテーマとして進めるが、それに際しては、工場見学や企業訪問などのフィールドワークや企業家らとの交流をはじめとする、実践的な学びを重視する。 なお、本演習の軸となるフィールドワークでは、事前学習［文献調査、アポ取り、質問作成など］、事後学習［記録および報告資料の作成、プレゼン、ディスカッションなど］を含む）が必要となる。そのため、ゼミ時間外における準備等を含め、能動的な参加が求められる
関連科目	専門演習Ｉ、卒業研究、中小企業論、地域産業論など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	フィールドワークへの参加、報告資料、プレゼン、ディスカッションでの積極性、レポートなどを含め、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	メリハリをつけて、ゼミ活動を楽しみましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階 木下研究室
備考	参考書は適宜紹介し、教科書は必要であれば指示する

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小林　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2090a0		

授業概要・ 目的	専門分野の基礎を学びつつ，論文の書き方・読み方を学修し，各自が卒業研究で対象とする題材を１つ選定する。 と同時にゼミのテーマ，グループのテーマも同時に進め，協調性や忍耐力を涵養する。 最終的に卒業研究に繋げる。
到達目標	ゼミのテーマ，グループのテーマ，自らのテーマについてバランス良く主体的に研究・調査を進め，その成果を説得力をもって発信することのできる能力を修得する。
授業方法と 留意点	前半は，論文の読み方・書き方，パワーポイントの技術を再確認します。と同時に，ゼミ・グループ・個人の役割をしっかりと把握し，他人の意見を素直に聞く力を取り入れましょう。 後半は，様々なテーマを実現に移します。実際に行動し，机上の理論だけではなく，現実に即した『実学』を身につけていきましょう。 考えるよりも，行動に出ましょう。どんどん失敗することで成長を体感していきます。授業時間外の活動が多くなることにご留意ください。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	ICT ビジネスに関連するテーマを取り上げます。 前述の通り，ゼミのテーマ，グループのテーマ，自らのテーマの３つをバランス良く進めていきます。そのためにはまず多くのインプットを行います。知識がないと，応用のしようがありません。多くの学生にとって欠けているのが「他人の話に素直に耳を傾ける」ことです。狭い世界で生きがちな昨今，それでは新しい「想像・創造」は困難でしょう。ICT 関連で実際に活躍しているゲストもお呼びし，ディスカッションを行う機会も設けます。また多々外に飛び出し，最新の技術を知ってください。ゼミ合宿や企業見学等も提案ください。このゼミは「自由」です。しかし自由というのはこの上なく恐ろしく，すべての責任は自らに降ってきます。二十歳前後の人格形成の時期，ぜひ大きな人間になれるよう，常翔・・・羽ばたきましょう。
関連科目	専門演習Ⅰ、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題への取組姿勢，出来栄え，討議への参加意欲等で総合的に評価します。
学生への メッセージ	教員は敵対関係ではありません。うしろからそっと見守り，押していきます。
担当者の 研究室等	11 号館８階　小林教授室
備考	

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ﾌﾞｰﾙｵﾐｯﾄﾞ ｻｯｼﾞｬﾄﾞ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1338c1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。(　) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬　(9 月下旬～10 月上旬) ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬　(11 月～2 月) ・現地派遣：2 週間程度　8 月中旬～9 月上中旬　(2 月中下旬～3 月下旬) ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬　(3 月～4 月下旬) 【注意】新型コロナウィルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。 詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）　、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	事前授業評価　30％　（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合） 現地活動評価　４０％　（現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合） 事後授業評価　３０％　（成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価）
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は 3 号館 1 階グローバル教育センターまで 教員室１（２号館２階）
備考	

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：A○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01452a1,L科：LL01354a1,D科・S科：IL01361a1,P科：YL01417a2,J科：JL01363a1,W科：WL01342a1,N科：NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めてますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。 ＜４月６日（土）１～３限＞ 第１回　「地域と私」への取り組み方；オリエンテーション 授業の進め方／ひとこと自己紹介 第２回　地域との関わり方　～『調査されるという迷惑』を読む～ グループディスカッション／教室内での共有 第３回　地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説／グループディスカッション／教室内での共有 ＜４月２０日（土）１～３限＞ 第４回　インタビューにチャレンジ　～聴く、掘り下げる、まとめる～ グループづくり／グループ内での相互インタビュー／インタビューで聴いた内容をメモする 第５回　質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する／分析する 第６回　「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション＆ディスカッション ＜５月１８日（土）１，２限＞ 第７回　地域に関するテーマを選定しよう 「『地域』に関する文献の整理」についてのグループ内プレゼンテーション／グループで取り組むテーマの決定／グループワークの実施スケジュールの検討 第８回　グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話 ＜６月１日（土）１，２限＞ 第９回　グループワークの中間報告会 第10回　グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える／選定したテーマを「具体的な地域」から考える ＜６月１５日（土）１，２限＞ 第11回　グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回　大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働的実践について概説／地域の担い手としての大学生の可能性／地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク／グループディスカッション／教室内での共有 ＜６月２９日（土）１～３限＞ 第13回　最終報告会① 第14回　最終報告会② 第15回　講義のふりかえり 本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回２時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学びレポート（個人ワーク）30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」「『地域』に関する文献の整理」成果物（個人ワーク）20%

	学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション　20%（ルーブリック評価） なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス３号館３階　上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：A○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL03457a1,L 科：LL03366a1,D 科・S 科：IL03366a1,P 科：YL03422a2,J 科：JL03368a1,W 科：WL0347a1,N 科：NL03348a1		

授業概要・ 目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4 月・5 月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。５月後半（予定）からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までの PDCA サイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と 留意点	4 月・５月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。
授業テーマ・ 内容、方法･事前、事後 学習課題	1.オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法　：4 月 12 日（金）５限 ※２回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日５限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2.チームビルディングワーク 3.連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供 4.連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション 5.以降は　現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね３週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12 月末（日時未定）に成果報告会を行う
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題提出物　30% 活動の取り組み状況　50% 最終報告等　20%
学生への メッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。
担当者の 研究室等	水野武（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上（80 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個別指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月第３・第４土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個別指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ）。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月第３土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）(15%)、実習校における実習成績（60%）、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）(25%）による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.鎌田　祥輝.谷口　雄一.西村　晃一.松浦　正典.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上（120 時間以上）の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1　教育実習特別個別指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月第３・第４土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個別指導（４月～７月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ）。 4　前期教育実習開始（５月～７月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（８月～１１月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教職フォーラム（教育実習体験発表会）（１０月第３土曜日午後；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月最終土曜日午前；詳細は教職課程年間行事予定表を参照） 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加（体験発表およびその準備を含む）(15%)、実習校における実習成績（60%）、事前指導・事後指導における課題等提出物（教育実習記録を含む）(25%）による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講（出席および課題等提出）は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス７号館３階（松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室） 寝屋川キャンパス７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	栄養教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice in Teaching II (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	今城　安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・ 目的	本実習は小学校・中学校の役割や組織について知り、栄養教諭としての職務を理解し、その使命感や責任感を養うことを目的とする。また、児童・生徒への理解や関係づくりや指導に関する実践力を養う。大学で学んだ理論と教育現場での実践とを結び付けてリフレクションし、栄養教諭を目指す自己の課題を見極め、さらに向上を目指して知識と技能の修得に努める。教育実習終了後には、実習の反省・問題点の整理を行い、報告会を実施することにより、今後の課題を確認し、教育実習の体験を生かし、児童・生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 学校運営や学級経営、指導方法について知り、栄養教諭としての係わり方について考えることができる。 ② 担任や栄養教諭の指導方法を意欲的につかもうとする。 ③ 児童・生徒と係わりながら関係を築き、指導力を養おうとする。 ④ 給食の時間に給食を教材に指導することができる。 ⑤ 研究授業をとおして、児童・生徒の食に対する関心を高めることができる。 ⑥ 教育実習を反省し、成果と課題をまとめ発表ができる。
授業方法と 留意点	［実習場所］ 枚方市内の小学校 ［実習方法］ 1. 栄養教育習校の管理職による講義 2. 栄養教育習校の学級担任による講義 3. 栄養教育習校の栄養教諭による講義 4. 指導案作成と学級担任、学年主任、教務主任からの指導 5. 給食の時間の参観
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	1. 事前指導 ・オリエンテーション ・事前打ち合わせ ・指導案作成 2. 実習内容 ・学校運営について学ぶ ・学級運営と児童生徒の指導について学ぶ ・生徒指導 ・学級活動参観 ・学校行事参観 ・実習校における食の全体計画と年間計画を学ぶ ・実習校における家庭・地域との連携について学ぶ ・栄養食事管理について学ぶ ・給食の時間の指導 ・給食当番の指導 ・給食の時間中の事故防止 ・給食の時間における衛生管理 ・研究授業の実施 ・食育指導案の作成 ・授業研究における授業と反省 3. 事後指導 ・報告会
関連科目	学校栄養指導論Ⅰ　学校栄養指導論Ⅱ　栄養教育実習Ⅰ　教職実践演習　全ての教職課程必修科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	食に関する指導の手引き　第二次改訂版	文部科学省	東山書房
2	別途、指示する		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 ・受け入れ校　50% ・実習ノート　40% ・学修への取り組み（ルーブリック評価）　10%
学生への メッセージ	教育実習での体験を大学で学んだ理論と結び付け、栄養教諭として必要な知識と技能を修得するとともに、新たな発見や課題点に気づき栄養教諭としての実践力を高めましょう。
担当者の 研究室等	枚方キャンパス８号館 326 号室 tel:072-800-1879（直通） E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp
備考	事前・事後総学習時間は 15 時間程度である。

科目名	地域実習	科目名（英文）	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ⅱ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01361a～1JT01365a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程１年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は２年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、３年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第１回授業で案内します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【重要】第１回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前に Teams のチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2～3 回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。 【授業内容】 1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 　上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第１回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも６時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は２週間に１回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日にちは調整中ですので、第１回授業で案内します。 第 1 回「ガイダンス（授業概要の説明）」 第 2 回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第 3 回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第 4 回「寝屋川市まちあるき」（学外） 第 5 回「社会教育とは(1)」 第 6 回「社会教育とは(2)」 第 7 回「まちあるき報告会」 第 8 回「実習先挨拶」（学外） 第 9 回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回　「実習」（学外）（主に夏季休暇中に行います） 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第 19 回「実習ふりかえり(1)」 第 20 回「実習ふりかえり(2)」 第 21 回「全体報告会」
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出物（20%）、活動への参画の程度（40%）、最終報告プレゼンテーション（20%）、最終レポート（20%）
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！
担当者の研究室等	朝田研究室（寝屋川キャンパス、1 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭.下元　一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGｓゴール：4・11・17
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1号館7階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬　憲昭.下元　一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	市役所（町役場）の職員、自治会の役職者、市民（町民）などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。 ①調査：地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画：プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール（締切日）から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。 具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。 活動対象の地方自治体： 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町 SDGｓゴール：4・11・17
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1号館7階　村瀬研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェク
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（8 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C 教養特別講義「SDG s で読み解く淀川流域」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1 号館 3 階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プ ロジェク
授業方法と留意点	連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 ２．点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 ６．い い川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（8 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。 授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C 教養特別講義「SDG s で読み解く淀川流域」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス　1 号館 3 階　石田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。
到達目標	【PBL プロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、　「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田　美保.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。
到達目標	【PBL プロジェクト共通目標】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、　「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクト目標】 ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 【方法】 ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス２号館２階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBLプロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月　ポスターセッション チケット発売開始 11月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田　康禎.古矢　篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	プロジェクト名：キッズイベントイベントを創ろう！ 【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。 【目的】 アルカスホールでは，毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから，企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し，運営を行うことにより，企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに，学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。
到達目標	【PBLプロジェクト到達目標（共通）】 本プロジェクトでは，参加メンバー・学外の連携先との協働を通して，「主体性を持って前向きに取り組む力」，「自分とは異なった価値観を受け入れる力」，「課題を発見し，解決する力」を身につけるとともに，新しい価値の創造を目指す。 上記に加えて，本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 １．市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき，新しい音楽イベントを企画・運営する。 ２．十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 ３．イベント後の処理を適切に行う。
授業方法と留意点	連携先や学生同士など，人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業計画】 ４月　ご挨拶 ５月　企画会議 ６月　自主事業内容の決定および出演交渉 ７月　中間報告会 寝屋川市に報告，寝屋川市広報に記事掲載依頼 ８月　チラシのデザイン作業 ９月　チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月　ポスターセッション チケット発売開始 11月　打ち合わせ（出演者，舞台スタッフ，学生関係者） 12月　最終報告会 準備および本番 この他に「基礎講座」全９回を受講すること これらの活動を通じて，以下のことを身につける。 １．イベントがどのように企画・運営されているのか，体験的に知る。 ２．企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 ３．連携先・出演者との交渉をする中で，社会人として必要なマナーを身につける。 ４．メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて，「質の高い意思決定」ができるようになる。 ５．他のイベント等に応用可能な一般的な知識を得る。
関連科目	すべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	普段のグループワークへの参加状況・貢献度（50%）、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度（30%）、発表会における評価（20%）を総合して判断する。
学生へのメッセージ	みなさまが一からイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス１号館７階（朝田）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.工藤　隆則.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段として LINE 公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE 公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、事後 学習課題	4 月　オリエンテーション 5 月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8 月　説明会準備 9 月　説明会実施 10～12 月　LINE 公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式で LINE 公式アカウントの活用方法について学んでもらう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階　増田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田　知也.工藤　隆則.長田　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・ 目的	寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。 学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と 留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。
授業テーマ・ 内容､方法･事前、 事後 学習課題	4月　オリエンテーション 5月　寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6～8月　説明会準備 9月　説明会実施 10～12月　LINE公式アカウントの試験運用 説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	主体性　25% 協調性　25% 課題発見・解決力　25% プロジェクトへの貢献　25%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス11号館10階　増田研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基.中塚　華奈.藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （1）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （2）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（1）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （2）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （3）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （4）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （5）
授業方法と留意点	本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （1）事前準備［学内］ グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （1）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （2）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （3）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （4）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （5）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （6）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （1）フィールドワークの準備

	グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （２）フィールドワーク フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （３）提案のブラッシュアップと発表資料作成 成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。 （４）学内での発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	（１）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。 （２）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。
学生への メッセージ	本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。
担当者の 研究室等	・寝屋川キャンパス：７号館５階　小林研究室 ・枚方キャンパス：８号館３階　中塚研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林　基.中塚　華奈.藤原　崇
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。 このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。 （１）枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。 （２）当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。
到達目標	（１）主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。 （２）チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。 （３）現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。 （４）現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。 （５）
授業方法と留意点	本授業は、おおまかに（１）学内での事前準備、（２）フィールドワーク、（３）成果の共有および企画提案、（４）成果発表の準備、（５）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。 （１）事前準備［学内］ グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。 【前期】 （１）オリエンテーション 授業の概要説明や自己紹介・アイスブレーク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （２）テーマ設定、フィールドワークの準備 グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （３）フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等） フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （４）成果の共有 フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。 （５）発表資料作成 グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル （６）中間発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。 【夏季休暇期間～後期】 （１）フィールドワークの準備

	グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。 （２）フィールドワーク フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成 （３）提案のブラッシュアップと発表資料作成 成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。 （４）学内での発表会 グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	（１）グループワークへの貢献度（40%）：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。 （２）成果報告・企画・制作物の完成度（60%）：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。
学生への メッセージ	本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。
担当者の 研究室等	・寝屋川キャンパス：７号館５階　小林研究室 ・枚方キャンパス：８号館３階　中塚研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1,L科：LT01366a1～LT01370a1,D科・S科：IT01371a1～IT01375a1,J科：JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何ができるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。 活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。 門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。
到達目標	■PBL プロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。 ■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標 ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ
授業方法と留意点	現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	４月：連携先さまとの顔合わせ ５月：門真市の子どもの現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 ６月・７月：子ども lobby での子ども支援活動 ７月：中間報告（PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る） ８月・９月：子ども lobby での子ども支援活動 １０月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) １１月：子ども lobby での子ども支援活動 １２月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	日々の活動 40%,アセスメントの受検 10%, 中間報告 20% ,最終報告 30%
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。
担当者の研究室等	水野講師室（寝屋川キャンパス７号館３階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、４回（各回１泊２日）を予定。 目的は以下の通り： （1）過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る （2）潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する （3）地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の１泊２日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1　基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3　基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8　学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／１泊２日） ９　基礎講座④：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：リアクションペーパーの作成 10　基礎講座⑤：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14　学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／１泊２日） 15　基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19　学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／１泊２日） 20　基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22　中間発表会の準備、中間発表 23～26　学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収り／１泊２日） 27　基礎講座⑨：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30　最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70%）と活動報告書（30%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。
担当者の研究室等	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,J科：DP1◎,W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1～TT01465a1,L科:LT01366a1～LT01370a1,D科・S科:IT01371a1～IT01375a1,J科:JT01374a～1JT01378a1,W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	「甲津原援農活動プロジェクト」 滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源（山の恵み）の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。 甲津原での学外活動（援農活動）は、４回（各回１泊２日）を予定。 目的は以下の通り： （1）過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る （2）潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する （3）地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	この授業は座学（基礎講座）とフィールドワーク（学外活動）、成果発信（討論、成果品の作成、発表）から構成される。フィールドワーク（学外活動）は、土曜日と日曜日の１泊２日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1　基礎講座①：オリエンテーション／事前学習：シラバスの理解 2　基礎講座②：「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ／事後学習：リアクションペーパーの作成 3　基礎講座③：情報発信力を磨く／事後学習：リアクションペーパーの作成 4～8　学外活動①：甲津原地区での援農活動（田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い／１泊２日） ９　基礎講座④：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える①－／事後学習：リアクションペーパーの作成 10　基礎講座⑤：会議を回せ！－ファシリテーションについて考える②－／事後学習：リアクションペーパーの作成 11～14　学外活動②：甲津原地区での援農活動（梅の実の収穫、梅干しの漬け込み／１泊２日） 15　基礎講座⑥：活動内容をシェアしよう！／事後学習：リアクションペーパーの作成 16～19　学外活動③：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の設置、山菜採り／１泊２日） 20　基礎講座⑦：オーディエンスを惹きつけろ！－ポスターセッションの教室－／事後学習：リアクションペーパーの作成 21～22　中間発表会の準備、中間発表 23～26　学外活動④：甲津原地区での援農活動（獣害対策用電気柵の撤収り／１泊２日） 27　基礎講座⑨：プレゼンの教室／事後学習：リアクションペーパーの作成 28～30　最終報告会（PBL 科目報告会での発表）／事後学習：最終報告書の作成
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業ごとのリアクションペーパー（70%）と活動報告書（30%）で評価し、60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究（野外調査）・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。
担当者の研究室等	枚方キャンパス８号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装（長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など）を準備すること。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷　侑也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本 PBL プロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約 4km ほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015 年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回の PBL プロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。
到達目標	本 PBL プロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ①　地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ②　地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③　地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④　「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤　普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイディアを現地に実装する予定である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本 PBL では「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイディア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本 PBL プロジェクトの大まかな行程は以下の通りである。 4 月　キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5 月　連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6 月　課題解決策の考案、アイディア出し 7 月　中間報告会　アイディアの具体化、作業 8 月　アイディアの具体化、作業 9 月　伊良部島でのフィールドワーク 10 月　フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11 月　活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12 月　最終報告回準備・プレゼン練習 1 月　連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2 月　まとめ作業（報告書の作成） 3 月　まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）
学生へのメッセージ	繰り返しになりますが PBL プロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めいていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張っていきましょう！
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階（大谷研究室）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷　侑也.小林　基
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1,L 科：LT01366a1～LT01370a1,D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1,J 科：JT01374a～1JT01378a1,W 科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	本 PBL プロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島（本島）の北西に約 4km ほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる（架橋化）以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015 年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。 一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回の PBL プロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。
到達目標	本 PBL プロジェクトでの到達目標は以下の通りである。 ①　地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ②　地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③　地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④　「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤　普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを
授業方法と留意点	学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。 また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイディアを現地に実装する予定である。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本 PBL では「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。 そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイディア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。 本 PBL プロジェクトの大まかな行程は以下の通りである。 4 月　キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。 5 月　連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション（学生・教員は対面）。 6 月　課題解決策の考案、アイディア出し 7 月　中間報告会　アイディアの具体化、作業 8 月　アイディアの具体化、作業 9 月　伊良部島でのフィールドワーク 10 月　フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業 11 月　活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備 12 月　最終報告回準備・プレゼン練習 1 月　連携先とのオンラインによる成果報告会（学生・教員は対面） 2 月　まとめ作業（報告書の作成） 3 月　まとめ作業（報告書の作成）、解散ミーティング
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	プロジェクトへの参加姿勢（70%）、プロジェクトの成果物（30%）
学生へのメッセージ	繰り返しになりますが PBL プロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めいていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張っていきましょう！
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 5 階（大谷研究室）
備考	